

明治国際医療大学 鍼灸学科

講義概要

[2021]

鍼灸学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
キャリアデザイン	後期	1	1
はり・きゅう技術学総論	前期	1	1
はり・きゅう臨床実習Ⅰ	通年	1	1
解剖学Ⅰ	前期	1	2
基礎きゅう技術学実習	後期	1	1
基礎ゼミⅠ	前期	1	1
基礎ゼミⅡ	後期	1	1
基礎はり技術学実習	後期	1	1
経絡経穴学Ⅰ	通年	1	1
大学の教育と研究	前期	1	1
伝統はり・きゅう診断学	後期	1	1
東洋医学概論	前期	1	1
入門きゅう技術学実習	前期	1	1
入門はり技術学実習	前期	1	1
スポーツ医学応用	後期	2	1
スポーツ医学基礎	前期	2	1
はり・きゅう安全学	後期	2	1
はり・きゅう治効学Ⅱ	後期	2	1
はり・きゅう臨床実習Ⅱ	通年	2	1
リハビリテーション学各論	後期	2	1
リハビリテーション学総論	前期	2	1
医療面接	後期	2	1
運動器系臨床医学各論	前期	2	1
応用きゅう技術学実習	前期	2	1
応用はり技術学実習	前期	2	1
解剖学Ⅲ	前期	2	2
解剖学Ⅳ	後期	2	1
解剖学Ⅴ	後期	2	1
感覚器系臨床医学各論	後期	2	1
神経系臨床医学各論	後期	2	1
伝統はり・きゅう診断学演習	前期	2	1
伝統はり・きゅう診断学実習	後期	2	1
病理学Ⅰ	前期	2	1
病理学Ⅱ	後期	2	1
臨床はり・きゅう技術学Ⅰ(筋・神経)	後期	2	1
スポーツはり・きゅう学	後期	3	1
はり・きゅう師のための解剖学	後期	3	1
はり・きゅう師のための生理学	後期	3	1
はり・きゅう師のための東洋医学概論	後期	3	1
はり・きゅう臨床実習Ⅲ	後期	3	2
健康管理と養生論	後期	3	1
高齢者はり・きゅう学	後期	3	1

鍼灸学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
生活習慣病とその予防	後期	3	1
伝統はり・きゅう治療学実習	前期	3	1
臨床はり・きゅう学Ⅰ(内臓機能系)	前期	3	2
臨床はり・きゅう学Ⅱ(運動器・スポーツ系)	前期	3	2
臨床はり・きゅう学Ⅲ(神経・感覚器系)	前期	3	1
臨床はり・きゅう学実習Ⅰ(内臓機能系)	前期	3	2
臨床はり・きゅう学実習Ⅱ(運動器・スポーツ系)	前期	3	2
臨床実習前実技試験	前期	3	1
臨床病態学	前期	3	1
臨床病態推論学	前期	3	1
鍼灸総合演習Ⅰ	通年	3	3
キャリア教育	前期	4	1
スポーツテーピング実習	後期	4	1
介護技術学	前期	4	1
はり・きゅう学外臨床実習A	通年	4	1
はり・きゅう高齢者ケア実習	通年	4	1
はり・きゅう臨床実習Ⅳ-A	通年	4	1
鍼灸経営論	前期	4	1
人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅰ:予防・養生	前期	4	1
人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅱ:健康寿命	後期	4	1
症例報告、研究の方法と発表	前期	4	1
合計単位数			72
省令で定める基準単位数			13

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
日下 貴弘			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義／遠隔（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	コミュニケーション論について理解し、合わせて情報伝達という観点で自身のコミュニケーションについて考察し、読み書き話すという活用の力を身に付けられるようになる。そのうえで、医療におけるコミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）について理解を深めることができるようになる。また、情報リテラシーを身に付け、情報について自分自身で取捨選択しできるようになる。
授業計画	<p>第1講 「ヘルスコミュニケーション」について [到達目標] コミュニケーション論を学ぶ理由を理解できる</p> <p>[授業形態] 可能なら、受講前に教科書に目を通しておいてください。目次だけでも結構です。終了後に講義内容に沿ってプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第2講 コミュニケーション論の基本について [到達目標] コミュニケーション論の概略について理解できる</p> <p>[授業形態] 受講前に教科書のunit 1、unit 2を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第3講 ことばをつかわないコミュニケーションについて [到達目標] コミュニケーションにおけることばの持つ意味を理解できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 3、4を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第4講 コミュニケーションにおける理解と誤解について [到達目標] 何をどのように伝えればよいのか、適切な情報伝達について説明できる 会話の際に誤解を招かない表現を選択できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 5、6を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第5講 コミュニケーションと文字について [到達目標] コミュニケーションにおける文字の役割を理解できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 7を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第6講 映像のコミュニケーションについて [到達目標] コミュニケーションにおける映像の効果を理解できる 「印象操作」「演出」について具体的に説明できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 8、9を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第7講 社会関係とコミュニケーションについて [到達目標] 社会、組織におけるコミュニケーションの技法について理解できる発言の「意図」について推測できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 10、11、12を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第8講 説得について [到達目標] 「説得」の技法を理解できる。欺瞞を指摘できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit 13を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>

	<p>第9講 「うわさ」の拡散と「流行」の普及について [到達目標] 「うわさ」の拡散や「流行」の普及について、具体例を挙げてその影響とともに説明できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit14、15を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第10講 「世論」と「メディア」について [到達目標] メディアの影響力について具体例を挙げて説明できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit16、17、18を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第11講 企業・スポーツとコミュニケーションの関わりについて [到達目標] マーケティングコミュニケーションについて実例を挙げて説明できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit19、20、21を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第12講 バーチャル空間とコミュニケーションについて [到達目標] バーチャル空間における情報リテラシーの有無、強弱について、その影響を指摘できる</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit22を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第13講 情報社会とコミュニケーション・ネットワークについて [到達目標] 現代社会の情報網、メディアと人間関係について理解し、情報リテラシーの重要性を指摘できる。</p> <p>[備考] 受講前に教科書のunit23を読んでおいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p> <p>第14講 災害とコミュニケーションについて、ヘルスコミュニケーションについて [到達目標] 災害時におけるコミュニケーションの役割の重要性を説明できる。ヘルスコミュニケーションの概略について理解できる</p> <p>[備考] 受講前にunit24、ならびに今までの受講内容について復習しておいてください。終了後にプリントの穴埋め等、簡単なレポートを書きます。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業は教科書にそって進め、スライドを使って解説します。予習として教科書の指定unitを熟読し、よくわからない部分を把握しておいてください。また、授業では教科書に登場しない用語や事例も挙げて説明しますので、必ず筆記用具とノートを持って受講してください。
教科書	『コミュニケーション論をつかむ』（辻 大介・是永 論・関谷直也、有斐閣、2014年、本体2,000円+税）
参考書	なし
成績評価	①評価方法 : レポート70%、平常点30% ②評価基準 : レポートは内容を理解し、課題に対して十分に考察して、自分の考えを説明できているか否かで判定します。（出席していないと書けない課題が提示されます） 平常点は受講態度、出席の有無で判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 日下貴弘 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了前後（Classroomへのコメント）
備考	商社、サ高住運営企業（老人ホームの管理会社）、社会福祉法人（病院）等に勤務して 内部統制制度の構築や社員教育に携わってきた経験をふまえ、福祉・医療の現場、組織において「コミュニケーション」がどういう役割を担うのかについて授業をすすめます。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
吉田行宏、和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習／対面	
添付ファイル			

授業目標	自主的に学ぶ存在である「大学生」の学び方の基礎を身につけ、思考力、調査力、表現力、発信力を養うことを目標とする。 本学や地域社会を理解し、鍼灸師として社会に果たすべき役割を考える。
授業計画	<p>1回目 本学の学修に備えて準備する 【到達目標】 入学前に実施した経穴や体の仕組みを理解する。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 入学前教育に使用した課題を持参すること。</p> <p>2回目 大学でのコミュニケーションを学ぶ① 【到達目標】 自己紹介を行うことでクラスメイトとコミュニケーションを図る。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 体調管理アプリを用いた体調チェックを実施する。</p> <p>3回目 鍼灸学科の教育課程(カリキュラム)について理解し、自らの履修モデルを作成する 【到達目標】 鍼灸学科の教育課程(カリキュラム)について理解する。 自らの履修モデルを作成する。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 学生便覧を熟読しておくこと。</p> <p>4回目 大学での学びの意味を考える 【到達目標】 大学で学ぶ意味を理解する。 大学で鍼灸を学ぶ意味を考える。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 自分の考えをまとめておくこと。</p> <p>5回目 大学生活の基礎 【到達目標】 大学生活を行ううえで基本となるルールや規則について学び理解する。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 学生便覧を熟読しておくこと。</p> <p>6回目 大学でのコミュニケーションを学ぶ② 【到達目標】 コミュニケーションの基本となる自己概念を理解する。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 自己分析(TEG)を行う。体調管理アプリを用いた体調チェックを実施する。</p> <p>7回目 大学でのコミュニケーションを学ぶ③ 【到達目標】 コミュニケーションの基本となる自己概念を理解する。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 自己分析(POMS、GSES)を行う。</p> <p>8回目 鍼灸について理解する① 【到達目標】 鍼灸について理解する。 【授業形態】 対面 【備考】 各自で鍼灸について調べる。</p> <p>9回目 鍼灸について理解する② 【到達目標】 鍼灸について理解する。 【授業形態】 対面 【備考】 各自で調べた鍼灸についてを発表する。</p> <p>10回目 社会問題に対する鍼灸師の役割を考える① 【到達目標】 様々な社会問題に鍼灸師としてどのように向き合うのかを理解するために、社会問題について調べて理解する。 【授業形態】 対面 【備考】 グループごとに調査を行う。体調管理アプリを用いた体調チェックを実施する。</p> <p>11回目 社会問題に対する鍼灸師の役割を考える② 【到達目標】 様々な社会問題を鍼灸師として解決のために何ができるのかをグループでディスカッションして共有する。 【授業形態】 対面 【備考】 グループごとに調査を行いまとめる。</p> <p>12回目 社会問題に対する鍼灸師の役割を考える③ 【到達目標】 様々な社会問題を鍼灸師として解決のために何ができるのかをグループでディスカッションした内容を発表し、クラスで知識を共有する。 【授業形態】 対面 【備考】 グループごとに発表する。</p> <p>13回目 大学の試験に向けた勉強の理解 【到達目標】 試験の実施方法について理解する。 試験勉強について理解し実践する。 【授業形態】 対面 【備考】</p> <p>14回目 まとめ</p>

	<p>【到達目標】前期を振り返り、学習や大学生活における問題点や改善点をあげ、後期に向けた対応策を考える。</p> <p>【授業形態】対面</p> <p>【備考】体調管理アプリを用いた体調チェックを実施する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	鍼灸や医療の動向を注視し、最新の情報に触れておく。 地域社会についての情報を集める。
教科書	なし
参考書	なし
成績評価	3/5以上の出席とレポート課題をすべて提出したものに単位を認める。 成績は主体的な授業参加度を重視し、授業内で実施するレポートや課題への取り組みで総合的に評価(優・良・可)する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 吉田行宏、和辻 直 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室、教授室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp、t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	担当者は附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。 アクティブラーニング：課題に対してグループワークを実施し、自分の考えや他社の考えをまとめて発表する。
	ディプロマポリシーとの関連 ③関心・意欲-◎ ②思考・判断-○ ④態度・人間性-○

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
日下 貴弘			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義／遠隔（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	読書を通して読解力を身につけることで、文章が書かれた意図やその影響について考察し、コミュニケーションにおける影響について把握することができるようになる。あわせて、文章構造を理解することで論文等、文章を書く準備や書き方を身につけることができる。
授業計画	<p>第1講 読解力とは [到達目標] リテラシーと読書の大切さを自覚し、読解力を身につける重要性を理解できる。小説など文章の構造を理解できる。</p> <p>第2講 [備考] 夏目漱石「坊ちゃん」、新美南吉「ごん狐」 著者の意図について [到達目標] 評論を通して「読み方」「読まれ方」が複数あることを理解し、考えながら読み、書くことの重要性が理解できる。</p> <p>第3講 [備考] ミゲル・デ・セルバンテス「ドン・キホーテ」、アントン・チェーホフ「桜の園」 テーマについて 1 [到達目標] 作品のテーマについての学習を通じて、文章の主題（言いたいこと）を説明することができるようになる。</p> <p>第4講 [備考] テーマについて 2 [到達目標] 作品のテーマについての学習を通じて、文章を要約することができるようになる。</p> <p>第5講 [備考] 表現するということ [到達目標] 文章表現を通じて概念を言葉で説明することの意味を理解し、言葉の使い方を身につけることができる。</p> <p>第6講 [備考] 論説文の構造 1 [到達目標] 論説文を読み解くことで、その構造を理解し、論理的に表現する方法を身につけることができる。</p> <p>第7講 [備考] 論説文の構造 2 [到達目標] 論説文の学習を通じて、論理的に記述することができるようになる。</p> <p>[備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業教材は基本的に青空文庫を活用しますので、可能なら、取り上げる作品を青空文庫にて事前に読んでおいてください。授業はスライドを使用し、朗読と合わせて解説を進めます。なお、国語辞典と筆記用具、ノートは必携です。
教科書	基本的に「青空文庫」を活用し、スライドでお見せしますので、とくに購入の必要はありません。
参考書	特になし
成績評価	①評価方法：課題評点70%、平常点30% ②評価基準：課題はその理解度、表現力を考慮して判定します。 平常点は受講態度、出席の有無、ジョウホウリテラシーの有無で判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名：日下 貴弘 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス： オフィスアワー：ClassRoomのコメントで対応
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-4
	商社、サ高住運営企業（老人ホームの運営会社）、社会福祉法人（病院）等の勤務して、内部統制の構築等における稟議書類の統括に関わってきた経験をふまえ、福祉・医療の現場、組織における「書類」が何を必要と

	し、何が読み取られるのかについても解説します。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
伊藤和憲			
配当学科：鍼灸学	時間数：15時間	講義形態：講義・オンライン	
添付ファイル			

授業目標	将来の夢を実現するために何が必要かを考え、夢をかなえるために必要な情報を整理・学習することができる。 特に、キャリアデザインの立て方、その各種必要な情報の整理、さらには就職等にあたり、履歴書の書き方、先方へのアポイントの取り方、面接の受け方、見学・面接後の対応が行えるようになる。 なお、この授業はアクティブラーニングで行う。
授業計画	<p>1回目 キャリアデザインって何？（討論） [到達目標] キャリアデザインとは何かを理解し、自身の将来像を想像できる。 [備考] 自身の将来像を、夢と現実を考えながら想像してみる。</p> <p>2回目 医療を分析してみよう（討論） [到達目標] 医療の強みと弱みを分析をSWOT分析できる。 [備考] 医療の置かれている現状を考えてみる。</p> <p>3回目 鍼灸を分析してみよう（討論） [到達目標] 鍼灸の強みと弱みを分析をSWOT分析できる。 [備考] 鍼灸の置かれている現状を考えてみる。</p> <p>4回目 鍼灸をブランディングする（討論） [到達目標] 鍼灸治療のイメージをまとめ、鍼灸そのものをブランディングできる。 [備考] 鍼灸の強みや弱みを生かして、鍼灸をブランド化するためのアイデアを考える。</p> <p>5回目 未来の鍼灸を想像しよう（討論） [到達目標] IoTやAIなどこれからの技術について学ぶと共に、未来の鍼灸の可能性を知ることができる [備考] 将来を考えるきっかけとする。</p> <p>6回目 自己分析・他者分析 [到達目標] 自分自身を自己評価や他人評価することで客観的に観察できる。 [備考] 自分の長所や短所を知り、自分の将来を参考にする。</p> <p>7回目 キャリアデザインを再考しよう [到達目標] 理想の医療や鍼灸師、さらには自分増を知ったうえで、現段階での履歴書やキャリアプランを作成することができる。 [備考] 自分の理想の将来像を考えよう</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	それぞれのテーマについて30分程度関連の分野の書籍、資料、インターネットを調べ、知識を深めておく。 また、授業後は30分程度、授業を行った内容を復習し、質問があるときは次回の授業の際に行う。

教科書	PLCMET GUIDE 2021 (各自持参) 配布資料
参考書	「鍼灸マッサージ治療院開業ベーシックマニュアル」医道の日本 「大学生のためのキャリア講義」山本直人 インデックスコミュニケーション
成績評価	受動的な講義形式と、学生自らが調査・発表・討論を行う講義の2つからなる。 出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追再試験を実施する。 レポートと出席で評価し、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 なお、レポート評価とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 伊藤和憲 研究室 : 鍼灸センター2階教授室 メールアドレス : k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 質問等がある場合はメールの上、事前予約をお願いします。
備考	伊藤和憲：鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。 山崎翼：鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。
	DPとの関係： ○3：関心意欲、 ◎4：態度・人間性

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1-4年	1	1	選択必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	1. ボランティアについての理解を深めます。 2. はり師・きゅう師として、社会貢献や社会参画、キャリア形成の一環としてボランティアの役割を理解することを目指します。
授業計画	<p>1回目 講義のオリエンテーション 【到達目標】 ボランティアの意義や方法、注意点などについて理解する。 【授業形態】 講義形式 【備考】</p> <p>2回目 ボランティア活動の実際① 【到達目標】 社会貢献や社会参画のためのボランティア活動を理解し実践する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 活動内容についてレポートを提出する。</p> <p>3回目 ボランティア活動の実際② 【到達目標】 社会貢献や社会参画のためのボランティア活動を理解し実践する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 活動内容についてレポートを提出する。</p> <p>4回目 ボランティア活動の実際③ 【到達目標】 社会貢献や社会参画のためのボランティア活動を理解し実践する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 活動内容についてレポートを提出する。</p> <p>5回目 ボランティア活動の実際④ 【到達目標】 社会貢献や社会参画のためのボランティア活動を理解し実践する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 活動内容についてレポートを提出する。</p> <p>6回目 ボランティア活動の実際⑤ 【到達目標】 社会貢献や社会参画のためのボランティア活動を理解し実践する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 活動内容についてレポートを提出する。</p> <p>7回目 まとめ 【到達目標】 ボランティアが社会に果たす役割について理解する。 【授業形態】 講義形式 【備考】</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	社会情勢など常に最新情報に触れておくこと。
教科書	なし
参考書	なし
成績評価	出席及びレポートにより評価(優・良・可・不可)する。
担当教員の基本情報	〃連絡先 研究室：鍼灸センター2F 教授室 メールアドレス：伊藤和憲 k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー・質問などがある際は、事前に上記メールで連絡をください。
備考	実際にボランティアを行う場合には、必ず事前に担当者に相談すること。 ディプロマポリシーとの関連 ③ 関心・意欲-○ ④ 態度・人間性-○ ⑤ 技能・表現-○

講義科目名称： 化学

授業コード： 3S113

英文科目名称： Basic Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
千葉 章太			
添付ファイル			

授業目標	医療系学生に必要な化学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・おもな元素記号、分子を覚える。 ・物質量の計算ができる。 ・溶液の濃度計算ができる。 ・化学反応式から反応物と生成物について定量的に説明できる。
授業計画	<p>第1回 元素記号・周期律・化学の基礎 到達目標：おもな元素記号を記述できる。</p> <p>第2回 原子の構造、電子配置と原子軌道 到達目標：陽子、中性子、電子を使って原子を説明できる。 s軌道とp軌道を使って電子配置を説明できる。</p> <p>第3回 価電子と共有結合 到達目標：分子軌道により共有結合を説明できる。</p> <p>第4回 炭素の化学 到達目標：ヘキサン、シクロヘキサン、ベンゼンの空間的構造の違いを説明できる。</p> <p>第5回 陽イオンと陰イオン 到達目標：主要な塩の組成式を作ることができる。</p> <p>第6回 分子の間に働く力 到達目標：化学結合の特徴を説明できる。</p> <p>第7回 分子量と物質量mol 到達目標：分子量と物質量を計算できる。</p> <p>第8回 質量、物質量、分子量 到達目標：理想気体の体積を物質量から計算できる。</p> <p>第9回 溶液と濃度・コロイド 到達目標：モル濃度を計算できる。</p> <p>第10回 化学反応 到達目標：主な化学反応を化学反応式で表せる。 化学反応式の係数を決定できる。</p> <p>第11回 酸・塩基、水素イオン濃度、酸化・還元 到達目標：酸・塩基、水素イオン濃度、酸化・還元反応の性質を説明できる。</p> <p>第12回 化学反応とエネルギー 到達目標：化学反応の進行をエネルギーの観点で説明できる。</p> <p>第13回 イオン化傾向・電池・電気分解 到達目標：イオン化傾向・電池・電気分解を説明できる。</p> <p>第14回 期末試験・無機・有機・高分子化合物 期末試験 到達目標：身近な化合物の性質を理解する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習130分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習130分)
教科書	「化学の基礎—元素記号からおさらいする化学の基本—」 中川 徹夫著(化学同人) ISBN978-4-7598-1437-8
参考書	「よくわかる化学基礎+化学」 富田 功監修(Gakken) ISBN978-4-05-303852-4
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 期末試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日、木曜日 12:40-13:30
備考	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
小島 奈名子			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	この科目においては、英単語の記憶、英文法の習得を中心に英語の基礎力を深め、表現力を磨いていくことが目的となります。将来、医療従事者として活動する際に必要な表現を念頭に置きながら、授業を展開していきます。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]この科目での学習内容、目標を理解する。 [備考]この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか、説明します。	
	第2講	文・句型 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第3講	疑問詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第4講	形容詞・副詞・比較 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第5講	動詞・時制I [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第6講	動詞・時制II [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第7講	不定詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第8講	助動詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第9講	法I [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第10講	法II [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第11講	関係詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第12講	態 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第13講	まとめ1	

第14講	<p>[到達目標]これまでの授業内容を理解することができる。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。 まとめ2 (評価を含む)</p> <p>[到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]前回提出物の返却→まとめ→評価 (仮) [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>授業では、英単語を習得できるように毎回小テストを実施しますので準備してください。また、授業ごとに英単語や英語表現を身につけ、次の授業では活かせるように、復習することも大切です。 また、本講義においてはTOIECやTOEFLなどの学外英語検定、国家試験等に対応した英語学習を希望する学生の割合に応じて、授業内容をフレキシブルに展開していく予定です。自らの将来的なビジョンを明確にするよう、心がけてください。</p>
教科書	<p>授業ごとにこちらで授業資料を配布します。資料をまとめるファイルを用意してください (形式は任意)。</p>
参考書	<p>授業ごとに必要があれば紹介します。</p>
成績評価	<p>授業への参加、提出物 (単語テストと課題) と、定期試験またはレポートの結果より総合的に評価します。授業参加・提出物30%~50%、定期試験またはレポート50%~70%を目安として考えています。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小島 奈名子 研究室 : 1号館2階 メールアドレス : n_kojima@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p>
備考	
	<p>「この授業とディプロマポリシーとの関連」 : ◎-1、○-5</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
小島 奈名子			
添付ファイル			

授業目標	この科目においては、英単語の記憶、英文法の習得を中心に英語の基礎力を深め、表現力を磨いていくことが目的となります。将来、医療従事者として活動する際に必要な表現を念頭に置きながら、授業を展開していきます。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]この科目での学習内容、目標を理解する。 [備考]この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか、説明します。	
	第2講	文・句型 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第3講	疑問詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第4講	形容詞・副詞・比較 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第5講	動詞・時制I [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第6講	動詞・時制II [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第7講	不定詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第8講	助動詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第9講	法I [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第10講	法II [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第11講	関係詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第12講	態 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第13講	まとめ1	

第14講	<p>[到達目標]これまでの授業内容を理解することができる。 [授業形態]単語テスト実施→前回提出物の返却→文法解説→課題実施→採点→単語テスト・課題提出 [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。 まとめ2 (評価を含む)</p> <p>[到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]前回提出物の返却→まとめ→評価 (仮) [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>授業では、英単語を習得できるように毎回小テストを実施しますので準備してください。また、授業ごとに英単語や英語表現を身につけ、次の授業では活かせるように、復習することも大切です。 また、本講義においてはTOIECやTOEFLなどの学外英語検定、国家試験等に対応した英語学習を希望する学生の割合に応じて、授業内容をフレキシブルに展開していく予定です。自らの将来的なビジョンを明確にするよう、心がけてください。</p>
教科書	<p>授業ごとにこちらで授業資料を配布します。資料をまとめるファイルを用意してください (形式は任意)。</p>
参考書	<p>授業ごとに必要があれば紹介します。</p>
成績評価	<p>授業への参加、提出物 (単語テストと課題) と、定期試験またはレポートの結果より総合的に評価します。授業参加・提出物30%~50%、定期試験またはレポート50%~70%を目安として考えています。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小島 奈名子 研究室 : 1号館2階 メールアドレス : n_kojima@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p>
備考	
	<p>「この授業とディプロマポリシーとの関連」 : ◎-1、○-5</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
矢放 昭文			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標は初級中国語を学ぶことである。発音が難しい、といわれている中国語の音声の仕組みを理解しつつ、身につける方法として；①シャドーイングの反復、リスニングと発音、ライティングと意味の把握、文法的仕組みの理解を同時並行的に練習し、身につける。②グループ（ペア）ワーク（2人または4人）を通じて、入力（耳：input）・出力（口：output）と書写（ライティング）練習を繰り返し、定着度をお互いに確認しつつ初級中国語の運用力を身につける。学習進度と習得度を踏まえつつ、看護・救急・救命・鍼灸などの現場で使われる中国語とその表現法を日本語、英語と対照しつつ材料に採り入れ、中国語の知識をゆたかにすることも授業目標の一つとする。</p>
授業計画	<p>1回目 中国語の音声（ピンイン）の仕組みを理解しよう [到達目標] ①中国語の音声の仕組みを「中国語音節表」（p.74-75）に基づいて学ぶ。教科書に基づいて授業の進め方を説明し、相互に確認する。また次回授業の準備（p11-16）を予習する。 [備考]補助教材として、プリントを配布することがある。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>2回目 第1課「自己紹介」を学ぶ [到達目標]発音：単母音・声調・軽声・子音を学習する。さらに、ペアワークを通じて挨拶・自己紹介ができるようにする。 [備考]次回授業の準備：p.17-18「ドリル」を完成し、p.19-22を予習する。</p> <p>3回目 第2課「どうなさいましたか」を学ぶ [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。つぎに前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認・補正する。また、発音：複母音・声調表記と「新出語句」（p.20）の発音練習・書取を行う。 [備考]さらに、次回授業の準備：p.23-24「ドリル」を完成し、p.25-28を予習する。</p> <p>4回目 第3課「この薬はどう飲みますか」を学ぶ [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、確認・補正する。 [備考]さらに、発音：鼻母音と「新出語句」（p.26）の発音・書取を行う。</p> <p>5回目 第3課「この薬はどう飲みますか」の復習 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで薬の飲み方を説明できるように練習し・定着を目指す。 [備考]次回授業の準備：p.29-30「ドリル」を完成し、p.31-35を予習する。</p> <p>6回目 第4課「病室はどこですか」の学習 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。 [備考]さらに、発音：「声調の変調」「アール化音」「新出語句」（p.33）の練習・書取を行う。</p> <p>7回目 第4課「病室はどこですか」の復習 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで場所を訊ねたり、教えたりできるように練習し・定着を目指す。 [備考]次回授業の準備：p.36-37「ドリル」を完成し、p.38-41を予習する。</p> <p>8回目 第5課「具合はいかがですか」の学習 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。 [備考]さらに、発音：「新出語句（p.38）」「補足語句（p.40）」と「表現」の練習・書取を行う。</p> <p>9回目 第5課「具合はいかがですか」の復習 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「具合はいかがですか」と「問wèn・答dá」できるようにする。 [備考]次回授業の準備：p.42-43「ドリル」を完成し、p.44-46を予習する。</p> <p>10回目 第6課「心配ありません」の学習</p>

	<p>[到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に病気の現状を説明できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考]さらに、発音：「新出語句 (p. 44)」「補足語句 (p. 46)」と「表現」の練習・書取を行う。</p> <p>11回目 第6課「心配いりません」の復習 [到達目標]会話」の復習。ペアワークで、病気の現状説明と患者を落ち着かせる会話、の練習をする。</p> <p>12回目 [備考]次回の授業：p. 47-48「ドリル」を完成し、p. 49-51を予習する。 第7課「退院おめでとう」の学習 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを言えるようにする。 また、前回のドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認、補正する。</p> <p>13回目 [備考]さらに、発音：「新出語句 (p. 50)」「補足語句 (p. 51)」と「表現」の練習・書取を行う。 第7課「退院おめでとう」の復習 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを相互に言えるようにする。 さらに「チャレンジ (p. 54)」をグループワークで行う。</p> <p>14回目 [備考]また、次回授業の準備：p. 52-53のドリルを完成する。 第1課～第7課で身につけた中国語をつかい「自己発表」を行う。 [到達目標]第1課～第7課のまとめ (p. 55-60)を総括する。また前回ドリルの答え合わせを行う。 [備考]評価と今後の学習のための助言を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>①予習 (音声ファイルをダウンロードし、繰り返し聞くと効果がある。特にイントネーション (声調) に注意してシャドーイングを繰り返すと効果がある。</p> <p>②シャドーイングと同時に書写 (ライティング) を習慣として行うと定着度は高い。「ドリル」を完成することも定着するためには大切である。</p> <p>③ピンイン、単語、例文などを音読しながら書写することにより定着度を高めることも出来る。自分で時間の配分を考えながら、実行することを習慣にすると効果は高い。</p>
教科書	『協同学習で学ぶ医療系中国語会話』李偉・管虹共著、白帝社 (定価：2100 円+税)
参考書	授業中に紹介する。
成績評価	平常点 (50%) と期末試験 (50%) の成績を総合して評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 矢放 昭文 (ヤハナシ アキフミ)</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室</p> <p>メールアドレス :</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1, ○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
山本 アナ クリスチーナ アケミ			
配当学科：鍼灸	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標はポルトガル語の初級会話および初級文法を習得することにある。本学のポルトガル研修実施を鑑み、研修に必要かつ使用頻度の高いポルトガル語を習得していく。内容としては、自己紹介や質問方法（目的地までの行き方や食事時の注文方法、患者の容態確認など）をロールプレイ、グループワークを通して学び、病院研修にて必要な医療用語も学習する。また、日本と関りが深いポルトガルやブラジルの文化、習慣にも触れ、言語学習にとどまらないより広い視野での学びを目指す。</p>		
授業計画	第1講	<p>ポルトガル・ブラジル、ポルトガル語について知ろう [到達目標] ポルトガル語を公用語とする代表的な国々について知り、ポルトガル語の学習をアルファベットからはじめる。 アルファベット、発音、読み方 (1) [備考]</p>	
	第2講	<p>ポルトガル語の読み方をマスターし、あいさつ表現を学ぼう [到達目標] ポルトガル語の読み方をマスターし、基本的な挨拶をポルトガル語で出来るようにする。 読み方 (2)、挨拶表現 (1) [備考]</p>	
	第3講	<p>単語表「家族」(名詞の学習) 所有詞、SER動詞 1 [到達目標] 学習した挨拶表現でロールプレイ。基礎文法：所有詞「誰々の〇〇」、SER動詞「～です」の学習。</p>	
	第4講	<p>[備考] 単語表「サッカー」 SER動詞 2：自己紹介・出身地、形容詞 [到達目標] SER動詞を使ってロールプレイ。</p>	
	第5講	<p>[備考] 単語表「事故、トラブル」 ESTAR動詞 1 [到達目標] ESTAR動詞「～です、～ます」の学習</p>	
	第6講	<p>[備考] 単語表「からだ」 ESTAR動詞 2：現在進行形 [到達目標] ESTAR動詞を使ってロールプレイ：診察時の問診形式。</p>	
	第7講	<p>[備考] 単語表「病気、ケガ」 中間のまとめ(評価)、映像学習。 [到達目標] 筆記やヒアリングのテストを行うことで、自己の学習の定着度合いを確認する。</p>	
	第8講	<p>[備考] 中間テストの実施 IR動詞、FAZER動詞 [到達目標] IR動詞「～行く」とFAZER動詞「～する、作る」の学習。ロールプレイ。</p>	
	第9講	<p>[備考] 単語表「動詞の原形」 QUERER動詞、指示詞 [到達目標] QUERER動詞「～が欲しい、～したい」の学習。ロールプレイ。</p>	
	第10講	<p>[備考] 単語表「ポルトガル土産」「料理」 TER動詞、数詞 [到達目標] TER動詞「～持っている、～いる、～ある、～しなければならない」の学習。 数詞 1～999。ロールプレイ。</p>	
	第11講	<p>[備考] 単語表「お菓子」「軽食、飲み物」 疑問詞、規則動詞の現在形 1、GOSTAR動詞 [到達目標] 様々な疑問詞を学習し、これまでに習った動詞を用いて疑問文を作ろう！グループワーク、ロールプレイ。規則動詞の現在形、活用と用法の学習。GOSTAR動詞「～好き、～するのが好き」</p>	
	第12講	<p>[備考] 単語表「趣味」 規則動詞の現在形 2 [到達目標] 動詞を現在形に活用し、使う練習。グループワーク、ロールプレイ。 [備考]</p>	

	<p>第13講 全体のまとめ（評価）、映像学習。 [到達目標] 筆記やヒアリングのテストを行うことで、自己の学習の定着度合いを確認する。</p> <p>第14講 [備考] 期末テストの実施 過去形 [到達目標] 規則動詞の直説法過去の学習。これまでの総復習。 [備考] 期末テストの返却</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>授業で学習した内容を復習するための課題プリントを解き提出すること。または事前に調べるテーマ（ポルトガルやブラジルの文化・社会情勢など）を講師より指示。プリントにまとめ提出すること。</p> <p>配布資料・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。</p>
教科書	講師の自作プリントを使用
参考書	授業で紹介
成績評価	授業に対する意欲、積極的な参加、課題の提出、中間・期末テストの点数などによって評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山本 アナ クリスティーナ アケミ 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-3</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一、梅田 雅宏			
配当学科:鍼灸学科	時間数:30時間	授業形態:演習(対面授業)	
添付ファイル			

授業目標	<p>コンピュータとインターネットを活用した課題の遂行を通じ、様々なアプリケーションの使い分けに加えてデータサイエンスの基盤となるデータ整理のスキル獲得を目的とします。また、コンピュータとインターネットに絡んだ犯罪から身を守る知識の修得し、具体的に対処する方法について学びます。4年間の大学生活を送るに当たり必要なコンピュータスキル(特にExcel)と犯罪に巻き込まれないための知識を修得し、実践できることを到達目標としています。</p> <p>ガイダンスには「必ず」出席して下さい。本学のコンピュータシステムおよびメール等、学生生活に必要な事項について説明します。</p>		
授業計画	第1講	<p>ガイダンス、PCの基本操作、学内システムへのアクセス法</p> <p>[到達目標] 本学のコンピュータ利用方法を理解する コンピュータからメールが送受信できる 学修支援システムとmellyを利用できる 大学内で印刷を行う具体的な方法を理解する</p> <p>[備考] 入学時ガイダンスでの配布物(パスワードが記載された用紙)を必ず持参すること</p>	
	第2講	<p>基本操作の修得</p> <p>[到達目標] 電子レポートを提出できる 電子書類をコンピュータ上で適切に保存できる USBフラッシュメモリ等の外部デバイスの利用に対する注意点を理解する</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第3講	<p>必要に応じてUSBメモリーを持参すること(任意)</p> <p>学修の記録とポートフォリオ</p> <p>[到達目標] 学修記録の必要性を理解する Cloud環境で利用できる仕組みを活用してポートフォリオ作成を体験する</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第4講	<p>表計算①：関数の使い方と表計算ソフトの便利な機能</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトが使い、必要に応じてレイアウトを整えることができる 表計算ソフトを操作し、四則演算ができる 表計算ソフトで良く使う関数を使うことができる キーボードショートカットを活用できる</p> <p>[備考] 提出課題あり</p>	
	第5講	<p>表計算②：さまざまなグラフと表・数値の読み方</p> <p>[到達目標] グラフの特徴を理解し、活用することができる 種々のグラフ、表、数値を読み解くことができる データに対して適切なグラフを作成することができる</p> <p>[備考] 提出課題あり</p>	
	第6講	<p>表計算③：さまざまな関数の利用</p> <p>[到達目標] 引数の概念を理解する “条件分け”の関数を適用することができる “抽出”の関数を適用することができる</p> <p>[備考] 提出課題あり</p>	
	第7講	<p>表計算④：復習と演習</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトを利用し学修した内容を独力で実践できる</p> <p>[備考] 提出課題あり</p>	
	第8講	<p>表計算⑤：表計算を用いたデータ整理と表示法のテストおよび解説</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトを独力で使いこなすことができる</p> <p>[備考] 表計算ソフトを用いたテストを実施する</p>	
	第9講	<p>情報倫理とネットセキュリティ</p> <p>[到達目標]</p>	

	<p>IT情報リテラシーおよび情報倫理として適切な事柄を示すことができる ネットのビジネスなマナー、アカウントとパスワードの意味、悪意のあるプログラムとその対策について知識を修得する [備考] 講義時間内に情報倫理に関するwebテストを実施 NOA出版の教科書にて事前に学修しておくこと 文書表現の実践：文章表現の実践とルーブリックによる自己評価 [到達目標] Word等の文書作成ソフトを利用し、自力でレポート課題に取り組むことができる 指定された条件をレポートに適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる。 [備考] 課題提出あり</p> <p>第10講</p> <p>第11講</p> <p>ビジュアル表現の実践：プレゼンテーションの実践とルーブリックによる自己評価 [到達目標] PowerPoint等のプレゼンテーションソフトを利用し、自力でプレゼン資料を作成できる 指定された条件を適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる。 [備考] 課題提出あり</p> <p>第12講</p> <p>デジタル環境を利用したレポート相互評価の実践 [到達目標] 客観的視点をもって他者の文章を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の利点と欠点について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる。 [備考] 課題提出あり</p> <p>第13講</p> <p>デジタル環境を利用したプレゼン資料相互評価の実践 [到達目標] 客観的視点をもって他者の資料を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の集約と共有の方法について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる。 [備考] 課題提出あり</p> <p>第14講</p> <p>プログラミングと論理的思考 [到達目標] プログラミングとは何かを理解する スクリプトを用いてデジタル処理の動作を体験する [備考] 課題提出あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義で必要となる用語や操作手順を事前に調べ、まとめておいて下さい(35分程度)。必要に応じて復習を行い、コンピュータスキルの獲得に努めて下さい(35分程度)。第9講では情報倫理に関する小テストを実施しますので、「情報倫理ハンドブック」を事前に熟読し、理解を深めて下さい。
教科書	「情報倫理ハンドブック 2021年度版」(noa出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	評価割合は授業内課題40%、情報倫理に関するwebテスト10%、表計算テスト50%とします。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMR センターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p> <p>担当教員名 : 梅田 雅宏 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:30-18:30</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-5, ○-3 講義資料および課題は授業専用のHPにて提供する(別途指示)。課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
星 伴路			
鍼灸学科	60時間	演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	人体の構造の理解と知識は、医学領域に於いては最も基礎となり欠かすことのできないものである。解剖学 I では、組織学の各概論に始まり、運動器とそれを支配する神経系、神経系との繋がり深い感覚器系まで講義する。覚えなければならない専門的な用語が特に多い領域となるため、効率よく整理・整頓しながらの学習方法の確立と、各器官の基本構造をしっかりと把握し、主たる機能に理解をつなげる事が目標である。		
授業計画	1回目	解剖学概論(ガイダンス) [到達目標] 教科書紹介、講義の概要と、解剖学をどう学ぶのかについて理解できている。 [備考] 合わせて試験と単位認定について説明する。	
	2回目	解剖学総論（細胞・組織学総論） [到達目標] 人体の構成要素を知り、細胞・組織等の基本的ななりたちの概略を説明できる。 [備考] 人の体の概要について説明できる。細胞→組織→器官→器官系→個体のつながり分類できる。	
	3回目	運動器系・骨学系1 概論 [到達目標] 全身の骨を把握し、すべて列挙できる。骨の種類・主要な骨の連結様式および関節を分類できる。 [備考] 全身の主要な骨格とその名称。骨の形態分類、各関節の形態分類における代表的な部位。	
	4回目	運動器系・筋学1 概論 [到達目標] 骨格筋の全体像を把握し、構造による分類を理解する。 [備考] 骨格筋の起始と停止。筋、筋膜、腱と骨の関係。運動軸と関節の動き（作用）。	
	5回目	運動器系・骨格系2（上肢の骨と関節） [到達目標] 上肢帯、上腕、前腕、手の各骨の名称と特徴的な部位名が言える。上肢の主な関節を説明できる。 [備考] 上肢帯と自由上肢の骨格。各骨の部位名。各々の連結様式。	
	6回目	運動器系・筋学2（上肢の筋と運動） [到達目標] 肩の筋、上腕、前腕、手の筋の名称。骨との付着部、作用について説明できる。 [備考] 上肢帯及び自由上肢の筋。手の筋肉と腱。運動様式および支配神経。	
	7回目	運動器系・骨格系3（下肢の骨と関節） [到達目標] 下肢帯、大腿、下腿、足部の各骨の名称と特徴的な部位名が言える。下肢の主な関節を説明できる。 [備考] 下肢帯と自由下肢の骨格。各骨の部位名。各々の連結様式。	
	8回目	運動器系・筋学3（下肢の筋と運動） [到達目標] 寛骨筋、大腿、下腿、足部の筋の名称。骨との付着部、作用について説明できる。 [備考] 下肢帯及び自由下肢の筋。足部の筋肉と腱。運動様式および支配神経。	
	9回目	運動器系・骨格系4（体幹の骨と関節） [到達目標] 椎骨、脊柱、脊柱管、胸郭、胸腔、の区別・説明できる。主な関節と連結様式を説明できる。 [備考] 脊柱、胸郭の構成。各骨の部位名。脊柱の靭帯。各々の連結様式と四肢骨との連結。	
	10回目	運動器系・筋学4（体幹の筋と運動） [到達目標] 胸腹部の筋、腰背部の筋の名称。骨との付着部、作用について説明できる。 [備考] 体幹の運動様式および支配神経。	
	11回目	運動器系・骨格系5（頭蓋骨と関節） [到達目標] 頭蓋骨15種23個を列記でき、脳・顔面頭蓋の構造を理解する。 顎関節と連結様式、眼窩および鼻腔の構成要素を説明できる。 [備考] 縫合の名称、内・外頭蓋底の構造。	
	12回目	運動器系・筋学5（頭頸部の筋と運動） [到達目標] 表情筋、咀嚼筋、頸部の筋の名称。骨との付着部、作用について説明できる。 [備考] 頭頸部の運動様式および支配神経。	
	13回目	運動器系・骨格系総括（前半まとめ） [到達目標] 運動器（骨格系）の全般について説明できる。 [備考] 中間試験に向け骨格系の内容を包括する。 ※アクティブラーニング：小グループを組み、骨格系の質疑応答を行うことにより、お互いに必要と知識と記憶の確認が可能となる。加えて不足分を講義内容として追加する予定。	
	14回目	中間試験 [到達目標] 前半の講義内容についての設問に60%以上解答できる。 [備考] 試験時間後に問題に対する解説も行う。	
	15回目	細胞・組織学1（細胞の基本構造と機能） [到達目標] 細胞の基本構造と機能、細胞小器官の構造と機能の概略を説明できる。 [備考] 有糸分裂（体細胞分裂と減数分裂）、生殖細胞	
	16回目	細胞・組織学2（組織学：上皮組織の構造と分布） [到達目標] 4種の基本組織（上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織）を区分できる。上皮組織について説明できる。 [備考] 組織学概論と上皮組織の分類、形態、分布。	

	17回目	細胞・組織学3 (筋組織・結合組織の構造と分布) [到達目標] 筋組織の基本構造と分布および機能を説明できる。結合組織の広義と狭義について説明できる。細胞成分と細胞外成分 [備考] 筋組織の分類、特徴、分布。骨格筋、平滑筋、心筋の細胞学的特徴。結合組織各論。支持組織の基本構造と分布および機能を説明できる。
	18回目	神経系1 概論 (神経組織の分類、組織構造と分布と機能) [到達目標] 神経系の概要について説明できる。 [備考] 神経細胞、神経膠細胞と神経組織の概論。情報伝達の仕組み。
	19回目	神経系2 (中枢神経系：脊髄) [到達目標] 脊髄と脊髄反射、脳組織の構成について説明できる。 [備考] 脊髄と脊髄反射。反射弓。頸膨大・腰膨大、脊髄円錐、各分節の特徴的構造
	20回目	神経系3 (中枢神経系：脳) [到達目標] 脳の構造と各部位について説明できる。 [備考] 脳の構造、各部位の機能について説明する。大脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄。脳室系、脳脊髄液、髄膜 (大脳鎌・小脳鎌・小脳テント)
	21回目	神経系4 (末梢神経系：脳神経) [到達目標] 脳神経について説明できる。 [備考] 脳に出入りする脳神経とその分布、標的器官・臓器とその神経機能。
	22回目	神経系5 (末梢神経系：脊髄神経) [到達目標] 脊髄神経と神経叢について説明できる。 [備考] 脊髄神経前枝と代表的な神経叢、その神経線維構成。
	23回目	神経系6 (伝導路) [到達目標] 各種伝導路について説明できる。 [備考] 運動 (遠心性)・感覚 (求心性) 神経の主要な伝導路。
	24回目	感覚器1 (概論・視覚器) [到達目標] 眼球の構造と光受容について説明できる。 [備考] 眼球の構造 (受容器と受容細胞)、付属器 (外眼筋・眼瞼・涙腺)
	25回目	感覚器2 (聴覚・平衡覚器) [到達目標] 聴覚・平衡覚の受容について説明できる。 [備考] 聴覚、平衡覚の受容と内耳の構造。
	26回目	感覚器3 (皮膚) [到達目標] 外皮系 (皮膚) の構造について説明できる。 [備考] 外皮の構造と感覚受容器の種類、分布。角質器 (毛・爪)。
	27回目	組織学・神経系・感覚器系総括 (後半まとめ) [到達目標] 組織学・神経・感覚器系全般について説明できる。 [備考] 期末試験に向けて、組織学・神経・感覚器系の内容を包括する。 ※アクティブラーニング：小グループを組み、16回目以降の講義内容についての質疑応答を行うことにより、お互いに必要と知識と記憶の確認が可能となる。加えて不足分を講義内容として追加する予定。
	28回目	期末試験 [到達目標] 後半の講義内容についての設問に60%以上解答できる。 [備考] 試験時間後に問題に対する解説も行う。
授業時間外の学習 (準備学習等) について		事前に次回授業範囲を教科書や参考書を読み、下調べを行う。あらかじめ疑問点を見つけ出しておくことより理解しやすくなる (予習35分)。講義中に疑問点が解消されなければ、授業後に質問し、速やかに疑問点を解消・理解する事が重要となる。 更に復習として、授業内容をノートにまとめ直すことなどにより理解を深める (復習35分)。
教科書		「解剖学」第2版 公益社団法人 東洋療法学校協会編 河野邦雄・伊藤隆造 他著 医歯薬出版 5,900円 (+税) ※講義はこの図書よりの図を多く用いる予定。
参考書		「イラスト解剖学」第9版 松村譲児 著 中外医学社 7,600円 (+税) 「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーニ M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 西村書店 7,800円 (+税) ※講義で主に使うものではないが、単元によっては参考書として使用。
成績評価		中間試験 (前半部) 及び期末試験 (後半部) の2度に分けて四者択一問題にて、合計で60%以上の点数を取得した場合のみ合格とする。受験資格はその試験範囲の講義に3/5以上の出席を満たすものとする。
担当教員の基本情報		担当教員名 : 星 伴路 研究室 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 メールアドレス : t_hoshi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水・木曜日 放課後 (できれば事前に口頭またはMelly等で空き時間を確認してください)
備考		①実務経験の有無：はり・きゅう師免許取得後、当大学附属病院 (泌尿器科) および鍼灸センターにて専門外来の臨床経験あり。その実務経験をもとに講義を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関係：◎-1 (○-2、○-3)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
榎原 智美			
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、内臓系人体構造学を学ぶ。器官系でいうと、循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系であり、内臓の調節系として自律神経系も加わる。これらに属する種々の内臓諸器官の、正常な肉眼的構造（マクロ）から組織・細胞学的構造（ミクロ）までを一続きにつなげて理解し、基本的な機能と併せて学習する。以下の5項目が各回ごとの基本的目標。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各器官系に属する器官を明確に列挙し、区分できる。 2. 各器官の肉眼的特徴（マクロ）を概説し、主要な所属細胞を指摘できる。 3. 漿膜（心膜・胸膜・腹膜）を理解する。 4. 内臓諸器官の機能を、循環器と併せて形態学的側面から概説できる。 5. 内臓を調節する自律神経系および内分泌系のシステムを、区別して概説できる。 <p>最終到達目標は、授業第1回目および第28回目に提示した。</p>
授業計画	<p>1回目 内臓学総論（イントロダクション） 【到達目標】 解剖学Ⅱで学ぶことの全体像を把握する。 最終到達目標課題：妊娠中の花子さんが、呼吸をし、排泄し、食事をする。花子さんの口や鼻から摂取した栄養や酸素が、胎児の脳に至るまでの経過、胎児の老廃物が、花子さんの尿となって排泄されるまでの経路、そしてその調節系について、解剖学的な視点で総合的に説明できる。</p> <p>2回目 循環器系1.（総論）<<教科書 第2章-1>> 【到達目標】 心臓・血管（動脈・静脈・毛細血管）を区別して定義できる。 体循環と肺循環を区別して定義できる。 血管壁の三層構造を説明できる。 吻合・終動脈について説明できる。</p> <p>3回目 循環器系2.（心臓）<<教科書 第2章-2>> 【到達目標】 心臓の肉眼的の基本構造（位置・心膜・心房と心室・弁）について説明できる。 心臓の刺激伝導系について説明できる。 心臓壁の組織構成とそれを栄養する血管について説明できる。</p> <p>4回目 循環器系3.（動脈系・静脈系）<<教科書 第2章-3・4>> 【到達目標】 大動脈の1本4区画とその枝および流域を説明できる。 大静脈の2本と、その主要な枝を説明できる。 （門脈系→消化器系へ。胎児循環→女性生殖器系へ。）</p> <p>5回目 循環器系4.（リンパ系）<<教科書 第2章-6>> 【到達目標】 リンパ系の全体像を、主要なリンパ幹（胸管・リンパ本幹）を示して説明できる。 リンパ節・扁桃・リンパ小節について概説できる。 脾臓・胸腺について、位置とかたちを説明できる。</p> <p>6回目 呼吸器系1.（総論・肺循環）<<教科書 第2章-1・第3章-図3-1,3-5>> 【到達目標】 鼻腔・咽頭・気管・気管支・肺の位置を説明できる。 肺循環（血管系）と気道（呼吸器系）をドッキングさせて外呼吸を説明できる。 空気-血液関門の場所を指摘できる。</p> <p>7回目 呼吸器系2.（気道と肺胞）<<教科書 第3章>> 【到達目標】 鼻腔・副鼻腔について説明できる。 咽頭に接する器官を列挙できる。 喉頭の軟骨の構成を示し、声帯の位置を指摘できる。 肺の肉眼的の基本構造を説明できる。 胸郭・胸膜・胸膜腔・縦隔・心膜を区別して説明できる。</p> <p>8回目 消化器系1.（総論）<<教科書 第4章-1 図4-2>> 【到達目標】 消化器を構成する器官名と配置、区分を把握する。 消化管壁の基本構造を説明できる。 消化器生理（咀嚼・嚥下・消化・吸収・排泄）を概説できる。</p>

9回目	<p>消化器系2. (口腔・咽頭・食道) <<教科書 第4章-2・3・4 >> 【到達目標】 口腔、咽頭および食道の肉眼的構造(下記)を説明できる。 口唇・口蓋・口狭・舌・歯・唾液腺、ワルダイエルの咽頭輪、食道の三狭窄部 舌の肉眼的構造と舌乳頭について説明できる。</p>
10回目	<p>消化器系3. (胃) <<教科書 第4章-5 >> 【到達目標】 胃の区分と各部の特徴を説明できる。 胃粘膜と胃腺を区別し、図4-12上に示せる。</p>
11回目	<p>消化器系4. (小腸・大腸) <<教科書 第4章-6・7・11 >> 【到達目標】 小腸・大腸の区分と各部の肉眼的特徴を説明できる。 輪状ヒダ・腸絨毛・パイエル板・半月ヒダ・結腸膨起・結腸ヒモ 小腸壁の組織構造を、図4-13を用いて示せる。 小腸粘膜での栄養の吸収の場を、図4-13を用いて示せる。 漿膜・腹膜・腸間膜を区別して説明できる。</p>
12回目	<p>消化器系5. (肝臓・膵臓) <<教科書 第4章-8・9・10 >> 【到達目標】 肝臓・膵臓の肉眼的な基本構造を説明できる。 肝臓・膵臓組織の特徴的な組織構造を説明できる。</p>
13回目	<p>消化器系5. (門脈と胆管系) <<教科書 第2章 p50-51, 第4章 図4-12, 4-20 >> 【到達目標】 肝臓の門脈系について説明できる。 胆管系・膵管系について説明できる。</p> <p>中間試験(試験範囲:第1~13回)を実施する。日時は別途知らせる。</p>
14回目	<p>泌尿器系1. (総論) <<教科書 第5章 >> 【到達目標】 腎臓・尿管・膀胱・尿道とその配置、区分を説明できる。 腎門を出入りする血液(尿の原料)の流路を説明できる。</p>
15回目	<p>泌尿器系2. (腎臓1) <<教科書 第5章-1 >> 【到達目標】 腎臓の基本構造(皮質・髄質、腎錐体、腎乳頭、腎杯)を図5-2上に示せる。 機能的単位ネフロン(構成と構造)を図を用いて説明できる。</p>
16回目	<p>泌尿器系3. (腎臓2) <<教科書 第5章-1 >> 【到達目標】 血液-尿関門の場を指摘できる。 再吸収の場を指摘できる。</p>
17回目	<p>泌尿器系3. (尿路) <<教科書 第5章-2 >> 【到達目標】 腎盤・尿管・膀胱・尿道の区分と位置を説明できる。 膀胱壁の特徴を説明できる。 内・外尿道括約筋の位置を、図5-5を用いて示せる。 骨盤内臓の配列を、図5-5を用いて示せる。</p>
18回目	<p>男性生殖器系1. (総論、精巣) <<教科書 第6章-1 >> 【到達目標】 精巣・精巣上体・精管・射精管・尿道の区分と位置、簡単な機能を説明できる。 曲精細管の位置と構造を、図6-1,2を用いて示せる。 精母細胞、ライディッヒ間細胞を、図6-2を用いて示せる。</p>
19回目	<p>男性生殖器系2. (精路) <<教科書 第6章-1 および p 94 図5-5 >> 【到達目標】 精子が射精までに通過する通路(精路)を順に説明できる(図5-5, 図6-1)。 陰茎の基本構造と機能を説明できる(図5-5)。 付属腺(精囊・前立腺・尿道球腺)を挙げ、位置と機能を説明できる(図5-5)。</p>
20回目	<p>女性生殖器系1. (受精と発生) <<教科書 第6章-3 図6-7 >> 【到達目標】 精子と卵子が受精し、胎児が育つまでの過程を、図6-7を用いて概説できる。 胎盤関門(胎盤において胎児の血液と母体の血液が混ざることなく胎児が育つしくみ)を、 図6-7を用いて説明できる。 各胚葉(外胚葉・中胚葉・内胚葉)から分化する主な組織を列挙できる(表6-1)。</p>
21回目	<p>女性生殖器系2. (女性性周期) <<教科書 第6章-2 図6-4, 6-5, 図5-5 >> 【到達目標】 卵巣・卵管・子宮・膣・外生殖器の区分と位置、簡単な機能を説明できる。 卵巣周期(卵巣における卵胞の成熟と排卵、黄体形成)が説明できる。 月経周期(子宮における子宮内膜の周期変化)が説明できる。 女性ホルモンを分泌する腺細胞の所在を示せる。</p>

2 2 回目	女性生殖系 3. (胎児循環) <<教科書 第 2 章-5、第 6 章- 2 図6-4 >> 【到達目標】 胎児循環にしかみられない構造を列挙して説明できる。 胎児循環の痕跡を列挙できる。
2 3 回目	内分泌系 1. (内分泌腺の構造と分類) <<教科書 第 7 章 >> 【到達目標】 内分泌と外分泌を区別できる (図1-10)。 ※内分泌腺 (細胞)、ホルモン (分泌物)、経路、標的細胞、効果を区別して説明できる。 内分泌腺の種類、位置、主なホルモンが説明できる。
2 4 回目	内分泌 2. (下垂体・松果体) <<教科書 第 7 章- 1・ 2 >> 【到達目標】 下垂体前葉の構造 (前葉・中間部・隆起部・後葉) と各分泌ホルモンを説明できる。 腺性下垂体と神経性下垂体が区別できる。 視床下部下垂体前葉系・後葉系を理解する。 下垂体門脈について理解する。
2 5 回目	内分泌 3. (甲状腺・上皮小体・副腎) <<教科書 第 7 章- 3・ 4・ 5 >> 【到達目標】 甲状腺・上皮小体・副腎の構造と各分泌ホルモンを説明できる。 甲状腺の濾胞と濾胞傍細胞の構造について説明できる。 副腎の構造 (皮質・髄質) と分泌ホルモンを説明できる。 副腎髄質→自律神経系
2 6 回目	まとめ 1. 内分泌 4. (消化管・膵臓・腎臓・性腺) <<教科書 第 2～ 7 >> 【到達目標】 グループに分かれて、互いに解説して理解を深める。 膵ホルモン系について、解剖学的に説明できる (→内分泌 1. ※)。 レン・アンギオン・アルドステロン系について、解剖学的に説明できる (→※)。 女性ホルモン系について、解剖学的に説明できる (→※)。
2 7 回目	まとめ 2. 自律神経系 (神経的調節) <<教科書 第 8- 4 >> 【到達目標】 グループに分かれて、互いに解説して理解を深める。 解剖学的に、自律神経を感覚神経と運動神経から区別できる。 図8-18を用いて、解剖学的に、自律神経を交感神経と副交感神経に分類できる。 図8-14, 15, 18 を用いて、自律神経の目的諸器官と効果を説明することができる。 内分泌系と自律神経系の違いを説明できる。 副腎髄質の特殊な点を説明できる。
2 8 回目	まとめ 3. 総括 (循環器系・消化器系・泌尿器系・生殖系) <<教科書 第 2～ 8 >> 【最終到達目標】 グループに分かれて、互いに解説して理解を深める。 妊娠中の花子さんが、呼吸をし、排泄し、食事をし、映画鑑賞をする。花子さんの口や鼻から摂取した栄養や酸素が、胎児の脳に至るまでの経過、胎児の老廃物が、花子さんの尿となって排泄されるまでの経路、そしてその調節系について、解剖学的な視点で総合的に説明できる。 期末試験 (試験範囲：第 1 4～ 2 8 回) を実施する。日時は別途知らせる。
授業時間外の学習 (準備学習等) について	常に最終到達目標を意識し、能動的で深い学び (アクティブラーニング) を心がけましょう。シラバスの各項をチェックし、教科書・参考書を事前学習してください (予習65分x2/1日分)。その内容が授業で解説されま す。授業で学習した内容を自分なりのノートにまとめて下さい (復習65分x2/1日分)。この繰り返しにより、知識・理解を確実なものとし、学習内容に関しての不明な点は、気軽に担当教員に質問してください。
教科書	「解剖学」 (社) 東洋療法学校協会編、医歯薬出版
参考書	「解剖生理学」橋本尚詞・鯉淵典之編著、メヂカルフレンド社 / 「解剖学トレーニングノート」竹内修二著 医学教育出版 / 「鍼灸師・柔整師のための局所解剖学アトラス」北村清一郎・熊本賢三 編 南江堂 / 「カ ラー人体解剖学」井上貴央 監訳 西村書店 / 「入門組織学」牛木辰男著 南江堂 / 「読んでわかる解剖 生理学」竹内修二著 医学教育出版 / 「解いてわかる解剖生理学」竹内修二著 医学教育出版
成績評価	中間試験 (100点満点) と期末試験 (100点満点) を行い、総合して評価します。試験形式はいずれも、基本 問題 (国試形式50問のうち60%以上) で可否を判定し、応用問題 (教科書・自作ノート持ち込み可) で成績を 評価します。出席率60%未満の学生さんは受験資格がありませんので注意してください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○ 榎原 智美 (博士 (医学) 専門: 解剖学・組織学・神経機能形態学) 研究室 : 5 号館 1 階 解剖学教室 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月～水 早朝または放課後 (前日までにメールまたはmellyで予約下さい。)
備考	アクティブラーニング; 授業ではシラバスに掲げた内容と補足の解説を受けた後、随時、学生間で理解内容を 確認しあう時間を設けます。また、自ら疑問点を明解にすること、自らの疑問に自ら解答を出すことも重要で す。なお、最終到達目標 (第 2 8 回参照) は常に念頭においてください。
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」: ◎-1 ○-2
	授業形態: 対面授業予定

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
林知也			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、正常な機能のうち、細胞の働き、血液の働き、循環、呼吸、消化・吸収、代謝、体温調節、腎機能を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：生体の基本構成要素である細胞の働き、ガスや栄養素を運搬する血液の働き、血液やリンパ液を生体の隅々まで運ぶ仕組み、酸素と二酸化炭素のガス交換の仕組み、生体を構成する物質やエネルギー源となる物質を得るための消化吸収・代謝、産熱と放熱のバランスをとる体温調節、体液の恒常性維持に必須の腎機能等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 生理学の基礎 (1) 到達目標：ホメオスタシス、細胞膜について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 2-5）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第2回 生理学の基礎 (2) 到達目標：細胞小器官の機能、物質代謝について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 5-8）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第3回 生理学の基礎 (3) 到達目標：体液の組成と働き、物質移動について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 8-13）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第4回 血液 (1) 到達目標：血液の組成、血球の機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 16-22）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第5回 血液 (2) 到達目標：免疫機能、血漿の機能、酸塩基平衡について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 281-284, 22-23）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第6回 血液 (3) 到達目標：血液凝固、血液型について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 23-28）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第7回 まとめ(1) 到達目標：第1回～6回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。</p> <p>第8回 循環(1) 到達目標：循環器系、心筋の特徴、心周期について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 28-32）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第9回 循環(2) 到達目標：心音、心拍出量、心電図、心臓の神経支配の特徴について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 32-36）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第10回 循環(3) 到達目標：血管系、血圧について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 37-44）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第11回 循環(4) 到達目標：循環調節、特殊な部位の循環、およびリンパ系について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 44-52）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第12回 呼吸 (1) 到達目標：呼吸器系の構造と機能、肺気量、肺胞換気量、ガス交換について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 54-60）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第13回 呼吸 (2) 到達目標：ガスの運搬、呼吸運動とその調節、呼吸調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 60-65）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第14回 まとめ(2)</p>

第15回	到達目標：第8回～13回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。
第16回	まとめ（3）（50分）＋中間試験（50分） 到達目標：第1～13回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：筆記試験（50分）＋演習（アクティブラーニングあり）（50分） 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。
第17回	消化と吸収（1） 到達目標：消化器系の構造と機能、口腔～大腸の運動、排便について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 68-75）、並びに配布プリントを熟読すること。
第18回	消化と吸収（2） 到達目標：各消化液の働きとその調節、消化管ホルモンについて説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 76-84）、並びに配布プリントを熟読すること。
第19回	消化と吸収（3） 到達目標：各栄養素の吸収、肝臓の働き、摂食の調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 84-89）、並びに配布プリントを熟読すること。
第20回	代謝（1） 到達目標：栄養素の働き、基礎代謝量、身体活動時のエネルギー代謝量、呼吸商について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 92-96）、並びに配布プリントを熟読すること。
第21回	代謝（2） 到達目標：各栄養素の働きと代謝について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 96-105）、並びに配布プリントを熟読すること。
第22回	まとめ（4） 到達目標：第16回～20回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。
第23回	体温（1） 到達目標：体温の部位差と生理的変動、熱産生の特徴について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 108-112）、並びに配布プリントを熟読すること。
第24回	体温（2） 到達目標：熱放散の特徴、体温調節、高体温について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 112-116）、並びに配布プリントを熟読すること。
第25回	腎機能（1） 到達目標：腎臓の働き、ネフロン、糸球体濾過、クリアランスについて説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 118-122, 124）、並びに配布プリントを熟読すること。
第26回	腎機能（2） 到達目標：尿細管の再吸収と分泌、体液の調節、排尿について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 122-128）、並びに配布プリントを熟読すること。
第27回	まとめ（5） 到達目標：第22回～25回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。
第28回	まとめ（6） 到達目標：第1～25回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対するプレゼンテーション（アクティブラーニング） 備考：事前に提示された課題に対して、プレゼンテーションができるように準備すること。
まとめ（7）（50分）＋期末試験（50分）	到達目標：第1～25回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし）＋筆記試験 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習35分） 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。（復習35分）
教科書	「生理学（第3版）」 公益社団法人 東洋療法学校協会編、内田さえ、原田玲子 他著（医歯薬出版株式会社）
参考書	※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。 「はじめの一歩のイラスト生理学（改訂第2版）」 照井直人 編（羊土社） 「マンガでわかる基礎生理学」 田中 越郎 監修（オーム社） 「やさしい生理学（改訂第6版）」 彼末一之・能勢博 編集（南江堂） 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂2版」 岡田隆夫 編集（メジカルビュー社） 「生理学テキスト（第8版）」 大地陸男 著（文光堂）
成績評価	筆記試験（80%）、各まとめの時に行う小テスト（20%）の結果にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階林（知）教授室 オフィスアワー : 月曜日17:30～18:30

備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
林 知也, 角谷英治			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、正常な機能のうち、神経系の働き、感覚、内分泌系の働き、生殖・成長と老化、筋の働き、運動の調節を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：神経系による生体の調節、内分泌系による生体の調節、刺激を感覚としてとらえる機構、生殖・成長・老化の特徴、筋肉の働きと特徴、運動を行う仕組み等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 神経の基本的機能 (1) 到達目標：ニューロンの構造と働き、静止膜電位、活動電位について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 164-169），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第2回 神経の基本的機能 (2) 到達目標：興奮の伝導，シナプス伝達について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 170-178），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第3回 中枢神経系 (1) 到達目標：中枢神経系の分類と機能，反射，脊髄内の伝導路について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 178-184），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第4回 中枢神経系 (2) 到達目標：脳幹（中脳、橋、延髄），小脳，および間脳（視床、視床下部）の役割が説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 184-189），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第5回 中枢神経系 (3) 到達目標：大脳基底核と辺縁系の役割，大脳皮質の機能局在について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 190-193），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第6回 中枢神経系 (4) 到達目標：高次脳機能，脳波，脳脊髄液の特徴について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 193-197），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第7回 まとめ (1) 到達目標：第1回～6回までの学習範囲について理解した上で，その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して，解答ができるように準備すること。</p> <p>第8回 末梢神経系 (1) 到達目標：脳神経，脊髄神経の構成と機能，自律神経系の構成と機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 198-205），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第9回 末梢神経系 (2) 到達目標：自律神経系について，調節の特徴，伝達物質と受容体，関与する反射について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 205-215），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第10回 感覚 (1) 到達目標：感覚の一般的性質，体性感覚の受容器と特徴，体性感覚の伝導路などについて説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 250-257），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第11回 感覚 (2) 到達目標：内臓感覚，痛みの分類，発痛物質，痛みによる反応，痛みの抑制系について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 257-264），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第12回 感覚 (3) 到達目標：味覚と嗅覚の受容器・性質・伝導路，聴覚の受容器・性質・伝導路について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 264-268），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第13回 感覚 (4) 到達目標：平衡感覚の受容器と伝導路，視覚の性質・受容器・伝導路について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p>

第14回	備考：教科書 (p. 269-276) , 並びに配布プリントを熟読すること。 まとめ (2) 到達目標：第8回～13回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック (アクティブラーニングあり) 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。
第15回	まとめ (3) (50分) + 中間試験 (50分) 到達目標：第1～13回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：筆記試験 (50分) + 演習 (アクティブラーニングあり) (50分) 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。
第16回	内分泌 (1) 到達目標：ホルモンの定義と分類、分泌調節について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし) 備考：教科書 (p. 130-134) , 並びに配布プリントを熟読すること。
第17回	内分泌 (2) 到達目標：視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺からのホルモン分泌について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし) 備考：教科書 (p. 134-140) , 並びに配布プリントを熟読すること。
第18回	内分泌 (3) 到達目標：膵臓、副腎からのホルモン分泌、血中Ca ²⁺ 濃度調節について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし) 備考：教科書 (p. 141-146, 292) , 並びに配布プリントを熟読すること。
第19回	生殖・成長と老化 (1) 到達目標：性腺からのホルモン分泌、男性生殖器の機能について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし) 備考：教科書 (p. 147-150, 152-154) , 並びに配布プリントを熟読すること。
第20回	生殖・成長と老化 (2) 到達目標：性周期、および妊娠と分娩時の特徴について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし) 備考：教科書 (p. 154-158) , 並びに配布プリントを熟読すること。
第21回	生殖・成長と老化 (3) 到達目標：成長と生理的老化の特徴について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし) 備考：教科書 (p. 158-162) , 並びに配布プリントを熟読すること。
第22回	まとめ (4) 到達目標：第16回～21回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック (アクティブラーニングあり) 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。
第23回	筋 (1) 到達目標：骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組みについて説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし) 備考：教科書 (p. 218-223) , 並びに配布プリントを熟読すること。
第24回	筋 (2) 到達目標：筋のエネルギー供給の仕組み、心筋と平滑筋の特徴について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし) 備考：教科書 (p. 223-226) , 並びに配布プリントを熟読すること。
第25回	身体運動 (1) 到達目標：運動単位、神経筋接合部、筋紡錘と腱受容器、脊髄レベルでの運動の調節について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし) 備考：教科書 (p. 228-240) , 並びに配布プリントを熟読すること。
第26回	身体運動 (2) 到達目標：脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質による運動の調節、および錐体路系と錐体外路系について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし) 備考：教科書 (p. 240-248) , 並びに配布プリントを熟読すること。
第27回	まとめ (5) 到達目標：第23回～26回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック (アクティブラーニングあり) 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。
第28回	まとめ (6) 到達目標：第16～26回までの学習範囲について理解した上で、その範囲を説明できる。 授業形態：筆記試験 (50分) + 演習 (アクティブラーニングあり) (50分) 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。
授業時間外の学習 (準備学習等) について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。(予習35分) 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。(復習35分)
教科書	「生理学 (第3版)」 公益社団法人 東洋療法学校協会編、内田さえ、原田玲子 他著 (医歯薬出版株式会社)
参考書	※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。 「はじめの一步のイラスト生理学 (改訂第2版)」 照井直人 編 (羊土社) 「マンガでわかる基礎生理学」 田中 越郎 監修 (オーム社) 「やさしい生理学 (改訂第6版)」 彼末一之・能勢博 編集 (南江堂) 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂2版」 岡田隆夫 編集 (メジカルビュー社) 「生理学テキスト (第8版)」 大地陸男 著 (文光堂)
成績評価	筆記試験 (80%) , 各まとめの時に行う小テスト (20%) の結果にて評価する。

担当教員の基本情報	担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階林(知)教授室 オフィスアワー : 月曜日17:30~18:30 担当教員名 : 角谷英治 研究室 : 鍼灸センター2階角谷教授室 オフィスアワー : 月曜日17:30~18:30
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
田口 辰樹			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、鍼灸医学の根幹をなす東洋医学の基礎理論、すなわち東洋医学における人体のとらえ方や自然界との関わりを学習する。その内容は、これまで受けてきた学校教育の視点とは大きく異なるため、日常体験しうる身近な事例を紹介しながら、人体の構造や機能、症状等を理解していく。</p> <p>人体に関する現象について、東洋医学的視点から初歩的にとらえられるようになることが目標である。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、東洋医学の思想（陰陽学説） [到達目標] 1) 陰陽学説の成り立ちを理解する。 2) 陰陽学説の基本内容と陰陽の組み合わせと分類を理解する。 3) 陰陽の相互関係として、対立と互根、対立と制約、消長と転化、可分を理解し説明できるようになる。 [備考] 予習は教科書p182~184を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第2回 東洋医学における陰陽学説の運用、陰陽学説のまとめ [到達目標] 1) 人体における陰陽を理解する。 2) 病と陰陽の関係性を理解する。 3) 診断治療における陰陽を理解し、 [備考] 予習は教科書p186~187、p68~73を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第3回 東洋医学の思想（五行学説） [到達目標] 1) 五行学説の成り立ちを理解する。 2) 五行学説の基本内容と五行分類を理解する。 3) 五行の関係を理解し、相生・相克・相乗・相侮を理解し説明できるようになる。 [備考] 予習は教科書p188~191を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第4回 東洋医学における五行学説の運用、五行学説のまとめ [到達目標] 1) 東洋医学における五行学説の運用について理解する。 2) 五行色体表を覚える。 [備考] 予習は教科書p191~199を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。 ※1~3回に学習した内容について小テスト（10分）を行い小テストの内容はアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第5回 生理と病理（生体物質と神） [到達目標] 1) 生体物質の分類（精・気・血・津液）と神を理解する。 2) 精と気の生理と病理を理解し説明できるようになる。 [備考] 予習は教科書p38~49を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第6回 生理と病理（血、津液と神） [到達目標] 1) 生体物質の分類（精・気・血・津液）と神を理解する。 2) 血、津液と神の生理と病理を理解し説明できるようになる。 [備考] 予習は教科書p50~68を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第7回 生理と病理（蔵象：蔵象学説、肝と胆） [到達目標] 1) 蔵象学説について理解する。 2) 臓腑（五臓と六腑）の分類を理解する。 3) 肝と胆の基本的な生理機能と病理を理解し、説明できる。 [備考] 予習は教科書p74~87を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第8回 生理と病理（蔵象：心と小腸、脾と胃） [到達目標] 1) 心と小腸の基本的な生理機能と病理を理解し、説明できる。 2) 脾と胃の基本的な生理機能と病理を理解し、説明できる。 [備考] 予習は教科書p87~105を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。 ※4~7回に学習した内容について小テスト（10分）を行い小テストの内容はアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第9回 生理と病理（蔵象：肺と大腸、腎と膀胱） [到達目標] 1) 肺と大腸の基本的な生理機能と病理を理解し、説明できる。 2) 腎と膀胱の基本的な生理機能と病理を理解し、説明できる。 [備考] 予習は教科書p106~125を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第10回 生理と病理（蔵象：三焦、まとめ） [到達目標] 1) 三焦の基本的な生理機能と病理を理解し、説明できる。 2) これまで学んだ蔵象学説の復習し、さらに理解を深める。 [備考] 予習は教科書p125~127を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。</p>

	<p>るをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第11回 生理と病理（経絡、病因病機） [到達目標] 1) 経絡の概念、機能、構成、病理を理解する。 2) 病因病機について病因（外感病因）を理解し、説明できる。 [備考] 予習は教科書p150~167を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第12回 生理と病理（病因病機） [到達目標] 1) 病因病機について病因（内傷病因、病理産物・その他の病因）を理解し、説明できる。 [備考] 予習は教科書p168~173を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業の初めに質問を行うこと。 ※8~11回に学習した内容について小テスト（10分）を行い小テストの内容はアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第13回 生理と病理（まとめ） [到達目標] 1) 5~12回で学習した生理と病理の内容を理解し、説明することが出来る。 [備考] 5~12回で学修した範囲を確認して、不明なところをまとめておくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次回の授業までに質問を行い理解すること。</p> <p>第14回 総括（評価を含む） [到達目標] 1) 1~13回までに学習した内容を理解し、説明することが出来る。 [備考] 理解度の評価を行った後に、評価内容についてはアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義の前日までに授業計画に記載されている授業範囲の教科書の該当箇所を読むこと（30分）。授業内容をノートにまとめて復習を行うこと（30分）。なお授業日のうちに復習を行うことが望ましい。
教科書	「新版 東洋医学概論」公益社団法人東洋療法学校協会編（医道の日本社）（価格5,200円+税）
参考書	「鍼灸学基礎編」日中共同編集（東洋学術出版社）
成績評価	評価対象：出席基準を満たした者を評価対象とする。 評価方法：授業内小テスト（計30%、3回：第1講～3講、第4講～7講、第8講～11講のそれぞれの内容について計3回実施する。各10%の配分）と期末試験結果（70%、全範囲）を総合して100%で評価する。 単位認定：評価点が60%以上の者に評価を認定する。
担当教員の基本情報	担当教員名：田口 辰樹 研究室：病院2階鍼灸学系教員室 メールアドレス：t_taguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（ただし金曜日を除く）
備考	実務経験内容：教育機関の附属鍼灸センター、医院の附属鍼灸施術所で鍼灸臨床業務に従事していた。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1】
	この授業は伝統医学の歴史と哲学（1年生前期開講）、伝統はりきゅう診断学（1年生後期開講）、伝統はり・きゅう診断学演習（2年生前期開講）の3科目と教育内容が関連しています。
	不明な点は授業中に遠慮なく質問してください。コミュニケーションを取りながら双方向性に授業を勧めていきたいと思っております。皆さんの積極的な授業参加の姿勢が授業をより良くします。良い授業を作れるように協力しましょう。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
角谷 英治			
添付ファイル			

授業目標	<p>【哲学】 中国医学の基本となる中国古代哲学の基本概念を理解し、中国医学のベースとなる思考法（考え方）を理解する。</p> <p>【歴史】 中国と日本の伝統医学の歴史を学び、その誕生、発展、変化を通じて伝統医学とはどのような医学なのかを理解する。</p>
授業計画	<p>哲学1回目 ガイダンス、伝統医学の歴史と哲学とは [到達目標] この講義を学習することの意味を説明できる [授業形態] コミュニケーションカードにコメント・小テストの回答を書き、次の時間にフィードバックする [備考] 復習30分：伝統医学の歴史と哲学を学ぶことの意味、目的を理解する。シラバスの説明および全体像を理解する</p> <p>哲学2回目 統一体観 [到達目標] 人体と自然界のとらえ方を説明できる [授業形態] コミュニケーションカードにコメント・小テストの回答を書き、次の時間にフィードバックする [備考] 予習30分：プリントの該当範囲を読む 復習30分：人と自然界の統一性、人体の統一性を説明できるようにする</p> <p>哲学3回目 気 [到達目標] 古代哲学における気の内容を説明できる [授業形態] コミュニケーションカードにコメント・小テストの回答を書き、次の時間にフィードバックする [備考] 予習30分：プリントの該当範囲を読む 復習30分：気の意義と特性を覚える</p> <p>哲学4回目 陰陽 [到達目標] 古代哲学における陰陽の内容を説明できる [授業形態] コミュニケーションカードにコメント・小テストの回答を書き、次の時間にフィードバックする [備考] 予習30分：プリントの該当範囲を読む 復習30分：陰陽の意義、属性を覚える</p> <p>哲学5回目 五行 [到達目標] 古代哲学における五行の内容を説明できる [授業形態] コミュニケーションカードにコメント・小テストの回答を書き、次の時間にフィードバックする [備考] 予習30分：プリントの該当範囲を読む 復習30分：五行の意義、特性を覚える</p> <p>哲学6回目 『周易』 [到達目標] 『周易』の概要を説明できる [授業形態] コミュニケーションカードにコメント・小テストの回答を書き、次の時間にフィードバックする [備考] 予習30分：プリントの該当範囲を読む 復習30分：『周易』の構成、性質、哲学的特徴を覚える</p> <p>哲学7回目 哲学のまとめ 筆記試験と解説</p> <p>歴史1回目 中国医学の歴史1：古代～漢代 [到達目標] 発祥から成立までを理解できる [授業形態] コミュニケーションカードにコメント・小テストの回答を書き、次の時間にフィードバックする [備考] 予習30分：プリントの該当範囲を読む 復習30分：指標となる古典の名称と時代、特徴を覚える</p> <p>歴史2回目 中国医学の歴史2：晋代～金元代 [到達目標] 発展期の特徴を説明できる [授業形態] コミュニケーションカードにコメント・小テストの回答を書き、次の時間にフィードバックする [備考] 予習30分：プリントの該当範囲を読む 復習30分：各古典の特徴と金元四大家の特徴を理解する</p> <p>歴史3回目 中国医学の歴史3：明代～清代 [到達目標] 成熟期の特徴を説明できる [授業形態] コミュニケーションカードにコメント・小テストの回答を書き、次の時間にフィードバックする</p>

	<p>ドバックする [備 考] 予習30分：プリントの該当範囲を読む 復習30分：著名な学説を理解する</p> <p>歴史4回目 中国医学の歴史4：中華民国～中華人民共和国 [到達目標] 没落と復興を説明できる [授業形態] コミュニケーションカードにコメント・小テストの回答を書き、次の時間にフィードバックする [備 考] 予習30分：プリントの該当範囲を読む 復習30分：中国伝統医学から中医学成立までの背景を理解する</p> <p>歴史5回目 日本伝統医学の歴史1：古代～中世 [到達目標] 日本の伝統医療・医学の変遷の概要を説明できる [授業形態] コミュニケーションカードにコメント・小テストの回答を書き、次の時間にフィードバックする [備 考] 予習30分：プリントの該当範囲を読む 復習30分：伝統医学への影響因子と特徴を理解する</p> <p>歴史6回目 日本伝統医学の歴史2：近世～現代 [到達目標] 各派の特徴や明治維新以降の背景を説明できる [授業形態] コミュニケーションカードにコメント・小テストの回答を書き、次の時間にフィードバックする [備 考] 予習30分：プリントの該当範囲を読む 復習30分：各派の特徴を覚え、現状に至る背景を理解する</p> <p>歴史7回目 歴史のまとめ 筆記試験と解説</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布プリントの該当箇所を読み、概要を理解する。 復習は主に学習計画の備考欄にある内容を見る。
教科書	プリントを配布する
参考書	新版 東洋医学概論 : 東洋療法学校協会, 医道の日本社 医学概論 : 日野原重明, 医学書院, 2003. 医療概論 : 中川米造, 医歯薬出版社, 1993.
成績評価	評 価：平常評価(受講態度、コミュニケーションカード：20%)と試験評価(80%)による。 試 験：受験資格は出席日数3/5以上とする。 注意事項：1. すべての講義に出席し、集中して聴講し、時間内での理解に努めること。 2. 講義中は、スマートフォンの電源を切り、私語をせず、途中で出入りせず、飲食をしないこと。特殊な事情がある場合は、事前に申し出ること。 3. プリントはファイリングをして適切に保管し、紛失・欠席等の場合は友人からコピーさせてもらうこと。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 齊藤宗則 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : mu_saitoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・火曜日・木曜日の随時
備考	附属の施設施設に勤務しており、その実務経験をもとに「東洋医学概論」について授業を進める。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
吉田行宏、福田晋平、藤井健介、谷口剛志			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習／対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>入門はり技術学実習では、鍼の基本的な技術と衛生的で安全な技術の習得をはかりながら、臨床への架け橋となるべき知識と技術を習得することを目標とする。</p> <p>具体的には、日常臨床で使用する基本的な刺鍼手技を習得し、基本的な刺鍼法が一定時間内にできるようにするため、鍼の基本的な扱いから始め、片手挿管、刺鍼練習台での刺入の練習、17術の習得、自分の身体への刺鍼練習を行い、最終的には他者への刺鍼を安全にできるところまでを目標とする。</p> <p>また鍼灸臨床の素養として、鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行い、実習の準備や後片付けを身につけることができるようにする。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 基本手技の再確認・刺鍼における注意</p> <p>【到達目標】 鍼施術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習が行う。 実習室の使い方、基本的ルールを理解し実践できる。 刺鍼の基本手技と手順を理解できる。 安全に刺鍼を行うための注意点を確認する。 両手挿管ができる。 実習後の後片付けができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>2回目 手洗い・消毒・鍼の過誤・鍼の安全性</p> <p>【到達目標】 鍼治療に必要な衛生概念、および鍼の安全性を確認する。 安全に刺鍼を行うための注意点を再確認し、鍼治療の過誤事例からその危険性を認識できる。 両手挿管ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>3回目 基本的な刺鍼技術1</p> <p>【到達目標】 刺鍼練習台を使い、単刺術による直刺刺入を行うことができる。 片手挿管ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>4回目 基本的な刺鍼技術2</p> <p>【到達目標】 刺鍼練習台を使い、単刺術による直刺刺入を行うことができる。 一定の刺入深度で鍼を刺入することができる。 片手挿管ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>5回目 基本的な刺鍼技術3</p> <p>【到達目標】 刺鍼練習台を使い、旋撚法と送り込み法による直刺刺入を行うことができる。 片手挿管ができる。 一定の刺入深度、角度での刺鍼ができる。 単刺術による斜刺刺入の練習を行うことができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>6回目 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術1</p> <p>【到達目標】 自分の身体に対して安全に刺鍼（単刺術・旋撚術）ができる。 身体刺鍼に際しての消毒法・清潔操作ができる。 一定の刺入深度で刺鍼ができる。 材質、太さ、長さの異なる鍼での刺鍼感覚の違いを体験・観察できる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>7回目 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術2、鍼の十七術の中で雀啄術、間欠術、屋漏術、随鍼術、振せん術の手法を学ぶ</p> <p>【到達目標】 自分の身体に対して安全に刺鍼（雀啄術、間欠術、屋漏術、随鍼術、振せん術）ができる。 一定の刺入深度での刺鍼を行うことができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>8回目 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術3、鍼の十七術の中で置鍼術、旋撚術、回旋術、乱鍼術、副刺激術、示指打法、随鍼術の手法を学ぶ</p> <p>【到達目標】 自分の身体に対して安全に刺鍼（置鍼術、旋撚術、回旋術、乱鍼術、副刺激術、示指打法、随鍼</p>

	<p>術)ができる。 一定の刺入深度での刺鍼を行うことができる。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>9回目 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術4、鍼の十七術の中で内調術、細指術、管散術、刺鍼転向法、刺鍼転移法の手法を学ぶ 【到達目標】 自分の身体に対して安全に刺鍼（内調術、細指術、管散術、刺鍼転向法、刺鍼転移法）ができる。</p> <p>10回目 一定の刺入深度での刺鍼を行うことができる。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術4、鍼の十七術の復習1 【到達目標】 自分の身体に対して安全に刺鍼ができる。 直刺刺入と斜刺刺入を行うことができる。 一定の刺入深度での刺鍼を行うことができる。 十七術ができる。</p> <p>11回目 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術5、鍼の十七術の復習2 【到達目標】 他者の身体に対して安全に刺鍼（単刺術・旋撚術）ができる 他者の身体に対して安全に直刺刺入と斜刺刺入を行うことができる。</p> <p>12回目 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。 基本的な刺鍼と人体への刺鍼の総復習及び評価1 【到達目標】 基本的な刺鍼技術（片手挿管、基本刺鍼手技、鍼の十七術、衛生的操作など）ができる。 身体に対して安全に刺鍼することができる。</p> <p>13回目 【授業形態】実習/対面、1～11回の授業で習得した基本的な鍼の技術の評価し、フィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。 基本的な刺鍼と人体への刺鍼の総復習及び評価2 【到達目標】 基本的な刺鍼技術（片手挿管、基本刺鍼手技、鍼の十七術、衛生的操作など）ができる。 身体に対して安全に刺鍼することができる。</p> <p>14回目 【授業形態】実習/対面、1～11回の授業で習得した基本的な鍼の技術の評価し、フィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。 基本的な刺鍼と人体への刺鍼の総復習及び評価3 【到達目標】 基本的な刺鍼技術（片手挿管、基本刺鍼手技、鍼の十七術、衛生的操作など）ができる。 身体に対して安全に刺鍼することができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各実習につきテキストによる予習（30分）と復習（30分）を行うこと。
教科書	『 図解 鍼灸臨床手技マニュアル 』 尾崎 昭弘著 （医歯薬出版株式会社）
参考書	『 鍼灸医療安全ガイドライン 』 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 （医歯薬出版株式会社） 『はりきゅう実技 基礎編 第2版』 教科書執筆小委員会（医道の日本社）
成績評価	出席日数（4/5以上）を満たした者に対して評価を行う。 片手挿管（10回/1分）と刺鍼の実技（17術、直刺、斜刺、横刺）を行い、優・良・可・不可で評価する。 安全に実習を行えない者、実習態度（私語やルールを守れない等）が著しく悪い者に対しては単位を認めないことがある。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 吉田行宏、福田晋平、藤井健介、谷口剛志 研究室 : 鍼灸センター2階 教授室、教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp、sp_fukuda@meiji-u.ac.jp、k_fujii@meiji-u.ac.jp、t_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	実習時は必ず白衣、名札、鍼灸道具を持って来ること。 白衣、名札を3回忘れた場合は実習に参加できないことがあるので留意すること。 服装は刺鍼を行うに適したものであること。 サンダルは認めない。 授業開始までに所定の準備をすること。
	担当者は附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。
	アクティブラーニング：刺鍼手技が適切に行えているのかを担当教員が評価しフィードバックする。また、場合によっては動画で提出し、適切に行えているのかをフィードバックする。
	DPとの関連：◎-5、○-3、○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
和辻 直、吉田行宏			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	基礎はり技術学実習では、常用穴に対する身体各部への刺鍼に際しての注意点（刺入深度、角度など）や、鍼による過誤や副作用について理解する。 その上で、入門はり技術学実習で習得した基本的鍼技術を応用して、他者に対する身体各部への安全かつ衛生的な鍼施術を行える技術を修得することを目標とする。基本的鍼技術を用いて、鍼灸臨床に用いる代表的な身体各部に安全かつ衛生的な鍼技術を行うことができるようになる。また鍼灸臨床の素養として、鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行い、実習の準備や後片付けを身につけることができるようになる。
授業計画	<p>1 初回ガイダンスにて本科目の趣旨を理解する。また、衛生的刺鍼技術を習得し、他者への身体刺鍼（下肢1）を行なう。 [到達目標] 衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。 刺鍼練習台に指示した刺鍼ができる。指示した下肢の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入できる。 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：入門はり技術学実習で学んだ鍼技術を確認する。復習：衛生的刺鍼技術の流れを確認する。</p> <p>2 身体刺鍼（下肢2）を行なう。 [到達目標] 衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。 刺鍼練習台に指示した刺鍼ができる。指示した下肢の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入できる。 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：前回に学んだ下肢への刺鍼における注意点を確認する。復習：下肢経穴の取穴や下肢への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>3 身体刺鍼（下肢3）を行なう。 [到達目標] 衛生的刺鍼技術を実践し、下肢への刺鍼における注意点を理解する。 刺鍼練習台に指示した刺鍼ができる。指示した下肢の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入できる。 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：前回に学んだ下肢への刺鍼における注意点を確認する。復習：これまでの下肢経穴の取穴や下肢への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>4 身体刺鍼（上肢1）を行なう。 [到達目標] 衛生的刺鍼技術を実践し、上肢への刺鍼における注意点を理解する。 刺鍼練習台に指示した刺鍼ができる。指示した下肢の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入できる。 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：これまで学んで上肢への経穴を確認する。復習：上肢経穴の取穴や上肢への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>5 身体刺鍼（上肢2）を行なう。 [到達目標] 衛生的刺鍼技術を実践し、上肢への刺鍼における注意点を理解する。 刺鍼練習台に指示した刺鍼ができる。指示した上肢の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入できる。 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：前回の上肢への刺鍼における注意点を確認する。復習：上肢経穴の取穴や上肢への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>6 身体刺鍼（頸部および肩部）を行なう。 [到達目標] 衛生的刺鍼技術を実践し、頸部および肩部への刺鍼における注意点を理解する。 刺鍼練習台に指示した刺鍼ができる。指示した頸・肩部の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入できる。 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：頸部および肩部の刺鍼における注意点を確認する。復習：頸肩経穴の取穴や頸肩への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>7 身体刺鍼（肩背部）を行なう。 [到達目標] 衛生的刺鍼技術を実践し、肩背部への刺鍼における注意点を理解する。 刺鍼練習台に指示した刺鍼ができる。指示した肩背部の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入できる。 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：前回の頸肩への刺鍼における注意点を確認する。復習：肩背経穴の取穴や肩</p>

8	<p>背への刺鍼の流れを確認する。 身体刺鍼（腰部）を行なう。 [到達目標] 衛生的刺鍼技術を実践し、腰部への刺鍼における注意点を理解する。 刺鍼練習台に指示した刺鍼ができる。指示した腰部の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入できる。 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：前回の肩背への刺鍼における注意点を確認する。復習：腰部経穴の取穴や腰部への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>9</p> <p>身体刺鍼（腹部）を行なう。 [到達目標] 衛生的刺鍼技術を実践し、腹部への刺鍼における注意点を理解する。 刺鍼練習台に指示した刺鍼ができる。指示した腹部の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入できる。 [備考] 鍼技術を行うための準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：前回の腰部への刺鍼における注意点を確認する。復習：腹部経穴の取穴や腹部への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>10</p> <p>身体刺鍼（頭・顔面部）を行う。 [到達目標] 衛生的刺鍼技術を実践し、頭・顔面部への刺鍼における注意点を理解する。 刺鍼練習台に指示した刺鍼ができる。指示した頭・顔面部の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入できる。 [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：前回の腹部への刺鍼における注意点を確認する。復習：頭・顔面経穴の取穴、その部への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>11</p> <p>身体刺鍼（復習）を行う。 [到達目標] 衛生的刺鍼技術を実践し、これまでに学習した身体各部における注意点を理解する。 指示した使用頻度の高い経穴を取穴して、安全かつ衛生的な手技によって目的の深度と角度で刺入できる。 [備考] 鍼技術を行うため準備、誠実な態度、後片付けができる。臨床への対応ができるよう所定時間内での刺鍼ができる。 予習：前回の頭・顔面への刺鍼における注意点を確認する。復習：身体各部の取穴、その部への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>12</p> <p>まとめ1 [到達目標] 安全かつ衛生的刺鍼技術、および刺鍼技術が一定の水準に到達しているかを評価する。 学習した身体各部における注意点、使用頻度の高い経穴に対して取穴や深度ならびに角度を記述できる。 [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：刺鍼技術における内容や注意点を確認する。復習：刺鍼技術における目的の深度と角度、その流れを確認する。</p> <p>13</p> <p>まとめ2 [到達目標] 安全かつ衛生的刺鍼技術、および刺鍼技術が一定の水準に到達しているかを評価する。 学習した身体各部における注意点、使用頻度の高い経穴に対して取穴や深度ならびに角度を記述できる。 [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：刺鍼技術における内容や注意点を確認する。復習：刺鍼技術における目的の深度と角度、その流れを確認する。</p> <p>14</p> <p>まとめ3 [到達目標] 安全かつ衛生的刺鍼技術、および刺鍼技術が一定の水準に到達しているかを評価する。 学習した身体各部における注意点、使用頻度の高い経穴に対して取穴や深度ならびに角度を記述できる。 [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：刺鍼技術における内容や注意点を確認する。復習：刺鍼技術における目的の深度と角度、その流れを確認する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布教材（プリント）及び教科書による予習・復習、また自己に対する技術トレーニングを積み（予習・復習各30分）、授業に臨むこと。学習内容で不明な点があれば教員に積極的に質問し、なるべく授業時間内に解決すること。
教科書	作成した印刷教材（プリント）を配布する。 「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」 尾崎 昭弘著 （医歯薬出版株式会社）
参考書	「鍼灸医療安全ガイドライン」 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 （医歯薬出版株式会社）
成績評価	出席日数（4/5以上）を満たし、科目内の課題をすべて行ったものに対して試験を実施する。試験は課題（筆記による課題）、片手挿管の評価と刺鍼技術の評価を行い、優・良・可・不可で評価する。安全に実習を行えない者、実習態度（私語やルールを守れない等）が著しく悪い者に対しては単位を認めないことがある。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直、吉田行宏 研究室 : 鍼灸センター2階 教授室、教員室。 2号館3階；実技準備室 メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp、y_yoshida@meiji-u.ac.jp、 オフィスアワー : 火曜日 13:00-13:40
備考	実習の場合は必ず白衣、名札、施灸道具を持って来ること。白衣を忘れた場合は実習に参加できないことがあるので留意すること。 服装は鍼灸術を行うに適したものであること。

	<p>担当者は附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、または附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。</p> <p>アクティブラーニング：授業内に自己練習として、刺鍼練習台や自らの手足を用いた刺鍼の練習、片手挿管の練習を行う。</p> <p>DP：◎-5</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
吉田行宏、福田晋平、藤井健介、谷口剛志			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習／対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>入門きゅう技術学実習では、灸の基本的な技術と安全な技術の習得をはかりながら、臨床への架け橋となるべき知識と技術を習得することを目標とする。</p> <p>具体的には、灸の基本的な扱いから始め、米粒大を安全で正確かつスピーディーに施灸できるように、まず施灸用紙で技術習得し、その後人体へ安全な施灸ができる技術を習得するところまでを目標とする。</p> <p>また、間接灸(生姜、大蒜、塩、味噌)、台座灸、温筒灸なども安全な施術ができる技術を習得する。また、鍼灸臨床の素養として、灸技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行い、実習の準備 や後片付けを身につけることができるようにする。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、基本手技の確認・施灸における注意点 【到達目標】 施灸道具の名称と使用法について理解する。 灸施術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習が行う。 実習室の使い方、基本的ルールを理解し実践できる。 施灸の基本手技と手順を理解できる。 安全に施灸を行うための注意点を確認する。 実習後の後片付けができる 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>2回目 エシュ(米粒大)の作製法 【到達目標】 エシュの作製法を修得する。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>3回目 エシュ(米粒大)の点火法 【到達目標】 エシュへの点火法を修得する。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>4回目 米粒大の施灸1、間接灸(温筒灸・円筒灸・台座灸) 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 温筒灸と円筒灸および台座灸の施灸法を修得する。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>5回目 米粒大の施灸2、間接灸(生姜灸) 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 生姜灸の施灸法を修得する。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>6回目 米粒大の施灸3、間接灸(大蒜灸) 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 大蒜灸の施灸法を修得する。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>7回目 米粒大の施灸4、間接灸(味噌灸) 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 味噌灸の施灸法を修得する。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>8回目 米粒大の施灸5、間接灸(塩灸) 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 塩灸の施灸法を修得する。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>9回目 米粒大の施灸6、間接灸(艾条灸：棒灸) 【到達目標】</p>

	<p>施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 艾条灸：棒灸の施灸法を修得する。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p>
10回目	<p>米粒大の施灸7、間接灸（箱灸）、身体への施灸1 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。</p>
11回目	<p>箱灸の施灸法を修得する。 自分の身体に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p>
12回目	<p>米粒大の施灸8、間接灸（隔物灸、知熱灸）、身体への施灸2 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 隔物灸、知熱灸灸の施灸法を修得する。 自分の身体に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p>
13回目	<p>基本的な施灸の総復習及び評価1 【到達目標】 基本的な施灸技術（施灸用紙への米粒大の施灸）ができる。 自分の身体に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～11回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p>
14回目	<p>基本的な施灸の総復習及び評価2 【到達目標】 基本的な施灸技術（施灸用紙への米粒大の施灸）ができる。 自分の身体に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～11回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p>
14回目	<p>基本的な施灸の総復習及び評価3 【到達目標】 基本的な施灸技術（施灸用紙への米粒大の施灸）ができる。 自分の身体に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～11回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	施灸用紙を用いた直接灸の課題を出すので、授業毎に1枚必ず提出すること。
教科書	『 凶解 鍼灸臨床手技マニュアル 』 尾崎 昭弘著 （医歯薬出版株式会社）
参考書	『 鍼灸医療安全ガイドライン 』 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 （医歯薬出版株式会社） 『 はりきゅう実技 基礎編 第2版 』 教科書執筆小委員会（医道の日本社）
成績評価	出席日数（4/5以上）及び施灸用紙の提出基準（毎回1枚）を満たした者に対して評価を行う。 施灸用紙（米粒大30壮/5分）と施灸の実技（米粒大の大きさ、形状等）を行い、優・良・可・不可で評価する。 安全に実習を行えない者、実習態度（私語やルールを守れない等）が著しく悪い者に対しては単位を認めないことがある。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 吉田行宏、福田晋平、藤井健介、谷口剛志 研究室 : 鍼灸センター2階 教授室、教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp、sp_fukuda@meiji-u.ac.jp、k_fujii@meiji-u.ac.jp、t_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	実習時は必ず白衣、名札、鍼灸道具を持って来ること。 白衣、名札を3回忘れた場合は実習に参加できないことがあるので留意すること。 服装は施灸を行うに適したものであること。 サンダルは認めない。 授業開始までに所定の準備をすること。
	担当者は附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。
	アクティブラーニング：施灸手技が適切に行えているのかを担当教員が評価しフィードバックする。また、場合によっては動画で提出し、適切に行えているのかをフィードバックする。
	DPとの関連：◎-5、○-3、○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
吉田行宏、福田晋平、藤井健介、谷口剛志			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習／対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は1年前期開講の入門きゅう技術学実習で学んだ知識と技術を基に、患者への灸治療を想定して安全でかつ適切な刺激量とそのコントロールが行える技術の習得を目標とする。</p> <p>具体的には米粒大と半米粒大の直接灸(透熱灸・知熱灸)と間接灸(紫雲膏灸など)、大豆大の知熱灸の技術を修得することを目標とする。</p> <p>2年次に開講される応用きゅう技術学実習に向けて、難易度の高い糸状灸の技術習得も目標とする。</p> <p>具体的には人体に対する灸法を、正しい施術を用いて学生同士で実施する。</p>
授業計画	<p>第1回 灸技術の復習、人体への施灸総論</p> <p>【到達目標】 基礎きゅう技術学実習の概要を理解する。 入門きゅう技術学実習で習得した灸の基本的な施術ができる。 紫雲膏による人体施灸法を習得する。</p> <p>【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第2回 頸肩部への施灸1</p> <p>【到達目標】 頸肩部に対して安全な施灸(米粒大、紫雲膏)ができる。</p> <p>【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第3回 頸肩部への施灸2</p> <p>【到達目標】 頸肩部に対して安全な施灸(米粒大、紫雲膏)ができる。</p> <p>【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第4回 肩背部への施灸1</p> <p>【到達目標】 肩背部に対して安全な施灸(米粒大、紫雲膏)ができる。</p> <p>【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第5回 肩背部への施灸2</p> <p>【到達目標】 肩背部に対して安全な施灸(米粒大、紫雲膏)ができる。</p> <p>【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第6回 背部・腰部への施灸1</p> <p>【到達目標】 背部・腰部に対して安全な施灸(米粒大、紫雲膏、8分灸)ができる。</p> <p>【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第7回 背部・腰部への施灸2</p> <p>【到達目標】 背部・腰部に対して安全な施灸(米粒大、紫雲膏、8分灸)ができる。</p> <p>【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第8回 腹部への施灸1</p> <p>【到達目標】 腹部に対して安全な施灸(米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸)ができる。</p> <p>【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第9回 腹部への施灸2</p> <p>【到達目標】 腹部に対して安全な施灸(米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸)ができる。</p> <p>【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第10回 四肢への施灸1</p>

	<p>【到達目標】 四肢に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第11回 四肢への施灸2</p> <p>【到達目標】 四肢に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第12回 人体への施灸の総復習及び評価1</p> <p>【到達目標】 人体各部位へ安全な施灸（米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～11回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバックを行う。 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第13回 人体への施灸の総復習及び評価2</p> <p>【到達目標】 人体各部位へ安全な施灸（米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～11回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバックを行う。 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>第14回 人体への施灸の総復習及び評価3</p> <p>【到達目標】 人体各部位へ安全な施灸（米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～11回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバックを行う。 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	施灸用紙を用いた直接灸の課題を出すので授業毎に必ず提出(1枚)すること。
教科書	『 凶解 鍼灸臨床手技マニュアル 』 尾崎 昭弘著 （医歯薬出版株式会社）
参考書	『 鍼灸医療安全ガイドライン 』 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 （医歯薬出版株式会社） 『 はりきゅう実技 基礎編 第2版 』 教科書執筆小委員会（医道の日本社）
成績評価	出席日数（4/5以上）を満たし、施灸用紙の課題提出をすべて行ったものに対して評価を実施する。 評価は施灸用紙（35壮/5分）と人体への施灸（大豆大知熱灸、米粒大8分灸、半米粒大紫雲膏灸）を行い、優・良・可・不可で評価する。 安全に実習を行えない者、実習態度（私語やルールを守れない等）が著しく悪い者に対しては単位を認めないことがある。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 吉田行宏、福田晋平、藤井健介、谷口剛志 研究室 : 鍼灸センター2階 教授室、教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp、sp_fukuda@meiji-u.ac.jp、k_fujii@meiji-u.ac.jp、t_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	実習時は必ず白衣、名札、鍼灸道具を持って来ること。 白衣、名札を3回忘れた場合は実習に参加できないことがあるので留意すること。 服装は施灸を行うに適したものであること。 サンダルは認めない。 授業開始までに所定の準備をすること。
	担当者は附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。
	アクティブラーニング：施灸手技が適切に行えているのかを担当教員が評価しフィードバックする。また、場合によっては動画で提出し、適切に行えているのかをフィードバックする。
	DPとの関連：◎-5、○-3、○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	1	必修
担当教員			
廣 正基、岡田 岬			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	経絡の概要、経穴の概要、督脈、任脈、手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明胃経、足の太陰脾経、手の少陰心経、手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経の経穴の部位、取り方、解剖学的要点を学習し、全経穴名が言えて、漢字で書けるようする。
授業計画	<p>1回目 経絡系統 十二経絡 [到達目標] 1. 経絡系統が説明できる。 2. 十二経絡を説明できる。 [授業時間外学習] 1. 経絡系統を説明できるようにする。 2. 経絡系統に出てくる経脈・絡脈に含まれる経絡名等をすべて覚え漢字で書けるようにする。</p> <p>2回目 人体の尺度 [到達目標] 1. 同身寸法・骨度法を説明ができる。同身寸法と骨度法の違いを説明できる。 2. 各部位の同身寸法の寸法を説明できる。各部位の骨度法の寸法を説明できる。 [授業時間外学習] 1. 骨度法・同身寸法の違いを理解し説明できるようにする。 2. 骨度法の寸法を覚える。 3. 同身寸法の寸法を覚える。</p> <p>3回目 要穴表 [到達目標] 1. 要穴表（五行穴・五要穴・四総穴・八総穴・八会穴等）を説明できる。 [授業時間外学習] 1. 要穴表を覚える。</p> <p>4回目 督脈 [到達目標] 1. 督脈の流注を説明できる。 2. 督脈の各経穴の部位および取穴法を説明できる。 [授業時間外学習] 1. 流注を整理し、覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布プリントを完成させる。</p> <p>5回目 任脈 [到達目標] 1. 任脈の流注を説明できる。 2. 任脈の各経穴の部位および取穴法を説明できる。 [授業時間外学習] 1. 流注を整理し、覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布プリントを完成させる。</p> <p>6回目 手の太陰肺経、手の陽明大腸経 [到達目標] 1. 手の太陰肺経、手の陽明大腸経の流注を説明できる。 2. 手の太陰肺経、手の陽明大腸経の各経穴の部位および取穴法を説明できる。 [授業時間外学習] 1. 流注を整理し、覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布プリントを完成させる。</p> <p>7回目 足の陽明胃経① [到達目標] 1. 足の陽明胃経の流注を説明できる。 2. 足の陽明胃経の各経穴の部位および取穴法を説明できる。 [授業時間外学習] 1. 流注を整理し、覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布プリントを完成させる。</p> <p>8回目 足の陽明胃経② [到達目標] 1. 足の陽明胃経の各経穴の部位および取穴法を説明できる。 [授業時間外学習] 1. 流注を整理し、覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布プリントを完成させる。</p> <p>9回目 復習 [到達目標]</p>

	<p>1. 督脈、任脈、手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明胃経の流注を説明でき、各経穴の部位および取穴法を説明できる。 [授業時間外学習]</p> <p>10回目 1. 流注を整理し、覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 足の太陰脾経 [到達目標]</p> <p>11回目 1. 足の太陰脾経の流注を説明できる。 2. 足の太陰脾経の各経穴の部位および取穴法を説明できる。 [授業時間外学習]</p> <p>1. 流注を整理し、覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布プリントを完成させる。 手の少陰心経、手の太陽小腸経 [到達目標]</p> <p>12回目 1. 手の少陰心経、手の太陽小腸経の流注を説明できる。 2. 手の少陰心経、手の太陽小腸経の経穴の取穴法を説明できる。 [授業時間外学習]</p> <p>1. 流注を整理し、覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布プリントを完成させる。 足の太陽膀胱経① [到達目標]</p> <p>13回目 1. 足の太陽膀胱経の流注を説明できる。 2. 足の太陽膀胱経の各経穴の部位および取穴法を説明できる。 [授業時間外学習]</p> <p>1. 流注を整理し、覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布プリントを完成させる。 足の太陽膀胱経② [到達目標]</p> <p>14回目 1. 足の太陽膀胱経の各経穴の部位および取穴法を説明できる。 [授業時間外学習]</p> <p>1. 流注を整理し、覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布プリントを完成させる。 まとめ [到達目標]</p> <p>1. 督脈、任脈、手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明胃経、足の太陰脾経、手の少陰心経、手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経の流注を説明でき、各経穴の部位および取穴法を説明できる。 [授業時間外学習]</p> <p>1. 流注を整理し、覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>①教科書を参考に、配布資料の空欄に経穴名、部位、取穴法を記載する。また、解剖の本等を参考に経穴の部位に書かれている骨・筋等を調べてくる。 ②督脈から膀胱経までの経穴名が言えるように覚える。</p>
教科書	<p>新版 経絡経穴概論 (社) 東洋療法学校協会 編 医道の日本社 プリント配布</p>
参考書	<p>・「運動・身体図解 経絡・ツボの基本」森 英俊監修 (株) マイナビ ・まんが「経穴学入門」 周 春才 著 医道の日本社 ・「ツボ単」 形井秀一監修 (株) エヌ・ティー・エス</p>
成績評価	<p>① 授業回数の3/5以上出席した者に対して評価を行う。 ② 評価は、定期試験(60点以上合格)にて行う(受講態度を加味する)。 ③ 定期試験を適切な理由無くして欠席した場合は、追試験は行わない。 ④ 前年度未修得者は、補講を行い補講(補講の課題)が終了したのに対して試験を行い評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員 : 廣 正基 教員室 : 病院2階奥、鍼灸センター横 メールアドレス: m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 木曜日 17:30以降</p> <p>担当教員 : 岡田 岬 教員室 : 病院2階奥、鍼灸センター横 メールアドレス: m_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 水曜日 15:40以降</p>
備考	<p>明治国際医療大学附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センターに勤務。その実務経験をもとに「経絡経穴学Ⅰ」について授業を進める。 アクティブラーニングとして、配布資料の完成と経絡の走行についてまとめる。 DP: ◎-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	1	必修
担当教員			
廣 正基、岡田 岬			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>督脈、任脈、手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明胃経、足の太陰脾経、手の少陰心経、手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経の経穴を取穴できるようにする。</p> <p>①身体を観察することにより、骨、筋肉の走行等を理解し、実際に体表で確認できる。</p> <p>②各経絡が人体のどの部位を走行しているかを理解し、各経穴との関係（縦・横の関係）を確認できる。</p> <p>③各経絡に所属する個々の経穴の取穴について学習し、実際に人体で正確に取穴を身につける。</p> <p>④全経穴名が言えて、漢字で書けるようする。</p>
授業計画	<p>1回目 ツボを取ってみよう。 [到達目標] 実際に経穴を取ってみよう。</p> <p>2回目 督脈 [到達目標] 1. 督脈の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 督脈の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習)</p> <p>3回目 任脈 [到達目標] 1. 任脈の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 任脈の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習)</p> <p>4回目 手の太陰肺経、手の陽明大腸経 [到達目標] 1. 手の太陰肺経、手の陽明大腸経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 手の太陰肺経の、手の陽明大腸経流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習)</p> <p>5回目 足陽明胃経①(頭顔面部、胸腹部) [到達目標] 1. 足の陽明胃経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 足の陽明胃経脈の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習)</p> <p>6回目 足陽明胃経②(下肢) [到達目標] 1. 足の陽明胃経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 足の陽明胃経脈の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習)</p> <p>7回目 復習 [到達目標] 1. 督脈、任脈、手の太陰肺経、手の陽明胃経、足の陽明胃経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 督脈、任脈、手の太陰肺経、手の陽明胃経、足の陽明胃経の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習)</p> <p>8回目 足の太陰脾経①(下肢) [到達目標]</p>

	<p>9回目</p> <p>1. 足の太陰脾経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 足の太陰脾経の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. 配布プリント、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。 足の太陰脾経② (腹部・胸部) [到達目標] 1. 足の太陰脾経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 足の太陰脾経の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. 配布プリント、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。</p> <p>10回目</p> <p>1. 手少陰心経、手の太陽小腸経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 手少陰心経、手の太陽小腸経の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. 配布プリント、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。</p> <p>11回目</p> <p>足太陽膀胱経① (頭部・顔面部) [到達目標] 1. 足の太陽膀胱経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 足の太陽膀胱経の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. 配布プリント、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。</p> <p>12回目</p> <p>足太陽膀胱経② (背部) [到達目標] 1. 足の太陽膀胱経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 足の太陽膀胱経の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. 配布プリント、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。</p> <p>13回目</p> <p>足太陽膀胱経③ (下肢) [到達目標] 1. 足の太陽膀胱経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 足の太陽膀胱経の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. 配布プリント、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。</p> <p>14回目</p> <p>まとめ [到達目標] 1. 督脈、任脈、手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明大腸経、足の太陰脾経、手の少陰心経、手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 2. 督脈、任脈、手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明大腸経、足の太陰脾経、手の少陰心経、手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経の流注が人体で説明できる。 (授業時間外学習) 1. 配布プリント、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	①解剖の本等を参考に経穴の部位に書かれている骨・筋等を調べてくる。配布プリント、教科書の経穴部位及び取穴法を覚える。 ②わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する
教科書	新版 経絡経穴概論 (社) 東洋療法学校協会 編 医道の日本社 プリント配布 (経絡経穴学 I で配布したプリント)
参考書	・改訂版 ボディ・ナビゲーション触ってわかる身体解剖 阪本桂造 監訳 医道の日本社 ・「運動・身体図解 経絡・ツボの基本」森 英俊監修 (株) マイナビ
成績評価	1. 授業回数の4/5以上出席した者に対して評価を行う。 2. 評価は、実技試験 (60点以上合格) にて行う (授業態度も加味する)。 3. 定期試験を適切な理由無くして欠席した場合は、追試験は行わない。 4. 前年度未修得者は、補講を行い補講 (補講の課題) が終了したのに対して試験を行い評価する。
担当教員の基本情報	担当教員 : 廣 正基 教員室 : 病院2階奥、鍼灸センター横 メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日 17:30以降 担当教員 : 岡田 岬

	教員室 : 病院2階奥、鍼灸センター横 メールアドレス : m_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 15:40以降
備考	明治国際医療大学附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センターに勤務。 アクティブラーニングとして、実技ごとにグループを変えて個々の特徴をまとめる。 DP : ◎-4、○-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
星 伴路、岡田 岬			
鍼灸学科	30時間	実習	
添付ファイル			

授業目標	鍼灸臨床では体表を注意深く触察することで診察し、治療部位を決定する。このことより、体表から同定可能な局所解剖の知識とその触察方法は臨床能力を向上させる上で重要である。本実習では、鍼灸臨床で重要かつ必要な骨・筋肉・血管・神経等を精選し、それらの組織が確実に触察できるように実習を通して触察技術を修得する。		
授業計画	1回目	<p>身体の部位の名称 1</p> <p>身体の部位の名称や関節の動き、触察方法を理解する。特に、臨床で必要となる骨指標を中心に理解する。</p>	
	2回目	<p>身体の部位の名称 2</p> <p>身体の部位の名称や関節の動き、触察方法を理解する。特に、臨床で必要となる動脈拍動部を中心に理解する。</p>	
	3回目	<p>頭部・顔面・頸部</p> <p>1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する。</p>	
	4回目	<p>復習1 (アクティブラーニング)</p> <p>関節の動き、骨指標を理解する。また、頭部・顔面・頸部のフィードバックを行った後に、アクティブラーニングにて学習する。</p>	
	5回目	<p>上肢帯・上肢1</p> <p>1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p>	
	6回目	<p>上肢帯・上肢 2</p> <p>1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p>	
	7回目	<p>体幹 (胸腹部)</p> <p>1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p>	
	8回目	<p>復習2 (アクティブラーニング) および中間評価</p> <p>第1回から8回までのフィードバックを行った後、アクティブラーニングにて学習する。その後、7回目までに行った実習内容の中間評価を行う。</p>	
	9回目	<p>体幹 (背部)</p> <p>1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p>	
	10回目	<p>下肢1</p> <p>1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p>	
	11回目	<p>下肢 2</p> <p>1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p>	
	12回目	<p>下肢 3</p> <p>1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p>	
	13回目	<p>復習 3 (アクティブラーニング)</p> <p>第1回から12回までの復習と評価への対策を理解する。</p>	
	14回目	<p>期末評価</p> <p>前期に行った実習内容において、知識・技能を総合的に評価し、6割以上を合格とする。</p>	
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触察技術」にて次回実習分を準備学習 (30分)</p> <p>「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触察技術」にて既修得点を復習 (30分)</p>		
教科書	<p>改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触察技術 上肢 青木隆明 監修メジカルビュー社</p> <p>改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触察技術 下肢・体幹 青木隆明 監修メジカルビュー社</p> <p>「触察解剖学」の配布資料</p>		
参考書	<p>「改訂版 ボディ・ナビゲーション」 医道の日本社</p> <p>「ID触診術」 三輪書店</p>		

	「骨格筋の形と触察法」 大峰 閣
成績評価	1. 授業回数の4/5以上出席した者に対して評価を行う。 2. 評価は実技試験にて行う（60点以上合格）。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 星 伴路 研究室 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 メールアドレス : t_hoshi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水・木曜日 放課後(できれば事前に口頭またはMelly等を用いて、空き時間を確認してください)</p> <p>担当教員名 : 岡田 岬 研究室 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 メールアドレス : m_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月・水・木・金曜日 17:30-18:30</p>
備考	<p>①実務経験の有無 はり・きゅう師免許取得後、当大学附属病院（泌尿器科）および鍼灸センターにて専門外来の臨床経験あり。柔道整復学科にて解剖学の教育を担当。その後、按摩指師免許取得。鍼灸学科・柔道整復学科の解剖学教育の実務経験をもとに講義を行う。</p> <p>②ディプロマポリシーとの関連 ◎-5</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
田口 玲奈			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態；講義+対面	
添付ファイル			

授業目標	本授業は、鍼灸臨床現場において東洋医学的な健康観・整体観を持って診療に臨み、東洋医学診断法（四診）を用いて患者の状態を分析し、治療に活かせる情報を入手する術を学び、理解することを到達目標とする。
授業計画	<p>第1回目 総論 【授業形態】 講義形式 【学習目標】 1. 東西の健康観・整体観を復習する。 2. 治療原則を復習する。 3. 東西両医学の違いを復習する。</p> <p>第2回目 陰陽論・五行学説 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 【学習目標】 各グループごとに陰陽学説、五行学説についてまとめ、復習をし、発表を行う。</p> <p>第3回目 気血津液 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 【学習目標】 各グループごとに気血津液についてまとめ、復習をし、発表を行う。</p> <p>第4回目 蔵象学説 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 【学習目標】 各グループごとに蔵象学説についてまとめ、復習をし、発表を行う。</p> <p>第5回目 望診 【授業形態】 講義形式、アクティブ・ラーニング 【学習目標】 1. 神、色、形、態について理解し、判断できる。 2. 舌診 舌質・舌苔について理解し、判断できる。 教科書P. 202～212参照</p> <p>第6回目 聞診 【授業形態】 講義形式、アクティブ・ラーニング 【学習目標】 1. 声診について理解し、判断できる。 2. 五音、五声について理解し、判断できる。 3. 呼吸について理解し、判断できる。 4. 発語、異常音について理解し、判断できる。 5. 気味について理解し、判断できる。 教科書P. 213～218参照</p> <p>第7回目 問診1 【授業形態】 講義形式、アクティブ・ラーニング 【学習目標】 基本的問診事項について理解し、判断できる。 教科書P. 219～233参照</p> <p>第8回目 問診2 【授業形態】 講義形式、アクティブ・ラーニング 【学習目標】 その他の問診事項について理解し、判断できる。 教科書P. 234～248参照</p> <p>第9回目 前半まとめ 【授業形態】 課題解決型学習 【学習目標】 前半の内容について理解、判断することができる（確認テストを実施する）。 テストの内容はその場でフィードバックする。</p> <p>第10回目 切診1 【授業形態】 講義形式、アクティブ・ラーニング 【学習目標】 腹診について理解し、判断できる。 教科書P. 249～254参照</p> <p>第11回目 切診2 【授業形態】 講義形式、アクティブ・ラーニング 【学習目標】 1. 切経について理解し、判断できる。 2. 経穴診（募穴診、背候診）について理解し、判断できる。 教科書P. 254～255参照</p> <p>第12回目 切診3 【授業形態】 講義形式、アクティブ・ラーニング 【学習目標】 脈診（寸口診）について理解し、判断できる。</p>

	<p>第13回目 教科書P. 255～258参照 切診4 【授業形態】 講義形式、アクティブ・ラーニング 【学習目標】 脈診（脈状診）について理解し、判断できる。 教科書P. 258～266参照</p> <p>第14回目 まとめ 【授業形態】 課題解決型学習 【学習目標】 後半の内容について理解、判断することができる（確認テストを実施する）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業前に範囲の教科書を一読、予習すること
教科書	新版 東洋医学概論 医道の日本
参考書	新しい鍼灸診療：北出利勝編集、医歯薬出版社 針灸学〔基礎編〕 東洋学術出版社 中医針灸治療のプロセス：朱江ほか編、篠原昭二監訳、東洋学術出版社
成績評価	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5以上の出席者に対し、評価を実施する。</p> <p>1. グループ発表 (50%) 2. 前半まとめ (100%) : 後期中間筆記試験 3. 後半まとめ (100%) : 後期末筆記試験</p> <p>上記いずれの試験においても60%以上取得した者に対し、単位を認定します。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 田口玲奈 研究室 : 附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 13:50～17:30</p>
備考	<p>1, 実務経験 田口玲奈 京都桂川鍼灸院への勤務経験、附属鍼灸センターでの実務経験（16年）をもとに教育指導を行う。</p> <p>2, この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	1	必修
担当教員			
角谷 英治、山崎 翼			
鍼灸学科	45時間	実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本実習の目的は、1年次から多施設で臨床現場を体験することにより、将来の自分像をイメージするきっかけを持つことにある。</p> <p>具体的には以下を行動目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 治療者（医療人）としてふさわしい態度が出来る。 2. 患者さんへの適切な対応（誘導・介助・言葉遣い・心遣い・身だしなみ）が出来る。 3. 快適な治療環境を保持出来る（治療ブース内を清潔に保つ準備と後片付けが出来る）。 4. 消毒および清潔操作（清潔の概念）が出来る。 5. 鍼灸治療に対する患者さんのニーズを理解する。
授業計画	<p>通年 附属鍼灸センターでの見学 前後期合わせて計6回の見学 【授業形態】見修実習 附属鍼灸センターでの見学を通じて、1年時の基礎科目（解剖・生理）および専門科目（東洋医学概論・経絡経穴）、はり・きゅう技術についてその必要性を説明することができる。 また、はり師・きゅう師の資格取得に希望を持つことができる。 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>通年 桂川鍼灸院ミュトス361での見学 前後期合わせて計1回の見学 【授業形態】見修実習 桂川鍼灸院ミュトス361での見学を通じて、基礎科目（解剖・生理）および専門科目（東洋医学概論・経絡経穴）、はり・きゅう技術について、その必要性を説明することができる。 また、はり師・きゅう師の資格取得に希望を持つことができる。 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>通年 京都駅前鍼灸院での見学 前後期合わせて計1回の見学 【授業形態】見修実習 京都駅前鍼灸院での見学を通じて、基礎科目（解剖・生理）および専門科目（東洋医学概論・経絡経穴）、はり・きゅう技術について、その必要性を説明することができる。 また、はり師・きゅう師の資格取得に希望を持つことができる。 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>通年 きららの湯若狭鍼灸院での見学 前後期合わせて計1回の見学 【授業形態】見修実習 きららの湯若狭鍼灸院での見学を通じて、基礎科目（解剖・生理）および専門科目（東洋医学概論・経絡経穴）、はり・きゅう技術について、その必要性を説明することができる。 また、はり師・きゅう師の資格取得に希望を持つことができる。</p> <p>通年 多施設での見学を通してのレポート作成および発表 ＊期日指定</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>ガイダンスにて配布した資料に目を通しておくこと</p> <p>京都市内にある附属施設の行き方を事前に確認しておくこと</p> <p>多施設における患者のニーズを常に考えておくこと</p>
教科書	特記なし
参考書	特記なし
成績評価	出席態度（20%）および課題レポート（80%）。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 角谷英治 研究室 : 附属病院 2F教員室 メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 山崎 翼 研究室 : 附属病院 2F教員室 メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて実務経験あり</p> <p>アクティブラーニングとして、グループワークにてインタビュー内容を検討し、実習後振り返りを行い発表する。</p> <p>DP：◎-4、○-5</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義（遠隔授業：オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	健康とは心身共に健やかで活気に満ちた状態であり、複雑な現代社会で生活を送るために、健康は基本的に自分で管理し守るべきものである。近年、社会人の健康管理への関心も高く、健康に関する情報が錯綜する今、健康を維持・増進するための正しい知識を身に付ける必要がある。この授業は、健康の三原則（栄養・運動・休養）について学び、健康と栄養のかかわりを理解し、健康に関連する生活習慣病を予防するための身体活動の質と量を理解する。また、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を目指すことを目標とする。		
授業計画	第1講	健康と生活習慣 [到達目標] からだにいいライフスタイルについて理解できる。 予習：健康と生活習慣について考える（45分） 復習：健康と生活習慣について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）	
	第2講	健康と飲酒・喫煙 [到達目標] お酒と健康的な付き合い方。喫煙は「百害あって一利なし」を科学的に理解できる。 予習：健康と飲酒・喫煙の影響について考える（45分） 復習：健康と飲酒・喫煙について学んだことを理解しておく（45分）	
	第3講	健康と体力 [到達目標] 健康と体力の関係について具体的に説明できる。 予習：健康とは何か考えてくる（45分） 復習：健康と体力の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）	
	第4講	健康づくりのための運動指針 [到達目標] 自分のエネルギー消費量を算出することができる。 予習：健康づくりとは何か考えてくる（45分） 復習：健康づくりで学んだ内容を日々の生活習慣に取り入れ実践する（45分）	
	第5講	「肥満とやせの評価」 [到達目標] 肥満とやせの判定について関心を持つことができる。 予習：BMI とその他の体脂肪量測定方法について調べておく（45分） 復習：肥満とやせの評価で学んだことを理解しておく（45分）	
	第6講	体力の特性 [到達目標] 「行動体力」と「防衛体力」を兼ね備えた基礎体力について考えることができる。 予習：体力とは何か考えてくる（45分） 復習：体力について学んだことを理解しておく（45分）	
	第7講	体力測定と体力の評価 [到達目標] 体力測定と体力の評価について理解できる。 予習：新体力テストの測定方法とその評価について調べておく（45分） 復習：新体力測定と体力の評価について学んだことを復習しておく（45分）	
	第8講	トレーニング論の基礎 [到達目標] トレーニングによる筋力への効果とその他の効果について考えることができる。 予習：今まで行ってきたトレーニング内容を振り返り、留意点をまとめておく（45分） 復習：トレーニング効果について復習しておく（45分）	
	第9講	体力の加齢変化 [到達目標] 体力の発育・発達と、加齢による体力の衰えについて解析できる。 予習：体力があるとはどのようなことか、またどのような方法で測定できるか考える（45分） 復習：自分の体力をさまざまな観点から評価してみる（45分）	
	第10講	健康と栄養 [到達目標] 栄養を考えた食事に関心を持つことができる。 予習：健康と栄養について考えてくる（45分） 復習：健康と栄養の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）	
	第11講	健康と運動 [到達目標] 健康と運動の関係が理解できる。 予習：運動は健康に良いといわれているが、科学的な根拠を考えておく（45分） 復習：健康と運動の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）	
	第12講	「栄養（食事）・運動・休養」のバランス [到達目標] 栄養・運動・休養、この順番の重要性について学習した内容を理解できる。 予習：栄養・運動・休養について考えておく（45分） 復習：栄養・運動・休養のバランスについて学習した内容を復習しておく（45分）	
	第13講	健康と薬物（ドーピング等） [到達目標] 健康を脅かす薬物についての危険性が理解できる。 予習：薬物について調べておく（45分） 復習：健康と薬物について学んだことを復習しておく（45分）	

	<p>第14講 総括（定期試験）</p> <p>〔到達目標〕 講義のまとめ・第1講～第13講をまとめて理解できる</p> <p>予習：第1講～第14講をまとめておく（45分）</p> <p>復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること（45分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 村川増代</p> <p>研究室 : 体育館・教員室</p> <p>メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。</p>
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1、○-2。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
堀 歩未			
配当学部：鍼灸学部 鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：対面実技+ブレン ディッド	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康管理と体力向上を目的として、運動の知識を学ぶことができるようになる。 ・将来指導者になった際に、健康管理や健康づくりについて説明・指導ができるようになる。 ・自己で課題を見つけ解決できる能力を身につけることができる。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 自己の体力向上から生活習慣病の予防と改善のための運動実践を体験・理解できる。</p> <p>2回目 ウォーミングアップ [達成目標] ウォーミングアップの方法・重要性について体験・理解できる。</p> <p>3回目 オンデマンド①</p> <p>4回目 体力測定① 力測定の方法① [達成目標] 体力測定（握力・上体起こし）を通して、新スポーツテストの実施方法を体験・理解できる。</p> <p>5回目 体力測定② 体力測定の方法② [達成目標] 体力測定（反復横跳び・立ち幅跳び）を通して、新スポーツテストの実施方法を体験・理解できる。</p> <p>6回目 オンデマンド②</p> <p>7回目 競歩① 室内で100mウォーキングタイム測定① [達成目標] ウォーキングタイム測定により自己の歩行スピードを体験・理解できる。</p> <p>8回目 跳躍 室内で5段跳び測定 [達成目標] 立5段跳び測定により自己の脚筋力・瞬発力を体験・理解できる。</p> <p>9回目 オンデマンド③</p> <p>10回目 投擲 室内で砲丸投げ（メディシンボール）測定 [達成目標] メディシンボールによる砲丸投げで自己の投擲力・筋力を体験・理解できる。</p> <p>11回目 ハードル [達成目標] ミニハードル走から巧緻性向上と、自己の歩行・ランニングスピード向上を体験理解できる。</p> <p>12回目 オンデマンド④</p> <p>13回目 速歩② 屋外陸上競技場で100mタイムを測定 [達成目標] 速歩測定により自己の歩行スピードを体験・理解できる。</p> <p>14回目 総括 走る・跳ぶ・投げるを通して、ウォーミングアップ方法、重要性・コミュニケーション方法を体験・理解できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習（予習35分）し、実技で学修した内容をまとめて下さい（復習35分）。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席（欠席は2回までとする）。 授業の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキル、コミュニケーション・スキル、服装・シューズなどを加味して総合評価する。

担当教員の基本情報	担当教員名 : 堀 歩未 メールアドレス : a_hori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後受け付ける
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・怪我防止・安全管理の観点から、長い爪やピアス・ネックレス・指輪等の装飾品を身に付けての受講は認めない。 また、肩より長い髪については授業が始まるまでに束ね受講すること。 ・運動に適した服装・室内シューズを着用すること。 ・水筒（水分）等を持参し、自己管理を行うこと。
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」:◎-1 ○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
池本敬博			
		対面実技授業+ブレンディッド	
添付ファイル			

授業目標	医療現場で行われている生活習慣病予防と改善のための運動療法を体験理解し、健康づくりのための楽しい運動を的確に判断できるようになる。また、医療人として集団運動指導ができる技術とコミュニケーション能力が向上する。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 医療現場で行われている生活習慣病予防と改善、病態別運動療法、ロコモティブシンドローム、転倒予防、介護予防、認知症予防のための運動療法を体験理解できる。また、健康づくりのための楽しい運動習慣確立を目指す集団指導テクニックについて体験理解できる。毎回、共通運動種目又は体操を体験できる。 オンデマンド授業の説明。</p> <p>2回目 運動療法1 ウォーキング 理論と屋外実践(グラウンド) 生活習慣病予防と改善のための健康ウォーキングを体験理解できる。</p> <p>3回目 運動療法2 ボール運動1 布ボール、軽量ハンドボール、2kgメディシンボールを使い、筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。</p> <p>4回目 運動療法3 ボール運動2 集団運動とバッティング系(ノックと野球)から、筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。</p> <p>5回目 オンデマンド授業1 スクワットについて 安全かつ効果的に足腰を鍛える方法を理解できる。</p> <p>6回目 運動療法4 手作り用具使用1 シート・ウォーキングから、健康づくりのための集団運動を体験理解できる。転倒予防・認知症予防運動を体験理解できる。 集団バドミントンから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>7回目 オンデマンド授業2 レジスタンス運動について 身体活動・運動の進め方について理解できる。</p> <p>8回目 運動療法5 手作り用具使用2 スクエアシートから、転倒予防・認知症予防運動を体験理解できる。 集団バドミントンから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>9回目 運動療法6 集団運動1 輪投げから、集団運動と筋力・バランス運動を体験理解できる。 集団バドミントンから、健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>10回目 オンデマンド授業3 運動療法について 健康運動実践について理解できる。</p> <p>11回目 運動療法7 集団運動2 ドッチビーから、楽しい集団運動を体験理解できる。 集団ソフトバレーボールから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>12回目 運動療法8 集団運動3 ミニハードル走から、リズムとバランス運動を体験理解できる。 集団ソフトバレーボールから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>13回目 運動療法9 集団運動4 集団ソフトバレーボールゲームから、楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとした①グループワークを体験できる。</p> <p>14回目 運動療法10 集団運動5 集団ソフトバレーボールゲームから、楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとした②グループワークを体験できる。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義前後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習(予習30分)し、実技で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席(欠席は2回までとする)。 授業の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキル、コミュニケーション・スキル、服装・シューズなどを加味して総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名:池本 敬博 研究室:体育館・教員室 メールアドレス:iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー:随時
備考	健康運動指導士として医療機関における運動療法教室5,000回と外部連藤指導・講演2,000回の実務経験をもとに、健康運動実践について実技指導を行う。 服装は運動に適した服装、室内シューズ。
	この授業のディプロマポリシーは◎ - 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義（遠隔授業：オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業では、スポーツと社会との関係について、健康論、社会科学等の視点・論点から講義し、スポーツの社会的意義について学習する。また、スポーツと社会との関わりについて具体的な事例をあげ、スポーツ、社会、健康等の観点から考察していく。さらに、現代の子ども社会における、子どものからだところの諸問題を理解し、子どものライフスタイルに適したあそび・運動・スポーツの必要性を理解し、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を目指すことを目標とする。</p>		
授業計画	第1講	<p>オリエンテーション、スポーツの歴史と概念 [到達目標] 概念、歴史、スポーツについて理解できる。 予習：身近にあふれているスポーツとつく言葉を集めてみる。またスポーツの歴史について考える（45分） 復習：スポーツの歴史・概念について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第2講	<p>現代社会の特徴から見たスポーツの必要性 [到達目標] スポーツの必要性について理解できる。 予習：なぜ現代社会ではスポーツの必要性が問われているのか考える（45分） 復習：スポーツの必要性について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第3講	<p>地域におけるスポーツ振興 [到達目標] 我が国のスポーツ行政について考えることができる。 予習：スポーツ行政とは何か考えてくる（45分） 復習：スポーツ行政について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）</p>	
	第4講	<p>総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義 [到達目標] 地域スポーツクラブの必要性について解析できる。 予習：なぜ現代社会では地域スポーツクラブの必要性が問われているのか考える（45分） 復習：地域スポーツクラブの必要性について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第5講	<p>地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」 [到達目標] 地域におけるスポーツクラブの組織と活動内容について考えることができる。 予習：地域におけるスポーツクラブの活動内容とは何か考えてくる（45分） 復習：地域におけるスポーツクラブの組織と活動内容について学習した内容を見直す（45分）</p>	
	第6講	<p>社会の中のスポーツ [到達目標] スポーツの産業化、地域生活とスポーツのあり方について解析できる。 予習：地域生活とスポーツの関係について考える（45分） 復習：スポーツの産業化、地域生活とスポーツの関係について学習した内容を見直す（45分）</p>	
	第7講	<p>我が国のスポーツプロモーション [到達目標] 我が国のスポーツプロモーションの課題とその展望について考えることができる。 予習：なぜ社会ではスポーツプロモーションの必要性が問われているのか考える（45分） 復習：我が国のスポーツプロモーションの課題と展望について学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第8講	<p>スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 [到達目標] スポーツ事故におけるスポーツ指導者の危機管理と責任について理解できる。 予習：スポーツ事故における危機管理体制の大切さを考える（45分） 復習：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の危機管理体制について学んだことを理解しておく（45分）</p>	
	第9講	<p>発育発達期の子ども達の身体的特徴と多い怪我や病気 [到達目標] 発育発達期の子ども達の怪我や病気、安全管理について解析できる。 予習：発育発達期の怪我や病気、安全管理の大切さについて考える（45分） 復習：発育発達期の身体的特徴と多い怪我や病気、安全管理について学習内容を理解しておく（45分）</p>	
	第10講	<p>総合型地域スポーツクラブの育成と運営 [到達目標] 総合型地域スポーツクラブの背景と創設について考えることができる。 予習：地域密着型スポーツクラブの運営について考える（45分） 復習：地域密着型スポーツクラブの育成と運営について学習内容を理解しておく（45分）</p>	
	第11講	<p>「スポーツ組織のマネジメント」と「事業のマーケティング」 [到達目標] スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティングについて理解できる。 予習：スポーツ組織のマネジメントとは何か考えておく（45分） 復習：スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティングについて学習内容を見直す（45分）</p>	
	第12講	<p>オリンピックと経済 [到達目標] オリンピックと経済の関係について解析できる。 予習：オリンピックと経済の関係について考えておく（45分） 復習：オリンピックと経済の関係について学んだ内容を理解しておく（45分）</p>	
	第13講	<p>スポーツがもたらす経済効果 [到達目標] スポーツと経済の関係について理解できる。 予習：スポーツがもたらす経済効果について考えておく（45分）</p>	

	<p>第14講</p> <p>復習：スポーツがもたらす経済効果について学習内容を理解しておく（45分） 総括（定期試験） [到達目標] 講義のまとめ・第1講～第13講をまとめて理解できる。 予習：第1講～第14講をまとめておく（45分） 復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること（45分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。</p>
教科書	<p>授業時に随時指定する。</p>
参考書	<p>授業時に随時指定する。</p>
成績評価	<p>定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：村川増代 研究室：体育館・教員室 メールアドレス：m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。</p>
備考	<p>① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。</p>
	<p>② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-3。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
添付ファイル			

授業目標	本講義は、4年生に開設される卒業研究IVに向けての準備段階の科目である。 具体的には、医療・健康・予防の未来を理解し、その中で鍼灸師に何ができるのかを考えることで、卒業後の未来を考える機会とする。また、卒業生が切り開いている未来を知り、自分たちの夢に落とし込むことで、自分の将来のビジョンを明確にするための時間とする。なお、シラバスの順番は入れ替わることもある。
授業計画	<p>1回目 医療・鍼灸の未来を考える 【到達目標】 これからの未来の医療で鍼灸師に何ができるのかを考えてみよう 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 Web授業</p> <p>2回目 健康・予防の未来を考える 【到達目標】 これからの未来の健康・予防で鍼灸師に何ができるのかを考えてみよう 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 Web授業</p> <p>3回目 自分の身体を知る 【到達目標】 自分の身体を知り、主観的な感覚と客観的な感覚の違いをまとめる 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 対面式授業</p> <p>4回目 最新の鍼灸や東洋医学に触れる① 【到達目標】 鍼灸や東洋医学に関する最新の研究や各領域の専門家に触れ、動向を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 関連学会への参加、研修会への参加、夜ゼミ等へ参加し、レポートを提出する。 今年度はWeb授業とする。</p> <p>5回目 最新の鍼灸や東洋医学に触れる② 【到達目標】 鍼灸や東洋医学に関する最新の研究や各領域の専門家に触れ、動向を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 関連学会への参加、研修会への参加、夜ゼミ等へ参加し、レポートを提出する。 今年度はWeb授業とする。</p> <p>6回目 最新の鍼灸や東洋医学に触れる③ 【到達目標】 鍼灸や東洋医学に関する最新の研究や各領域の専門家に触れ、動向を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 関連学会への参加、研修会への参加、夜ゼミ等へ参加し、レポートを提出する。 今年度はWeb授業とする。</p> <p>7回目 最新の鍼灸や東洋医学に触れる④ 【到達目標】 鍼灸や東洋医学に関する最新の研究や各領域の専門家に触れ、動向を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 関連学会への参加、研修会への参加、夜ゼミ等へ参加し、レポートを提出する。 今年度はWeb授業とする。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	鍼灸や東洋医学に関する書籍を読む 鍼灸治療院の見学を積極的に行う
教科書	なし
参考書	なし
成績評価	出席及びレポートにより評価(優・良・可・不可)する。
担当教員の基本情報	連絡先 研究室：鍼灸センター2F 教授室 メールアドレス：伊藤和憲 k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー・質問などがある際は、事前に上記メールで連絡をください。
備考	関連学会や研修会等は担当者が判断する。 参加する場合は事前に報告すること。 ディプロマポリシーとの関連 ③関心・意欲-○ ②思考・判断-○
	DPとの関係 2：思考・判断-○ 3：関心・意欲-○

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
横田 良聡			
配当学科：鍼灸	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	国際化が進む中でグローバルな視点で医療を捉えられるためには、英語の4技能（聞く・読む・話す・書く）を習得することが大切である。この講義では、医療現場や日常生活における様々なシチュエーションで必要となる会話表現と医療用語について学ぶ。
授業計画	<p>第1講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、時間の表現及び診療予約の英会話、リスニング [到達目標] 前半は時間の表現を学習する。後半は診療予約の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に時間の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第2講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業や仕事場の表現及び初めて来院する患者への対応の英会話（日本人編）、リスニング [到達目標] 前半は職業や仕事場の表現を学習する。後半は初めて来院する患者への対応の英会話（日本人編）をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に職業や仕事場の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第3講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国及び初めて来院する患者への対応の英会話（外国人編）、リスニング [到達目標] 前半は国について学習する。後半は初めて来院する患者への対応の英会話（外国人編）をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に世界の国や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第4講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道案内の表現及びその英会話、リスニング [到達目標] 前半は道案内に使う表現について学習する。後半は道案内の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に道案内の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第5講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院の館内案内の表現及びその英会話、リスニング [到達目標] 前半は館内案内の表現について学習する。後半は館内案内の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に病院の館内案内の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第6講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者を適切な姿勢にさせる表現（採決や血圧測定等）及びその英会話、リスニング [到達目標] 前半は患者を適切な姿勢にさせる表現について学習する。後半は患者を適切な姿勢にさせる表現の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に患者を適切な姿勢にさせる表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第7講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の駅や路線の表現、駅での乗り換えに関する英会話、リスニング [到達目標] 前半は鉄道の駅や路線の表現について学習する。後半は乗り換えに関する英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に鉄道の駅や路線の表現や英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第8講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の部位確認、患者の症状を尋ね記録（内科中心）、リスニング [到達目標] 前半は身体の部位（内科中心）について学習する。後半は患者の症状を尋ね記録する英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで連取を行う。最後に身体の部位や患者の症状を尋ね記録する英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第9講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の部位確認、患者の症状を尋ね記録（外科中心）、リスニング [到達目標] 前半は身体の部位（外科中心）について学習する。後半は患者の症状を尋ね記録する英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に身体の部位や患者の症状を尋ね記録する英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第10講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レストランでの注文の仕方及びその英会話、リスニング [到達目標] 前半はレストランでの注文の仕方について学習する。後半はレストランでの注文の英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後にレストランの注文の仕方とその英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第11講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家系図の確認、患者本人及び家族の既往歴等の確認、リスニング [到達目標] 前半は家系図について学習する。後半は患者本人及び家族の既往歴等を問う英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に家系図の表現や患者本人及び家族の既往歴等の確認する英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第12講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症状の発生時期や痛みの度合いを尋ね記録、リスニング [到達目標] 前半は症状の発生時期等の問い方を学習する。後半は症状の発症時期や痛みの度合いを尋ね記録する英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。その後、ペアで練習を行う。最後に症状の発生時期や痛みの度合いを尋ね記録する英会話の課題もしくは小テストを行う。 <p>第13講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1講～第12講までの復習 [到達目標] しっかり復習し期末考査に備える。 <p>第14講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1講～第12講までの復習、期末考査 [到達目標] 前半は考査に向けて復習し、期末考査に備える。後半は期末考査を行う。
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習することはありません。各講義内での課題や小テストをクリアするためには、講義内での取り組みが重要になります。講義内にしっかり取り組んでいけば及第点の取れる課題や小テストですから、積極的に音読や会話練習で英語を使う姿勢を持って臨んでください。

教科書	English For Nurses Revised edition(看護系学生のための実践英語) 朝日出版 基本的に教科書とパワーポイントを使った授業になります。必要に応じてプリントをこちらから用意します。
参考書	教科書、高校で使用していた教科書や参考書
成績評価	「授業への参加度合い、積極性、提出物、各講義の課題や小テスト等」30～50%、「中間考査と期末考査」50～70%を目安に考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 横田 良聡 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
星 伴路			
鍼灸学科	60時間	演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	解剖学Ⅰ・Ⅱでは、10種の器官系に区分してそれぞれを学習してきたが、各器官系は有機的につながりを持ち、人体は機能している（生きている）ことから、解剖学Ⅲでは、解剖学Ⅰ・Ⅱの復習を兼ねながら、各器官系とのつながりを念頭におきつつ、人体の構造について、更に理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>1回目 解剖学総論1（ガイダンス） [到達目標] 講義の概要と、解剖学Ⅲの授業内容について理解できている。 [備考] 合わせて試験と単位認定について説明する。</p> <p>2回目 解剖学総論2（細胞学・組織学総論） [到達目標] 細胞の基本構造をふまえて、各器官がもつ細胞の特徴について構造と機能を説明できる。各組織の区別・分類およびその分布域を説明できる。 [備考] 細胞小器官、細胞分裂、遺伝子について。および主要な上皮組織の分類・分布、筋組織の特徴的な構造、支持組織の分類</p> <p>3回目 運動器系1（骨格系1：総論） [到達目標] 骨格の概要（体幹・上肢・下肢）を説明できる。全ての骨名、主要な関節名および骨、関節の態学的な分類をそれぞれ概説できる。</p> <p>4回目 運動器系2（骨格系2：体幹・頭蓋） [到達目標] 脊柱、胸郭、骨盤の構成要素を説明できる。顔面頭蓋、内頭蓋底および外頭蓋底にみられる孔とそこを通る構造物（神経・血管）について説明できる。椎骨を連結する靭帯、体幹の主な関節、頭蓋の縫合を構成する骨、内・外頭蓋底の構造。</p> <p>5回目 運動器系3（骨格系3：四肢の骨） [到達目標] 上肢帯・上腕・前腕・手の骨を区別し、関節の構成および分類（胸鎖関節・肩関節・肘関節・橈骨手根関節）について説明できる。下肢帯・大腿・下腿・足の骨を区別し、関節の構成および分類（仙腸関節・股関節・膝関節・距腿関節）について説明できる。</p> <p>6回目 運動器系4（筋系1：四肢の筋） [到達目標] 上肢帯・上腕・前腕・手の筋を区別し、各関節における運動様式に関わる筋について説明できる。下肢帯・大腿・下腿・足の筋を区別し、各関節における運動様式に関わる筋について説明できる。</p> <p>7回目 運動器系5（筋系2：体幹・頭蓋の筋） [到達目標] 胸腹部の筋を区別し、呼吸に関わる筋について説明できる。腰背部の筋を区別し、固有背筋に関しては更に詳細な区別・説明ができる。表情筋・咀嚼筋・頸部の筋（前頸部・側頸部・後頸部）について説明ができる。</p> <p>8回目 循環器系1（総論） [到達目標] 動脈・静脈・毛細血管を区別して定義できる。体循環と肺循環の概要を説明できる。</p> <p>9回目 循環器系2（血管系1：心臓） [到達目標] 心臓の基本構造を連続する大血管とともに説明できる。心臓の弁の構造、心臓壁と心膜の構造、刺激伝導系の構造について説明できる。</p> <p>10回目 循環器系3（血管系2：動脈） [到達目標] 体循環に関わる動脈の分枝およびその流域を説明できる。脳の栄養血管で構成される動脈吻合、四肢末端に構成される吻合、胸腹部内臓に分布する動脈について区別、説明ができる。</p> <p>11回目 循環器系4（血管系3：静脈・胎児循環） [到達目標] 体循環に関わる静脈で、動脈と伴行しない静脈を挙げ、その流路（根と合流）について説明できる。胎児特有の循環形態を挙げ、出生後の変化と共に説明できる。</p> <p>12回目 循環器系5（リンパ系） [到達目標] リンパ管の流路について説明できる。胸管（乳糜槽・腸リンパ本幹）に関しての走行について説明できる。主要なリンパ性器官（リンパ節・胸腺・脾臓・扁桃）の構造について説明できる。</p> <p>13回目 呼吸器系 [到達目標] 発声と呼吸について説明できる。気管の分岐とその構造の変化（軟膏・平滑筋・血管）について説明できる。肺胸中隔（血液空気関門）の構造と意義を説明できる。胸腔・胸膜腔・心膜腔・縦隔を説明できる。</p> <p>14回目 中間試験範囲の総括（前半まとめ） [到達目標] 前期前半の講義で学んだ範囲について説明できる。 [備考] 解剖学概論から運動器・循環器・呼吸器の内容を包括する。 ※アクティブラーニング：小グループを組み、骨格系の質疑応答を行うことにより、お互いに必要と知識と記憶の確認が可能となる。加えて不足分を講義内容として追加する予定。</p> <p>15回目 中間試験 [到達目標] 前半の講義内容についての設問に60%以上解答できる。</p>

	<p>[備考] 試験時間後に問題に対する解説も行う。</p> <p>16回目 消化器系1 (総論) [到達目標] 消化管 (口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸) と消化腺 (唾液腺・肝臓・膵臓) を区別して説明できる。 口腔内の構造物 (歯・舌・唾液腺) について説明できる。</p> <p>17回目 消化器系2 (消化管) [到達目標] 消化管壁の三層構造の基本 (粘膜・筋層・外膜または漿膜) について説明できる。 咽頭・食道・胃・小腸・大腸の肉眼的構造、各消化管壁の三層構造の変化について説明できる。</p> <p>18回目 消化器系3 (消化腺) [到達目標] 肝臓の肉眼的構造および組織構造、肝門を通過する管と肝三組を連携させて説明できる。 胆管系、胆嚢、および膵管 (膵臓の外分泌部) について説明できる。</p> <p>19回目 泌尿器系1 (総論・腎臓) [到達目標] 泌尿器系器官 (腎臓・尿管・膀胱・尿道) の肉眼的構造について説明できる。 腎臓の組織学的構造 (腎小体・ネフロン構成要素・糸球体傍装置) を説明できる。</p> <p>20回目 泌尿器系2 (尿路) ・生殖器系1 (男性生殖器) [到達目標] 尿路における基本的な壁構造と特殊な構造 (尿管の三狭窄部、膀胱三角、括約筋) について説明できる。男女の性差がみられる尿道について説明できる。 精巣のおよび精路、男性外生殖器の基本構造について説明できる。</p> <p>21回目 生殖器系2 (女性生殖器・胎盤・性ホルモン) [到達目標] 女性生殖器の基本構造について説明できる。 卵巣における卵子の成熟過程と排卵後の黄体形成、子宮内膜の組織構造を概説できる。 胎盤の構造 (胎盤関門) を概説できる。男女の相同器官、性ホルモンを分泌する腺細胞の区別・説明ができる。</p> <p>22回目 内分泌系1 (総論・視床下部下垂体系・松果体) [到達目標] 主要な内分泌器官 (下垂体・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵島) の位置を説明できる。 下垂体における組織構造、下垂体門脈系および発生起源 (神経分泌と腺分泌の区別) を説明できる。 松果体の組織構造 (分泌細胞と脳砂) を説明できる。</p> <p>23回目 内分泌系2 (その他の内分泌器官) ・神経系1 (総論) [到達目標] その他内分泌器官 (甲状腺・上皮小体・副腎・膵島) の組織構造と発生起源を説明できる。 中枢神経 (脳+脊髄) と末梢神経 (脳神経+末梢神経) を明確に区別し、神経細胞 (組織) の定義について説明できる。 髄膜・脳室系・脳脊髄液 (脈絡叢) 構造について説明できる。</p> <p>24回目 神経系2 (脳・脳神経) [到達目標] 脳を6部位に区別でき、それぞれに存在する灰白質・白質について説明ができる。 全ての脳神経について、神経の種類・支配領域、脳神経核の脳幹における所在位置、頭蓋腔を抜ける孔について説明できる。</p> <p>25回目 神経系3 (脊髄・脊髄神経) [到達目標] 脊髄の各分節にみられる特徴的構造と脊髄神経を関連づけて説明できる。 頸神経・胸神経・腰神経・仙骨神経・尾骨神経について神経叢と関連して説明できる。 主要な上行性伝導路 (感覚伝導路) および下行性伝導路 (運動伝導路) の経路を概説できる。</p> <p>26回目 感覚器系 (特殊感覚器・体性感覚器) [到達目標] 視覚器、聴覚・平衡感覚器、皮膚感覚受容器の存在部位と受容感覚について説明できる。 各特殊感覚器の中核への伝導路を説明できる。</p> <p>27回目 期末試験範囲の総括 (後半まとめ) [到達目標] 前期後半の講義で学んだ範囲について説明できる。 [備考] 消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器・神経系・感覚器の内容を包括する。</p> <p>28回目 期末試験 [到達目標] 前半の講義内容についての設問に60%以上解答できる。 [備考] 試験時間後に問題に対する解説も行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>事前に次回授業範囲を教科書・参考書や1年次に作成した「まとめノート」等を用いて下調べを行い、あらかじめ記憶違いや忘れてしまった点等の疑問点を見つけ出しておく (予習35分)。講義中に疑問点が解消されなければ、授業後に質問し、速やかに疑問点を解消・理解する事が重要となる。 更に復習として、忘れていたこと、間違っていて理解していた内容を、訂正した状態でノートにまとめ直すことなどにより理解を深める (復習35分)。</p>
教科書	<p>「解剖学」第2版 公益社団法人 東洋療法学校協会編 河野邦雄・伊藤隆造 他著 医歯薬出版 5,900円 (+税) ※講義はこの図書よりの図を多く用いる予定。</p>
参考書	<p>「イラスト解剖学」第9版 松村讓児 著 中外医学社 7,600円 (+税) 「カラー 人体解剖学 構造と機能: ミクロからマクロまで」 F.H. マティーニ M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ 著 井上貴央 監訳 西村書店 7,800円 (+税) ※講義で主にするものではないが、単元によっては参考書として使用。</p>
成績評価	<p>中間試験 (前半部) 及び期末試験 (後半部) の2度に分けて四者択一による試験を行い、合計で60%以上の点数を取得した場合のみ合格とする。受験資格はその試験範囲の講義に3/5以上の出席を満たすものとする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 星 伴路 研究室 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 メールアドレス : t_hoshi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水・木曜日 放課後 (できれば事前に口頭またはMelly等で空き時間を確認してください)</p>
備考	<p>①実務経験の有無: はり・きゅう師免許取得後、当大学附属病院 (泌尿器科) および鍼灸センターにて専門外来の臨床経験あり。その実務経験をもとに講義を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関係: ◎-1 (○-2, ○-3)</p>

講義科目名称： 解剖学Ⅳ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
星 伴路			
鍼灸学科	15時間	講義	
添付ファイル			

授業目標	解剖学Ⅳは、1年次に学習した「解剖学Ⅰ」の範囲に相当する。既に前期の「解剖Ⅲ」にて総復習講義は行ったが、未だ理解できていない・記憶しきれていない領域を再度紐解き、基本に立ち返って学ぶ。解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習してきた内容を、視点を変えて再学習することにより、人体の構造について、更に理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>1回目 総論、細胞学 [到達目標]細胞の構造とその簡単な機能について説明ができる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>2回目 組織学（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織） [到達目標]組織の区分と分布、その簡単な機能について説明ができる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>3回目 運動器系1（骨格と関節） [到達目標]各種、骨の分類や名称、骨の連結様式について説明ができる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>4回目 運動器系2（上肢の運動・下肢の運動・体幹の運動） [到達目標]各種、骨格筋の種類や名称、起始・停止・支配神経・作用について説明ができる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>5回目 神経系1（中枢神経系：脳・脊髄・髄膜・脳室系） [到達目標]中枢神経系（脳・脊髄それぞれの区分および灰白質・白質） [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>6回目 神経系2（末梢神経系：脳神経・脊髄神経・神経叢） [到達目標]末梢神経系（運動・感覚・自律神経の分類）の構造について説明ができる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>7回目 感覚器系 [到達目標]視覚器、聴覚・平衡覚器、味覚、嗅覚、外皮系の構造について説明ができる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前に次回授業範囲を教科書・参考書や1年次に作成した「まとめノート」等を用いて下調べを行い、あらかじめ記憶違いや忘れてしまった点等の疑問点を見つけ出しておく（予習130分）。講義中に疑問点が解消されなければ、授業後に質問し、速やかに疑問点を解消・理解する事が重要となる。更に復習として、忘れていたこと、間違っ理解していた内容を、訂正した状態でノートにまとめ直すことなどにより理解を深める（復習130分）。
教科書	「解剖学」第2版 公益社団法人 東洋療法学校協会編 河野邦雄・伊藤隆造 他著 医歯薬出版 5,900円（+税） ※講義はこの図書よりの図を多く用いる予定。
参考書	「イラスト解剖学」第9版 松村讓児 著 中外医学社 7,600円（+税） 「カラー 人体解剖学 構造と機能：マイクロからマクロまで」 F.H. マティーン M.J. テイモンズ M.P. マッキンリ 著 井上貴央 監訳 西村書店 7,800円（+税） ※講義で主に使うものではないが、単元によっては参考書として使用。
成績評価	事前に提示された課題に従って作成したレポート(80%)、および必要に応じて実施する小テスト(20%)にて評価し、合計で60%以上の点数を取得した場合のみ合格とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 星 伴路 研究室 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 メールアドレス : t_hoshi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水・木曜日 放課後(できれば事前に口頭またはMelly等を用いて、空き時間を確認してください)
備考	①実務経験の有無：はり・きゅう師免許取得後、当大学附属病院（泌尿器科）および鍼灸センターにて専門外来の臨床経験あり。その実務経験をもとに講義を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関係：◎-1（○-2、○-3）

講義科目名称： 解剖学Ⅴ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
星 伴路			
鍼灸学科	15時間	講義	
添付ファイル			

授業目標	解剖学Ⅴは、1年次に学習した「解剖学Ⅱ」の範囲に相当する。既に前期の「解剖Ⅲ」にて総復習講義は行ったが、未だ理解できていない・記憶しきれていない領域を再度紐解き、基本に立ち返って学ぶ。解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習してきた内容を、視点を変えて再学習することにより、人体の構造について、更に理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>1回目 循環器系1 総論・心臓・血管系（動脈） [到達目標]心臓の構造、逆流防止の構造物、刺激伝導系について説明ができる。また動脈の分枝について説明できる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>2回目 循環器系2 血管系（静脈・胎児循環） [到達目標]静脈の根について、および胎児特有の循環形態が説明ができる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>3回目 循環器系3 リンパ系 / 呼吸器系 [到達目標]リンパ管・リンパ性器官について説明ができる。また、鼻腔・副鼻腔、喉頭・発声器、気管・気管支の分岐、肺の構造について説明ができる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>4回目 消化器系1 消化管 [到達目標]口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造について説明ができる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>5回目 消化器系2 消化腺（唾液腺・肝臓・膵臓） [到達目標]唾液腺、肝臓、膵臓の構造について説明ができる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>6回目 泌尿器系（腎臓・尿路） / 生殖器系1（男性生殖器） [到達目標]腎臓、尿管、膀胱、尿道（性差を含む）および男性生殖器について説明ができる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p> <p>7回目 生殖器系2（女性生殖器、相同器官）/内分泌器系 [到達目標]女性生殖器、男女の相同器官および内分泌器（下垂体、甲状腺、副腎、膵島の構造）について説明ができる。 [備考] 事前に配布された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 ※課題に対する対話方式によるアクティブラーニングあり。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前に次回授業範囲を教科書・参考書や1年次に作成した「まとめノート」等を用いて下調べを行い、あらかじめ記憶違いや忘れてしまった点等の疑問点を見つけ出しておく（予習130分）。講義中に疑問点が解消されなければ、授業後に質問し、速やかに疑問点を解消・理解する事が重要となる。更に復習として、忘れていたこと、間違っていた内容を、訂正した状態でノートにまとめ直すことなどにより理解を深める（復習130分）。
教科書	「解剖学」第2版 公益社団法人 東洋療法学校協会編 河野邦雄・伊藤隆造 他著 医歯薬出版 5,900円（+税） ※講義はこの図書よりの図を多く用いる予定。
参考書	「イラスト解剖学」第9版 松村讓児 著 中外医学社 7,600円（+税） 「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーニ M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ 著 井上貴央 監訳 西村書店 7,800円（+税） ※講義で主に使うものではないが、単元によっては参考書として使用。
成績評価	事前に提示された課題に従って作成したレポート(80%)、および必要に応じて実施する小テスト(20%)にて評価し、合計で60%以上の点数を取得した場合のみ合格とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 星 伴路 研究室 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 メールアドレス : t_hoshi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水・木曜日 放課後(できれば事前に口頭またはMelly等を用いて、空き時間を確認してください)
備考	①実務経験の有無：はり・きゅう師免許取得後、当大学附属病院（泌尿器科）および鍼灸センターにて専門外来の臨床経験あり。その実務経験をもとに講義を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関係：◎-1（○-2、○-3）

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：この授業では、生理学Ⅰで学んだ生命維持に必要な植物性機能について、復習を中心としながら、疾患を学ぶ臨床系の各授業の理解を進めるための応用力を高めることを目的とする。</p> <p>到達目標：生体の基本構成要素である細胞の働き、ガスや栄養素を全身に運搬する血液・循環機能、換気とガス交換の仕組み、生体を構成する物質やエネルギー源となる物質を得るための消化吸収、体液の恒常性維持に必要な腎機能、体温を一定に保つための体温調節機能、生体の恒常性維持に必要な内分泌器官の働き、種族維持に必要な生殖機能等について、理解をして説明することができる。</p>		
授業計画	第1回	<p>生理学の基礎、体液と血液</p> <p>到達目標：細胞の機能、物質移動、体液と血液の区分とその機能について説明できる。</p> <p>授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする</p> <p>備考：教科書p. 1-28を熟読する。</p>	
	第2回	<p>循環</p> <p>到達目標：心臓の特徴とその機能、血管系の機能と循環器系の調節について説明できる。</p> <p>授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする</p> <p>備考：教科書p. 28-52を熟読する。</p>	
	第3回	<p>呼吸</p> <p>到達目標：肺による換気とガス交換の機能、および呼吸の調節について説明できる。</p> <p>授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする</p> <p>備考：教科書p. 54-65を熟読する。</p>	
	第4回	<p>消化と吸収</p> <p>到達目標：各消化管における消化と吸収の特徴、および肝臓の機能について説明できる。</p> <p>授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする</p> <p>備考：教科書p. 68-88を熟読する。</p>	
	第5回	<p>腎機能と体液の調節、体温</p> <p>到達目標：腎臓における尿生成の特徴、排尿、体液の調節、酸塩基平衡の維持、体温とその調節について説明できる。</p> <p>授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする</p> <p>備考：教科書p. 118-128, 108-116を熟読する。</p>	
	第6回	<p>内分泌1</p> <p>到達目標：総論、視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺から分泌されるホルモンの作用と分泌調節について説明できる。</p> <p>授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする</p> <p>備考：教科書p. 130-140を熟読する。</p>	
	第7回	<p>内分泌2、生殖機能</p> <p>到達目標：睪腺、副腎、その他の内分泌器官から分泌されるホルモンの作用と分泌調節、および生殖機能について説明できる。</p> <p>授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする</p> <p>備考：教科書p. 141-158を熟読する。</p>	
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習130分） 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。（復習130分）		
教科書	「生理学（第3版）」 公益社団法人 東洋療法学校協会編、内田さえ、原田玲子 他著（医歯薬出版株式会社）		
参考書	特になし		
成績評価	事前に提示する内容に従って作成した7回分のレポート（100%）にて評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名：○林 知也 研究室：8号館4階林（知）教授室 オフィスアワー：月曜日17:30～18:30		
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1		

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 身体機能の調節・統合・制御に必要な神経系の機能、身体運動や姿勢の維持と内臓の運動に必須な筋収縮、外界や身体内部の情報を得るための感覚器の機能などについて、復習を中心とした学習をします。</p> <p>【到達目的】 身体機能の調節・統合・制御に必要な神経系の機能、身体運動や姿勢の維持と内臓の運動に必須な筋収縮、外界や身体内部の情報を得るための感覚器の機能等について理解をして説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 神経の基本（静止膜電位、活動電位、興奮伝導、シナプス伝達） 到達目標：静止膜電位、活動電位、興奮伝導、シナプス伝達について説明できる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 備考：教科書の該当ページを熟読する。</p> <p>第2回 神経系（末梢神経：自律神経、感覚神経） 到達目標：自律神経、感覚神経のはたらきについて説明できる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 備考：教科書の該当ページを熟読する。</p> <p>第3回 神経系（末梢神経：運動神経、筋収縮、反射） 到達目標：運動神経、筋収縮、反射のはたらきやしきについて説明できる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 備考：教科書の該当ページを熟読する。</p> <p>第4回 神経系（中枢神経：脊髄、脳幹、間脳、大脳基底核、錐体路） 到達目標：脊髄、脳幹、間脳、大脳基底核、錐体路のはたらきについて説明できる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 備考：教科書の該当ページを熟読する。</p> <p>第5回 神経系（中枢神経：大脳辺縁系、大脳皮質、脳波、睡眠、脳脊髄液） 到達目標：大脳辺縁系、大脳皮質のはたらき、脳波と睡眠の特徴について説明できる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 備考：教科書の該当ページを熟読する。</p> <p>第6回 感覚（体性感覚、視覚、味覚、嗅覚、聴覚、平衡感覚） 到達目標：体性感覚、視覚、味覚、嗅覚、聴覚、平衡感覚のしくみについて説明できる。 授業形態：アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 備考：教科書の該当ページを熟読する。</p> <p>第7回 まとめ 到達目標：これまでの学習範囲について理解したうえで、その知識を応用して動物性機能を説明できる 授業形態：アクティブラーニング無 備考：</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習130分） 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。（復習130分）
教科書	「生理学（第3版）」 公益社団法人 東洋療法学校協会編、内田さえ、原田玲子 他著（医歯薬出版株式会社）
参考書	特になし
成績評価	事前に提示する内容に従って作成した6回分のレポート（100%）にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階林（知）教授室 オフィスアワー : 月曜日17:30～18:30
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期（時間外）	2	1	必修
担当教員			
田口辰樹、林知也、岡田岬、児玉香菜絵			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習（遠隔、オンライン/オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>1. 講義から得た知識に基づき、生理現象および鍼灸刺激が生理現象に及ぼす影響を自ら観察・計測し必要なデータを記録する。</p> <p>2. 観察・計測したデータを分析し、講義で得た知識および論理的な思考に基づき考察する。</p> <p>3. 実験レポートの意味とルールを理解した上で、各テーマごとに客観的な根拠、かつ論理的思考に基づき実験レポートとしてまとめる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション [到達目標] 実習の目的、内容を理解するとともに、実習にあたっての注意事項を確認する。 [授業形態] 遠隔授業（オンライン）。</p> <p>第2回 オリエンテーション [到達目標] ミニ講義により実習に必要な基礎知識の確認を行う。 [授業形態] 遠隔授業（オンライン）。</p> <p>第3回 実習A 鍼鎮痛 [到達目標] 鍼鎮痛の機序（下行性痛覚抑制系およびゲートコントロール説）について理解する。 [授業形態] 遠隔（オンデマンド：動画配信）。</p> <p>第4回 実習A 鍼鎮痛 [到達目標] 鍼鎮痛の機序（下行性痛覚抑制系およびゲートコントロール説）について理解する。 [授業形態] 遠隔（オンデマンド：動画配信）。</p> <p>第5回 実習B 鍼灸と自律神経（腸蠕動と心拍） [到達目標] 鍼灸刺激が腸蠕動および心拍に及ぼす影響から自律神経に与える影響を理解する。 [授業形態] 遠隔（オンデマンド：動画配信）。</p> <p>第6回 実習B 鍼灸と自律神経（腸蠕動と心拍） [到達目標] 鍼灸刺激が腸蠕動および心拍に及ぼす影響から自律神経に与える影響を理解する。 [授業形態] 遠隔（オンデマンド：動画配信）。</p> <p>第7回 実習C ヒト代謝 [到達目標] 代謝（生体内の化学変化とエネルギー変換）について理解する。 [授業形態] 遠隔（オンデマンド：動画配信）。</p> <p>第8回 実習C ヒト代謝 [到達目標] 代謝（生体内の化学変化とエネルギー変換）について理解する。 [授業形態] 遠隔（オンデマンド：動画配信）。</p> <p>第9回 実習D ヒト脳波 [到達目標] 実習を通して自発性脳波の測定法を学び、得られたデータを基に脳波の意義を理解する。 [授業形態] 遠隔（オンデマンド：動画配信）。</p> <p>第10回 実習D ヒト脳波 [到達目標] 実習を通して自発性脳波の測定法を学び、得られたデータを基に脳波の意義を理解する。 [授業形態] 遠隔（オンデマンド：動画配信）。</p> <p>第11回 実習A まとめ [到達目標] これまで学習した生理学、はり・きゅう治効学の知識に基づき実習で得られた結果の解析方法とまとめ方を理解する。 [授業形態] 遠隔授業（オンライン）。 [備考] 事前に実施した実習内容について事前に課題に取り組みレポートを作成し、その内容についてディスカッション（アクティブラーニング）を行い、フィードバックを行う。</p> <p>第12回 実習B まとめ [到達目標] これまで学習した生理学、はり・きゅう治効学の知識に基づき実習で得られた結果の解析方法とまとめ方を理解する。 [授業形態] 遠隔授業（オンライン）。 [備考] 事前に実施した実習内容について事前に課題に取り組みレポートを作成し、その内容についてディスカッション（アクティブラーニング）を行い、フィードバックを行う。</p>

	<p>第13回 実習C まとめ [到達目標] これまで学習した生理学、はり・きゅう治効学の知識に基づき実習で得られた結果の解析方法とまとめ方を理解する。 [授業形態] 遠隔授業（オンライン）。 [備考] 事前に実施した実習内容について事前に課題に取り組みレポートを作成し、その内容についてディスカッション（アクティブラーニング）を行い、フィードバックを行う。</p> <p>第14回 実習D まとめ [到達目標] これまで学習した生理学、はり・きゅう治効学の知識に基づき実習で得られた結果の解析方法とまとめ方を理解する。 [授業形態] 遠隔授業（オンライン）。 [備考] 事前に実施した実習内容について事前に課題に取り組みレポートを作成し、その内容についてディスカッション（アクティブラーニング）を行い、フィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習の前に予習として実習書の実習範囲の内容を確認し、理解するために必要な基礎知識の復習を行う（30分）。 実習後は実習から得られたデータを整理し、データの内容を理解した上でレポートの作成を行う（30分）。
教科書	配布実習書 配信動画
参考書	「生理学（第3版）」公益社団法人 東洋療法学校協会編、内田さえ、原田玲子他著（医歯薬出版株式会社） 「はりきゅう理論」公益社団法人 東洋療法学校協会編、教科書執筆小委員会著（医道の日本社）
成績評価	評価対象：出席基準を満たした者を評価対象とする。 評価方法：レポートにて評価を行う。 単位認定：評価点が60%以上の者に単位を認める。
担当教員の基本情報	担当教員名：田口 辰樹 研究室：鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室 メールアドレス：t_taguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（ただし金曜日は除く） 担当教員名：林 知也 研究室：8号館4階 林教授室 メールアドレス：tomoya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日17:30-18:30 担当教員名：岡田 岬 研究室：鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室 メールアドレス：m_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 担当教員名：児玉香菜絵 研究室：8号館4階講師室 オフィスアワー：月曜日17:30-18:30
備考	【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-2、○-1】

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
糸井マナミ			
鍼灸学科	30時間	講義（遠隔授業：オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、高齢者、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。		
授業計画	第1回	衛生・公衆衛生の目的および衛生行政 [到達目標] 衛生・公衆衛生の目的について・衛生行政の仕組みと組織体系について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答・解説）	
	第2回	衛生統計と疫学 [到達目標] わが国の衛生統計の現状と変化・公衆衛生の問題点について理解する。 疫学の意義を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答・解説）	
	第3回	疾病の予防と健康管理 [到達目標] プライマリー・ヘルスケアの全体像と健康管理について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答・解説）	
	第4回	生活習慣病と高齢者保健 [到達目標] 生活習慣に由来する危険因子について理解する。 高齢者保健の現状と問題点について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答・解説）	
	第5回	母子保健 [到達目標] 妊産婦と乳幼児の保健管理の課題について理解する。 母子保健行政の仕組みについて理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答・解説）	
	第6回	学校保健 [到達目標] 学校保健に関わる現状と課題について理解する。 学校保健行政の仕組みについて理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答・解説）	
	第7回	精神保健、産業保健 [到達目標] 精神保健に関わる現状と課題について理解する。 産業保健に関わる現状と課題について理解する。 労働衛生行政の仕組みについて理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答・解説）	
	第8回	人間の環境・環境の把握とその評価、気圏の環境と健康 [到達目標] 環境とは何かを理解する。 地球環境の形成過程と現状の問題点について理解する。 環境汚染の成因について理解する。 環境の把握と評価の方法を理解する。 気圏環境と健康、気候の健康への影響、大気汚染について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答・解説）	
	第9回	中間試験（第1回～第7回）、試験解説 [到達目標] 第1回～7回講義内容（主に確認問題で問われた内容）を理解・修得する。 [授業形態] アクティブラーニング有（対面による試験実施（50分）、試験解説（50分））	
	第10回	水圏の環境と健康	

	<p>[到達目標] 水圏環境と健康、上水および下水、水質汚濁について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答・解説）</p> <p>第11回 土壌環境と健康、廃棄物</p> <p>[到達目標] 土壌環境と健康、土壌汚染について理解する。 廃棄物処理の現状と問題点、廃棄物と環境汚染について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答・解説）</p> <p>第12回 公害、放射線障害</p> <p>[到達目標] 公害の歴史と現状、公害による健康被害について理解する。 電離放射線障害について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答・解説）</p> <p>第13回 感染症の予防と対策</p> <p>[到達目標] 微生物の分類、感染症成立における宿主・寄生体・感染経路について理解する。 滅菌法・消毒法の種類と特徴および問題点について理解する。 感染症法、予防接種法について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答・解説）</p> <p>第14回 期末試験（第8回、第10回～第13回）、試験解説</p> <p>[到達目標] 第8回、第10回～13回講義内容（主に確認問題で問われた内容）を理解・修得する。 [授業形態] アクティブラーニング有（対面による試験実施（50分）、試験解説（50分））</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通して、項目を整理しておくこと。（35分程度） 2. 講義の後に配布プリント及び該当する教科書の部分を読み返し、指示された課題についてまとめておくこと。 3. 確認問題を見直して理解を深めること。（2、3併せて35分程度） 4. 分からないことは質問し、繰り返し復習を行うこと。
教科書	シンプル衛生公衆衛生学2021 編集：辻一郎、小山洋（南江堂）
参考書	「国民衛生の動向」（厚生統計協会） 「衛生試験法・注解」（日本薬学会） 「わかりやすい公衆衛生学（第4版）」（ヌーベルヒロカワ） 「Simple Step 公衆衛生」（海馬書房）
成績評価	確認問題で問われた内容を修得した者を合格とする。 成績評価は中間試験45%、期末試験45%と確認問題10%（全て提出で10%）で行い、60点以上を合格とする。 出席が6割（第1回～第7回：5回以上、第8回、第10回～13回：3回以上）に満たないものは中間試験および期末試験の受験を認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名：糸井マナミ 研究室：5号館2階 免疫・微生物学教室、1号館2階 教授室 メールアドレス：m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・金曜日13:00-13:50
備考	この科目とディプローマポリシーとの関連：◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
糸井マナミ・千葉章太			
鍼灸学科	30時間	実習（授業形態：未定）	
添付ファイル			

授業目標	病原体と感染防御の仕組み（自然免疫と獲得免疫）について感染症学と免疫学で学んだ知識に基づいて、また、健康な生活の維持に関わる環境因子について衛生・公衆衛生学で学んだ知識に基づいて、観察と実験を通して具体的に理解する。
授業計画	<p>第1, 2, 3回 細菌の染色と培養 [到達目標] 細菌の特徴を理解する。 咽頭常在菌と病原菌について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（実習説明・実習・レポート提出・レポート添削）</p> <p>第4, 5, 6回 細菌の形態と性状、消毒法 [到達目標] 細菌のコロニーの形態と菌の形態的特徴について理解する。 消毒法の問題点について具体的に理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（実習説明・実習・レポート提出・レポート添削）</p> <p>第7, 8, 9回 抗体の反応、免疫系の組織・器官 [到達目標] 抗原抗体反応の特異性について理解する。 生体における免疫器官の配置と構造、構成する細胞群について理解する。 凝集反応、溶血反応について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（実習説明・実習・レポート提出・レポート添削）</p> <p>第10, 11, 12回 物理的環境因子：気候条件 [到達目標] 気候条件と健康の関わりを理解する。 温熱の4要素と主な温熱指標について理解する。 気候条件の測定法を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（実習説明・実習・レポート提出・レポート添削）</p> <p>第13, 14回 物理的環境因子：照度、騒音 [到達目標] 照度、騒音と健康の関わりを理解する。 照度、騒音の測定法を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（実習説明・実習・レポート提出・レポート添削）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前に実習書をよく読んで、その日の実習内容を理解しておく。（60分程度） その日に得られた結果等を整理・解析し、目的・方法・結果・考察の項目に分けてレポートを作成する。（120分程度）
教科書	公衆衛生・生体防御学実習書（明治国際医療大学 免疫・微生物学教室 編）
参考書	<p>図解臨床検査 坂崎 利一 編 (文光堂)</p> <p>戸田新細菌学 森 良一 他 (南江堂)</p> <p>臨床細菌学アトラス 桑原 章吾 他 (文光堂)</p> <p>衛生試験法・注解 編集) 日本薬学会 (金原出版)</p>
成績評価	レポート（90%程度）および平常点（10%程度）で評価する。 レポートは必要事項（実験の目的・方法・結果・考察（考察課題含む）および感想）が記述されていること（合格点）、および各実習項目の理解度（気づき）を重視する。 平常点は主体的な実習参加度を重視する。 体調不良等でやむを得ず欠席した場合は、追加実習を受ける必要がある。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室、1号館2階 教授室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日13:00-13:50</p> <p>担当教員名 : 千葉 章太 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室 メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日、金曜日 13:00-13:50</p>
備考	この科目とディプロマポリシーとの関連：◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
後藤渉子・澤谷友香理			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>[授業概要] 病理学は、解剖学や生理学などで正常な人体の構造や機能を学んだ上で、「病気の原因や成り立ち」を理解するために学ぶ学問であり、「基礎と臨床の架け橋」となっています。人はみな誰でも病気になる可能性があり、病気を治すあるいは上手に付き合っていくためには、この「病気の正体」をよく知る必要があります。この講義では、病気（疾患）の原因には何があるのか、何がどうなって身体に影響をおよぼすのか、臓器や組織そして細胞がどのように変化するかについて学びます。病理学 I では、「病理学とは」「病因」、「先天性異常」、「循環障害」について学びます。 講義では、はじめに前回の復習を兼ねた小テストを実施します。この小テストで合格点を取ることが目標です。そのために、復習プリントを実施します。また、講義アンケートも利用し、自立できる学習者となることを目指します。 [到達目標] 臨床医学を理解していくために必要な「疾患の原因や成り立ち」を理解し説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学とは 疾病（病気）について [到達目標・学習目標] 病理学で学ぶこと・疾病についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出、評価対象となる） ②講義前には、次の講義（病因①）範囲の教科書P7～P13を読み予習しておく。</p> <p>第2回 病因①（内因） [到達目標・学習目標] 内因（素因と体質、内分泌疾患、心因性疾患）を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の講義（病因②外因）範囲の教科書P13～P15を読み予習しておく。</p> <p>第3回 病因②（外因） 栄養障害 1 [到達目標・学習目標] 内因（主に蛋白質、脂質、炭水化物の栄養障害）を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の講義（病因③外因）範囲の教科書P15～P17を読み予習しておく。</p> <p>第4回 病因③（外因） 栄養障害 2 [到達目標・学習目標] 外因（主にビタミン、無機塩類、水の栄養障害）を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の講義（病因④外因）範囲の教科書P17～P22を読み予習しておく。</p> <p>第5回 病因④（外因） [到達目標・学習目標] 外因（物理的病因、化学的病因）を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の講義（先天性異常）範囲の教科書P9、P99～P108を読み予習しておく。</p> <p>第6回 先天性異常 [到達目標・学習目標] 先天性異常（遺伝性疾患、染色体異常、胎児障害、奇形）を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p>

第7回	<p>[授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。(ノートは次週提出) ②講義前には、次の実習(糖尿病)範囲の教科書P46を読み予習しておく。症例提示(第1回～第6回)範囲の復習をしておく。</p> <p>第1回～第6回に関する症例提示およびスケッチ「糖尿病膝」</p> <p>[到達目標・学習目標] 第1回～第6回で学んだことに関連する疾患の症例提示を行う。その疾患について自分たちで調べ、病態や臨床像を理解し、説明できることを目標とする。スケッチ症例では、糖尿病膝の組織標本を顕微鏡で観察し、丁寧にスケッチする。また、その病態を理解し、説明できるようにする。顕微鏡の使い方を修得する。</p>
第8回	<p>[授業形態] アクティブラーニング(対話、実習) 小テストは採点后、翌日返却。内容をフィードバックする。 提示された症例についてグループディスカッション。顕微鏡でのマイクロ実習。</p> <p>[備考] ①中間試験に備え、第1回～第7回の復習をする。 ②提出したノートは翌日返却する。</p> <p>中間試験(60分)+試験解説</p> <p>[到達目標・学習目標] 「病理学とは」から「症例提示、糖尿病膝」までの範囲の試験で合格点を取る。 わからなかったところ、間違ったところについては、復習して理解する。</p>
第9回	<p>[授業形態] アクティブラーニング無 中間試験とともに講義アンケートを配布。試験で「わからなかったところや質問等」を記載し提出。その内容についてはSNSで返信するか次回の講義でクラス内に共有する。</p> <p>[備考] ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。 ②次の講義(病因⑤外因)範囲の教科書P22～P26を読み予習しておく。</p> <p>病因⑤(外因) 生物学的病因1</p> <p>[到達目標・学習目標] 外因(生物学的病因)において、感染症の基本知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p>
第10回	<p>[授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。(ノートは次週提出) ②講義前には、次の講義(病因⑥外因)範囲の教科書P22～P26を読み予習しておく。</p> <p>病因⑥(外因) 生物学的病因2</p> <p>[到達目標・学習目標] 外因(生物学的病因)において、感染症の原因微生物や病態を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p>
第11回	<p>[授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。(ノートは次週提出) ②講義前には、次の講義(循環障害①)範囲の教科書P27～32を読み予習しておく。</p> <p>循環障害①</p> <p>[到達目標・学習目標] ヒトの循環系、充血・うっ血、貧血・虚血、出血を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p>
第12回	<p>[授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、翌週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。(ノートは次週提出) ②講義前には、次の講義(循環障害②)範囲の教科書P32～P38を読み予習しておく。</p> <p>循環障害②</p> <p>[到達目標・学習目標] 血栓症、塞栓症、梗塞、水腫、浮腫、脱水を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p>
第13回	<p>[授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。(ノートは次週提出) ②講義前には、次の講義(循環障害③)範囲の教科書P38を読み予習しておく。</p> <p>循環障害③</p> <p>[到達目標・学習目標] ショック、DIC、高血圧、心肥大、心弁膜症、先天性心奇形を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p>

	<p>第14回 第9回～第13回に関する症例提示およびスケッチ「動脈粥状硬化症」 [到達目標] 第9回～第13回で学んだことに関連する疾患の症例提示を行う。その疾患について自分たちで調べ、病態や臨床像を理解し、説明できることを目標とする。また、動脈粥状硬化症の組織標本を顕微鏡で観察し、丁寧にスケッチする。また、その病態を理解し、説明できるようにする。 [授業形態] アクティブラーニング（対話、実習） 提示された症例についてグループディスカッション。顕微鏡でのマイクロ実習。 [備考] ①期末試験に備え、第9回～第14回の復習をしておく。</p> <p>第15回 期末試験 [到達目標・学習目標] 「外因（生物的病因）」から「症例提示、動脈粥状硬化症」までの範囲の試験で合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 期末試験とともに講義アンケートを配布。試験で「わからなかったところや質問等」を記載し提出。その内容についてはSNSで返信する。 [備考] ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。</p>
<p>授業時間外の学習（準備学習等）について</p>	<p>講義前は ①講義初めに、前回の範囲の小テストを行うので「復習プリント」を使い、前回の講義内容を理解しておく。 ②今日の範囲の教科書を読んで予習をしておく。（15分） 講義後は ①配布プリントに載せている「今日のおさらい」を参考に「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（30分） ②講義の初めにおこなった小テストは次週返却するので、自分で解説をして定期試験に備えておく。（15分）</p> <p>質問がある場合はアンケート用紙に記入するか、オフィスアワーなどで担当教員が対応しますので、わからないことは必ず解消してください。</p>
<p>教科書</p>	<p>「病理学概論 第2版」 公益社団法人 東洋療法学校協会（医歯薬出版株式会社）</p>
<p>参考書</p>	<p>「クイックマスター病理学 第2版」 堤寛（サイオ出版） 「病気がみえるvol1～11」 医療情報科学研究所編集（メディックメディア） 「疾患ビジュアルブック」シリーズ落合慈之監修（学研） 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 改訂2版」 清水道生・内藤善哉編集（メジカルビュー社） 「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学」大橋 健一他著（医学書院） 「こわいもの知らずの病理学講義」仲野 徹緒（晶文社） 「解明 病理学 第3版」青笹克之総編集（医歯薬出版） 「病理学概論 改訂第3版」公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 関根 一郎著（医歯薬出版）</p>
<p>成績評価</p>	<p>筆記試験80%、スケッチ（2回）10%、授業に取り組む姿勢、ノート提出10%で総合評価。合格基準は60%以上。出席率60%未満の学生は、受験資格がありません。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : ○澤谷 友香理 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : y_kotani@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 後藤 渉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00</p>
<p>備考</p>	<p>澤谷 友香理 臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学） 市中病院勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験を活かし「病気の原因や成り立ちについて」の講義および実習を行う。</p> <p>後藤 渉子 臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学、循環生理学）、博士（医学） 市中病院、病理検査センター勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験を活かし「病気の原因や成り立ちについて」の講義および実習を行う。</p> <p>この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
後藤渉子・澤谷友香理			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>[授業概要] 病理学は、解剖学や生理学などの正常な人体の構造や機能を学んだ上で、「病気の原因や成り立ち」を理解するために学ぶ学問であり、「基礎と臨床の架け橋」となっています。人はみな誰でも病気になる可能性があります。病気を治すあるいは上手に付き合っていくためには、この「病気の正体」をよく知る必要があります。この講義では、病気（疾患）の原因には何があるのか、何がどうなって身体に影響をおよぼすのか、臓器や組織そして細胞がどのように変化するのかについて学びます。病理学Ⅱでは、「退行性病変」、「進行性病変」、「炎症」、「免疫異常・アレルギー」、「腫瘍」について学びます。 講義では、はじめに前回の復習を兼ねた小テストを実施します。この小テストで合格点を取ることが目標です。そのために、復習プリントを実施します。また、講義アンケートも利用し、自立できる学習者となることを目指します。 [到達目標] 臨床医学を理解していくために必要な「疾患の原因や成り立ち」を理解し説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学Ⅰ復習および退行性病変 [到達目標・学習目標] 病理学Ⅱの理解を深めるため、病理学Ⅰの復習を行う。 退行性病変を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の講義（進行性病変）範囲の教科書P49～P58を読み予習しておく。</p> <p>第2回 進行性病変 [到達目標・学習目標] 進行性病変を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の講義（炎症①）範囲の教科書P59～P63を読み予習しておく。</p> <p>第3回 炎症① [到達目標・学習目標] 炎症①（炎症とは何か、炎症がおこるプロセス、炎症に関与する細胞、炎症を評価するための検査方法など）を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の講義（炎症②）範囲の教科書P63～P69を読み予習しておく。</p> <p>第4回 炎症② [到達目標・学習目標] 炎症②（炎症の形態による分類）を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の実習（肺結核）範囲の教科書P67～P68を読み予習しておく。</p> <p>第5回 スケッチ「肺結核」 [到達目標・学習目標] 肺結核の組織標本を顕微鏡で観察し、丁寧にスケッチする。また、その病態を理解し、説明できるようにする。 [授業形態] アクティブラーニング（実習） 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 顕微鏡でのマイクロ実習。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の症例提示（第1回～第4回）範囲の復習をしておく。</p> <p>第6回 第1回～第5回に関する症例提示 [到達目標] 退行性病変、進行性病変、炎症に関連する疾患の症例提示を行う。その疾患について自分たちで調べ、病態や臨床象を理解し、説明できることを目標とする。 [授業形態]</p>

第7回	<p>アクティブラーニング（対話） 提示された症例についてグループディスカッション [備考] ①中間試験に備え、第1回～第6回の復習をしておく。</p> <p>中間試験、解説 [到達目標・学習目標] 「退行性病変」から「症例提示」までの範囲の試験で合格点を取る。 わからなかったところ、間違ったところについては、復習して理解する。 [授業形態] アクティブラーニング無 中間試験とともに講義アンケートを配布。試験で「わからなかったところや質問等」を記載し提出。その内容についてはSNSで返信するか次回の講義でクラス内に共有する。 [備考] ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。</p>
第8回	<p>②次の講義（免疫異常・アレルギー）範囲の教科書P91～P95を読み予習しておく。</p> <p>免疫異常・アレルギー① [到達目標・学習目標] 免疫の基本、免疫不全、アレルギー反応を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の講義（免疫異常・アレルギー）範囲の教科書P53～P54、P96～P97を読み予習しておく。</p>
第9回	<p>免疫異常・アレルギー② [到達目標・学習目標] 自己免疫疾患、移植と免疫を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の講義（腫瘍①）範囲の教科書P71～P90を読み予習しておく。</p>
第10回	<p>腫瘍① [到達目標・学習目標] 腫瘍の定義・特徴、良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍、前がん病変、悪性腫瘍の転移様式を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の講義（腫瘍②）範囲の教科書P71～P90を読み予習しておく。</p>
第11回	<p>腫瘍② [到達目標・学習目標] 腫瘍の悪性度と病期、癌の発生機序、腫瘍と宿主の関係、腫瘍マーカー、腫瘍の治療方法を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の講義（腫瘍③）範囲の教科書P71～P90を読み予習しておく。</p>
第12回	<p>腫瘍③ [到達目標・学習目標] がんの統計、各臓器における悪性腫瘍を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の実習（胃癌）範囲の教科書P71～P90を読み予習しておく。</p>
第13回	<p>腫瘍④ [到達目標・学習目標] 各臓器における悪性腫瘍を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング無 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①講義の復習として、「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（ノートは次週提出） ②講義前には、次の症例提示（第8回～13回）範囲の復習をしておく。</p>
第14回	<p>第8回～第13回に関する症例提示およびスケッチ「胃癌」 [到達目標] 免疫異常・アレルギー、腫瘍に関連する疾患の症例提示を行う。その疾患について自分たちで調べ、病態や臨床象を理解し、説明できることを目標とする。胃癌の組織標本を顕微鏡で観察し、丁寧にスケッチする。また、その病態を理解し、説明できるようにする。 [授業形態] アクティブラーニング（対話、実習） 提示された症例についてグループディスカッション。顕微鏡でのマイクロ実習。 [備考] ①期末試験に備え、第8回～第14回の復習をしておく。</p>

	<p>第15回 期末試験</p> <p>[到達目標・学習目標] 「免疫異常・アレルギー」から「症例提示、胃癌（スケッチ）」までの範囲の試験で合格点を取る。</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング無</p> <p>期末試験とともに講義アンケートを配布。試験で「わからなかったところや質問等」を記載し提出。その内容についてはSNSで返信する。</p> <p>[備考] ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>講義前は</p> <p>①講義初めに、前回の範囲の小テストを行うので「復習プリント」を使い、前回の講義内容を理解しておく。</p> <p>②今日の範囲の教科書を読んで予習をしておく。（15分）</p> <p>講義後は</p> <p>①配布プリントに載せている「今日のおさらい」を参考に「復習プリント」を解き、ノートにまとめる。（30分）</p> <p>②講義の初めにおこなった小テストは次週返却するので、自分で解説をして定期試験に備えておく。（15分）</p> <p>質問がある場合はアンケート用紙に記入するか、オフィスアワーなどで担当教員が対応しますので、わからないことは必ず解消してください。</p>
教科書	「病理学概論 第2版」 公益社団法人 東洋療法学校協会（医歯薬出版株式会社）
参考書	<p>「新訂版クイックマスター病理学 第2版」 堤 寛著（サイオ出版）</p> <p>「病気がみえるvol1～11」 医療情報科学研究所編集（メディックメディア）</p> <p>「疾患ビジュアルブック」 シリーズ落合慈之監修（学研）</p> <p>「カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 改訂2版」 清水道生・内藤善哉編集（メジカルビュー社）</p> <p>「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学」 大橋 健一他著（医学書院）</p> <p>「こわいもの知らずの病理学講義」 仲野 徹緒（晶文社）</p> <p>「解明 病理学 第3版」 青笹克之総編集（医歯薬出版）</p> <p>「病理学概論 改訂第3版」 公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 関根 一郎著（医歯薬出版）</p>
成績評価	筆記試験80%、スケッチ（3回）10%、授業に取り組む姿勢、ノート提出10%で総合評価。合格基準は60%以上。出席率60%未満の学生は、受験資格がありません。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○澤谷 友香理 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : y_kotani@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 後藤 渉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00</p>
備考	<p>澤谷 友香理 臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学） 市中病院勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験を活かし「病気の原因や成り立ちについて」の講義および実習を行う。</p> <p>後藤 渉子 臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学、循環生理学）、博士（医学） 市中病院、病理検査センター勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験を活かし「病気の原因や成り立ちについて」の講義および実習を行う。</p> <p>この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
角谷 英治			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 循環、呼吸、筋収縮について、実際に血圧や心電図、呼吸機能、筋電図を測定します。</p> <p>【到達目標】 系統講義で勉強した内容を、より深く理解することを目標とします。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 【到達目標】 目的と内容、実施にあたっての注意事項を確認する 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 事前に調べる事柄について、グループごとにディスカッションする 【備考】 自主学習の課題 ディスカッションで抽出された内容について調べる</p> <p>第2回 循環（血圧測定） 【到達目標】 水銀血圧計での血圧測定法について学び、循環調節のうち圧受容器反射について理解を深める 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 実際に測定したデータについてグループごとにディスカッションする 【備考】 自主学習課題 得られたデータをレポートにまとめる</p> <p>第3回 循環（心電図測定） 【到達目標】 心電図測定について学び、アイントーベンの三角形の原理について理解を深める 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 実際に測定したデータについてグループごとにディスカッションする 【備考】 自主学習課題 得られたデータをレポートにまとめる</p> <p>第4回 まとめ 【到達目標】 各自でまとめたレポートを元に、得られた結果の解析方法とまとめ方を理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 各グループごとの結果について発表し、意見交換を行う 【備考】 自主学習課題 意見交換で得られた内容を加え、レポートを完成させる</p> <p>第5回 呼吸（呼吸測定） 【到達目標】 スパイロメーターも用い、呼吸測定法について学び、呼吸容量、努力性肺活量について理解を深める 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 実際に測定したデータについてグループごとにディスカッションする 【備考】 自主学習課題 得られたデータをレポートにまとめる</p> <p>第6回 誘発筋電図（伸張反射の測定） 【到達目標】 筋電図測定法について学び、アキレス腱反射を記録し伸張反射について理解を深める 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 実際に測定したデータについてグループごとにディスカッションする 【備考】 自主学習課題 得られたデータをレポートにまとめる</p> <p>第7回 まとめ 【到達目標】 各自でまとめたレポートを元に、得られた結果の解析方法とまとめ方を理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング有 各グループごとの結果について発表し、意見交換を行う 【備考】 自主学習課題 意見交換で得られた内容を加え、レポートを完成させる</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布する手引書を熟読し、その内容が理解できるように必要な知識を参考書等にて確認する。
教科書	特に指定なし
参考書	『標準生理学』 本郷利憲 他（医学書院） 『コスタンゾ 明解生理学』 本郷利憲 他（医学書院） 『オックスフォード・生理学』 植村慶一 他（丸善） 『バーンレヴィ カラー基本生理学』 坂東武彦 他（西村書店）
成績評価	ディスカッション（20%）、レポート評価（80%）
担当教員の基本情報	担当教員名 : 岡田 薫 研究室 : 5号館3F 生理学教室 メールアドレス : k_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:00-17:00
備考	1年次の生理学Ⅰ、Ⅱの単位取得者を対象とします。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
宮坂 卓治			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>主に内科領域における診察法について、バイタルサインの診察、全身の診察、局所の診察、臨床検査法を系統的に講義します。鍼灸治療における、様々な疾患の診察や鑑別診断を行う上で重要な内容になるため、しっかり学修しましょう。</p> <p>1. バイタルサインの診察について、各項目の正常値および異常値が意味するものを理解し、説明することができるようにしましょう。</p> <p>3. その意義や方法について説明することができるようにしましょう。</p> <p>3. 全身および局所の診察の特徴を理解し、主要な徴候の説明をすることができるようにしましょう。</p> <p>4. はり師きゅう師国家試験における臨床医学総論の出題範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導く事ができるようにしましょう。</p> <p>単純な腰痛と思っていたら、背景に重大な悪性腫瘍が存在していた、という様な事態は、現場では決して稀なことではありません。将来の医療従事者として、緊張感を持って講義に臨まれることを期待します。</p>
授業計画	<p>第1回 バイタルサイン (体温・脈拍・血圧) 【到達目標】 バイタルサインの重要性について説明できる。 体温・脈拍・血圧について、正常と異常を理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 教科書 p 29-36までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第2回 バイタルサイン (呼吸) および全身の診察 (顔貌・精神状態) 【到達目標】 体温・脈拍・血圧について、正常と異常を理解し説明できる。 顔貌・精神状態の診察について、各項目を理解し、説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 37-45までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第3回 全身の診察 (言語、身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位) 【到達目標】 歩行、皮膚・粘膜・皮下組織の診察について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 54-64までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第4回 全身の診察 (歩行、皮膚・粘膜・皮下組織) 【到達目標】 歩行、皮膚・粘膜・皮下組織の診察について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 54-64までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第5回 全身の診察 (爪の状態、リンパ節) 【到達目標】 爪の状態、リンパ節の診察について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 65-67までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第6回 全身の診察 (その他の一般状態)、局所の診察 (頭部、顔面、眼) 【到達目標】 その他の一般状態の概要を理解し説明できる。 頭部、顔面部、眼の診察について、概要を説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 68-75までを予習し授業に臨みましょう。</p> <p>第7回 局所の診察 (眼、鼻、耳、口腔) 【到達目標】</p>

	<p>眼、鼻、耳、口腔の局所の診察を理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 76－82までを予習しましょう。 局所の診察（頸部、胸部、乳房、肺・胸膜、心臓） 【到達目標】 頸部、胸部、乳房、肺・胸膜、心臓の局所の診察を理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 82－89までを予習し授業に臨みましょう。 局所の診察（腹部） 【到達目標】 腹部の局所の診察を理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 90－97までを予習し授業に臨みましょう。 局所の観察（背部、四肢） 【到達目標】 背部、四肢の局所の診察を理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 98－104までを予習し授業に臨みましょう。 救急時・女性・小児・高齢者の診察、臨床検査法（一般検査1） 【到達目標】 救急時、女性、小児、高齢者の診察の特徴を理解し説明できる。 尿検査の概要を理解し、説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 153－161までを予習し授業に臨みましょう。 臨床検査法（一般検査、血液生化学検査） 【到達目標】 便検査、血液検査の概要を理解し説明できる。 血液生化学検査の概要を理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 161－168までを予習し授業に臨みましょう。 臨床検査法（生理学的検査および画像診断の概要） 【到達目標】 心電図、筋電図、脳波、CT、MRIなどの検査の概要を理解し説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p 153－161までを予習し授業に臨みましょう。 総まとめ（定期試験を含む） 【到達目標】 バイタルサインの診察、全身の診察、局所の診察、臨床検査法について説明できる。 【授業形態】 定期試験および問題解説（講義形式）、グループワークを実施します。 【備考】 これまでの講義内容をまとめましょう。 教科書 p 29－104、p 153－180に記載されている内容と授業ノートを復習し授業に臨みましょう。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>(1)解剖学、生理学、病理学の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。(2)復習が重要です。ノートは講義、スライドを書き写すのではなく、自分の言葉で噛みこなして記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストを確認して下さい。予習：講義の範囲の教科書を用いて35分程度の予習を行って下さい。教科書に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。復習：小テストにおいて不正解部分や授業内容に疑問、理解不足な点につき教科書などを用いて35分程度調べましょう。また次回の小テストに向け、授業のポイントをまとめましょう。</p>
教科書	（公社）東洋療法学校協会編 奈良信夫著 “臨床医学総論（改訂第2版）”（医歯薬出版）
参考書	The Merck Manual（世界的に有名な医学テキスト）の日本語訳が無料で閲覧できます： 「 http://merckmanual.jp/mmpej/index.html 」 X線画像等も無料で見る ことができますので、ぜひ利用して下さい。
成績評価	成績評価および留意事項 定期試験（90%）および毎回授業ごと行う理解度確認テスト（10%）により評価します。 小テストの正解および解説は授業中にフィードバックします。

	定期試験の正解および解説は試験時間終了後の授業時間内にフィードバックします。 また、授業形態が状況によりオンデマンドに変更する場合があります。そうなった場合、評価方法を若干変更する場合があります。
担当教員の基本情報	担当教員の基本事項 担当教員名： 宮坂卓治 役職： 柔道整復学科教授 研究室： 柔道整復学科棟4階 メールアドレス： t_miyasaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 火曜日午前11:00~12:00
備考	①信州大学医学部内科学教室に在籍していました。その経験をもとに「臨床医学総論」について講義します。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」：◎-1、○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
丸茂 栄士郎			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義／遠隔（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	本科目では整形外科領域における代表疾患を取り上げる。各疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療などの理解を包括的に行い、鑑別を含む検査や代表的症状を学ぶ事により、より臨床に則した疾患の理解を深めることを目的とする。		
授業計画	第1回	運動機能検査（運動麻痺、筋肉の異常、関節可動域検査、徒手筋力検査法、日常生活動作、徒手による整形外科的検査法） 【到達目標】 1. 運動麻痺、筋肉の異常、関節可動域検査、徒手筋力検査法、日常生活動作の概要について説明できる。 2. 徒手による整形外科的検査の実施方法、検査結果より得られる病態について説明できる。 【備考】 運動機能検査について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書（臨床医学総論）p129`p134, p142`p151	
	第2回	治療法、画像診断、関節炎、可動域の異常 【到達目標】 上記した各項目について概要を説明できる。 【備考】 治療法、画像診断、関節炎、可動域の異常について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第3回	頸部に生じる疾患（頸部変形性頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、頸部脊柱管狭窄症、頸椎捻挫、頸肩腕症候群、斜頸） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 頸部の構造と機能について予習を行うこと。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第4回	肩部に生じる疾患（五十肩、野球肩、石灰性腱炎、腱板断裂、肩峰下インピンジメント症候群、上腕二頭筋長頭腱炎） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 肩の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第5回	肘に生じる疾患（変形性肘関節症、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、野球肘） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 肘の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第6回	上肢に生じる疾患（胸郭出口症候群、手根管症候群、ばね指、ドケルバン病、ヘバーデン結節・ブシャール結節） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 上肢の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第7回	腰部に生じる疾患（腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部変形性脊椎症、腰部脊柱管狭窄症、脊椎分離症、脊椎分離すべり症） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 腰部の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第8回	股に生じる疾患（変形性股関節症、発育性股関節形成不全、ペルテス病） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 股の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第9回	膝に生じる疾患（変形性膝関節症、ジャンパー膝、オスグッド・シュラッター病） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 膝の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習を	

	<p>第10回 すること。 足部に生じる疾患（変形性足関節症、先天性内反足、外反母趾） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 足部の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第11回 脊椎側弯症、脊髄損傷 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 脊椎および脊髄の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第12回 骨代謝性疾患・骨腫瘍（骨粗鬆症、くる病・骨軟化症、転移性骨腫瘍、骨肉腫、骨軟骨腫、ガングリオン） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 骨代謝について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第13回 外傷（筋炎、骨折、脱臼、捻挫） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 炎症、骨折、脱臼、捻挫について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第14回 講義内容のまとめ 【到達目標】 1回目から13回目までの内容に関して評価を行った後に評価結果について解説によりフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	指定された講義の範囲を予習（30分）と講義後に授業の範囲の復習（30分）を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	臨床医学各論 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社） 臨床医学総論 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	適宜知らせる。
成績評価	1. 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 2. 筆記試験100%（100点満点中60点以上を合格とする）
担当教員の基本情報	marumo@meiji-s.ac.jp オフィスアワー：授業直後（火曜日）
備考	教育機関の附属鍼灸院で鍼灸臨床業務に従事。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 本講義は指定された教科書に基づいて行いますので、授業時には必ず教科書を持参して下さい。 本講義ではアクティブラーニングは行いません。 本講義はオンデマンド形式で行います。 【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1】

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
丸茂 栄士郎			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義／対面	
添付ファイル			

授業目標	本科目では神経疾患における代表疾患を取り上げる。各疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療などの理解を包括的に行い、鑑別を含む検査や代表的症状を学ぶ事により、より臨床に則した疾患の理解を深めることを目的とする。		
授業計画	第1回	神経系の診察（感覚検査法、反射検査） 【到達目標】 感覚検査法、反射検査の概要について説明できる。 【備考】 授業前後には教科書、配布資料に基づいた予習・復習をすること。教科書（臨床医学総論）p106~p122	
	第2回	神経系の診察（脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査） 【到達目標】 脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査の概要について説明できる。 【備考】 授業前後には教科書、配布資料に基づいた予習・復習をすること。教科書（臨床医学総論）p123~p127	
	第3回	脳血管疾患（脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、クモ膜下出血） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 脳動脈および脳の機能局在について予習を行うこと。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第4回	感染性疾患（髄膜炎、神経梅毒、ポリオ） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 脊髄の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第5回	脳・脊髄腫瘍（脳腫瘍、脊髄腫瘍） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 腫瘍の特徴について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第6回	運動機能検査（不随意運動、協調運動、起立と歩行） 【到達目標】 不随意運動、協調運動、起立と歩行の概要について説明できる。 【備考】 授業前後には教科書、配布資料に基づいた予習・復習をすること。教科書（臨床医学総論）p134~p141	
	第7回	基底核変性疾患（パーキンソン病、ハンチントン病、脳性麻痺、ウィルソン病） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 大脳基底核を中心に、錐体外路系の機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第8回	その他の変性疾患（脊髄小脳変性症、脊髄空洞症、進行性核上性麻痺） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 脊髄および小脳の機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第9回	認知症性疾患（認知症） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 高次脳機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第10回	筋・運動ニューロン疾患（重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、筋強直性ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 上位運動ニューロン、下位運動ニューロン、神経筋接合部の機能について予習をすること。ま	

	<p>第11回 た、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。 末梢神経性疾患（ギラン・バレー症候群、圧迫性および絞扼性ニューロパチー、末梢性顔面神経麻痺、ラムゼイハント症候群） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 末梢神経の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第12回 神経痛（三叉神経痛、肋間神経痛、坐骨神経痛、後頭神経痛） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 三叉神経、肋間神経、坐骨神経、後頭神経について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第13回 機能性疾患（緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第14回 講義内容のまとめ 【到達目標】 1回目から13回目までの内容に関して評価を行った後に評価結果について解説によりフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	指定された講義の範囲を予習（30分）と講義後に授業の範囲の復習（30分）を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	臨床医学各論 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社） 臨床医学総論 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	適宜知らせる。
成績評価	1. 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 2. 筆記試験100%（100点満点中60点以上を合格とする）
担当教員の基本情報	marumo@meiji-s.ac.jp オフィスアワー：授業直後
備考	教育機関の附属鍼灸院で鍼灸臨床業務に従事。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。本講義は指定された教科書に基づいて行いますので、授業時には必ず教科書を持参して下さい。本講義ではアクティブラーニングは行いません。 【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1】

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
丸茂 栄士郎			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義／対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では腎・泌尿器疾患、小児疾患、一般外科、麻酔科、婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、精神科疾患、心療内科における代表疾患を取り上げる。各疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療などの理解を包括的に行い、鑑別を含む検査や代表的症状を学ぶ事により、より臨床に則した疾患の理解を深めることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 腎・泌尿器疾患（急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 糸球体の構造と機能について予習を行うこと。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第2回 腎・泌尿器疾患（急性腎不全、慢性腎不全、腎盂腎炎、膀胱炎） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 腎臓および膀胱の構造と機能について予習を行うこと。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第3回 腎・泌尿器疾患（腎腫瘍、膀胱癌、腎・尿管結石、前立腺肥大、前立腺癌） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 腎臓、膀胱、尿管、前立腺の構造と機能および腫瘍について予習を行うこと。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第4回 小児疾患 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 小児の特徴について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第5回 一般外科（損傷総論、ショック、外科的感染症、救急処置、心肺蘇生術） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第6回 麻酔科（全身麻酔、局所麻酔） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 全身麻酔、局所麻酔について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第7回 婦人科疾患（子宮頸癌、子宮体癌、乳癌） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 子宮の構造と機能および腫瘍について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第8回 婦人科疾患（更年期障害、月経異常） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 月経周期について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第9回 皮膚科疾患（接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、じんま疹、円形脱毛症） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 皮膚の構造と機能およびアレルギーについて予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第10回 眼科疾患（結膜炎、角膜炎、麦粒腫、白内障、緑内障、眼精疲労、加齢黄斑変性症） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 眼の構造と機能および炎症について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>

	<p>第11回 耳鼻科疾患（メニエール病、中耳炎、突発性難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 中耳および内耳、鼻腔および副鼻腔の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第12回 精神科疾患（神経症、統合失調症、うつ病、アルコール依存症） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 精神状態について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第13回 心療内科（心身症、神経性食欲不振症、神経性過食症） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 心身症、神経性食欲不振症、神経性過食症について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第14回 講義内容のまとめ 【到達目標】 1回目から13回目までの内容に関して評価を行った後に評価結果について解説によりフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	指定された講義の範囲を予習（30分）と講義後に授業の範囲の復習（30分）を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	臨床医学各論 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社） 臨床医学総論 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	適宜知らせる。
成績評価	1. 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 2. 筆記試験100%（100点満点中60点以上を合格とする）
担当教員の基本情報	marumo@meiji-s.ac.jp オフィスアワー：授業直後
備考	教育機関の附属鍼灸院で鍼灸臨床業務に従事。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。本講義は指定された教科書に基づいて行いますので、授業時には必ず教科書を持参して下さい。本講義ではアクティブラーニングは行いません。 【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1】

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
木村 啓作			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習（遠隔授業：オンライン授業）	
添付ファイル			

授業目標	教育方針として、運動機能解剖学では、1-2年次に習得した解剖学及び触察解剖学を踏まえ、骨・骨格筋の機能的な作用が理解できるようになる。また、運動機能障害の発症機序と鑑別診断が理解できるように指導し、鍼灸治療の方針と処方が立てられるよう基礎的な知識の習得を主眼とする。		
授業計画	1	運動機能解剖学のガイダンスおよび運動機能解剖学の基礎について 運動機能解剖学の基礎（関節の種類と運動方向、筋の起始・停止、作用など）が理解できる。 上記関連項目の課題を提出する。	
	2	頰・肩関節部について① 頰肩部の機能的な作用と、頰肩部における運動機能障害の発生機序が理解できる。 上記関連項目の課題を提出する。	
	3	頰・肩関節部について② 頰肩部の機能的な作用と、頰肩部における運動機能障害の発生機序が理解できる。 上記関連項目の課題を提出する。 各自で頰肩部における興味ある障害を選択し、問題の結合組織を抽出するとともに治療方法を検討する（アクティブラーニング）	
	4	肘関節部について 肘関節部の機能的な作用と、肘関節部における運動機能障害の発生機序が理解できる。 上記関連項目の課題を提出する。	
	5	手関節・手部について 手関節・手部の機能的な作用と、肘関節部における運動機能障害の発生機序が理解できる。 上記関連項目の課題を提出する。	
	6	脊柱・体幹部について① 脊柱・体幹部の機能的な作用と、脊柱・体幹部における運動機能障害の発生機序が理解できる。 上記関連項目の課題を提出する。	
	7	脊柱・体幹部について② 脊柱・体幹部の機能的な作用と、脊柱・体幹部における運動機能障害の発生機序が理解できる。 上記関連項目の課題を提出する。 各自で体幹部における興味ある障害を選択し、問題の結合組織を抽出するとともに治療方法を検討する（アクティブラーニング）	
	8	到達度評価 第1回から第7回までの課題内容を各自見直す、その後到達度評価を実施する。	
	9	大腿部・股関節部について 大腿部・股関節部の機能的な作用と、大腿部・股関節部における運動機能障害の発生機序が理解できる。 上記関連項目の課題を提出する。	
	10	膝関節部について 膝関節部の機能的な作用と、膝関節部における運動機能障害の発生機序が理解できる。 上記関連項目の課題を提出する。 各自で膝部における興味ある障害を選択し、問題の結合組織を抽出するとともに治療方法を検討する（アクティブラーニング）	
	11	下腿部・足関節・足部について 下腿部・足関節・足部の機能的な作用と、足関節・足部における運動機能障害の発生機序が理解できる。 上記関連項目の課題を提出する。	
	12	姿勢・歩容について 歩容・姿勢の捉え方とそのアセスメントが理解できる。 上記関連項目の課題を提出する。	
	13	まとめ 第1回から第12回までの課題を各自見直し、理解を深める。	
	14	期末到達度評価	
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布資料による復習（30分）		
教科書	・「運動機能解剖学の配布資料」		
参考書	・「運動器疾患の機能解剖学に基づく評価と解釈」 ・「運動機能障害のなぜ？がわかる評価戦略」 ・「運動療法のための機能解剖的触診技術」		

成績評価	<p>本科目は遠隔授業（同時双方向、課題配布）で実施する。 5分の3以上の出席と、課題提出・到達度テストの提出を満たした者について評価する。 課題の提出内容によって優・良・可の成績を評価する。例えば、提出課題が5つある場合、成績「可」で良ければ2つの課題を提出し、成績「優」を目指しているのであれば5つの課題を提出する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 木村啓作 研究室 : 附属病院2階教員室 メールアドレス : k_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 11:20-13:00</p>
備考	<p>1. 実務経験 担当者は鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センター勤務。ポルトガルクリニック土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス、フィギュアスケーターおよびトレイルランナートレーナーとして実務経験があり、実務内容にも基づきこの科目を進める。</p> <p>2. ディプロマポリシーとの関連 ◎-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
木村 篤史			
鍼灸学科	30時間	講義（遠隔授業：オンライン授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 リハビリテーションとは“単に「歩く訓練」や「筋力トレーニング」を行うことである”という誤った理解をされることが多い。リハビリテーションとは、多くの職種が協力して患者が社会復帰し、新たな人生の再構築をするための「取り組み」の全てのことを指しており、鍼灸師もその一役を担う重要な職種である。したがって、鍼灸師を目指す諸君はリハビリテーションについて正しい理解をする必要があるとともに、患者が社会復帰するにあたって問題となっている理由を見つけ、それらを解決するための適切な方法を見出す能力を身につける必要がある。そのような背景のもと、授業計画にあるような内容を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①リハビリテーションとは？という問いに対して正しく答えることができる。 ②各疾患によって生じる「障害」の理解・分類・解決に導くための考え方を理解できる。 ③各単元の終了時には、その単元の内容を含む小テストに対して正しい解答を導き出すことができる。</p>
授業計画	<p>1回 リハビリテーション概念 [授業概要] リハビリテーションの概念、歴史について学習する。 [到達目標・学習目標] リハビリテーションの概念、歴史について理解することができる。</p> <p>2回 障害の概念 [授業概要] リハビリテーション医学の基礎医学である障害の概念について学習する。 [到達目標・学習目標] リハビリテーション医学の基礎医学である障害の概念について理解することができる。</p> <p>3回 リハビリテーション医学の分野、その対象について [授業概要] リハビリテーション医学の分野、対象、時期による分類について学習する。 [到達目標・学習目標] リハビリテーション医学の分野、対象、時期による分類について理解することができる。</p> <p>4回 障害の評価1 [授業概要] 心身機能・身体構造の評価について学習する。 [到達目標・学習目標] 心身機能・身体構造の評価について理解することができる。</p> <p>5回 障害の評価2 [授業概要] 活動の評価、参加の評価、合併症の評価について学習する。 [到達目標・学習目標] 活動の評価、参加の評価、合併症の評価について理解することができる。</p> <p>6回 リハビリテーション治療1 [授業概要] 理学療法（運動療法）について学習する。 [到達目標・学習目標] 理学療法（運動療法）について理解することができる。</p> <p>7回 リハビリテーション治療2 [授業概要] 理学療法（物理療法）、作業療法、言語聴覚療法について学習する。 [到達目標・学習目標] 理学療法（物理療法）、作業療法、言語聴覚療法について理解することができる。</p> <p>8回 リハビリテーション治療3 [授業概要] 義肢装具などの補装具、リハビリテーション看護について学習する。 [到達目標・学習目標] 義肢装具などの補装具、リハビリテーション看護について理解することができる。</p> <p>9回 運動のしくみ（運動学）1 [授業概要] 運動学の基礎（関節の力学、姿勢、反射と随意運動）について学習する。 [到達目標・学習目標] 運動学の基礎（関節の力学、姿勢、反射と随意運動）について理解することができる。</p> <p>10回 運動のしくみ（運動学）2 [授業概要] 身体各部の機能（脊柱、体幹、上肢）について学習する。 [到達目標・学習目標] 身体各部の機能（脊柱、体幹、上肢）について理解することができる。</p> <p>11回 運動のしくみ（運動学）3</p>

	<p>[授業概要] 身体各部の機能（下肢）について学習する。 [到達目標・学習目標] 身体各部の機能（下肢）について理解することができる。 運動のしくみ（運動学）4</p> <p>[授業概要] 身体各部の機能（正常歩行と異常歩行、顔面と頭部の筋）について学習する。 [到達目標] 身体各部の機能（正常歩行と異常歩行、顔面と頭部の筋）について理解することができる。 第1回～第12回までのまとめ</p> <p>[授業概要] 1回～12回までの講義内容について総まとめの復習を国家試験形式の問題を基に行う。 [到達目標] 1回～12回までの講義内容を網羅した国家試験形式の問題の解答を導き出せる。</p> <p>14回 評価・総括 [授業概要] 上記の学習内容の理解度を確認するための評価として筆記試験を実施する。評価実施後に筆記試験の設問に対する解答について解説を行う。 [到達目標・学習目標] 評価として筆記試験を受けることで、これまでの学習内容の到達度を確認することが出来る。また、筆記試験の設問に対する解説を聞くことで、本講の全体的な復習となる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	準備学習として、次の講義に該当する教科書の項目と事前に配布する資料を予め熟読すること。（予習35分） 終了した講義の内容について、教科書の該当する項目の熟読と課題の見直しをすること。（復習35分） 解決しない場合は担当教員にメール等で連絡し、オフィスアワーに質問すること。
教科書	「リハビリテーション医学（第4版）」東洋療法学校協会編 土肥信之著（医歯薬出版）
参考書	「リハビリテーション医学（PT・OTビジュアルテキスト専門基礎）」 安保雅博（監修）（羊土社） 「リハビリテーションビジュアルブック第2版」 落合慈之（監修）（学研メディカル秀潤社） 「基礎運動学（第6版）」 中村隆一著（医歯薬出版）
成績評価	第14回目の筆記試験の得点により評価する。得点が合格点に達しない場合は追試験を実施する。
担当教員の基本情報	担当教員名：木村篤史 研究室：なし（附属病院総合リハビリテーションセンターまで） メールアドレス：a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：メールにて事前連絡の後、随時調整する
備考	①病院のリハビリテーションセンターにて理学療法士として25年間の実務経験を有する。その実務経験を基にリハビリテーション医学に関する内容について授業を進める。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ③アクティブラーニングの有無：有り。具体的には、各単元時の課題に対する解答作成にあたり、自発的に問題解決に取り組む。 ④課題に対するフィードバックの方法：講義時間内に口頭にて実施する。

講義科目名称： リハビリテーション学各論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
木村 篤史			
鍼灸学科	30時間	講義	(遠隔授業：オンライン授業)
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 前期の「リハビリテーション学総論」で学んだ基本的な内容を踏まえた上で、各疾患のリハビリテーションについてそれぞれ学習する。具体的には、各疾患による「障害」、「障害の評価」、「リハビリテーションの具体的な内容」について、実際の症例を動画や写真などを提示しながら講義を進める。</p> <p>【到達目標】 ①各疾患による「障害」、「障害の評価」、「リハビリテーションの具体的な内容」について理解することができる。</p>
授業計画	<p>1回 脳卒中のリハビリテーション1 [授業概要] 脳卒中による障害について学習する。 [到達目標・学習目標] 脳卒中による障害について理解することができる。</p> <p>2回 脳卒中のリハビリテーション2 [授業概要] 脳卒中の急性期、回復期、生活期のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] 脳卒中の急性期、回復期、生活期のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>3回 脊髄損傷のリハビリテーション1 [授業概要] 脊髄損傷による障害について学習する。 [到達目標・学習目標] 脊髄損傷による障害について理解することができる。</p> <p>4回 脊髄損傷のリハビリテーション2 [授業概要] 脊髄損傷の急性期、回復期、生活期のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] 脊髄損傷の急性期、回復期のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>5回 切断のリハビリテーション [授業概要] 切断の原因、切断の分類と特徴、切断の合併症について学習する。 [到達目標] 切断の原因、切断の分類と特徴、切断の合併症について理解する。</p> <p>6回 小児のリハビリテーション [授業概要] 脳性麻痺の定義、障害、リハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 脳性麻痺の定義、障害、リハビリテーションについて理解する。</p> <p>7回 呼吸器、心疾患のリハビリテーション [授業概要] 呼吸器、心疾患のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 呼吸器、心疾患のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>8回 運動器疾患のリハビリテーション1 [授業概要] 肩関節周囲炎、頸腕障害、腰痛のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] 肩関節周囲炎、頸腕障害、腰痛のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>9回 運動器疾患のリハビリテーション2 [授業概要] 変形性膝関節症、変形性股関節症、大腿骨近位部骨折のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] 変形性膝関節症、変形性股関節症、大腿骨近位部骨折のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>10回 運動器疾患のリハビリテーション3 [授業概要] スポーツ傷害、関節リウマチのリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] スポーツ傷害、関節リウマチのリハビリテーションについて理解する。</p> <p>11回 末梢神経障害のリハビリテーション [授業概要] 末梢神経障害のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] 末梢神経障害のリハビリテーションについて理解する。</p>

	<p>12回 パーキンソン病のリハビリテーション [授業概要] パーキンソン病のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] パーキンソン病のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>13回 第1回～12回までのまとめ [授業概要] 1回～12回までの講義内容について総まとめの復習を国家試験形式の問題を基に行う。 [到達目標] 1回～12回までの講義内容を網羅した国家試験形式の問題の解答を導き出せる。</p> <p>14回 評価・総括 [授業概要] 上記の学習内容の理解度を確認するための評価として筆記試験を実施する。評価実施後に筆記試験の設問に対する解答について解説を行う。 [到達目標・学習目標] 評価として筆記試験を受けることで、これまでの学習内容の到達度を確認することが出来る。また、筆記試験の設問に対する解説を聞くことで、本講の全体的な復習となる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	準備学習として、次の講義に該当する教科書の項目を予め熟読すること。(予習35分) 終了した講義の内容について、教科書の該当する項目を熟読すること。(復習35分) 解決しない場合は担当教員にメールで連絡し、オフィスアワーに質問すること。
教科書	「リハビリテーション医学(第4版)」東洋療法学校協会編 土肥信之著(医歯薬出版)
参考書	「リハビリテーション医学(PT・OTビジュアルテキスト専門基礎)」安部雅博(監修)(羊土社) 「リハビリテーションビジュアルブック第2版」落合慈之(監修)(学研メディカル秀潤社)
成績評価	第14回目の筆記試験の得点により評価する。得点が合格点に達しない場合は追試験を実施する。
担当教員の基本情報	担当教員名：木村篤史 研究室：なし(附属病院総合リハビリテーションセンターまで) メールアドレス：a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：メールにて事前連絡の後、随時調整する
備考	①病院のリハビリテーションセンターにて理学療法士として25年間の実務経験を有する。その実務経験を基にリハビリテーション医学に関する内容について授業を進める。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1 ③アクティブラーニングの有無：有り。具体的には、各単元時に課題に対する解答作成にあたり、自発的に問題解決に取り組む。 ④課題に対するフィードバックの方法：講義時間内に口頭にて実施する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
田口 玲奈			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習+対面	
添付ファイル			

授業目標	鍼灸の科学的研究を通して、鍼灸作用に関する基礎医学的知識を身に付ける。 鍼灸研究のこれまでの概要と鍼灸作用である鍼鎮痛の作用機序、各種生体機能（内臓、器官）、運動器系に及ぼす影響の作用機序についての知識および、鍼灸の治効理論と関連学説についての知識を身に付ける。		
授業計画	1回目	ガイダンス、鍼の基礎知識、刺鍼方法、基本17手技、特殊鍼法 【到達目標】 鍼の形態、刺鍼方法について説明できる。 基本17手技について説明できる。 特殊鍼法について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）	
	2回目	灸の基礎知識、灸術、鍼灸の臨床的応用、適応と禁忌 【到達目標】 灸の基礎知識について説明できる。 灸術の種類について説明できる。 鍼灸の刺激量について説明できる。 鍼灸施術の適応と禁忌について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）	
	3回目	鍼灸施術におけるリスク管理 【到達目標】 気胸の原因・症状・対応・予防について説明できる。 折鍼の原因・対応・予防について説明できる。 出血・内出血の原因・対応・予防について説明できる。 抜鍼困難の原因・対応・予防について説明できる。 脳貧血の原因・対応・予防について説明できる。 臓器への刺鍼リスクについて説明できる。 灸痕化膿の原因・対応・予防について説明できる。 灸あたりの原因・対応・予防について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）	
	4回目	感染症対策 【到達目標】 消毒と滅菌について説明できる。 手指消毒と患部消毒について説明できる。 器具の滅菌について説明できる。 肝炎とエイズなどの感染症に対する対策について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）	
	5回目	鍼刺激（痛み感覚）の受容と伝導 【到達目標】 痛みの受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 内因性発痛物質について説明できる。 痛覚伝導路について説明できる。 関連痛について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）	
	6回目	鍼刺激（触圧感覚）の受容と伝導 【到達目標】 触圧受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 触覚伝導路について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）	
	7回目	灸刺激（温感覚）の受容と伝導 【到達目標】 温受容器・冷受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 温覚伝導路について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）	
	8回目	鍼灸治効機序と反射 【到達目標】 反射について説明できる。	

	<p>体性-運動反射（伸張反射、拮抗抑制、屈曲反射、自原抑制）について説明できる。 軸索反射について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>9回目 鍼灸治効機序と自律神経1 【到達目標】 自律神経について説明できる。 自律神経系の神経伝達物質と受容体について説明できる。 交感神経・副交感神経・内臓求心性神経について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>10回目 鍼灸治効機序と自律神経2 【到達目標】 体性-内臓反射による鍼灸の効果について説明できる。 鍼灸刺激による胃運動の反応について説明できる。 鍼灸刺激による膀胱運動の反応について説明できる。 鍼灸刺激による血圧の反応について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>11回目 鍼灸治効機序と生体防御機構 【到達目標】 鍼灸刺激で遊離される内因性発痛物質とその作用について説明できる。 鍼灸刺激による免疫系への影響について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>12回目 鍼鎮痛 【到達目標】 鍼麻酔の長所と短所について説明できる。 鍼鎮痛の特徴（内因性鎮痛機構）について説明できる。 下行性疼痛抑制系について説明できる。 内因性モルヒネ様物質について説明できる。 ゲートコントロール説について説明できる。 広汎性侵害抑制調節について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>13回目 鍼灸治効機序と関連学説 【到達目標】 鍼灸施術とサイバネティックス学説との関連について説明できる。 鍼灸施術とホメオスターシスとの関連について説明できる。 鍼灸施術と汎適応症候群との関連について説明できる。 鍼灸施術と過剰刺激症候群との関連について説明できる。 鍼灸施術と圧発汗反射との関連について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>14回目 鍼灸施術の治療的作用と評価 【到達目標】 鍼灸施術治療的作用について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション） 【評価】 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・「生理学」「解剖学」を良く復習しておくこと。 ・配布資料を熟読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問して解決すること。 ・課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「はりきゅう理論」教科書執筆小委員会著（医道の日本社）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「鍼灸臨床最新科学ーメカニズムとエビデンスー」川喜田健司、矢野忠 編集（医歯薬出版） ・「生理学ー第2版ー」佐藤優子、佐藤昭夫 他著（医歯薬出版） ・「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎昭弘著（医歯薬出版） ・「鍼灸臨床の科学」西條一止、熊澤孝朗監修（医歯薬出版）
成績評価	評価方法と評価割合（筆記試験95%、受講態度5%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 田口 玲奈 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:50-17:30</p>
備考	<p>1, 実務経験 田口玲奈：京都桂川鍼灸院への勤務経験、附属鍼灸センターでの実務経験（16年）をもとに実習指導を行う。</p> <p>2, この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2</p>

講義科目名称： はり・きゅう治効学Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
田口 玲奈			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習+対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、はり師・きゅう師国家試験対策として位置づけられる。 はり師・きゅう師国家試験の中でも、はり理論・きゅう理論の問題の出題傾向とその対策について考える。 はり理論・きゅう理論の問題を解くための知識を確認し、鍼灸の科学研究を通して、鍼灸作用に関する基礎医学的知識を身に付ける。</p>		
授業計画	1回目	<p>ガイダンス、はり師・きゅう師国家試験問題の分析、鍼の基礎知識、刺鍼方法</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：分析、後半：プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 過去10年間のはり・きゅう理論国家試験問題（はり理論・きゅう理論）の傾向を分析し、現状を知る。 鍼の形態、刺鍼方法について説明できる。 鍼の形態、刺鍼方法に関する国家試験問題について解説できる。</p>	2回目
	2回目	<p>基本17手技、特殊鍼法、灸の基礎知識、</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 基本17手技について説明できる。 特殊鍼法について説明できる。 灸の基礎知識について説明できる。 基本17手技・特殊鍼法・灸の基礎知識に関する国家試験問題について解説できる。</p>	3回目
	3回目	<p>灸術、鍼灸の臨床的応用、適応と禁忌</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 灸術の種類について説明できる。 鍼灸の刺激量について説明できる。 鍼灸施術の適応と禁忌について説明できる。 灸術の種類・鍼灸の刺激量・鍼灸施術の適応と禁忌に関する国家試験問題について解説できる。</p>	4回目
	4回目	<p>鍼灸施術におけるリスク管理</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 気胸の原因・症状・対応・予防について説明できる。 折鍼の原因・対応・予防について説明できる。 出血・内出血の原因・対応・予防について説明できる。 抜鍼困難の原因・対応・予防について説明できる。 脳貧血の原因・対応・予防について説明できる。 臓器への刺鍼リスクについて説明できる。 灸痕化膿の原因・対応・予防について説明できる。 灸あたりの原因・対応・予防について説明できる。 鍼灸施術におけるリスク管理に関する国家試験問題について解説できる。</p>	5回目
	5回目	<p>感染症対策</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 消毒と滅菌について説明できる。 手指消毒と患部消毒について説明できる。 器具の滅菌について説明できる。 肝炎とエイズなどの感染症に対する対策について説明できる。 感染症対策に関する国家試験問題について解説できる。</p>	6回目
	6回目	<p>鍼刺激（痛み感覚）の受容と伝導</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 痛みの受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 内因性発痛物質について説明できる。 痛覚伝導路について説明できる。 関連痛について説明できる。</p>	

7回目	<p>鍼刺激（痛み感覚）の受容と伝導に関する国家試験問題について解説できる。 鍼刺激（触圧感覚）の受容と伝導 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 触圧受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 触覚伝導路について説明できる。</p>
8回目	<p>鍼刺激（触圧感覚）の受容と伝導に関する国家試験問題について解説できる。 灸刺激（温感覚）の受容と伝導 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 温受容器・冷受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 温覚伝導路について説明できる。</p>
9回目	<p>鍼灸治効機序と反射 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 反射について説明できる。 体性-運動反射（伸張反射、拮抗抑制、屈曲反射、自原抑制）について説明できる。 軸索反射について説明できる。</p>
10回目	<p>鍼灸治効機序と自律神経 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 自律神経について説明できる。 自律神経系の神経伝達物質と受容体について説明できる。 交感神経・副交感神経・内蔵求心性神経について説明できる。 体性-内臓反射による鍼灸の効果について説明できる。 鍼灸刺激による胃運動の反応について説明できる。 鍼灸刺激による膀胱運動の反応について説明できる。 鍼灸刺激による血圧の反応について説明できる。</p>
11回目	<p>鍼灸治効機序と生体防御機構 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 鍼灸刺激で遊離される内因性発痛物質とその作用について説明できる。 鍼灸刺激による免疫系への影響について説明できる。</p>
12回目	<p>鍼灸治効機序と生体防御機構に関する国家試験問題について解説できる。 鍼鎮痛 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 鍼鎮痛の長所と短所について説明できる。 鍼鎮痛の特徴（内因性鎮痛機構）について説明できる。 下行性疼痛抑制系について説明できる。 内因性モルヒネ様物質について説明できる。 ゲートコントロール説について説明できる。 広汎性侵害抑制調節について説明できる。</p>
13回目	<p>鍼灸治効機序と関連学説 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 鍼灸施術とサイバネティクス学説との関連について説明できる。 鍼灸施術とホメオスターシスとの関連について説明できる。 鍼灸施術と汎適応症候群との関連について説明できる。 鍼灸施術と過剰刺激症候群との関連について説明できる。 鍼灸施術と圧発汗反射との関連について説明できる。</p>
14回目	<p>鍼灸治効機序と関連学説に関する国家試験問題について解説できる。 鍼灸施術の治療的作用と評価 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：演習、後半：解説プレゼンテーション）</p> <p>【学習目標】 鍼灸施術治療的作用について説明できる。 鍼灸施術治療的作用に関する国家試験問題について解説できる。</p> <p>【評価】 筆記試験</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・「生理学」「解剖学」を良く復習しておくこと。 ・配布資料を熟読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問して解決すること。 ・課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	・「はりきゅう理論」教科書執筆小委員会著 (医道の日本社)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「鍼灸臨床最新科学ーメカニズムとエビデンスー」川喜田健司、矢野忠 編集 (医歯薬出版) ・「生理学ー第2版ー」佐藤優子, 佐藤昭夫 他著 (医歯薬出版) ・「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎昭弘著 (医歯薬出版) ・「鍼灸臨床の科学」西條一止, 熊澤孝朗監修 (医歯薬出版)
成績評価	評価方法と評価割合 (筆記試験95%, 受講態度5%)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田口 玲奈 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:50-17:30
備考	1, 実務経験 田口玲奈: 京都桂川鍼灸院への勤務経験、附属鍼灸センターでの実務経験 (16年) をもとに実習指導を行う。 2, この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
和辻直、吉田行宏			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>応用はり技術学実習では様々な特殊鍼法を中心に学ぶ。基礎はり技術学実習で学んだ身体各部位への刺鍼技術を復習する。</p> <p>刺鍼に際しての注意点（刺入深度、角度など）や、鍼による過誤や副作用について理解した上で、特殊鍼法と安全・衛生的な鍼技術の修得を目標とする。</p> <p>基本的な鍼技術法に加えて、特殊鍼法を安全・衛生的な鍼技術で行うことができるようになる。また鍼灸臨床の素養として、鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行い、実習の準備や後片付けを身につけることができるようになる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスおよび身体刺鍼を行なう。 [到達目標] 本科目の趣旨を理解し、自身の下肢前面・外側への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって刺入できる。 [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：基礎はり技術学の内容を確認する。復習：下肢経穴の取穴や下肢への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>2回目 クリーンニードル・テクニックを学ぶ [到達目標] 無菌的な清潔操作による刺鍼技術として、クリーンニードル・テクニックの必要性を理解し習得できるようにする。 鍼体を直接に触れずに行う刺鍼技術を習得できるようにする。 [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：クリーンニードル・テクニックの種類を予習する。復習：クリーンニードル・テクニックの刺鍼の流れを確認する。</p> <p>3回目 鍼通電を学ぶ [到達目標] 低周波鍼通電刺激の手順と安全管理、および通電器の使用方法を理解し、安全に操作できるようにする。 その上で、四肢や腰背への鍼通電の技術を習得できるようにする。 [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：鍼通電について、教科書による予習を行う。復習：鍼通電について、刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>4回目 鍼通電を学ぶ [到達目標] 低周波鍼通電刺激の手順と安全管理、および通電器の使用方法を理解し、安全に操作できるようにする。 その上で、四肢や腰背への鍼通電の技術を習得できるようにする。 [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：鍼通電について、教科書による予習を行う。復習：鍼通電について、刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>5回目 皮内鍼と円皮鍼を学ぶ [到達目標] 皮内鍼・円皮鍼の歴史、方法、種類などの基本を理解する。皮内鍼・円皮鍼による圧痛部への施術法を習得できるようにする。 皮内鍼・円皮鍼の扱い方、注意事項や安全対策を理解し、活用できるようにする。 [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：皮内鍼・円皮鍼について教科書で予習する。復習：皮内鍼・円皮鍼について刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>6回目 小児鍼を学ぶ [到達目標] 小児鍼の理論と手法を理解する。小児鍼の手技として接触鍼法と摩擦鍼法の手順を理解し習得できるようにする。 小児鍼の扱い方、注意事項や安全対策を理解し、活用できるようにする。 [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：小児鍼について教科書で予習する。復習：小児鍼について刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>7回目 耳鍼療法を学ぶ [到達目標] 耳鍼療法の理論と手法を理解する。耳鍼療法を実際に行い、その手順を理解し習得できるようにする。 耳鍼療法の扱い方、注意事項や安全対策を理解し、活用できるようにする。 [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：小耳鍼療法について教科書で予習する。復習：耳鍼療法について刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>8回目 灸頭鍼を学ぶ [到達目標] 灸頭鍼の理論と手法を理解する。灸頭鍼を実際に行い、その手順を理解し習得でき</p>

	<p>るようにする。 灸頭鍼の扱い方、注意事項や安全対策について理解し、活用できるようにする。 〔備考〕 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：灸頭鍼について教科書で予習する。復習：灸頭鍼について刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>9回目 灸頭鍼を学ぶ 〔到達目標〕 灸頭鍼の理論と手法を理解する。灸頭鍼を実際に行い、その手順を理解し習得できるようにする。</p> <p>〔備考〕 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 灸頭鍼について、教科書および配布資料による予習と復習をすること。</p> <p>10回目 頭皮鍼（通電含む）、顔面鍼 〔到達目標〕 頭皮鍼（通電含む）、顔面鍼の理論と手法を理解する。頭皮鍼と顔面鍼の手順を理解し習得できるようにする。 頭皮鍼と顔面鍼の扱い方、注意事項や安全対策について理解し、活用できるようにする。</p> <p>〔備考〕 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：頭皮鍼と顔面鍼について教科書で予習する。復習：頭皮鍼と顔面鍼について刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>11回目 一般鍼技術の再確認、応用鍼技術の復習 〔到達目標〕 これまで習得した特殊鍼法と一般刺鍼の復習を行なう。他者への刺鍼練習を行い、安全な刺鍼技術を習得できるようにする。 鍼技術の課題を与えて時間内に安全に終わることができるかを練習する。</p> <p>〔備考〕 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：特殊鍼法と一般刺鍼を教科書で予習する。復習：特殊鍼法と一般刺鍼について刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>12回目 見極めの評価と応用鍼技術の復習 1 〔到達目標〕 安全かつ衛生的に、指示された特殊鍼法の技術と一般刺鍼技術が一定の水準に到達しているかを評価する。 特殊鍼法実技の総復習を行い、その手順を理解し習得する。</p> <p>〔備考〕 見極め実技評価に参加しない者は、応用はり技術学などの配布資料で復習し、はり技術学の重要事項を暗記する。 また教科書を用いての総合的な復習を行うこと。</p> <p>13回目 見極めの評価と応用鍼技術の復習 2 〔到達目標〕 安全かつ衛生的に、指示された特殊鍼法の技術と一般刺鍼技術が一定の水準に到達しているかを評価する。 特殊鍼法実技の総復習を行い、その手順を理解し習得する。</p> <p>〔備考〕 見極め実技評価に参加しない者は、応用はり技術学などの配布資料で復習し、はり技術学の重要事項を暗記する。 また教科書を用いての総合的な復習を行うこと。</p> <p>14回目 見極めの評価と応用鍼技術の復習 3 〔到達目標〕 安全かつ衛生的に、指示された特殊鍼法の技術と一般刺鍼技術が一定の水準に到達しているかを評価する。 特殊鍼法実技の総復習を行い、その手順を理解し習得する。</p> <p>〔備考〕 見極め実技評価に参加しない者は、応用はり技術学などの配布資料で復習し、はり技術学の重要事項を暗記する。 また教科書を用いての総合的な復習を行うこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	『図解 鍼灸臨床手技マニュアル』を用いて関連項目の予習と復習を行うとともに、自己による技術トレーニングをしていただきたい。
教科書	『図解 鍼灸臨床手技マニュアル』 尾崎 昭弘著 （医歯薬出版株式会社）
参考書	『鍼灸医療安全ガイドライン』尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 （医歯薬出版株式会社）
成績評価	出席日数（4/5以上）を満たしものに対して評価を実施する。 評価は人体への刺鍼（鍼通電、灸頭鍼）を行い、優・良・可・不可で評価する。 安全に実習を行えない者、実習態度（私語やルールを守れない等）が著しく悪い者に対しては単位を認めないことがある。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直、吉田行宏 研究室 : 鍼灸センター2階 教授室、教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp、t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	実習の場合は必ず白衣、名札、施灸道具を持って来ること。白衣を忘れた場合は実習に参加できないことがあるので留意すること。 服装は鍼技術を行うに適したものであること。
	附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。 アクティブラーニング：授業内に自己練習として、刺鍼練習台や自らの手足を用いた刺鍼の練習、片手挿管の練習を行う。 DP：◎-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
吉田行宏、和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習／対面	
添付ファイル			

授業目標	本科目は入門きゅう技術学実習、基礎きゅう技術学実習で学んだ知識と技術を基に、患者への灸治療を想定した直接灸と間接灸の技術習得と、安全で効果的かつスピーディーな施灸技術の習得を目標とする。 具体的には、人体に対する米粒大(八分灸、紫雲膏灸)、半米粒大(紫雲膏灸)、糸状灸(透熱灸)、大豆大(知熱灸)などの様々な灸法を学生同士で実施する。
授業計画	<p>1回目 糸状灸1 【到達目標】糸状灸が作成できる。 糸状灸でちりげの灸、逆子の灸ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>2回目 糸状灸2 【到達目標】糸状灸で関節部への施灸（関節痛&捻挫に対する施灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>3回目 知熱灸1 【到達目標】大豆大の知熱灸で肩背部と足部への施灸（冷えに対する施灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>4回目 知熱灸2 【到達目標】大豆大の知熱灸で肩背部と足部への施灸（冷えに対する施灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>5回目 糸状灸と知熱灸1 【到達目標】糸状灸と知熱灸で肩背部への施灸（肩こりに対する施灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>6回目 糸状灸と知熱灸2 【到達目標】糸状灸と知熱灸で肩背部への施灸（肩こりに対する施灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>7回目 糸状灸と知熱灸3 【到達目標】糸状灸と知熱灸で肩背部への施灸（全身調整のための施灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>8回目 糸状灸と知熱灸4 【到達目標】糸状灸と知熱灸で肩背部への施灸（全身調整のための施灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>9回目 糸状灸と知熱灸5 【到達目標】糸状灸と知熱灸で四肢への施灸ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>10回目 焦灼灸 【到達目標】焦灼灸が理解できる。 焦灼灸の施灸ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>11回目 熱緩和法 【到達目標】熱緩和法が理解できる。 灸点紙等を用いた熱緩和法ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う</p>

	<p>【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>12回目 人体への施灸の総復習及び評価1</p> <p>【到達目標】 人体各部位へ臨床に即した安全で効果的な施灸（糸状灸、米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。</p> <p>【授業形態】実習／対面、1～11回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバックを行う。</p> <p>【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>13回目 人体への施灸の総復習及び評価2</p> <p>【到達目標】 人体各部位へ臨床に即した安全で効果的な施灸（糸状灸、米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。</p> <p>【授業形態】実習／対面、1～11回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバックを行う。</p> <p>【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>14回目 人体への施灸の総復習及び評価3</p> <p>【到達目標】 人体各部位へ臨床に即した安全で効果的な施灸（糸状灸、米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。</p> <p>【授業形態】実習／対面、1～11回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバックを行う。</p> <p>【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	施灸用紙を用いた直接灸の課題を出すので授業毎に必ず提出(2枚)すること。
教科書	『 図解 鍼灸臨床手技マニュアル 』 尾崎 昭弘著 （医歯薬出版株式会社）
参考書	『 鍼灸医療安全ガイドライン 』 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 （医歯薬出版株式会社） 『 はりきゅう実技 基礎編 第2版 』 教科書執筆小委員会（医道の日本社）
成績評価	出席日数（4/5以上）を満し、施灸用紙の課題提出をすべて行ったものに対して評価を実施する。 評価は施灸用紙（40壮/5分）と人体への施灸（糸状灸、大豆大知熱灸、米粒大8分灸、半米粒大紫雲膏灸）を行い、優・良・可・不可で評価する。 安全に実習を行えない者、実習態度（私語やルールを守れない等）が著しく悪い者に対しては単位を認めないことがある。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 吉田行宏、和辻 直 研究室 : 鍼灸センター2階 教授室、教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp、t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	実習時は必ず白衣、名札、鍼灸道具を持って来ること。 白衣、名札を3回忘れた場合は実習に参加できないことがあるので留意すること。 服装は施灸を行うに適したものであること。 サンダルは認めない。 授業開始までに所定の準備をすること。
	担当者は附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。
	アクティブラーニング：施灸手技が適切に行えているのかを担当教員が評価しフィードバックする。また、場合によっては動画で提出し、適切に行えているのかをフィードバックする。
	DPとの関連：◎-5、○-3、○-4

講義科目名称： 臨床はり・きゅう技術学 I (筋・神経)

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
谷口 剛志・岡田 岬			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>目的 本実習は、筋・神経の走行、治療対象となる主要部位・経穴を理解し、安全で適切なはりきゅう施術が実施出来る技術を修得することを目的としています。</p> <p>目標 1. 筋の走行を理解すること 2. 神経の走行を理解すること 3. 主要部位・経穴を理解すること 4. 安全で適切なはりきゅう技術を修得すること</p>
授業計画	<p>第1回 脊柱起立筋刺鍼法 【到達目標】 1. 筋の走行を理解し、触診できる。 2. 支配神経を理解する。 3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第2回 腰神経刺鍼法 【到達目標】 1. 神経の走行を理解する。 2. 神経走行上の主要部位を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第3回 梨状筋刺鍼法 【到達目標】 1. 筋の走行を理解し、触診できる。 2. 支配神経を理解する。 3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第4回 坐骨神経刺鍼法 【到達目標】 1. 神経の走行を理解する。 2. 神経走行上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第5回 総腓骨神経刺鍼法 【到達目標】 1. 神経の走行を理解する。 2. 神経走行上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第6回 大腿四頭筋刺鍼法 【到達目標】 1. 筋の走行を理解し、触診できる。 2. 支配神経を理解する。 3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第7回 大腿二頭筋刺鍼法 【到達目標】 1. 筋の走行を理解し、触診できる。 2. 支配神経を理解する。 3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第8回 腓腹筋刺鍼法 【到達目標】</p>

	<p>1. 筋の走行を理解し、触診できる。</p> <p>2. 支配神経を理解する。</p> <p>3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>1. 教員のデモンストレーション</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第9回 僧帽筋（上部）刺鍼法</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 筋の走行を理解し、触診できる。</p> <p>2. 支配神経を理解する。</p> <p>3. 筋上の主要経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>1. 教員のデモンストレーション</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第10回 肩甲挙筋刺鍼法</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 筋の走行を理解し、触診できる。</p> <p>2. 支配神経を理解する。</p> <p>3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>1. 教員のデモンストレーション</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第11回 橈骨神経刺鍼法</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 神経の走行を理解する。</p> <p>2. 神経走行上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>1. 教員のデモンストレーション</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第12回 尺骨神経刺鍼法</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 神経の走行を理解する。</p> <p>2. 神経走行上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>1. 教員のデモンストレーション</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第13回 正中神経刺鍼法</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 神経の走行を理解する。</p> <p>2. 神経走行上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>1. 教員のデモンストレーション</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第14回 総合 実技試験を実施します。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	事前学習として、運動器の局所解剖（筋・神経）を確認しておくこと
教科書	「図解鍼灸療法技術ガイドI」 矢野 忠編（文光堂）
参考書	「運動器疾患の治療 整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸」 平澤泰介編（医歯薬出版）
成績評価	受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の4/5 以上の出席者に対し、評価を実施します。 評 価：前期末実技試験（100%）で評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名</p> <p>○谷口剛志</p> <p>所属：鍼灸学部鍼灸学講座、附属病院2階鍼灸教員室、アスリートサポートセンター</p> <p>メールアドレス：t_taniguchi@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：木曜日13:50 - 16:00</p> <p>岡田 岬</p> <p>所属：鍼灸学部鍼灸学講座、附属病院2階鍼灸教員室</p> <p>メールアドレス：m_okada@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：木曜日13:50 - 16:00</p>
備考	<p>1. 実務経験</p> <p>谷口剛志 はり師きゅう師、スポーツ健康科学（修士）、臨床歴：23年</p> <p>岡田 岬 はり師きゅう師、鍼灸学（博士）、臨床歴：10年</p>
	ディプロマポリシーとの関連：◎-5、○-2、○-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
廣 正基			
添付ファイル			

授業目標	授業概要：高齢者を対象とした鍼灸医学について教授する。具体的には、加齢にともなう心身機能の変化と関連疾患を呈示し、鍼灸臨床に応用される評価方法や、鍼灸治療の概要について学習する。 到達目標：我が国の高齢化とその問題点を理解する。高齢者の精神的、肉体的な変化の概要を理解し、呈示された病態に対する鍼灸治療方法について理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 高齢者の身体的特徴と鍼灸治療 高齢者に特徴的な疾病を対象に、病態や症状に加えて、他の疾患との鑑別点や鍼灸治療を理解し、同時に鍼灸医療に併用する運動療法、生活指導などについても理解できる。</p> <p>第2回 高齢者の中枢疾患と鍼灸治療-1 認知症 高齢者に特徴的な中枢疾患として、認知症を取り上げる。病態や症状、評価方法、一般的な治療方法と予後を理解する。疾患の概要を学習して罹患高齢者の心理精神的状態を知る。疾患を医療的見地からだけでなく、社会的な問題として俯瞰的に捉える能力を備え、鍼灸治療方法を理解できる。</p> <p>第3回 高齢者の中枢疾患と鍼灸治療-2 パーキンソン病 高齢者に特徴的な中枢疾患として、パーキンソン病を取り上げる。病態や症状、評価方法、一般的な治療方法と予後を理解する。鍼灸治療方法を理解できる。</p> <p>第4回 高齢者の呼吸器疾患と鍼灸治療-3 高齢者に特徴的な呼吸器疾患として、COPDを取り上げる。病態や症状、評価方法、一般的な治療方法を理解する。病態や症状に加えて、他に注意すべき呼吸器疾患との鑑別点や鍼灸治療に併用する運動療法、生活指導などについて理解できる。鍼灸治療方法を理解できる。</p> <p>第5回 高齢者の泌尿器疾患と鍼灸治療-4 高齢者に特徴的な泌尿器疾患として、過活動膀胱を取り上げる。病態や症状、評価方法を理解する。病態や症状に加えて、他に注意すべき疾患との鑑別点や鍼灸治療に併用する生活指導などについて理解できる。鍼灸治療方法を理解できる。</p> <p>第6回 高齢者の介護・介助法-5 高齢者に必要な介護・介助法をとりあげる。鍼灸治療に必要な介護・介助法について理解できる。介護・介助法を理解できる。</p> <p>第7回 虚弱高齢者の特徴とロコモ予防-6 高齢者の脆弱化として、フレイル、ロコモティブシンドロームを取り上げる。こうした概念を理解し、また鍼灸治療に併用するロコモ予防運動の応用に就いて理解する。</p> <p>第8回 まとめ 高齢者に特徴的な疾患について、その病態、そして治療法のまとめを行う。。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	プリントを配布するので、授業のあとで配布プリントの対応部分を精読し、わからない部分があれば調べたり教員に質問したりして理解しておく。
教科書	配布プリントを用いて学習する。
参考書	<p>高齢鍼灸学」松本勅ら（医歯薬出版）</p> <p>「高齢者ケアのための鍼灸医療」丹澤章八 編（医道の日本社）</p> <p>「老年病ガイドブック 老年症候群の診かた」大内尉義 著（メディカルビュー社）</p> <p>「老年医学の基礎と臨床Ⅰ」大内尉義 浦上克哉 監修（ワールドプランニング）</p>
成績評価	規定の出席回数を評価試験の受験資格とする。 就学態度20%、筆記試験70%、その他10%で評価する。 特別な場合を除いて、就学態度を減加点の対象とし、合計点数60点以上を単位認定の基準とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 井上基浩</p> <p>研究室 : はりきゅう学講座(1号館2階教授室)</p> <p>メールアドレス : h_kitakoji@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 水曜日 10:00~13:00</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
伊藤和憲、吉田行宏			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	鍼灸の治効機序を理解した上で、その理論をもとに適切に鍼や灸が行えるようになることが本授業の目的です。 そのため、講義では生理学や解剖を基盤に、はり・きゅう理論の復習を行いながら、実際にその理論を鍼灸治療でどのように生かすかを考えます。最終的には機序を理解した上でちりょうすることができることを目指します。
授業計画	<p>1回目 鍼灸は何故効くのかを調べよう 鍼灸治療の治効機序についても一度復習を行う そのため、鍼灸の主要な機序である痛み、血流改善、自律神経などをグループで調べる、機序を理解することができる(アクティブラーニング)。</p> <p>2回目 鍼灸は何故効くのかを議論しよう 痛み、血流改善、自律神経など、なぜ鍼が効くのか調べた結果をグループごとに発表し、人に説明することができる(アクティブラーニング)。</p> <p>3回目 治療部位について 圧痛点、トリガーポイント、ツボなどの関係について、違いを説明できる。 そのため、授業では、ツボと圧痛点、トリガーポイントの位置関係について、理解します。</p> <p>4回目 痛みと鍼灸1 痛みの線維と痛みの分類について、説明することができる また、末梢性や脊髄性(ゲートコントロール説)の鎮痛について説明することができる。 そのため、授業では局所の痛みをどのように変化させるかについて理解します。</p> <p>5回目 痛みと鍼灸2 下行性疼痛抑制など、中枢系の鎮痛について説明することができる。 また、鍼通電の周波数の違いについて説明することができる。 そのため、授業では、鍼通電の周波数の違いで痛みが変化するか理解します。</p> <p>6回目 鍼灸と血流 血流改善に必要な軸索反射や全身血流の改善について説明できる。 刺激の種類とフレアの大きさについて説明できる。 そのため、授業では鍼刺激ごとの軸索反射の違いを理解します。</p> <p>7回目 鍼灸と筋緊張緩和 筋緊張緩和の機序として反射やIa抑制、Ib抑制、相反抑制について説明できる。 そのため、授業ではどこに鍼をしたら筋肉は柔らかくなるかを理解します。</p> <p>8回目 鍼灸と自律神経 体性内臓反射や分節について説明できる。 そのため、授業では背部の治療と内臓の関係を理解します。</p> <p>9回目 鍼灸と免疫・内分泌 鍼灸と免疫・内分泌について説明できる。 そのため、授業では身体の刺激と免疫の関係を理解します。</p> <p>10回目 お灸の科学 お灸、特に熱刺激(温度)と生体反応について説明ができる。 そのため、温度の違いと身体の反応を理解します。</p> <p>11回目 今までの復習 今まで学んできた鍼灸治療の機序とそれに伴う機序について説明できる。 そのため、鍼灸の機序について一度まとめてみます。 (アクティブラーニング)</p> <p>12回目 実技評価 機序を理解した上で鍼灸治療が行える</p> <p>13回目 実技評価2 機序を理解した上で鍼灸治療が行える</p> <p>14回目 まとめ 症例を通じて機序に応じた治療が説明できる。 ある症例を通じて、機序に基づいた適切な治療を議論する。 (アクティブラーニング)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	それぞれのテーマについて、該当領域の解剖や生理学、さらにははり・きゅう治効機序の内容を事前に30分程度再確認していただくことが望ましい。また、授業後は30分程度、授業を行った内容を復習し、質問があるときは次回の授業の際に行う。
教科書	はり・きゅう理論(医道の日本) 鍼灸臨床最新科学(医歯薬出版株式会社) 配布資料
参考書	いちばんやさしい痛みの治療がわかる本(医道の日本) よくわかる痛み・鎮痛の基本としくみ(秀和システム)

成績評価	実習科目であるため、試験を受験するには出席回数の4/5が必要です。 また、試験は実技試験を行い、60点以上の得点である必要があります。
担当教員の基本情報	連絡先 研究室：鍼灸センター2F 教授室 メールアドレス：伊藤和憲 k_itoh@meiji-u.ac.jp 吉田行宏 y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー・質問などがある際は、事前に上記メールで連絡をください。
備考	伊藤和憲：鍼灸センター、京都桂川治療院に勤務。その経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。 吉田行宏：鍼灸センター、アスリートサポートセンターに勤務。その経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
廣 正基			
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：高齢者に特有な疾患の病態の概要と鍼灸治療方法を呈示し、鍼灸施術を実技する。また、高齢者の介護・介助法を実践的に学び、高齢社会に対応出来る実践的な学習を行う。</p> <p>到達目標：高齢者に特有な、講義で呈示する疾患の概要と鍼灸治療方法を理解することができる。虚弱な高齢者を対象とした、鍼灸師に可能なケア方法を修得する。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 高齢者に対する鍼灸治療の特徴 ガイダンス：本科目の教育の概要と単位習得の成績評価の方法を説明する。高齢者に対する鍼灸治療施術時の注意点と特徴を説明することができる。高齢者の鍼灸治療について、触診や徒手検査を説明することができ、病態に応じた鍼灸臨床が出来る。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義・実習</p> <p>第2回 高齢者の中枢疾患の鍼灸診療-1 認知症 高齢者の代表的な中枢疾患である認知症を鑑別するための評価方法を応用でき、鍼灸治療が出来る。 配布資料および実技を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義・実技</p> <p>第3回 高齢者の中枢神経疾患の鍼灸診療-2 パーキンソンニズム 高齢者の代表的な中枢疾患であるパーキンソンニズムの鑑別が説明することで、鍼灸治療が出来る。また、鍼灸治療時に併用できる徒手・運動療法を説明することができる。 配布資料および実技を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義・実技</p> <p>第4回 高齢者の呼吸器疾患の鍼灸診療-3 慢性閉塞性肺疾患 高齢者の代表的な呼吸器疾患であるCOPDについて説明することができ、病態に従った鍼灸治療が出来る。鍼灸治療の適応となる症状の鑑別が出来、弁証分類に従った鍼灸治療が出来る。また、鍼灸治療時に併用できる運動療法や生活指導が出来る。 配布資料および実技を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義・実技</p> <p>第5回 高齢者の泌尿器疾患の鍼灸診療-4 頻尿 高齢者の代表的な泌尿器疾患である過活動膀胱について説明することで、病態に従った鍼灸治療が出来る。鍼灸治療の適応となる症状の鑑別が出来、弁証分類に従った鍼灸治療が出来る。また、鍼灸治療時に併用できる生活指導が出来る。 配布資料および実技を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義・実技</p> <p>第6回 高齢者の介護・介助法-5 高齢者の鍼灸治療に必要な介護・介助法について説明することができる。 配布資料および実技を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義・実技</p> <p>第7回 フレイル、ロコモティブシンドロームと鍼灸診療-6 フレイル、ロコモティブシンドロームを説明することができ、各々の病態を評価、判定できる。また、これらの病態の予防と改善を目的とした運動療法や生活指導を実践できる。 配布資料および実技を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義・実技</p> <p>第8回 高齢者の口腔機能低下の鍼灸診療-7 ドライマウスなど 高齢者の口腔機能低下に伴うドライマウス・嚥下機能を評価し、唾液の分泌減少・誤嚥の改善を目的とした鍼灸治療が出来る。また、鍼灸治療時に併用できる運動療法や生活指導が出来る。 配布資料および実技を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義・実技</p> <p>第9回 高齢者の感覚器疾患の鍼灸診療-8 ドライアイ-1 高齢者に特徴的な感覚器疾患を理解する。主にドライアイを取り上げる。病態や症状、評価方法を説明することができる。病態や症状に加えて、他に注意すべき疾患との鑑別点や鍼灸治療に併用する生活指導などについて説明することができる。 配布資料および実技を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義・実技</p> <p>第10回 高齢者の感覚器疾患の鍼灸診療-9 ドライアイ-2 高齢者の代表的な感覚器疾患の一つであるドライアイについて、鍼灸治療に適応したドライアイを鑑別し、病態を説明することができる。また、鍼灸治療時および運動療法や生活指導が出来る。 配布資料および実技を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義・実技</p> <p>第11回 高齢者の感覚器疾患の鍼灸診療-10 耳鳴-1 高齢者に特徴的な感覚器疾患を説明することができる。主に耳鳴の病態や症状、評価方法を説明することができる。病態や症状に加えて、他に注意すべき疾患との鑑別点や鍼灸治療に併用する生活指導などについて説明することができる。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。</p>

	<p>【授業形態】講義</p> <p>第12回 高齢者の感覚器疾患の鍼灸診療-10 耳鳴-2 高齢者の代表的な感覚器疾患の一つである耳鳴について、鍼灸治療に適応した耳鳴をの病態や弁証分類を説明することができる。また、鍼灸治療および運動療法や生活指導が出来る。 配布資料および実技を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。</p> <p>【授業形態】講義・実技</p> <p>第13回 講義まとめ 全体的な授業内容のまとめを行う。 全体の配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。</p> <p>【授業形態】講義</p> <p>第14回 実技まとめ-1 高齢鍼灸学で履修した内容について高齢者の疾病に対する適否の鑑別・評価・理学的検査法が実施できる。 実技内容を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。</p> <p>【授業形態】実技</p> <p>第15回 実技まとめ-2 高齢者の疾病に対する適否の鑑別・評価・理学的検査の結果から鍼灸治療が実施できる。 実技内容を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。</p> <p>【授業形態】実技</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	本実習での教育内容には臨床各論、解剖学、経絡経穴学などの内容も含まれるため、関連する事項については確認すること。特に、診療に関連する解剖学的構造について、疾患の概念、症状、診断基準について、あるいは鍼灸治療点となる経穴について復習しておくこと。
教科書	配布プリントにより授業を受ける。
参考書	「高齢鍼灸学」 松本 勅ら（医歯薬出版株式会社） 「現代鍼灸臨床の実際」 松本 勅（医歯薬出版株式会社） 「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭、斎藤佳雄（南山堂） 「老年病のとらえかた」 大内尉義（文光堂） 「老年症候群の診かた」 鳥羽研二（メディカルビュー） 「中医学入門」 神戸中医学研究会（医歯薬出版株式会社）
成績評価	規定の出席回数を評価試験の受験資格とする。 実技試験の数60点以上を単位認定の基準とする（就学態度20%、実技試験70%、その他10%で評価する）。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 廣 正基 研究室 : はり・きゅう学講座（1号館2階教授室） メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 15:40～17:20
備考	鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センターにて実務経験あり。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
廣 正基・岡田 岬			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>経絡経穴学Ⅰ、経絡経穴学実習Ⅰ、経絡経穴学実習Ⅱで学習した正経十二経、任脈、督脈の経穴および奇穴の名称、部位、取穴法、解剖学要点の理解を前提として下記の事項を行う。</p> <p>①身体を観察することにより、骨、筋肉の走行等を理解し、実際に体表で確認できる。</p> <p>②各経絡が人体のどの部位を走行しているか等を実際に体表で確認できる。</p> <p>③各経絡に所属する個々の経穴の部位及び取穴法について学習し、実際に人体に正確に取穴を身につける。</p> <p>④奇穴の部位、取穴法について理解し、正確に取穴が出来る</p> <p>⑤各経絡が人体のどの部位を走行しているかを理解し、各経穴との関係（縦・横の関係）を修得できる。</p> <p>⑥各経絡の流注、経穴名、部位、取穴法、要穴等をすべて覚える事を目標とする。</p> <p>⑦すべての経穴名（督脈から足厥陰肝経まで）が言えるようにする。</p>
授業計画	<p>1回目 正経十二経の流注と奇経八脈の流注、経穴の概略①（五要穴：原穴・ゲキ穴・絡穴・募穴・兪穴）</p> <p>[到達目標]</p> <p>1) 正経十二経の種類と流注が説明できる。</p> <p>2) 奇経八脈の種類と流注が説明できる。</p> <p>3) 五要穴（原穴・ゲキ穴・絡穴・募穴・兪穴）の作用と該当経穴を説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]</p> <p>1) 正経十二経、奇経八脈の名称と流注をまとめ、覚える。</p> <p>2) 五要穴（原穴・ゲキ穴・絡穴・募穴・兪穴）の作用と該当経穴をまとめ、覚える。</p> <p>2回目 経穴の概略②（五兪穴：井穴・榮穴・兪穴・経穴・合穴、四総穴、八会穴、八脈交会穴、交会穴、下合穴）</p> <p>[到達目標]</p> <p>1) 五兪穴（井穴・榮穴・兪穴・経穴・合穴）の主治作用と該当経穴を説明できる。</p> <p>2) 四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴の主治作用と該当経穴を説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]</p> <p>1) 五兪穴（井穴・榮穴・兪穴・経穴・合穴）の主治作用と該当経穴をまとめ、覚える。</p> <p>2) 四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴の主治作用と該当経穴をまとめ、覚える。</p> <p>3回目 体表指標、骨度法、督脈、任脈</p> <p>[到達目標]</p> <p>1) 体表指標および基準部位の骨度を説明できる。</p> <p>2) 督脈の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。</p> <p>3) 任脈の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]</p> <p>1) 主要な体表指標および基準部位の骨度をまとめ、覚える。</p> <p>2) 督脈の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。</p> <p>3) 任脈の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。</p> <p>4回目 手の太陰肺経、手の陽明大腸経</p> <p>[到達目標]</p> <p>1) 手の太陰肺経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。</p> <p>2) 手の陽明大腸経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]</p> <p>1) 手の太陰肺経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。</p> <p>2) 手の陽明大腸経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。</p> <p>5回目 足の陽明胃経</p> <p>[到達目標]</p> <p>1) 足の陽明胃経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]</p> <p>1) 足の陽明胃経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。</p> <p>6回目 足の太陰脾経</p> <p>[到達目標]</p> <p>1) 足の太陰脾経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]</p> <p>1) 足の太陰脾経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。</p> <p>7回目 手の少陰心経、手の太陽小腸経</p> <p>[到達目標]</p> <p>1) 手の少陰心経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。</p> <p>2) 手の太陽小腸経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]</p> <p>1) 手の少陰心経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。</p> <p>2) 手の太陽小腸経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。</p> <p>8回目 足の太陽膀胱経</p> <p>[到達目標]</p> <p>1) 足の太陽膀胱経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]</p> <p>1) 足の太陽膀胱経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。</p>

	9回目	足の少陰腎経 [到達目標] 1) 足の少陰腎経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。 [授業時間外学習] 1) 足の少陰腎経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。
	10回目	手の厥陰心包経、手の少陽三焦経 [到達目標] 1) 手の厥陰心包経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。 2) 手の少陽三焦経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。 [授業時間外学習] 1) 手の厥陰心包経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。 2) 手の少陽三焦経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。
	11回目	足の少陽胆経 [到達目標] 1) 足の少陽胆経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。 [授業時間外学習] 1) 足の少陽胆経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。
	12回目	足の厥陰肝経・奇穴 [到達目標] 1) 足の厥陰肝経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点を説明できる。 2) 奇穴の名称、取り方、主治を説明できる。 [授業時間外学習] 1) 足の厥陰肝経の経穴の名称、部位、取り方、解剖学的要点をまとめ、覚える。 2) 奇穴の名称、取り方、主治をまとめ、覚える。
	13回目	難経六十九難による治療穴について [到達目標] 1) 難経六十九難による治療穴を説明できる。 [授業時間外学習] 1) 難経六十九難による治療穴をまとめ、覚える。
	14回目	まとめ 授業内容のまとめを行う。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書、配布資料を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。	
教科書	新版 経絡経穴概論 (社) 東洋療法学校協会 編 医道の日本社 プリント配布 (経絡経穴学Ⅰ、経絡経穴学実習Ⅱで配布したプリント)	
参考書	・改訂版 ボディ・ナビゲーション 触ってわかる身体解剖 阪本桂造 監訳 医道の日本社 ・「運動・身体図解 経絡・ツボの基本」森 英俊監修 (株) マイナビ	
成績評価	①授業回数の3/5以上出席した者に対して評価を行う。 ②評価は、定期試験(筆記試験を行う)(60点以上合格)、小テスト等を総合して行う。 ③定期試験を適切な理由無くして欠席した場合は、追試験は行わない。	
担当教員の基本情報	担当教員 : 廣 正基 教員室 : 病院2階奥、鍼灸センター横 メールアドレス: m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 木曜日 17:30以降 担当教員 : 岡田 岬 教員室 : 病院2階奥、鍼灸センター横 メールアドレス: m_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 水曜日 15:40以降	
備考	明治国際医療大学附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センターに勤務。その実務経験をもとに「経絡経穴学Ⅱ」について授業を進める。 アクティブラーニングとして、配布資料の完成と経絡の走行についてまとめる。	
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
廣 正基・岡田 岬			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>足の少陰腎経、手の厥陰心包経、手の少陽三焦経、足の少陽胆経、足の厥陰肝経、奇穴の部位を覚え、取穴できるようにする。</p> <p>①身体を観察することにより、骨、筋肉の走行等を理解し、実際に体表で確認できる。</p> <p>②各経絡が人体のどの部位を走行しているかを理解し、各経穴との関係（縦・横の関係）を確認できる。</p> <p>③各経絡に所属する個々の経穴の取穴について学習し、実際に人体で正確に取穴を身につける。</p> <p>④全経穴名が言えて、漢字で書けるようする。</p>
授業計画	<p>1回目 足の少陰腎経（講義） 〔到達目標〕 1. 足の少陰腎経の流注・取穴法が説明できる。 2. 足の少陰腎経の流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 3. 五俞穴・五要穴を説明ができる。 〔備考〕 1. 流注を整理し、必要な箇所を覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布資料を完成させる。</p> <p>2回目 足少陰腎経の取穴（実技） 〔到達目標〕 1. 流注・取穴法が説明できる。 2. 流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 〔備考〕 1. 配布資料、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。</p> <p>3回目 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経（講義） 〔到達目標〕 1. 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経の流注・取穴法が説明できる。 2. 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経の流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 3. 五俞穴・五要穴を説明できる。 〔備考〕 1. 流注を整理し、必要な箇所を覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布資料を完成させる。</p> <p>4回目 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経（実技） 〔到達目標〕 1. 流注・取穴法が説明できる。 2. 流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 〔備考〕 1. 配布資料、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。</p> <p>5回目 小テスト（見極めテスト） 〔到達目標〕 足少陰腎経・手厥陰心包経・手少陽三焦経の取穴実技試験及び筆記試験。 〔備考〕 試験で出来なかった箇所の復習をする。</p> <p>6回目 足の少陽胆経の取穴（講義） 〔到達目標〕 1. 足の少陽胆経の流注・取穴法が説明できる。 2. 足の少陽胆経の流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 3. 五俞穴・五要穴を説明ができる。 〔備考〕 1. 流注を整理し、必要な箇所を覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布資料を完成させる。</p> <p>7回目 足の少陽胆経の取穴（実技①） 〔到達目標〕 1. 流注・取穴法が説明できる。 2. 流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 〔備考〕</p>

8回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 配布資料、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。 足の少陽胆経の取穴（実技②） [到達目標] <ol style="list-style-type: none"> 1. 流注・取穴法が説明できる。 2. 流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 [備考]
9回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 配布資料、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。 足の厥陰肝経の取穴（講義） [到達目標] <ol style="list-style-type: none"> 1. 足の厥陰肝経の流注・取穴法が説明できる。 2. 足の厥陰肝経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 3. 五俞穴・五要穴を説明ができ、取穴することができる。 [備考]
10回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 流注を整理し、必要な箇所を覚える 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. サブノートを作成させる 足厥陰肝経の取穴（実技） [到達目標] <ol style="list-style-type: none"> 1. 流注・取穴法が説明できる。 2. 流注・経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 [備考]
11回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 配布資料、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。 奇穴の取穴（講義） [到達目標] <ol style="list-style-type: none"> 1. 奇穴の部位・取穴法が説明できる。 2. 奇穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 [備考]
12回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 流注を整理し、必要な箇所を覚える。 2. 経穴名が漢字で書け、部位、取穴法を覚える。 3. 配布資料を作成させる。 奇穴の取穴（実技） [到達目標] <ol style="list-style-type: none"> 1. 奇穴（頭部、上肢、下肢、胸部、背部、中風七穴等）の主治・取穴法が説明できる。 2. 奇穴（頭部、上肢、下肢、胸部、背部、中風七穴等）の取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法を用いモデルに正確に取穴ができる。 [備考]
13回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 配布資料、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 2. わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。 3. 取穴できるように練習する。 まとめ1 授業内容のまとめを行う。
14回目	まとめ2 授業内容のまとめを行う。
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を参考に、配布資料の空欄に経穴名、部位、取穴法を記載。 また、解剖の本等を参考に経穴の部位に書かれている骨・筋等を調べてくる。 配布資料、教科書を参考に経穴の部位及び取穴法を覚える。 わからない取穴法を講義前にチェックし、講義中に確認する。
教科書	新版 経絡経穴概論（社）東洋療法学校協会 編 医道の日本社 プリント配布（サブノート経絡経穴学基礎で配布したプリント）
参考書	・改訂版 ボディ・ナビゲーション 触ってわかる身体解剖 阪本桂造 監訳 医道の日本社 ・「運動・身体図解 経絡・ツボの基本」森 英俊監修（株）マイナビ
成績評価	①授業回数の4/5以上出席した者に対して評価を行う。 ②評価は、定期試験（筆記及び実技試験を行う）（60点以上合格）、小テスト等を総合して行う（授業態度も加味する）。 ③定期試験を適切な理由無くして欠席した場合は、追試験は行わない。 ④前年度未修得者は、補講を行い補講（補講の課題）が終了したものに対して試験を行い評価する
担当教員の基本情報	担当教員：廣 正基 教員室：病院2階奥、鍼灸センター横 メールアドレス：m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 17:30以降 担当教員：岡田 岬 教員室：病院2階奥、鍼灸センター横 メールアドレス：m_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 15:40以降
備考	明治国際医療大学附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センターに勤務。その実務経験をもとに「経絡経穴学実習Ⅱ」について授業を進める。 アクティブラーニングとして、実技ごとにグループを変え個々の特徴についてまとめる。

	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
田口 玲奈			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習+対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>本演習は、1年次に学んだ東洋医学概論・四診法を振り返りながら、鍼灸臨床の現場でその知識を活かす方法を学びます。演習では症例問題等を用い、東洋医学的な視点に立った分析が出来る臨床脳を修得することを到達目標としています。</p> <p>到達目標（細目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気血津液の生理から病理の状態が説明できる。 2. 各蔵象の生理から病理が説明できる。 3. 病因病機を理解する。 4. 弁証の流れが説明できる。 5. 症状・所見から弁証が想起できる。
授業計画	<p>1. 弁証に必要な所見1 五行学説、気血津液の生理・病理</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 弁証に必要な所見（五行学説、気血津液の生理・病理）について各々の特徴を理解し、説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じたグループ学習）</p> <p>2. 弁証に必要な所見2 病因（外感病因、内傷病因、病理産物とその他の病因）</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 弁証に必要な所見（病因）について各々の特徴を理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じたグループ学習）</p> <p>3. 弁証に必要な所見3 東洋医学的診察法（舌診、脈診、腹診）</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 弁証に必要な所見（舌診、脈診、腹診）について各々の特徴を理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 <p>[授業形態]</p> <p>アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じたグループ学習）</p> <p>4. 八綱弁証 八綱弁証の進め方と証の決定</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 八綱弁証について、各々の特徴的な証を理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 <p>[授業形態]</p> <p>講義形式</p> <p>5. 気血津液弁証 気血津液弁証の進め方と証の決定</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 気血津液弁証について、各々の特徴的な証を理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 <p>[授業形態]</p> <p>講義形式</p> <p>6. 肝・胆・心 生理と病理 蔵象 肝・胆・心</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 肝・胆・心の生理・病理・証について、理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 <p>[授業形態]</p> <p>講義形式</p> <p>7. 小腸・脾・胃 生理と病理 蔵象 小腸・脾・胃</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 小腸・脾・胃の生理・病理・証について、理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 <p>[授業形態]</p> <p>講義形式</p> <p>8. 肺・大腸・腎 生理と病理 蔵象 肺・大腸・腎</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 肺・大腸・腎の生理・病理・証について、理解し説明できる。 2, 症例を通じ、理解を深める。

	<p>9. 膀胱・五臓の相互関</p> <p>[授業形態] 講義形式 生理と病理 蔵象 膀胱、五臓の相互関係 P.127-142、五臓の複合病証 (必読)</p> <p>[到達目標] 1, 膀胱の生理・病理・証について、理解し説明できる。 2, 五臓の相互関係および複合病証について、理解し説明ができる。 3, 症例を通じ、理解を深める。</p> <p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式 (症例作成を通じたグループ学習) 生理と病理 蔵象 五臓の相互関係 P.127-142、五臓の複合病証 (必読)</p> <p>10. 五臓の相互関係2</p> <p>[到達目標] 1, 五臓の相互関係および複合病証について、理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。</p> <p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式 (症例作成を通じたグループ学習) 経絡弁証 (肺経、大腸経、胃経、脾経、心経、小腸経、膀胱経)</p> <p>11. 経絡弁証①</p> <p>[到達目標] 1, 各経絡 (肺経、大腸経、胃経、脾経、心経、小腸経、膀胱経) の症候を理解し弁証できる。 2, 症例を通じ、理解を深める。</p> <p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式 (症例作成を通じたグループ学習) 経絡弁証 (腎経、心包経、三焦経、胆経、肝経、督脈、任脈)</p> <p>12. 経絡弁証②</p> <p>[到達目標] 1, 各経絡 (腎経、心包経、三焦経、胆経、肝経、督脈、任脈) の症候を理解し弁証できる。 2, 症例を通じ、理解を深める。</p> <p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式 (症例作成を通じたグループ学習) その他の弁証 (六淫弁証、六経弁証、衛気営血弁証、三焦弁証)</p> <p>13. その他の弁証</p> <p>[到達目標] 1, その他の弁証 (六淫弁証、六経弁証、衛気営血弁証、三焦弁証) を理解し弁証できる。 2, 症例を通じ、理解を深める。</p> <p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式 (症例作成を通じたグループ学習) 問題演習②</p> <p>14. まとめ・問題演習</p> <p>[到達目標] 1, 症例問題を解き、理解を深める。 2, これまでの弁証の筆記試験を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	本演習では、教科書を事前学習テキストとして指定し、授業前までに指定された範囲を必読し、知識の修得を図ります。事前にしっかり内容を把握・整理し、疑問点等をまとめておいてください。
教科書	新版 東洋医学概論 医道の日本
参考書	針灸学 [基礎編] 東洋学術出版社
成績評価	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5 以上の出席者に対し、評価します。</p> <p>評価：以下の3項目に対し、それぞれ60%以上の評価を受けた者に単位を認定します。</p> <p>①問題演習・解説づくり ②本試験</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 田口 玲奈 研究室 : 附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:50-17:30</p>
備考	<p>1. 実務経験 田口玲奈 京都桂川鍼灸院への勤務経験、附属鍼灸センターでの実務経験 (16年) をもとに実習指導を行う。</p> <p>2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-5、○-1</p>

講義科目名称： 伝統はり・きゅう診断学実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
谷口 剛志・河井 正隆			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本実習は、1年次・2年次前期で学んだ東洋医学概論・診断学を振り返りながら、鍼灸臨床の現場で四診法（望・聞・問・切）を用いて状態を分析し、弁証論治を立てるまでの流れを実践形式で学びます。授業では、教員のデモンストレーションをもとに段階的に四診法のトレーニングを行ない、東洋医学的な視点に立った分析が出来る臨床脳を修得することを到達目標としています。</p> <p>到達目標（細目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 望診を用いて、弁証に必要な情報を集めることが出来る。 2. 問診を用いて、弁証に必要な情報を集めることが出来る。 3. 切診（脈診、腹診、募穴診、背候診、経穴診）を用いて、弁証に必要な情報を集めることが出来る。 4. 所見から弁証論治を立てることが出来る。
授業計画	<p>第1回目 望診 【到達目標】顔面診、形態診を用いて情報を収集・分析し、弁証を立てる。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第2回目 舌診 【到達目標】舌診を用いて情報を収集・分析し、弁証を立てる。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第3回目 問診 【到達目標】問診を用いて情報を収集・分析し、弁証を立てる。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第4回目 脈診1 【到達目標】脈診（粗脈）を用いて、脈図を作成し、弁証を立てる。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第5回目 脈診2 【到達目標】脈診（脈状）を用いて、脈図を作成し、弁証を立てる。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第6回目 腹診 【到達目標】腹診を用いて情報を収集・分析し、弁証を立てる。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第7回目 募穴診 【到達目標】募穴診を用いて情報を収集・分析し、弁証を立てる。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第8回目 五行穴診 【到達目標】五行穴診を用いて情報を収集・分析し、弁証を立てる。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第9回目 五要穴診 【到達目標】五要穴診を用いて情報を収集・分析し、弁証を立てる。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第10回目 四診1 【到達目標】四診合参により弁証を立てる。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第11回目 四診2 【到達目標】四診合参により弁証を立てる。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第12回目 四診3 【到達目標】四診合参により弁証を立てる。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第13回目 弁証論治ケーススタディー1 【到達目標】実際の症例を用いて、四診を実施し、弁証論治を行なった後、鍼灸治療を実施する。 【授業形態】AL（実習）</p> <p>第14回目 弁証論治ケーススタディー2 【到達目標】実際の症例を用いて、四診を実施し、弁証論治を行なった後、鍼灸治療を実施する。 【授業形態】AL（実習）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	シラバスを参照しながら、事前に教科書に目を通し、予習をしておくこと 実習で学んだ四診法を日常生活でも実践し、数をこなすこと
教科書	新版 東洋医学概論 東洋療法学校協会編 教科書検討小委員会著 医道の日本社 5,200円（+TAX）
参考書	針灸舌診アトラス：診断基礎と臨床の実際 緑書房 よくわかる経絡治療脈診ワークブック 医道の日本社

成績評価	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の4/5以上の出席者に対し、評価を実施します。</p> <p>評価：</p> <p>1. 課題（20点） 授業（12回）ごとに設定されている課題を授業時間内に作成し、授業終了時に提出。持ち点20点とし、1回未提出につき、-5点とします。</p> <p>2. 後期末実技試験（80点） 実際の臨床現場と同じような形 1) 望診 2) 問診 3) 切診 4) 弁証 で実施します。</p>
担当教員の基本情報	<p>教員名：谷口剛志 所属先：鍼灸学部鍼灸学講座 附属病院鍼灸センター2階鍼灸教員室、アスリートサポートセンター 連絡先：t_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日13:50～16:00</p> <p>教員名：河井正隆 所属先：医学教育研究センター 人文・社会科学ユニット／学修支援センター 連絡先：m_kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日 17:40～19:00</p>
備考	<p>1. 実務経験</p> <p>谷口剛志 はり師きゅう師、スポーツ健康科学（修士） 臨床歴23年 たなか針灸治療所、永澤鍼灸院、明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センター、やまぎわ整形外科、渡辺整形外科、Avante OSAKAビーチサッカートレーナー、KALEBITCHフットサルトレーナー、ポルトガルクリニック土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス、FCバルセロナフットサル、FCポルトクリニカドラゴン、CF Belenenses、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに実習指導を行う。</p> <p>河井正隆 はり師・きゅう師、人間科学（博士） 京都府亀岡市に所在地を置く整形外科・内科医院および明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センターにて鍼灸臨床に従事する（臨床歴：約35年）。なお後者（学校）では、鍼灸学科生および教員養成学科生の臨床実習指導にも携わる。</p> <p>2. ディプロマポリシーとの関連 ◎-5</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
木村 啓作、岡田 岬			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>鍼灸臨床（現代医学的病態把握）で必要となる身体診察の方法やその検査が持つ意味を理解し、正確に行えるようになることを目的とする。また、医療人として必要な心構えや医療倫理を深め、治療家としてのスキルを磨く。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の診療に必要な身体診察をスムーズに行える技能を修得する。 2. 身体診察の方法を理解し、正確に行う技術を身につける。 3. 診察結果を判定し、臨床的意味を理解する。 4. 診察の結果を適切にカルテに記載できる。 5. 患者に対して、インフォームドコンセントや結果の説明が行える。 6. 実際の臨床で利用できるような臨床脳が育つ。
授業計画	<p>1 オリエンテーション・反射1 オリエンテーション・反射1 深部腱反射(上腕二頭筋反射、三頭筋反射、腕橈骨筋反射、膝蓋腱反射、アキレス腱反射、筋クローヌス、増強法)が出来る。 ②病的反射(ホフマン、トレムナー、バビンスキー反射など)が出来る。 各反射の導入、評価、表記が正しく出来る。</p> <p>2 反射2 各種の表在反射(腹壁反射)や病的反射(ホフマン、トレムナー、バビンスキー反射など)が出来る。 各反射の導入、評価、表記が正しく出来る。</p> <p>3 筋力検査1 筋力検査(上腕二頭筋、上腕三頭筋、腕橈骨筋、大腿四頭筋、前脛骨筋など)が出来る。 各筋力テストの導入、評価、表記が正しく出来る。</p> <p>反射の小テストとフィードバック</p> <p>4 筋力検査2 筋力検査(長母指伸筋、長母指屈筋、腸腰筋、股関節筋伸展筋、中殿筋など)が出来る。 各筋力テストの導入、評価、表記が正しく出来る。</p> <p>5 関節可動域1 関節可動域(肩関節、肘関節、前腕)が測定出来る。 各関節可動域の導入、評価、表記が正しく出来る。</p> <p>筋力検査の小テストとフィードバック</p> <p>6 関節可動域2 関節可動域(股関節、膝関節)が測定出来る。 各関節可動域の導入、評価、表記が正しく出来る。</p> <p>7 感覚検査 皮膚の神経分布、表在感覚、深部感覚、複合感覚の検査が出来る。 具体的には、 ①C4からTH1、L2からS1のデルマトーム領域を示すことが出来る。 ②感覚検査(触覚検査、痛覚検査)が出来る。</p> <p>8 これまでの復習(アクティブラーニング) ペアにてアクティブラーニング型で以下の項目について学修する。 反射、筋力検査、関節可動域、感覚検査の導入、評価、表記の仕方を再度確認する。</p> <p>関節可動域、感覚検査の小テストとフィードバック</p> <p>9 血圧測定 触診法、聴診法が出来る。</p> <p>10 身体計測 ①上肢長が測定出来る。②下肢長(棘下長、転子顆長)が測定出来る。③上肢・下肢の周径が測定出来る。</p> <p>血圧測定の小テストとフィードバック</p> <p>11 1. 腹診、聴診、打診 2. 脳神経 1. 腹診(肝臓・腎臓など)、聴診(肺音・心音)、打診が出来る。 2. 脳神経の評価やバレー徴候など検査が測定できる。</p> <p>12 実技評価1 反射、筋力検査、関節可動域、デルマトーム、感覚検査、血圧測定、身体計測に関する実技が正しく行えるかを確認する。</p> <p>13 実技評価2 反射、筋力検査、関節可動域、デルマトーム、感覚検査、血圧測定、身体計測に関する実技が正</p>

	<p>14 しく行えるかを確認する。 筆記評価 反射、筋力検査、関節可動域、デルマトーム、感覚検査、血圧測定、身体計測、腹診・聴診・打診、脳神経に関する知識の修得が来ているかを確認する。</p> <p>15 予備日</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布資料による復習 (30分) 次回の授業を教科書 (鍼灸療法技術ガイド) にて予習 (30分)
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・鍼灸療法技術ガイドⅠ 文光堂 ・鍼灸療法技術ガイドⅡ 文光堂 ・配布した授業プリント ・実技に関する動画
参考書	<p>基礎編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドサイドの神経の診かた (南山堂) ・診察と手技が見える1 (MEDIC MEDIA) <p>応用編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベイツ診察法 (MEDSI) ・徒手筋力検査法 (協同医書出版)
成績評価	5分の4以上の出席を満たした者について評価を実施する。 評価は筆記試験・実技試験の結果を総合して行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 木村啓作 研究室 : 附属病院2階教員室 メールアドレス : k_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 11:20-13:00</p> <p>担当教員名 : 岡田 岬 研究室 : 附属病院2階教員室 メールアドレス : m_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 11:20-13:00</p>
備考	<p>1. 実務経験 担当者は鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センター勤務。ポルトガルクリニック土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス、フィギュアスケーターおよびトレイルランナートレーナーとして実務経験があり、実務内容にも基づきこの科目を進める。</p> <p>2. ディプロマポリシーとの関連 ◎-5</p>

講義科目名称： 医療面接

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
山崎 翼、福田 晋平			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、患者に適切な医療（鍼灸治療を含め）を提供するための技術として、面接技法（医療面接）について実習し技術を習得する。</p> <p>授業内容は、学生同士によるワークショップやロールプレイなどのアクティブ・ラーニングを主として行い、主な問診事項（現病歴、既往歴、家族歴、個人歴、現症など）や面接技術（言語的・非言語的コミュニケーション、患者との対面法など）、関連する書類の作成方法（カルテ記載法、紹介状作成法など）について内容、技術を習得する。</p> <p>本科目では、基礎医学、現代医学、鍼灸医学などを基礎とし、実際の診療に則した問診や医療面接の方法をスムーズに適切かつ効果的に行える技能を修得することを到達目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 ワークショップ：コミュニケーションとは ワークショップを通じて ・鍼灸師に必要な臨床能力が理解・説明できる。 ・コミュニケーションが理解・説明できる。 ・良いコミュニケーションがもたらすものが理解・説明できる。</p> <p>2回目 ワークショップ：医療面接とは初診患者への面接 ワークショップを通じて ・医療面接の目的が理解・説明できる。 ・初診患者に必要な情報が理解・説明できる。（主訴、現病歴、既往歴、社会歴、個人歴、現症、OPQRST、VINDICATEが説明できる）</p> <p>3回目 ロールプレイ：初診患者への面接 ロールプレイを通じて ・初診時の医療面接が実践できる。</p> <p>4回目 ロールプレイ：面接技法の理解① ロールプレイを通じて ・質問法、傾聴、共感、態度、面接技法が理解・説明できる。 ・非言語的コミュニケーションを理解し実践できる。</p> <p>5回目 ロールプレイ：面接技法の理解② ロールプレイを通じて ・質問法、傾聴、共感、態度、面接技法が理解・説明できる。 ・良好な患者－鍼灸師関係が説明できる。</p> <p>6回目 ロールプレイ：良好な患者－鍼灸師関係、面接技法 ロールプレイを通じて ・良好な患者－鍼灸師関係、面接技法が実践できる。</p> <p>7回目 ロールプレイ：病態を正確に把握する。 ロールプレイを通じて ・患者理解のための情報収集を行い、病態を正確に把握できる。</p> <p>8回目 ロールプレイ：鑑別の必要性、患者への説明の方法を理解する。 ロールプレイを通じて ・病態把握を行い、鑑別の必要性、患者への説明を正確にできる。</p> <p>9回目 ロールプレイ：鍼灸治療とともに患者教育の必要性を把握する。 ロールプレイを通じて ・鑑別の必要性、患者への説明の方法（患者の気持ちを尊重して）、医療情報を引き出す必要性、鍼灸治療とともに患者教育ができる。</p> <p>10回目 ワークショップ：再診患者への面接の理解 ワークショップを通じて、 ・再診患者の一般的な評価方法が説明できる。 ・再診患者における情報収集が説明できる。</p> <p>11回目 ワークショップ：カルテ記載 ワークショップを通じて ・初診患者のカルテが正確に理解、記載できる。</p> <p>12回目 ワークショップ：カルテ記載と医療倫理 ワークショップを通じて、再診患者のカルテが正確に記載できる。 ・紹介状の記載事項が説明でき、作成することができる。</p> <p>13回目 医療面接のまとめと評価① 講義の内容を総まとめし、復習と整理を行う。併せて評価を実施する。</p> <p>14回目 医療面接のまとめと評価② 講義の内容を総まとめし、復習と整理を行う。併せて評価を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業中に学習した面接技法なコミュニケーション技術について、授業毎に1時間程度の復習を行うこと。

教科書	プリントを配布する。
参考書	・診療科目別 正しい診療録の書き方 安部好文 他 (朝倉書店) ・授業で配布したプリントなど
成績評価	授業の4/5以上の出席日数を満たした者を対象として実技試験を行う。 評価は筆記試験・実技試験の結果を総合して行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山崎 翼、福田晋平 研究室 : 附属病院2階鍼灸学部教員室 メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp、sp_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日、水曜日、木曜日に対応可。事前にメールなどで日時を確認してください。
備考	1. 実務経験 山崎 翼：本学附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに実習指導を行う。 福田晋平：京都駅前鍼灸院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに実習指導を行う。 2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-2

講義科目名称： はり・きゅう安全学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
田口 玲奈			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義+遠隔	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、鍼灸臨床におけるリスクマネジメント（危機管理）を理解することを目的として、過去に発生したアクシデント（医療事故・過誤、訴訟など）やインシデント（ヒヤリハットなど）事例を取り上げ、学びを深める。また、衛生観念やクリーンニードルテクニック、治療における安全管理の実際にも触れ、対応策・予防策についても学ぶ。</p> <p>本科目ははり師きゅう師国家試験の受験に必要な必須科目として位置づけられている。本科目で得たリスクマネジメントの観点・意識を日頃から心掛けて、実技・実習に臨むこと。</p>
授業計画	<p>第1回目 はりきゅう安全学総論、わが国の鍼灸有害事象事例 【授業形態】 講義形式、オンデマンド型 【内容】 1. 医療における危険行為（エラー、違反） 2. 医療事故と医療過誤 3. ヒューマンエラー 4. 国内の有害事象事例 5. 国外の有害事象事例 6. 鍼の安全性と副作用</p> <p>第2回目 鍼灸医療事故の事例と対策 ～気胸、折鍼・埋没鍼、感染～ 【授業形態】 講義形式、オンデマンド型 【内容】 医療訴訟となった事例をもとに、事故の分析と対策を考える。</p> <p>第3回目 鍼灸医療事故の事例と対策 ～出血、神経障害、熱傷～ 【授業形態】 講義形式、オンデマンド型 【内容】 医療訴訟となった事例をもとに、事故の分析と対策を考える。</p> <p>第4回目 鍼灸医療事故が発生した場合の対処 【授業形態】 講義形式、オンデマンド型 【内容】 1. 生命の危険度と医療事故のレベル分類 2. 事故発生直後の対応 3. 死亡または重篤な障害の発生時の報告・連絡 4. 死亡または重篤な障害以外の事故の報告・連絡 5. 事故の記録 6. 患者・家族への説明 7. 事故の長期的対応と支援 8. 警察への対応 9. 弁護士への相談 10. 再発の防止</p> <p>第5回目 鍼灸医療事故の法的解決・保険 【授業形態】 講義形式、オンデマンド型 【内容】 1. 医療従事者の法的責任と処分 2. 医療事故による紛争の解決方法 3. 損害賠償額の算定と支払い義務 4. 鍼灸師の賠償責任保険制度</p> <p>第6回目 インシデントレポート、システムとしての鍼灸医療事故の防止 【授業形態】 講義形式、オンデマンド型 【内容】 1. インシデントレポート 2. インフォームドコンセント 3. カルテ記載・保存 4. ヒューマンエラーの防止 5. 医療機器の安全管理 6. 環境の整備 7. 感染防止</p> <p>第7回目 まとめ 【授業形態】 オンデマンド型 【内容】 これまでの需要事項のまとめ 筆記試験</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	レポート作成に必要なデータ・先行研究について日頃から資料を収集し、情報をまとめておいてください。
教科書	鍼灸医療安全対策マニュアル 医歯薬出版社 (2010)
参考書	鍼灸医療安全ガイドライン 医歯薬出版社 (2007) 臨床で知っておきたい鍼灸安全の知識 医道の日本社 (2009) 鍼灸の安全対策サイト 全日本鍼灸学会安全性委員会 https://safety.jsam.jp/index2.html
成績評価	受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5 以上の出席者に対し、評価を実施します。 評価：筆記試験およびレポートにもとづき評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名：田口玲奈 研究室：附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス：r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日 13:50~17:30
備考	1, 実務経験 田口玲奈 京都桂川鍼灸院への勤務経験、附属鍼灸センターでの実務経験 (16年) をもとに教育指導を行う。 2, この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2, ○-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	1	必修
担当教員			
角谷 英治、山崎 翼			
鍼灸学科	45時間	実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療者（医療人）としてふさわしい態度ができる。 2. 患者さんへの適切な対応（誘導・介助・言葉遣い・心遣い・身だしなみ）ができる。 3. 快適な治療環境を保持できる（治療内ブースを清潔に保つ準備と後片付けができる）。 4. 消毒および清潔操作（清潔の概念）ができる。 5. 鍼灸師に必要な診察から治療までの一連の過程を理解する。特に、問診能力とコミュニケーション能力を養う（医療面接、患者のヒストリー、時系列分析）
授業計画	<p>附属鍼灸センターにて見学 夏季・冬季の集中実習 【授業形態】見修実習 附属鍼灸センターで問診から治療までの一連の流れを見学し、はり師・きゅう師の資格取得に希望を持つことができる。 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>附属鍼灸センターでの医療面接について 医療面接についてその重要性を説明することができる。 【授業形態】講義・実習 復習：講義および実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>問診に必要な情報について 医療面接の問診について、必要な情報を説明することができる。 【授業形態】講義・実習 復習：講義および実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>附属鍼灸センターでの医療面接について 問診に必要な情報を基に、医療面接の内容を整理しコミュニケーションを行うことができる。 【授業形態】講義・実習 復習：講義および実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>附属鍼灸センターでコミュニケーション実習 附属鍼灸センターでの見学を通して、コミュニケーションについて実習することができる。 【授業形態】実習 復習：講義および実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>見学を通してのレポート作成および発表 附属鍼灸センターでの見学を通して、コミュニケーションについて実習することができる。 【授業形態】講義・実習 復習：講義および実習で学んだ内容について知識を整理する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	ガイダンスにて配布した資料に目を通しておくこと
教科書	特記なし
参考書	特記なし
成績評価	4/5以上の出席した者に対して、実習態度（20%）および課題レポート（80%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：角谷英治 研究室：附属病院 2F教員室 メールアドレス：e_sumiya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 15:40-17:30</p> <p>担当教員名：山崎 翼 研究室：附属病院 2F教員室 メールアドレス：t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 15:40-17:30</p>
備考	<p>附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて実務経験あり アクティブラーニングとして、グループワークにて問診事項をまとめ、実習後は振り返りを行いまとめる。 DP：◎-5、○-2</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
岡田 成賛			
配当学科：柔道整復学科	時間数：15時間	講義形態：講義（遠隔授業：オンライン授業）	
添付ファイル			

授業目標	器官・系統別に分けて形態的に理解しようという講義であるが、得られた知識を基に分解された人体を、自ら再び一個の人体として再構築する能力を養うことを目的とする。内臓系に属する諸器官の構造と機能について、循環器系、消化器系、呼吸器、泌尿器系の順に講義する。諸内臓諸器官の位置、形態、機能を十分理解し、系統間のつながりを構築することが重要である。
授業計画	<p>1回目 循環器系概論（血管系・心臓） [到達目標] 循環器系の概要、血管の種類、構造について説明できる。 [備考] 循環器系の器官構成と血管の種類、構造。動脈と静脈の基礎。心臓の構造と組織について説明できる。</p> <p>2回目 循環器系各論（体循環・動脈） [到達目標] 体循環の動脈と伴走する静脈について説明できる。 [備考] 胸腹部の動脈各論。胸大動脈、腹大動脈の枝。内臓諸器官への動脈の走行。</p> <p>3回目 循環器系各論（静脈・リンパ） [到達目標] 動脈に伴走しない静脈について説明できる。リンパとリンパ系臓器について説明できる。 [備考] 門脈、奇静脈系、皮静脈（四肢）、脳の静脈など。リンパとリンパ節、胸腺、脾臓について。リンパ球を含む血球成分について。</p> <p>4回目 消化器系総論・各論 [到達目標] 消化管の基本構造。咽頭・食道の構造について説明ができる。 [備考] 消化器全般とその連絡。腹腔と消化器官の配置。口腔と歯・舌・大唾液腺の構成、分布、組織。咽頭・食道の組織構造の特徴。</p> <p>5回目 消化器系総論・各論 [到達目標] 胃の構造と機能について説明できる。小腸・大腸の構造と機能について説明できる。 [備考] 腹部内臓概論。腹膜・横隔膜。胃の組織構成。小腸・大腸 腸管の組織構成。消化・吸収のための構造。直腸・肛門の構造。</p> <p>6回目 消化器系各論・呼吸器系各論 [到達目標] 肝臓と胆嚢、膵臓の構造と機能について説明できる。呼吸器の概要、鼻腔・副鼻腔、気管支と肺、肺組織について説明できる。 [備考] 肝臓と胆嚢、膵臓の構造。肝臓内の組織と肝細胞機能。肝三つ組みと肝門を通過する管。胆汁路、膵管との関係。呼吸器の概要、鼻腔と副鼻腔の構造。咽頭・喉頭・声帯・気管。発声の神経支配。気管支と肺の組織構造、呼吸上皮とガス交換。呼吸運動と呼吸筋群、横隔膜。</p> <p>7回目 泌尿器系各論、理解度チェック [到達目標] 尿産生臓器、尿路、排尿・蓄尿器官について説明ができる。 [備考] 泌尿器系器官の配置。腎臓と腎組織。ネフロン（腎小体）の微細構造と濾過機構。糸球体傍装置。尿道の位置と組織構成。尿の移動機構。膀胱と尿道の位置と組織構成。男女の性差。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義中に疑問点が解消されなければ、授業後に質問し、速やかに疑問点を解消・理解する事が重要となる。更に復習として、授業内容をノートにまとめ直すことなどにより理解を深める(復習65分)。
教科書	「解剖学」第2版 社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 岸 清・石塚 寛 編 医歯薬出版 7800円(+税) ※講義はこの図書よりの図を多く用いる予定。
参考書	「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーニ M.J. テイモンズ M.P. マッキンリ著 井上貴央 監訳 西村書店 7800円(+税) ※講義で主に使うものではないが、単元によっては参考書として使用。
成績評価	全ての講義に出席することを前提に、指示する内容に従って小テストを実施して評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 岡田成賛 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : s_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜・木曜放課後(17:30~19:00)
備考	「当該教科とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1
	柔道整復師になる目的を忘れることなく、他言は慎み、学生全員が心地よい学習環境の構築をする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
中才 幸樹			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	陸上競技は「走る・跳ぶ・投げる」が基礎となっている運動である。 ウォーミングアップ・ストレッチ・ミニハードル・ラダートレーニング・新体力測定・基本動作・ドリル・自重トレーニング等を実践し、知識や技術を習得させ計測につなげさせる。 またスポーツと身体の動きづくりに対する認識を深める事を目標とする。
授業計画	<p>1 ガイダンス 健康スポーツ実習Ⅲの狙い・評価方法・履修にあたっての諸注意等を説明し、理解させる。 予習：シラバスに目を通しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>2 ウォーミングアップ 毎実習行なうウォーミングアップの流れを理解させる。 ジョグ・スタティックストレッチを中心に筋温と心温をを上昇させ血流を促し身体の機能を向上させる。 身体的にも精神的にも良い準備である事、目的である事を実践し体験させる。 予習：ウォーミングアップについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>3 動的ストレッチ 動的ストレッチ(ダイナミック)の重要性・故障やケガ予防・パフォーマンス向上に繋がる利点を体験させ学習させる。 スポーツ特有の動きづくりを実習し利点(関節可動域・ストレッチ・柔軟性・筋肉と神経のパイプ・バランス・協調運動などetc)がある事を理解させ実践させる。 予習：動的ストレッチについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>4 ミニハードル・ラダートレーニング ミニハードル・ラダートレーニングを使用し、色々な動作を説明し実践・体験させる。 規制させた中での正確な動きや速いパフォーマンスは、アジリティのレベルを上げさせるもの、賢い身体づくりであると説明し実践・体験させる。 予習：ミニハードル・ラダートレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>5 新体力テスト1 文部科学省・体力・運動能力調査から導入された「新体力テスト」(握力・上体起こし・反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅とび)を行い、得点表および総合評価と比較をさせ自らの体力・運動能力の現状を把握させる。 予習：新体力テストについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>6 新体力テスト2 文部科学省・体力・運動能力調査から導入された「新体力テスト」(50m走・ボール投げ)を行い、得点表および総合評価と比較をさせ自らの体力・運動能力の現状を把握させる。 予習：新体力テストについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>7 自重トレーニング(体幹) 自分の体重(自重)を負荷に利用した筋肉トレーニングを解説・実施させる。器具を使わなくても(意識・回数・インターバル)効率良く体力向上に繋げさせる。 予習：体幹の自重トレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>8 自重トレーニング(全身) 自分の体重(自重)を負荷に利用した筋肉トレーニングを解説・実施させる。器具を使わなくても(意識・回数・インターバル)効率良く体力向上に繋げさせる。 予習：全身の自重トレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>9 短距離(基本・ドリル) 短距離走で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。 予習：短距離の基本・ドリルについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>10 100m走(計測) 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 予習：100m走について、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>11 跳躍(基本・ドリル) 跳躍競技で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。 予習：跳躍の基本・ドリルについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p>

	12	走り幅跳 (計測) 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 予習:走り幅跳について、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
	13	投擲 (基本・ドリル) 投擲競技で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。 予習:投擲の基本・ドリルについて、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
	14	ボール投 (計測) 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 予習:ボール投について、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
	15	リレー種目 短距離で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させ、リレー種目についてルール・注意点を説明し実践させる。予習:動的リレーについて、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業後、水分補給・ストレッチ・アフターケアをしっかりと行う。	
教科書	指定しない	
参考書	指定しない	
成績評価	授業態度50% 実技評価30% 授業の貢献度20%	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中才 幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時	
備考	DP「◎-3」	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
小川 豊清			
鍼灸学科	30時間	実習(対面授業)	
添付ファイル			

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投技・固技の基本的な動きが身につく。 2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができる。 3. 柔道衣の管理や柔道場の安全を確かめるなど、健康や安全に留意する態度がとれる。 4. 礼法・受け身の重要性が充分理解できる。 5. 審判規定が理解できる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・柔道衣採寸 学習の取り組み方や方針が理解できる。 ※柔道衣がないので、スポーツウェアを持参してください。 1) 柔道の概要(歴史や理念)が理解できる。 2) 礼法(立礼、座礼)ができる。 3) 柔道衣の採寸。</p> <p>第2回 柔道衣の着方・柔道の概要・礼法・受け身・立技・固技 1) 柔道衣を正しく着ることができる。 2) 礼法(立礼、座礼)ができる。 3) 後受け身ができる。 4) 立技(大外刈)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 5) 固技(袈裟固)の理解ができる。</p> <p>第3回 礼法・受け身・立技・固技 1) 横受け身ができる。 2) 礼法(立礼、座礼)ができる。 3) 立技(背負投)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 4) 固技(縦四方固)の理解ができる。</p> <p>第4回 礼法・受け身・立技・固技 1) 前回り受け身ができる。 2) 立技(一本背負投)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技(上四方固)の理解ができる。</p> <p>第5回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(大腰)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技(逆袈裟固)の理解ができる。</p> <p>第6回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(体落)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技(肩袈裟固)の理解ができる。</p> <p>第7回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(払腰)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 絞技の掛け方が理解できる。</p> <p>第8回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(膝車)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 絞技の掛け方が理解できる。</p> <p>第9回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(支釣込足)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第10回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(大内刈)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第11回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(小内刈)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 絞技・関節技の掛け方が理解できる。</p> <p>第12回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(手技・腰技・足技)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。</p> <p>第13回 礼法・受け身・立技・固技 1) 受け身ができる。 2) 立技(手技・腰技・足技)に対しての投げ方と受け方(受け身)ができる。 3) 固技の掛け方と逃げ方のグループワークが体験できる。</p>

	<p>第14回 まとめ、理解度チェック</p> <p>1) 礼法（立礼、座礼）ができる。</p> <p>2) 受け身ができる。</p> <p>3) 立技（手技・腰技・足技）に対しての投げ方と受け方（受け身）ができる。</p> <p>4) 固技の掛け方ができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>柔道場で準備学習を希望する者は小川まで申し出てください。なお、体調管理に十分留意してください。また、怪我防止のためにも、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。各実技タイトルに関連する内容を事前学習し（予習35分）、実技で学修した内容をまとめてください（復習35分）。</p>
教科書	なし
参考書	1) 学校柔道 全国高等学校体育連盟柔道部 著（史資料出版協会）
成績評価	<p>授業回数の5分の4以上の出席（欠席は2回まで可とする）。</p> <p>実際の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキルの習熟度、取り組みの意欲・態度、教員・学生間のコミュニケーションの有無、スポーツマンシップの実践などを加味して、授業最終日に実技テストを行い総合評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小川 豊清</p> <p>研究室 : 体育館・教員室</p> <p>メールアドレス : t_ogawa@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 随時</p>
備考	20年間における、ジュニアから社会人までの柔道指導の実務経験をもとに、実技指導を行う。
	この授業とディプロマポリシーとの関連：○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義（遠隔授業：オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業では、体育・スポーツの基礎的概念について解説し、体育科学・スポーツ科学の基礎的知識を学びながら、体育・スポーツについて、その基礎的概念や科学的な知識をより深く体系的に理解するための能力を育成する。また、それに従い体育・スポーツの目標論を検討しながら、スポーツ原理について体系的に学習し、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を目指すことを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 「原理」の概念 本授業内容の方向付け [到達目標] 「原理」の基礎概念について理解できる。 予習：身近にあふれている「原理」と名の付く言葉を集めてくる（60分） 復習：「原理」について学んだことを復習しておく（60分）</p> <p>第2講 体育とスポーツ（1） [到達目標] 体育とスポーツの違いについて理解できる。 予習：体育とは何か。またスポーツとは何か考えておく（60分） 復習：体育とスポーツの違いについて学習内容を復習しておく（60分）</p> <p>第3講 体育とスポーツ（2） [到達目標] 体育・スポーツにおける哲学的解釈を理解できる。 予習：体育・スポーツにおける「哲学」とは何かを考えてくる（60分） 復習：原理の哲学的解釈について復習しておく（60分）</p> <p>第4講 身体教育の歴史を「原理」的に解析 [到達目標] 体育原理とスポーツ原理を対比できる。 予習：「体育原理」と「スポーツ原理」の違いを明確にしてくる（60分） 復習：本時で学んだ両者の違いを対比表でまとめてくる（60分）</p> <p>第5講 スポーツ科学 [到達目標] スポーツ科学を原理的に分析できる。 予習：スポーツ科学の現状を調べてくる（60分） 復習：スポーツ科学発展の歴史について、古代から近代までの年表を作成する（60分）</p> <p>第6講 スポーツの概念とその歴史 [到達目標] 遊びから競技への発展過程を原理的に解釈できる。 予習：現在の各種スポーツが、競技種目として完成されるまでの経緯を調べてくる（60分） 復習：各種スポーツ競技が完成されていった過程を時系列に並べ、一覧表を作成する（60分）</p> <p>第7講 文化としてのスポーツ [到達目標] 「伝統的な競技」から「競技スポーツ」への発展について考えることができる。 予習：古代から近代までの伝統的競技が、競技スポーツに発展した事例を調べる（60分） 復習：古代からの伝統競技と近代スポーツ競技の完成経緯がわかる年表を作成する（60分）</p> <p>第8講 オリンピック（1）オリンピックの歴史 [到達目標] 古代オリンピックと近代オリンピックを対比できる。 予習：古代オリンピックと近代オリンピックの歴史を調べてくる（60分） 復習：オリンピックの歴史年表を作成する（60分）</p> <p>第9講 オリンピック（2） [到達目標] オリンピックと経済の関係について「原理」の側面から分析できる。 予習：オリンピックにおける経済効果が注目され始めた時代背景を調べてくる（60分） 復習：古代と現代で、オリンピック大会の在り方がどのように変わっていったか時系列にまとめる（60分）</p> <p>第10講 ドーピングの哲学 [到達目標] ドーピングの哲学について「原理」の立場から分析できる。 予習：なぜドーピングに走るのか、その背景を事例ごとに時系列にまとめてくる（60分） 復習：ドーピングすることに追い込まれた選手の心理的背景を一覧表にして整理する（60分）</p> <p>第11講 スポーツマンシップとフェアプレイ [到達目標] スポーツマンシップとフェアプレイを「原理的に」分析できる。 予習：スポーツマンシップとフェアプレイについて、話題になった事例を集めてくる（60分） 復習：スポーツマンシップが無くなると、競技はどうなるのかまとめる（60分）</p> <p>第12講 コーチング、スポーツ指導者におけるスポーツ原理とは [到達目標] スポーツにおける指導者の在り方について考えることができる。 予習：「いいコーチ」と「わるいコーチ」の、実際にあった事例を集めてくる（60分） 復習：コーチングの原理解釈について理解したことをまとめる（60分）</p> <p>第13講 「女性とスポーツ」の原理 [到達目標] 近代科学と女性のスポーツ活動について解析できる。 予習：女性が参加しやすくなったスポーツ社会背景を科学的な視点から調べてくる（60分） 復習：科学の発展と女性のスポーツ活動の活性化を対比してまとめておく（60分）</p> <p>第14講 総括 [到達目標] 講義のまとめ（定期試験） 予習：第1講～第14講をまとめておく（60分）</p>

	復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること（60分）
授業時間外の学習 （準備学習等）について	自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-3。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
齊藤 昌久			
配当学部：鍼灸学部 鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス_3S246スポーツ心理学_鍼灸.xlsx			

授業目標	<p>【授業概要】 スポーツ心理学では、コーチングの基本である「より良い人間関係の構築」するのに必要な知識やスキル、自分自身を知り客観的に見つめることのできる知識やスキル、またスポーツが個人の人格形成に及ぼす効果、個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスに影響すること、を学ぶ。さらに、スポーツへの動機づけやコーチングの評価などの原理・原則から具体的な方法論を学ぶ。</p> <p>【授業目標】 授業内容を十分に理解し、実践知識として臨床・教育・スポーツ指導現場に有効活用できることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、スポーツ、コーチング、心理学、スポーツ心理学とは 【到達目標】 1) スポーツ心理学について概説できる。 2) スポーツの心理的効果について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。 【備考】（予習項目） スポーツ、心理。教科書第1章1を熟読。</p> <p>第2講 対他者力を磨こう！-1：コミュニケーション・リーダーシップ・プレゼンテーションスキル 【到達目標】 16) スポーツにおける集団要因（リーダーシップ・チームワーク）が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。 【備考】（予習項目） コミュニケーションスキル、リーダーシップスキル、プレゼンテーションスキル。教科書第1章4. 1～3を熟読。</p> <p>第3講 対他者力を磨こう！-2：ファシリテーションスキル、チームビルディング 【到達目標】 17) コーチング計画がたてられ、説明ができる。 18) チームビルディングについて説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。 【備考】（予習項目） ファシリテーションスキル、チームビルディング。教科書第1章4. 4～5を熟読。</p> <p>第4講 対自己力を磨こう！：コーチの学び、セルフマネジメント、思考法・伝達法 【到達目標】 13) スポーツが個人の人間形成（自己概念、ライフスキル獲得）に及ぼす影響が概説できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 17) コーチング計画がたてられ、説明ができる。 22) 自己分析、イメージトレーニング、心理的コンディションについて説明できる。 23) ストレス、ストレッサーについて説明できる。 24) ストレスマネジメントについて説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。 【備考】（予習項目） コーチの学び、セルフマネジメント、思考法・伝達法。教科書第1章5. を熟読。</p> <p>第5講 心のトレーニング-1：行動としてのスポーツ、動機づけ 【到達目標】 6) 内発的動機づけと外発的動機づけの違いが説明できる。 7) 動機づけや目標設定について説明できる。 8) コーチングをうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 19) バーンアウトについて説明できる。 20) 運動の参加継続について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメ</p>

第6講	<p>ントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） 行動としてのスポーツ、動機づけ。教科書第2章4. 1～2 を熟読。</p> <p>心のトレーニング-2：メンタルマネジメント、他者観察</p> <p>【到達目標】</p> <p>13) スポーツが個人の間人形成（自己概念、ライフスキル獲得）に及ぼす影響が概説できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 26) スポーツメンタルトレーニングについて説明できる。 27) 基本的な心理スキル構造について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） メンタルマネジメント、他者観察。教科書第2章4. 3～4. を熟読。</p>
第7講	<p>心のトレーニング-3：個人差を考慮したコーチング、日常生活における相談</p> <p>【到達目標】</p> <p>12) コーチの指導条件が人間形成効果の促進・妨害するコーチの指導条件が説明できる。 13) スポーツが個人の間人形成（自己概念、ライフスキル獲得）に及ぼす影響が概説できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） 個人差を考慮したコーチング、日常生活における相談。教科書第1章4. 5～6を熟読。</p>
第8講	<p>心のトレーニング-4：運動感覚、運動学習</p> <p>【到達目標】</p> <p>9) 運動学習理論について説明できる。 10) モデリング（観察学習）や言語的指導、効率的なフィードバックの与え方が説明できる。 11) 運動学習の制御について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） 運動感覚、運動学習。教科書第1章4. 7～8 を熟読。</p>
第9講	<p>心のトレーニング-5：フィードバック、心理サポート・集中力</p> <p>【到達目標】</p> <p>5) 自己決定理論の構成要素が説明できる。 10) モデリング（観察学習）や言語的指導、効率的なフィードバックの与え方が説明できる。 28) スポーツカウンセリングについて説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） フィードバック、自己決定理論。教科書第1章4. 9～10. を熟読。</p>
第10講	<p>心のトレーニング-6：イメージトレーニング、あがり・プレッシャー・スランプ</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 14) パーソナリティの特徴、情動（緊張・不安）の状態が説明できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） イメージトレーニング、スランプ、サイキングアップ、セルフトーク。教科書第1章4. 11～12. を熟読。</p>
第11講	<p>心のトレーニング-7：性格/自己概念、心理的コンディショニング</p> <p>【到達目標】</p> <p>5) 自己決定理論の構成要素が説明できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 27) 基本的な心理スキル構造について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目） 性格・自己概念、心理的コンディショニング。教科書第1章4. 13～14. を熟読。</p>
第12講	<p>心のトレーニング-8：その他、目標達成ツール等</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 32) わかりやすい発表ができる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。</p> <p>【備考】（予習項目）</p>

	<p>マンダラート、マインドマップ。 Web等で調べておくこと。</p> <p>第13講 スポーツ・運動における行動変容 【到達目標】 20) 運動の参加継続について説明できる。 21) 行動変容ステージが説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。 【備考】（予習項目） セルフエフィカシー、行動変容、行動変容ステージ。 Web等で調べておくこと。</p> <p>第14講 レビュー：これまでの授業内容の総合的な復習（質問に答えて）と練習問題 【到達目標】 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。 【備考】（予習項目） 授業内容で理解のできなかった項目、疑問点を抜き出しておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習35分）。理解できない箇所（事柄）があれば、参考書を熟読するか、小テストのコメントに記入すること。次の授業でフィードバックする。 ・ 講義資料（ハンドアウト）は、講義ノートと共に必ず整理すること。授業の復習は、必ず確実にすること（記憶に焼き付けられようように）（復習35分）。 ・ 試験は、基本的に授業を行った範囲から出題する。しかし、関連する科目や授業外の内容も出題する場合があります。
教科書	「Reference Book」公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「勝負脳の鍛え方」林 成之著（講談社現代新書） 2) 「スラムダンク勝利学」辻 秀一著（集英社） 3) 「勝ちつづけるチームをつくる勝負強さの脳科学ーピットフォールの壁を破れ！ー」林 成之著（朝日新聞出版）
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> ①合格点：100点法により評価し、評価点が60点以上を合格とする。 ②評価点の算出・内訳：筆記試験 70%、小テスト 30% ③再試験：筆記試験が60%未満の場合、筆記試験により再評価を行う。 ④アセスメントとフィードバック： アセスメント；試験・テスト結果、 フィードバック；試験・小テストの結果発表、小テストのコメントの質疑応答による双方向にて行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室 メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学生諸君の都合の良い時間（要予約）。事前にメールで予約を取ってください。</p>
備考	<p>ディプロマ・ポリシーとの関係； ◎ー1. 知識・理解 ○ー2. 思考・判断、5. 技能・表現</p>

講義科目名称： スポーツ生理学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	スポーツ・運動時の循環，呼吸，神経，筋，およびエネルギー代謝などの生体諸機能の変化および反応について，運動生理学的な視点から学習する。トレーニングによる身体機能の変化について，運動生理学的観点から考察できるようにする。
授業計画	<p>第1回 運動と骨格筋・神経系（1） 到達目標：筋のATP産生系，運動強度・時間とエネルギー源，筋線維の種類について説明できる。 備考：教科書（第1章，第2章）ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第2回 運動と骨格筋・神経系（2） 到達目標：運動の調節のしくみ，運動単位の動員，筋の収縮様式，トレーニングと筋力の変化，筋肥大のメカニズムについて説明できる。 備考：教科書（第3章，第4章）ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第3回 運動と循環 到達目標：運動時の心拍出量変化，運動時の血圧変化，トレーニングによる循環機能の変化，スポーツ心臓について説明できる。 備考：教科書（第5章）ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第4回 運動と呼吸 到達目標：ガス交換，血液によるガスの運搬，呼吸商，最大酸素摂取量，酸素借，EPOC，換気性作業閾値，トレーニングによる呼吸機能の変化について説明できる。 備考：教科書（第6章）ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第5回 運動とホルモン 到達目標：ホルモンの種類，分泌の調節，身体活動に関与するホルモンの作用，運動時の代謝調節について説明できる。 備考：教科書（第7章）ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第6回 運動と体温調節 到達目標：産熱と放熱のしくみ，体温調節のしくみ，運動時の体温調節，運動と熱中症について説明できる。 備考：教科書（第9章）ならびに配布資料を熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第7回 まとめ 到達目標：第1～6回までの学習範囲について理解した上で，運動時の生理学的変化を説明できる。 備考：事前に提示された課題に対して，説明ができるようにすること。 アクティブラーニングの有無：有 事前に配布した課題に対してフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して，事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習130分） 各講義後，配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし，それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。（復習130分）
教科書	『入門運動生理学 第4版』勝田 茂 編著，和田正信，松永 智 著（杏林書院）
参考書	特に指定しない。 ※運動生理学，スポーツ生理学関連の本
成績評価	期末試験の結果（80%）と小テストの結果（20%）にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：林 知也 研究室：8号館4階 林（知）教授室 オフィスアワー：月曜日17:30-18:30
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
和辻 直			
添付ファイル			

授業目標	<p>世界的には東洋医学、東アジア伝統医学（鍼灸・漢方）は伝統医学の代表的な一つである。この東アジア伝統医学は主に中国、日本、韓国など自国の伝統医学として発展している。また補完・代替医療(CAM)から統合医療へと注目されている。日本においても漸くその機運が高まりつつあるのが現状である。医療人として、現代医療にどのように貢献していくのか、また統合医療においてどのような役割を担うことができるのかを考え、今後の方向性について考えることを目的とする。</p> <p>本科目では世界の鍼灸や統合医療について正しく理解し、各国の鍼灸治療の概要、補完医療、代替医療、統合医療の違いについて説明できるようになる。また統合医療において、鍼灸師の役割を理解し、今後の方向性について考察できるようになる。</p>
授業計画	<p>概論1 統合医療とは？ 統合医学を学ぶことの意味、目的を理解する。統合医学とは何かを理解する。補完医療、代替医療、統合医療との相違を理解し、説明できる。また伝統医学と西洋医学、東洋医学と西洋医学との統合について考える。</p> <p>概論2 世界の統合医療との日本の統合医療 世界における統合医療と日本における統合医療の現状を理解し、その違いを知ることができる。</p> <p>概論3 世界の鍼灸 主に中国、韓国、台湾、米国などの鍼灸治療を紹介する。各国の鍼灸について触れ、何が優れているかを考えることができる。</p> <p>概論＋討論1 統合医療の実際1（発表） アロマセラピーやハーブ、温泉療法、森林浴など、自然療法に分類される統合医療について概要を学ぶと共に、各項目ごとは発表してもらう。調べたレポートを提出する。</p> <p>概論＋討論2 統合医療の実際2（発表） 太極拳・ヨガ・気功・ホメオパシーなど、運動系やその他に分類される統合医療について概要を学ぶと共に、各項目ごとは発表してもらう。調べたレポートを提出する。</p> <p>概論4 世界における日本の鍼灸の立場（講義＋アクティブラーニング） 世界の鍼灸事情から日本の鍼灸を考える、その概要（世界の鍼灸の概要、日本鍼灸の特徴）を学ぶ</p> <p>概論5 統合医療と養生（講義＋アクティブラーニング） 統合医療を用いた予防法である養生について、その詳細（考え方・身体を知る・身体を整える）について学ぶ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	プリント配布をします。 また参加型の講義を実施しますので、能動的に取り組んでください。
教科書	プリント教材
参考書	「統合医療 第2版」 今西二郎 Kinpodo
成績評価	受動的な講義形式と、学生自らが調査・発表・討論を行う講義の2つからなる。 出席日数は、3/5以上を受験資格とする。レポートと出席で評価し、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 なお、レポート評価（70%）、出席および平常評価(30%)とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直 研究室 : 鍼灸センター2F 教授室 メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（鍼灸センター治療のため、月曜日以外）
備考	附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。在宅訪問鍼灸にも従事していた。 DP：○-1、◎-2、○-3
	アクティブラーニング：レポート発表し、その課題について討論する。講義を聞いた後に討論する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
吉田 行宏、齊藤 昌久			
配当学部：鍼灸学部 鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義／オンライン授業（オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス_3S248スポーツ医学基礎_鍼灸.xlsx			

授業目標	<p>【授業概要】 「スポーツ医学 基礎」では、グッドコーチに求められる医・科学的知識（トレーニング科学、スポーツ医・科学）を学修する。その目的は、コーチング（スポーツ・運動指導）対象者のスポーツ活動を円滑に進めるために、また彼らのパフォーマンスの向上・改善が円滑・効率的に進めるために必要な知識を学修することである。また、授業内容に関連した問題を解き、質疑応答形式でその解説を行うなどして双方向型授業（アクティブラーニング）を目指す。</p> <p>なお、この科目は、2年後期に開設される「スポーツ医学応用」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学科と柔道整復学科は、JATAC-ATC、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、救急救命学科は保健医療学部は、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員を取得するための科目である。</p> <p>【授業目標】 スポーツ医・科学とトレーニング科学の基本的な考え方と理論体系を習得することを目的とする。スポーツ医・科学では、スポーツ外傷と障害の予防、救急処置、アンチ・ドーピングを、トレーニング科学では、トレーニングの基本的な考え方・理論体系、体力・スキルのトレーニングの原理原則、トレーニング計画を習得することを目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 （担当：吉田行宏）ガイダンス、スポーツに関する医学的知識：スポーツと健康、アスリートの健康管理 【到達目標】 1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学基礎」の概要を理解する。 2. スポーツと健康について理解し説明できる。 3. アスリートの健康管理について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP262-269までを熟読しておくこと。</p> <p>2回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：アスリートの内科的障害と対策 【到達目標】 アスリートの内科的障害とその対策について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP269-276までを熟読しておくこと。</p> <p>3回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：女性アスリートの障害と対策、スポーツにおける精神障害と対策 【到達目標】 女性アスリートの障害とその対策について理解し説明できる。 スポーツにおける精神障害とその対策について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP276-282までを熟読しておくこと。</p> <p>4回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：外傷、障害の予防 【到達目標】 スポーツで起こる外傷・障害とその予防について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP282-292までを熟読しておくこと。</p> <p>5回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：コンディショニングの手法 【到達目標】 コンディショニングの手法について理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP292-297までを熟読しておくこと。</p> <p>6回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：救急処置(救急蘇生法)、救急処置(外科的応急処置)</p>

	<p>【到達目標】 救急蘇生法について理解し説明できる。 外科的応急処置について理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式)</p> <p>【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブック P297-310までを熟読しておくこと。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-1、スポーツパフォーマンス構造論</p>
7回目	<p>【到達目標】 1) 自らがコーチングしているスポーツ種目のパフォーマンスがどのようなものであるかについて、明確な階層構造的要因として(設計図のように)理解・説明ができ、活用できる。 2) 目指すパフォーマンスをどこに設定するか、またそのための課題は何かについて、時間資源を考慮しながら設定することができる。 3) 設定課題を解決するためのトレーニング手段を選択し、それら数種類を組み合わせることでトレーニング方法を設定することができる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p>【備考】(予習項目) スポーツトレーニングサイクル、スポーツパフォーマンス構造論。教科書熟読：p. 132-139。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-2、トレーニング計画論</p>
8回目	<p>【到達目標】 4) トレーニングを数年間、1年間、数ヶ月、数週間、1週間、1日という長期から短期までの時間資源の中で計画できる。 5) 試合当日の行動を戦略的に行うことができる。 6) 一連のトレーニングサイクルが適切であったか、さらによりよくするためにはどうすべきかに関する測定・評価・診断(アセスメント)を行うことができる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p>【備考】(予習項目) トレーニング計画論、トレーニングと休養のバランス、他。教科書熟読：p. 139-155。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：体力のトレーニング-1、身体のしくみと働き、体力を構成する要素体系他</p>
9回目	<p>【到達目標】 7) 体力を構成する要素について、身体のしくみと働きを踏まえて体系的に説明できる。 8) 各自が実践するスポーツ種目に必要な体力の種類とそのバランスについて説明できる。 9) 体力トレーニングに関する基本的な原理および原則が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p>【備考】(予習項目) 身体のしくみと働き、呼吸循環器系の働きとエネルギー供給、体力構成要素 教科書熟読：p. 156-178。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：体力のトレーニング-2、体力トレーニングの原理・原則、種類</p>
10回目	<p>【到達目標】 9) 体力トレーニングに関する基本的な原理および原則が説明できる。 10) 筋力・パワートレーニングの手段と方法、原理および原則が説明できる。 11) 持久力トレーニングの手段と方法、原理および原則が説明できる。 12) 柔軟性トレーニングの手段と方法、原理および原則が説明できる。 13) 体力トレーニング手段の組み合わせ方が説明できる。 14) トレーニングの目標と課題、具体的な手段、実践内容や方法について考えて計画し、説明が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p>【備考】(予習項目) 体力トレーニングの原理・原則、トレーニングの種類。教科書熟読：p. 176-191。 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スキルのトレーニング-1、スポーツ技術・技能、スキルトレーニングの特徴など</p>
11回目	<p>【到達目標】 15) 技術トレーニングの課題は、技術の理論的理解、能力に応じた技術のモデル化、技術の改善や最適化、新しい技術の創造などにあることが説明できる。 16) 技術を観察・分析・評価する方法には、定量的なバイオメカニクス的方法と、定性的な質的観察法(自己観察、他者観察)などの方法が説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。</p> <p>【備考】(予習項目) スキルとスポーツ技術・技能、スキルトレーニングの時期・手段・方法。教科書熟読：p. 192-196。</p>

	<p>12回目 (担当：齊藤昌久) トレーニングの科学：スキルのトレーニング-2、スキル向上のメカニズム・効果 【到達目標】 17) 技術的な習熟・発達には大きく3つの段階があり、上達の過程でプラトーやスランプなどの現象が見られることが説明できる。 3133 18) 技術トレーニングの方法、全習法（協調的全習法）と分習法、集中法と分散法、負荷軽減法（アシステッド法）と超過負荷法（レジステッド法）、イメージトレーニング法などについて説明できる。 3134 19) 技術トレーニングの方法の実施する順序や組み合わせによる効果の違いが説明できる。 3135 20) トレーニングの心理面、技術面、体力面はそれぞれ独立したのではなく、相互に規定し合い、密接に関連し補完し合う関係にあることが説明できる。 3136 21) コーチング対象者に必要とされる技術トレーニングの目標と課題、具体的な手段や方法を選択し、トレーニングを計画し、説明できる。 42) 必要な課題を自ら発見できる。 【授業形態】 オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。 【備考】（予習項目） スキル向上のメカニズム、スキルトレーニングの効果 教科書熟読：p. 196-197。</p> <p>13回目 (担当：吉田行宏) アンチ・ドーピング①：アンチドーピングとは一スポーツ指導者の役割 【到達目標】 アンチドーピングについて理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP311-321までを熟読しておくこと。</p> <p>14回目 (担当：ゲストスピーカー) アンチ・ドーピング②：アンチドーピングとは一スポーツ指導者の役割 【到達目標】 アンチドーピングについて理解し説明できる。 【授業形態】 オンライン授業(オンデマンド方式) 【備考】 アンチ・ドーピングに関わる専門家をゲストスピーカーとし、その現状について授業を行う。リファレンスブックP311-321までを熟読しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	・ 教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習30分）。理解できない事柄（事項）があれば、メモをとり、参考書を熟読するか、授業での質疑応答は積極的な参加を求めます。 ・ 配付資料（ハンドアウト）は、講義ノートとともに必ず整理すること。授業の復習は、記憶に焼き付けられるように、必ず、確実にすること（復習30分）。
教科書	「Reference Book」（リファレンスブック） 公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	トレーニングの科学（齊藤担当） 「トレーニング科学 最新エビデンス」 安部 孝編（講談社サイエンティフィク） 「スポーツでのばす健康寿命」 深代千之、安部孝編（東京大学出版会）
成績評価	出席が3/5以上の者を対象に評価を実施する。 ①合格点：各回の講義終了後に実施する小テスト(100点法)を集計して評価し、評価点が60点以上を合格とする。 ②評価点が80点以上を優、70点～79点を良、60～69点を可とする。 ③アセスメントとフィードバック： アセスメント；小テスト結果 フィードバック；小テスト結果の発表、授業中・授業前後の質疑応答による双方向にて行う。
担当教員の基本情報	担当教員名：吉田行宏 研究室：附属鍼灸センター2F 教員室 メールアドレス：y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日 13:50-16:40 担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室 メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義終了後、あるいは学生諸君の都合の良い時間（要予約）。ただし、講義終了後以外は事前にメールで予約を取ってください。
備考	実務経験； 吉田行宏：資格（はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、日本赤十字社救急法指導員）、鍼灸臨床歴19年、教員歴11年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。 齊藤昌久：前任校（大阪医科薬科大学、旧 大阪医科大学 ～2021年3月まで）では、生理学教室に在籍中「生理学」の講義とリハビリテーション医学教室に在籍中は「運動生理学とCPR」の講義を受け持っていた。
	アクティブラーニング； 小テストのフィードバック及び授業中・授業前後の質疑応答による双方向にて行う。
	ディプロマ・ポリシーとの関係； ◎ー1. 知識・理解 ○ー2. 思考・判断

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
河合 裕子			
添付ファイル			

授業目標	<p>医学では様々な治療が行われ、優れた治療法を求めて治療効果の判定が常に行われている。このとき、治療効果の優劣を判断する手法が「統計処理」である。そこで、この授業では表計算ソフトを用いて統計の基本を学修し、統計学的に解釈できる能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療情報を独力で収集し整理できる能力を培うことで、コンピュータを利用した「データ処理」を身につけ実践できることを目指す。 ・医療情報の解析に必要な統計学用語を理解し、表計算ソフトを用いて統計処理を実施することで医療統計の基本的概念を身につける。 ・医療情報の収集と取り扱いの注意点、医療システムについて学修し、理解を深める。
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、統計の概念 [到達目標] 統計に用いる用語と考え方を理解する 記述統計と推計統計の違いを理解する 仮説検定の概念を理解する 統計が必要になる場面について整理できる [備考] 課題提出あり</p> <p>第2講 統計処理①：さまざまな評価スケールと数値尺度 [到達目標] 数字の性質を理解し、尺度水準を用いた分類ができる パラメトリック・ノンパラメトリックの違いを説明できる 適切な統計手法を選択できる 正規分布、大数の法則、期待値の概念が理解できる [備考] 復習テストあり 課題提出あり</p> <p>第3講 統計処理②：定量的なデータの処理 [到達目標] パラメトリックな手法のうち、2群のデータを想定した統計手法とその特徴を理解する 表計算ソフトを用いて、対応のある t 検定および対応のない t 検定が行える 統計的な有意差とは何かを理解し、判別することができる 帰無仮説と対立仮説を立てることができる F検定の意味を説明でき、実行できる [備考] 復習テストあり 課題提出あり</p> <p>第4講 統計処理③：定量的でないデータの処理 [到達目標] 聞き取り調査などに代表される定量的でないデータを数値化する方法とその意味を理解する ノンパラメトリックな手法として、2群のデータを想定した統計手法とその特徴を理解する 表計算ソフトを用いて、χ^2 (カイ2乗) 検定を行える 感度と特異度が理解できる [備考] 復習テストあり 課題提出あり</p> <p>第5講 データの可視化と統計処理の実践 [到達目標] 実務において必要となる記述統計と推計統計の違いについて説明できる データの可視化において必要となるグラフの取り扱いができる 学修した統計手法を実際に収集したデータに適用できる [備考] 復習テストあり 課題提出あり</p> <p>第6講 復習と演習 [到達目標] 統計用語について説明できる グラフと統計の関係性を説明できる データに即した統計手法を選択することができる PCおよびソフトウェア操作の基本的な操作をスムーズに行い、独力でデータの統計的解析を実施できる [備考] 課題提出あり</p> <p>第7講 到達度テスト/医療システムと個人情報保護 [到達目標] 独力でデータの統計的解析が実施できる</p>

	<p>個人情報保護について復習し、悪意のあるプログラムとパスワードの重要性について説明できる 病院内の医療情報と電子カルテについて、医療情報システムのメリット・デメリットおよび個人情報保護の仕組みについて説明できる [備考] 表計算および統計の到達度テストを実施する</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義に使用するHPを参考にして各講義で必要となる用語や操作手順をまとめておくこと。(130分程度) ・復習：講義内容および理解に時間を要した操作についてファイル等にまとめ、次回以降の躰き解消に努めるとともに、講義開始時に実施する確認テストに解答できるようにしておくこと。(130分程度) ・講義をやむを得ず欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認して演習問題を解答できるようにしておくこと。 ・webブラウザのブックマークやリンクの活用、フォルダを利用したファイル整理など、必要な情報は各自でまとめ、併せてコンピュータスキルの獲得に努めること。
教科書	特に指定しない
参考書	活用事例でわかる!統計リテラシー (noa出版) 医療・保健学のためのやさしい統計学 (金原出版)
成績評価	復習テスト 30%、到達度テスト 70%
担当教員の基本情報	<p>担当教員の基本情報</p> <p>担当教員名 : ○ 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:20-18:20</p> <p>担当教員名 : 梅田 雅宏 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:20-18:20</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:50</p>
備考	<p>講義の資料は学内ホームページを参照のこと。 https://sites.google.com/a/mst.meiji-u.ac.jp/medinfo02/medinfo_s2020 課題の提出およびフィードバックにはGoogle Classroomを利用する。 https://classroom.google.com</p> <p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-1, ○-2</p>

講義科目名称： スポーツ医学応用

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
吉田 行宏、齊藤 昌久			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>「スポーツ医学応用」では、現場・環境に応じたコーチング（コーチング環境の特徴、スポーツ組織のマネジメント、障がい者とスポーツ）、対象別フィットネスプログラム（女性のフィットネスプログラム、障害者のフィットネスプログラム）を学修する。その目的は、コーチング（スポーツ・運動指導）対象者のスポーツ活動を円滑に進めるために、また彼らのパフォーマンスの向上・改善が円滑・効率的に進めるために必要な知識を学修することである。また、授業内容に関連した問題を解き、質疑応答形式でその解説を行うなどして双方向型授業（アクティブラーニング）を目指す。</p> <p>なお、この科目は、2年前期に開設される「スポーツ医学基礎」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学科と柔道整復学科は、JATAC-ATC、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、救急救命学科は保健医療学部は、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員を取得するための科目である。</p>
授業計画	<p>1回目 コーチング環境の特徴1</p> <p> 【到達目標】ジュニア期のコーチングの留意点について理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式） 【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>2回目 コーチング環境の特徴2</p> <p> 【到達目標】年齢区分からみたコーチングの留意点について理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式） 【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>3回目 コーチング環境の特徴3</p> <p> 【到達目標】運動部活動でのコーチングの留意点について理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式） 【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>4回目 コーチング環境の特徴4</p> <p> 【到達目標】中高年者へのコーチングの留意点について理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式） 【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>5回目 コーチング環境の特徴5</p> <p> 【到達目標】コーチングにおける性別の留意点について理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式） 【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>6回目 コーチング環境の特徴6</p> <p> 【到達目標】コーチングにおける性別の留意点について理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式） 【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>7回目 スポーツ組織のマネジメント1</p> <p> 【到達目標】スポーツ組織のマネジメントについて理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式） 【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>8回目 スポーツ組織のマネジメント2</p> <p> 【到達目標】スポーツ指導者に求められるマネジメントについて理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式） 【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>9回目 障がい者とスポーツ1</p> <p> 【到達目標】障がい者・障がいについて理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式） 【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>10回目 障がい者とスポーツ2</p> <p> 【到達目標】障がい者のスポーツの現状と課題について理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式） 【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>11回目 女性のフィットネスプログラム1</p> <p> 【到達目標】女性アスリートのフィジカルトレーニングについて理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式） 【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>12回目 女性のフィットネスプログラム2</p> <p> 【到達目標】女性アスリートのフィジカルトレーニングについて理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式） 【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>13回目 障害者のフィットネスプログラム1</p> <p> 【到達目標】障がい者のフィジカルトレーニングについて理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式）</p>

	<p>【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>1 4 回目 障害者のフィットネスプログラム2</p> <p>【到達目標】障がい者のフィジカルトレーニングについて理解し説明できる。</p> <p>【授業形態】オンライン授業（オンデマンド方式）</p> <p>【備考】小テストを実施する。リファレンスブックの該当ページを熟読しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習30分）。理解できない事柄（事項）があれば、メモをとり、参考書を熟読するか、授業での質疑応答は積極的な参加を求めます。 ・ 配付資料（ハンドアウト）は、講義ノートとともに必ず整理すること。授業の復習は、記憶に焼き付けられるように、必ず、確実にすること（復習30分）。
教科書	「Reference Book」（リファレンスブック） 公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	特記無し
成績評価	<p>出席が3/5以上の者を対象に評価を実施する。</p> <p>①合格点：各回の講義終了後に実施する小テスト(100点法)を集計して評価し、評価点が60点以上を合格とする。</p> <p>②評価点が80点以上を優、70点～79点を良、60～69点を可とする。</p> <p>③アセスメントとフィードバック： アセスメント；小テスト結果 フィードバック；小テスト結果の発表、授業中・授業前後の質疑応答による双方向にて行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：吉田行宏 研究室：附属鍼灸センター2F 教員室 メールアドレス：y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日 13:50-16:40</p> <p>担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室 メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義終了後、あるいは学生諸君の都合の良い時間（要予約）。ただし、講義終了後以外は事前にメールで予約を取ってください。</p>
備考	<p>実務経験； 吉田行宏：資格（はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、日本赤十字社救急法指導員）、鍼灸臨床歴19年、教員歴11年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。</p> <p>齊藤昌久：前任校（大阪医科薬科大学、旧 大阪医科大学 ～2021年3月まで）では、生理学教室に在籍中「生理学」の講義とリハビリテーション医学教室在籍中は「運動生理学とCPR」の講義を受け持っていた。</p>
	<p>アクティブラーニング； 小テストのフィードバック及び授業中・授業前後の質疑応答による双方向にて行う。</p>
	<p>ディプロマ・ポリシーとの関係； ◎-1. 知識・理解 ○-2. 思考・判断</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学	時間数：15時間	講義形態：講義・オンライン	
添付ファイル			

授業目標	本講義は、4年生に開設される卒業研究Ⅳに向けての準備段階の科目である。 具体的には、医療・健康・予防の未来を理解し、その中で鍼灸師に何ができるのかを考えることで、卒業後の未来を考える機会とする。また、卒業生が切り開いている未来を知り、自分たちの夢に落とし込むことで、自分の将来のビジョンを明確にするための時間とする。なお、シラバスの順番は入れ替わることもある。
授業計画	<p>1回目 医療・鍼灸の未来を考える 【到達目標】 これからの未来の医療で鍼灸師に何ができるのかを考えてみよう 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 Web授業</p> <p>2回目 健康・予防の未来を考える 【到達目標】 これからの未来の健康・予防で鍼灸師に何ができるのかを考えてみよう 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 Web授業</p> <p>3回目 自分の身体を知る 【到達目標】 自分の身体を知り、主観的な感覚と客観的な感覚の違いをまとめる 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 対面式授業</p> <p>4回目 最新の鍼灸や東洋医学に触れる① 【到達目標】 鍼灸や東洋医学に関する最新の研究や各領域の専門家に触れ、動向を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 関連学会への参加、研修会への参加、夜ゼミ等へ参加し、レポートを提出する。 今年度はWeb授業とする。</p> <p>5回目 最新の鍼灸や東洋医学に触れる② 【到達目標】 鍼灸や東洋医学に関する最新の研究や各領域の専門家に触れ、動向を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 関連学会への参加、研修会への参加、夜ゼミ等へ参加し、レポートを提出する。 今年度はWeb授業とする。</p> <p>6回目 最新の鍼灸や東洋医学に触れる③ 【到達目標】 鍼灸や東洋医学に関する最新の研究や各領域の専門家に触れ、動向を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 関連学会への参加、研修会への参加、夜ゼミ等へ参加し、レポートを提出する。 今年度はWeb授業とする。</p> <p>7回目 最新の鍼灸や東洋医学に触れる④ 【到達目標】 鍼灸や東洋医学に関する最新の研究や各領域の専門家に触れ、動向を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 関連学会への参加、研修会への参加、夜ゼミ等へ参加し、レポートを提出する。 今年度はWeb授業とする。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	鍼灸や東洋医学に関する書籍を読む 鍼灸治療院の見学を積極的に行う
教科書	なし
参考書	なし
成績評価	出席及びレポートにより評価(優・良・可・不可)する。
担当教員の基本情報	連絡先 研究室：鍼灸センター2F 教授室 メールアドレス：伊藤和憲 k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー・質問などがある際は、事前に上記メールで連絡をください。
備考	関連学会や研修会等は担当者が判断する。 参加する場合は事前に報告すること。 ディプロマポリシーとの関連 ③ 関心・意欲-○ ② 思考・判断-○
	DPとの関係 2：思考・判断-○ 3：関心・意欲-○

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
竹内孝治・石原安信			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	薬物療法学(=薬物治療学)総論と、各臓器の疾患で臨床応用されている薬物を中心に、薬物の薬理作用と主な副作用および臨床使用上の注意点について講義します。 薬物療法学は、薬と生体の相互作用の結果起こる生体機能の変化を調べる学問です。各臓器の生理・疾患を説いた後で、薬物がなぜ疾患を治療できるのか解説していきます。 授業の到達目標は、臨床で汎用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用に関する基本的な知識を習得することです。
授業計画	<p>第1講 総論・薬理学の概念、末梢神経系作用薬：、自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬 [到達目標] 薬理学の概念を説明できる。末梢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第2講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 中枢神経系作用薬 1:麻酔薬、鎮痛薬、催眠薬、抗不安薬、気分障害治療薬、抗精神病薬 [到達目標] 中枢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第3講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 中枢神経系作用薬 2:パーキンソン治療薬、抗てんかん薬、アルツハイマー病治療薬 [到達目標] 中枢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第4講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 心臓・血管作用薬:高血圧、心不全、狭心症、不整脈の治療薬 [到達目標] 心臓・血管に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第5講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 ホルモン・内分泌系作用薬:糖尿病治療薬、抗甲状腺薬、骨粗鬆症治療薬、生殖器系作用薬 [到達目標] ホルモン・生殖器系に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第6講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 抗炎症薬・呼吸器系作用薬:抗アレルギー薬、気管支喘息治療薬、消化器系作用薬:胃潰瘍治療薬、腸疾患治療薬 [到達目標] 炎症の機序とその治療に使われる薬の作用・副作用を説明できる。呼吸器、消化器に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第7講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬 [到達目標] 感染症・悪性腫瘍の発症機序とその治療に使われる薬の作用・副作用・作用メカニズムを説明できる。 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	次回の講義範囲の教科書を読んで予習しておくこと。また各回の講義終了ごとに、教科書付属の整理ノートのポイントを読み、確認問題を解くことにより復習をすること。
教科書	教材(テキスト) 『わかりやすい薬理学』安原 一・小口勝司 編集スーペール・ヒロカワ 随時、プリントを配布する。
参考書	『はじめての一步 イラスト薬理学』石井 邦雄 著 羊土社 授業中に適宜指示する。
成績評価	期末試験(80%)、授業態度(20%)により総合的に評価する。 追再試験は試験当日欠席者及び不合格者に対して筆記試験形式で行う。
担当教員の基本情報	分からないことかあれば、講義中でも終了後でも構わないので、積極的に質問して欲しい。
備考	担当教員名 :竹内孝治 研究室 :京都消化器疾患リサーチセンター メールアドレス:takeuchi@mb.kyoto-phu.co.jp

	オフィスアワー:随時 担当教員名 :石原安信 研究室 : メールアドレス: オフィスアワー:随時
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
小島 奈名子			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習（オンデマンド形式）	
添付ファイル			

授業目標	この科目においては、現代社会において医療従事者がなぜ英語を学ぶ必要があるのか、理解を深めるとともに、英語の基礎を学びなおすことから、医療現場における英語表現を理解していきます。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション [到達目標]この科目での学習内容、目標を理解する。 [備考]この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか、説明します。</p> <p>第2講 英文法基礎：文・文型 応用としての医療英語：自己紹介 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p> <p>第3講 英文法基礎：疑問詞 応用としての医療英語：病院・クリニック紹介 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p> <p>第4講 英文法基礎：形容詞・比較 応用としての医療英語：医療現場での表現① [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p> <p>第5講 英文法基礎：不定詞I 応用としての医療英語：医療現場での表現② [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p> <p>第6講 英文法基礎：不定詞II 応用としての医療英語：医療現場での表現③ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p> <p>第7講 英文法基礎：関係詞I 応用としての医療英語：医療現場での表現④ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p> <p>第8講 英文法基礎：関係詞II 応用としての医療英語：医療現場での表現⑤ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p> <p>第9講 英文法基礎：助動詞I 応用としての医療英語：医療現場での表現⑥ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p> <p>第10講 英文法基礎：助動詞II 応用としての医療英語：医療現場での電話応答① [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p> <p>第11講 英文法基礎：接続詞I 応用としての医療英語：医療現場での電話応答② [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p> <p>第12講 英文法基礎：接続詞II 応用としての医療英語：医療現場での電話応答③ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p> <p>第13講 まとめ① [到達目標]これまでの授業内容を振り返り、理解を深める。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p> <p>第14講 まとめ② [到達目標]これまでの授業内容を振り返り、理解を深める。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、オンデマンド形式で行われます。理解が難しいところは各自で再確認し、質問がある場合はメリーを介して教員(小島)に問い合わせをしてください。 ・授業を通じて単語、英語表現を習得できるように心がけてください(授業の後に30分くらい復習することをおすすめします)。
教科書	参考資料については、必要に応じてメリーに添付する予定です。
参考書	授業ごとに必要があれば紹介します。
成績評価	授業の視聴・課題提出・最終課題(レポートまたはテスト)を通じて最終評価を出します。また、毎授業内においてGoogleフォームを用いた課題を実施します。また、課題は選択式のみならず、状況に応じた英作文の作成など、アクティブラーニングを踏まえた記述問題も含まれます。 授業視聴・課題提出30%~50%、最終課題50%~70%を目安とします。
担当教員の基本情報	小島 奈名子 研究室：1号館2階 n_kojima@meiji-u.ac.jp
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」：◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
河原照子 東孝至			
添付ファイル			

授業目標	1) 対象者の日常生活を支える援助技術の基礎を理解することができる。 2) 対象者の身体状況を考慮した具体的な援助技術を体験することができる。
授業計画	<p>1・2回 ・ガイドダンス ・衣類着脱の介助 ・排泄の介助 ・緊急時の対応法 ・介護者の健康管理 1) 衣類着脱の介助、排泄の介助を体験する。 2) 事例を通して緊急時の対応を考える。 3) 介護者の健康管理について考える。</p> <p>3・4回 ・環境に関する基礎知識 ・病室環境とベッドメイキングの基本技術 ・感染予防の基礎知識 ・基本的な手洗い法 1) 快適な生活環境調整の必要性を理解し、ベッドメイキングの基本技術を体験する。 2) 感染予防の必要性を理解し、基本的な手洗い法を体験する。</p> <p>5・6回 ・介護を必要とする対象理解（高齢者・障害者体験）・援助技術の基本（歩行介助・杖歩行・車いす介助・移乗） 1) 介護を必要とする対象を体験的に理解できる。 2) 援助技術の基本を体験し理解する。</p> <p>7・8回 ・コミュニケーション技術 1) コミュニケーションの取り方の基本がわかる。 2) 介護を必要とする人とのコミュニケーションの取り方がわかる。</p> <p>9・10回 ・栄養と食事に関する基礎知識 ・食生活援助における留意点 ・嚥下障害、視力障害を持つ人の食事介助 ・口腔ケア 1) 栄養と食生活に関する基礎知識を理解し、食事の援助技術を体験する。</p> <p>11・12回 ・介護の基本原則と心構え ・介護保険制度の概要 1) 介護の基本原則を理解し、心構えについて考えることができる。 2) 介護保険制度の概要が理解できる。 3) 社会資源・介護用品等について知ることができる。</p> <p>13・14回 ・安楽な姿勢 ・体位に関する基礎知識 ・ボディメカニクス概念 ・褥瘡について ・臥床者の体位変換・座位保持 1) 姿勢・体位に関する基礎知識を理解し、安全・安楽に向けての基本的な援助技術を体験する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書等を参考に、各講義のタイトルに関連した内容について事前学習し、講義・演習で学修した内容をまとめてください。合わせて1時間程度。
教科書	教科書なし。 必要資料については、授業時間中に配布する。
参考書	「介護職員実務者研修テキスト 第4巻「生活支援技術I・II」介護職員実務者研修テキスト作成委員会編集（財）長寿社会開発センター
成績評価	・講義・演習態度：70点 ・課題レポート「高齢者や障害のある方への援助方法と社会資源の活用について」：30点 以上の合計点で評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：河原照子、東孝至、戸田一男、深田實江子、栗山真由美、扇田千代 担当教員名：河原照子（科目責任者） 研究室：10号館（看護学部棟）8階 804 メールアドレス：t_kawara@meiji-u.ac.jp
備考	単元は講義と学内演習連続で構成しているためジャージ着用で受講してください。 「この授業とディプロマポリシーとの関係」◎-3、○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
小島 奈名子			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	この科目においては、現代社会において医療従事者がなぜ英語を学ぶ必要があるのか、理解を深めるとともに、英語の基礎を学びなおすことから、医療現場における英語表現を理解していきます。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]この科目での学習内容、目標を理解する。 [備考]この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか、説明します。	
	第2講	英文法基礎：文・文型 応用としての医療英語：自己紹介 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第3講	英文法基礎：疑問詞 応用としての医療英語：病院・クリニック紹介 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第4講	英文法基礎：形容詞・比較 応用としての医療英語：医療現場での表現① [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第5講	英文法基礎：不定詞I 応用としての医療英語：医療現場での表現② [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第6講	英文法基礎：不定詞II 応用としての医療英語：医療現場での表現③ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第7講	英文法基礎：関係詞I 応用としての医療英語：医療現場での表現④ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第8講	英文法基礎：関係詞II 応用としての医療英語：医療現場での表現⑤ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第9講	英文法基礎：助動詞I 応用としての医療英語：医療現場での表現⑥ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第10講	英文法基礎：助動詞II 応用としての医療英語：電話応答① [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第11講	英文法基礎：接続詞I 応用としての医療英語：電話応答② [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第12講	英文法基礎：接続詞II 応用としての医療英語：電話応答③ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第13講	まとめ① [到達目標]これまでの授業内容を振り返り、理解を深める。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第14講	まとめ② [到達目標]これまでの授業内容を振り返り、理解を深める。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> 授業は、オンデマンド形式で行われます。理解が難しいところは各自で再確認し、質問がある場合はメリーを介して教員(小島)に問い合わせをしてください。 授業を通じて単語、英語表現を習得できるように心がけてください(授業の後に30分くらい復習することを) 		

	おすすめします)。
教科書	参考資料については、必要に応じてメリーに添付する予定です。
参考書	授業ごとに必要があれば紹介します。
成績評価	授業の視聴・課題提出・最終課題（レポートまたはテスト）を通じて最終評価を出します。また、毎授業内においてGoogleフォームを用いた課題を実施します。また、課題は選択式のみならず、状況に応じた英作文の作成など、アクティブラーニングを踏まえた記述問題も含まれます。 授業視聴・課題提出30%~50%、最終課題50%~70%を目安とします。
担当教員の基本情報	小島 奈名子 研究室：1号館2階 n_kojima@meiji-u.ac.jp
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」：◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
廣 正基			
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：整形外科、内科、神経内科、外科、泌尿器科、眼科、各領域における特定の疾患をテーマに、疾患の病態、診察法、治療方針および診断（評価）方法について、現代医学と鍼灸医学、それぞれの立場から基礎および臨床研究の結果をふまえて理解することができる。</p> <p>到達目標：各科における現代医学と鍼灸医学の関わりについて理解し、補完代替医療としての鍼灸医学の役割について考えることができる。また、鍼灸治療の適応と限界を見極め、臨床において適切な対応を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 医療における鍼灸医学の役割について 到達目標：現状における西洋医学と鍼灸医学の関わりについて考えることができる。 【授業形態】講義 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>第2回 整形外科領域における疾患と治療法について 到達目標：整形外科領域における疾患と治療法について説明できる。 【授業形態】講義 予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>第3回 整形外科領域における鍼灸治療の関わりについて 到達目標：整形外科領域における鍼灸医学の関わりについて説明できる。 【授業形態】講義・課題解決型学習 予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>第4回 内科領域における疾患と治療法について 到達目標：内科領域における疾患と治療法について説明できる。 【授業形態】講義 予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>第5回 内科領域における鍼灸治療の関わりについて 到達目標：内科領域における鍼灸医学の関わりについて説明できる。 【授業形態】講義・課題解決型学習 予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>第6回 神経内科領域における疾患と治療法について 到達目標：神経内科領域における疾患と治療法について説明できる。 【授業形態】講義 予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>第7回 神経内科領域における鍼灸治療の関わりについて 到達目標：神経内科領域における鍼灸医学の関わりについて説明できる。 【授業形態】講義・課題解決型学習 予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>第8回 外科領域における疾患と治療法について 到達目標：外科領域における疾患と治療法について説明できる。 【授業形態】講義 予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>第9回 外科領域における鍼灸治療の関わりについて 到達目標：外科領域における鍼灸医学の関わりについて説明できる。 【授業形態】講義・課題解決型学習 予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>第10回 泌尿器科領域における疾患と治療法について 到達目標：泌尿器科領域における疾患と治療法について説明できる。 【授業形態】講義 予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>第11回 泌尿器科領域における鍼灸治療の関わりについて 到達目標：泌尿器科領域における鍼灸医学の関わりについて説明できる。 【授業形態】講義・課題解決型学習 予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>第12回 眼科領域における疾患と治療法について 到達目標：眼科領域における疾患と治療法について説明できる。</p>

	<p>【授業形態】講義 予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>第13回 眼科領域における鍼灸治療の関わりについて 到達目標：眼科領域における鍼灸医学の関わりについて説明できる。 【授業形態】講義・課題解決型学習</p> <p>第14回 予習：これまでに関連する授業で学んだ内容について再確認する。 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。 各領域における鍼灸研究の現状について 到達目標：各領域における西洋医学と鍼灸医学の関わりについて説明できる。 【授業形態】講義・ディベート</p> <p>第15回 復習：授業で学んだ内容について知識を整理する。 医療における鍼灸医学の展望について 到達目標：各領域における鍼灸医学の展望について考えることができる。 【授業形態】講義・課題解決型学習</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習：各科の講義までに、今までに学んだ内容を再確認する(30分)。 復習：各科の講義で新たに知り得た研究内容について各自、考察する(30分)。
教科書	指定なし。
参考書	講義中に適宜紹介する。
成績評価	出席基準(講義回数の5分の3以上)に達した者に対し、レポート提出にて評価する(平常点20%、レポート評価80%)。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 廣 正基 研究室 : 鍼灸センター2階教授室 メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 15:40-17:20
備考	附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センターにて実務経験あり。 アクティブラーニングとして、各領域における統合医療としての役割をまとめる。 DP: ◎-3、○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
坂部 昌明			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>この講義は、東洋療法試験研修財団が提示するはり師、きゅう師国家試験出題基準に準拠した内容を中心に構成されています。この講義の目的は次の3点です。</p> <p>① 国家試験出題基準相当のはり師、きゅう師に必要な法令等知識を獲得すること。 ② 療養費について説明することができ、適正に手続きができるようになること。 ③ 国家試験には出題されないが、はり師、きゅう師として知っておくべき法令等知識を獲得すること。</p>		
授業計画	第1講	免許・業・要件 [到達目標] 免許とは何か、免許取得の要件を概説できる。 [備考]	
	第2講	申請・免許証 [到達目標] 免許の申請方法、免許証について概説できる。 [備考]	
	第3講	再免許 [到達目標] 免許を失う時、再免許について概説できる。 [備考]	
	第4講	業務 [到達目標] はり師、きゅう師の業務範囲を概説できる。 [備考]	
	第5講	禁忌事項 [到達目標] はり師、きゅう師の施術上の禁忌事項を概説できる。 [備考]	
	第6講	開業・開設 [到達目標] 施術を始める時の手続きについて概説できる。 [備考]	
	第7講	罰則 [到達目標] 罰則内容を把握している。 [備考]	
	第8講	医療関係法規Ⅰ [到達目標] 医療施設および、医療関連職種について概説できる。 [備考]	
	第9講	医療関係法規Ⅱ [到達目標] 衛生等に関する法規について概説できる。 [備考]	
	第10講	社会福祉関係法規Ⅰ [到達目標] 高齢者医療、障害者福祉について概説できる。 [備考]	
	第11講	社会福祉関係法規Ⅱ [到達目標] 保険制度について概説できる。 [備考]	
	第12講	療養費Ⅰ [到達目標] 療養費の仕組みを概説できる。 [備考]	
	第13講	療養費Ⅱ [到達目標] 受領委任の仕組みを概説できる。 [備考]	
	第14講	まとめ [到達目標] 日本の現状、国際情勢等について解説します。	

	[備考]
授業時間外の学習 (準備学習等)について	しっかりと復習をするようにしてください。この講義の内容は、国家試験に直結するのみならず、社会に出てからも常に関係してきます。必ず、すべて抑えてください。
教科書	「関係法規（第7版）」前田和彦著（医歯薬出版株式会社）社団法人東洋療法学校協会編 ※ 必ず購入してください（去年の教科書でも大丈夫です） 最新年度版『療養費の支給基準』社会保険研究所
参考書	特になし
成績評価	最後にレポートをまとめていただきます。 レポートの内容、評価基準等については講義の中で提示します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 坂部昌明（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : info.sk285@gmail.com オフィスアワー : メールでの質問を歓迎します。2、3日後には返信します。
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	4	必修
担当教員			
苗村 建慈			
添付ファイル			

授業目標	<p>(概要) 1) 明治国際医療大学附属病院において、医師の診察、診断、治療の過程を、外来診療各科において見学し、現代医学的診察法および患者に対する診療方法を理解するとともに、各診療科の特徴を把握する。2) 看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士等院内における医療スタッフの業務を見学し、理解するとともに附属施設(臨床検査部等の中央診療施設、MRセンター等)を見学し、臨床検査法・画像診断法等についての理解を深める。3) それぞれの施設での器具、備品などの配置や施設空間の有効な利用法を学ぶ。また、4) 医師や他の医療スタッフと適切な提携ができるようにそのあり方を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>苗村建慈 実習ガイダンス 8月上旬～9月上旬および2月上旬～3月上旬の間で、計3週間分の実習を行う。 各診療科を班ごとにローテーションするため、実習簿で自分の実習日や診療科を確認しておくこと。</p> <p>苗村建慈 実習の概要 1) 明治国際医療大学附属病院において、医師の診察、診断、治療の過程を外来診療各科において見学し、現代医学の診察法および患者の接し方を理解するとともに、各診療科の特徴を把握する。2) 看護師、臨床検査技師、放射線技師、理学療法士、薬剤師など院内における医療スタッフの業務を見学し、理解する。また、附属施設(臨床検査部、放射線科などの検査施設)も見学し、臨床検査法・画像診断法等についての理解を深め、それぞれの施設での器具、備品などの配置や施設空間の有効な利用法について学ぶ。3) 医師や他の医療スタッフと適切な連携ができるようにそのあり方について学ぶ。</p>		
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>実習は単なる見学ではなく、臨床講義で学んだ知識が実際の臨床現場でいかに活用されているかを実感として学ぶ貴重な経験の場であるので、真摯な態度で臨まなければならない。各科を回ることになるが、該当する科の講義で学んだ臨床的知識を復習して実習に臨むこと。</p>		
教科書	なし		
参考書	なし		
成績評価	<p>レポートにより評価する。 出席回数を満たしていること。</p>		
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 苗村 建慈 研究室 : 病院2階病院長室 メールアドレス : k_namura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:00</p>		
備考			

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
齊藤 真吾			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	はり師・きゅう師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（Ⅳ・Ⅴ）の内容を、演習問題を通して再確認しつつ、他の教科との関連性も踏まえながら人体の構造について総合的な理解を深める。 はり師・きゅう師国家試験合格に必要と考えられる知識を確実に習得することが目標である。		
授業計画	1回目	解剖総論、人体の構成 [到達目標]本講義の目的、概要、国家試験に向けての計画について理解できる。 [備考] 演習課題を用いた講義の進め方（予習・復習）や、小テスト・評価について説明する。	
	2回目	運動器系1・骨学総論 [到達目標]人体の構成の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	3回目	運動器系2・筋学総論 [到達目標]骨学の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	4回目	循環器系1 心臓・血管系（動脈・静脈） [到達目標]筋学の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	5回目	循環器系2 胎児循環・リンパ系 [到達目標]心臓、血管系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	6回目	呼吸器系総論 [到達目標]胎児循環、リンパ系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	7回目	消化器系総論 1 [到達目標]呼吸器系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	8回目	消化器系総論 2 [到達目標]消化器系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	9回目	泌尿・生殖器系総論 [到達目標]消化器系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	10回目	内分泌器系総論 [到達目標]泌尿・生殖器系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	11回目	神経系1 [到達目標]内分泌系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	12回目	神経系2 [到達目標]神経系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	13回目	感覚器系総論 [到達目標]神経系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	14回目	まとめと評価 [到達目標] これまでの内容をまとめ、併せて確認のための評価を行う。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前学習として、事前配布された演習問題を回答するだけではなく、授業時間に問題の解説を指示されても他の学生が理解できるように周辺知識もしっかりと身につけておく。教科書等の関連ページの熟読が必要となる。（予習35分～） 教科書・参考書を利用して分からない点は、質問等にて積極的に解決すること。		

	当該授業で演習した内容について、十分に復習し理解するようにする。（復習35分～）
教科書	・解剖学」第2版 公益社団法人 東洋療法学校協会編
参考書	・カラー 人体解剖学 ・病気が見える
成績評価	講義時間（2回目～13回目）のはじめに行う小テスト(30%)、および14回目の確認評価(70%)を総括して、合計で60%以上の点数を取得した場合のみ合格とする。 受験資格は、14回の講義に3/5以上（9回以上）の出席を満たした者とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 齊藤真吾 研究室 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 メールアドレス : s_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火・木曜日に対応可。事前にメールなどで日時を確認してください。
備考	①実務経験：本学附属鍼灸センター、平成医療学園専門学校附属治療院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに指導する。 ②ディプロマポリシーとの関係：◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
田口 辰樹			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	本講義ではこれまで学んできた生理学の知識の総まとめを行い、はり・きゅう師に必要とされる知識を中心に理解を定着させることを目的とする。さらに生理学の知識を深めることで臨床医学との関連性を理解することも目的とする。
授業計画	<p>第1回 生理学の基礎、血液 [到達目標] 細胞の構造と働き、体液の組成と働き、物質の移動、血液の組成と働き、止血機構について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第2回 循環 [到達目標] 心臓の構造と働き、血圧、循環調節について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第3回 呼吸 [到達目標] 呼吸器の構造と働き、ガス交換、呼吸運動と呼吸調節について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第4回 消化と吸収 [到達目標] 消化器の構造と働き、消化と吸収、肝臓について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第5回 代謝・体温 [到達目標] エネルギー代謝、三大栄養素、体温、産熱と放熱、体温調節について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第6回 排泄 [到達目標] 腎臓の働き、体液量の調節、蓄尿と排尿について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第7回 内分泌、生殖・成長 [到達目標] ホルモンの特徴、ホルモンの種類と働き、生殖器、妊娠、成長と老化について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第8回 神経 [到達目標] ニューロンの構造と働き、神経の分類（中枢、末梢）、反射、自律神経について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第9回 神経 [到達目標] [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第10回 筋肉 [到達目標] 骨格筋の構造と働き、筋収縮の仕組み、心筋と平滑筋について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第11回 身体の運動 [到達目標] 骨格筋の神経支配、運動の調節について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第12回 感覚 [到達目標] 感覚の一般的性質（体性感覚、内臓感覚、痛覚）、特殊感覚について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第13回 生体の防御機構・ホメオスタシスと生体リズム [到達目標] 防御機構に働く組織と因子、免疫反応の分類、炎症とアレルギー、ホメオスタシスについて理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第14回 まとめ（評価を含む） [到達目標] 第1～13回で学んだ内容について理解する。</p>

	[備考] 1~13回の内容の理解度を確保するために評価を実施し、その後に評価に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。
授業時間外の学習（準備学習等）について	指定された講義の範囲を予習（30分）と講義後に授業の範囲の復習（30分）を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	「生理学（第3版）」東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）（価格4,800円+税）
参考書	鍼灸医学演習テキスト（上巻）（明治東洋医学院専門学校編）（価格3,000円）
成績評価	評価対象：出席基準を満たした者を評価対象とする。 評価方法：期末試験（100%）にて評価を行う。 単位認定：評価点が60%以上の者に単位を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：田口 辰樹 研究室：鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室 メールアドレス：t_taguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（ただし金曜日は除く）
備考	実務経験内容：教育機関の附属鍼灸センター、医院の附属鍼灸施術所で鍼灸臨床業務に従事していた。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1】

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
齊藤 真吾			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>はり・きゅう師のための臨床医学は、臨床医学総論、内臓系臨床医学各論(内科・外科系)、運動器系臨床医学各論、神経系臨床医学各論、感覚器系臨床医学各論の問題演習を行いながら病気や診察法を理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業は過去の国家試験等を用いて問題演習形式で行い、問題を解いた後に解答を導くのに必要な基礎知識を含めて解説を行う。なお、授業を受けるにあたって当該範囲の内容について必ず予習をして授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い知識の整理と定着を行うこと。</p>		
授業計画	第1回	感染症・神経・筋疾患① 感染症、神経、筋疾患①に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第2回	神経・筋疾患② 神経・筋疾患②に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第3回	神経・筋疾患③・呼吸器・胸壁疾患 神経・筋疾患③、呼吸器・胸壁疾患に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第4回	循環器疾患① 循環器疾患①に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第5回	循環器疾患② 循環器疾患②に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第6回	消化器疾患 消化器疾患に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第7回	泌尿生殖器疾患・血液・造血器疾患 泌尿生殖器疾患、血液・造血器疾患に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第8回	代謝・栄養疾患・内分泌疾患 代謝・栄養疾患、内分泌疾患に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第9回	自己免疫疾患① 自己免疫疾患①に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第10回	自己免疫疾患② 自己免疫疾患②に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第11回	運動器疾患① 運動器疾患①に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第12回	運動器疾患② 運動器疾患②に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第13回	皮膚・頭頸部疾患・精神・心身医学的疾患 皮膚・頭頸部疾患、精神・心身医学的疾患に関する必要事項が説明できる。過去問の解説作りの際、学生間でティーチングとコーチングの時間を設ける。	
	第14回	まとめと評価 講義の内容を総まとめし、復習と整理を行う。併せて評価を実施する。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度を目安）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 『鍼灸医学演習テキスト』 明治東洋医学院編集 『臨床医学各論』 東洋療法学校協会編 2年次に履修した臨床医学論の授業配布プリント 		
参考書	・病気がみえる		
成績評価	授業の3/5以上の出席日数を満たした者を対象として筆記試験を行う。 筆記試験は60点以上を合格とする。		
担当教員の基本情報	担当教員名	： 齊藤真吾	
	研究室	： 附属病院2階鍼灸学部教員室	

	メールアドレス : s_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日・木曜日に対応可。事前にメールで日時を確認してください。
備考	①実務経験：本学附属鍼灸センター、平成医療学園専門学校附属治療院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに指導する。 ②ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
田口 辰樹			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	本講義ではこれまで学んできた東洋医学の知識の総まとめを行い、はり・きゅう師にとって特に重要となる知識を中心に理解を定着させることを目的とする。 さらに臨床現場で東洋医学的施術を行うための基礎知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 東洋医学の基礎・陰陽学説・五行学説 [到達目標] 東洋医学の思想・陰陽論、五行論について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第2回 生理と病理（精・気・血・津液） [到達目標] 精・気・血・津液について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第3回 生理と病理（蔵象学説） [到達目標] 臓腑の概要について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第4回 生理と病理①（臓腑） [到達目標] 臓腑の生理と病理について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第5回 生理と病理②（臓腑） [到達目標] 腑の生理と病理について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第6回 生理と病理（奇恒の腑）・経絡論 [到達目標] 奇恒の腑の生理と病理・経絡について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第7回 病理と病証（八綱病証） [到達目標] 八綱病証について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第8回 病理と病証①（臓腑病証） [到達目標] 臓腑病証について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第9回 病理と病証②（臓腑病証） [到達目標] 臓腑病証について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第10回 病理と病証（経絡病証） [到達目標] [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第11回 東洋医学的診察法と証の立て方① [到達目標] 四診法と証の立て方について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第12回 東洋医学的診察法と証の立て方② [到達目標] 四診法と証の立て方について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第13回 治療法 [到達目標] 鍼灸治療の原則、治療の法則、補瀉、刺法について理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第14回 まとめ（評価を含む） [到達目標] 1~13回までに学習した内容を理解する。 [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	指定された講義の範囲を予習(30分)と講義後に授業の範囲の復習(30分)を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	「東洋医学概論(第3版)」東洋療法学校協会編(医道の日本社) (価格5,200円+税)
参考書	鍼灸医学演習テキスト(明治東洋医学院専門学校)(価格3,000円)
成績評価	評価対象:出席基準を満たした者を評価対象とする。 評価方法:期末試験(100%)を対面にて実施し評価を行う。 単位認定:評価点が60%以上の者に単位を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田口 辰樹 研究室 : 鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室 メールアドレス : t_taguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時(ただし金曜日は除く)
備考	実務経験内容:教育機関の附属鍼灸センター、医院の附属鍼灸施術所で鍼灸臨床業務に従事していた。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連:◎-1】

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
谷口 剛志、岡田 岬			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>目的 本実習は主要な症候に対し、四診を用いて分析し、弁証を立て、治療穴を選び、安全で適切なはりきゅう施術の知識・技術を身につけることを目的としています。</p> <p>目標 1. 症候パターンを理解すること 2. 治療穴を理解すること 3. 安全で適切なはりきゅう施術を身につけること</p>
授業計画	<p>第1回 鍼灸成方の刺法と灸法 【到達目標】 1. 針の刺入角度による違いを理解する。 2. 行針と得気を身につける。 3. 刺針補瀉（堤挿補瀉法、捻転補瀉法、平補平瀉法）を身につける。 4. 艾条灸（温和灸法、雀啄灸法、回旋灸法）を身につける。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第2回 特定穴（五行穴・五要穴）を活用しよう 【到達目標】 1. 五行穴・五要穴の特性を理解する。 2. 五行穴・五要穴の取穴を理解する。 3. 五行相生による補瀉を身につける。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第3回 特定穴（八会穴・交会穴）を活用しよう 【到達目標】 1. 八会穴・交会穴の特性を理解する。 2. 八会穴・交会穴の取穴を理解する。 3. 補瀉を身につける。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第4回 特定穴による配穴法（兪募・原絡）を活用しよう 【到達目標】 1. 兪募配穴法を身につける。 2. 原絡配穴法を身につける。 3. 補瀉を身につける。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第5回 主要症候（発熱）に対する鍼灸治療を身につけよう 【到達目標】 1. 病因病機を理解する。 2. 証分類を理解する。 3. 治療穴および取穴を理解する。 4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第6回 主要症候（汗証）に対する鍼灸治療を身につけよう 【到達目標】 1. 病因病機を理解する。 2. 証分類を理解する。 3. 治療穴および取穴を理解する。 4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第7回 主要症候（上熱下寒）に対する鍼灸治療を身につけよう 【到達目標】 1. 病因病機を理解する。 2. 証分類を理解する。 3. 治療穴および取穴を理解する。 4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。</p>

第8回	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング <p>主要症候（倦怠）に対する鍼灸治療を身につけよう</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病因病機を理解する。 2. 証分類を理解する。 3. 治療穴および取穴を理解する。 4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。 <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第9回	<p>主要症候（鬱証）に対する鍼灸治療を身につけよう</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病因病機を理解する。 2. 証分類を理解する。 3. 治療穴および取穴を理解する。 4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。 <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第10回	<p>主要症候（不眠）に対する鍼灸治療を身につけよう</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病因病機を理解する。 2. 証分類を理解する。 3. 治療穴および取穴を理解する。 4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。 <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第11回	<p>主要症候（月経不調）に対する鍼灸治療を身につけよう</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病因病機を理解する。 2. 証分類を理解する。 3. 治療穴および取穴を理解する。 4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。 <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第12回	<p>主要症候（疝積）に対する鍼灸治療を身につけよう</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病因病機を理解する。 2. 証分類を理解する。 3. 治療穴および取穴を理解する。 4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。 <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第13回	<p>主要症候（耳鳴り・耳聾）に対する鍼灸治療を身につけよう</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病因病機を理解する。 2. 証分類を理解する。 3. 治療穴および取穴を理解する。 4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。 <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第14回	<p>経脈・経筋病証に対する鍼灸治療を身につけよう</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病因病機を理解する。 2. 証分類を理解する。 3. 治療穴および取穴を理解する。 4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。 <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員によるデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第15回	<p>前期末試験 実技試験を実施する</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	<p>復習 所要時間30分 学んだ経穴の特性、位置を触りながら覚え、最適なはりきゅう手技を練習すること。</p>
教科書	<p>各テーマごとに授業プリントを配布します。</p>
参考書	<p>図解 臨床鍼灸処方の実例 病名・病症から配穴を導く 国際中医学研究会編 緑書房 4,800円 鍼灸学【臨床編】日中共同編集 東洋学術出版社 7,800円</p>
成績評価	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の4/5 以上の出席者に対し、評価を実施します。 評価：前期末実技試験（100%）で評価します。</p>
担当教員の基本情報	<p>教員名：谷口剛志 所属先：鍼灸学部鍼灸学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室</p>

	<p>連絡先 : t_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日13:50~16:00</p> <p>教員名 : 岡田 岬 所属先 : 鍼灸学部鍼灸学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先 : m_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日13:50~16:00</p>
備考	<p>1. 実務経験 谷口剛志 はり師きゅう師、スポーツ健康科学(修士) 臨床歴23年 岡田 岬 はり師きゅう師、鍼灸学(博士) 臨床歴10年 明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに指導を行う。</p> <p>2. ディプロマポリシーとの関連 ◎-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
齊藤 真吾			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義（遠隔授業：オンライン授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、鍼灸臨床を行う上で必要な臨床医学的知識について学習し、さらに病態を推論する思考方法を学ぶことを通して知識を整理する。</p> <p>授業内容は、頭痛、肩こり、不眠といった鍼灸臨床でもよく遭遇する症状について中心に推論を交えながら講義を行う。各症状の定義、概念、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査方法を踏まえた上で、病態を推論し、また鑑別を行うワークショップを中心に実施する。</p> <p>本科目によって、代表的な症状に対する病態推論および鑑別ができるようになる事を目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 頭顔面部の主な症状について 頭痛、顔面痛、歯痛、眼精疲労の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>2回目 耳鼻咽喉部の主な症状について 鼻閉・鼻汁、めまい、耳鳴り、難聴の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>3回目 呼吸器・循環器の主な症状について 咳・痰、息切れ、動機、胸痛の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>4回目 腹部の主な症状について 腹痛、便秘、下痢、月経異常の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>5回目 骨盤内臓の主な症状について 不正性器出血、排尿障害、乏尿・無尿、多尿、浮腫の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>6回目 頸肩部の主な症状について 肩こり、頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>7回目 腰下肢の主な症状について 腰下肢痛、関節痛、運動麻痺の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>8回目 食欲に関する主な症状について 食欲不振、肥満、やせの定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>9回目 発熱に関する主な症状について 発熱、のぼせ・冷え、不眠、疲労・倦怠の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>10回目 アレルギー・ショックの主な症状について 発疹、皮膚疾患、ショック、出血傾向、易感染性の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>11回目 その他の主な症状について① 貧血、眼振、口渇、嘔声の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>12回目 その他の主な症状について② 嚥下困難、血痰・喀痰、胸水の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>13回目 その他の主な症状について③ 悪心・嘔吐、吐血・下血、意識障害の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について推論を中心とした講義を行う。 加えて、神経系の診察について、についてワークショップを交えて学習を行う。</p> <p>14回目 まとめと評価 講義の内容を総まとめし、復習と整理を行う。併せて評価を実施する。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業の学習内容について、講義の前後に1時間程度の復習を行うこと。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床医学総論 (医歯薬出版株式会社) 第2版 ・臨床医学各論 (医歯薬出版株式会社) 第2版
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる 他 (メディックメディア出版) ・授業で配布したプリントなど
成績評価	授業の3/5以上の出席日数を満たした者を対象として筆記試験を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 齊藤 真吾 研究室 : 附属病院2階鍼灸学部教員室 メールアドレス : s_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日、木曜日に対応可。事前にメールなどで日時を確認してください。
備考	1. 実務経験 本学附属鍼灸センター、平成医療学園専門学校附属治療院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに指導を行う。 2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
齊藤 真吾			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義（遠隔授業：オンライン授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、鍼灸臨床を行う上で必要な臨床医学的知識について、身体診察技法や代表的検査方法を中心に学ぶ。</p> <p>授業内容は、頭痛、肩こり、不眠といった鍼灸臨床でもよく遭遇する症状について中心に講義を行う。各症状の定義、概念、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、標準的治療について説明を行う。</p> <p>本科目によって、代表的な症状に対する医療面接や検査をスムーズに適切かつ効果的に行えるようになることを到達目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 頭顔面部の主な症状について 頭痛、顔面痛、歯痛、眼精疲労の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>2回目 耳鼻咽喉部の主な症状について 鼻閉・鼻汁、めまい、耳鳴り、難聴の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>3回目 呼吸器・循環器の主な症状について 咳・痰、息切れ、動機、胸痛の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>4回目 腹部の主な症状について 腹痛、便秘、下痢、月経異常の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>5回目 骨盤内臓の主な症状について 不正性器出血、排尿障害、乏尿・無尿、多尿、浮腫の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>6回目 頸肩部の主な症状について 肩こり、頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>7回目 腰下肢の主な症状について 腰下肢痛、関節痛、運動麻痺の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>8回目 食欲に関する主な症状について 食欲不振、肥満、やせの定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>9回目 発熱に関する主な症状について 発熱、のぼせ・冷え、不眠、疲労・倦怠の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>10回目 アレルギー・ショックの主な症状について 発疹、皮膚疾患、ショック、出血傾向、易感染性の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>11回目 その他の主な症状について① 貧血、眼振、口渇、嘔声の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>12回目 その他の主な症状について② 嚥下困難、血痰・喀痰、胸水の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>13回目 その他の主な症状について③ 悪心・嘔吐、吐血・下血、意識障害の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 加えて、神経系の診察について、ワークショップを含めて学習を行う。</p> <p>14回目 まとめと評価 講義の内容を総まとめし、復習と整理を行う。併せて評価を実施する。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業の学習内容について、講義の前後に1時間程度の復習を行うこと。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床医学総論 (医歯薬出版株式会社) 第2版 ・臨床医学各論 (医歯薬出版株式会社) 第2版
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる 他 (メディックメディア出版) ・授業で配布したプリントなど
成績評価	授業の3/5以上の出席日数を満たした者を対象として筆記試験を行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 齊藤 真吾 研究室 : 附属病院2階鍼灸学部教員室 メールアドレス : s_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日、木曜日に対応可。事前にメールなどで日時を確認してください。</p>
備考	<p>1. 実務経験 本学附属鍼灸センター、平成医療学園専門学校付属治療院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに指導を行う。</p> <p>2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
角谷英治、福田文彦、井上基浩、伊藤和憲、田口玲奈、岡田 岬			
添付ファイル			

授業目標	臨床鍼灸学特論Ⅲでは、鍼灸治療が行われている疾患や関連愁訴のうち、内科系、運動器系、外科系の3領域の重要症候・疾患について、現代医学的な知識を深めるとともに、その病態や最新のエビデンスに基づいた鍼灸治療法、客観的な治療効果判定および効果のメカニズムなどについて各学生が自ら学習し発表することにより理解を深め、治療及び評価の実際について実技や見学を通じて体得することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 心身医学系疾患の病態と鍼灸治療（福田文彦） 到達目標：心身医学系疾患の病態と鍼灸治療について、症例を通して病態把握や鍼灸治療について説明できる。</p> <p>第2回 腰下肢症状に対する鍼灸治療①（井上基浩） 到達目標：腰下肢症状に対する鍼灸治療について説明できる。 予習：3年までに次に学習した腰下肢の診察・治療を復習しておく。</p> <p>第3回 再生医学（末梢神経・骨・腱）と鍼灸治療（井上基浩） 到達目標：末梢神経再生・骨癒合・腱癒合と鍼通電の関係について説明できる。 予習：末梢神経、骨、腱損傷時の治癒過程について調べる。 復習：末梢神経の再生、骨・腱癒合の促進法について調べる。</p> <p>第4回 慢性疼痛に対する鍼灸治療（伊藤和憲） 到達目標：慢性疼痛の発生機序と鍼灸を含めた治療法を説明できる。</p> <p>第5回 不妊に対する鍼灸治療の実際（田口玲奈） 到達目標：不妊に対する診察と鍼灸治療の役割を説明できる。 備考：3年次で学習した婦人科疾患と月経の仕組みについて復習しておくこと。</p> <p>第6回 ストレス性消化器疾患に対する鍼灸治療の可能性（岡田 岬） 到達目標：ストレス性消化器疾患について理解し、基礎研究に意義と鍼灸治療の可能性を考える。 備考：授業の進行を踏まえ、指示する。</p> <p>第7回 男性不妊症に対する鍼灸治療の可能性 到達目標：男性不妊症について理解し、鍼灸治療の可能性について説明できる。</p> <p>第8回 まとめ 授業内容のまとめを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各領域担当者の指示に従ってください。
教科書	講義で提示される資料を基本とし、必要に応じて各領域担当者が指定する。
参考書	講義で提示される資料を基本とし、必要に応じて各領域担当者が指定する。
成績評価	各講義毎に提出するレポートにて評価（平均60点以上で合格）。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 角谷英治 メールアドレス : s_sumiya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日15:40以降</p> <p>担当教員名 : 福田文彦 メールアドレス : f_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日17:00以降</p> <p>担当教員名 : 井上基浩 メールアドレス : mo_inoue@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日16:00 - 17:00</p> <p>担当教員名 : 田口玲奈 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日11:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 伊藤和憲 メールアドレス : k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日17:00以降</p>
備考	各講義は個別に期日指定となります。開講日時については随時情報を確認し、必要に応じて担当者又は教学課に問い合わせてください。
	明治国際医療大学附属鍼灸センターに勤務。その実務経験をもとに「鍼灸学特論Ⅲ(臨床)」について授業を進める。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
田口 辰樹			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：講義（遠隔、オンライン）	
添付ファイル			

授業目標	臨床はり・きゅう学Ⅰでは、鍼灸臨床にとって必要な主要症候のうち、内科系（便通異常、食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、胸痛・動悸、呼吸困難、咳嗽、肥満・やせ、疲労と倦怠、血圧異常、冷え症）及び心身医学系（睡眠障害、うつ病）、その他の領域（脱毛、かゆみ、肋間神経痛）の主要症候を取り上げ、それらの主要な原因疾患（気管支喘息、肺気腫、狭心症、閉塞性動脈硬化症、本態性高血圧、胃炎、過敏性腸症候群、糖尿病など）、症状の特徴、診察（鍼灸治療の適応か不適かの鑑別も含めて）および診察法、治療方針、鍼灸治療の方法について学習する。本講義では、内科系の主要症候について、適切な診察をすることができ、鍼灸治療の適否を判断した上で治療が行えることを授業目標とする。
授業計画	<p>第1回 東洋医学概論の復習 [到達目標] 臨床はり・きゅう学Ⅰを学ぶ上で必要な東洋医学概論の知識（陰陽学説・五行学説・蔵象学説・病因病機）を復習する。 [備考] 予習として東洋医学概論の教科書（陽学説・五行学説・蔵象学説・病因病機）を読んで理解しておくこと。</p> <p>第2回 咳嗽 [到達目標] 咳嗽の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書p9~19を読んでおくこと。</p> <p>第3回 呼吸困難 [到達目標] 呼吸困難の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書p53~61を読んでおくこと。</p> <p>第4回 呼吸困難をきたす疾患（気管支喘息、肺気腫、慢性気管支炎） [到達目標] 気管支喘息、肺気腫、慢性気管支炎の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書p45~52を読んでおくこと。</p> <p>第5回 胸痛 [到達目標] 胸痛の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書p85~90を読んでおくこと。</p> <p>第6回 胸痛をきたす疾患（狭心症、心筋梗塞） [到達目標] 狭心症、心筋梗塞の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書p85~90、p770~778</p> <p>第7回 腹痛 [到達目標] 腹痛の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書p9~19を読んでおくこと。</p> <p>第8回 腹痛をきたす疾患（胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍） [到達目標] 胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書p27~44を読んでおくこと。</p> <p>第9回 食欲不振 [到達目標] 食欲不振を起こす病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書p2~7を読んでおくこと。</p> <p>第10回 悪心と嘔吐 [到達目標] 悪心と嘔吐の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習のために教科書p20~26を読んでおくこと。</p> <p>第11回 便通異常 [到達目標] 便通異常（便秘と下痢）の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書p27~44を読んでおくこと。</p> <p>第12回 便通異常（便秘と下痢）を来す疾患（過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病） [到達目標] 過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書p20~26を読んでおくこと。</p> <p>第13回 冷え症 [到達目標] 冷え症の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書p431~438を読んでおくこと。</p>

第14回	冷え症を来す疾患（閉塞性動脈硬化症、バージャー病） [到達目標] 閉塞性動脈硬化症、バージャー病の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書 p 431~438、p 779~788を読んでおくこと。
第15回	肥満 [到達目標] 肥満の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書 p 442~450を読んでおくこと。
第16回	血圧異常 [到達目標] 血圧異常の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書 p 71~83を読んでおくこと。
第17回	睡眠障害 [到達目標] 睡眠障害（不眠症）の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書 p 392~402を読んでおくこと。
第18回	うつ状態（うつ病） [到達目標] うつ病の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書 p 418~430を読んでおくこと。
第19回	かゆみ（アトピー性皮膚炎） [到達目標] かゆみ（アトピー性皮膚炎）の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書 p 471~480を読んでおくこと。
第20回	脱毛（円形脱毛症、AGA） [到達目標] 脱毛（円形脱毛症、AGA）の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書 p 459~470を読んでおくこと。
第21回	歯痛、顎関節症 [到達目標] 歯痛、顎関節症の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書 p 995~999を読んでおくこと。
第22回	疲労と倦怠感 [到達目標] の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として事前配布資料を読んでおくこと。
第23回	発熱 [到達目標] 発熱の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として事前配布資料を読んでおくこと。
第24回	糖尿病 [到達目標] 糖尿病の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書 p 822~830を読んでおくこと。
第25回	関節リウマチ、線維筋痛症 [到達目標] 関節リウマチ、線維筋痛症の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書 p 868~891を読んでおくこと。
第26回	自己免疫疾患（全身性強皮症、シェーグレン症候群） [到達目標] 自己免疫疾患（全身性強皮症、シェーグレン症候群）の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として教科書 p 893~909を読んでおくこと。
第27回	発疹 [到達目標] 発疹の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 [備考] 予習として事前配布資料を読んでおくこと。
第28回	まとめ（評価を含む） [到達目標] 1~27回までのすべての内容についての評価を行う。 [備考] 対面により理解度の評価を行った後に、評価内容についてアクティブラーニングと対話（フィードバック）を行う。
授業時間外の学習（準備学習等）について	指定された講義の範囲を予習（35分）と講義後に授業の範囲の復習（35分）を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	『鍼灸療法技術ガイドI・II』 矢野 忠編 文光堂
参考書	『鍼灸学 臨床編』 天津中医学院+学校法人後藤学園編 東洋学術出版社 『病気がみえる①消化器、②循環器、③代謝・内分泌、④呼吸器』 医療情報科学研究所 メディックメディア 「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」 公益社団法人東洋療法学校協会編 医道の日本社
成績評価	評価対象：基準を満たした者を評価対象とする。 評価方法：期末試験（100%）を対面にて実施して評価する。 単位認定：評価点が60%以上の者に単位を認定する。60%未満の者には再評価を行うことがある。 出席確認：授業の初めに出席の確認を行う。授業の終わりに課題のフィードバックを行うがこの時に参加しかつ課題を提出していない場合には欠席となる。
担当教員の基本情報	担当教員名：田口 辰樹 研究室：鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室

	メールアドレス : t_taguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (ただし金曜日は除く)
備考	<p>実務経験内容 : 教育機関の附属鍼灸センター、医院の附属鍼灸施術所で鍼灸臨床業務に従事していた。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。</p> <p>【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連 : ◎-1、○-2】</p> <p>本授業はGoogle Meetを用いた遠隔授業 (オンライン) で実施する。授業の2コマ連続で実施される。1コマのはじめから約60分程度のオンラインによる授業を行い、授業を受けた後にGoogle classroomで課題を遂行し、授業終了30分前から課題のフィードバックを行う。なお、授業中には随時質問を受け付けるのでメリーで質問を行うこと。オンライン授業は指定された教科書に基づいて行いますので授業時には必ず教科書を持参してください。なお、最終講義日のみ</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
福田 文彦、田口 玲奈			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、基礎医学、臨床医学(主に内科系)、臨床鍼灸学I(内科系)で学習した内容について、面接、診察による病態の把握及び鍼灸治療の方法について実習し技術を修得する。また、健康状態に対して維持向上対象とした養生の概念から健康状態に対する鍼灸(養生灸、美容鍼、肩こり)に対する鍼灸技術について実習し技術を習得する。</p> <p>授業内容は、学生同士によるシミュレーションにより主として内科系の主要症候(便通異常、食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、胸痛・動悸、呼吸困難、肥満、血圧異常)に対する面接、身体診察、鍼灸治療の内容、技術を修得する。さらに養生の概念から養生灸、美容鍼、肩こりに対して面接、身体診察、鍼灸治療の内容、技術を修得する。また、鍼灸技術学、灸技術学、現代医学的鍼灸診察法実習、伝統鍼灸診断学応用実習の復習を行うことにより基礎的な技術、知識を身につける。</p> <p>本科目では、内科系の主要症候に対する診察技術(触診、打診、聴診)を身につけて、鍼灸治療の適否を判断した上で適切で安全な鍼灸施術を行う技術を修得する到達目標としている。</p>
授業計画	<p>第1回 腹部症状を訴える患者(消化器症状)への診察① 基本的な面接のポイントが説明でき腹痛、悪心・嘔吐、便通異常、食欲不振の面接のポイントが概説できる。 腹部の視診の方法が概説できる。 腹部の聴診により腸管運動音(グル音)が聴診でき、異常音が説明できる。 腹部の打診により鼓音が打診できる。 腹部の触診が模倣できる。 腹膜刺激徴候(咳嗽試験・踵落し衝撃試験・筋性防御・ブルンベルグ徴候)が模倣でき、陽性所見とその意味が説明できる。 虫垂炎の圧痛点(マックバーネイ点・ランツ点)の部位を説明し、ブルンベルグ徴候を模倣できる。 肋骨脊柱角の叩打が模倣でき陽性所見とその意味が説明できる。</p> <p>第2回 腹部症状を訴える患者(消化器症状)への診察② 基本的な面接のポイントが説明でき腹痛、悪心・嘔吐、便通異常、食欲不振の面接のポイントが概説できる。 腹部の視診の方法が概説できる。 腹部の聴診により腸管運動音(グル音)が聴診でき、異常音が説明できる。 腹部の打診により鼓音が打診できる。 腹部の触診が模倣できる。 腹膜刺激徴候(咳嗽試験・踵落し衝撃試験・筋性防御・ブルンベルグ徴候)が模倣でき、陽性所見とその意味が説明できる。 虫垂炎の圧痛点(マックバーネイ点・ランツ点)の部位を説明し、ブルンベルグ徴候を模倣できる。 肋骨脊柱角の叩打が模倣でき陽性所見とその意味が説明できる。</p> <p>第3回 食欲不振に対する鍼灸治療 食欲不振への鍼灸治療の適否が説明できる。 食欲不振に対する東洋医学的弁証、現代医学的・エビデンスに基づく鍼灸治療が説明できる。 施灸用紙への施灸が目標数(数・質)実施できる。 食欲不振への基本的な鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第4回 悪心・嘔吐に対する鍼灸治療 悪心・嘔吐への鍼灸治療の適否が説明できる。 悪心・嘔吐に対する東洋医学的弁証、現代医学的・エビデンスに基づく鍼灸治療が説明できる。 刺鍼練習台にて片手挿管が目標回数実施できる。 悪心・嘔吐への基本的な鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第5回 便秘に対する鍼灸治療 便秘への鍼灸治療の適否が説明できる。 便秘に対する東洋医学的弁証、現代医学的・エビデンスに基づく鍼灸治療が説明できる。 刺鍼練習台にて片手挿管が目標回数実施できる。 便秘への基本的な鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第6回 下痢に対する鍼灸治療 下痢への鍼灸治療の適否が説明できる。 下痢に対する東洋医学的弁証、現代医学的・エビデンスに基づく鍼灸治療が説明できる。 刺鍼練習台にて片手挿管が目標回数実施できる。 下痢への基本的な鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第7回 胸部症状を訴える患者(呼吸器症状)への診察 基本的な面接のポイントが説明でき呼吸器症状の面接のポイントが概説できる。 胸部の聴診が模倣できる。 胸部の打診が模倣できる。</p> <p>第8回 気管支喘息に対する鍼灸治療 呼吸困難への鍼灸治療の適否が説明できる。 呼吸困難に対する東洋医学的弁証、現代医学的・エビデンスに基づく鍼灸治療が説明できる。 模擬症例から八綱弁証、気血津液弁証、臟腑弁証が推論して説明できる。</p>

	<p>呼吸困難(呼吸補助筋)に対する鍼灸治療が実施できる。 呼吸困難に対する鍼灸治療</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回 胸部症状を訴える患者(循環器症状)への診察</p> <p>第12回 循環器疾患(血圧異常)に対する鍼灸治療</p> <p>第13回 前半のまとめ(身体診察)</p> <p>第14回 前半のまとめ(鍼灸治療)</p> <p>第15回 代謝内分泌疾患(肥満・糖尿病)患者に対する診察</p> <p>第16回 肥満に対する鍼灸治療</p> <p>第17回 糖尿病性末梢神経障害に対する鍼灸治療</p> <p>第18回 精神的不調を訴える患者(うつ症状・不眠)に対する診察</p> <p>第19回 不眠に対する鍼灸治療</p> <p>第20回 うつ病に対する鍼灸治療</p> <p>第21回 神経内科(脳神経内科)症状の診察</p> <p>第22回 脳血管障害に対する鍼灸治療</p> <p>第23回 パーキンソン病に対する鍼灸治療</p> <p>第24回 認知機能に対する診察</p> <p>第25回 認知機能に対する鍼灸治療</p> <p>第26回</p> <p>第27回</p> <p>第28回</p> <p>第29回 面接・身体診察のまとめ</p> <p>第30回 鍼灸治療のまとめ</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>授業中に習得した身体診察について、授業毎に1時間程度の復習を行うこと。 鍼灸治療については、学生同士での復習を禁止します。鍼灸治療の復習については、教員が指定した時間に実施します。 不明な点は実習中に教員に再確認してください。</p>
教科書	<p>『鍼灸療法技術ガイドⅡ』矢野 忠編 文光堂 『鍼灸療法技術ガイドⅠ』矢野 忠編 文光堂 授業で配布した資料は実技用の標準テキストとする。</p>
参考書	<p>『診察と手技がみえる1』 古谷伸之 メディックメディア</p>
成績評価	<p>授業の4/5以上の出席日数を満たした者を対象として実技試験を行う。 試験は診察法および鍼灸施術を中心とした実技試験とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 福田文彦、田口玲奈 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : f_fukuda@meiji-u.ac.jp、r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 福田は木曜日のみ対応可 事前にメールで日時を確認してください。</p>
備考	<p>福田文彦：附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院に勤務、その実務経験をもとに実習指導を行う。 田口玲奈：附属鍼灸センター、桂川鍼灸院に勤務、その実務経験をもとに実習指導を行う。 アクティブラーニングとして、グループを変え実際の患者を想定した実技を行い、個々の違いについてまとめる。 DP：◎-1、○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	必修
担当教員			
廣 正基、山崎 翼			
添付ファイル			

授業目標	この科目は4年間の総括的な科目であり、附属鍼灸センターにおいて、自立した鍼灸臨床を行うことができる。 到達目標 患者に対して医療人としての適切な態度がとれる。
授業計画	<p>1～2 ガイダンス 実習に必要な心構え、実習の日程、実習の目標を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>3～4 実習に必要な心構え、実習の日程、実習の目標を説明でき、実践できる。 指導教員の診察から治療までの臨床的な流れを理解する。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>5～6 附属鍼灸センターにおける臨床実習。指導教員B-1。患者との会話や問診をおこなう 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>7～8 附属鍼灸センターにおける臨床実習。指導教員A-2。診療のサポートをおこなう 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>9～10 附属鍼灸センターにおける臨床実習。指導教員B-2。診療のサポートをおこなう。 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>11～12 附属鍼灸センターにおける臨床実習。指導教員A-3。診療をおこなう。 指導教員の選穴理由を説明でき、 同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>13～14 附属鍼灸センターにおける臨床実習。指導教員B-3。診療をおこなう。 指導教員の選穴理由を説明でき、 同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>15 客観的能力評価試験OSCE（形成的評価） 模擬患者に対して、適切な診察と適切な治療ができる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>16～17 附属鍼灸センター臨床実習。指導教員C-1。患者との会話や問診をおこなう。 指導教員の診察から治療までの臨床的な流れが説明できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>18～19 附属鍼灸センターにおける臨床実習。指導教員D-1。患者との会話や問診をおこなう。 指導教員の診察から治療までの臨床的な流れを説明できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>20～21 附属鍼灸センターにおける臨床実習。指導教員C-2。診療のサポートをおこなう。 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>22～23 附属鍼灸センターにおける臨床実習。指導教員D-2。診療のサポートをおこなう。 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる。</p>

	<p>【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。 附属鍼灸センターにおける臨床実習。指導教員C-3。診療をおこなう。 指導教員の選穴理由を説明でき、 同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。</p> <p>【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。 附属鍼灸センターにおける臨床実習。指導教員D-3。診療をおこなう。 指導教員の選穴理由を説明でき、 同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。</p> <p>【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。 附属鍼灸センターにおける臨床実習。指導教員CまたはD-4。診療をおこなう。 指導教員の選穴理由を理解し、 同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。</p> <p>【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。 ポートフォリオの凝縮 実習での自己課題を発見し、解決することができる。 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	治療を担当した疾患について調べ、次の実習までにポートフォリオに入れてくる。
教科書	指定無し
参考書	標準整形外科学：寺山和雄ら（医学書院） ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭ら（南山堂） 中医弁証学：柯雪帆（東洋学術出版社）
成績評価	実習日程の4/5以上参加した者に評価をおこなう。 評価割合は（OSCE20%、臨床実習内評価75%、ポートフォリオ5%）とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：廣 正基 研究室：附属鍼灸センター2階 メールアドレス：m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：山崎 翼 研究室：附属鍼灸センター2階 メールアドレス：t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>
備考	附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて実務経験あり アクティブラーニングとして、実習後、振り返りを行い、担当患者についてまとめる。 DP：◎-5、○-2、○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
木村 啓作			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	講義形態：講義（遠隔授業：オンライン授業）	
添付ファイル			

授業目標	臨床はり・きゅう学Ⅱ (運動器・スポーツ系) では、運動器系疾患やスポーツによる傷害の診察および鍼灸治療に必要な知識を修得する。特に、鍼灸臨床で遭遇する機会の多い疾患や症候、国家試験に出題される可能性の高い疾患や症候について、基本的な事項を重点的に学習する。本講義では、スポーツ傷害を含めた運動器系の主要症候について、病態を鑑別し適切な鍼灸治療が出来ることを到達目標とする。		
授業計画	第1回	<p>ガイダンス、頸部疾患 1 頸肩腕痛、頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア [到達目標] 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 予習：頸肩部、上肢における骨、筋、神経に関する解剖の復習 復習：頸部の構造的特徴による、症状発現に関する理解を深める</p>	
	第2回	<p>教科書 p 92～104、p 482～505 (Ⅱ)、p 708～720、p 738～751 (Ⅰ) 1. スポーツ鍼灸学のガイダンス、2. スポーツ傷害の定義と分類・動作の特徴 [到達目標] 1. スポーツ傷害のガイダンスを理解する 2. スポーツ傷害の定義と分類、動作の特徴を理解する 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 復習：スポーツ傷害の定義と分類・動作の特徴について理解を深める</p>	
	第3回	<p>頸部疾患 2 [到達目標] 1. 外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群に関する理解と診察法の知識修得 2. 頸肩・上肢症状の一般的な各種鍼灸治療法に関する知識の修得 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 予習：外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群についての概要の把握 復習：外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群に関する知識の再確認と各種鍼灸治療の意義について理解を深める</p>	
	第4回	<p>教科書 p 507～526 (Ⅱ)、p 721～737 (Ⅰ) 1. スポーツ傷害の発生・修復のメカニズム、2. 関節の構造と機能 [到達目標] 1. スポーツ傷害の発生・修復のメカニズムを理解する 2. スポーツ傷害に対する診察・鍼灸治療を処方する上で必要な関節の構造と機能を理解する 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 1. スポーツ傷害の発生・修復のメカニズムの復習 2. 各種関節の構造と機能についての復習</p>	
	第5回	<p>上肢の疾患 1 (肩疾患) 肩こり、肩関節痛、肩関節周囲炎、野球肩 [到達目標] 1. 肩疾患の病態についての理解 2. 肩疾患における診察法、鍼灸治療法の知識修得 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 予習：肩疾患についての大まかな理解 復習：肩疾患に関する復習と診察法に関する理解 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p>	
	第6回	<p>教科書 p 117～125、p 145～155、p 527～537、p 642～652 (Ⅱ)、p 752～777、p 803～807 (Ⅰ) 1. トレーニングについて、2. ドーピング</p>	

	<p>[到達目標] 1. トレーニングの基本的な内容について理解する 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）2. ドーピングの概要を理解する</p> <p>[備考] 1. 各種トレーニング方法やトレーニングの原則・原理の復習 2. ドーピング行為やその内容の復習 上肢の疾患2（肘疾患） 肘関節痛、テニス肘、野球肘</p> <p>[到達目標] 1. 肘疾患の病態についての理解 2. 肘疾患における診察法、鍼灸治療法の知識修得 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 予習：肘疾患についての大まかな理解 復習：肘疾患に関する復習と診察法に関する理解</p> <p>教科書 p 156～163、p 653～670（Ⅱ）、p 778～785（Ⅰ） スポーツ傷害の整形外科的メディカルチェックと応急処置</p> <p>[到達目標] スポーツ鍼灸に必要な臨床所見のとり方を理解する。また、現場で必要な応急処置を理解する 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 各関節における解剖・機能・診察に関わる事項の復習 腰部の疾患1 腰痛・腰下肢痛 総論、腰部疾患（変形性腰椎症）</p> <p>[到達目標] 1. 臨床に必要な腰・下肢部の解剖に関する理解 2. 椎間板から起る退行変性の成り立ち、症状発現に関する理解 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 予習：腰部、下肢における骨、筋、神経に関する解剖の復習 復習：椎間板から起る退行変性の成り立ちについて理解を深める</p> <p>教科書 p 105～116、558～565、576～581（Ⅱ）、808～816（Ⅰ） スポーツ鍼灸におけるリスクマネジメント</p> <p>[到達目標] スポーツ鍼灸の現場で必要なリスクマネジメントを理解する 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 各組織におけるリスクマネジメントの復習 腰部の疾患2 腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症 1. 椎間板ヘルニア、腰椎分離・すべり症、腰部脊柱管狭窄症に関する理解と診察法の知識修得 2. 障害高位と症状、理学所見に関する理解 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 予習：椎間板ヘルニア、腰椎すべり症、腰部脊柱管狭窄症についての概要の把握 復習：椎間板ヘルニアおよび腰部脊柱管狭窄症と障害高位の関係、および障害高位と理学所見の関係について記憶する</p> <p>教科書 p 566～575、582～597（Ⅱ）、823～858（Ⅰ） 上肢のスポーツ傷害</p> <p>[到達目標] 1. 肩の代表的なスポーツ傷害（野球肩など）の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方を理解する 2. 肘の代表的なスポーツ傷害（野球肘など）の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方を理解する 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 1. 肩の代表的なスポーツ傷害の復習 2. 肘の代表的なスポーツ傷害の復習 股関節疾患</p> <p>[到達目標] 1. 臨床に必要な股関節の解剖に関する理解 2. 股関節疾患（特に発育性股関節形成不全）、診察法に関する理解 3. 股関節の鍼灸治療法に関する知識の修得 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p>
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	

	<p>する)</p> <p>[備考] 予習：股関節の解剖に関する復習 復習：股関節の解剖、機能に関する復習と変形性股関節症の特徴に関する理解</p> <p>教科書 p 1 8 1 ~ 1 9 2 (Ⅱ)、p 8 1 7 ~ 8 4 3 (Ⅰ) 頭顔面部・頸部、体幹部①(腰部)のスポーツ傷害</p> <p>[到達目標] 頭顔面部・頸部、腰部の代表的なスポーツ傷害の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方を理解する 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解(各テーマの到達度を理解する)</p>
第 1 4 回	
第 1 5 回	<p>[備考] 1. 頭顔面部・頸部におけるスポーツ傷害の復習 2. 腰部におけるスポーツ傷害の復習</p> <p>運動器領域の中間評価 第 1. 3. 5. 7. 9. 1 1. 1 3 回までの重要ポイントをフィードバックし、到達度テストを実施する。 各自で運動器領域における興味ある障害を選択し、問題の結合組織を抽出するとともにその治療方法を検討する(アクティブラーニング)</p>
第 1 6 回	<p>スポーツ領域の中間評価 第 2. 4. 6. 8. 1 0. 1 2. 1 4 回までのまでの重要ポイントをフィードバックし、到達度テストを実施する。 各自でスポーツ領域における興味ある障害を選択し、問題の結合組織を抽出するとともにその治療方法を検討する(アクティブラーニング)</p>
第 1 7 回	<p>膝関節疾患</p> <p>[到達目標] 1. 臨床に必要な膝関節の解剖に関する理解 2. 膝関節疾患(特に変形性膝関節症)、診察法に関する理解 3. 膝関節の鍼灸治療法に関する知識の修得 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解(各テーマの到達度を理解する)</p>
第 1 8 回	<p>[備考] 予習：膝関節の解剖に関する復習 復習：膝関節の解剖、機能に関する復習と変形性膝関節症の特徴に関する理解</p> <p>教科書 p 1 9 3 ~ 2 0 6、p 6 1 4 ~ 6 2 1 (Ⅱ)、p 8 5 9 ~ 8 9 3 (Ⅰ) 体幹部②(股関節部)のスポーツ傷害</p> <p>[到達目標] 股関節部の代表的なスポーツ傷害(グロインペンシンドロームなど)の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方を理解する 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解(各テーマの到達度を理解する)</p>
第 1 9 回	<p>[備考] 股関節部におけるスポーツ傷害の復習</p> <p>手関節・手指の疾患</p> <p>[[到達目標] 1. 臨床に必要な手関節・手部の解剖に関する理解 2. 手関節・手部疾患、診察法に関する理解 3. 手関節・手部の鍼灸治療法に関する知識の修得 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解(各テーマの到達度を理解する)</p>
第 2 0 回	<p>[備考] 予習：手関節・手部の解剖に関する復習 復習：手関節・手部の解剖、機能に関する復習</p> <p>教科書 p 1 6 4 ~ 1 8 0、6 7 1 ~ 6 7 5 (Ⅱ) 膝関節部のスポーツ傷害</p> <p>[到達目標] 膝関節部の代表的なスポーツ傷害(靭帯損傷、ジャンパー膝、オスグット病など)の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方を理解する 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解(各テーマの到達度を理解する)</p>
第 2 1 回	<p>[備考] 膝関節における代表的なスポーツ傷害の復習 その他の運動器系の疾患および症状</p> <p>[到達目標] 運動麻痺、末梢神経麻痺、骨粗鬆症、帯状疱疹、肋間神経痛の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方を理解する 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解(各テーマの到達度を理解する)</p>
	<p>[備考] 上記症状・疾患の診察手順の復習 教科書 p 1 2 6 ~ 1 4 4、p 6 3 3 ~ 6 4 1、p 5 9 8 ~ 6 0 6 (Ⅱ)</p>

	<p>第22回 下腿部のスポーツ傷害 下腿部の代表的なスポーツ傷害（シンスプリント、アキレス腱炎など）の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方理解する 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 膝関節における代表的なスポーツ傷害の復習</p> <p>第23回 末梢神経障害 上肢 [到達目標] 1. 絞扼神経障害についての理解 2. 上肢における主な神経の走行、支配についての理解 3. 上肢における主な絞扼神経障害の鑑別、鍼灸治療法の知識修得 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 予習：上肢の主な末梢神経（正中神経、尺骨神経、橈骨神経）の走行・支配についての大まかな理解 復習：上記神経の走行・支配の復習と主な絞扼部位の解剖、絞扼部位の違いによる症状の差異に関する理解</p> <p>第24回 教科書 p 538～557（Ⅱ）、p 786～793（Ⅰ） 足関節部・足部のスポーツ傷害 [到達目標] 足関節部、足部の代表的なスポーツ傷害（足関節捻挫、腓骨筋腱炎など）の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方理解する 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 足関節部、足部の代表的なスポーツ傷害の復習</p> <p>第25回 末梢神経障害 下肢 [到達目標] 1. 下肢における主な神経の走行、支配についての理解 2. 下肢における主な絞扼神経障害の鑑別、鍼灸治療法の知識修得 上記関連項目に関する課題提出と、google formを用いた内容の理解（各テーマの到達度を理解する）</p> <p>[備考] 予習：下肢の主な末梢神経（坐骨神経、大腿神経）の走行・支配についての大まかな理解 復習：各種絞扼神経障害による症状の確認</p> <p>第26回 教科書 p 622～632（Ⅱ）、p 823～833、p 842～851（Ⅰ） 臨床はり・きゅう学「運動器編」のまとめ 各自が提出した頸部・上肢（肩・肘）、腰部、股関節、膝、手関節・手指、末梢神経絞扼障害、その他の運動器疾患を復習し、期末評価への対策</p> <p>第27回 臨床はり・きゅう学「スポーツ編」のまとめ アクティブラーニング型学修 各自が提出したスポーツ鍼灸の概要、スポーツで遭遇する頸部・上肢（肩・肘）、腰部、股関節、膝、下腿部、足関節・足部の傷害（外傷・障害）を復習し、期末評価への対策</p> <p>第28回 評価 筆記評価とフィードバック</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	運動器・スポーツ系疾患・症候の理解、それらに対する鍼灸治療法の知識的修得に関して必要な最低事項は解剖学的知識であり、少なくとも各講義までに関連した解剖学的な知識の確認を行っておく。予習復習時間：各15分
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「鍼灸療法技術ガイドⅠ」（文光堂） ・「鍼灸療法技術ガイドⅡ」（文光堂） ・「臨床はり・きゅう学Ⅱ（運動器・スポーツ系）」の配布資料
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動器疾患の治療 整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸」（医歯薬出版） ・「アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学」（文光堂） ・「THE SPORTS MEDICINE BIBLE」
成績評価	出席は毎回の課題提出とする。出席基準（3/5の出席）を満たした者に期末評価を実施する。評価は、中間評価と期末評価、授業内小テストの結果を総合的に判断して行う。評価のウェイトは対面である期末評価に重きを置く
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○木村啓作 研究室 : 病院2階鍼灸教員室 メールアドレス : k_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日11:20 - 13:00</p>
備考	<p>1. 実務経験 担当者（木村啓作）は、鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センター勤務。ポルトガルクリニック土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス、フィギュアスケーターおよびトレイルランナートレーナーとして実務経験があり、実務内容にも基づきこの科目を進める。</p> <p>2. ディプロマポリシーとの関連 ◎-1</p>

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	必修
担当教員			
廣 正基、山崎 翼			
添付ファイル			

授業目標	<p>学外鍼灸臨床実習は学外研修の科目である。医療人としての協調性と責任感を養う実習であり、社会に適応していくための態度と能力を高めることが実習の目的の一つとなる。</p> <p>鍼灸師として西洋医学と東洋医学を統合した鍼灸臨床能力を養い、患者心理の理解と対応、鍼灸治療の適応と限界の把握、疾病の病態把握、治療プランニング、刺鍼・施灸技術、治療の評価などの一連の流れを理解し、清潔で安全、且つ最良の効果が得られるよう実践することができる。</p> <p>学外研修施設では、受付、診察、治療、清掃、管理に至るまでをグループ内で協力しながら、総合的な体験学習を行う。また毎回の臨床後に症例をまとめ、実習参加者全員が病態理解を行うカンファレンスを実施する。</p>		
授業計画	1	<p>診察の流れと病態把握</p> <p>高齢者に特徴的な疾患や病態を説明することができる。</p> <p>病態把握に必要な検査を理解する。</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p>	
	2	<p>実習に関するオリエンテーション</p> <p>学外実習の流れを確認する。また、治療に際の注意点を説明することができる。</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p>	
	3	<p>実習1 (1回目：1日目午後1)</p> <p>患者の問診や検査から病態を把握する。また治療プランを考え、治療を行うことができる。</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p>	
	4	<p>実習2 (1回目：1日目午後2)</p> <p>治療プランを元に治療を行い、その結果をカルテに記載することができる。</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p>	
	5	<p>実習3 (1回目：2日目午前1)</p> <p>患者の問診や検査から病態を把握する。また治療プランを考え、治療を行うことができる。</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p>	
	6	<p>実習4 (1回目：2日目午前2)</p> <p>治療プランを元に治療を行い、その結果をカルテに記載することができる。</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p>	
	7	<p>実習5 (1回目：2日目午後1)</p> <p>患者の問診や検査から病態を把握する。また治療プランを考え、治療を行うことができる。</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p>	
	8	<p>実習5 (1回目：2日目午後2)</p> <p>治療プランを元に治療を行い、その結果をカルテに記載することができる。</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p>	
	9	<p>実習に関するオリエンテーション</p> <p>学外実習の流れを確認する。また、治療に際の注意点を理解する。さらには1回目の実習の問題点を踏まえ、各自の目標を決めることができる。</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p>	
	10	<p>実習6 (2回目：1日目午後1)</p> <p>患者の問診や検査から病態を把握する。また治療プランを考え、治療を行うことができる。</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。</p> <p>予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p>	
	11	<p>実習7 (2回目：1日目午後2)</p> <p>治療プランを元に治療を行い、その結果をカルテに記載することができる。</p> <p>【授業形態】実習</p>	

	<p>復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。 実習8 (2回目：2日目午前1) 患者の問診や検査から病態を把握する。また治療プランを考え、治療を行うことができる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。 実習9 (2回目：2日目午前2) 治療プランを元に治療を行い、その結果をカルテに記載することができる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。 実習10 (2回目：2日目午後1) 患者の問診や検査から病態を把握する。また治療プランを考え、治療を行うことができる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。 実習11 (2回目：2日目午後2) 治療プランを元に治療を行い、その結果をカルテに記載することができる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	3年生の各科目で配布したプリントなどを熟読し、わからない部分があれば参考書や専門書などで調べること。また、最新の病態メカニズムや治療方法に関しては、各領域の論文を医学中央雑誌などで検索・学習することで理解を深めると共に、それでも理解できない場合は、質問して解決すること。特に運動器疾患や高齢者鍼灸に関しては重点的に予習・復習すること。
教科書	学外鍼灸臨床実習 実習簿 (配布プリント)
参考書	1～4年次までにおこなった全ての講義資料 現代医学：「臨床医学全科」渡辺 決 編集 (金芳堂) 東洋医学：鍼灸学基礎編・臨床編 日中共同編集 (東洋学術出版) 鍼灸治療：図解鍼灸療法技術ガイド I・II 矢野 忠 編集 (文光堂) 診察編：診察と手技がみえる 古谷伸之 (MEDICMEDIA)
成績評価	評価方法と評価割合 (実習90%、実習簿の作成10%) 実習の評価に関しては、実習中の生活、臨床技術をもって評価する。評価方法は専用記録用紙 (電子媒体) に引率教員が行う。評価割合は実習の態度、生活面、協調性、臨床技術について総合的に行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 廣 正基 研究室 : 附属鍼灸センター2F メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp その他：実習に引率いただく鍼灸学系担当教員
備考	附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて実務経験あり アクティブラーニングとして、担当患者について問診から治療までについて振り返りおよび今後の課題についてまとめる。 DP：◎-4、○-5

講義科目名称： 臨床はり・きゅう学実習Ⅱ（運動器・スポーツ系） 授業コード： 3S314

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
谷口 剛志、角谷 英治			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>目的 本実習は、運動器に生じる主要な症候に対し、現代医学的な観点から評価を行ない、それぞれの症状に合わせた治療穴を選び、安全で適切なはりきゅう施術が実施出来ると共に、施術後にライフスタイルやトレーニングの指導が出来る力を修得することを目的としています。</p> <p>目標 1. 現代医学的な観点で、運動器各部位の評価が出来ること 2. 疾患や症状に応じた治療穴が選べること 3. 安全で適切なはりきゅう施術を身につけること 4. ライフスタイルやトレーニングの指導が出来ること</p>
授業計画	<p>第1回 足部・足関節1 機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第2回 足部・足関節2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第3回 下腿部1 機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第4回 下腿部2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第5回 膝関節1 機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第6回 膝関節2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第7回 大腿部1</p>

	<p>機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p>
第8回	<p>大腿部 2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p>
第9回	<p>股関節・鼠径部 1 機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p>
第10回	<p>股関節・鼠径部 2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p>
第11回	<p>臀部・骨盤部 1 機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p>
第12回	<p>臀部・骨盤部 2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p>
第13回	<p>腰部 1 機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p>
第14回	<p>腰部 2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p>
第15回	<p>前半まとめ 第1回～14回までの内容の実技試験を実施します。</p>
第16回	<p>背部 1 機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング</p>

第17回	1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング 背部 2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第18回	頸部 1 機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第19回	頸部 2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第20回	肩関節 1 機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第21回	肩関節 2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第22回	上肢 1 機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第23回	上肢 2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第24回	肘関節 1 機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング
第25回	肘関節 2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング

	<p>第26回</p> <p>1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング 手関節・手部1 機能解剖とマルアライメントの評価、疾患と評価 【到達目標】 1. 機能解剖を理解する。 2. マルアライメントの評価ができる。 3. 疾患の評価ができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>第27回</p> <p>1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング 手関節・手部2 鍼灸治療、指導、総合（症例問題） 【到達目標】 1. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 疾患・症状に応じた指導を行える。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>第28回</p> <p>後半まとめ 第16回～27回までの内容の実技試験を実施します。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前学習として、運動器の機能解剖、評価を確認しておくこと
教科書	「図解鍼灸療法技術ガイドI・II」 矢野 忠（編）（文光堂）
参考書	スポーツ東洋療法ハンドブック 東洋療法学校協会 編 （医道の日本社）
成績評価	受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の4/5以上の出席者に対し、評価を実施します。 評 価：前半まとめ（50%）、後半まとめ（50%）を合わせて、60%以上を取得出来た者に単位を認定します。
担当教員の基本情報	<p>教員名：谷口剛志（臨床歴23年） 経 歴：はり師きゅう師、スポーツ健康科学（修士） たなか針灸治療所、永澤鍼灸院、明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センター、やまぎわ整形外科、渡辺整形外科、Avante OSAKAビーチサッカートレーナー、KALEBITCHフットサルトレーナー、ポルトガルクリニカ土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス、FCバルセロナフットサル、FCポルトクリニカドラゴン、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに実習指導を行う。 所属先：鍼灸学部はりきゅう学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室、アスリートサポートセンター 連絡先：t_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日13:50～16:00</p> <p>教員名：角谷英治（臨床歴30年） 経歴：鍼灸学（博士）</p>
備考	
	ディプロマポリシーとの関連：◎-5、○-2、○-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
丸茂 栄士郎			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：遠隔授業（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、耳鼻科領域、眼科領域、泌尿・生殖器領域、産婦人科領域、脳神経外科領域、疼痛領域における主症状と代表疾患を取り上げる。現代医学と東洋医学の両側面における病態・生理と、その基本的な鑑別手法を修得するよう指導する。そして、各回の授業で主題となる症状および疾患に関する鍼灸治療の基本的な知識と技術を修得できるように指導する。</p>		
授業計画	第1回	<p>眼科疾患（眼精疲労）</p> <p>【到達目標】 眼精疲労の現代医学的な病態について説明できる。 眼精疲労の東洋医学的な病態について説明できる。 眼精疲労の鍼灸治療について理解する。</p> <p>【備考】 眼精疲労をきたす疾患について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第2回	<p>耳鼻科疾患①（鼻閉・鼻汁）</p> <p>【到達目標】 鼻閉・鼻汁の現代医学的な病態について説明できる。 鼻閉・鼻汁の東洋医学的な病態について説明できる。 鼻閉・鼻汁の鍼灸治療について理解する。</p> <p>【備考】 鼻の主な構造と機能、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第3回	<p>耳鼻科疾患②（めまい・耳鳴り・難聴）</p> <p>【到達目標】 めまい・耳鳴り・難聴の現代医学的な病態について説明できる。 めまい・耳鳴り・難聴の東洋医学的な病態について説明できる。 めまい・耳鳴り・難聴の鍼灸治療について理解する。</p> <p>【備考】 めまい・耳鳴り・難聴をきたす疾患について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第4回	<p>月経異常（月経困難症・月経不順）</p> <p>【到達目標】 月経困難症・月経不順の現代医学的な病態について説明できる。 月経困難症・月経不順の東洋医学的な病態について説明できる。 月経困難症・月経不順の鍼灸治療について理解する。</p> <p>【備考】 月経異常の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第5回	<p>更年期障害</p> <p>【到達目標】 更年期障害の現代医学的な病態について説明できる。 更年期障害の東洋医学的な病態について説明できる。</p> <p>更年期障害</p> <p>【備考】 更年期障害の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第6回	<p>骨盤位・乳汁分泌不全、帯下、不妊、つわり</p> <p>【到達目標】 骨盤位・乳汁分泌不全、帯下、不妊、つわりの現代医学的な病態について説明できる。 骨盤位・乳汁分泌不全、帯下、不妊、つわりの東洋医学的な病態について説明できる。 骨盤位・乳汁分泌不全、帯下、不妊、つわりの鍼灸治療について理解する。</p> <p>【備考】 骨盤位・乳汁分泌不全、帯下、不妊、つわりの概要について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第7回	<p>泌尿器疾患①（排尿障害：神経因性膀胱、前立腺肥大、過活動性膀胱）</p> <p>【到達目標】 排尿障害の現代医学的な病態について説明できる。 排尿障害の東洋医学的な病態について説明できる。 排尿障害の鍼灸治療について理解する。</p> <p>【備考】 排尿障害の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第8回	<p>泌尿器疾患②（勃起障害、夜尿症、慢性前立腺炎・慢性膀胱炎）</p> <p>【到達目標】 勃起障害、夜尿症、慢性前立腺炎・慢性膀胱炎の現代医学的な病態について説明できる。</p>	

	<p>勃起障害、夜尿症、慢性前立腺炎・慢性膀胱炎の東洋医学的な病態について説明できる。 勃起障害、夜尿症、慢性前立腺炎・慢性膀胱炎の鍼灸治療について理解する。 【備考】 勃起障害、夜尿症、慢性前立腺炎・慢性膀胱炎の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第9回 神経痛（三叉神経痛、肋間神経痛、後頭神経痛） 【到達目標】 神経痛の現代医学的な病態について説明できる。 神経痛の東洋医学的な病態について説明できる。 神経痛の鍼灸治療について理解する。 【備考】 三叉神経痛、肋間神経痛、後頭神経痛の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第10回 頭痛（緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛） 【到達目標】 頭痛の現代医学的な病態について説明できる。 頭痛の東洋医学的な病態について説明できる。 頭痛の鍼灸治療について理解する。 【備考】 緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第11回 顔面神経麻痺（ベル麻痺、ラムゼイハント症候群、聴神経鞘腫） 【到達目標】 顔面神経麻痺の現代医学的な病態について説明できる。 顔面神経麻痺の東洋医学的な病態について説明できる。 顔面神経麻痺の鍼灸治療について理解する。 【備考】 顔面神経麻痺の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第12回 脳血管障害（脳卒中後遺症、運動麻痺） 【到達目標】 脳血管障害の現代医学的な病態について説明できる。 脳血管障害の東洋医学的な病態について説明できる。 脳血管障害の鍼灸治療について理解する。 【備考】 脳血管障害の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第13回 パーキンソン病・パーキンソン症候群、認知症 【到達目標】 パーキンソン病・パーキンソン症候群、認知症の現代医学的な病態について説明できる。 パーキンソン病・パーキンソン症候群、認知症の東洋医学的な病態について説明できる。 パーキンソン病・パーキンソン症候群、認知症の鍼灸治療について理解する。 【備考】 パーキンソン病・パーキンソン症候群、認知症の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第14回 講義内容のまとめ 【到達目標】 1回目から13回目までの内容に関して評価を行った後に評価結果について解説によりフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	指定された講義の範囲を予習（30分）と講義後に授業の範囲の復習（30分）を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	1. 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ 矢野忠ら編（文光堂） 2. 講義プリント
参考書	適宜知らせる。
成績評価	1. 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 2. 筆記試験100%（100点満点中60点以上を合格とする）
担当教員の基本情報	marumo@meiji-s.ac.jp オフィスアワー：授業直後
備考	実務経験内容：教育機関の附属鍼灸院で鍼灸臨床業務に従事。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。本講義は指定された教科書に基づいて行いますので、授業時には必ず教科書を持参して下さい。本講義ではアクティブラーニングは行いません。本講義はオンデマンド形式で行います。 【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1】

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
山崎 翼			
鍼灸学科	15時間	講義（遠隔授業：オンライン授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>鍼灸治療院の開業ならびに経営に関して、必要な基本事項について学習し、これからの経営方法についての理解を深める。</p> <p>そのために必要な知識について、授業内調査や発表などのアクティブラーニングを通して理解を深める。</p> <p><基本事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経営理念、目標設定の重要性 2) 鍼灸院の開設（立地条件、競合院調査、マーケティング） 3) 鍼灸院の外観・内装・看板 4) 鍼灸院の宣伝・競合について 5) まとめ
授業計画	<p>1回目 マーケティングに関する用語の学習 キャズム、レッド（ブルー）オーション、プロダクトアウト、チャネル戦略、機会損失などのマーケティングに関する用語について理解を深め、基本的な知識を身につける。</p> <p>2回目 販売戦略について モノ売り、コト売り、トキ売りなど、さまざまな販売戦略について学習する。 講義内において、POPを自主作成し、理解を深める。</p> <p>3回目 広報戦略について 一般的な広報戦略について学習した上で、それを鍼灸院経営に活用する方策について理解を深める（広告制限と回避方策など）。</p> <p>4回目 一次情報の取得について マーケティングにおいて重要な、一次情報の取得について理解を深める。 具体的な内容として、D2C、B2B、B2C、ポイントビジネスと貨幣価値について解説する。</p> <p>5回目 従業員の雇用と管理について 従業員の雇用と管理の方法について理解を深める。 マイルストーンを利用した目標管理とPDCAサイクルとの関連などについて解説する。</p> <p>6回目 リコメンドビジネスと人工知能の活用 鍼灸院経営におけるIT技術の活用について解説し、理解を深める。 合わせて、リコメンドビジネスについても解説する。</p> <p>7回目 正常化バイアスと未来予測とトレンド 経営において最も重要な変化について学ぶとともに、それを阻害する正常化バイアスとトレンド変化について理解を深める。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布プリントの内容を参考にし、各テーマについて自身の考えを考察すること。
教科書	自作プリント
参考書	「鍼灸院経営のすべて」出端昭男（医道の日本社） 「治療院経営Q&A」目黒章布（医道の日本社）
成績評価	出席基準をみたした者を対象に、レポートの内容を総合して評価する。（平常点20%、レポート評価80%）
担当教員の基本情報	担当教員名：山崎 翼 研究室：鍼灸センター2階 教員室 オフィスアワー 木曜日16：40～
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実務経験 附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院にて鍼灸治療を担当。その実務経験を基に講義を行う。 2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
田口 玲奈、河井 正隆			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習+対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、臨床はり・きゅう学III(神経・感覚器系)で学んだ疼痛領域、産婦人科領域、耳鼻科領域、眼科領域、口腔歯科領域、皮膚科領域、脳神経領域における主症状と代表疾患を取り上げ、東洋医学と西洋医学の特色を充分理解し、現代医学と鍼灸医学の両面から患者を把握し、適切で有効な鍼灸治療が行える能力を養う事を目的としている。これらの領域の鍼灸治療に必要な基本的な診察方法および治療技術までを修得する。</p>		
授業計画	1回目	<p>眼精疲労に対する鍼灸治療 {到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 眼精疲労に対する適切な鍼灸治療ができる。 2, 基本的な東洋医学的治療方針を立てることができる。 <p>{授業形態}</p> <p>実習 {備考}</p> <p>講義で学んだ眼精疲労の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	2回目	<p>アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎に対する鍼灸治療 {到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎に対する適切な鍼灸治療ができる。 2, 基本的な東洋医学的治療方針を立てることができる。 <p>{授業形態}</p> <p>実習 {備考}</p> <p>講義で学んだアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	3回目	<p>耳鳴、難聴、眩暈に対する鍼灸治療 {到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 平衡機能検査法や音叉による聴力検査法を実施できる。 2, 耳鳴、難聴、眩暈に対する適切な鍼灸治療ができる。 3, 基本的な東洋医学的治療方針を立てることができる。 <p>{授業形態}</p> <p>実習 {備考}</p> <p>講義で学んだ耳鳴、難聴、眩暈の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	4回目	<p>月経困難症に対する鍼灸治療 {到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 月経困難症の病態を東洋医学的に解釈できる。 2, 弁証に従った治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 <p>{授業形態}</p> <p>実習 {備考}</p> <p>講義で学んだ月経困難症の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	5回目	<p>更年期障害に対する鍼灸治療 {到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 更年期障害の病態を東洋医学的に解釈できる。 2, 弁証に従った治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 <p>{授業形態}</p> <p>実習 {備考}</p> <p>講義で学んだ月経困難症の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	6回目	<p>骨盤位・乳汁分泌不足に対する鍼灸治療 {到達目標}</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 骨盤位、乳汁分泌不足の病態を東洋医学的に解釈できる。 2, 弁証に従った治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 3, 骨盤位に対し、至陰穴への灸技術を習得する。乳汁分泌不足に対し、少沢穴への灸技術を習得する。 <p>{授業形態}</p> <p>実習 {備考}</p> <p>講義で学んだ骨盤位・乳汁分泌不足の病態を予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	7回目	<p>神経痛(肋間神経痛、三叉神経痛)に対する鍼灸治療 {到達目標}</p>	

	<p>1, 神経痛（肋間神経痛。三叉神経痛）の病態を東洋医学的に解釈できる。 2, 西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {授業形態} 実習 {備考} 講義で学んだ神経痛（肋間神経痛。三叉神経痛）の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>8回目 頭痛および顔面神経麻痺に対する鍼灸治療 {到達目標} 1, 頭痛、顔面神経麻痺の病態を東洋医学的に解釈できる。 2, 西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {授業形態} 実習 {備考} 講義で学んだ頭痛、顔面神経麻痺の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>9回目 顎関節症、歯痛に対する鍼灸治療 {到達目標} 1, 顎関節の診察ができる。 2, 顎関節症、歯痛の病態を東洋医学的に解釈できる。 3, 西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {授業形態} 実習 {備考} 講義で学んだ顎関節症、歯痛の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>10回目 脳血管障害に対する鍼灸治療 (到達目標) 1, 脳神経外科領域の検査法について、理解し、行うことができる。 2, 脳血管障害の病態を東洋医学的に解釈できる。 3, 西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {授業形態} 実習 {備考} 講義で学んだ脳神経外科領域の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>11回目 皮膚科領域に対する鍼灸治療 {到達目標} 1, 皮膚科の病態を東洋医学的に解釈できる。 2, 西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {授業形態} 実習 {備考} 講義で学んだ皮膚科領域の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>12回目 末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）に対する鍼灸治療 {到達目標} 1. 末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）の診察法を習得する。 2. 末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）の鍼灸治療の方法を理解し修得する。 3. 下肢への鍼通電（筋肉パルス）を適切かつ安全に行うための刺鍼技術を修得する。 {授業形態} 実習 {備考} 末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）の病態を予習すること。授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>13回目 まとめ1 {到達目標} 1回目から13回目の内容に関して、まとめの評価として実技試験および実習を行う。</p> <p>14回目 まとめ2 {到達目標} 1回目から13回目の内容に関して、まとめの評価として実技試験および実習を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	これまで学んだ、基礎・臨床医学および鍼灸学の内容を広く復習し、授業に参加されたい。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。
教科書	『図解 鍼灸療法技術ガイド II』 矢野 忠ら編（文光堂） 配布プリントなど。
参考書	『新版 経絡経穴概論』日本理療科教員連盟・（社）東洋療法学校協会編、医道の日本社 『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』教科書執筆小委員会著、医道の日本社
成績評価	・出席基準（実習実施回数の5分の4以上の出席が必要）を満たした者について実技試験を実施する。評価は実技試験にて行う（60点以上を合格とする）。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 田口玲奈 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜13:50~17:30</p> <p>担当教員名 : 河井正隆 研究室 : 学修支援センター（別室） 3号館 メールアドレス : m_kawai@meiji-u.ac.jp</p>

	オフィスアワー : 水曜17:30~19:00
備考	<p>1, 実務経験 田口玲奈 京都桂川鍼灸院への勤務経験、附属鍼灸センターでの実務経験（16年）をもとに実習指導を行う。</p> <p>河井正隆 京都府亀岡市に所在地を置く整形外科・内科医院および明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センターにて鍼灸臨床に従事する（臨床歴：約35年）。 なお後者（学校）では、鍼灸学科生および教員養成学科生の臨床実習指導にも携わる。</p> <p>2, この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5、○-2</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
吉田 行宏			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習／オンライン授業	
添付ファイル			

授業目標	スポーツやアスリートに関わるために、鍼灸師が必要な知識と技術、トレーナーとしてはり師・きゅう師の資格を持つ意義を理解することを目標とします。さらに、鍼灸師として対応することのある子どもや女性のスポーツ、健康の維持増進や趣味として行う多様なスポーツに対応できる知識と技術を修得することを目標とします。		
授業計画	1回目	ガイダンス、メディカルチェックとリスクマネージメント 【到達目標】アスリートに必要な整形外科的・内科的メディカルチェックと、リスクマネージメント、アンチドーピングについて理解し、説明することができる。 【授業形態】オンライン授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	2回目	スポーツ傷害の診方 【到達目標】スポーツ傷害の診方や治療に対する考え方について理解し、説明することができる。 【授業形態】オンライン授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	3回目	アイシングとテーピング 【到達目標】スポーツ現場で必要なテーピングとアイシングについて、その理論をし実践できる。 【授業形態】オンライン授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	4回目	成長期とスポーツ 【到達目標】成長期のスポーツで起こるケガや問題点について理解し、説明することができる。子どものスポーツの意味やケガの予防、健康感の育成について考え、説明することができる。 【授業形態】オンライン授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	5回目	女性とスポーツ 【到達目標】女性アスリートの特徴を理解し、鍼灸師が関わる場合の注意点や男性アスリートと異なる点について理解し、説明することができる。 【授業形態】オンライン授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	6回目	スポーツはり・きゅうとトレーニング 【到達目標】スポーツに必要な鍼灸師が行えるトレーニングについて、その理論を理解し、実践できる。 【授業形態】オンライン授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	7回目	アスレティックリハビリテーション① 【到達目標】アスリートがケガから復帰する際のアスレティックリハビリテーションについて理解できる。 【授業形態】オンライン授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	8回目	アスレティックリハビリテーション② 【到達目標】アスリートがケガから復帰する際のアスレティックリハビリテーションについて理解できる。 鍼灸師が行える内容について実践できる。 【授業形態】オンライン授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	9回目	スポーツはり・きゅうとストレッチ① 【到達目標】スポーツに必要な鍼灸師が行えるストレッチについて、その理論を理解できる。 鍼灸師が行える内容について実践できる。 【授業形態】オンライン授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	10回目	スポーツはり・きゅうとストレッチ② 【到達目標】スポーツに必要な鍼灸師が行えるストレッチを実践できる。 【授業形態】オンライン授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	11回目	コンディションとコンディショニング① 【到達目標】コンディションとコンディショニングについて理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	12回目	コンディションとコンディショニング② 【到達目標】コンディションとコンディショニングについて理解し説明できる。 【授業形態】オンライン授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	

	<p>13回目 コンディションとコンディショニング③ 【到達目標】 はり・きゅうを用いたコンディショニングについて理解し、説明できる。 【授業形態】 オンライン授業 【備考】 小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。</p> <p>14回目 健康スポーツ・まとめ 【到達目標】 鍼灸師としてスポーツを通じた健康について理解し、説明できる。 スポーツはり・きゅうで学んだ内容を理解し、説明できる。 【授業形態】 オンライン授業 【備考】 小テストを実施します。小テストは授業時間後にフィードバックします。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	スポーツニュースや実際の試合などを積極的に見て、各種スポーツの競技概要や日本や世界のスポーツ界の現状について把握してください。
教科書	配布資料
参考書	鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法(医道の日本社)
成績評価	<p>授業回数のうち3/5以上の出席(小テストもしくは課題等の提出含む)を単位の条件とします。 毎回の授業後に課題もしくは小テストを実施し、以下①②を基に別途定めるルーブリックを用いて総合的に判断して優・良・可・不可で評価します。 ①授業ごのと到達目標に達しているか ②課題もしくは小テストの提出状況(期限を守れているか等)</p>
担当教員の基本情報	<p>教員名：吉田行宏 所属先：鍼灸学部鍼灸学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先：y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日13:50～15:30</p>
備考	<p>資格：はり師きゅう師、鍼灸学(博士) 実務経験：鍼灸臨床歴19年、教員歴11年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに学習指導を行う。</p>
	アクティブラーニング：施灸手技が適切に行えているのかを担当教員が評価しフィードバックする。また、場合によっては動画で提出し、適切に行えているのかをフィードバックする。
	<p>ディプロマポリシーとの関連 ③関心・意欲-○ ①知識・理解-○</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習 遠隔・オンデマンド	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：高齢者に特有な疾患の病態の概要と鍼灸治療方法を呈示する。また高齢者体験を通じ、高齢社会に対応出来る学習を行う。</p> <p>到達目標：高齢者に特有な疾患の概要と鍼灸治療方法を理解することができる。虚弱な高齢者を対象とした、鍼灸師に可能なケア方法を修得する。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 高齢者に対する鍼灸治療の特徴 ガイダンス：本科目の教育の概要と単位習得の成績評価の方法を説明する。高齢者に対する鍼灸治療施術時の注意点と特徴を説明することができる。高齢者の鍼灸治療について、触診や徒手検査を説明することができる。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義、AL（振り返り、コミュニケーションカード記載）</p> <p>第2回 高齢者の中核疾患の鍼灸-1 認知症 高齢者の代表的な中核疾患である認知症を鑑別するための評価方法を応用できる。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義、AL（振り返り、コミュニケーションカード記載、コメント返却）</p> <p>第3回 高齢者の中核神経疾患の鍼灸診療-2 パーキンソンズム 高齢者の代表的な中核疾患であるパーキンソンズムの鑑別が説明することでき、鍼灸治療が出来る。また、鍼灸治療時に併用できる徒手・運動療法を説明することができる。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義、AL（振り返り、コミュニケーションカード記載）</p> <p>第4回 高齢者の呼吸器疾患の鍼灸診療-3 慢性閉塞性肺疾患 高齢者の代表的な呼吸器疾患であるCOPDについて説明することができ、病態に従った鍼灸治療が出来る。鍼灸治療の適応となる症状の鑑別が出来る。また、鍼灸治療時に併用できる運動療法や生活指導が出来る。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義、AL（振り返り、コミュニケーションカード記載）</p> <p>第5回 高齢者の泌尿器疾患の鍼灸診療-4 頻尿 高齢者の代表的な泌尿器疾患である過活動膀胱について説明することができる。鍼灸治療の適応となる症状の鑑別が出来る。また、鍼灸治療時に併用できる生活指導が出来る。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義、AL（振り返り、コミュニケーションカード記載、コメント返却）</p> <p>第6回 高齢者の循環器疾患の鍼灸診療-5 動悸・胸痛・高血圧 高齢者の代表的な循環器疾患の症状について説明することができる。鍼灸治療の適応となる症状の鑑別が出来る。また、鍼灸治療時に併用できる運動療法や生活指導が出来る。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義 AL（振り返り、コミュニケーションカード記載）</p> <p>第7回 フレイル、ロコモティブシンドロームと鍼灸診療-6 フレイル、ロコモティブシンドロームを説明することができ、各々の病態を評価、判定できる。また、これらの病態の予防と改善を目的とした運動療法や生活指導を実践できる。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義、AL（振り返り、コミュニケーションカード記載）</p> <p>第8回 高齢者の口腔機能低下の鍼灸診療-7 ドライマウスなど 高齢者の口腔機能低下に伴うドライマウス・嚥下機能を評価し、唾液の分泌減少・誤嚥の改善を目的とした鍼灸治療を説明することが出来る。また、鍼灸治療時に併用できる運動療法や生活指導が出来る。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義、AL（振り返り、コミュニケーションカード記載、コメント返却）</p> <p>第9回 高齢者の感覚器疾患の鍼灸診療-8 ドライアイ-1 高齢者に特徴的な感覚器疾患を理解する。主にドライアイを取り上げる。病態や症状、評価方法を説明することができる。病態や症状に加えて、他に注意すべき疾患との鑑別点や鍼灸治療に併用する生活指導などについて説明することができる。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義、AL（振り返り、コミュニケーションカード記載）</p> <p>第10回 高齢者体験-9 高齢者の疑似体験を通して高齢者の持つ運動および感覚機能の低下について説明することができる。 配布資料および体験を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義・アクティブラーニングとしてグループワークにて高齢者の機能低下についてまとめる。</p> <p>第11回 高齢者の感覚器疾患の鍼灸診療-10 難聴-1 高齢者に特徴的な感覚器疾患を説明することができる。主に難聴の病態や症状、評価方法を説明することができる。病態や症状に加えて、他に注意すべき疾患との鑑別点や鍼灸治療に併用する生活指導などについて説明することができる。</p>

	<p>配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】 講義、AL（振り返り、コメント返却）</p> <p>第12回 高齢者の感覚器疾患の鍼灸診療-10 耳鳴-2、AL（振り返り、コミュニケーションカード記載、コメント返却）</p> <p>高齢者の代表的な感覚器疾患の一つである耳鳴について、鍼灸治療に適応した耳鳴をの病態や弁証分類を説明することができる。他に注意すべき疾患との鑑別点や鍼灸治療に併用する生活指導などについて説明することができる。 配布資料および実技を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】 講義、AL（振り返り、コミュニケーションカード記載）</p> <p>第13回 講義まとめ 1 講義全体を通して、鍼灸臨床における高齢者の対応についてまとめることができる。 全体の配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】 アクティブラーニングとしてグループワークにて高齢者の鍼灸治療の対応方法についてまとめる。</p> <p>第14回 講義まとめ 2 全体的な授業内容のまとめを行う。 全体の配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】 講義</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	本科目での教育内容には臨床各論、解剖学、経絡経穴学などの内容も含まれるため、関連する事項については確認すること。特に、診療に関連する解剖学的構造について、疾患の概念、症状、診断基準について、あるいは鍼灸治療点となる経穴について復習しておくこと。
教科書	配布プリントにより授業を受ける。
参考書	『高齢鍼灸学』 松本 勅ら（医歯薬出版株式会社） 『老年病のとりえかた』 大内尉義（文光堂） 『老年症候群の診かた』 鳥羽研二（メディカルビュー）
成績評価	規定の出席回数を評価試験の受験資格とする。 筆記試験の60点以上を単位認定の基準とする（就学態度20%、筆記試験70%、その他10%で評価する）
担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直 研究室 : はり・きゅう学講座（1号館2階教授室） メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 15:40～17:20
備考	附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センターにて実務経験あり。 DP:◎-3、○-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
松元 隆司			
添付ファイル			

授業目標	スポーツ医学における関節運動や関節力学の理解を深め、アスレチックリハビリテーションを理解する。また、各関節毎のコンディショニング、エクササイズの基本理念を理解することにより臨床時の状況判断の向上を最終目的とする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・定義・概要 [到達目標] アスレチックリハビリテーションの定義を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>2回目 基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価 [到達目標] 基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価などの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>3回目 足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>4回目 下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>5回目 膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>6回目 膝部のエクササイズ [到達目標] 膝部のエクササイズの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>7回目 股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>8回目 股関節のエクササイズ [到達目標] 股関節のエクササイズの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>9回目 腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>10回目 腰部、腹部のエクササイズ [到達目標] 腰部、腹部のエクササイズの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>11回目 手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>12回目 肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>13回目 肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p> <p>14回目 肩のエクササイズ [到達目標] 肩のエクササイズの基礎知識を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニングあり (小テストを行いフィードバックする)</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	復習し理解を深める。
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	筆記試験, 小テスト, レポート, 授業態度, 出席などを総合的に評価する.
担当教員の基本情報	担当教員名 : 松元 隆司 研究室 : トレーナールーム メールアドレス : t_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-3
	スポーツ現場や施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
角谷 英治、山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、3年生後期からのはり・きゅう臨床実習Ⅲを前に、これまでに学んだ知識や技能を復習を含めて確認するものである。鍼灸臨床を行う上で必要な技術である医療面接、理学検査、経絡経穴、鍼や灸の基礎技術について改めて実習し、臨床に必要な技術を総合的に習得することを目的とする。</p> <p>授業内容は、学生同士による医療面接や理学検査といったロールプレイなどのアクティブ・ラーニングを主として行い、その他にも臨床で高い頻度で用いる経穴や鍼灸の基礎的技術を習得する。</p> <p>本科目では、基礎医学、現代医学、鍼灸医学などを基礎とし、実際の診療に則した医療面接や施術の方法をスムーズに適切かつ効果的に行える技能を修得することを到達目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 頭頸部の症状に対する鍼灸診療 頭頸部の症状を有する模擬症例を通して、理学検査、触察、取穴、神経支配、鍼灸施術などにおける総合的な診療技術の向上を図る。</p> <p>2回目 肩の症状に対する鍼灸診療 肩の症状を有する模擬症例を通して、理学検査、触察、取穴、神経支配、鍼灸施術などにおける総合的な診療技術の向上を図る。</p> <p>3回目 肘・上肢の症状に対する鍼灸診療 肘・上肢の症状を有する模擬症例を通して、理学検査、触察、取穴、神経支配、鍼灸施術などにおける総合的な診療技術の向上を図る。</p> <p>4回目 上肢の神経症状に対する鍼灸診療 上肢の神経症状を有する模擬症例を通して、理学検査、触察、取穴、神経支配、鍼灸施術などにおける総合的な診療技術の向上を図る。</p> <p>5回目 見極め：上半身 1時間目から4時間目までに学んだ内容について見極め試験を実施し、習熟度を評価する。</p> <p>6回目 腰下肢の症状に対する鍼灸診療 腰下肢の症状を有する模擬症例を通して、理学検査、触察、取穴、神経支配、鍼灸施術などにおける総合的な診療技術の向上を図る。</p> <p>7回目 膝の症状に対する鍼灸診療 膝の症状を有する模擬症例を通して、理学検査、触察、取穴、神経支配、鍼灸施術などにおける総合的な診療技術の向上を図る。</p> <p>8回目 下肢の神経症状に対する鍼灸診療 下肢の神経症状を有する模擬症例を通して、理学検査、触察、取穴、神経支配、鍼灸施術などにおける総合的な診療技術の向上を図る。</p> <p>9回目 頭顔面の症状に対する鍼灸診療 頭顔面の症状を有する模擬症例を通して、理学検査、触察、取穴、神経支配、鍼灸施術などにおける総合的な診療技術の向上を図る。</p> <p>10回目 見極め：下半身 6時間目から9時間目までに学んだ内容について見極め試験を実施し、習熟度を評価する。</p> <p>11回目 東洋医学的な鍼灸診療 様々の症状に対する東洋医学的な診療技術の向上を図る。</p> <p>12回目 まとめと復習 1時間目から11時間目までに学んだ内容についての復習とまとめを行う。</p> <p>13回目 臨床実習前実技試験のまとめと評価② 講義の内容を総まとめし、復習と整理を行う。併せて評価を実施する。</p> <p>14回目 臨床実習前実技試験のまとめと評価③ 講義の内容を総まとめし、復習と整理を行う。併せて評価を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業中に学習した技術や知識について、授業毎に1時間程度の復習を行うこと。
教科書	明治東洋医学院専門学校作成のNEW鍼灸診療コアテキスト 補助資料として講義プリントを配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床医学総論(医歯薬出版株式会社) ・臨床医学各論(医歯薬出版株式会社) ・授業で配布したプリントなど
成績評価	授業の4/5以上の出席日数を満たした者を対象として実技試験を行う。 評価は筆記試験・実技試験の結果を総合して行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山崎 翼、角谷英治</p> <p>研究室 : 附属病院2階鍼灸学部教員室</p> <p>メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp, e_sumiya@meiji-u.ac.jp,</p> <p>オフィスアワー : 火曜日、水曜日、木曜日に対応可。事前にメールなどで日時を確認してください。</p>

備考	1. 実務経験 山崎 翼：本学附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに実習指導を行う。 角谷英治：本学附属鍼灸センターにて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに実習指導を行う。 2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
角谷 英治、山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：90時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は基礎医学、臨床医学、鍼灸診断学、臨床鍼灸学に続く鍼灸臨床科目の総仕上げとして附属鍼灸センターにおいて臨床実習を行う。</p> <p>まずは、患者さんとの良好な信頼関係を構築するための過程を理解し、必要な基本行為が実践できることを目的とし、次いで、実地臨床の体験を通じて鍼灸臨床の実際における初歩的・基本的事項を学習し、診察から治療までの一連の過程を理解し、基本的な診察・治療が実践できることを目的とする。</p>
授業計画	<p>ガイダンス [本実習の到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 治療者（医療人）としてふさわしい態度が出来る。 2. 患者さんへの適切な対応（誘導・介助・言葉遣い・心遣い・身だしなみ）が出来る。 3. 快適な治療環境を保持出来る（治療ブース内を清潔に保つ準備と後片付けが出来る）。 4. 消毒および清潔操作（清潔の概念）が出来る。 5. 正確な取穴（解剖学的知識の定着）が出来る。 6. 患者さんへの面接の基本事項が出来る。 7. 正確な理学検査の実施が出来る。 8. 基本的東洋医学的四診の実施が出来る。 9. 初診、再診に応じたカルテ記載が出来る。 <p>臨床実習1-1 臨床実習（第1クール第1回目）</p> <p>見学を中心に臨床現場を知る。 医療人としてふさわしい態度が出来るよう、日常から心がける。</p> <p>臨床実習1-2 臨床実習（第1クール第2回目）</p> <p>見学を中心に臨床現場を知る。 医療人としてふさわしい態度が出来るよう、日常から心がける。</p> <p>カンファ1 カンファレンス（第1クール） 第1クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習2-1 臨床実習（第2クール第1回目）</p> <p>コミュニケーションスキルの理解。 コミュニケーションスキルの理解を深め、臨床現場での実践を心がける。</p> <p>臨床実習2-2 臨床実習（第2クール第2回目）</p> <p>コミュニケーションスキルの理解。 コミュニケーションスキルの理解を深め、臨床現場での実践を心がける。</p> <p>カンファ2 カンファレンス（第2クール） 第2クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習3-1 臨床実習（第3クール第1回目）</p> <p>東洋医学的診察の実施。 基本的東洋医学的四診の実施が出来るよう、予・復習しておく。</p> <p>臨床実習3-2 臨床実習（第3クール第2回目）</p> <p>東洋医学的診察の実施。 基本的東洋医学的四診の実施が出来るよう、予・復習しておく。</p> <p>カンファ3 カンファレンス（第3クール） 第3クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習4-1 臨床実習（第4クール第1回目）</p> <p>医療面接の実施。 医療面接の技法について、予・復習しておく。</p> <p>臨床実習4-2 臨床実習（第4クール第2回目）</p> <p>医療面接の実施。 医療面接の技法について、予・復習しておく。</p> <p>カンファ4 カンファレンス（第4クール） 第4クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習5-1 臨床実習（第5クール第1回目）</p> <p>理学検査の実施。 正確な理学検査の実施が出来るよう、予・復習しておく。</p> <p>臨床実習5-2 臨床実習（第5クール第2回目）</p>

	2 カンファ5 臨床実習6-1 臨床実習6-2 カンファ6 まとめ1 まとめ2 まとめ3 まとめ4	理学検査の実施。 正確な理学検査の実施が出来るよう、予・復習しておく。 カンファレンス（第5クール） 第5クールの実習内容をレポートにまとめる。 臨床実習（第6クール第1回目） 臨床現場における総復習。 医療面接、基本的東洋医学的四診、理学検査について予・復習しておく。 臨床実習（第6クール第2回目） 臨床現場における総復習。 医療面接、基本的東洋医学的四診、理学検査について予・復習しておく。 カンファレンス（第6クール） 第6クールの実習内容をレポートにまとめる。 まとめ1 実習での医療面接をふり返り、鍼灸臨床におけるコミュニケーションスキルについての理解を深め、その重要性についての理解を深める。 まとめ2 実習での東洋医学的四診をふり返り、鍼灸臨床における東洋医学的診断の実際についての理解を深める。 まとめ3 実習での理学検査の実施をふり返り、鍼灸臨床における病態把握の実際についての理解を深める。 まとめ4 カンファレンスで作成したレポートをふり返り、鍼灸臨床におけるカルテ記載の実際についての理解を深める。
授業時間外の学習（準備学習等）について	●実習の開始にあたり、個人評価ツールとしてのパーソナルポートフォリオとなるファイルを配布します。 ●ガイダンス終了後、速やかにポートフォリオに実習簿をファイリングしてください。 ●第1回目の実習前日には、教科書の12-20ページを読み、予習を行ってください。 ●実習内容によっては課題を課すことがあります。その際は参考書を元に調べ、調べた内容をまとめた用紙をポートフォリオにファイリングしてください。 ●調べたい内容について指定した参考書の内容では足りない場合、オフィスアワーを活用して質問してください。代替参考書を教示します。	
教科書	特に無し	
参考書	・「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎 昭弘 著（医歯薬出版社） ・「鍼灸治療における感染防止の指針」鍼灸安全性ガイドライン委員会編（医歯薬出版社） ・「新版 経絡経穴概論」東洋療法学校協会（医道の日本社） ・「新しい鍼灸診療」北出 利勝 編集（医歯薬出版社） 「現代鍼灸臨床の実際」松本 勅 著（医歯薬出版社） 「スポーツ東洋療法マニュアル」東洋療法学校協会（医道の日本社） 「高齢者ケアのための鍼灸医療」丹澤 章八 編（医道の日本社） 「チーム医療従事者のための臨床医学全科」渡邊 泷 編集（金芳堂）	
成績評価	実習内演習7%×6回、レポート7%×6回、ポートフォリオ評価16%	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 廣 正基 研究室 : はり・きゅう学講座 メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 山崎 翼 研究室 : はり・きゅう学講座 メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時	
備考	鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センターにて実務経験あり。 アクティブラーニングとして、実習後振り返りを行い、担当患者の特徴をまとめる。 DP: ◎-5、○-2	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
長尾 淳彦、濱口 夏花			
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】この授業では、既に習得した身体構造と身体における運動学を基に、スポーツ現場で遭遇する外傷・障害に対して、柔道整復師として実施可能なアプローチ方法を学び、技術を習得する。</p> <p>【到達目標】スポーツ選手（アスリート）に特有な外傷・障害の発生メカニズムを理解するとともにテーピング並びに早期現場復帰のための運動療法を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足関節） 【到達目標】足関節部の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】足関節の機能解剖を述べることができる。</p> <p>2回目 足関節のテーピングと運動療法の実践Ⅰ 【到達目標】基本的な足関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】足関節に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>3回目 足関節のテーピングと運動療法の実践Ⅱ 【到達目標】応用的な足関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】足関節周囲に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>4回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足部） 【到達目標】足部の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】足部の機能解剖を述べることができる。</p> <p>5回目 足部のテーピングと運動療法の実践 【到達目標】足部のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】足部に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>6回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（膝関節） 【到達目標】膝関節の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】膝関節の機能解剖を述べることができる。</p> <p>7回目 膝関節のテーピングと運動療法の実践（膝関節Ⅰ） 【到達目標】基本的な膝関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】膝関節に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>8回目 膝関節のテーピングと運動療法の実践（膝関節Ⅱ） 【到達目標】応用的な膝関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】膝関節周囲に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>9回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（大腿部・腰） 【到達目標】大腿部・腰部の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】大腿部・腰部の機能解剖を述べることができる。</p> <p>10回目 大腿部・腰部のテーピングと運動療法の実践 【到達目標】大腿部・腰部のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】大腿部・腰部に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>11回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（肘部・手関節） 【到達目標】肘部・手関節の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】肘部・手関節の機能解剖を述べることができる。</p> <p>12回目 肘部・手関節のテーピングと運動療法の実践 【到達目標】肘部・手関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】肘部・手関節に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>13回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（肩関節・他） 【到達目標】肩関節の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】肩関節の機能解剖を述べることができる。</p> <p>14回目 肩関節のテーピングと運動療法の実践 【到達目標】肩関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】肩関節に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>15回目 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業時に配布する資料に授業内で理解出来ない部分を記載し、次の授業までに自習または教員に質問し、理解すること。また、[備考]を参考に次回授業で行われる各関節・周辺部位の機能解剖を理解しておくこと。（各回の予習および復習に必要な時間は1時間程度）

教科書	・授業配布資料
参考書	「競技者の外傷予防 第1版」：公益社団法人柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社 「THE TAPING」：著者 長尾淳彦、ニチバン（株） 「テーピングナビ」DVD：著者 長尾淳彦、（有）ラウンドフラット 「スポーツ・テーピング」：著者 長尾淳彦、池田書店 「柔整師のためのテーピングの理論と実践」：著者 長尾淳彦、からだサイエンス 「柔道整復師のための運動療法」：著者 長尾淳彦、からだサイエンス
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。（筆記試験50%、実技試験50%）
担当教員の基本情報	担当教員名 : 長尾 淳彦 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : a_nagao@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後（水曜のみ） 担当教員名 : 濱口 夏花 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : n_hamaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-3、○-1
	長尾 淳彦：接骨院での実務経験をもとに外傷・障害発生後の処置について授業をすすめる。 濱口 夏花：接骨院での実務経験をもとに外傷・障害発生後の処置について授業をすすめる。

講義科目名称： 最新はり・きゅう学

授業コード： 3S321

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
福田 文彦			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>最新はり・きゅう学は、基礎医学、臨床医学、基礎はり・きゅう学、臨床はり・きゅう学をさらに発展させる科目である。医学・医療、はり・きゅう学は日進月歩である。はり師・きゅう師養成施設卒業後は、これら日進月歩の最新の知見を自ら収集し、自ら理解する力が必要である。</p> <p>はり師・きゅう師に必要な最新の知見は、動物・ヒトを対象とした基礎研究、症例報告、症例集積、比較試験など臨床研究、論文をさらに分析したメタナリシス、予防・診断・治療・予後予測などまとめ診療ガイドラインがある。</p> <p>本授業では、最新のはり・きゅう学を学ぶことにより、現時点でのはり・きゅうのエビデンスを理解するとともに最新の知見を理解することは生涯必要であることを理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 最新の知見を学ぶとは</p> <p>第2回 トランスレーショナルリサーチ：自律神経</p> <p>第3回 トランスレーショナルリサーチ：疼痛</p> <p>第4回 最新の臨床研究を知る</p> <p>第5回 患者教育を考える：プラセボ効果・信頼関係</p> <p>第6回 新たな領域を考える：慢性疼痛</p> <p>第7回 新たな領域を考える：養生と鍼灸治療</p> <p>第8回 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業中に習得した内容について、授業毎に1時間程度の復習を行うこと。
教科書	配布する資料を中心に授業を行う。
参考書	配布する資料を中心に授業を行う。
成績評価	授業の3/5以上の出席日数を満たした者を対象としてレポート提出を認める。 レポートは60点以上を合格とする。
担当教員の基本情報	授業の3/5以上の出席日数を満たした者を対象としてレポート提出を認める。 レポートは、60点以上を合格とする。
備考	DP：◎3関心・意欲、○2思考・判断

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 2S427

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	4	必修
担当教員			
伊藤和憲 他			
配当学科：鍼灸学科	時間数：120時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	各教員につき、興味がある研究テーマについて研究を行う。 なお、ゼミの詳細は別紙配布資料参照。
授業計画	1-14回 各セミにより異なる。 担当教員に確認のこと
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各教員に確認すること
教科書	各教員に確認すること
参考書	各教員に確認すること
成績評価	各教員により確認すること
担当教員の基本情報	各教員に確認すること
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2, ○-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
小野 直哉			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態（遠隔）：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>統合医療とは、近代西洋医療と共に伝統医療や相補・代替医療を併用する医療として、2000年前後に米国で提唱された医療である。統合医療は、近代西洋医療のパラダイム（枠組）や成果を重視しつつも、それを同時に相対化し、人間の尊厳を保障するために、患者を含む生活者の疾病治療や予防、健康増進を支援し、持続可能な社会に於けるエコロジカル（環境に優しい）で、エコノミカル（経済的）で、エシカル（倫理的）なエコ・ヘルス・ケアを実現するための医療や社会に於ける手段であり、且つ「考え方」（コンセプト）であり、未来へ向けた過渡期の医療及び社会的機能概念であり、各国によって多様である。統合医療には、狭義の統合医療である「医療モデル」と広義の統合医療である「社会モデル」がある。「医療モデル」は、主として病院や診療所での、患者を中心とした疾病の治療が目的である。「社会（生活）モデル」は、主として日常生活の場での、生活者を中心とした疾病予防や健康増進が目的である。「医療モデル」と「社会（生活）モデル」は、補完し合いながら有機的な繋がりの中で機能し、患者を含めた生活者を癒し、人間の尊厳を保障し、地域コミュニティや経済・産業の活性化に寄与するとされている。</p> <p>本授業では、統合医療を理解するために必要な学問分野、統合医療が台頭してきた社会背景、統合医療を構成する近代西洋医療と伝統医療や相補・代替医療の特徴、統合医療の「医療モデル」と「社会モデル」、多職種連携による統合医療、統合医療に係る情報リテラシー（読み解き方）、災害時における統合医療の利活用、海外の統合医療の利活用等に付いて理解を深める。また、超少子高齢・人口減少・独身社会の日本では、患者の治療から生活者の支援へと、必要とされるニーズが変化し、医療と介護、福祉の境界を越えた社会保障の在り方が必要となっている。それらを解決する手がかりを統合医療を通じて提供することも本授業の目的である。</p>
授業計画	<p>第1講 インTRODクシヨン：統合医療と学問分野 【到達目標】 ①本授業全体の進め方を把握し、本授業において統合医療とはどのような医療なのかを理解するために必要な学問（学術・科学）の種類（人文科学・社会科学・自然科学）、学術的方法論（定量的・定性的研究等）の概要を理解する。 ②鍼灸師として、統合医療を志向する際に必要となる学問の意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第2講 統合医療と社会背景 【到達目標】 ①統合医療が台頭してきた背景となる社会と医療の過去・現在・未来の変化を社会科学的データ（人口動態等）を基に把握し、国内外の社会の変化に伴う医療ニーズの変化と違いを把握し、理解する。 ②鍼灸師として、統合医療を学ぶに当たり、鍼灸師が置かれている社会と医療の現状を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第3講 近代西洋医療の特徴 【到達目標】 ①統合医療の一部を構成する近代西洋医療とはどのような医療なのか、その特徴を理解する。 ②鍼灸師として、統合医療の一部を構成する近代西洋医療を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第4講 伝統医療と相補（補完）・代替医療の特徴 【到達目標】 ①統合医療の一部を構成する伝統医療と相補（補完）・代替医療とはどのような医療なのか、その特徴を理解する。 ②鍼灸師として、統合医療の一部を構成する伝統医療と相補（補完）・代替医療を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第5講 統合医療の特徴 【到達目標】 ①近代西洋医療と伝統医療や相補（補完）・代替医療で構成される統合医療とはどのような医療なのか、その特徴を理解する。 ②鍼灸師として、統合医療を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第6講 「医療モデル」としての統合医療 【到達目標】 ①狭義の統合医療である「医療モデル」とはどのようなモデルなのか、その特徴を理解する。 ②鍼灸師として、「医療モデル」としての統合医療を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第7講 「社会モデル」としての統合医療 【到達目標】 ①広義の統合医療である「社会モデル」とはどのようなモデルなのか、その特徴を理解する。 ②鍼灸師として、「社会モデル」としての統合医療を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第8講 多職種連携と統合医療 【到達目標】 ①統合医療の実践（臨床や社会実装）で必要不可欠な多職種連携の課題（信念対立など）を理解</p>

	<p>する。 ②鍼灸師として、多職種連携による統合医療を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>災害と統合医療 【到達目標】 ①統合医療の実践（臨床や社会実装）として、災害時の統合医療の利活用の状況と課題を、国内外の事例を交え理解する。 ②鍼灸師として、災害時の統合医療の利活用の意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第10講 統合医療の情報リテラシー 【到達目標】 ①統合医療の情報を読み解く（リテラシー）ために必要な、学術・メディア・インターネットの情報を批判的吟味するための基礎知識を理解する。 ②鍼灸師に必要な「根拠に基づく医療」（EBM）と「物語りと対話に基づく医療」（NBM）等に繋がる基礎知識を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第11講 統合医療の海外事例①米国 【到達目標】 ①米国における統合医療の利活用を通じて、統合医療の実践（臨床や社会実装）や調査研究状況を理解する。 ②鍼灸師として、米国における統合医療の利活用を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第12講 統合医療の海外事例②アジア諸国 【到達目標】 ①アジア諸国における統合医療の利活用を通じて、統合医療の実践（臨床や社会実装）や調査研究状況を理解する。 ②鍼灸師として、アジア諸国における統合医療の利活用を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第13講 統合医療の海外事例③キューバ 【到達目標】 ①キューバにおける統合医療の利活用を通じて、統合医療の実践（臨床や社会実装）や調査研究状況を理解する。 ②鍼灸師として、キューバにおける統合医療の利活用を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第14講 持続可能な社会と統合医療：総括・質疑応答 【到達目標】 ①持続可能な社会における統合医療の意義と可能性を理解し、本授業全体を通しての総括と質疑応答を行う。 ②鍼灸師として、持続可能な社会における統合医療と統合医療における鍼灸の意義と可能性を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p>
<p>授業時間外の学習（準備学習等）について</p>	<p>プリント配布をしますので、授業の事前事後に一読して受講して下さい。 受講生の人数や授業形式（対面やリモートなど）による授業の進捗状況により、授業内容や講義の順番を調整する場合があります。</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習適時）し、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習適時）。</p>
<p>教科書</p>	<p>プリント教材</p>
<p>参考書</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 長谷川敏彦. 「変わる人生・社会・ケア—研究実験国家日本の挑戦」, 『講座スピリチュアル学 第2巻 スピリチュアリティと医療・健康』, ビイグネットプレス, 2014. 2. 小野直哉. 「健康を取り巻く世界と日本の諸問題」, 社会鍼灸学研究 2015, 通巻10号, 2016. 3. 広井良典. 「人口減少社会のデザイン」, 東洋経済新報社, 2019. 4. 広井良典. 「ポスト資本主義—科学・人間・社会の未来—」, 岩波書店, 2015. 5. 小野直哉. 「世界の統合医療の現状②—欧米諸国（米国, 英国, フランス, ドイツ, スウェーデン）—」, 鍼灸OSAKA, 108号, Vol. 28-4, pp 81-90, 2013. 3. 6. 小野直哉. 「世界の統合医療の現状①—アジア諸国とキューバ」, 鍼灸OSAKA, 通巻104号, Vol. 27-4, pp 49-66, 2012. 3. 7. 「社会鍼灸学と鍼灸社会学」, 鍼灸OSAKA 118号, 森ノ宮医療学園出版部, 2015. 8. 中山健夫. 「健康・医療の情報を読み解く 第2版 健康情報学への招待」, 丸善出版, 2014 9. 小野直哉. 「第1部 総論Ⅲ 世界の統合医療の現状」, 『医学・看護・福祉原論』, ビイグ・ネット・プレス, 2019. 10. 諫山憲司, 小野直哉, 柴山慧. 「持続的かつレジリエントな社会へ向けてわが国の災害医療対策」, 日本集団災害医学会誌, 2016. 11. 岡本拓也. 「わかりやすい構造構成理論—緩和ケアの本質を解く」, 青海社, 2012. 12. 京極真. 「医療関係者のための信念対立解明アプローチ: コミュニケーション・スキル入門」, 誠信書房, 2011. 13. 猪飼周平. 「病院の世紀の理論」, 有斐閣, 2010. 14. NHKスペシャル「新・映像の世紀」(DVD or Blu-ray), NHKエンタープライズ, 2016. 15. NHKスペシャル「映像の世紀」デジタルリマスター版 (DVD or Blu-ray), NHKエンタープライズ, 2016.
<p>成績評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 出席（出席レポート：各講義内容のまとめ・感想・質問）状況、最終評価レポートの内容により評価する。 ② 出席（出席レポート：各講義内容のまとめ・感想・質問）日数6割以上を最終評価レポート提出資格とする。 ③ 事情により、最終評価レポート提出資格を満たせない場合は、教務を通じて、事前に講師に相談すること。 ④ 最終評価レポートの評価は、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 ⑤ 最終評価レポートの評価が60点以下の者は、追再試験を実施する。
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 小野直哉(非常勤講師) 研究室 : 非常勤講師控室 メールアドレス : 708ono@gmail.com オフィスアワー : 当日の講義終了後</p>

備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義・オンライン	
添付ファイル			

授業目標	健康とは何かという視点から人の身体を見つめ直すと共に、健康管理に必要なセルフケアやセルフコンディショニングを東洋医学の健康観であると養生と絡めながら学習する。特に、セルフケアやセルフコンディショニングは統合医療の領域と重なることも多く、統合医療の視点を取り入れた新しい健康管理としての養生を習得するとともに、近年注目されているウェアラブルデバイスを用いた健康管理など、未来型の健康管理を学習することを目的とする。
授業計画	<p>概論1 健康とは？ 健康とは何かについて考えると共に、その健康をどのように測定するのかについて考える。また、自分自身の健康状態を測定する</p> <p>概論2 西洋医学的な予防と東洋医学的な養生 予防と養生の違いについて理解すると共に、養生に必要な5要素について学ぶ</p> <p>概論3 自分の身体を知ろう 自分の身体のアプリ「YOMOGI」で調べて、評価をしよう。また、その結果を見踏まえて、自己分析をし、それぞれの項目の意味を考えてみよう。</p> <p>概論4 未病状態を知るための検査を知ろう 未病状態をするための検査として、どのようなものがあるのかを調べ、その検査の意味について医学的に考えてみよう。</p> <p>概論5 体調管理のこれから アプリやウェアラブルデバイスを用いた体調管理法について学び、その意味についてレポートにまとめてみよう。</p> <p>概論6 緩める ストレッチ、マッサージ、アロマセラピー、ハーブ、温泉療法、森林浴などの身体を緩めるためのケアを学び、その違いについてレポートにまとめてみよう。</p> <p>概論7 温める お風呂やお灸、カイロなど温めるための方法を調べ、その違いについてレポートにまとめてみよう。</p> <p>概論8 整える 睡眠リズム、便通リズム、生活リズムなど、リズムを整える方法を学び、その違いについてレポートにまとめてみよう。</p> <p>概論9 補う 食事や栄養、思考など、補う方法を学び、その違いについてレポートにまとめてみよう。</p> <p>概論10 鍛える 太極拳・ヨガ・気功・ホメオパシーなど、運動系やその他に分類される統合医療について概要を学ぶと共に、レポートにまとめよう。</p> <p>概論11 季節を意識した養生生活1 春と夏の季節の特徴をまとめ、その季節に必要な養生について学ぶとともに、レポートにまとめよう。</p> <p>概論12 季節を意識した養生生活2 秋と冬の季節の特徴をまとめ、その季節に必要な養生について学ぶとともに、レポートにまとめよう。</p> <p>概論13 健康と養生1 健康を広めるにはどのような取り組みが必要かを考える。 特に健康スポーツやボランティア活動の役割を考える。</p> <p>概論14 健康と養生2 健康を広めるためには、近代技術をどのように活用するのかを考える。 特に</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	プリント配布をします。 また、参加型の講義を実施しますので、能動的に取り組んで下さい。
教科書	プリント教材
参考書	「慢性痛は自分で治せる」伊藤和憲 KKベストセラーズ 「いたばんやさしい痛みの治療がわかる本」医道の日本 「統合医療」今西二郎 Kinpodo
成績評価	受動的な講義形式と、学生自らが調査・発表・討論を行う講義の2つからなる。 出席日数は、3/5以上を受験資格とする。 レポートと出席で評価し、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 なお、レポート評価(70%)、出席および平常評価(30%)とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 伊藤和憲 研究室 : 鍼灸センター2F 教授室

	メールアドレス : k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (統合医療センター出向のため、火・水・金曜日以外) 職務履歴 : 鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。
備考	DPとの関係 : 3 : 関心意欲-◎

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	3	必修
担当教員			
田口辰樹 岡田岬 澤谷友香理			
配当学科：鍼灸学科	時間数：90時間	授業形態：講義・演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>目的 本演習は、はり師きゅう師の国家試験に合格するだけでなく、将来はり師きゅう師として、あるいは医療の専門家として、患者の悩みや社会の医療健康課題に対して貢献できる人材になるために必要な問題解決能力を身につけることを目的としています。</p> <p>目標 1. 人体の構造と機能を理解すること 2. 構造と機能の知識を疾病の成り立ち（病態）に活かせる能力を身につけること 3. 効果的な学習の進め方に関する知識と学習習慣を身につけること</p>
授業計画	<p>第1・2回 第1回模擬試験（4月6日） 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 【授業形態】 模擬試験</p> <p>第3・4回 第1回模擬試験解説 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 3. 現在の到達レベルを知り、自らの得意分野と不得意とこれからの対策を練る。 【授業形態】 模擬試験の結果に基づきフィードバックを行う</p> <p>第5・6回 東洋医学概論（担当：田口） 【到達目標】 1. 陰陽・五行学説を理解し説明することが出来る 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第7・8回 経絡経穴学①（担当：岡田） 【到達目標】 経絡の概要と骨度法を説明することが出来る。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第9・10回 病理学①（担当：澤谷） 【到達目標】 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第11・12回 第2回模擬試験（5月20日） 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 【授業形態】 模擬試験</p> <p>第13・14回 第2回模擬試験解説（担当：田口） 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 3. 現在の到達レベルを知り、自らの得意分野と不得意とこれからの対策を練る。 【授業形態】 模擬試験の結果に基づきフィードバックを行う</p> <p>第15・16回 病理学②（担当：澤谷） 【到達目標】 1. 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第17・18回 経絡経穴学②（担当：岡田） 【到達目標】 要穴とその取穴法を説明することが出来る。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p>

第19・20回	<p>病理学③ (担当：澤谷)</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p>
第21・22回	<p>経絡経穴学③ (担当：岡田)</p> <p>【到達目標】 胸腹部・背部・四肢の経穴を説明することが出来る。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p>
第23・24回	<p>病理学④ (担当：澤谷)</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p>
第25・26回	<p>衛生学・公衆衛生学 (担当：糸井マナミ)</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p>
第27・28回	<p>第3回模擬試験 (7月15日)</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。</p> <p>【授業形態】 模擬試験</p>
第29・30回	<p>第3回模擬試験解説 (担当：田口)</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 3. 現在の到達レベルを知り、自らの得意分野と不得意とこれからの対策を練る。</p> <p>【授業形態】 模擬試験の結果に基づきフィードバックを行う</p>
第31・32回	<p>衛生学・公衆衛生学</p> <p>詳細が確定し次第、速やかに提示予定。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p>
第33・34回	<p>第4回模擬試験 (9月16日)</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。</p> <p>【授業形態】 模擬試験</p>
第35・36回	<p>第4回模擬試験解説 (担当：田口)</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 3. 現在の到達レベルを知り、自らの得意分野と不得意とこれからの対策を練る。</p> <p>【授業形態】 模擬試験の結果に基づきフィードバックを行う</p>
第37・38回	<p>はり・きゅう理論 (田口玲)</p> <p>詳細が確定し次第、速やかに提示予定。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p>
第39・40回	<p>はり・きゅう理論 (田口玲)</p> <p>詳細が確定し次第、速やかに提示予定。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p>
第41・42回	<p>経絡経穴学 (岡田)</p> <p>詳細が確定し次第、速やかに提示予定。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p>
第43・44回	<p>経絡経穴学 (岡田)</p> <p>詳細が確定し次第、速やかに提示予定。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p>
第45・46回	<p>リハビリテーション医学</p> <p>詳細が確定し次第、速やかに提示予定。</p> <p>【授業形態】</p>

	<p>問題演習とフィードバック 第47・48回 総合基礎（田口） 詳細が確定し次第、速やかに提示予定。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック 第49・50回 第5回模擬試験（11月13日、東洋療法学校協会模擬試験） 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。</p> <p>【授業形態】 模擬試験 第51・52 総合基礎（田口） 詳細が確定し次第、速やかに提示予定。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック 第53・54回 総合応用（谷口） 詳細が確定し次第、速やかに提示予定。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック 第55・56回 第5回模擬試験解説（担当：田口） 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 3. 現在の到達レベルを知り、自らの得意分野と不得意とこれからの対策を練る。</p> <p>【授業形態】 模擬試験の結果に基づきフィードバックを行う 第57・58回 総合応用（谷口） 詳細が確定し次第、速やかに提示予定。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック 第59・60回 期末試験</p>
<p>授業時間外の学習 （準備学習等）に ついて</p>	<p>授業に臨むマナーとして、授業計画を参考に自学自習を行なってください。 事前学習（予習 所要時間35分） 授業内容に関連する領域の教科書を読む。 事後学習（復習 所要時間35分） 1. ここからプリントを用いて、知識を整理する。 2. 過去の国家試験問題を解き、傾向と対策を練る。</p>
<p>教科書</p>	<p>「鍼灸医学演習テキスト」（上下巻）2021 明治東洋医学院専門学校 3,000円</p>
<p>参考書</p>	<p>公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 1. 解剖学 2. 生理学 3. 臨床医学総論 4. 臨床医学各論 5. 東洋医学概論 6. 経絡経穴概論 7. 東洋医学臨床論</p> <p>「病気がみえる」 医療情報科学研究所編 株式会社メディックメディア 平成29年6月発行 Vol.1 消化器 Vol.2 循環器 Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 Vol.4 呼吸器 Vol.5 血液 Vol.6 免疫・膠原病・感染症 Vol.7 脳・神経 Vol.8 腎・泌尿器 Vol.9 婦人科・乳腺外科 Vol.11 運動器・整形外科 Vol.12 眼科</p>
<p>成績評価</p>	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5以上の出席者に対し、評価を実施します。</p> <p>【評価】 1. 国家試験対策模擬試験 : 計5回実施し、全てを必須受験とする。 2. 期末試験（100%） : 期末試験として後期末に評価試験を実施する。 3. 追再試験 : 期末試験に不合格となった者、あるいは期末試験を受験しなかった者に実施する。</p> <p>【評価基準】 計5回実施される模擬試験を全て受験して期末試験の評価点が60%以上取得出来た者に対して単位を評価する。</p>

<p>担当教員の基本情報</p>	<p> 教員名 : 田口 辰樹 所属先 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先 : t_taguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として17時30分～(ただし金曜日を除く) </p> <p> 教員名 : 岡田 岬 所属先 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先 : m_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として17時30分～ </p> <p> 教員名 : 澤谷 友香理 所属先 : 附属病院2階病理部 連絡先 : y_kotani@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00 </p>
<p>備考</p>	<p>1. 実務経験</p> <p> 田口 辰樹：はり師きゅう師、鍼灸学（博士） 臨床歴25年 岡田 岬：はり師きゅう師、鍼灸学（博士） 臨床歴10年 明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに指導を行う。 </p> <p> 澤谷 友香理：臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学） 市中病院勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験を活かし本授業の講義を行う。 </p> <p>2. ディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
浅沼 博司			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	生活習慣病への対策は現在重要な課題のひとつである。本科目では、生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について学習する。学習目標は、将来臨床で活躍するための臨床感覚と資格試験に必要な知識の習得である。
授業計画	<p>1回目 生活習慣病概論 生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>2回目 高血圧 高血圧の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>3回目 脂質異常症 脂質異常症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>4回目 慢性腎臓病（CKD） 慢性腎臓病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>5回目 糖尿病 糖尿病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>6回目 メタボリック症候群 メタボリック症候群の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>7回目 高尿酸血症および期末試験 高尿酸血症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う） 単位取得にかかる試験を実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義時間中に知識の習得、定着を目指す点不明な点は参考書での復習や教員に質問するように。講義で学修した内容をまとめて下さい（予習90分、復習90分）。
教科書	特に指定の教科書はない。
参考書	特に指定の参考書はない。
成績評価	学期末に試験を行い評価する。評価方法（試験100%）。 私語は厳に慎むこと。
担当教員の基本情報	担当教員名：浅沼博司 役職：内科学講座教授、附属病院 副病院長（併）内科部長 教授室：病院2階 オフィスアワー：火曜午後 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp
備考	大阪大学医学部附属病院(循環器内科学教室)、近畿大学医学部附属病院(救急医学教室)、京都府立医科大学附属病院(循環器・腎臓病内科学教室)での勤務を経て、現在、明治国際医療大学附属病院に勤務し、各病院で内科および循環器内科の診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに「生活習慣病とその予防」について授業をすすめる。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	実技（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、健康運動実践指導者の資格取得を目標とする。エアロビックダンスは、若い人を中心に子どもから高齢者まで幅広い層が楽しめる健康づくり運動として人気である。エアロビックダンスの特性を理解した上で、エアロビックダンスの基本的な技術を習得し、リズムに乗って仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として実践を中心とした授業を展開する。また、グループ指導能力の修得を通し、人間性と教養を身に付け医療人に求められているコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。さらに、自身のからだを知り、健康に対して意識を高めることで健康維持と体力向上のための橋掛かりとなることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解できる。 [授業形態] 講義と実習 エアロビックダンスとは何か事前に調べ（予習35分）、本時内容をまとめる（復習35分）。</p> <p>第2講 エアロビックダンスの特性と効果 [到達目標] リズミカルな全身運動の構成ポイントについて理解し、課題運動ができるようになる。 [授業形態] 講義と実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第3講 エアロビックダンスの基本姿勢と動作 [到達目標] エアロビックダンスの基本姿勢やテンポ、動作を習得できる。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第4講 基本：ローインパクト① [到達目標] 64カウントの規定ルーティーンができるようになる。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第5講 基本：ローインパクト② [到達目標] 基本姿勢でウォームアップの目的と内容（ステップ名）の説明を習得できる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第6講 基本：ローインパクト③ [到達目標] メインエクササイズの目的、強度調整、プログラミングを習得できる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第7講 基本：ローインパクト④ [到達目標] 筋コンデショニングの目的、内容を習得できる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第8講 基本：ローインパクト⑤ [到達目標] クールダウンの目的、内容、プログラミングを習得できる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第9講 チームエアロビックダンス① [到達目標] グループワーク練習で規定の課題運動ができる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第10講 チームエアロビックダンス② [到達目標] 64カウントの規定ルーティーンのカンパニオン方法を習得できる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第11講 チームエアロビックダンス③ [到達目標] グループワークでルーティーン練習ができる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第12講 応用：プログラム作成① [到達目標] グループ練習でコンビネーション作成ができる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第13講 応用：プログラム作成② [到達目標] エアロビックダンスにおける心拍数とステップの関係を理解できる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第14講 グループ指導</p>

	<p>[到達目標] (実習のまとめ)。 第1講～第13講を 総括した 実践指導ができるようになる。</p> <p>[授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>実習内容を事前学習し (予習35分)、実習で体得した内容を図解でまとめる (復習35分)。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	資料を集め、エアロビックダンスの要点をまとめた自分のハンドブックを作成する。 プログラム作成後は、それに基づいた指導練習を行う。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」 (公財) 健康・体力づくり事業財団
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席 (欠席は2回まで可とする)。 実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度 (探究心の総合評価) 30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 服装は、運動に適した服装、屋内シューズ。
	② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。
	③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連 : ◎-3。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
堀 歩未			
配当学科：鍼灸学部 鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	サッカーの基礎技術を身につけ、戦術やルールを理解し、安全に配慮しながらゲームができることを目標とする。 実習前半では、基礎技術を身につけ共通の戦術理解をはかるため全体での練習を行う。 後半は、チームごとのグループワークにおいて、個人及びチームの技術・戦術を向上させる練習を考え、試合の中で実践していくこととする。
授業計画	<p>第1講 ガイダンス，基本技術の確認①（ボールマスタリング、キック、トラップ、ドリブル、ターン） [到達目標] 授業のすすめ方について理解する／ボールマスタリング、キック、トラップ、ドリブル、ターン等の基礎的なボール操作・動作を理解し習得する。</p> <p>第2講 基本技術の確認②（キック、トラップ、ドリブル、ターン、パス） チーム編成、ルール設定・理解、試しのゲーム [到達目標] ボールマスタリング、キック、トラップ、ドリブル、ターン等の基礎的なボール操作・動作を理解し習得する。 ルールを理解し、ゲームの中で基礎技術を発揮する。</p> <p>第3講 パス及びパスワーク、チーム練習 [到達目標] パスの技術とそれに伴う個人戦術を理解し習得する。</p> <p>第4講 攻撃の技術と戦術、チーム練習 [到達目標] 攻撃の戦術（ポゼッション、ダイレクトプレー、速攻と遅攻等）を理解する。 局面を打開する技術と戦術（ドリブル、スルーパス、ワンツー等）を理解する。</p> <p>第5講 守備の戦術、守備の技術、チーム練習 [到達目標] 守備の戦術（プレスとリトリート、トランジション等）を理解する。 守備の技術と戦術（マークの方法、ボールの奪い方等）を理解する。</p> <p>第6講 前期リーグ戦① [到達目標] チーム戦術を考え実践する。 チームの成果と課題を出し合い、課題解決の練習を考える。</p> <p>第7講 練習、練習試合 [到達目標] チームの成果と課題を確認し、課題解決の練習を考え実践する。</p> <p>第8講 前期リーグ戦② [到達目標] チーム戦術を考え実践する。 チームの成果と課題を確認し、チームとしてのまとめをする。</p> <p>第9講 チーム再編成、ルール設定・理解 チーム練習、練習試合 [到達目標] チーム戦術を考え試合に向けての練習を行う。</p> <p>第10講 後期リーグ戦① [到達目標] チームの成果と課題を確認し、課題解決の練習を考え実践する。</p> <p>第11講 練習、練習試合 [到達目標] チームの成果と課題を確認し、課題解決の練習を考え実践する。</p> <p>第12講 後期リーグ戦② [到達目標] チーム戦術を考え試合の中で実践する。 チームの成果と課題を出し合い、課題解決の練習を考える。</p> <p>第13講 練習、練習試合 [到達目標] チームの成果と課題を確認し、課題解決の練習を考え実践する。</p> <p>第14講 後期リーグ戦③、まとめ [到達目標] チーム戦術を考え試合の中で実践する。 チームの成果と課題を確認し、チームとしてのまとめをする。 授業の振り返り・まとめをする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業終了後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前に予習を行うこと（予習30分）。また、実技で学修した内容をまとめてください（復習30分）。

教科書	指定しない。
参考書	指定しない。
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席（欠席は2回まで可とする）。 実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 堀 歩未 メールアドレス : a_hori@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後に受け付ける
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・チームごとにグループワークを行い、実習カード（戦術・成果・課題等）を記入し提出する。 ・ケガ防止・安全管理の観点から、長い爪やピアス・指輪・ネックレス等の装飾品を着けての受講は認めない。 また、肩より長い髪は束ねた上で参加すること。 ・運動に適した服装・屋内シューズを着用すること。 ・水筒（水分）等を持参し、適宜水分摂取する等の自己管理を行うこと。
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-3, ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義・対面	
添付ファイル			

授業目標	「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）の言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともに スポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する知識と理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1講 トレーニング概論 [到達目標] 骨と関節、筋の概略、脚・腕・体幹の構造など身体の基礎知識を理解する。 予習：シラバスに目を通しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>第2講 体力の概念と体力要素 [到達目標] 体力とは何か？筋肉の役割と能力。スポーツにおけるパワーの定義を理解する。 予習：スポーツにおけるパワーの定義を調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>第3講 トレーニングの原理・原則 [到達目標] 原理・原則を学習することにより、トレーニングの意味と目的を理解する。 予習：トレーニングの原理・原則を調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>第4講 ウォーミングアップとクーリングダウン [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解する。 予習：ウォーミングアップ・クーリングダウンについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>第5講 トレーニングの種類 [到達目標] 競技力を向上させるための体力要素別トレーニングを理解する。 予習：体力要素別トレーニングについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>第6講 全身持久力について [到達目標] 全身持久力の鍵となるのは酸素摂取能力である。呼吸循環器系能力と代謝能力について学習し、負荷パターンによるトレーニングの分類を理解する。 予習：全身持久力・酸素摂取能力・呼吸循環器・代謝能力について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>第7講 筋持久力トレーニングについて [到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングを理解する。 予習：筋持久力トレーニングについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>第8講 柔軟性・調整力を高めるトレーニングについて [到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントを理解する。 予習：柔軟性について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>第9講 筋力トレーニング（目的別強度の目安） [到達目標] 目的別トレーニング強度の目安を理解する。 予習：筋力トレーニングについて調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>第10講 筋力トレーニング（正しいトレーニングを実施するための負荷設定） [到達目標] 正しいトレーニングを実施するための負荷設定を理解する。 予習：筋力トレーニング・負荷設定について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>第11講 筋力トレーニング（効果的に行うための順序） [到達目標] 効果的に行うためのトレーニング順序を理解する。 予習：筋力トレーニングの順序について調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>第12講 トレーニングプログラムを作成するための要点① [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<①></p>

	<p>第13講</p> <p>予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分) トレーニングプログラムを作成するための要点②</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<②></p> <p>第14講</p> <p>予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分) トレーニングプログラムを作成するための要点③</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<③></p> <p>予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布資料の復習
教科書	授業毎に配布する資料をもとに実施。
参考書	特に指定なし。
成績評価	授業態度30% 期末テスト・小テスト70%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 6号館1階(非常勤講師室) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	DP「◎-3」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習・対面	
添付ファイル			

授業目標	「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）の言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともにスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する内容を運動・実践することにより学習することを目標とする。		
授業計画	第1講	<p>トレーニング実習を始めるために。</p> <p>[到達目標] 安全にトレーニングを実施するための知識を深め実践する。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。（35分）</p>	
	第2講	<p>体力の概念と体力要素</p> <p>[到達目標] 体力とは何か？筋肉の役割と能力。スポーツにおけるパワーの定義を理解するとともに実践する。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。（35分）</p>	
	第3講	<p>ウォーミングアップとクーリングダウン</p> <p>[到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解と実践。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。（35分）</p>	
	第4講	<p>トレーニングの考え方と工夫について</p> <p>[到達目標] 遊びからトレーニング、工夫から効果的なトレーニングへ結びつける。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。（35分）</p>	
	第5講	<p>柔軟性・調整力を高めるトレーニングについて</p> <p>[到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントの理解と実践。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。（35分）</p>	
	第6講	<p>全身持久力について</p> <p>[到達目標] 全身持久力の鍵となるのは酸素摂取能力である。呼吸循環器系能力と代謝能力について学習し、負荷パターンによるトレーニング分類の理解と実践。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。（35分）</p>	
	第7講	<p>筋持久力トレーニングについて</p> <p>[到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングの理解と実践。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。（35分）</p>	
	第8講	<p>トレーニングルームの安全な利用法</p> <p>[到達目標] トレーニング施設の安全管理と利用法の理解と実践。</p> <p>予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。（35分）</p>	
	第9講	<p>筋力トレーニング（目的別強度の目安）</p> <p>[到達目標] 目的別トレーニング強度の目安を理解する。 予習：筋力トレーニングについて調べておく。（35分）</p>	

	<p>第10講 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分) 筋力トレーニング(正しいトレーニングを実施するための負荷設定) [到達目標] 正しいトレーニングを実施するための負荷設定を理解する。</p> <p>第11講 予習:けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分) 筋力トレーニング(効果的に行うための順序) [到達目標] 効果的に行うためのトレーニング順序を理解する。</p> <p>第12講 予習:けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分) トレーニングプログラムを作成するための要点① [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<①></p> <p>第13講 予習:けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分) トレーニングプログラムを作成するための要点② [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<②></p> <p>第14講 予習:けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分) トレーニングプログラムを作成するための要点③ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<③></p> <p>予習:けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	配布資料の復習
教科書	授業毎に配布する資料をもとに実施。
参考書	特に指定なし。
成績評価	授業態度50% 小テスト30% 授業の貢献度20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 6号館1階(非常勤講師室) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	DP「◎-3」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	スポーツ全般に関する認識を深め、各世代におけるスポーツ技術向上への手順や方法を身につけ、将来、指導的立場となった場合には、各世代毎の各種の指導プログラムが作成できる資質を備えることを目標とする。		
授業計画	1回目	<p>スポーツとは：概念とその歴史について</p> <p>[到達目標] 「スポーツ」を正しく理解して指導に当たる重要性を認識させる。 予習：シラバスに目を通しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	2回目	<p>運動と健康</p> <p>[到達目標] 健康と運動実践、必要とされる指導者のあるべき姿を理解する。 予習：それぞれが「理想とする指導者像」を整理しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	3回目	<p>スポーツプログラマーの役割と、フィットネス・エクササイズ・体力等の基本的な理念について</p> <p>[到達目標] スポーツプログラマーとしての基本的な事項を正しく理解する。 予習：「スポーツプログラマー」の在り方を整理しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	4回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（1）</p> <p>[到達目標] 体力とは？体力の分類と各トレーニング実施上の留意事項を理解させる。 予習：「体力」区分とトレーニング法を整理しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	5回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（2）</p> <p>[到達目標] マシントレーニング、ヘルスエクササイズの目的や方法を理解する。 予習：「自分流トレーニング法」を作成しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	6回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（1）</p> <p>[到達目標] 体調のチェックの重要性・意義を理解する。 予習：体調チェックの具体的な内容を十分理解しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	7回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（2）</p> <p>[到達目標] 準備・整理運動の重要性とその効果や内容を理解する。 予習：フィットネス・エクササイズについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	8回目	<p>フィットネス・プログラムの実際（1）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる。＜子供1＞ 予習：子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	9回目	<p>フィットネスプログラムの実際（2）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる。＜子供2＞ 予習：子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	10回目	<p>フィットネスプログラムの実際（3）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる。＜中年＞＜高齢者1＞ 予習：中・高齢者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	11回目	<p>フィットネスプログラムの実際（4）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる。＜高齢者2＞＜女性1＞ 予習：女性のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	
	12回目	<p>フィットネスプログラムの実際（5）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる。＜女性2＞＜障がい者＞ 予習：障がい者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>	

	<p>13回目 スポーツ相談の実際 [到達目標] スポーツ相談の意義・留意点等を理解する。 予習:スポーツ相談の留意事項を調べておく。(35分) 復習: 授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p> <p>14回目 体力測定と評価 [到達目標] 体力測定の方法と結果処理、個々の体力の課題や対応法を知る。 予習:体力測定結果の処理方法を調べておく。(35分) 復習: 授業で経験したこと、ポイントを書きしておく。(35分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	テキストを中心として、「授業の内容等」に関連の深い以下の分野の本を読むこと ・発育発達学 ・運動生理学 ・身体運動学
教科書	財団法人 日本スポーツ協会；公認スポーツプログラマー専門科目テキスト
参考書	財団法人 日本スポーツ協会；公認スポーツ指導者養成テキスト（共通科目Ⅰ・Ⅱ） 宮下 充正 著；年齢に応じた運動のすすめくわかりやすい身体運動の科学＞
成績評価	出席状況や受講態度、試験により、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則（非常勤講師） オフィスアワー : 講義終了後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義・オンライン	
添付ファイル			

授業目標	本講義は、4年生に開設される卒業研究Ⅳに向けての準備段階の科目である。 具体的には、医療・健康・予防の未来を理解し、その中で鍼灸師に何ができるのかを考えることで、卒業後の未来を考える機会とする。また、卒業生が切り開いている未来を知り、自分たちの夢に落とし込むことで、自分の将来のビジョンを明確にするための時間とする。なお、シラバスの順番は入れ替わることもある。
授業計画	<p>1回目 医療・鍼灸の未来を考える 【到達目標】 これからの未来の医療で鍼灸師に何ができるのかを考えてみよう 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 Web授業</p> <p>2回目 健康・予防の未来を考える 【到達目標】 これからの未来の健康・予防で鍼灸師に何ができるのかを考えてみよう 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 Web授業</p> <p>3回目 自分の身体を知る 【到達目標】 自分の身体を知り、主観的な感覚と客観的な感覚の違いをまとめる 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 対面式授業</p> <p>4回目 最新の鍼灸や東洋医学に触れる① 【到達目標】 鍼灸や東洋医学に関する最新の研究や各領域の専門家に触れ、動向を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 関連学会への参加、研修会への参加、夜ゼミ等へ参加し、レポートを提出する。 今年度はWeb授業とする。</p> <p>5回目 最新の鍼灸や東洋医学に触れる② 【到達目標】 鍼灸や東洋医学に関する最新の研究や各領域の専門家に触れ、動向を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 関連学会への参加、研修会への参加、夜ゼミ等へ参加し、レポートを提出する。 今年度はWeb授業とする。</p> <p>6回目 最新の鍼灸や東洋医学に触れる③ 【到達目標】 鍼灸や東洋医学に関する最新の研究や各領域の専門家に触れ、動向を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 関連学会への参加、研修会への参加、夜ゼミ等へ参加し、レポートを提出する。 今年度はWeb授業とする。</p> <p>7回目 最新の鍼灸や東洋医学に触れる④ 【到達目標】 鍼灸や東洋医学に関する最新の研究や各領域の専門家に触れ、動向を理解する。 【授業形態】 アクティブラーニング 【備考】 関連学会への参加、研修会への参加、夜ゼミ等へ参加し、レポートを提出する。 今年度はWeb授業とする。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	鍼灸や東洋医学に関する書籍を読む。 鍼灸治療院の見学を積極的に行う。
教科書	なし
参考書	なし
成績評価	出席及びレポートにより評価(優・良・可・不可)する。
担当教員の基本情報	連絡先 研究室：鍼灸センター2F 教授室 メールアドレス：伊藤和憲 k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー・質問などがある際は、事前に上記メールで連絡をください。
備考	関連学会や研修会等は担当者が判断する。 参加する場合は事前に報告すること。 ディプロマポリシーとの関連 ③ 関心・意欲-○ ② 思考・判断-○
	DPとの関係 2：思考・判断-○ 3：関心・意欲-○

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義・オンライン	
添付ファイル			

授業目標	将来の夢を実現するために何が必要かを考え、夢をかなえるために必要な情報を整理・学習することができる。 特に、キャリアデザインの立て方、その各種必要な情報の整理、さらには就職等にあたり、履歴書の書き方、先方へのアポイントの取り方、面接の受け方、見学・面接後の対応が行えるようになる。 なお、この授業はアクティブラーニングで行う。
授業計画	<p>1回目 キャリアデザインって何？（討論） [到達目標] キャリデザインとは何かを理解し、自身の将来像を想像できる。 [備考] 自身の将来像を、夢と現実を考えながら想像してみる。</p> <p>2回目 医療を分析してみよう（討論） [到達目標] 医療の強みと弱みを分析をSWOT分析できる。 [備考] 医療の置かれている現状を考えてみる。</p> <p>3回目 鍼灸を分析してみよう（討論） [到達目標] 鍼灸の強みと弱みを分析をSWOT分析できる。 [備考] 鍼灸の置かれている現状を考えてみる。</p> <p>4回目 鍼灸をブランディングする（討論） [到達目標] 鍼灸治療のイメージをまとめ、鍼灸そのものをブランディングできる。 [備考] 鍼灸の強みや弱みを生かして、鍼灸をブランド化するためのアイデアを考える。</p> <p>5回目 未来の鍼灸を想像しよう（討論） [到達目標] IoTやAIなどこれからの技術について学ぶと共に、未来の鍼灸の可能性を知ることができる [備考] 将来を考えるきっかけとする。</p> <p>6回目 自己分析・他者分析 [到達目標] 自分自身を自己評価や他人評価することで客観的に観察できる。 [備考] 自分の長所や短所を知り、自分の将来を参考にする。</p> <p>7回目 キャリアデザインを再考しよう [到達目標] 理想の医療や鍼灸師、さらには自分増を知ったうえで、現段階での履歴書やキャリアプランを作成することができる。 [備考] 自分の理想の将来像を考えよう</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	それぞれのテーマについて30分程度関連の分野の書籍、資料、インターネットを調べ、知識を深めておく。 また、授業後は30分程度、授業を行った内容を復習し、質問があるときは次回の授業の際に行う。

教科書	PLCMET GUIDE 2020 (各自持参) 配布資料
参考書	「鍼灸マッサージ治療院開業ベーシックマニュアル」医道の日本 「大学生のためのキャリア講義」山本直人 インデックスコミュニケーション
成績評価	受動的な講義形式と、学生自らが調査・発表・討論を行う講義の2つからなる。 出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追再試験を実施する。 レポートと出席で評価し、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 なお、レポート評価とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 伊藤和憲 研究室 : 鍼灸センター2階教授室 メールアドレス : k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 質問等がある場合はメールの上、事前予約をお願いします。
備考	伊藤和憲：鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。 山崎翼：鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。
	DPとの関係： 3：関心・意欲-○ 4：態度・人間性-◎

講義科目名称： データ解析法

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
河合 裕子・村瀬 智一			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	コンピュータおよび表計算ソフトウェアを用いて、実験データなど多くの情報を整理し解析する手法を身につけることを目的とする。		
授業計画	第1回	<p>ガイダンスおよび表計算ソフトを用いた基本練習</p> <p>[到達目標]</p> <p>Google Classroomが利用できる オンラインストレージが利用できる 関数を使った計算を復習し、棒グラフを作成することができる キーボードショートカットを用いた操作を修得する</p> <p>[備考]</p> <p>課題提出あり</p>	
	第2回	<p>さまざまなグラフ①・散布図</p> <p>[到達目標]</p> <p>散布図を作成することができる 相関係数について説明できる 散布図や相関係数を使ってデータの特徴を表現できる</p> <p>[備考]</p> <p>課題提出あり</p>	
	第3回	<p>さまざまなグラフ②・度数分布</p> <p>[到達目標]</p> <p>度数の意味や使い方を理解する 絶対参照・相対参照について理解する 絶対参照・相対参照について、表計算ソフトにおける操作方法を修得する</p> <p>[備考]</p> <p>課題提出あり</p>	
	第4回	<p>さまざまなグラフ③・ヒストグラム</p> <p>[到達目標]</p> <p>ヒストグラムの示すデータの意味を理解する 関数を利用した場合分けを実施できる 結果を予測して利用する関数を工夫できる データを度数分布表およびヒストグラムとして表現することができる</p> <p>[備考]</p> <p>課題提出あり</p>	
	第5回	<p>関数の応用と図表の読み取り</p> <p>[到達目標]</p> <p>資料等に示される図表を正しく読み取り解釈できる 実用的な関数を使い、データ処理の省力化を体験する 関数を正しく活用することができる</p> <p>[備考]</p> <p>課題提出あり</p>	
	第6回	<p>復習と演習①</p> <p>[到達目標]</p> <p>学修した内容をもとに、独力でデータを統計的に解析できる PCおよびソフトウェア操作の基本的な操作をスムーズに行う事ができる 割合やデータの相関など、必要に応じたグラフを選択して作成することができる</p> <p>[備考]</p> <p>課題提出あり</p>	
	第7回	<p>中間試験・データまとめ方について</p> <p>[到達目標]</p> <p>記述統計と水系統計の違いを理解する データの視覚化の方法を理解する 適した解析方法を選択して提示された数値データを正確に処理し、グラフ等を用いて視覚的にレポートを作成できる</p>	
	第8回	<p>データの視覚化① 基本統計量(データの視覚化)</p> <p>[到達目標]</p> <p>1変数の</p>	
	第9回	<p>データの視覚化② 基本統計量(データのばらつき)</p> <p>[到達目標]</p> <p>1変数の</p>	
	第10回	<p>2変数のデータのまとめ方</p>	
	第11回	<p>外部データの取り扱い</p>	

	<p>第12回 大量データの集計・処理方法</p> <p>第13回 復習と演習②</p> <p>第14回 期末試験 [到達目標] 実験で得たデータの安全な取り扱い方と実験ノートの意義について理解する データ処理の必要性およびデータを活用するためのスキルについて考察する 適した解析方法を選択して提示された数値データを正確に処理し、グラフ等を用いて視覚的にレポートを作成できる</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義で利用するHPを参考にして、各講義で必要となる用語や操作手順をまとめておくこと（130分程度）。 ・復習：次回の講義開始時に実施する確認テストに解答できるようにしておくこと。特に講義内容および理解に時間を要した操作について復習を行い、躓きの解消とコンピュータスキルの獲得に努めること（130分程度）。 ・講義をやむを得ず欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認して演習問題に解答できるようにしておくこと。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	試験90%、課題10% 選択式および記述式の問題により、総合的にデータ処理能力の到達度を評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 〇村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:50</p> <p>担当教員名 : 渡邊 康晴 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:20-18:20</p>
備考	講義の資料、

講義科目名称： 医療情報学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
村瀬 智一・渡邊康晴			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義(オンデマンド形式)	
添付ファイル			

授業目標	『EBM(evidence-based Medicine)：根拠に基づく医療』が求められる現代、鍼灸師にとっての『医療情報』という言葉は「患者さんが病院で受けた検査結果」という他人事ではなく、日々の治療記録の蓄積が鍼灸治療の価値を更に高めるための貴重な財産です。本講義では、地域のチーム医療の一員として『医療情報』が指す言葉を理解するとともに、臨床の鍼灸師としての価値を高めるための『医療情報』や独立開業権を持つ経営者として知っておきたいIT関連知識の習得を目指します。		
授業計画	第1講	医療情報と鍼灸 [到達目標] 医療情報の概略を説明できる 鍼灸師が医療情報を扱う理由を説明できる [備考] 確認テストあり	
	第2講	医療情報システム [到達目標] チーム医療の一員として病院やクリニックで使用される医療情報システムの内容について説明できる [備考] 確認テストあり	
	第3講	個人情報保護法 [到達目標] 事業者や治療者として重要な個人情報の取り扱い方について説明できる [備考] 確認テストあり	
	第4講	医療情報システムの安全管理に関するガイドライン [到達目標] 医療情報システムの安全管理の考え方を説明できる [備考] 確認テストあり	
	第5講	医療情報の標準化、コード化 [到達目標] 医療情報の標準化とコード化の必要を説明できる [備考] 確認テストあり	
	第6講	鍼灸における医療情報の活用事例 [到達目標] 鍼灸分野で医療情報の収集が重要である理由を説明できる [備考] 確認テストあり	
	第7講	電子カルテ [到達目標] 電子カルテの必要条件を説明できる。自分が利用する立場になった場合の選択肢を考えられる [備考] 確認テストあり	
	第8講	IoTデバイスと今後の医療 [到達目標] IoTデバイスの利用方法や今後の医療応用について考えられる [備考] 確認テストあり	
	第9講	情報セキュリティ-攻撃方法 [到達目標] 情報セキュリティに関する悪意ある攻撃の内容を説明できる [備考] 確認テストあり	
	第10講	情報セキュリティ-防衛手段 [到達目標] 情報セキュリティに関する悪意ある攻撃に対する自衛手段を説明できる [備考] 確認テストあり	
	第11講	データベース [到達目標] データベースについて説明できる [備考]	

	<p>確認テストあり 第12講 Excel を利用したデータベース体験 [到達目標] Excel を使った簡易データベースの作り方を説明できる [備考] 確認テストあり 第13講 Google スプレッドシートを利用したデータベース体験 [到達目標] Google スプレッドシートの優位点を説明できる [備考] 確認テストあり 第14講 期末試験/クラウドサービスのメリット・デメリット 期末試験 [到達目標] クラウドサービスのメリット・デメリットを説明できる</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習：各科の講義までに、関連テーマに関する情報をインターネットなどを使って調べる (50分)。 復習：各科の講義で知り得た情報を整理する (50分)。
教科書	指定なし
参考書	適宜講義の中で紹介する。
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 期末試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員の基本情報 担当教員名 : ○ 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:50</p> <p>担当教員名 : 渡邊 康晴 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:20-18:20</p>
備考	<p>講義の資料、小テストや課題の提出およびフィードバックにはGoogle Classroomを利用する。 https://classroom.google.com</p> <p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-1, ○-3</p>

講義科目名称： 応急・救急法

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
坪倉 寛明			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	救急車到着前にバイスタンダーが応急処置を実施することは傷病者の救命率及び、機能予後の改善のためには重要である。 本授業では、傷病者に単に処置を実施できるようになるだけではなく、その処置が必要かどうかの判断、及び傷病の理解を深められることを目標とする。
授業計画	<p>1回 応急処置の必要性 [到達目標] 応急処置の必要性を理解する。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、誰もが実施可能な応急手当について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)</p> <p>2回 生命兆候・バイタルサインについて [到達目標] 基本的なバイタルサインについて理解し測定できる。 アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、バイタルサインの種類を調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)</p> <p>3回 心肺蘇生法（窒息の解除を含む） [到達目標] AEDを含む心肺蘇生法の必要性を理解し、正しく実施できる。 授業形態：アクティブラーニング有（心肺蘇生実施後フィードバックを行う） 予習：参考書・インターネット等を活用し、窒息の解除法、心配蘇生法について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)</p> <p>4回 心肺蘇生法実技試験とフィードバック [到達目標] AEDを含む心肺蘇生法の必要性を理解し、正しく実施できる。 授業形態：アクティブラーニング有（試験実施後フィードバックを行う） 予習：7回での講義・実技をもとに救急実習室において、先輩蘇生の訓練を行う。(30分) 復習：実技試験において指導を受けた内容を再度確認し訓練を実施する。(30分)</p> <p>5回 小児の応急処置（小児の心肺蘇生を含む） [到達目標] 小児の救急疾患について理解し、心肺蘇生が実施できる。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：参考書・インターネット等を活用し、小児特有の救急疾患について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)</p> <p>6回 出血・骨折の応急処置 [到達目標] 出血・骨折に対して、日用品を用いた止血・固定が実施できる。 授業形態：アクティブラーニング有（固定処置実施後、フィードバックを行う） 予習：参考書、インターネット等を活用し、止血方法・骨折時の固定方法について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)</p> <p>7回 筆記試験 問題と解説 [到達目標] 医療従事者として救急時に必要な知識を有し、応急手当を実施できることを目標とする。 授業形態：アクティブラーニング無 予習：これまで行った講義・実技のまとめを行う。(30分) 復習：筆記試験の問題を再度確認する。(30分)</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各種参考書もとに自主学習
教科書	特になし
参考書	よくわかるみんなの救急（大修館書店） 応急手当で標準テキスト（東京法令出版） JPTECガイドブック
成績評価	講義演習の4/5以上の出席 心肺蘇生法の合格 筆記試験60% 以上が成績評価の対象となる。 特に医療を学ぶものとしての授業態度等を総合的に評価する。

担当教員の基本情報	担当教員名 : 坪倉寛明 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : h_tsubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示
備考	坪倉寛明：消防士として現場経験37年、内救急救命士歴21年とJPTEC及びICLS、MCLSのインストラクター資格を有し、経験及び知識をもとに講義、実技を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関係 ◎-2

講義科目名称： 薬理学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
竹内 幸治・石原 安信			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

講義科目名称： 介護技術学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
河原 照子（他6名）			
鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義・演習	
添付ファイル			

授業目標	1) 対象者の日常生活を支える援助技術の基礎を理解することができる。 2) 対象者の身体状況を考慮した具体的な援助技術を体験することができる。
授業計画	<p>1回 ・ガイドダンス ・衣類着脱の介助 ・排泄の介助 ・緊急時の対応法 ・介護者の健康管理 1) 衣類着脱の介助、排泄の介助を体験する。 2) 事例を通して緊急時の対応を考える。 3) 介護者の健康管理について考える。</p> <p>2回 ・環境に関する基礎知識 ・病室環境とベッドメイキングの基本技術 ・感染予防の基礎知識 ・基本的な手洗い法 1) 快適な生活環境調整の必要性を理解し、ベッドメイキングの基本技術を体験する。 2) 感染予防の必要性を理解し、基本的な手洗い法を体験する。</p> <p>3回 ・介護を必要とする対象理解（高齢者・障害者体験） ・援助技術の基本（歩行介助・杖歩行・車いす介助・移乗） 1) 介護を必要とする対象を体験的に理解できる。 2) 援助技術の基本を体験し理解する。</p> <p>4回 ・コミュニケーション技術 1) コミュニケーションの取り方の基本がわかる。 2) 介護を必要とする人とのコミュニケーションの取り方がわかる。</p> <p>5回 ・栄養と食事に関する基礎知識 ・食生活援助における留意点 ・嚥下障害、視力障害を持つ人の食事介助 ・口腔ケア 1) 栄養と食生活に関する基礎知識を理解し、食事の援助技術を体験する。</p> <p>6回 ・介護の基本原則と心構え ・介護保険制度の概要 1) 介護の基本原則を理解し、心構えについて考えることができる。 2) 介護保険制度の概要が理解できる。 3) 社会資源・介護用品等について知ることができる。</p> <p>7回 ・安楽な姿勢 ・体位に関する基礎知識 ・ボディメカニクス概念 ・褥瘡について ・臥床者の体位変換・座位保持 1) 姿勢・体位に関する基礎知識を理解し、安全・安楽に向けての基本的な援助技術を体験する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	参考書等を参考に、各講義のタイトルに関連した内容について事前学習し、講義・演習で学修した内容をまとめてください。合わせて1時間程度。
教科書	授業時間中に資料を配布する。
参考書	「介護職員実務者研修テキスト 第4巻「生活支援技術I・II」介護職員実務者研修テキスト作成委員会編集（財）長寿社会開発センター
成績評価	・講義・演習態度：70点 ・課題レポート「高齢者や障害のある方への援助についての考察および社会資源の活用について」：30点 以上の合計点で評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：河原照子、東孝至、戸田一男、深田實江子、栗山真由美、扇田千代 担当教員名：河原照子（科目責任者） 研究室：10号館（看護学部棟）8階 804 メールアドレス：t_kawara@meiji-u.ac.jp
備考	・各教員は、臨床での看護師としての実務経験をもとに、介護技術の授業を進める。 ・単元は講義と学内演習連続で構成しているためジャージ着用で受講してください。 「この授業とディプロマポリシーとの関係」◎-3、○-4

講義科目名称： 画像診断学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
萬代 綾子・川村 茂・北村 真			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	運動器疾患の画像診断としては、単純X線写真が広く普及している。詳細な画像診断にはCT、MRIが用いられている。しかしながら、機器の価格、検査料ともに高額であり、検査の待ち時間の長さや被曝の問題から短期間での繰り返し検査ができないのが現状である。近年、著しい技術開発により超音波画像診断装置がデジタル化され、高周波プローブが出現したことによって、CT、MRIを上回る高分解能画像が簡便に得られるようになってきた。さらに、本機器の特徴であるリアルタイム性を応用することで、運動器の損傷状態、動態、血流、組織弾性の評価が可能となってきた。本講では、柔道整復領域に普及しつつある超音波画像診断の有用性について、他の画像（単純X線画像、MRI画像など）と対比しながら教授する。
授業計画	<p>第1回</p> <p>第2回 超音波画像診断装置の概要について [授業概要] 様々な外傷・障害を想定した関節評価法、エコー観察、徒手検査法、整復法、指導管理など実際の臨床現場で役立つ知識・技能を総合的に学習する。また、運動器外傷・障害のエコー画像について読影ポイントの学習を交え、より実践的な診察・治療技術の向上を目的とする。 [到達目標] 授業の概要について理解し実践できる。 シラバス記載事項の内容を理解し、実践できる。 [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>第3回 アクティブラーニング：有 運動器超音波画像観察法の実際① [授業概要] 肩関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。 [到達目標] 肩関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。 [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>第4回 アクティブラーニング：有 運動器超音波画像観察法の実際② [授業概要] 肘関節部に関する関節評価法、徒手検査法、エコー描出法・観察の要点、病態把握の要点を説明する。 [到達目標] 肘関節部のエコー観察の流れ（描出→観察→病態把握）を理解する。 [時間外学修の指示] 参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと（予習35分）。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること（復習35分）。</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	参考資料などを使用して、事前に与えられたテーマについて予習すること。予習・復習ノートを作成して学習した事項を管理すること。ノートの提出義務はありません。
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	担当教員名：○ 川村 茂 研究室：8号館4F講義室 メールアドレス：s_kawamura@meiji-u.ac.jp

	オフィスアワー：講義終了後
備考	参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと。 授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること。 ノートの提出義務はありませんが、チェックや指導を行う場合があります。
	本科目におけるDPの位置づけ ②思考・判断 - ◎

講義科目名称： 医療機関実習A

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	選択必修
担当教員			
角谷 英治・山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：90時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	医療機関（病院、診療所）における診察、検査、診断、治療、経過観察などについて臨床現場にて実習を行う。 本実習を通して、現代西洋医学的な診察や治療の流れについて理解を深めるとともに、最新の医療情報や技術についても学習する。 実習によって得た知識を、鍼灸臨床に活用できるようにすることを目標とする。
授業計画	1 ガイダンス 医療機関実習を行うにあたってのガイダンスを行う。 身なりや接遇、基本的な衛生操作などについて、改めて説明を行う。 2-30 主要な3つの診療科（内科・外科・整形外科）での実習 内科・外科・整形外科における外来診察において、臨床実習を行う。 医師の行う診察について、全体の流れ、検査、処方、治療、紹介などを学ぶ。 31-33 泌尿器科、耳鼻科、眼科での実習 泌尿器科、耳鼻科、眼科における外来診察において、臨床実習を行う。 医師の行う診察について、全体の流れ、検査、処方、治療、紹介などを学ぶ。 34-37 リハビリ、歯科、脳神経外科での実習 リハビリ、歯科、脳神経外科における外来診察において、臨床実習を行う。 医師の行う診察について、全体の流れ、検査、処方、治療、紹介などを学ぶ。 38-41 臨床検査、放射線科、MRIなどの検査システムでの実習 臨床検査、放射線科、MRIにおける業務において、臨床実習を行う。 医師の行う診察について、全体の流れ、検査、処方、治療、紹介などを学ぶ。
授業時間外の学習（準備学習等）について	4年生までに学習した内容について、現代西洋医学を中心に復習を行う。 なお、実習で得た知識についてもレポート課題を通して復習する。
教科書	指定なし。
参考書	4年生までの学習に使用した全ての配布資料。 病気がみえるシリーズ（メディックメディア社）
成績評価	実習日程の4/5以上参加した者に評価をおこなう。 評価割合は（臨床実習内評価70%、レポート課題30%）とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 角谷英治 研究室 : 附属鍼灸センター2階 メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 山崎 翼 研究室 : 附属鍼灸センター2階 メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センター・附属病院にて実務経験あり アクティブラーニングとして、実習後に振り返りを行う。 DP：◎-4、○-2

講義科目名称： 医療機関実習B

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	4	選択必修
担当教員			
角谷 英治・山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：180時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	医療機関（病院、診療所）における診察、検査、診断、治療、経過観察などについて臨床現場にて実習を行う。 本実習を通して、現代西洋医学的な診察や治療の流れについて理解を深めるとともに、最新の医療情報や技術についても学習する。 実習によって得た知識を、鍼灸臨床に活用できるようにすることを目標とする。
授業計画	1回目 ガイダンス 医療機関実習を行うにあたってのガイダンスを行う。 身なりや接遇、基本的な衛生操作などについて、改めて説明を行う。 2-40回目 主要な3つの診療科（内科・外科・整形外科）での実習 内科・外科・整形外科における外来診察において、臨床実習を行う。 医師の行う診察について、全体の流れ、検査、処方、治療、紹介などを学ぶ。 41-55回目 泌尿器科、耳鼻科、眼科での実習 泌尿器科、耳鼻科、眼科における外来診察において、臨床実習を行う。 医師の行う診察について、全体の流れ、検査、処方、治療、紹介などを学ぶ。 56-70回目 リハビリ、歯科、脳神経外科での実習 リハビリ、歯科、脳神経外科における外来診察において、臨床実習を行う。 医師の行う診察について、全体の流れ、検査、処方、治療、紹介などを学ぶ。 71-82回目 臨床検査、放射線科、MRIなどの検査システムでの実習 臨床検査、放射線科、MRIにおける業務において、臨床実習を行う。 医師の行う診察について、全体の流れ、検査、処方、治療、紹介などを学ぶ。
授業時間外の学習（準備学習等）について	4年生までに学習した内容について、現代西洋医学を中心に復習を行う。 なお、実習で得た知識についてもレポート課題を通して復習する。
教科書	指定なし。
参考書	4年生までの学習に使用した全ての配布資料。 病気がみえるシリーズ（メディックメディア社）
成績評価	実習日程の4/5以上参加した者に評価をおこなう。 評価割合は（臨床実習内評価70%、レポート課題30%）とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 角谷英治 研究室 : 附属鍼灸センター2階 メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 山崎 翼 研究室 : 附属鍼灸センター2階 メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センター・附属病院にて実務経験あり アクティブラーニングとして、実習後に振り返りを行う。 DP：◎-4、○-2

講義科目名称： 漢方医学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
田中 邦雄			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	日常生活における漢方的知識の理解と応用を図る。 漢方医学の全体の概念を把握する。
授業計画	<p>第1講 現代医学と漢方医学 [到達目標] 現代医学と東洋医学の違いを把握する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。</p> <p>第2講 伝統医学の歴史 [到達目標] 日本・中国各々の伝統医学の歴史を把握する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。</p> <p>第3講 漢方の疾病概念：三陽三陰 [到達目標] 三陽三陰の概念を把握する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。</p> <p>第4講 漢方の疾病概念：気・血・水 [到達目標] 気・血・水を使つての病態把握を理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。</p> <p>第5講 疾病概念としての五行説 [到達目標] 五行説を理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。</p> <p>第6講 日本の伝統薬について [到達目標] 日本の伝統薬について。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。</p> <p>第7講 漢方医学の診断法 [到達目標] 漢方医学の診断法をDVDを併用して解説する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各自希望のテーマがあれば個別に指導
教科書	「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラ ※配布
参考書	「漢方水先案内」：津田篤太郎：医学書院：¥2,000
成績評価	レポートによる総合的な判定とする。
担当教員の基本情報	担当教員名：田中邦雄 研究室：統合医療学(明治国際医療大学) メールアドレス：ku_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：メールで予約して、明治国際医療大学で対応
備考	明治国際医療大学附属病院で漢方内科診療に従事 日本東洋医学会評議員、指導医。日本東洋医学会京都府部会長
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	選択必修
担当教員			
角谷 英治・山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：90時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	この科目は4年間の総括的な科目であり、附属鍼灸センターにおいて、自立した鍼灸臨床を行うことができるようになることを目標とする。 【到達目標】 患者に対して医療人としての適切な態度がとれる。		
授業計画	1	ガイダンス 実習に必要な心構え、実習の日程、実習の目標を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。	
	2～4	実習に必要な心構え、実習の日程、実習の目標を説明でき、実践できる。 指導教員の診察から治療までの臨床的な流れを理解する。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。	
	5～7	附属鍼灸センターにおける臨床実習。患者との会話や問診をおこなう 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。	
	8～10	附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療のサポートをおこなう 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。	
	11～13	附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療のサポートをおこなう。 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。	
	14～16	附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療をおこなう。 指導教員の選穴理由を説明でき、 同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。	
	17～19	附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療をおこなう。 指導教員の選穴理由を説明でき、 同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。	
	20～22	附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療のサポートをおこなう。 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。	
	23～25	附属鍼灸センターにおける臨床実習。患者との会話や問診をおこなう。 指導教員の診察から治療までの臨床的な流れが説明できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。	
	26～28	附属鍼灸センターにおける臨床実習。患者との会話や問診をおこなう。 指導教員の診察から治療までの臨床的な流れを説明できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。	
	29～31	附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療のサポートをおこなう。 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。	
	32～34	附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療をおこなう。	

	<p>指導教員の選穴理由を理解し、同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。 【授業形態】 実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。 附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療をおこなう。</p> <p>指導教員の選穴理由を説明でき、同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。 【授業形態】 実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。 附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療をおこなう。</p> <p>指導教員の選穴理由を説明でき、同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。 【授業形態】 実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。 実習総括としてのポートフォリオのまとめの作成。 本実習の総括として、ポートフォリオのまとめを行う。</p>
35～37	
38～40	
41, 42	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	治療を担当した疾患について調べ、次の実習までにポートフォリオに入れてくる。
教科書	指定無し
参考書	標準整形外科学：寺山和雄ら（医学書院） ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭ら（南山堂） 中医弁証学：柯雪帆（東洋学術出版社）
成績評価	実習日程の4/5以上参加した者に評価をおこなう。 評価割合は（OSCE20%、臨床実習内評価75%、ポートフォリオ5%）とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：角谷英治 研究室：附属鍼灸センター2階 メールアドレス：m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：山崎 翼 研究室：附属鍼灸センター2階 メールアドレス：t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>
備考	附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて実務経験あり アクティブラーニングとして、実習後、振り返りを行い、担当患者についてまとめる。 DP：◎-5、○-2、○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	4	選択必修
担当教員			
角谷 英治・山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：180時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	この科目は4年間の総括的な科目であり、附属鍼灸センターにおいて、自立した鍼灸臨床を行うことができるようになることを目標とする。 【到達目標】 患者に対して医療人としての適切な態度がとれる。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 実習に必要な心構え、実習の日程、実習の目標を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>2～4回目 実習に必要な心構え、実習の日程、実習の目標を説明でき、実践できる。 指導教員の診察から治療までの臨床的な流れを理解する。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>5～7回目 附属鍼灸センターにおける臨床実習。患者との会話や問診をおこなう。 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>8～10回目 附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療のサポートをおこなう。 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>11～13回目 附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療のサポートをおこなう。 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>14～16回目 附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療をおこなう。 指導教員の選穴理由を説明でき、同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>17～19回目 附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療をおこなう。 指導教員の選穴理由を説明でき、同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>20～22回目 附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療のサポートをおこなう。 鍼灸の施術目的を説明でき、実践できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>23～25回目 附属鍼灸センターにおける臨床実習。患者との会話や問診をおこなう。 指導教員の診察から治療までの臨床的な流れが説明できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>26～28回目 附属鍼灸センターにおける臨床実習。患者との会話や問診をおこなう。 指導教員の診察から治療までの臨床的な流れを説明できる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>29～82回目 附属鍼灸センターにおける臨床実習。診療をおこなう。 指導教員の選穴理由を理解し、同様の症状を訴える患者に応用できるようになる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p>
授業時間外の学習	治療を担当した疾患について調べ、次の実習までにポートフォリオに入れてくる。

(準備学習等)について	
教科書	指定無し。
参考書	標準整形外科学：寺山和雄ら（医学書院） ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭ら（南山堂） 中医弁証学：柯雪帆（東洋学術出版社）
成績評価	実習日程の4/5以上参加した者に評価をおこなう。 評価割合は（OSCE20%、臨床実習内評価75%、ポートフォリオ5%）とする。
担当教員の基本情報	担当教員名：角谷英治 研究室：附属鍼灸センター2階 メールアドレス：m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 担当教員名：山崎 翼 研究室：附属鍼灸センター2階 メールアドレス：t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて実務経験あり アクティブラーニングとして、実習後、振り返りを行い、担当患者についてまとめる。 DP：◎-5、○-2、○-4

講義科目名称： はり・きゅう高齢者ケア実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	必修
担当教員			
角谷 英治、山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：45時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスセンター、老人保健施設、在宅介護支援センター、訪問看護ステーションを併設する総合老人福祉施設である「はぎの里」において、鍼灸治療および介護・介助実習を行い、さまざまな心身の障害を持つ高齢者を理解し、適切に対応できる知識と技能を身につけることを目的とする。 鍼灸治療実習では高齢者の疾病の特徴および症状に応じた診療の流れを理解することができる。
授業計画	<p>1回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 高齢者の心身の特徴および介護の基本を説明することができ、実践できる。 【授業形態】講義・実技 予習：前日までに実習する高齢者施設がどのような施設であるかを理解しておく。 復習：高齢者の心身の特徴および介護の基本を復習する。実習後は、担当した高齢者の心身の状態について復習する。</p> <p>2回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>3回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>4回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>5回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>6回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>7回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>8回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>9回目 介護・介助実習(老人保健施設) 実習する高齢者施設がどのような施設であるかを説明することができる。さらに、高齢者の心身の特徴および介護の基本を復習し、説明することができる。 【授業形態】講義・実技・アクティブラーニングとしては、実習日の担当患者についてまとめる。 復習：実習後、担当した高齢者の心身の状態について復習する。</p> <p>10回目 介護・介助実習(老人保健施設) 同上</p> <p>11回目 介護・介助実習(老人保健施設) 同上</p> <p>12回目 介護・介助実習(老人保健施設) 同上</p> <p>13回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 高齢者の心身の特徴および介護の基本を復習するとともに、その知識を活用して鍼灸治療を行う。 【授業形態】講義・実技・アクティブラーニングとしては、実習日の担当患者についてまとめる。 復習：実習後、担当した高齢者の心身の状態について復習する。</p> <p>14回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>15回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>16回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>17回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>18回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>19回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設)</p>

	<p>同上</p> <p>20回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>21回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>22回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>実習に入る前日までに実習する高齢者施設がどのような施設であるかを理解しておくこと。さらに、介護実習の場合は実習の前日までに高齢者の心身の特徴および介護の基本を復習し、理解しておくこと。また、鍼灸治療実習の場合は実習の前日までに高齢者の疾病の特徴および症状に応じた診療の流れを復習し、理解しておくこと。</p>
教科書	なし
参考書	介護基礎学 竹内孝仁 著 医歯薬出版
成績評価	<p>(1) 鍼灸治療と介護のそれぞれの実習終了時のレポート20%、</p> <p>(2) 実習態度等 80%により評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 角谷 英治 研究室 : 鍼灸センター2F メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 15:40~17:20</p> <p>担当教員名 : 山崎 翼 研究室 : 鍼灸センター2F メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 15:40~17:20</p>
備考	<p>附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、はぎの里介護老人保健施設にて鍼灸治療の実務経験あり</p> <p>DP : ◎-4、○-5</p>

講義科目名称： はり・きゅう学外臨床実習A

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	選択必修
担当教員			
角谷 英治・山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：45時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>学外鍼灸臨床実習は学外研修の科目である。医療人としての協調性と責任感を養う実習であり、社会に適応していくための態度と能力を高めることが実習の目的の一つとなる。</p> <p>鍼灸師として西洋医学と東洋医学を統合した鍼灸臨床能力を養い、患者心理の理解と対応、鍼灸治療の適応と限界の把握、疾病の病態把握、治療プランニング、刺鍼・施灸技術、治療の評価などの一連の流れを理解し、清潔で安全、且つ最良の効果が得られるよう実践することができる。</p> <p>学外研修施設（松風苑、京都駅前鍼灸院、京都桂川鍼灸院、きららの湯若狭鍼灸院）では、受付、診察、治療、清掃、管理に至るまでをグループ内で協力しながら、総合的な体験学習を行う。また毎回の臨床後に症例をまとめ、実習参加者全員が病態理解を行うカンファレンスを実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 実習に関するオリエンテーション 学外実習の流れを確認する。また、治療に際の注意点を説明することができる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>2～3回目 実習 患者の問診や検査から病態を把握する。また治療プランを考え、治療を行うことができる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>4～5回目 カンファレンス 実習で得られた患者情報に基づいて、症例検討会を行う。 また、症例検討会で得られた内容についてレポートを作成し、提出する。</p> <p>6～20回目 1回目から5回目の実習を1クールとし、4クール実施する。 1回目から5回目の実習を1クールとし、4クール実施する。</p> <p>21～22回目 実習のまとめ 4クール分の実習についてレポートにまとめ、提出する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	3年生の各科目で配布したプリントなどを熟読し、わからない部分があれば参考書や専門書などで調べる。また、最新の病態メカニズムや治療方法に関しては、各領域の論文を医学中央雑誌などで検索・学習することで理解を深めると共に、それでも理解できない場合は、質問して解決すること。特に運動器疾患や高齢者鍼灸に関しては重点的に予習・復習すること。
教科書	学外鍼灸臨床実習 実習簿（配布プリント）
参考書	<p>1～4年次までにおこなった全ての講義資料</p> <p>現代医学：「臨床医学全科」渡辺 洪 編集（金芳堂） 東洋医学：鍼灸学基礎編・臨床編 日中共同編集（東洋学術出版） 鍼灸治療：図解鍼灸療法技術ガイド I・II 矢野 忠 編集（文光堂） 診察編：診察と手技がみえる 古谷伸之（MEDICMEDIA）</p>
成績評価	<p>評価方法と評価割合（実習90%、実習簿の作成10%）</p> <p>実習の評価に関しては、実習中の生活、臨床技術をもって評価する。評価方法は専用記録用紙（電子媒体）に引率教員が行う。評価割合は実習の態度、生活面、協調性、臨床技術について総合的に行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：角谷 英治 研究室：附属鍼灸センター2F メールアドレス：e_sumiya@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：山崎 翼 研究室：鍼灸センター2F メールアドレス：t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 15:40～17:20</p> <p>その他：実習に引率いただく鍼灸学系担当教員</p>
備考	<p>附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて実務経験あり アクティブラーニングとして、担当患者について問診から治療までについて振り返りおよび今後の課題についてまとめる。 DP：◎-4、○-5</p>

講義科目名称： はり・きゅう学外臨床実習B

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	選択必修
担当教員			
角谷 英治・山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：90時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>学外鍼灸臨床実習は学外研修の科目である。医療人としての協調性と責任感を養う実習であり、社会に適応していくための態度と能力を高めることが実習の目的の一つとなる。</p> <p>鍼灸師として西洋医学と東洋医学を統合した鍼灸臨床能力を養い、患者心理の理解と対応、鍼灸治療の適応と限界の把握、疾病の病態把握、治療プランニング、刺鍼・施灸技術、治療の評価などの一連の流れを理解し、清潔で安全、且つ最良の効果が得られるよう実践することができる。</p> <p>学外研修施設（松風苑、京都駅前鍼灸院、京都桂川鍼灸院、きららの湯若狭鍼灸院）では、受付、診察、治療、清掃、管理に至るまでをグループ内で協力しながら、総合的な体験学習を行う。また毎回の臨床後に症例をまとめ、実習参加者全員が病態理解を行うカンファレンスを実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 実習に関するオリエンテーション 学外実習の流れを確認する。また、治療に際の注意点を説明することができる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>2～3回目 実習 患者の問診や検査から病態を把握する。また治療プランを考え、治療を行うことができる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>4～5回目 カンファレンス 実習で得られた患者情報に基づいて、症例検討会を行う。 また、症例検討会で得られた内容についてレポートを作成し、提出する。</p> <p>6～21回目 1回目から21回目の実習を1クールとし、4クール実施する。 1回目から21回目の実習を1クールとし、4クール実施する。 なお、京都駅前鍼灸院、京都桂川鍼灸院、きららの湯若狭鍼灸院のうち、2箇所を選択して実習を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	3年生の各科目で配布したプリントなどを熟読し、わからない部分があれば参考書や専門書などで調べる。また、最新の病態メカニズムや治療方法に関しては、各領域の論文を医学中央雑誌などで検索・学習することで理解を深めると共に、それでも理解できない場合は、質問して解決すること。特に運動器疾患や高齢者鍼灸に関しては重点的に予習・復習すること。
教科書	学外鍼灸臨床実習 実習簿（配布プリント）
参考書	<p>1～4年次までにおこなった全ての講義資料</p> <p>現代医学：「臨床医学全科」渡辺 決 編集（金芳堂） 東洋医学：鍼灸学基礎編・臨床編 日中共同編集（東洋学術出版） 鍼灸治療：図解鍼灸療法技術ガイド I・II 矢野 忠 編集（文光堂） 診察編：診察と手技がみえる 古谷伸之（MEDICMEDIA）</p>
成績評価	<p>評価方法と評価割合（実習90%、実習簿の作成10%）</p> <p>実習の評価に関しては、実習中の生活、臨床技術をもって評価する。評価方法は専用記録用紙（電子媒体）に引率教員が行う。評価割合は実習の態度、生活面、協調性、臨床技術について総合的に行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：角谷 英治 研究室：附属鍼灸センター2F メールアドレス：e_sumiya@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：山崎 翼 研究室：鍼灸センター2F メールアドレス：t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 15:40～17:20</p> <p>その他：実習に引率いただく鍼灸学系担当教員</p>
備考	<p>附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて実務経験あり アクティブラーニングとして、担当患者について問診から治療までについて振り返りおよび今後の課題についてまとめる。 DP：◎-4、○-5</p>

講義科目名称： はり・きゅう学外臨床実習C

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	選択必修
担当教員			
角谷 英治・山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：45時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>学外鍼灸臨床実習は学外研修の科目である。医療人としての協調性と責任感を養う実習であり、社会に適応していくための態度と能力を高めることが実習の目的の一つとなる。</p> <p>鍼灸師として西洋医学と東洋医学を統合した鍼灸臨床能力を養い、患者心理の理解と対応、鍼灸治療の適応と限界の把握、疾病の病態把握、治療プランニング、刺鍼・施灸技術、治療の評価などの一連の流れを理解し、清潔で安全、且つ最良の効果が得られるよう実践することができる。</p> <p>学外研修施設（松風苑、京都駅前鍼灸院、京都桂川鍼灸院、きららの湯若狭鍼灸院）では、受付、診察、治療、清掃、管理に至るまでをグループ内で協力しながら、総合的な体験学習を行う。また毎回の臨床後に症例をまとめ、実習参加者全員が病態理解を行うカンファレンスを実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 実習に関するオリエンテーション 学外実習の流れを確認する。また、治療に際の注意点を説明することができる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>2～3回目 実習 患者の問診や検査から病態を把握する。また治療プランを考え、治療を行うことができる。 【授業形態】実習 復習：実習で学んだ内容について知識を整理する。 予習：これまで習った授業内容を確認しておく。</p> <p>4～5回目 カンファレンス 実習で得られた患者情報に基づいて、症例検討会を行う。 また、症例検討会で得られた内容についてレポートを作成し、提出する。</p> <p>6～20回目 1回目から5回目の実習を1クールとし、4クール実施する。 1回目から5回目の実習を1クールとし、4クール実施する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	3年生の各科目で配布したプリントなどを熟読し、わからない部分があれば参考書や専門書などで調べる。また、最新の病態メカニズムや治療方法に関しては、各領域の論文を医学中央雑誌などで検索・学習することで理解を深めると共に、それでも理解できない場合は、質問して解決すること。特に運動器疾患や高齢者鍼灸に関しては重点的に予習・復習すること。
教科書	学外鍼灸臨床実習 実習簿（配布プリント）
参考書	<p>1～4年次までにおこなった全ての講義資料</p> <p>現代医学：「臨床医学全科」渡辺 決 編集（金芳堂） 東洋医学：鍼灸学基礎編・臨床編 日中共同編集（東洋学術出版） 鍼灸治療：図解鍼灸療法技術ガイド I・II 矢野 忠 編集（文光堂） 診察編：診察と手技がみえる 古谷伸之（MEDICMEDIA）</p>
成績評価	<p>評価方法と評価割合（実習90%、実習簿の作成10%）</p> <p>実習の評価に関しては、実習中の生活、臨床技術をもって評価する。評価方法は専用記録用紙（電子媒体）に引率教員が行う。評価割合は実習の態度、生活面、協調性、臨床技術について総合的に行う。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：角谷 英治 研究室：附属鍼灸センター2F メールアドレス：e_sumiya@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：山崎 翼 研究室：鍼灸センター2F メールアドレス：t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 15:40～17:20</p> <p>その他：実習に引率いただく鍼灸学系担当教員</p>
備考	<p>附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて実務経験あり</p> <p>アクティブラーニングとして、担当患者について問診から治療までについて振り返りおよび今後の課題についてまとめる。</p> <p>DP：◎-4、○-5</p>

講義科目名称： はり・きゅうインターンシップ実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	選択必修
担当教員			
角谷 英治・山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：45時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	学外における鍼灸治療院を見学し、その事を通して、 ・鍼灸治療の技術 ・接遇における配慮 ・会計システム 等について学び、総合的な臨床力の向上を図ることを目標とする。
授業計画	1 実習ガイダンス インターン実習を行うにあたってのガイダンスを行う。 身なりや接遇、基本的な衛生操作などについて、改めて説明を行う。 2～11 学外インターン実習（前期） 前期においては、実習先における接遇や医療面接など、鍼灸診療のサポートを中心として行う。 実際の臨床現場におけるさまざまな注意点や配慮が必要な点について学習し、今後の臨床に活用することを目標とする。 12～22 学外インターン実習（後期） 後期においては、実習先における接遇や医療面接に加え、理学検査や触察、鍼灸治療のサポートを行う。 実際の臨床現場における鍼灸診療について体験することを通して、今後の臨床に活用することを目標とする。
授業時間外の学習（準備学習等）について	3年生までに学習した講義ならびに実習に関する資料を用いて、接遇、医療面接、理学検査、鍼灸技術について復習をしておく。
教科書	鍼灸診療コアテキスト（本学出版）
参考書	4年生までに学習した全ての教材 病気がみえるシリーズ（メディック・メディア）
成績評価	評価方法と評価割合（実習90%、実習簿の作成10%） 実習の評価に関しては、実習中の生活、臨床技術をもって評価する。評価方法は専用記録用紙（電子媒体）に引率教員が行う。評価割合は実習の態度、生活面、協調性、臨床技術について総合的に行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 角谷 英治 研究室 : 附属鍼灸センター2F メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 山崎 翼 研究室 : 附属鍼灸センター2F メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp その他：実習に引率いただく鍼灸学系担当教員
備考	附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて実務経験あり アクティブラーニングとして、担当患者について問診から治療までについて振り返りおよび今後の課題についてまとめる。 DP：◎-4、○-5

講義科目名称： 症例報告、研究の方法と発表

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義・オンライン	
添付ファイル			

授業目標	鍼灸治療の効果を人に伝える際にはきちんとした手順を取ることが大切です。特に鍼灸の効果は体験しないと実感しにくいことから、体験しなくてもある程度理解してもらうためには、きちんとした報告や研究が大切です。 そこで、本講義では、鍼灸治療の研究・報告に必要な知識を学習し、自分の力で将来報告できるような力を身に着けます。
授業計画	<p>第1回 症例報告・研究はなぜ必要 症例報告や研究の意味、その位置づけなどを勉強し、それぞれの研究にはどのような意味があるのかを動画を用いて学習し、問いに答える。</p> <p>第2回 症例報告に必要な知識を持とう 症例報告を何故行うのか、そしてその報告にはどのようなルールがあるのかなどについて動画で学習し、問題に答える</p> <p>第3回 研究・臨床報告に必要なこと 症例報告や研究を行う際に必要なルール、倫理や書類手続きについて動画を用いて学習し、問いに答える。</p> <p>第4回 患者を評価しよう 患者や被験者を評価する方法を大まかに動画を用いて学習し、問いに答える。</p> <p>第5回 痛みの評価を学習しよう 痛みの評価について、その種類や役割を動画を用いて学習し、問いに答える。 なお、自分でも評価を行い、どの程度の痛みがあるのかを知る</p> <p>第6回 心理的な評価を学習しよう 心理的な評価について、その種類や役割を動画を用いて学習し、問いに答える。 なお、自分でも評価を行い、どの程度の心理的状態にあるのかを知る</p> <p>第7回 ビックデータを考える データをため、活用するビックデータの仕組みとその役割について学び、今後の医療の可能性を模索しよう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	動画を視聴し、理解を深めてください。 なお、不明な点は自分自身で調べた上で、それでもわからない場合は質問してください。
教科書	指定なし
参考書	リサーチクエッションの作り方 (NPO法人健康医療評価研究機構) 臨床研究の道標 (NPO法人健康医療評価研究機構)
成績評価	受動的な講義形式と、学生自らが調査・発表・討論を行う講義の2つからなる。 出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追再試験を実施する。 レポートと出席で評価し、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 なお、レポート評価とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 伊藤和憲 研究室 : 鍼灸センター2階教授室 メールアドレス : k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日の13:00~17:00 職務経験 : 鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。
備考	DPとの関係： 2：思考・判断-○ 5：技能・表現-◎

講義科目名称： はり・きゅう師に必要な看護学・リハビリテーション学 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
木村 篤史・深田 實江子			
鍼灸学科	15時間	演習（遠隔授業：オンライン）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の本質と看護活動の実際を学ぶ。 ・2年次に学習したリハビリテーション学を基盤に主要な病態に対する医学的リハビリテーションの実際を学ぶ。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師や保健師、助産師、リハビリ専門職種などの職業理解と、医療における各職種の役割等が理解できる。 ・将来、はり・きゅう師が取得可能な「機能訓練指導員」に必要なリハビリテーションについて理解できる。
授業計画	<p>1回目 看護の本質、看護の変遷</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護とは何か、看護の本質について考えることができる ・疾患中心からヘルスプロモーションへ、施設内看護から地域基盤の看護へと変化する看護と、継続の必要性がわかる <p>【授業形態】 講義形式+ディスカッション（オンデマンド）</p> <p>2回目 看護の対象、個人、家族、地域</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合対としての人間についての理解が出来る ・健康とウェルネス、健康の概念について理解することが出来る ・家族とその機能について知り、家庭の価値について理解することが出来る ・地域を基盤に展開される看護について学ぶことが出来る <p>【授業形態】 講義形式+グループワーク（オンデマンド）</p> <p>3回目 看護における倫理・法律</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが理解できる ・保健師助産師看護師法について理解し、看護師・保健師・助産師について理解を深めることが出来る <p>【授業形態】 講義形式+ディスカッション（オンデマンド）</p> <p>4回目 脳卒中に対する医学的リハビリテーションの実際</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中患者に対する医学的リハビリテーションについて理解することができる。 <p>【授業形態】 講義形式+グループワーク</p> <p>5回目 サルコペニア・フレイル・摂食嚥下障害に対する医学的リハビリテーションの実際</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サルコペニア・フレイル・摂食嚥下障害に対する診断基準や医学的リハビリテーションの実際について理解することができる。 <p>【授業形態】 講義形式+グループワーク</p> <p>6回目 運動器疾患・ロコモティブシンドロームに対する医学的リハビリテーションの実際</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動器疾患に対する医学的リハビリテーションやロコモティブシンドロームの診断基準、対応について理解することができる。 <p>【授業形態】 講義形式+グループワーク</p> <p>7回目 在宅生活に必要な道具（装具、歩行補助具、車いすなど）と住環境、制度の実際</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅生活に必要な住環境整備や介護保険制度について理解することができる。 <p>【授業形態】 講義形式+グループワーク</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>準備学習として該当する教科書の項目、資料を熟読すること（予習35分）。</p> <p>各講義内で課題を提示するので講義終了後にレポート作成を行い、期限を守って必ずレポートを提出すること。なお、提出されたレポートはすべて成績評価の対象とする。</p>
教科書	「看護学原論 改訂第3版」南江堂 他、講義資料を配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「対訳 看護覚え書」うぶすな書院 ・「看護の基本となるもの」日本看護協会出版社 ・「PT・OTのための臨床実習で役立つリハビリテーション基本手技（PT版）」診断と治療社 ・「PT・OTのための臨床実習で役立つリハビリテーション基本手技（OT版）」診断と治療社
成績評価	・提出されたレポートで100%評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 深田 實江子</p> <p>研究室 : 10号館 7階 706研究室</p> <p>メールアドレス : m_fukata@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 講義終了後に相談すること</p>

	担当教員名：木村 篤史 研究室：なし（附属病院総合リハビリテーションセンター） メールアドレス：a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：メールにて事前連絡の後、随時調整する。
備考	①実務経験 深田 實江子：京大病院の循環器内科勤務と市中病院の訪問看護ステーション勤務。その実務経験と25年間の看護教育経験をもとに看護学概論の授業を行う。 木村 篤史：医療機関のリハビリテーションセンターにて理学療法士として25年間の実務経験を有する。その実務経験を基にリハビリテーション医学に関する内容について授業を進める。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」→「◎-3」 ③アクティブラーニングの有無：有り。具体的には、グループディスカッションなどを通じて自発的な課題解決を促す。 ④課題に対するフィードバックの方法：講義時間内に口頭にて実施する。

講義科目名称： はりきゅう柔整論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	鍼灸に携わる大学生として、柔道整復師についての有用な知見を習得することを授業目標とする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション．柔道整復師について 【到達目標】 ・柔道整復師の概要について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第2回 骨の損傷 【到達目標】 ・骨の損傷について説明できる。 ・骨粗鬆症について説明できる。 ・骨損傷に加わる力について説明できる。 ・骨折時に現れる固有の症状について説明できる 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第3回 骨の損傷例（上腕骨の骨折） 【到達目標】 ・上腕骨の骨折について説明できる。 ・上腕骨の固定法について説明できる。 ・骨折の癒合日数について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第4回 脱臼の定義 【到達目標】 ・脱臼の定義について説明できる． P. 58 ・脱臼の発生頻度について説明できる． P. 58 ・脱臼の症状について説明できる P. 63 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第5回 脱臼の例（肩の脱臼） 【到達目標】 ・肩関節脱臼について説明できる。 ・肩関節脱臼の固定法について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第6回 試験及びまとめ 【到達目標】 ・全体的な概要を説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第7回 総括 【到達目標】 ・講義全体を振り返り、柔道整復学を説明することができる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	種々の問題を自力で解けるようになるために参考書を用いた予習（130分）と講義内容の復習（130分）を行う。
教科書	特に指定しない。
参考書	柔道整復学・理論編（改訂第6版）
成績評価	1回の試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○赤澤 淳 研究室 : 5号館3階 メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後1時間．その他の時間はメールで予約を取って下さい。
備考	「◎-1」

--	--

講義科目名称： はり・きゅう師に必要な栄養学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
桑原 彩			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	社会においては、はり・きゅう師の求められる知識は専門知識に限らない。更に専門性を高める一助となるよう、基礎的な栄養学の知識を習得し活用できるようになる。		
授業計画	第1講	オリエンテーション及び栄養の基礎 [到達目標] 日本人の食生活の変遷を踏まえ、健康増進と疾病予防のための栄養学の全体像を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布（配信）した資料を用いて予習、復習する。（30分）	
	第2講	栄養素の基本（五大栄養素について） [到達目標] 五大栄養素の特徴について学び、理想的な摂取量及び活用法を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布（配信）した資料を用いて予習、復習する。（30分）	
	第3講	ウエイトコントロール、サプリメントについて [到達目標] 減量、増量について正しい方法を理解し、アドバイスできるようになる。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布（配信）した資料を用いて予習、復習する。（30分）	
	第4講	生活習慣病と食事療法について [到達目標] 生活習慣病の原因と食事療法について把握し、アドバイスできるようになる。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布（配信）した資料を用いて予習、復習する。（30分）	
	第5講	ライフステージ別の栄養について（乳幼児～成人期） [到達目標] ライフステージごとの特徴や求められる栄養を理解し、アドバイスできるようになる。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布（配信）した資料を用いて予習、復習する。（30分）	
	第6講	ライフステージ別の栄養について（老年期） [到達目標] 老年期の特徴や必要な栄養の特徴を理解し、アドバイスできるようになる。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布（配信）した資料を用いて予習、復習する。（30分）	
	第7講	まとめ [到達目標] 第1～6講の内容を復習する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布（配信）した資料を用いて予習、復習する。（60分）	
授業時間外の学習（準備学習等）について	復習：配布（配信）された資料とともに講義内容を復習する。 Googleフォームに解答し、講義の重点を理解する。（30分）		
教科書	指定なし。		
参考書	「栄養の基本がわかる図解辞典」	中村丁次著	成美堂出版
	「スポーツ栄養学」	田中紀子、平野直美編	化学同人
	「高齢者の栄養ケア」	田村佳奈美編	メディカ出版
成績評価	出席基準に達した者に対し、レポート提出にて評価する。（平常点20%、レポート80%）		
担当教員の基本情報	担当教員名：桑原 彩 メールアドレス：a_kuwabara@meiji-u.ac.jp		
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1		

講義科目名称： 患者教育とコーチング

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
福田 文彦			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

講義科目名称： 鍼灸経営論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
山崎 翼			
鍼灸学科	15時間	講義（遠隔授業：オンライン授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>鍼灸治療院の開業ならびに経営に関して、必要な基本事項について学習し、これからの経営方法についての理解を深める。 そのために必要な知識について、授業内調査や発表などのアクティブラーニングを通して理解を深める。</p> <p><基本事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 経営理念、目標設定の重要性 2) 鍼灸院の開設（立地条件、競合院調査、マーケティング） 3) 鍼灸院の外観・内装・看板 4) 鍼灸院の宣伝・競合について 5) まとめ
授業計画	<p>1回目 マーケティングに関する用語の学習 キャズム、レッド(ブルー)オーション、プロダクトアウト、チャネル戦略、機会損失などのマーケティングに関する用語について理解を深め、基本的な知識を身につける。</p> <p>2回目 販売戦略について モノ売り、コト売り、トキ売りなど、さまざまな販売戦略について学習する。 講義内において、POPを自主作成し、理解を深める。</p> <p>3回目 広報戦略について 一般的な広報戦略について学習した上で、それを鍼灸院経営に活用する方策について理解を深める（広告制限と回避方策など）。</p> <p>4回目 一次情報の取得について マーケティングにおいて重要な、一次情報の取得について理解を深める。 具体的な内容として、D2C、B2B、B2C、ポイントビジネスと貨幣価値について解説する。</p> <p>5回目 従業員の雇用と管理について 従業員の雇用と管理の方法について理解を深める。 マイルストーンを利用した目標管理とPDCAサイクルとの関連などについて解説する。</p> <p>6回目 リコメンドビジネスと人工知能の活用 鍼灸院経営におけるIT技術の活用について解説し、理解を深める。 合わせて、リコメンドビジネスについても解説する。</p> <p>7回目 正常化バイアスと未来予測とトレンド 経営において最も重要な変化について学ぶとともに、それを阻害する正常化バイアスとトレンド変化について理解を深める。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布プリントの内容を参考にし、各テーマについて自身の考えを考察すること。
教科書	自作プリント
参考書	「鍼灸院経営のすべて」出端昭男（医道の日本社） 「治療院経営Q&A」目黒章布（医道の日本社）
成績評価	出席基準をみたした者を対象に、レポートの内容を総合して評価する。（平常点20%、レポート評価80%）
担当教員の基本情報	担当教員名：山崎 翼 研究室：鍼灸センター2階 教員室 オフィスアワー 木曜日16：40～
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実務経験 附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院にて鍼灸治療を担当。その実務経験を基に講義を行う。 2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-1

講義科目名称： 社会鍼灸学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
矢野 忠			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	社会鍼灸学は、社会における鍼灸医療の存在意義と役割を学ぶ授業です。社会鍼灸学と表裏関係にある学問分野が医療社会学、すなわち「鍼灸社会学」ということとなります。本授業では医療社会学の視点を踏まえて、社会における鍼灸学の役割とその存在意義について討論し、鍼灸医療の役割と可能性をみんなで考え、鍼灸療法の未来の地平を拓く授業を目指しています。		
授業計画	第1講	社会鍼灸学序論 [到達目標] 社会鍼灸学とは何か、医療社会学との関係、医学と医療、疾病と病気、病気と患者などについて、どのような視点で捉えるのかをみんなで議論し、鍼灸学の意義について考える。	
	第2講	[備考]対面形式で実施する。 社会と健康－健康格差を含めて [到達目標] 健康とは何か、健康論を踏まえ、社会と健康の関係を「健康格差」の視点からみんなで討論し、鍼灸医療の役割りについて考える。	
	第3講	[備考]対面形式で実施する。 ストレス社会 [到達目標] ストレス社会における鍼灸医療の役割りについて、みんなで討論し、鍼灸医療の役割りについて考える。	
	第4講	[備考]対面形式で実施する。 健康経営 [到達目標] 社会が健全に成長するには労働者が健康でなければならない。それを支える視点が「健康経営」である。健康経営についてみんなで討論し、鍼灸医療の役割りについて考える。	
	第5講	[備考]対面形式で実施する。 性差医療 [到達目標] 医療の多様性として「性差医療」が注目されている。性差医療について学修するとともに「性差医療」について、みんなで討論し、鍼灸医療の役割りについて考える。	
	第6講	[備考]対面形式で実施する。 超高齢社会 [到達目標] 超高齢社会の医療についてみんなで討論し、鍼灸医療の役割りについて考える。	
	第7講	[備考]対面形式で実施する。 鍼灸医療の進むべき道 [到達目標] 鍼灸医療の特性を踏まえて、鍼灸医療の進むべき道について、みんなで討論し、自分なりの道を探る。 [備考]対面形式で実施する。	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	資料を前もって配布し、授業のテーマについて自分なりに考える。		
教科書	配布資料によって授業を実施する。		
参考書	授業中に推奨する書籍。		
成績評価	授業時または授業後に課す課題に対するレポートおよび出席日数、授業参加態度、討論の内容を総合的に判断し、「優・良・可・不可」で評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 矢野 忠 (鍼灸学部教授) 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : t_yano@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 事前に予約		
備考			

講義科目名称： 鍼灸総合演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
田口 玲奈・齊藤 真吾			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本演習は、はり師きゅう師国家試験に合格するために必要な知識を修得するだけでなく、将来、はり師きゅう師あるいは医療の専門家として、患者の悩みや社会の医療健康課題に対して貢献できる人材になるために必要な問題解決能力を身につけることも目標としている。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能を理解する。 2. 構造と機能の知識を疾病の成り立ち（病態）に活かせる能力を身につける。 3. 効果的な学習の進め方に関する知識と学習習慣を身につける。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、はり師・きゅう師国家試験問題の分析・振り返り 前年度の国家試験、第1回模擬試験を振り返り、現在の到達レベルを知り、国家試験の傾向とこれからの対策を練る。 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の到達レベルを知る。 2. 得意な分野、不得意な分野を知る。 3. それぞれの学習計画を考える。 <p>【授業形態】 ポートフォリオ作成 アクティブ・ラーニングを行う。</p> <p>2回目 経絡経穴学、解剖学 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手太陰肺経が暗唱できる。 2. 経脈の流注・骨度法について説明ができる。 3. 血管系、静脈系、動脈系について説明ができる。 <p>【授業形態】 前半 小テスト、フィードバック 後半 問題演習</p> <p>3回目 経絡経穴学、解剖学 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手陽明大腸経が暗唱できる。 2. 五行穴について説明ができる。 3. 難経69難について説明ができる。 4. 心臓について説明ができる。 <p>【授業形態】 前半 小テスト、フィードバック 後半 問題演習</p> <p>4回目 経絡経穴学、解剖学 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 足陽明胃経が暗唱できる。 2. 五要穴について説明ができる。 3. 胎児循環について説明ができる。 <p>【授業形態】 前半 小テスト、フィードバック 後半 問題演習</p> <p>5回目 経絡経穴学、解剖学 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 足太陰脾経が暗唱できる。 2. 四総穴、八会穴、八総穴について説明ができる。 3. 動脈系、リンパ系について説明ができる。 <p>【授業形態】 前半 小テスト、フィードバック 後半 問題演習</p> <p>6回目 経絡経穴学、臨床各論 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手少陰心経が暗唱できる。 2. 奇経八脈について説明ができる。 3. 運動器疾患について説明ができる。 4. 徒手検査について説明ができる。 <p>【授業形態】 前半 小テスト、フィードバック 後半 問題演習</p> <p>7回目 経絡経穴学、解剖学、筆記試験 【到達目標】</p> <p>1～6回までの知識を振り返ることができる。</p> <p>【授業形態】 講義+筆記試験</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業に臨むマナーとして、授業計画を参考に自学自習を行うこと。 事前学習 (予習 所要時間30分) 授業内容に関連する領域の教科書を読む。 事後学習 (復習 所要時間30分) 1. ここからプリントを用いて、知識を整理する。 2. 過去の国家試験問題を解き、傾向と対策を練る。
教科書	「鍼灸医学演習テキスト」 (上下巻) 2020 明治東洋医学院専門学校
参考書	公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 1. 解剖学 2. 生理学 3. 臨床医学総論 4. 臨床医学各論 5. 東洋医学概論 6. 経絡経穴概論 7. 東洋医学臨床論 「病気がみえる」 医療情報科学研究所編 株式会社メディックメディア 平成29年6月発行 Vol.1 消化器 Vol.2 循環器 Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 Vol.4 呼吸器 Vol.5 血液 Vol.6 免疫・膠原病・感染症 Vol.7 脳・神経 Vol.8 腎・泌尿器 Vol.9 婦人科・乳腺外科 Vol.11 運動器・整形外科 Vol.12 眼科
成績評価	受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5以上の出席者に対し、評価を実施する。 評価：前期末試験(筆記試験)において60%以上取得出来た者に対し、単位を認定する。
担当教員の基本情報	教員名：田口玲奈 所属先：鍼灸学部はりきゅう学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先：r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日 13:50～17:30 教員名：齊藤真吾 所属先：鍼灸学部はりきゅう学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先：s_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日 12:00～18:00、木曜日 12:00～18:00
備考	1. 実務経験 田口玲奈：はり師きゅう師、鍼灸学(博士) 臨床歴24年 京都桂川鍼灸院への勤務経験、本学附属鍼灸センターでの実務経験(19年)をもとに指導を行う。 齊藤真吾：はり師きゅう師、鍼灸学(博士) 臨床歴12年 本学附属鍼灸センター、平成医療学園専門学校付属治療院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに指導を行う。 2. ディプロマポリシーとの関連 ◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
田口 玲奈・齊藤 真吾			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本演習は、はり師きゅう師国家試験に合格するために必要な知識を修得するだけでなく、将来、はり師きゅう師あるいは医療の専門家として、患者の悩みや社会の医療健康課題に対して貢献できる人材になるために必要な問題解決能力を身につけることも目標としている。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能を理解する。 2. 構造と機能の知識を疾病の成り立ち（病態）に活かせる能力を身につける。 3. 効果的な学習の進め方に関する知識と学習習慣を身につける。
授業計画	<p>1回目 経絡経穴学、東洋医学概論、臨床各論 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手太陽小腸経が暗唱できる。 2. 気・血・津液について説明ができる。 3. 循環器疾患について説明ができる。 4. 循環の生理について説明ができる。 <p>【授業形態】 前半 小テスト、フィードバック 後半 問題演習</p> <p>2回目 経絡経穴学、東洋医学概論、臨床各論 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 足太陽膀胱経が暗唱できる。 2. 東洋医学の病因について説明ができる。 3. 消化器疾患について説明ができる。 4. 消化器系の生理について説明ができる。 <p>【授業形態】 前半 小テスト、フィードバック 後半 問題演習</p> <p>3回目 経絡経穴学、東洋医学概論 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 足少陰腎経が暗唱できる。 2. 八綱弁証について説明ができる。 3. 気血津液弁証について説明ができる。 4. 臟腑弁証について説明ができる。 <p>【授業形態】 前半 小テスト、フィードバック 後半 問題演習</p> <p>4回目 経絡経穴学、東洋医学概論、臨床各論 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手厥陰心包経が暗唱できる。 2. 八綱弁証について説明ができる。 3. 気血津液弁証について説明ができる。 4. 臟腑弁証について説明ができる。 5. 神経疾患について説明ができる。 6. 神経系の生理について説明ができる。 <p>【授業形態】 前半 小テスト、フィードバック 後半 問題演習</p> <p>5回目 経絡経穴学、東洋医学概論、臨床各論 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手少陽三焦経が暗唱できる。 2. 八綱弁証について説明ができる。 3. 気血津液弁証について説明ができる。 4. 臟腑弁証について説明ができる。 5. 呼吸器系疾患について説明ができる。 6. 呼吸器系の生理について説明ができる。 <p>【授業形態】 前半 小テスト、フィードバック 後半 問題演習</p> <p>6回目 経絡経穴学、臨床各論、東洋医学臨床論 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 足少陽胆経、足厥陰肝経が暗唱できる。 2. 奇穴について説明ができる。 3. 様々な西洋医学的・東洋医学的所見から適切な弁証を組み立てることができる。 <p>【授業形態】 前半 小テスト、フィードバック 後半 問題演習</p>

	<p>7回目 東洋医学臨床論、筆記試験</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な西洋医学的・東洋医学的所見から適切な弁証を組み立てることができる。 2. 1～6回までの知識を振り返ることができる。 <p>【授業形態】</p> <p>アクティブ・ラーニング+筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>授業に臨むマナーとして、授業計画を参考に自学自習を行うこと。</p> <p>事前学習（予習 所要時間30分） 授業内容に関連する領域の教科書を読む。</p> <p>事後学習（復習 所要時間30分）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ここからプリントを用いて、知識を整理する。 2. 過去の国家試験問題を解き、傾向と対策を練る。
教科書	「鍼灸医学演習テキスト」（上下巻）2020 明治東洋医学院専門学校
参考書	<p>公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学 2. 生理学 3. 臨床医学総論 4. 臨床医学各論 5. 東洋医学概論 6. 経絡経穴概論 7. 東洋医学臨床論 <p>「病気がみえる」 医療情報科学研究所編 株式会社メディックメディア 平成29年6月発行</p> <p>Vol.1 消化器 Vol.2 循環器 Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 Vol.4 呼吸器 Vol.5 血液 Vol.6 免疫・膠原病・感染症 Vol.7 脳・神経 Vol.8 腎・泌尿器 Vol.9 婦人科・乳腺外科 Vol.11 運動器・整形外科 Vol.12 眼科</p>
成績評価	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5以上の出席者に対し、評価を実施する。</p> <p>評価：前期末試験（筆記試験）において60%以上取得出来た者に対し、単位を認定する。</p>
担当教員の基本情報	<p>教員名：田口玲奈 所属先：鍼灸学部はりきゅう学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先：r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日 13:50～17:30</p> <p>教員名：齊藤真吾 所属先：鍼灸学部はりきゅう学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先：s_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日 12:00～18:00、木曜日 12:00～18:00</p>
備考	<p>1. 実務経験</p> <p>田口玲奈：はり師きゅう師、鍼灸学（博士） 臨床歴24年 京都桂川鍼灸院への勤務経験、本学附属鍼灸センターでの実務経験（19年）をもとに指導を行う。</p> <p>齊藤真吾：はり師きゅう師、鍼灸学（博士） 臨床歴12年 本学附属鍼灸センター、平成医療学園専門学校付属治療院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに指導を行う。</p> <p>2. ディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎-1</p>

講義科目名称： 人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅰ：予防・養生 授業コード：
生

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義・オンライン	
添付ファイル			

授業目標	これからの医療に必要な予防や養生の基礎となる内容を学ぶ。 特に鍼灸師として、患者教育に必要な予防・養生の知識を系統的に学ぶこととします。 最終的には、鍼灸治療の際の患者指導、健康教室の開催が自分でできることを目標としています。
授業計画	<p>第1回 これからの医療で何故予防や養生が必要か？ これからの医療の中で予防や養生が必要な理由を動画で学習し、予防・養生の大切さを知る</p> <p>第2回 脳を考える 健康の精神を保つための脳について動画で学習し、機序や病気との関係、さらには家庭でも行えるセルフケア（養生）について学習する。</p> <p>第3回 腸を考える 便秘や下痢の原因となる腸について動画で学習し、機序や病気との関係、さらには家庭でも行えるセルフケア（養生）について学習する。</p> <p>第4回 老化を考える 人の最大の悩みである老化について動画で学習し、機序や病気との関係、さらには家庭でも行えるセルフケア（養生）について学習する。</p> <p>第5回 睡眠・疲労を考える 健康の中で大切な睡眠や疲労について動画で学習し、機序や病気との関係、さらには家庭でも行えるセルフケア（養生）について学習する。</p> <p>第6回 運動を考える 健康の中で大切な運動について動画で学習し、機序や病気との関係、さらには家庭でも行えるセルフケア（養生）について学習する。</p> <p>第7回 食事を考える 健康の中で大切な食事について動画で学習し、機序や病気との関係、さらには家庭でも行えるセルフケア（養生）について学習する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	動画を視聴し、理解を深めてください。 なお、不明な点は自分自身で調べた上で、それでもわからない場合は質問してください。
教科書	指定なし
参考書	指定なし
成績評価	受動的な講義形式と、学生自らが調査・発表・討論を行う講義の2つからなる。 出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追再試験を実施する。 レポートと出席で評価し、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 なお、レポート評価とする。
担当教員の基本情報	担当教員名：伊藤和憲 研究室：鍼灸センター2階教授室 メールアドレス：k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日の13:00～17:00 職務経歴：鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。
備考	DPとの関係 1：知識・理解-○ 3：関心意欲-◎

講義科目名称： 人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅱ：健康寿命 授業コード：
命

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習 対面	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：本演習では、超高齢社会を迎えた日本において健康寿命を伸延するにはどのような対応が良いのか、危急な課題となっている。厚生労働省は健康日本21で「健康寿命の延伸」を目的に種々の施策がなれている。この課題を理解でき、鍼灸師はどのように取り組むのかを考察する。</p> <p>到達目標：健康寿命を理解し、健康寿命を伸延するにはどのようなことを行う必要があるのかを考え、鍼灸師に行える健康指導や鍼灸治療を提案できる。</p>
授業計画	<p>第1回 健康寿命について 健康寿命とは何か、平均寿命との違い、他国と比較して日本の健康寿命の現状を理解し、説明することができる。 【授業形態】講義 配布資料中の設問に答えることができる（復習）。</p> <p>第2回 健康寿命の延伸とその施策について 健康日本21では「健康寿命の延伸」を目的に種々の施策がなれている。関心のある施策を理解してまとめることができる。 【授業形態】講義およびグループワーク 配布資料中の設問に答えることができる（復習）。</p> <p>第3回 健康寿命の延伸とその施策について 「健康寿命の延伸」の施策について、関心のある施策を要約して発表することができる。 【授業形態】講義およびグループワーク 発表内容に関して質問に答えることができる。また発表内用をレポートにまとめることができる（復習）。</p> <p>第4回 健康寿命と生命観、健康観 健康寿命を踏まえて、生命観や健康観について調べ、その意義を考察することができる。 【授業形態】講義およびグループワーク 配布資料中の設問に答えることができる（復習）。</p> <p>第5回 東洋医学の健康と寿命 『黄帝内経素問』上古天真論にある寿命の延伸と養生に関する内容を理解し、その要点を説明することができる。 【授業形態】講義およびグループワーク 配布資料中の設問に答えることができる（復習）。</p> <p>第6回 健康寿命の延伸と鍼灸の役割 東西医学の考えから、鍼灸師が健康寿命の延伸に関与できることを調べるができる。また、その成果を要約して発表することができる。 【授業形態】講義およびグループワーク 配布資料中の設問に答えることができる（復習）。</p> <p>第7回 まとめおよび課題レポート 講義全体を通して知識をまとめることができる。鍼灸師が健康寿命の延伸に関与できることの成果をレポートして提出できる。 【授業形態】講義 講義全体から健康寿命の延伸を行うための、東西医学における方法の概要を説明することができる（復習）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>配布プリントを熟読したり、課題テーマに対して調べること。 配布プリントの内容を参考にし、各テーマについて自身の考えを考察すること。</p>
教科書	自作プリント
参考書	厚生労働白書
成績評価	<p>出席基準：授業回数の5分の3以上の出席（欠席は2回まで）を満たした者を対象に評価する。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。評価レポートを適切な理由無くして提出しなかった場合は、再評価を行わない。 （平常点：30%、評価レポート：70%）</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：和辻 直 研究室：附属病院2F教員室 メールアドレス：t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 15:40-17:30</p>
備考	<p>鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて鍼灸治療の実務経験あり。、また在宅訪問鍼灸にも実務経験がある。 DP：3-◎、1-○</p>

--	--

講義科目名称： 人の生活・生きがいとほり・きゅう論Ⅲ：医療連 授業コード：
携

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
福田 文彦			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

講義科目名称： 人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅳ：臨床ス ポーツ
ポーツ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	選択必修
担当教員			
吉田 行宏			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習／対面	
添付ファイル			

授業目標	スポーツ現場や治療院でアスリートに関わるために、鍼灸が持つ能力を最大限生かすための知識と技術を修得することを目標とします。
授業計画	<p>1回目 スポーツ傷害に対する鍼灸治療① 【到達目標】疾走系種目で起こりやすいスポーツ傷害を理解する。臨床で実践できるよう診察法、鍼灸治療法、併用療法を習得する。 【授業形態】対面 【備考】実技を行うので、白衣と鍼灸道具を準備すること。</p> <p>2回目 スポーツ傷害に対する鍼灸治療② 【到達目標】投球系種目で起こりやすいスポーツ傷害を理解する。臨床で実践できるよう診察法、鍼灸治療法、併用療法を習得する。 【授業形態】対面 【備考】実技を行うので、白衣と鍼灸道具を準備すること。</p> <p>3回目 コンディショニングへの鍼灸の応用① 【到達目標】アスリートのコンディションとコンディショニングを理解する。 【授業形態】対面 【備考】グループでコンディションとコンディショニングについてディスカッションを行う。</p> <p>4回目 コンディショニングへの鍼灸の応用② 【到達目標】アスリートのコンディショニングに鍼灸を応用できる。 【授業形態】対面 【備考】実技を行うので、白衣と鍼灸道具を準備すること。</p> <p>5回目 鍼灸でアスリートのパフォーマンスを上げられるかを考える① 【到達目標】アスリートのパフォーマンスを理解する。 【授業形態】対面 【備考】グループでアスリートのパフォーマンスについてディスカッションを行う。</p> <p>6回目 鍼灸でアスリートのパフォーマンスを上げられるかを考える② 【到達目標】アスリートのパフォーマンスアップに鍼灸を応用できる。 【授業形態】対面 【備考】実技を行うので、白衣と鍼灸道具を準備すること。</p> <p>7回目 スポーツ現場での鍼灸の活躍を知る 【到達目標】実際のスポーツ現場で実践されている鍼灸について理解する。 【授業形態】対面 【備考】現場で活躍するトレーナー（ゲストスピーカー）からの講義を聞くことで理解を深める。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	これまでに「スポーツはり・きゅう学」、「臨床はり・きゅう学Ⅱ（運動器・スポーツ）」、「臨床はり・きゅう学実習Ⅱ（運動器・スポーツ）」で学習してきた内容を復習して本科目の予習をすること。
教科書	配布資料
参考書	鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法(医道の日本社)
成績評価	授業回数のうち3/5以上の出席(小テストもしくは課題等の提出含む)を単位の条件とします。毎回の授業後に課題もしくは小テストを実施し、以下①②を基に別途定めるルーブリックを用いて総合的に判断して優・良・可・不可で評価します。 ①授業ごのと到達目標に達しているか ②課題もしくは小テストの提出状況(期限を守れているか等)
担当教員の基本情報	教員名：吉田行宏 所属先：鍼灸学部鍼灸学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先：y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日13:50～15:30
備考	資格：はり師きゅう師、鍼灸学（博士） 実務経験：鍼灸臨床歴19年、教員歴11年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに学習指導を行う。
	アクティブラーニング：実技を行い鍼灸の効果や方法についてディスカッションする。また、グループディスカッションを行いお互いの考えを知ると共に、それらを全体にフィードバックすることで共有を図る。
	ディプロマポリシーとの関連 ③関心・意欲-◎ ①知識・理解-○

講義科目名称： 人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅴ：伝統 授業コード：
医学

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本特論では、日本で昭和初期に体系化され、伝承されてきた伝統的な鍼灸治療法の一つである「経絡治療」を取り上げ、診察から治療までの一連の過程を学習する。また経絡治療と中医学における臨床的な活用についても学習する。自ら興味を持つ愁訴について調べることで、伝統医学における病証と治療を理解する。なお経絡治療は、特に六部定位の脈診法による脈証の判断、診察情報からの証の決定の基礎を学習する。</p> <p>これまで学んできた伝統はり・きゅう学を復習して、基本と応用を学習し、自ら興味を持った愁訴において伝統鍼灸学の診察・治療をまとめて、発表できるようになる。</p>
授業計画	<p>1回目 日本伝統鍼灸の特徴（経絡治療、中医学） [到達目標] 日本伝統鍼灸の特徴（経絡治療、中医学）を理解できる。 予習：「経絡治療とは」を調べてみる。 復習：経絡治療と中医学の特徴を整理する。 AL:コミュニケーションカードにコメントに記載し、フィードバックする。</p> <p>2回目 経絡治療の病証と切診（六部定位脈診） [到達目標] 経絡治療の病証と切診。 予習：「六部定位の臟腑配当や六祖脈」を直ぐに言えるようにする。 復習：六部定位脈診、腹診と経絡治療との関連を理解する。基本的な脈診（六祖脈）が取れる。 AL:コミュニケーションカードにコメントに記載する。</p> <p>3回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（1） [到達目標] 腰痛、頭痛、腹痛における伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：腰痛、頭痛、腹痛について、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：腰痛、頭痛、腹痛における伝統医学と鍼灸治療の要点を復習する。 AL:コミュニケーションカードにコメントに記載する。</p> <p>4回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（2） [到達目標] 不眠、喘息、肩こりにおける伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：不眠、喘息、肩こりについて、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：不眠、喘息、肩こりにおける伝統医学と鍼灸治療の要点を復習する。 AL:コミュニケーションカードにコメントに記載し、フィードバックする。</p> <p>5回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（3） [到達目標] 感冒、便秘、めまいにおける伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：感冒、便秘、めまいについて、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：感冒、便秘、めまいにおける伝統医学と鍼灸治療の要点を復習する。 AL:コミュニケーションカードにコメントに記載し、フィードバックする。</p> <p>6回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（4） [到達目標] 耳鳴、顔面神経麻痺、月経痛、冷え症における伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：耳鳴、顔面神経麻痺、月経痛、冷え症について、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：耳鳴、顔面神経麻痺、月経痛、冷え症における伝統医学と鍼灸治療の要点を復習する。 AL:コミュニケーションカードにコメントに記載し、フィードバックする。</p> <p>7回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（5）教科書；p18-19 p24-25 [到達目標] 浮腫、倦怠、寝違いにおける伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：浮腫、倦怠、寝違いについて、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：浮腫、倦怠、寝違いにおける伝統医学と鍼灸治療の要点を復習する。 AL:コミュニケーションカードにコメントに記載し、フィードバックする。</p> <p>8回目 特別講義（予定） [到達目標] 日本伝統鍼灸における「経絡治療」の手技 予習：鍼の補瀉を復習する。 復習：経絡治療の接触鍼について復習する。 AL:コミュニケーションカードにコメントに記載する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義ごとに、簡単な質問を行う。このため授業プリントや教科書は持参すること。また自ら興味を持つ愁訴について伝統鍼灸の観点から調べてもらう。
教科書	『中医針灸治療のプロセス』朱紅ほか編、篠原昭二監訳（東洋学術出版社）
参考書	『すぐ使える若葉マークのための鍼灸臨床指針～臓腑病、経脈病、経筋病の診察法と治療法～』篠原昭二・和辻直（ヒューマンワールド社） 『針灸学〔臨床篇〕』日中共同編集（東洋学術出版社） 『運動器疾患の治療』整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸：平澤康介・北出利勝編集（医歯薬出版社） 『やさしい鍼を打つための本』中根一（医道の日本社） 『経絡治療のすすめ』首藤傳明（医道の日本社）
成績評価	<p>評価方法：受講状況と試験結果を総合して評価する。</p> <p>評価割合：レポート60%；レポート評価として、選択した「愁訴について」、各々、A4レポート用紙2枚以上で提出することとする（30% X2）。</p> <p>受講状況30%；受講態度（取り組み）、成果物など 授業内演習；10%の発表</p>

担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直 研究室 : 附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日の午後14:00~16:00
備考	レポート作成に必要な図書 『針灸学 [臨床編]』 (東洋学術出版社)、『新しい鍼灸診療』 篠原昭二/和辻直/北出利勝編集 (医歯薬出版社)
	附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。 アクティブラーニング: 自ら興味を持つ愁訴を調べ、その内容を発表し、その内容の疑問について話合う。 DP: ○-1、◎-3

講義科目名称： 人の生活・生きがいに必要なはり・きゅう治効学 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
角谷 英治			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

講義科目名称： スポーツバイオメカニクス

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義（遠隔授業：オンライン・オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	医療に携わる大学生として、スポーツにおけるパフォーマンスを科学的に分析し説明するための知見および技術を習得することを授業目標とする。		
授業計画	第1回	スポーツバイオメカニクスとは 【到達目標】 ・しなやかな動作の説明できる。 ・スキルについて説明できる。 ・反射と随意運動の説明できる。 ・ベクトルの計算ができる。 【授業形態】 ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第2回	動きを数値化する並進運動：速度，加速度，移動距離 【到達目標】 ・立位，歩行，走行の説明できる。 ・速度，加速度，移動距離の計算ができる。 【授業形態】 ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第3回	並進運動の力学：ニュートンの運動方程式，力積，着地時の衝撃吸収 【到達目標】 ・テコの原理について説明できる。 ・ニュートンの法則の説明ができる。 ・力積の計算ができる。 【授業形態】 ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第4回	回転運動の力学：角速度，角加速度，角変位，ハンマー投げ 【到達目標】 ・角速度，角加速度，角変位の計算ができる。 ・関節トルク，慣性モーメント，（遠心力）の説明ができる。 ・変化球の正体（マグヌス力）の説明ができる。 【授業形態】 ・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第5回	流体力学：風をとらえる（抵抗，揚力），水のねばりけ（粘性），摩擦 【到達目標】 ・風をとらえる抵抗と揚力の説明ができる。 ・水のねばりけ粘性の説明ができる。 ・摩擦の説明ができる。 【授業形態】 確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第6回	効果的な筋力トレーニングについて，試験試験 【到達目標】 ・筋腱複合体の説明ができる。 ・効率的なトレーニングの説明できる。 ・第5回までの講義内容を総合的に理解できる。 【授業形態】 ・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第7回	総括 【到達目標】 ・講義全体を振り返り，スポーツバイオメカニクスを総合的に判断し説明することができる。 【授業形態】 ・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義の項目に対して参考書を読み予習（約130分程度）すること，講義の後，配布プリントや参考書を用い復習（約130分程度）すること		
教科書	特に指定しない。		
参考書	スポーツ・バイオメカニクス入門 絵で見る講義ノート 金子 公有 杏林書院 スポーツ動作の科学—バイオメカニクスで読み解く 深代 千之 東京大学出版会		
成績評価	試験（100%）により評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 赤澤 淳 研究室 : 5号館3階研究室 オフィスアワー : 授業の終了後1時間		
備考	DPとの関連「◎-1」		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	実技（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、「健康運動実践指導者資格取得」を目標とする。さて、生涯を通じて健康維持増進を図ることへの関心が高まって以来久しいが、健康運動指導に必要な知識と有酸素運動の特性を理解した上で、水中運動の基本的な技術を習得し、仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として、実践を中心とした授業を展開する。すなわち、グループ指導能力の繰り返し実践を通し、人間性と教養を身につけコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。また、他者の健康管理と健康指導に従事しようとする医療人に求められている、自分のからだの仕組みを知り自身の健康に対する意識を常に高める習慣づくりとは何かを体得する。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解することができる。 [授業形態] 講義と実習</p> <p>第2講 水中運動とは何か事前に調べ（予習35分）、本時内容をまとめる（復習35分）。 水中運動の課題運動① [到達目標] 水の特性（浮力・水抵抗・水圧・水温）について解説できるようになる。 [授業形態] 講義と実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第3講 水中運動の課題運動② [到達目標] 水中運動の基本姿勢やテンポ、動作を習得し、リズムカルに動けるようになる。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第4講 水中運動の課題運動③ [到達目標] 前歩き・横歩き・後ろ歩き・回旋歩きを習得し教示できるようにする。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第5講 水中レジスタンス運動① [到達目標] 水中レジスタンス運動の特性・目的・内容について理解し、説明できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第6講 水中レジスタンス運動② [到達目標] 課題とした基本姿勢・動作確認に習熟し、指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第7講 水中レジスタンス運動③ [到達目標] 運動強度の考えかた、実施における留意点などを理解し、解説できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第8講 応用：プログラム作成 [到達目標] 水中運動・水中レジスタンス運動のグループワークを習熟し、水の抵抗を利用した筋の強化運動のグループワークを指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第9講 プールにおける実践指導① [到達目標] 「規定の課題運動」を、グループワークにて指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第10講 プールにおける実践指導② [到達目標] グループワーク指導で、キューイング法とステップ動作指導ができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第11講 プールにおける実践指導③ [到達目標] グループワーク指導で、課題ステップ動作を実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第12講 プールにおける実践指導④ [到達目標] 運動プログラム作成・実践指導：プールに於いて「課題運動」の運動の目的と内容を説明でき、実演できる能力を身につける。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第13講 プールにおける実践指導⑤ [到達目標] 対象者の健康状態に即した運動プログラム作成・実践指導を、プールに於いて実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p>

	<p>第14講 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。 プールにおける実践指導⑥ [到達目標]（実習のまとめ）。第1講～第13講を総括した実践指導ができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	資料を集め、水中運動の要点をまとめた自分のハンドブックを作成する。プログラム作成後は、それに基づいた指導練習を行う。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布する。
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（公財）健康・体カづくり事業財団
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席（欠席は2回まで可とする）。 実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 服装は、運動に適した服装、屋内シューズ。 ② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。 ③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-3

講義科目名称： スポーツテーピング実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
吉田 勲生・沖 和久			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】この授業では、既に習得した身体構造と身体における運動学を基に、スポーツ現場で遭遇する外傷・障害に対して、柔道整復師として実施可能なアプローチ方法を学び、技術を習得する。</p> <p>【到達目標】スポーツ選手（アスリート）に特有な外傷・障害の発生メカニズムを理解するとともにテーピング並びに早期現場復帰のための運動療法を習得する。</p>
授業計画	<p>1回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足関節） 【到達目標】足関節部の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】足関節の機能解剖を述べることができる。</p> <p>2回目 足関節のテーピングと運動療法の実践Ⅰ 【到達目標】基本的な足関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】足関節に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>3回目 足関節のテーピングと運動療法の実践Ⅱ 【到達目標】応用的な足関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】足関節周囲に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>4回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（足部） 【到達目標】足部の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】足部の機能解剖を述べることができる。</p> <p>5回目 足部のテーピングと運動療法の実践 【到達目標】足部のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】足部に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>6回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（膝関節） 【到達目標】膝関節の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】膝関節の機能解剖を述べることができる。</p> <p>7回目 膝関節のテーピングと運動療法の実践（膝関節Ⅰ） 【到達目標】基本的な膝関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】膝関節に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>8回目 膝関節のテーピングと運動療法の実践（膝関節Ⅱ） 【到達目標】応用的な膝関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】膝関節周囲に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>9回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（大腿部・腰） 【到達目標】大腿部・腰部の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】大腿部・腰部の機能解剖を述べることができる。</p> <p>10回目 大腿部・腰部のテーピングと運動療法の実践 【到達目標】大腿部・腰部のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】大腿部・腰部に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>11回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（肘部・手関節） 【到達目標】肘部・手関節の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】肘部・手関節の機能解剖を述べることができる。</p> <p>12回目 肘部・手関節のテーピングと運動療法の実践 【到達目標】肘部・手関節のテーピングと運動療法を体得し、実施することができる。 【備考】肘部・手関節に発生する外傷・障害を述べることができる。 【アクティブラーニング】有：随時、患者役と術者役を交互に行いながら実技を実施する。</p> <p>13回目 スポーツ外傷・障害発生メカニズム（肩関節・他） 【到達目標】肩関節の外傷・障害発生時のエピソードを理解し、説明することができる。 【備考】肩関節の機能解剖を述べることができる。</p> <p>14回目 理解度チェック</p> <p>15回目</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業時に配布する資料に授業内で理解出来ない部分を記載し、次の授業までに自習または教員に質問し、理解すること。また、[備考]を参考に次回授業で行われる各関節・周辺部位の機能解剖を理解しておくこと。（各回の予習および復習に必要な時間は1時間程度）
教科書	授業配布資料

参考書	柔道整復学・実技編 改訂第2版(全国柔道整復学校協会監修、教科書委員会編)
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。(筆記試験50%、実技試験50%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田勲生 研究室 : 8号館4階 メールアドレス : isao@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 沖 和久 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : oki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-2、○-1
	吉田勲生 : 応急救護での実務経験をもとに外傷・障害発生後の処置について授業をすすめる。 沖 和久 : 応急救護での実務経験をもとに外傷・障害発生後の処置について授業をすすめる。

講義科目名称： アスレチックリハビリテーション

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
川西 弘晃			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

講義科目名称： アスレチックリハビリテーション実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
川西 弘晃			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

講義科目名称： ジュニアスポーツ指導の実際 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
岩内 和也・齊藤 昌久			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習（オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス3S438_ジュニアスポーツの指導の実際 I _鍼灸_齊藤・岩内.xlsx			

授業目標	スポーツとの「出会い」の時期となるジュニア期は、その後のスポーツライフスタイルや大人になってからの生活習慣を左右する大切な時期となる。それだけにジュニアスポーツ指導員に求められる役割や理解しておくべき知識や事柄は多岐にわたる。 本授業では、テキストを用いて「スポーツ好き」の子ども達を増やし、将来アスリートとなるための土台づくりを行うために、指導の基本となる知識を学んでいく。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、 (1)概論① [到達目標] 子どもたちの運動・スポーツ実施状況、体力・運動能力の現状と課題、発育発達に応じた適切な運動・スポーツ活動の重要性について理解し説明できる。</p> <p>第2講 (1)概論② [到達目標] 前時の理解を基に、ジュニアスポーツ指導員の役割と求められる資質について説明できる。</p> <p>第3講 (2)コーチング① [到達目標] ジュニア期のコーチングの目指すもの、発達に応じたコーチングについて理念を理解し説明できる。</p> <p>第4講 (2)コーチング① [到達目標] ジュニア期のコーチングにおける留意点について説明できる。</p> <p>第5講 (3)体力 [到達目標] ①発育期の体格の変化、体力の変化や特徴を理解し説明できる。 ②体力テストのねらいや種類、その活用について理解する。</p> <p>第6講 (4)動きの発達 [到達目標] 発育期における動きの発達について、その機序と特徴を理解し、発達段階に応じた効果的かつ適切な運動指導ができる知識を習得する。</p> <p>第7講 (5)心理① [到達目標] 幼少年期の運動との出会いが持つ意味、子どもの人格的・認知的・社会的発達と運動遊びの関係を知る。</p> <p>第8講 (5)心理② [到達目標] 運動遊びが子どもの心に及ぼす影響について基礎的知識の理解を通して、運動遊びの指導ができる。</p> <p>第9講 (6)栄養① [到達目標] 生涯の健康づくりの基礎となる栄養・食事摂取の考え方と正しい食習慣を獲得するための栄養教育方法を学ぶ。</p> <p>第10講 (6)栄養② [到達目標] 栄養・食事面の課題に対して具体的な対処ができる指導力を身につける。</p> <p>第11講 (7)スポーツ医学① [到達目標] スポーツに関連する外傷や障害の発生原因や背景を学ぶ。</p> <p>第12講 (7)スポーツ医学② [到達目標] 安全で科学的なトレーニング方法について理解し実践できる。</p> <p>第13講 (8)女性とスポーツ① [到達目標] 女性の身体的・体的特徴、起こり得る諸問題、月経に関する基礎知識を深める。</p> <p>第14講 (8)女性とスポーツ② [到達目標] 女性としての健康に配慮したスポーツ活動への参加について、適切な指導ができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義のタイトルを事前学習（予習35分）するとともに、受講後に学習したことをまとめる（復習35分）。
教科書	公益財団法人日本スポーツ協会

	「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
参考書	特定の参考書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
成績評価	4/5以上の出席をもって評価の対象とする。 評価方法と評価割合（試験50%、小テスト・レポート30%、受講状況20%）
担当教員の基本情報	担当教員名： 齊藤 昌久 / 岩内和也 研究室： 齊藤（8号館4階 研究室） / 岩内（6号館1階 非常勤講師室） メールアドレス： ma_saito@meiji-u.ac.jp / オフィスアワー： 授業開始前及び授業終了後に受け付ける
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連； ◎-1、 ○-2
	担当の岩内和也先生は、永年にわたり府立高等学校の保健体育の教員をし、教科指導以外にもスポーツ（サッカー）のコーチングも行ってこられた。この豊かな指導経験をもとに「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ・Ⅱ」について実習指導を行う。

講義科目名称： ジュニアスポーツ指導の実際Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
岩内 和也・齊藤 昌久			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習（対面/オンデマンド）	
添付ファイル			
2021年度シラバス3S439_ジュニアスポーツの指導の実際Ⅱ _鍼灸_齊藤・岩内.xlsx			

授業目標	<p>「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅱ」では、「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ」で学んだ内容を基に実際にどのように指導すればよいのかを実技を通して学んでいく。</p> <p>併せて、指導に際しての事前準備、指導計画の立案、指導実践、指導内容について学び、自分自身の指導の評価と改善、応用実践ができるようになることを目標とする。</p> <p>また、総まとめとして、実際の指導現場（ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等）で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験する（体験実習）。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、授業（実習）の進め方について [到達目標] 授業（実習）のすすめ方を理解する</p> <p>第2講 発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択について（1） [到達目標] ジュニア期における運動遊びの価値について理解し説明できる。</p> <p>第3講 発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択について（2） [到達目標] 発達段階に応じた運動遊びの選択ができる。</p> <p>第4講 発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択について（3） [到達目標] 発達段階に応じたスポーツの選択ができる。</p> <p>第5講 スポーツ指導における運動遊びの活用について [到達目標] スポーツ指導における運動遊びの活用場面、活用方法について理解する。</p> <p>第6講 アイスブレイクの必要性について（1） [到達目標] アイスブレイクの必要性について理解し説明できる。</p> <p>第7講 アイスブレイクの必要性について（2） [到達目標] スポーツの指導現場で使えるアイスブレイクの具体例を作成することができる。</p> <p>第8講 運動遊びをアレンジする必要性について [到達目標] 運動遊びをアレンジする必要性とその方策について理解し説明できる。</p> <p>第9講 指導プログラムの作成について [到達目標] 指導プログラムの作成手順、留意点を理解し指導プログラムを作成できる。</p> <p>第10講 プログラムの指導実践について [到達目標] 指導実践を行う際の留意点（ねらい、観察、働きかけ）を理解し説明できる。</p> <p>第11講 指導内容の評価方法について [到達目標] 指導内容の振り返り手順について理解し説明できる。</p> <p>第12講 ジュニアスポーツ指導体験実習（1） [到達目標] ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験・実習する。</p> <p>第13講 ジュニアスポーツ指導体験実習（2） [到達目標] ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験・実習する。</p> <p>第14講 まとめ [到達目標] 授業のまとめとなる「レポート」を作成する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前学習として、教科書のタイトルに示した内容について、事前学習をする。（予習35分） 事後学習として、授業内容や実践・作成したプログラムについてまとめる。（復習35分）
教科書	公益財団法人日本スポーツ協会 「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
参考書	特定の参考書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
成績評価	(1) 4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

	(2) 授業取状況及び出席状況：50% プログラム作成・発表：30% 指導体験実習、レポート：20%
担当教員の基本情報	担当教員名： 齊藤昌久 / 岩内和也 研究室： 齊藤（8号館4階 研究室） / 岩内（6号館1階 非常勤講師室） メールアドレス： ma_saito@meiji-u.ac.jp / オフィスアワー： 授業開始前及び授業終了後に受け付ける
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連；◎-1、○-3, 4
	担当の岩内和也先生は、永年にわたり府立高等学校の保健体育の教員をし、教科指導以外にもスポーツ（サッカー）のコーチングも行ってこられた。この豊かな指導経験をもとに「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ・Ⅱ」について実習指導を行う。

講義科目名称： 卒業研究IV

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
添付ファイル			

授業目標	明治国際医療大学の本学の建学の精神・教学の理念を学び、医療人としての鍼灸師のあり方を理解するとともに、附属病院、他の医療職との連携について理解する。
授業計画	<p>第1回 明治国際医療大学の建学の精神・教学の理念、沿革と教育の特徴 1. 建学の精神・教学の理念 2. 明治国際医療大学の歴史 3. 明治国際医療大学の教育の特徴</p> <p>第2回 鍼灸学部を目指すもの 鍼灸学部を目指す世界観について、</p> <p>第3回 医療人としての鍼灸師（伊藤）（討論：アクティブラーニング） 1. 求められる鍼灸師像 2. 他の医療職種との連携の必要性</p> <p>第4回 保健医療学部柔道整復学科の教育（保険医療学科長） 保健医療学部柔道整復学科の教育概要と目指す医療人像</p> <p>第5回 保健医療学部救急救命学科の教育（救急救命学科長） 保健医療学部救急救命学科の教育概要と目指す医療人像</p> <p>第6回 大学の特徴 大学の方針や各学部の特徴を知ること、大学を深く理解する。</p> <p>第7回 各学部の特徴 明治国際医療大学の各学部について理解する</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での講義はどのようなものかについてインターネットや書籍などで調べる ・シラバスで鍼灸学部の講義を事前に確認する
教科書	配布プリント
参考書	なし
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の成績の評価は、入学時または前期末の「すらの実力テスト」で正解率6割以上が必須条件となる。 ・入学時の「すらの実力テスト」で正解率6割以上の者は、すらの課題実施を課さないが、前期末にも同様の試験を全員対象に行う予定であるので、基礎学力を維持するよう自主学習を推奨する。 ・入学時の「すらの実力テスト」で正解率6割を下回った者は、前期末の同様の試験までにすらの大学指定範囲の課題を必ず完了し、基礎学力を十分高めて前期末のテストに臨み、正解率6割以上をとること。ただし、前期末の試験で正解率6割を切った場合は「大学の教育と研究」・「生物」または「生き物の科学」の単位が保留になるため、自主学習を積極的に進めること。 ・特に入学時の「すらの実力テスト」の結果が正解率6割以下で「基礎学力テスト」の成績不良であった者は、学修支援センターへ呼び出され、そこでしっかり指導を受けて基礎学力を身に付け、前期末のテストに臨むこと。
担当教員の基本情報	<p>伊藤和憲（鍼灸学部）、岡本武昌（保健医療学部・柔道整復学科）、樋口敏宏（保健医療学部・救急救命学科）、山下八重子（看護学部）、苗村健慈（附属病院病院長） オフィスアワー：各教員に確認のこと 伊藤和憲：鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。 伊藤和憲：</p>
備考	DPとの関係：3：関心意欲

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
山本 岳			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	信頼される医療従事者になるためには、人間を知ることが必要です。それを学ぶ手段の1つとして、心理学という分野が存在します。また最近では、社会状況の複雑化等により、ますますメンタルケアが必要であることが指摘されています。 そのことから本講義では、心理学の基礎を学びながら、医療従事者として今後出会うであろう患者へのメンタルケアの重要性を理解してもらうことを目的として講義を実施します。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション(授業方針、評価方法)、心理学とは何か。基礎心理学①(知覚とは) [到達目標]心理学はどのようなもので、どんな分野があるのか理解するとともに、基礎心理学(知覚・認知)の概要を理解する。 (キーワード：心理学、知覚心理学・認知心理学) [備考]</p> <p>第2講 基礎心理学②(学習、適応とは 心理的ストレスの概要) [到達目標]基礎心理学(学習、適応)の概要、心理的ストレスの概念と概要を理解する。 (キーワード：(学習心理学、ストレス、ストレス反応、コーピング) [備考]</p> <p>第3講 発達心理学(子どもから大人までのこころの発達と教育) [到達目標]子どもから大人までのこころの発達の概要を理解する。 (キーワード：発達心理学) [備考]</p> <p>第4講 臨床心理学(心理技法と精神症状)① [到達目標]臨床現場で出会う可能性のあるこころの病気や障がいの概要を理解する。 (キーワード：臨床心理学 精神症状) [備考]</p> <p>第5講 臨床心理学(心理技法と精神症状)② [到達目標]臨床現場で出会う可能性のある心理療法や心理検査の概要を理解する。 (キーワード：心理アセスメント) [備考]</p> <p>第6講 臨床心理学(心理技法と精神症状)③ [到達目標]臨床現場で出会う可能性のある心理療法や心理検査の概要を理解する。 (キーワード：心理療法) [備考]</p> <p>第7講 まとめ(評価含む) [到達目標]第1講から第6講までのまとめ [備考]</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	配布資料を使い事前学習や事後学習をすることをお勧めします。 また余力のある受講者は、授業計画にある各キーワードを調べておくことも良い学習に繋がると思います。 教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習90分)。
教科書	特にありません。講義の進み具合で適宜資料を配布します。
参考書	1. 心理学概論(向井希宏・水野邦夫 編, ナカニシヤ出版) 2. 心理学 [第3版] (和田万紀 編 弘文堂)
成績評価	1. 心理学全般の知識(40点):定期試験(持込不可)を行います。試験範囲は全講義内容から問題を提示します。 2. 平常点(60点):出席カードを毎回提出してもらいます。 ①心理学とは何かを理解し、それを活用できる。 ②受講者という集団の一人として、そして医療従事者の卵として、他者を尊重・共感し、他者の話を傾聴できる。 ③授業に積極的に参加し、自ら質問や発言をする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 岳 (非常勤講師) 研究室 : 6号館非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー: 授業終了後
備考	講義は基本的にPower Pointを使用します。受講者は各自で適宜配布する資料にメモを取って受講するようにしてください。講義は講師と学生の双方向の関わりにより進めます。そのことから、講義をただ聞くという受け身の姿勢ではなく、積極的に講義に参加する学生に受講してもらいたいと思います。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-4, ○-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
吉田 行宏、和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習／対面	
添付ファイル			

授業目標	自主的に学ぶ存在である「大学生」の学び方の修得を目標とする。 はり師・きゅう師として必要な思考力、調査力、表現力、発信力を身に付け、多様化する鍼灸のニーズを認識し、はり師・きゅう師に関連した社会動向や医療の動向など最新の情報を理解する。
授業計画	<p>1回目 鍼灸学科の教育課程(カリキュラム)について理解し、自らの履修モデルを作成する 【到達目標】後期の大学生活における科目履修について知る。 【授業形態】対面 【備考】自らの履修モデルを作成する。後期の履修科目について予習しておくこと。体調管理アプリを用いた体調チェックを実施する。</p> <p>2回目 大学での学びを深める① 【到達目標】大学での学びを深めるため、解剖学・生理学・経絡経穴学等の鍼灸の基礎となる科目の理解を深める。 【授業形態】対面 【備考】グループを作成し、各グループでディスカッションを行いながら学びを深める。</p> <p>3回目 大学での学びを深める② 【到達目標】大学での学びを深めるため、解剖学・生理学・経絡経穴学等の鍼灸の基礎となる科目の理解を深める。 【授業形態】対面 【備考】グループを作成し、各グループでディスカッションを行いながら学びを深める。体調管理アプリを用いた体調チェックを実施する。</p> <p>4回目 大学での学びを深める③ 【到達目標】大学での学びを深めるため、解剖学・生理学・経絡経穴学等の鍼灸の基礎となる科目の理解を深める。 【授業形態】対面 【備考】グループを作成し、各グループでディスカッションを行いながら学びを深める。</p> <p>5回目 大学での学びを深める④ 【到達目標】大学での学びを深めるため、解剖学・生理学・経絡経穴学等の鍼灸の基礎となる科目の理解を深める。 【授業形態】対面 【備考】グループを作成し、各グループでディスカッションを行いながら学びを深める。体調管理アプリを用いた体調チェックを実施する。</p> <p>6回目 はり師・きゅう師国家試験を知る① 【到達目標】はり師・きゅう師国家試験について理解する。 【授業形態】対面 【備考】グループを作成し、各グループでディスカッションを行いながら学びを深める。</p> <p>7回目 はり師・きゅう師国家試験を知る② 【到達目標】はり師・きゅう師国家試験に出題されている、これまでに学習した内容を理解する。 【授業形態】対面 【備考】グループを作成し、各グループでディスカッションを行いながら学びを深める。体調管理アプリを用いた体調チェックを実施する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	鍼灸や医療の動向を注視し、最新の情報に触れておく。
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	3/5以上の出席とレポート課題をすべて提出したものに単位を認める。 成績は主体的な授業参加度を重視し、授業内で実施するレポートや課題への取り組みで総合的に評価(優・良・可)する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 吉田行宏、和辻 直 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室、教授室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp、t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	担当者は附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。 アクティブラーニング：グループを作成し、各グループでディスカッションを行いながら学びを深める。
	ディプロマポリシーとの関連 ②思考・判断-○ ③関心・意欲-○ ④態度・人間性-○

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
前中 一晃			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義／対面	
添付ファイル			

授業目標	21世紀の人類の課題は、エネルギーや資源、自然、環境、生命をめぐる多くの問題に向いあうことである。そのためにさまざまな現象を生み出してきた地球の環境条件がどのように変化してきたかを体系的に学習する。		
授業計画	1回目	はじめに [到達目標] 地球にはさまざまな環境問題がある。	
	2回目	地球史概観 [到達目標] 地球46億年の歴史について概観する。 [備考] 地球史年表の作成 地球環境の変遷について理解するため地球史の時代区分を知っておく。	
	3回目	地球環境を変えたもの① [到達目標] 大気の成分を変えたもの	
	4回目	地球環境を変えたもの② [到達目標] 地球の環境を破壊したもの	
	5回目	病んでる地球 [到達目標] 病んでる地球とはどういうことか	
	6回目	深刻な環境問題 [到達目標] 地球温暖化・ごみ問題	
	7回目	広がる環境問題 [到達目標] オゾン層の破壊・水問題	
	8回目	まとめ レポート作成等	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	使用するプリントを事前配布する。あらかじめ下調べしておくように。 教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。		
教科書	毎週プリントを配付		
参考書	なし		
成績評価	出席点＋試験点で判断。 出席点には毎授業で実施する小試験の点数を加味。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 前中 一晃 (非常勤講師) 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : mae7kaz3aki4@docomo.ne.jp オフィスアワー : 授業終了後		
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3, ○-2		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：鍼灸学科	授業時間：30時間	授業形態：講義（オンライン）	GoogleClassroomを活用
添付ファイル			

授業目標	この授業では、大学でどのように学ぶのか、またそのために必要なスキルとは何かを学んでいきます。そして、授業の全体を通して、皆さんが学びに対するスキルの獲得や学びへの真摯な態度を培うことが、この授業の目的です。
授業計画	<p>第1講 大学ってどんなところ！？ 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で求められる力や態度を具体的に述べることができる。 ・高校と大学との違いを述べるができる。 ・自らの学びの姿勢を見つめることができる。 <p>※課題1：高校と大学の違いをレポートする。</p> <p>第2講 1. 大学の昔と今、そして未来 2. 考える、てどういうこと？① 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（学）明治東洋医学院の歴史を知り、自らの位置を関連づけることができる。 ・学びのスキルや思考方法を活用できる。 <p>第3講 1. 考える、てどういうこと？② 2. 学習スタイルを知ろう！ 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びのスキル、思考方法が活用できる。 ・自らの学習スタイルを知り、自らの学びの姿勢を対象化できる。 <p>第4講 Active Learning①：ポップを作ろう① 協調学習と自律学習を組合せたActive Learningを通して、ポップを作成する（詳細は、本時で説明します）。 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポップ作りを通して、学習課題に対して説明できる。 <p>第5講 Active Learning②：ポップを作ろう② 協調学習と自律学習を組合せたActive Learningを通して、ポップを作成する。 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポップ作りを通して、学習課題に対して説明できる。 <p>※課題1：ポップを提出する。</p> <p>第6講 Active Learning③：図式化に挑戦① 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Active Learningを通して、任意の科目についてその重要ポイントを図式化できる。 <p>第7講 Active Learning④：図式化に挑戦② 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Active Learningを通して、任意の科目についてその重要ポイントを図式化できる。 ・自らの図式化を評価できる。 <p>※課題2：図式化の成果物を提出する。</p> <p>第8講 レポートの作成方法① 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの作成について、その概要を説明できる。 <p>第9講 レポートの作成方法② 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にレポートの作成に取り組み、より良いレポートが作成できる。 <p>※レポート課題は、本時で提示する。 ※課題3：レポートの提出。</p> <p>第10講 プロフェッショナリズムを考える。 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロフェッショナリズムの概要を説明できる。 <p>第11講 医療におけるコミュニケーションを考える。 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療におけるコミュニケーションの実際を説明できる。 <p>第12講 批判的思考を学ぶ① 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・批判的思考の概要を説明できる。 <p>第13講 批判的思考を学ぶ② 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・批判的思考を活用できる。 <p>第14講 本授業の振り返りとまとめ 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業で学んだ内容を振り返り、授業の目的と今の自分を省察することができる。

授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外の課題は、すべてGoogleClassroomにUPします。 ・課題内容に応じて、グループまたは個人で取り組み、GoogleClassroomに提出してください(初回の授業で説明します)。 ・GoogleClassroomへの書き込み(提出物)を教室で提示、議論を深めていきます。 ・各課題は、「授業計画」欄に示す※印です。 本授業における時間外学習は、週1時間となります。
教科書	授業テーマ毎に応じた、自作資料を配布します。
参考書	必要により、授業テーマ毎に資料として配布します。
成績評価	【評価方法・基準】 ①授業中の態度(私語や迷惑行為などの不適切な態度で、-5点:減点法) ②4つの課題提出点(未提出で、各-5点:減点法) ③定期試験(本授業内容を踏まえた知識活用問題:100点満点)の3つの合計点で評価する。 ・60点以上を合格とする。 ※課題などへのコメント(評価)は、GoogleClassroomへUpします(全体or個別)。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 河井 正隆 研究室 : 学修支援センター別室(3号館) メールアドレス : m_kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日、午後5時30分～午後7時
備考	本授業では、スマートフォンやノートパソコンなどの端末機を積極的に活用します。
	本授業とディプロマ・ポリシーとの関連:◎-2、○-3
	授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。 その場合は、GoogleClassroomでお伝えします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
鳴瀬 善久			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30	講義形態：対面講義（ブレン ディッド型）	
添付ファイル			

授業目標	<p>【教育目標】 生物学について学ぶことは、自分自身をより深く理解することへとつながる。講義では、カラダの器官（臓器）の位置から始まり、カラダのなりたちを、それを構成する分子から細胞・組織、器官、器官系へと順に学び、ヒトのからだのかたちやはたらきについて理解し、自分の言葉で説明できることを目指す。（解剖生理学への入門） ヒトのカラダの発生や遺伝の原理、人間が受精卵といった1個の細胞からどのようにして発生するのか、また子供はどのようにして親に似ているのかなど、生物の生きている不思議さと尊厳を学ぶ。医療人の一人として、ウイルスや微生物、植物、動物など生物界を通し、人間の存在意義について理解し考察できることを目指す。</p>
授業計画	<p>1回目 序論：胃、心臓ってどこにある？カラダの中の器官（臓器）がどこにあるのか知ろう。 [到達目標] ヒトのカラダの中の空間と器官（臓器）の位置関係が描ける。また器官の簡単なはたらきを説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 講義に必要な部分のプリントを配布する。講義前には各器官（心臓や腎臓、小腸など）がどこにあるか調べておくこと。講義終了後は、必ず復習をしてその日のうちに講義内容を理解しよう！次回講義までに必ず復習と予習をすること。次回の講義では、はじめの15分～30分で前回の講義内容をグループディスカッションして学修を深める（アクティブラーニング）。</p> <p>2回目 食物は口から入ってどこへ行く？食べ物はどう消化されるの？（消化器と酵素） [到達目標] 口から肛門まで食べ物が通過する器官を説明できる。3大栄養素はどう消化されるか説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 口腔、咽頭、食道、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆嚢、膵臓、3大栄養素、タンパク質、糖質、脂質、消化酵素など。 講義前にWeb玉先生の指定された動画を見て、まとめノートを作成していることを前提として講義を進める（指定動画はGoogle Classroomで案内を行う）。そのため、講義までにWeb玉先生の指定動画内容を理解すること（予習：30分）。 講義中は各グループに分かれ、グループ内で各個人が必ず上記テーマ内容が説明できるように努める（アクティブラーニング）。わからない場合は徹底的に調べ、教員や友人にも聞き、まとめておき、講義後はそれを復習すること（復習：1時間）。 また、講義の終わりに講義内容の小テストを行い、どの程度理解できているか確認する。小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。（3回目講義以降も同様）</p> <p>3回目 カラダをつくる物質は何からできているのか？ [到達目標] 体を作り上げるさまざまな分子とその働きを理解する。三大栄養素のタンパク質、糖質と脂質について説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 五大栄養素（タンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラル）と核酸、水など</p> <p>4回目 呼吸、なぜ酸素と二酸化炭素のガス交換が必要か？（呼吸器系） [到達目標] ガス交換としての呼吸器系（外呼吸と内呼吸）を説明ができる。さまざまな代謝系（代謝経路マップ）の説明ができる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 呼吸器：鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺など</p> <p>5回目 酸素と栄養素を運搬する血液循環としての血管、心臓の循環器系とは？ [到達目標] 酸素・栄養素を運び、毛細血管で二酸化炭素と老廃物を交換する血液とポンプの役割としての心臓を通し循環器系を説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 循環器：心臓、動脈、静脈、生命の維持と活動に必要なエネルギーATP</p> <p>6回目 カラダの老廃物はどこへいく？（泌尿器系） [到達目標] カラダの中の老廃物はどこで作られ、どこへ運ばれるか説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 腎臓、尿管、膀胱、尿道、尿、アンモニア、尿素、尿酸など</p> <p>7回目 カラダをコントロールする神経系とは？ [到達目標] カラダを動かす運動神経、感覚を伝える感覚（知覚）神経、器官の働きをコントロールする自律</p>

	<p>神経を説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 中枢神経：脳、脊髄。末梢神経：脳神経、脊髄神経。体性神経、運動神経、感覚神経、自律神経など</p> <p>8回目 五感とは？（感覚器系） [到達目標] 見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れるなどの五感や感覚を説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考]</p> <p>9回目 視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、触覚、感覚（表在感覚、内臓感覚、深部感覚）など 血液とカラダを守る免疫とは？ [到達目標] 血液とカラダを守る免疫系を理解し説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考] 血液、血液の細胞、カラダを守る（免疫系、血液凝固、組織の再生、解毒など）、細胞性免疫、液性免疫</p> <p>10回目 ホメオスタシス（恒常性）とホルモン（内分泌系） [到達目標] 外部環境に対する体内環境の調節を説明できる。ホルモン（内分泌）調節について理解し説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考]</p> <p>11回目 外部環境に対する生体の巧妙な対応。体内環境の調節（生体の化学成分はほぼ一定）、代謝、ホルモン（内分泌）。 命の誕生（生殖と発生）と性の決まるしくみ（生殖器） [到達目標] 生殖と性、減数分裂と受精について説明できる。ヒトの体はどのようにしてつくられるのか、発生のしくみを説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考]</p> <p>12回目 途切れの無い生命をつなぐ担い手、子孫を残す生殖細胞（精子、卵子、受精）減数分裂、染色体発生（受精卵の分化、胎児の発育・出生）。 遺伝子の働き（1） [到達目標] 染色体と遺伝子について説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り 【実習と演習】 遺伝暗号を解読しよう。 [備考]</p> <p>13回目 生命の設計図、DNA、RNA、染色体、遺伝子、セントラルドグマ、転写、翻訳 遺伝子の働き（2） [到達目標] 遺伝暗号とタンパク質ができる仕組みを説明できる。オペロンを説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り 【実習と演習】 遺伝暗号を解読しよう②。自分のDNAを見てみよう！ [備考]生命の設計図であるDNAを簡単な実験で見よう！（DNAはどれだけ集めれば目で見えるのか？）</p> <p>14回目 遺伝の仕組み、突然変異と遺伝病 [到達目標] 遺伝、特にメンデル遺伝について説明できる。 [授業形態]アクティブラーニング有り [備考]</p> <p>15回目 メンデル遺伝、伴性遺伝、遺伝病など 定期試験 各講義で行われた小テストをもとに定期テストを行う。（70%）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>講義は、講義前にWeb玉先生の指定された動画を見て、まとめノートを作成していることを前提として進める（Google Classroomで案内を行う）。そのため、講義までにWeb玉先生の指定動画内容を理解すること（予習：30分）。 講義中は各グループに分かれ、グループ内で各個人が必ず講義のテーマ内容が説明できるように努める（アクティブラーニング）。わからない場合は徹底的に調べ、教員や友人にも聞き、まとめておき、講義後はそれを復習すること（復習：1時間）。 また、講義の終わりに講義内容の小テストを行い、どの程度理解できているか確認する。 小テスト結果のフィードバックはGoogle Classroomで行う。</p>
教科書	<p>（入学前教育として配布した教材）MOVE 人体のふしぎ [新訂版] 講談社編 2020年、2,200円（税込）+（講義時間ごとに補足プリントを配布）</p>
参考書	<p>『のほほん解剖生理学』玉先生 他（永岡書店）2016年、1,480円+税 高校教科書『生物』（教研出版）1,287円など 『生物用語集』吉田邦久 他共著（駿台文庫）1,250円+税 『視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録』鈴木孝仁 監修（数件出版）1,130円+税 【もっと詳しく学びたい学生へ】 『キャンベル 生物学』Neil A. Campbell、小林 興 監訳（丸善）15,000円+税</p>
成績評価	<p>第1回目から14回目までの講義内容に関連したヒトのからだの簡単な構造やはたらき、生命を構成する物質、染色体と遺伝子、遺伝などの基本知識を筆記試験で把握し、その理解度を評価する。 評価割合：小テスト30%、試験70%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：鳴瀬 善久 研究室：1号館2階 教授室または3号館学修支援センター メールアドレス：ynaruse@meiji-u.ac.jp</p>

	オフィスアワー : 水曜日放課後17:30-19:00
備考	①実務経験の有無: 実務経験あり。製薬会社、研究所、医科大学の解剖学教室に勤務していた。その実務経験をもとに生物について講義を行う。 ②この授業とディプロマポリシーとの関係: 1. 知識・理解◎-1、 2. 思考・判断○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
赤澤 淳			
鍼灸学科	30時間	講義 (オンデマンド)	
添付ファイル			

授業目標	医療には物理学の知見が多く取り入れられている。本講義では、医学を深く学ぶ上で必要となる物理学の基礎知識を身に着けることを授業目標とする。		
授業計画	第1回	単位と移動の基礎 到達目標： ・単位を説明できる。速度，加速度，移動距離を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第2回	ニュートンの法則 到達目標： ・三角関数が理解できる。 ・ベクトルを計算できる。 ・ニュートンの法則を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第3回	浮力 到達目標： ・密度を計算できる。 ・浮力を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第4回	放物運動 到達目標： ・自由落下，投げ上げの速度，移動距離が計算できる。 ・放物運動を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第5回	抵抗 到達目標： ・モノに働く抵抗を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第6回	円運動と万有引力 到達目標： ・円運動，万有引力が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第7回	中間試験そして総括 到達目標： ・第6回までの講義内容を総合的に理解できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第8回	波の基本特性 到達目標： ・縦波，横波，振幅，周期，周波数を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第9回	音における波の特性 到達目標： ・音の波の特性を説明できる。 ・ドップラー効果を説明できる。 ・耳からの伝わり方を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第10回	光における波の特性 到達目標： ・光の波の特性を説明できる ・サングラスの偏光を説明できる ・ヒトの映像の見え方を説明できる 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第11回	光の特殊な性質 到達目標： ・光の量子性について説明できる。 ・量子コンピュータの概要が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第12回	いろいろエネルギー 到達目標： ・エネルギー保存の法則を説明できる。 ・モノのエネルギーが説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第13回	試験及びまとめ 到達目標：全体的な概要の説明ができる。	

	<p>授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有. 第14回 総括 到達目標：講義全体を振り返り，自然現象を総合的に判断し説明することができる. 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有.</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	種々の物理の問題を自力で解けるようになるために参考書を用いた予習 (130分) と講義内容の復習 (130分) を行う.
教科書	特に指定しない.
参考書	改訂版 センター試験 物理基礎の点数が面白いほどとれる本. 鈴木誠治 (著) ISBN-10: 404600777X
成績評価	2回の試験により成績を評価する.
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○赤澤 淳 研究室 : 5号館3階 メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後1時間. その他の時間はメールで予約を取って下さい.
備考	「◎-1」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
中村 雄一			
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語としての手話を学び、自己紹介酢や挨拶から簡単な日常会話ができるようになる。 ・ 聴覚障害者が置かれてきた社会背景を学び、時代の福祉観と人権観を考える。 ・ 医療分野に従事する職業者の基礎的な姿勢としての、手話を含む様々なコミュニケーション障害への対応姿勢を学ぶことにより、人権感覚を身につける。
授業計画	<p>第1講 「手話」って何?…手話言語を身近に感じてみよう。 自己紹介の手話単語を習得しよう① [到達目標] ・日本で最初の手話サークルが医療現場から生まれてきたことなどを知り、手話言語について身近に感じるとともに、名前・数字・家族・趣味などの自己紹介に使われる基本の手話単語を習得する。</p> <p>第2講 [備考] ・社会福祉法人全国手話研修センターのHP(手話検定ページ)を見ておく。 手話表現の種類を知ろう。 自己紹介の手話単語を習得しよう② [到達目標] ・ろう者の使う手話や中途失聴者、盲ろう者のコミュニケーション手段など、様々な種類の手話があることを知るとともに、自己紹介に関わる手話単語を習得する。</p> <p>第3講 [備考] 手話教育の歴史を知ろう。 自己紹介の手話単語を習得しよう③ [到達目標] ・聴覚障害児教育の歴史を知るとともに、問いかげの手話表現を習得する。</p> <p>第4講 [備考] 「聴覚障害」について理解しよう。 自己紹介の手話単語を習得しよう④ [到達目標] ・きこえのしくみを理解し、障害に対応した補聴器等の活用を知るとともに、手話での時間の表現を習得する。</p> <p>第5講 [備考] 日本の障害福祉施策を知ろう① 自己紹介の手話単語を習得しよう? [到達目標] ・古事記(国生みの物語)から日本独特の障害者観を知るとともに、1日・1週間・1月の出来事に関する手話表現を習得する。</p> <p>第6講 [備考] ・日本文化に根付く障害者観について、みんなでディスカッションします。 日本の障害福祉施策を知ろう② 自己紹介の手話単語を習得しよう⑥ [到達目標] ・戦前・戦中・戦後の障害福祉施策を知るとともに、自己紹介のまとめとして手話での会話を楽しむ。</p> <p>第7講 [備考] 第3講での教育の歴史も含めて、みんなでディスカッションします。 日本の障害福祉施策を知ろう③ 日常会話の手話単語を習得しよう① [到達目標] ・国際障害者年以降の「障害」のとらえ方を知るとともに、医療に関する手話単語を習得する。</p> <p>第8講 [備考] 日本の障害福祉施策を知ろう④ 日常会話の手話単語を習得しよう② [到達目標] ・国連障害者の権利条約で謳われた「手話は言語である」ことの意義を知るとともに、日常会話の手話単語の語彙数を増やす。</p> <p>第9講 [備考] ・権利条約第2条を確認しておく。 日本の障害福祉施策を知ろう? 豊かな手話表現を身につけよう① [到達目標] ・日本の手話通訳派遣制度を知るとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>第10講 [備考] 日本の障害福祉施策を知ろう⑥ 豊かな手話表現を身に着けよう② [到達目標] ・優生保護法下でのろう者の状況を知るとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>第11講 [備考] 優生保護法下での「医療倫理」のあり方、医療現場での「インフォームドコンセント」のあり方について、みんなでディスカッションします。 日本の障害福祉施策を知ろう⑦ 豊かな手話表現を身に着けよう③ [到達目標] ・ろう者の人権宣言といわれる「3.3声明」から、ろう者の人権を考えるとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>第12講 [備考] ・京都府立聾学校での「写生大会ボイコット事件」について、調べておく。 日本の障害福祉施策を知ろう⑧ 豊かな手話表現を身につけよう?</p>

	<p>[到達目標] 災害時の情報保障を考えるとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>[備考]</p> <p>第13講 まとめ① 手話での会話を楽しもう。 手話歌を楽しもう。 [到達目標] ・これまで学んだ手話単語を使って、簡単な会話を楽しんでみるとともに、手話歌を楽しんでみる。</p> <p>[備考]</p> <p>第14講 まとめ② 手話での会話を楽しもう。 手話歌を楽しもう。 [到達目標] これまで学んだ授業を通じて、「手話」に関する思いや意見を確認するとともに、より豊かな手話表現技術と読み取り技術を確認する。</p> <p>[備考] ・レポートの提出及び実技試験を実施します。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	●全国手話検定試験5級及び4級の出題範囲の手話単語について、自習をする。
教科書	●特に定めない。必要な資料は毎時配布する。
参考書	●社会福祉法人全国手研修センターのHP
成績評価	<p>●出席及び授業時の取り組み姿勢の評価 30%</p> <p>●授業内パフォーマンス課題 30%</p> <p>●まとめ(試験)における確認評価 40%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 中村雄一</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室</p> <p>メールアドレス : npo_morohoshi.juku@yahoo.co.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎-4, ○-3, ○-5</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
佐別当 義博			
添付ファイル			

授業目標	倫理学の普遍的課題を前提にしながら、生命倫理学成立の歴史的背景、生命倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に理解する。重要なことは、この理解をもとに、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療・看護の具体的な状況と関係づけて、考えることである。この思考がどの程度達成されているかを確認する為に授業内レポートを実施する。このレポートは、採点し必要に応じてコメントを記し返却するので、受講生は再度しっかり考える機会になる。生命を扱う職業人として倫理的思考を展開できる素養と姿勢を身に付けてほしい。		
授業計画	第1講	ガイダンスならびに生命倫理の課題と特殊性 [到達目標] 医療関連の倫理綱要を知り、倫理学を学ぶ意義を理解する。	
	第2講	[備考] 各自志望する業界にどのような倫理綱要があるか調べておく。 生命倫理の歴史 [到達目標] 生命倫理の歴史を社会問題との関連で理解し、生命倫理の必要性を説明できる。	
	第3講	[備考] ヒポクラテスの誓い、ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言を一読しておく。 生命倫理の原則 1 [到達目標] SOLとQOLの2原則を理解し、具体的な問題に適用できるようになる。	
	第4講	[備考] 医療関係者と患者との関係についてどうあるべきか考えておく。 生命倫理の原則 2 [到達目標] 自己決定とパターンリズムを理解し、具体的な問題に適用できるようになる。	
	第5講	[備考] 保護者（救援者）と被保護者（被救援者）との関係についてどうあるべきか考えておく。 生殖補助医療 [到達目標] 生殖補助医療に関し自分なりの是非論を展開できるようになる。	
	第6講	[備考] 生殖補助医療の問題点について調べておく。 脳死と臓器移植 [到達目標] 脳死・臓器移植に関し自分なりの是非論を展開できるようになる。	
	第7講	[備考] 脳死判定の問題点について調べておく。 尊厳死と安楽死 [到達目標] 尊厳死・安楽死について自分なりの是非論を展開できるようになる。 [備考] 尊厳死・安楽死が事件化した事例について調べておく。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	1. 講義資料等を参考に、授業計画に記載した課題についてメモを作っておくこと（予習130分）。 2. 授業時に取ったノートもとにテーマに即した内容を文章化しておくこと（復習130分）。 後述する授業内レポートを作成する際に必要となるので励行してください。		
教科書	使用しない。		
参考書	『医療倫理 1』	グレゴリー・E・ペンス著	みすず書房出版 2000年 5,500円
	『医療倫理 2』	グレゴリー・E・ペンス著	みすず書房出版 2001年 5,500円
成績評価	①評価方法	2回の授業内レポートで評価する。第4講と第6講に実施する。 レポート作成時には自作ノート持ち込み可。採点の結果基準を満たさない場合には再レポートを課す。	
	②評価基準	倫理学の課題として展開されているかどうか 40% 論理的に展開されているかどうか 30% 自分なりの問題意識が明確化どうか 30%	
	③留意事項	私語は厳禁。	
担当教員の基本情報	担当教員名	佐別当 義博（非常勤講師）	
	研究室	6号館1階非常勤講師室	
	メールアドレス	y-sabetto@outlook.jp	
	オフィスアワー	授業終了後	
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-4, ○-2		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
北小路 博司			
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目の目標は、医学・医療及び社会とのかかわりについて、考え、理解するための基礎知識を習得し、医療人としての資質を身につけることであり、そのために医学、医療に関連する基本用語を理解し、また医学・医療の現状および問題点などについて幅広く学習する。</p> <p>具体的には、医療の歴史、健康の概念、医の倫理、医療の質と安全性、医療事故と医療者の責任、QOLとヘルスプロモーション、医療と経済、EBMと補完代替医療などについて理解を深める。上記を踏まえ、生命倫理、医療倫理の諸問題について考える基礎力を身につけることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン～医療の歴史 INTRODUCTIONとして医療概論を学ぶ意義を説明し、その後医療の歴史について概説する。</p> <p>第2回 医療及び健康の概念 「医療とは何か」について説明し、それと関連づけて「健康とは何か」を説明し理解する。健康についてはWHOによる健康の定義を中心に説明する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第3回 医の倫理 医の倫理について概説し、医療従事者が心得るべき倫理指針について説明する。また鍼灸師の倫理についても説明する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第4回 バイオエシックス（1） 医学研究の倫理について概説する。配布資料とスライドにより解説する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第5回 バイオエシックス（2） 遺伝子工学と臓器移植について概説し、それぞれの倫理面について考える。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第6回 医療の質と安全性 医療の質の評価や安全性について概説する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第7回 医療事故と防止策 医療事故の種類や原因について説明し、防止策について解説する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第8回 医療者の責任と医療訴訟 医療者の責任について特に安全性の面から説明し、医療訴訟の基礎知識について解説する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第9回 QOLとヘルスプロモーション 生活の質（QOL）の概念について説明し、健康増進施策について解説する。特に健康日本21について詳しく説明する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第10回 医療と経済 国民医療費について説明するとともに、日本の医療保険制度について概説する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第11回 EBMとCAM エビデンスに基づく医療（EBM）と補完代替医療（CAM）について概説する。</p> <p>第12回 医療概論のまとめ（1） 本講義のまとめと復習（第1回～第5回までを振り返る）</p> <p>第13回 医療概論のまとめ（2） 本講義のまとめと復習（第6回～第11回までを振り返る）</p> <p>第14回 はり・きゅう国家試験と医療概論（1） 本講義の中で、特に「はり師きゅう師国家試験」と関連の深い事項について、過去問等を中心に解説する。配布資料とスライドにより解説する。</p> <p>第15回 はり・きゅう国家試験と医療概論（2） 本講義の中で、特に「はり師きゅう師国家試験」と関連の深い事項について、過去問等を中心に解説する。配布資料とスライドにより解説する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>毎回の講義で配布される資料を見て復習してください。</p> <p>配布資料・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し（予習30分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習30分）。</p>
教科書	なし（配布資料に基づいて講義します）
参考書	「医療概論」 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社 「公衆衛生がみえる」 メディックメディア
成績評価	出席は全講義回数の3/5以上が必要です。筆記試験により単位認定します。
担当教員の基本情報	担当者 : 北小路博司 研究室 : 非常勤講師室

	メールアドレス : オフィスアワー : 講義終了後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義 遠隔・オンデマンド	
添付ファイル			

授業目標	鍼灸技術学総論では鍼技術、灸技術の実習を行う上で必要な以下の項目について理解し、鍼と灸の基礎的な知識を習得できるようになる。 1. 鍼施術の起源、2. 古代及び現代の鍼、3. 刺鍼方式の種類と方法、4. 衛生的施術に関する知識、5. 鍼施術の過誤と副作用、 7. 灸療法の起源、8. 艾の特徴、9. 現代灸法、10. 灸施術の過誤と副作用。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス～鍼療法の起源と鍼器具の変遷 [到達目標] 鍼灸技術学の学習範囲、鍼施術の起源を理解する、古代九鍼の種類・形態に対して用途で分類できる。 [授業形態] 講義と演習（鍼と灸の技術学を考える） [備考] 鍼施術の起源を理解し古代九鍼の種類・形態・用途を理解し、小テストで古代九鍼の名称を記載でき、用途区分ができる。 予習：鍼の長さを調べてみる。小テストの結果をフィードバック。</p> <p>2回目 現代の鍼と衛生的な鍼施術の手順 [到達目標] 現代の鍼の形状、材質、サイズおよび毫鍼の各部の名称と鍼尖端の形状について説明できる。また衛生的な鍼施術の手順（手洗いを含めた衛生的な鍼施術（鍼の滅菌法含む）を理解する。 [授業形態] 講義と演習（現行の刺鍼手順、衛生的な鍼施術の手順をシミュレーションする） [備考] 小テストで現代の鍼の形状、材質、サイズおよび毫鍼の各部の名称と鍼尖端の形状を記載できる。手洗いを含めた衛生的な鍼施術（鍼の滅菌法含む）を復習する。小テストの結果をフィードバック。</p> <p>3回目 灸療法の総論・起源・艾について [到達目標] 灸療法の総論・起源・歴史、艾について理解する。艾の原料・製法の行程について概要を説明できる。 [授業形態] 講義と演習（艾の製法の手順を理解する） [備考] 小テストで艾の原料、艾の種類と特徴を記載できる。灸療法の総論・起源・歴史についてを復習する。 小テストの結果をフィードバック。</p> <p>4回目 現代の灸 [到達目標] 艾の原料や成分、薬理効果、良質艾と粗悪艾の違い、灸の米粒大について理解する。 [授業形態] 講義と演習（良質艾と粗悪艾との比較の理解を深める） [備考] 小テストで艾の原料や成分、薬理効果、良質艾と粗悪艾の違い、灸の米粒大を記載できる。 艾の原料や成分、薬理効果、良質艾と粗悪艾の違いについてを復習する。 小テストの結果をフィードバック。</p> <p>5回目 現行刺鍼手技の手順 [到達目標] 現行刺鍼手技（刺鍼17手技）の手順について理解し、その手技の要約を説明できる。 [授業形態] 講義と演習（図を用いて現行刺鍼手技の理解を深め、実習前に手順のシミュレーションができる） [備考] 小テストで現行刺鍼手技の名称を記載でき、その刺鍼手技の区分ができる。現行刺鍼手技についてを復習する。 小テストの結果をフィードバック。</p> <p>6回目 灸術の種類 [到達目標] 灸術の種類、灸の刺激量の調節、燃焼時の温度変化、灸施術上の注意点、過誤、副作用の予防と処置について理解する。 [授業形態] 講義と演習（灸術の種類を理解する） [備考] 小テストで灸術の種類（隔物灸、艾条灸、薬物灸、その他など）の要点や特徴を記載できる。 灸術の種類（隔物灸、艾条灸、薬物灸、その他など）の要点や特徴についてを復習する。 小テストの結果をフィードバック。</p> <p>7回目 国家試験の問題体験（はり理論の一部） [到達目標] 鍼技術の講義の中で、国家試験に関わる重要ポイントを理解・記憶する。 [授業形態] 講義と演習（自ら国家試験の問題に解いて、その理解を深める） [備考] 鍼技術の講義の中で、国家試験に関わる重要ポイントを復習する。 国家試験問題を行い、その結果をフィードバック。</p> <p>8回目 はり技術学総論・国家試験の問題体験の解説 [到達目標] 鍼療法の歴史から過誤・副作用まで（国家試験に関わる重要ポイントを含む）総合的に理解・記憶する。 [授業形態] 講義と演習（鍼技術のまとめの問題を解いて、その理解を深める） [備考] 鍼療法の歴史から過誤・副作用まで（国家試験に関わる重要ポイントを含む）を復習する。</p>

	9回目	国家試験の問題体験（きゅう理論の一部） [到達目標] 灸療法の講義の中で、国家試験に関わる重要ポイントを理解・記憶する [授業形態] 講義と演習（灸技術のまとめの問題を解いて、その理解を深める） [備考] 灸療法の講義の中で、国家試験に関わる重要ポイントを復習する。 国家試験問題を行い、その結果をフィードバック。
	10回目	灸療法・国家試験の問題体験の解説 [到達目標] 灸療法の歴史から過誤・副作用まで（国家試験に関わる重要ポイントを含む）総合的に理解・記憶する [授業形態] 講義と演習（灸技術のまとめの問題を解いて、その理解を深める） [備考] 灸療法の歴史から過誤・副作用まで（国家試験に関わる重要ポイントを含む）を復習する。
	11回目	鍼刺激について、鍼施術の過誤と副作用 [到達目標] 鍼治療の刺激量の調整、鍼施術上の注意点、過誤、副作用の予防と処置について理解し、要点を説明できる。 [授業形態] 講義と演習（鍼灸の刺激量と感受性の理解を深める） [備考] 小テストで気胸、抜鍼困難についてなどを記載できる。鍼施術上の注意点、過誤、副作用の予防と処置についてを復習する。 小テストの結果をフィードバック。
	12回目	灸術の種類、灸刺激、灸施術の過誤と副作用 [到達目標] 灸術の種類、灸の刺激量の調節、燃焼時の温度変化、灸施術上の注意点、過誤、副作用の予防と処置について理解する。 [授業形態] 講義と演習（灸の刺激量、灸の刺激量と禁忌を理解する） [備考] 小テストで灸術の種類、灸の刺激量の調節、灸施術上の注意点、過誤、副作用などの要点を記載できる。 灸の刺激量の調節、燃焼時の温度変化、灸施術上の注意点、過誤、副作用の予防と処置についてを復習する。 小テストの結果をフィードバック。
	13回目	総括1（鍼灸技術学） [到達目標] 鍼施術の起源と鍼器具の変遷、現代の鍼と現行刺鍼手技、衛生的な鍼施術の手順、鍼施術の過誤と副作用、灸療法の起源と艾の特徴、現代灸法、灸施術の過誤と副作用について、要点を記憶し、記載できる。 [授業形態] 科目の総復習を行って、試験対策を行う。 [備考] 鍼灸技術学の要点を理解し、記憶し記載できる。
	14回目	総括2（鍼灸技術学） [到達目標] 鍼施術の起源と鍼器具の変遷、現代の鍼と現行刺鍼手技、衛生的な鍼施術の手順、鍼施術の過誤と副作用、灸療法の起源と艾の特徴、現代灸法、灸施術の過誤と副作用について、要点を記憶し、記載できる。 [授業形態] 演習（筆記試験の評価を行い、その後、解説を行う。） [備考] 鍼灸技術学の要点を理解し、記憶し記載できる。
授業時間外の学習（準備学習等）について		・教科書を熟読した上での受講が望ましい（予習30分）。講義後は配布資料等も含めて復習し（復習30分）、不明な点は翌週の講義前後の時間を利用して教員に質問し確認する。 ・「鍼施術の起源と鍼器具の変遷」、「現代の鍼と現行刺鍼手技」、「衛生的な鍼施術の手順」、「鍼施術の過誤と副作用」、「灸療法の起源と艾の特徴」、「現代灸法」、「灸施術の過誤と副作用」についてまとめ、覚える。
教科書		『図解鍼灸臨床手技マニュアル』尾崎昭弘（医歯薬出版）
参考書		・『はりきゅう理論』教科書執筆小委員会著（医道の日本社） ・『鍼灸臨床最新科学 ゾーマカニズムとエビデンス』川喜田健司、矢野忠 編集（医歯薬出版）
成績評価		評価方法：定期試験（筆記試験）（80%）、小テストの提出や授業態度などの平常点（20%）で評価する。 筆記試験は規定の出席日数に達することが必要。
担当教員の基本情報		担当教員名：和辻 直 研究室：鍼灸センター2階 教授室 メールアドレス：t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日 13:20-13:50
備考		① 附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。 ② アクティブラーニング：毎回、授業の後半に小テストを行い、その解答を次週に解説し、その正誤を自ら確認して復習してもらう。 ③ ◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
岩内 和也			
添付ファイル			

授業目標	<p>本実習はネット型スポーツの中から、「バドミントン」と「卓球」をとりあげる。ネットで区切られたコートの中で攻守を組み立て得点を競い合うネット型スポーツ（バドミントン・卓球）は、相手（敵）との身体接触がなく比較的 safely に実施できることから、性別や年齢を問わず、初心者から競技者まで様々なレベルに応じて手軽に楽しめる生涯スポーツとなる種目である。</p> <p>本実習では、いずれの種目もまず基本技術を習得し、その上で段階的により高度な技術の向上を目指していく。併せて、ルール理解、マナーの会得、安全への配慮等にも注力し、より質の高いスポーツの楽しさを追求し生涯スポーツにつなげることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 ◇ガイダンス ◇基本練習Ⅰ（バドミントン；グリップ、ラケットワーク、フットワーク） [到達目標] 授業のすすめ方について理解する／ラケット・シャトルに慣れる、グリップ、ラケットワーク、フットワークについて理解する</p> <p>第2講 ◇基本練習Ⅱ（デイリードリル、サーブ、クリア、ドライブ） ◇簡易ゲーム [到達目標] サーブ、クリア、ドライブの打ち方とそのフライトを理解する／ゲームの進め方を理解する</p> <p>第3講 ◇基本練習Ⅲ（デイリードリル、ヘアピン、ドロップ、ロブ、スマッシュ） ◇簡易ゲーム [到達目標] ヘアピン、ドロップ、ロブ、スマッシュの打ち方とそのフライトを理解する／ゲームの戦術を理解する</p> <p>第4講 ◇発展練習Ⅰ（デイリードリル、規則的な動きの中でのラリードリル：ドロップ&ヘアピン等） ◇ルール説明 ◇シングルスゲーム [到達目標] 規則的な動きの中で指定されたストロークでラリーを行うことができる／シングルのルールとゲーム進行を理解する</p> <p>第5講 ◇発展練習Ⅱ（デイリードリル、規則的な動きの中でのラリードリル：ドロップ&ヘアピン&ロブ等） ◇シングルスゲーム ◇技能評価 [到達目標] 規則的な動きの中で指定されたストロークでラリーを行うことができる／シングルのルールと審判法を理解しゲームを進行する</p> <p>第6講 ◇発展練習Ⅲ（フォーメーションを使つての攻防：ダブルス） ◇ダブルスゲーム ◇技能評価 [到達目標] ダブルスのフォーメーションを理解する／ダブルスのルールとゲーム進行を理解する</p> <p>第7講 ◇ダブルスゲーム ◇技能評価 [到達目標] ゲームの中で様々なストロークを使つてプレーすることができる／ダブルスのルールと審判法を理解しゲームを進行する</p> <p>第8講 ◇ガイダンス ◇基本練習Ⅰ（卓球；バックハンドショートストローク） [到達目標] 授業のすすめ方について理解する／グリップを理解し、ラケット・ボールに慣れる、バックハンドショートストロークの打ち方を理解する</p> <p>第9講 ◇基本練習Ⅱ（デイリードリル、バックハンドショートストローク、サーブ） ◇ルール説明 ◇簡易ゲーム [到達目標] バックハンドショートストローク、サーブ打ち方を理解する／基本ルールを理解し簡易ゲームを進行する</p> <p>第10講 ◇基本練習Ⅲ（デイリードリル、サーブ、フォアハンドストローク） ◇ルール説明 ◇シングルスゲーム [到達目標] サーブ、フォアハンドストロークの打ち方を理解する／シングルのルールを理解しゲームを進行する</p> <p>第11講 ◇発展練習Ⅰ（デイリードリル、サーブからのストローク練習） ◇シングルスゲーム [到達目標] サーブからストロークが打つことができる、ラリーが続けられる／シングルのルールと審判法を理解しゲームを進行する</p> <p>第12講 ◇発展練習Ⅱ（デイリードリル、様々なストローク、サーブ、スマッシュ） ◇シングルスゲーム ◇技能評価 [到達目標] ボールの回転を意識した打ち方を理解する／戦略を理解し打ち分ける</p> <p>第13講 ◇発展練習Ⅲ（ダブルスのフォーメーション、ダブルスのルール） ◇ダブルスゲーム ◇技能評価 [到達目標] ダブルスのフォーメーションを理解する／ダブルスのルールを理解しゲームを進行する</p> <p>第14講 ◇ダブルスゲーム ◇技能評価</p>

	<p>[到達目標] 仲間と協力してゲームに取り組むことができる／ダブルスのルールと審判法を理解しゲームを進行する</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>本実習は、毎時間終了時に実習カードにふりかえり（技術の習得度合い、成果、課題等）を記入し提出する形式をとる。 よって、復習として、前時の実習内容を再確認し、自己の到達点を整理しておくことを求める（35分）。 また、予習として、前時の課題から次時への改善点を整理しておく。また、資料を配付した場合は、熟読し理解しておくことを求める（35分）。</p>
教科書	<p>特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。</p>
参考書	<p>特定の参考書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。</p>
成績評価	<p>4/5以上の出席をもって評価の対象とする。 評価は、毎時間の授業態度、技能習得状況、実習カード記入状況等をもとに行う。 知識・技能（40%）、思考・判断（30%）、態度・意欲（30%）を基準として総合的に評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岩内 和也 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後に受け付ける</p>
備考	<p>◇第1～7講に「バドミントン」を、第8～14講に「卓球」を実施する。 ◇毎時間終了時に実習カードにふりかえり（技術の習得度合い、成果、課題等）を記入し提出する形式をとる。 ◇授業の進行は、受講者の習得度によって変更になる可能性がある。 ◇ケガ防止・安全管理の観点から、長い爪・付け爪での受講は認めない。また、肩より長い髪は束ねた上で参加すること。 ◇準備物等 運動に適した服装・屋内シューズを着用すること。 水筒等を持参し休憩時に水分摂取する等、自己管理すること。</p>
	<p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-3</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
山谷 真			
配当学科：鍼灸	時間数：30時間	授業形態：講義／遠隔（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	各人権の意義や統治機構に関する基本原理を理解する。憲法問題につき興味関心を持ち、法的な思考に慣れる。		
授業計画	第1講	日本国憲法入門 [到達目標] 法律との違いを意識しながら憲法の意義を説明できる。	
	第2講	[備考] 幸福追求権・平等権 [到達目標] 憲法第13条・第14条の意義を説明できる。憲法第13条・第14条に関連する判例を指摘できる。	
	第3講	[備考] 自由権1 [到達目標] 憲法第20条・第21条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法第20条・第21条に関連する判例を指摘できる。	
	第4講	[備考] 自由権2 [到達目標] 憲法第22条・第31条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法22条等に関連する判例を指摘できる。	
	第5講	[備考] 社会権 [到達目標] 憲法25条の意義を説明できる。憲法25条に関連する判例を指摘できる。	
	第6講	[備考] 国務請求権・新しい人権 [到達目標] 請求権や新しい人権の意義を説明できる。新しい人権に関連する判例を指摘できる。	
	第7講	[備考] 参政権 [到達目標] 参政権の意義を説明できる。日本の選挙制度を説明できる。	
	第8講	[備考] 国会 [到達目標] 国会の権能や衆議院と参議院の違いを説明できる。いわゆる衆議院の優越の意義やそれがどのような場合に認められるかを指摘できる。	
	第9講	[備考] 内閣 [到達目標] 内閣の組織や権能について説明できる。	
	第10講	[備考] 裁判所 [到達目標] 裁判所の組織や権能について説明できる。	
	第11講	[備考] 地方自治 [到達目標] 「地方自治の本旨」や地方公共団体の仕組み（首長と議会の関係など）につき説明できる。	
	第12講	[備考] 天皇・平和主義その他 [到達目標] 日本国憲法における天皇の地位を説明できる。憲法9条の意義について説明できる。	
	第13講	[備考] 医療をめぐる法律関係 [到達目標] 民法・刑法の基礎をふまえて、医療事故等が発生した場合の法律関係につき説明できる。	

	<p>[備考] 第14講 これまでの振り返り（評価含む） [到達目標] これまでの学習を振り返り、各自の習得状況を確認する。</p> <p>[備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>既習事項の確認や指示された問題（特に公務員試験問題）の演習を行う。</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し（予習30分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習30分）。</p>
教科書	プリントを使用する。
参考書	<p>芦部 信喜（高橋 和之補訂）『憲法 第七版』（岩波書店）。</p> <p>その他講義において指示するもの。</p>
成績評価	<p>最終試験 50%・レポート（毎回終了時に提出するシート含む） 30%</p> <p>授業態度など平常点 20%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山谷真 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : m_yamatani@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2</p>

講義科目名称： 高齢者と福祉

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
角谷 英治			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	老化とはどのようなものか、また、高齢者における心身の特徴と主な症状、高齢者を支える様々な制度などについて学ぶ。具体的には、高齢化の実態と高齢者の問題点、老化のメカニズムと老化によって生じる心身の変化や症状、高齢者を支える保険・福祉制度、介護保険制度などについて学ぶ。
授業計画	<p>1回目 老年学および日本における化の高齢現状と健康 [到達目標] 1) 老年学の体系を説明できる。 2) 「老化」とは何かを説明できる。 3) 高齢化の現状と健康寿命について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる（それでもわからなければ質問して解決すること）。 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。</p> <p>2回目 高齢者の医療制度 [到達目標] 1) 高齢者の主要な医療制度について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる（それでもわからなければ質問して解決すること）。 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。</p> <p>3回目 福祉サービスと介護保険・介護予防① [到達目標] 1) 福祉サービスと介護保険、介護予防の概要について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる（それでもわからなければ質問して解決すること）。 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。</p> <p>4回目 福祉サービスと介護保険・介護予防② [到達目標] 1) 福祉サービスと介護保険、介護予防の概要について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる（それでもわからなければ質問して解決すること）。 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。</p> <p>5回目 高齢症候群とその評価：CGAについて [到達目標] 1) CGA(総合的高齢者技能評価)について説明できる。 2) 生活機能評価について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる（それでもわからなければ質問して解決すること）。 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。</p> <p>6回目 高齢者にみられる循環器疾患と鍼灸治療 [到達目標] 1) 高齢者によくみられる高血圧などの循環器疾患について説明できる。 2) 上記疾患や症状と鍼灸の関連について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる（それでもわからなければ質問して解決すること）。 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。</p> <p>7回目 うつ症状と鍼灸 [到達目標] 1) うつについて説明できる。 2) 上記疾患や症状と鍼灸の関連について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる（それでもわからなければ質問して解決すること）。 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。</p> <p>8回目 パーキンソン病と鍼灸 [到達目標] 1) パーキンソン病について説明できる。 2) 上記疾患や症状と鍼灸の関連について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる（それでもわからなければ質問して解決すること）。</p>

	<p>9回目 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。 認知症と鍼灸 [到達目標] 1) 認知症について説明できる。 2) 上記疾患や症状と鍼灸の関係について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる(それでもわからなければ質問して解決すること)。 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。</p> <p>10回目 高齢者にみられる感覚器疾患および症状と鍼灸①(耳科、眼科、皮膚科) [到達目標] 1) 老視、白内障、緑内障などについて説明できる。 2) 上記疾患や症状と鍼灸との関係について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる(それでもわからなければ質問して解決すること)。 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。</p> <p>11回目 高齢者にみられる感覚器疾患および症状と鍼灸②(耳科、眼科、皮膚科) [到達目標] 1) 加齢性(老人性難聴)難聴、老人性皮膚掻痒症、老人性乾皮症、褥瘡などについて説明できる。 2) 上記疾患や症状と鍼灸との関係について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる(それでもわからなければ質問して解決すること)。 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。</p> <p>12回 高齢者と虚弱:ロコモティブシンドローム、フレイル、老年症候群と鍼灸① [到達目標] 1) ロコモティブシンドローム、フレイル、老年症候群について説明できる。 2) 上記の症候群や症状と鍼灸との関係について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる(それでもわからなければ質問して解決すること)。 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。</p> <p>13回目 高齢者と虚弱:ロコモティブシンドローム、フレイル、老年症候群と鍼灸② [到達目標] 1) ロコモティブシンドローム、フレイル、老年症候群について説明できる。 2) 上記の症候群や症状と鍼灸との関係について説明できる。 [授業時間外学習] 1) 配布プリントを熟読し良く理解する。 2) わからない部分があれば調べる(それでもわからなければ質問して解決すること)。 3) 授業中に指摘された重要事項を覚える。</p> <p>14回目 まとめ 授業内容のまとめを行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	配布したプリントについて、特に、配布プリントに記載してある「講義のポイント」を必ず確認、復習すること。また、配布プリントや参考書を熟読し、わからない部分があれば、図書館などで調べ、それでもわからない場合は質問して解決すること。
教科書	なし。プリント配布。
参考書	・老年医学テキスト 改訂3版、(社)日本老年医学会編、メジカルビュー社、2008.
成績評価	出席基準(授業実施回数5分の3以上)を満たした者について、筆記試験を行い60点以上を合格とする。60点未満の者に対して再試験を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 角谷英治 研究室 : 附属病院2階奥、鍼灸センター横 鍼灸学系教員室 メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日15:40以降
備考	明治国際医療大学附属鍼灸センターに勤務。その実務経験をもとに「高齢者と福祉」について授業を進める。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
糸井マナミ			
鍼灸学科	15時間	講義（遠隔授業：オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	感染症の要因となる病原微生物の特徴、感染症の成立・発症のメカニズムを学ぶ。そのうえで、主な感染症の原因微生物・特徴・感染経路、感染症患者への対応や感染防止対策を学ぶ。さらに、生体に侵入する病原微生物や異物に対する生体防御システムを学び、免疫応答としての炎症反応やアレルギー反応について理解する。		
授業計画	第1回	病原微生物と感染症、病原微生物の種類と特徴 [到達目標] ・病原微生物の種類とそれぞれの特徴について理解する。 ・感染症成立の要因について理解する。 ・発症に関わる病原体側因子について理解する。 ・感染経路および感染症の分類について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第2回	生体防御システム① 自然免疫と獲得免疫 [到達目標] ・生体防御系の全体像、自然免疫と獲得免疫の仕組みについて理解する。 ・感染症における急性炎症反応、免疫応答について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第3回	生体防御システム② 免疫系の異常 [到達目標] ・アレルギーと自己免疫疾患について理解する。 ・免疫不全について理解する。 ・移植における免疫応答について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第4回	感染の予防と対策 [到達目標] ・感受性体対策、感染源対策、感染経路対策について理解する。 ・標準予防策、感染経路別予防策について理解する。 ・化学療法について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第5回	感染症① 呼吸器感染症・消化器感染症 [到達目標] ・主な呼吸器感染症の起因病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・主な消化器感染症の起因病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第6回	感染症② 全身感染症・神経系感染症・眼感染症・尿路・性感染症 [到達目標] ・主な全身感染症の起因病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・主な神経系感染症の起因病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・主な眼感染症の起因病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・主な尿路・性感染症の起因病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第7回	感染症③ 皮膚・軟部組織感染症・ウイルス性肝炎・レトロウイルス感染症・プリオン病 [到達目標] ・主な皮膚・軟部組織感染症の起因病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 ・ウイルス性肝炎・レトロウイルス感染症およびプリオン病の起因病原体、感染経路および症状の特徴について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（質疑応答、確認問題と解答解説）	
	第8回	試験 試験範囲：第1回～第7回講義内容 対面で行う。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通して、項目を整理しておくこと。（130分程度） 2. 講義の後に配布プリント及び該当する教科書の部分を読み返し、指示された課題についてまとめておくこと。 3. 確認問題を見直して理解を深めること。（2、3併せて130分程度） 4. 分からないことは質問し、繰り返し復習を行うこと。		
教科書	『わかる！身につく！病原体・感染・免疫』藤本秀士編著、目野郁子、小島夫美子著（南山堂）		

参考書	「シンプル微生物学」 東 匡伸、小熊恵二 編 (南江堂) 「シンプル免疫学」 中島泉ほか (南江堂) 『Simple Step 感染症』 平山 謙二監修 (海馬書房) 『戸田細菌学』 吉田・柳 編 (南江堂) 『もっとよくわかる！免疫学』 河本宏 (羊土社) 『メディカル免疫学』 A. ロアット (西村書店) 『免疫生物学』 笹月健彦 訳 (南江堂) 『マンガでわかる免疫学』 河本宏 (ビーコムプラス)
成績評価	確認問題で問われた内容を修得した者を合格とする。 成績評価は期末試験の得点 (90点) と確認問題 (10点 ※全て提出で10点) で行い、60点以上を合格とする。 但し、出席が6割 (5回) に満たない者は期末試験の受験を認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室、1号館2階 教授室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日・金曜日13:00-13:50
備考	この科目とディプロマポリシーの関連 : ◎- 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
辻村 敦			
添付ファイル			

授業目標	<p>生化学では人体を構成する物質とその物質の合成や分解(代謝)の基本的知識を、医学の基礎を支える自然科学のひとつとして体系的に学びます。生化学を理解することは、自分のカラダや患者さんのカラダの状態を理解することにつながり、また、患者さんに栄養指導をするためにもとても重要な科目です。従って、本講義では、栄養学のためのタンパク質代謝、糖質代謝、脂質代謝、核酸代謝などを理解してもらうことを目的とする。生化学の学習を通して、ダイエット、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドローム、アレルギーや免疫の仕組み、糖尿病、骨粗鬆症、痛風などについて考察できる力を身に付ける。看護・鍼灸・保健医療サービスの担い手に求められる生化学的基礎知識を習得する。</p>
授業計画	<p>第1講 序論:生化学学習目標の理解。生体を構成する生体分子の構造と機能を学ぶ。 [到達目標] 生化学の基礎を理解。分子の構造、アミノ酸とタンパク質、酵素、基質について説明できる。 [授業形態] 講義プリントを配布し、パワーポイントを利用して説明を行う。毎回、前回の復習とその日のまとめ問題を提示し、全員で理解度を確認する。 [備考] 人体を構成、調整する生体物質を理解する。生命活動維持のに重要な必須成分と酵素の働きを理解。</p> <p>第2講 糖質と糖質代謝 [到達目標] 糖質の生体内での消化、吸収、動態、エネルギー産生について説明できる。 [備考] 糖質の構造と代謝を体系的に理解する。解糖系、TCA回路、ペントースリン酸回路。</p> <p>第3講 脂質と脂質代謝 [到達目標] 脂質の化学構造、性質と代謝について説明できる。 [備考] 脂質の生体内での消化、吸収、動態を理解。脂質のエネルギー代謝を理解。</p> <p>第4講 タンパク質・アミノ酸 [到達目標] タンパク質の消化、吸収、代謝について説明できる。 [備考] タンパク質とアミノ酸の化学構造と性質。タンパク質の代謝を理解。アンモニアと尿素について。</p> <p>第5講 核酸(ヌクレオチド)の代謝 [到達目標] 核酸生合成と分解について説明できる。 [備考] 核酸(ヌクレオチド)の生合成と分解を通してその役割と遺伝子について理解。核酸のプリン塩基、尿酸と痛風について。</p> <p>第6講 ビタミン、ホルモンの役割 [到達目標] ビタミンの生理機能をヒトの栄養の面より理解。ホルモンを生体内恒常性の維持として理解できる。 [備考] ビタミンの生体内での役割。カルシウム代謝と調節など。補酵素としての機能。ホルモンの役割。脂溶性ビタミン、ステロイドホルモンなど。</p> <p>第7講 総括(評価含む) [到達目標] 生体物質の構造と代謝を関連づけて説明できる。 [備考] 全講義の総括を行い、評価を行う。講義内容の理解度を測る問題だけではなく、自分の考えを記述する問題もあるため、普段から生化学を学ぶ意義について考えておくこと。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>平易な視覚的生化学の参考書を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。そのため講義後必ずプリント内容の理解に努める必要がある。体系的授業のため、遅刻・欠席は厳禁で、受講者は全ての講義に出席すること! 参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習130分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習130分)。</p>
教科書	<p>特になし(講義時間ごとにプリントを配布します。重要項目のマーキングや追加の情報を記入して、自分のプリントを完成させてください)。</p>
参考書	<p>『栄養科学イラストレイテッド生化学』 藪田 勝/編 (羊土社) 『マンカでわかる生化学』 武村 政春他(オーム社) 『イラストレイテッド生化学』 石崎 泰樹他(翻訳) 原書5版(丸善出版)</p>
成績評価	<p>講義内容に関連した知識を筆記試験(定期試験、小テスト)にて把握し、その理解度を評価する。授業時間中の質問に対する回答、演習への積極的な取り組み状況を評価する。 評価割合:(定期試験 60%、小テスト20%、平常点20%)とし総合評価60%以上を合格とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 辻村敦 研究室 : 京都府立医科大学・基礎老化学 メールアドレス : atsuji@koto.kpu-m.ac.jp オフィスアワー : 講義内容についての質問は、講義後またはメールで質問してください。</p>

備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
坂部 昌明			
添付ファイル			

授業目標	<p>法律は難解なもの、専門家だけのものではありません。確かに法律用語は親しみ難いかも知れませんが、経穴を覚えることの方が大変です。身近なものとして法律に親しんでくださることを願っています。皆さんの目指す鍼灸師の根拠となる「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」を学ぶことにより、鍼灸師の業務範囲、施術の限界を理解し、鍼灸院の開設手続きを学習するとともに免許の大切さを自覚してください。</p> <p>各テーマごとに、講義と演習をひとセットにして進めていきます。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション [到達目標] 講義の進め方を理解していただくと共に、基礎的な法学について講義します。 [備考]</p> <p>第2講 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（1）【講義】 [到達目標] 第1条から第11条までについて解説します。 [備考]</p> <p>第3講 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（1）【演習】 [到達目標] 鍼灸の免許制度・行為の範囲・手続等について、報告班から報告していただき、報告内容について討論します。 [備考]</p> <p>第4講 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（2）【講義】 [到達目標] 第12条から第19条までについて解説します。 [備考]</p> <p>第5講 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（2）【演習】 [到達目標] 医療類似行為・罰則・視覚障害者等について、報告班から報告していただき、報告内容について討論します。 [備考]</p> <p>第6講 関係法規（1）【講義】 [到達目標] 医療法について解説します。 [備考]</p> <p>第7講 関係法規（1）【演習】 [到達目標] 医療圏や医療行政等について、報告班から報告していただき、報告内容について討論します。 [備考]</p> <p>第8講 関係法規（2）【講義】 [到達目標] 医療に関連する業務に従事する者について解説します。 [備考]</p> <p>第9講 関係法規（2）【演習】 [到達目標] 医師、看護師、理学療法士と鍼灸師の関係について、報告班から報告していただき、報告内容について討論します。 [備考]</p> <p>第10講 関係法規（3）【講義】 [到達目標] 社会福祉等について解説します。 [備考]</p> <p>第11講 関係法規（3）【演習】 [到達目標] 生活保護・障害者療養等について、報告班から報告していただき、報告内容について討論します。 [備考]</p> <p>第12講 関係法規（4）【講義】 [到達目標] 医療保険制度や介護保険制度について解説します。 [備考]</p> <p>第13講 関係法規（4）【演習】 [到達目標] 療養費・介護保険・機能訓練指導員等について、報告班から報告していただき、報告内容について</p>

	<p>て討論します。 [備考] 第14講 まとめ [到達目標] 日本の現状、国際情勢等について解説します。 [備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	一人一回は必ず報告する機会があります。調査を行い、レジュメを作成して報告の準備をしてください。
教科書	「関係法規（第7版）」前田和彦著（医歯薬出版株式会社）社団法人東洋療法学校協会編 ※ 必ず購入してください（昨年教科書でも大丈夫です） 最新年度版『療養費の支給基準』社会保険研究所
参考書	適宜紹介します。
成績評価	最後にレポートをまとめていただきます。レポートの内容。評価基準等については講義の中で提示します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 坂部昌明（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : info.sk285@gmail.com オフィスアワー : メールでの質問を歓迎します。2、3日後には返信します。
備考	

講義科目名称： 分子生物学

授業コード：

英文科目名称： Molecular Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>近年の医学や科学での進歩は、分子生物学で得られた知見が大きく貢献しており、分子生物学の基礎知識がなければ医学や科学の成果を正しく理解することは難しい。</p> <p>本講義では、医療・科学の様々な分野で明らかにされた重要な分子生物学的知見や分子生物学的手法の概要を解説する。本講義の内容を理解し、医学や科学を分子生物学の視点からも理解できるようになることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回目 分子生物学の歴史 到達目標：分子生物学の歴史、手法、モデル生物について説明できる。</p> <p>第2回目 分子生物学の基礎知識（核酸） 到達目標：クロマチン、染色体の構造と複製・転写機構について説明できる。</p> <p>第3回目 分子生物学の基礎知識（タンパク質） 到達目標：タンパク質への翻訳機構とその調節について説明できる。</p> <p>第4回目 分子進化 到達目標：分子の視点で生物の進化や種分化を説明できる。</p> <p>第5回目 分子発生生物学 到達目標：分子の視点で生物の発生機構を説明できる。</p> <p>第6回目 免疫学・微生物学における分子生物学 到達目標：免疫学・微生物学における分子生物学について説明できる。</p> <p>第7回目 現代医療・科学における分子生物学 到達目標：分子生物学の知見を利用した現代医療及び科学の概要を説明できる。 [備考]-omics、クローン技術、再生医学、遺伝子組み換え、遺伝子多型、microRNA、創薬などに活用される分子生物学について紹介する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	参考書などを参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習130分）し、講義で学修した内容をまとめてください（復習130分）
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書	「細胞の分子生物学（Molecular Biology of the Cell 日本語版）」 B. Alberts 他；ニュートンプレス 「ウィーバー分子生物学」 Robert F. Weaver；化学同人 「分子生物学」柳田充弘・西田栄介・野田亮 編；東京化学同人
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 評価はレポートによって行なう。
担当教員の基本情報	担当教員名：千葉章太 研究室：5号館2階 メールアドレス：s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水、金曜日放課後
備考	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ・千葉 章太			
添付ファイル			

授業目標	病原体と感染防御の仕組み（自然免疫と獲得免疫）について感染症学と免疫学で学んだ知識に基づいて、また、健康な生活の維持に関わる環境因子について衛生・公衆衛生学で学んだ知識に基づいて、観察と実験を通して具体的に理解する。
授業計画	<p>第1, 2, 3回 細菌の染色と培養 細菌の特徴を理解する。 咽頭常在菌と病原菌について理解する。</p> <p>第4, 5, 6回 細菌の形態と性状、消毒法 細菌のコロニーの形態と菌の形態的特徴について理解する。 消毒法の問題点について具体的に理解する。</p> <p>第7, 8, 9回 抗体の反応、免疫系の組織・器官 抗原抗体反応の特異性について理解する。 生体における免疫器官の配置と構造、構成する細胞群について理解する。 凝集反応、溶血反応について理解する。</p> <p>第10, 11, 12回 物理的環境因子：気候条件 気候条件と健康の関わりを理解する。 温熱の4要素と主な温熱指標について理解する。 気候条件の測定法を理解する。</p> <p>第13, 14, 15回 物理的環境因子：照度、騒音 照度、騒音と健康の関わりを理解する。 照度、騒音の測定法を理解する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	事前に実習書をよく読んで、その日の実習内容を理解しておく。（70分程度） その日に得られた結果等を整理・解析し、目的・方法・結果・考察の項目に分けてレポートを作成する。（140分程度）
教科書	公衆衛生・生体防御学実習書（明治国際医療大学 免疫・微生物学教室 編）
参考書	<p>図解臨床検査 坂崎 利一 編 (文光堂)</p> <p>戸田新細菌学 森 良一 他 (南江堂)</p> <p>臨床細菌学アトラス 桑原 章吾 他 (文光堂)</p> <p>衛生試験法・注解 編集) 日本薬学会 (金原出版)</p>
成績評価	レポートで評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 糸井マナミ 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室 メールアドレス : m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日、金曜日 12:40-13:30</p> <p>担当教員名 : 千葉 章太 研究室 : 5号館2階 免疫・微生物学教室 メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日、金曜日 12:40-13:30</p>
備考	◎-1

講義科目名称： リハビリテーション医学

授業コード： 2S303 BS303

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
木村 篤史			
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等) について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
森永 敏博			
添付ファイル			

授業目標	各種疾病や傷害によって生じる運動機能障害に対するリハビリテーションの理解を深める。 運動の意義、体力など総論的知識の習得に加え、臨床に役立つと思われる姿勢、身体各部の運動、歩行や異常歩行などについても論じる。
授業計画	<p>1回目 運動器系障害とは何か？障害を構成する要素 [到達目標] 運動器系リハにおける運動学の意味を理解する。 [備考] 運動障害の原因や分類などについて予習しておくこと</p> <p>2回目 運動のしくみ [到達目標] 運動の面、軸、挺子の原理について理解する。 [備考] 教科書137p～143pを予習しておくこと</p> <p>3回目 関節の機能と構造について [到達目標] 関節の種類と可動域（ROM）について理解する。 [備考] 教科書201p～204p、解剖学の復習をしておくこと</p> <p>4回目 筋肉の構造と機能について [到達目標] 筋の収縮様態と関節運動について理解する。 [備考] 教科書204p～208pの予習、生理学の復習をしておくこと</p> <p>5回目 筋委縮と筋肥大について [到達目標] 運動麻痺と筋力の評価法について理解する。 [備考] 教科書27p～37pの予習、生理学の復習をしておくこと</p> <p>6回目 筋力増強法について [到達目標] 等尺訓練法や等張訓練法について理解する。 [備考] 筋収縮について生理学の復習をしておくこと</p> <p>7回目 廃用症候群について [到達目標] 安静と機能低下について理解する。 [備考] 教科書38p～40pの予習をしておくこと</p> <p>8回目 中枢神経疾患と運動障害について1 [到達目標] CVAによる運動障害の特長について理解する。 [備考] 教科書72p～81pの予習をしておくこと</p> <p>9回目 中枢神経疾患と運動障害について2 [到達目標] CVAのリハについて理解する。 [備考] 教科書72p～81pの予習、復習をしておくこと</p> <p>10回目 脊髄損傷による運動障害について [到達目標] 合併症とリハの進め方について理解する。 [備考] 教科書82p～88pの予習をしておくこと</p> <p>11回目 関節リウマチについて [到達目標] 変形、補装具、運動療法などについて理解する。 [備考] 教科書116p～120pの予習をしておくこと</p> <p>12回目 いわゆる五十肩や腰痛症について [到達目標] 発生のメカニズムや運動療法について理解する。 [備考] 教科書102p～104pの予習をしておくこと</p> <p>13回目 変形性関節症、その他について [到達目標] リハの基本について理解する。 [備考] 教科書105p～108Pの予習をしておくこと</p> <p>14回目 異常歩行について（評価含む） [到達目標] 正常歩行について分析し、異常歩行の原因、評価について理解する。 [備考] 教科書189p～193pの予習をしておく</p>
授業時間外の学習（準備学習等）に	講義内容を理解するにあたっては、解剖学や生理学で学習した内容とのかかわりが深い。 講義の項目に該当する部分をあらかじめ復習し、講義に出席することが望まれる。

ついて	
教科書	「リハビリテーション医学」土肥信之著（東洋療法学会編、医歯薬出版）
参考書	「基礎運動学」中村隆一、他著、（医歯薬出版）
成績評価	期末試験80%、平常点20%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 森永敏博（非常勤講師） 研究室 : 6号館非常勤講師室&四條畷学園大学リハビリテーション学部 メールアドレス : morinaga@reha.shijonawate-gakuen.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後
備考	「講義に関する実務経験」 大学病院、一般病院における臨床経験

講義科目名称： 免疫学特論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
糸井マナミ			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	演習（授業形態：未定）	
添付ファイル			

授業目標	免疫系の基本的な成り立ちに加えて、近年その存在や機能が明らかにされてきた新たな細胞や分子による免疫系の修飾・調節について学ぶ。 免疫系の異常が関わる炎症性疾患（アレルギー、自己免疫疾患、自己炎症性疾患など）やがんの発症や治療における免疫系の関わりなど、臨床応用分野での免疫学について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 免疫系の成り立ち [到達目標] ・免疫系を構成する基本的な細胞・分子について理解する。 ・自然リンパ球・NKT細胞・γ δ T細胞などの働きについて理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（レポート提出・添削）</p> <p>第2回 免疫系の調節 [到達目標] ・免疫系の調節における神経系の関わりを理解する。 ・免疫系の調節における内分泌系の関わりを理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（レポート提出・添削）</p> <p>第3回 腸管・粘膜系における免疫系 [到達目標] ・腸管や粘膜系における免疫系の概要を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（レポート提出・添削）</p> <p>第4回 自己炎症性疾患 [到達目標] ・自然免疫系による炎症の機序を理解する。 ・自己炎症性疾患およびその発症機序を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（レポート提出・添削）</p> <p>第5回 自己免疫疾患 [到達目標] ・自己寛容のしくみについて理解する。 ・代表的な自己免疫疾患の発症機序、治療法を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（レポート提出・添削）</p> <p>第6回 アレルギー [到達目標] ・代表的なアレルギー疾患の発症機序、治療法について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（レポート提出・添削）</p> <p>第7回 がんと免疫 [到達目標] ・がんの発症における免疫系の関わりを理解する。 ・がんにおける免疫療法の概要を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（レポート提出・添削）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	1. 講義前に関連項目について調べておく。（130分程度） 2. 講義後に講義内容を復習し理解を深め、レポートにまとめる。（130分程度）
教科書	講義用資料を配布する。
参考書	Janeway's 免疫生物学（南江堂） シンプル免疫学（南江堂） わかる！身につく！病原体・感染・免疫（南山堂）
成績評価	出席が6割に満たないものは評価の対象外とする。 各講義のレポート（7回分）により評価する。
担当教員の基本情報	担当教員：糸井マナミ 研究室：5号館2階 免疫・微生物学教室 教授室：1号館2階 メールアドレス：m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・金曜日 13:00-13:50
備考	この科目とディプロマポリシーの関連：◎ - 1

講義科目名称： 応急・救急法

授業コード： 2S305 BS305

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
坪倉 寛明			
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等) について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
田口 玲奈			
添付ファイル			

授業目標	<p>[授業目標]</p> <p>鍼灸の科学的研究を通して、鍼灸作用に関する基礎医学的知識を身に付ける。 鍼灸研究のこれまでの概要と鍼灸作用である鍼鎮痛の作用機序、各種生体機能（内臓、器官）、運動器系に及ぼす影響の作用機序についての知識および、鍼灸の治効理論と関連学説についての知識を身に付ける。</p>			
授業計画	1回目	<p>ガイダンス、鍼の基礎知識、刺鍼方法、基本17手技、特殊鍼法</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>【学習目標】 鍼の形態、刺鍼方法について説明できる。 基本17手技について説明できる。 特殊鍼法について説明できる。</p>		
	2回目	<p>灸の基礎知識、灸術、鍼灸の臨床的応用、適応と禁忌</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>【学習目標】 灸の基礎知識について説明できる。 灸術の種類について説明できる。 鍼灸の刺激量について説明できる。 鍼灸施術の適応と禁忌について説明できる。</p>		
	3回目	<p>鍼灸施術におけるリスク管理</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>【学習目標】 気胸の原因・症状・対応・予防について説明できる。 折鍼の原因・対応・予防について説明できる。 出血・内出血の原因・対応・予防について説明できる。 抜鍼困難の原因・対応・予防について説明できる。 脳貧血の原因・対応・予防について説明できる。 臓器への刺鍼リスクについて説明できる。 灸痕化膿の原因・対応・予防について説明できる。 灸あたりの原因・対応・予防について説明できる。</p>		
	4回目	<p>感染症対策</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>【学習目標】 消毒と滅菌について説明できる。 手指消毒と患部消毒について説明できる。 器具の滅菌について説明できる。 肝炎とエイズなどの感染症に対する対策について説明できる。</p>		
	5回目	<p>鍼刺激（痛み感覚）の受容と伝導</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>【学習目標】 痛みの受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 内因性発痛物質について説明できる。 痛覚伝導路について説明できる。 関連痛について説明できる。</p>		
	6回目	<p>鍼刺激（触圧感覚）の受容と伝導</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>【学習目標】 触圧受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 触覚伝導路について説明できる。</p>		
	7回目	<p>灸刺激（温感覚）の受容と伝導</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p>		

8回目	<p>【学習目標】 温受容器・冷受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 温覚伝導路について説明できる。 鍼灸治効機序と反射</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p>
9回目	<p>【学習目標】 反射について説明できる。 体性-運動反射（伸張反射、拮抗抑制、屈曲反射、自原抑制）について説明できる。 軸索反射について説明できる。 鍼灸治効機序と自律神経1</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p>
10回目	<p>【学習目標】 自律神経について説明できる。 自律神経系の神経伝達物質と受容体について説明できる。 交感神経・副交感神経・内臓求心性神経について説明できる。 鍼灸治効機序と自律神経2</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p>
11回目	<p>【学習目標】 体性-内臓反射による鍼灸の効果について説明できる。 鍼灸刺激による胃運動の反応について説明できる。 鍼灸刺激による膀胱運動の反応について説明できる。 鍼灸刺激による血圧の反応について説明できる。 鍼灸治効機序と生体防御機構</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p>
12回目	<p>【学習目標】 鍼灸刺激で遊離される内因性発痛物質とその作用について説明できる。 鍼灸刺激による免疫系への影響について説明できる。 鍼鎮痛</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p>
13回目	<p>【学習目標】 鍼麻酔の長所と短所について説明できる。 鍼鎮痛の特徴（内因性鎮痛機構）について説明できる。 下行性疼痛抑制系について説明できる。 内因性モルヒネ様物質について説明できる。 ゲートコントロール説について説明できる。 広汎性侵害抑制調節について説明できる。 鍼灸治効機序と関連学説</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p>
14回目	<p>【学習目標】 鍼灸施術とサイバネティクス学説との関連について説明できる。 鍼灸施術とホメオスターシスとの関連について説明できる。 鍼灸施術と汎適応症候群との関連について説明できる。 鍼灸施術と過剰刺激症候群との関連について説明できる。 鍼灸施術と圧発汗反射との関連について説明できる。 鍼灸施術の治療的作用と評価</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング型授業で行う（前半：講義、後半：確認テスト、ディスカッション）</p> <p>【学習目標】 鍼灸施術治療的作用について説明できる。</p> <p>【評価】 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・「人体機能学」を良く復習しておくこと。 ・配布資料を熟読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問して解決すること。 ・課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「はりきゅう理論」教科書執筆小委員会著（医道の日本社）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「鍼灸臨床最新科学－メカニズムとエビデンス－」川喜田健司、矢野忠 編集（医歯薬出版） ・「生理学－第2版－」佐藤優子、佐藤昭夫 他著（医歯薬出版） ・「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎昭弘著（医歯薬出版） ・「鍼灸臨床の科学」西條一止、熊澤孝朗監修（医歯薬出版）
成績評価	評価方法と評価割合（筆記試験95%、受講態度5%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 田口 玲奈 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日14:00-17:00</p>

備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	2	必修
担当教員			
深田 雄志			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：講義	備考欄・受講前のグループ分けを必ず実施願います！！
添付ファイル			

授業目標	GIO（一般目標）：西洋医学の内科・外科分野の、鍼灸師として必要な代表的疾患について、それぞれの病態生理・診断（検査を含む）・治療（薬物療法・手術療法ほか）および予後について説明できる。 SBO（個別目標）：勉強すべき範囲は東洋療法研修試験財団の示す「はり師・きゅう師国家試験出題基準」がインターネットなどで閲覧できるので参考にすること。講師は、大切な事項は繰り返し登場するよう協力するので、学生は繰り返したことが理解できていないと感じたときは、教科書や講師を使い、理解を確実にする。		
授業計画	第1講	オリエンテーション 西洋医学の「疾患」の考え方 これから学ぶ主要疾患	
	第2講	代謝疾患 糖尿病・肝硬変に伴う疾患と病態 最も西洋医学の内科らしい疾患	
	第3講	膠原病／自己免疫疾患 鍼灸を最も必要とする患者でよく出題されている その代表的疾患（関節リウマチ・SLEなど）	
	第4講	感染症疾患 感染症は食中毒や肝炎・がんなどの原因になる その代表的疾患や針刺し事故で注意すべき疾患	
	第5講	血液疾患 鉄欠乏性貧血やDICなど代表的疾患と症状	
	第6講	内分泌疾患 内分泌臓器（脳・甲状腺・副腎など）の異常によって起こる代表的疾患	
	第7講	精神疾患 外来が最も多い精神疾患 入院が最も多い精神疾患 その他代表的疾患	
	第8講	ここまでのまとめ・問題演習	
	第9講	消化管疾患 食道・胃・腸管の代表的疾患（がん・潰瘍性疾患・機能的疾患など）	
	第10講	呼吸器疾患 糖尿病・肝硬変に伴う疾患と病態 最も西洋医学の内科らしい疾患	
	第11講	循環器疾患 糖尿病・肝硬変に伴う疾患と病態 最も西洋医学の内科らしい疾患	
	中間試験		
	第12講	紹介できなかった主要疾患・1 感染症・呼吸器・循環器・消化器・膠原病の主要疾患	
	第13講	紹介できなかった主要疾患・2 血液・免疫・内分泌・精神の主要疾患 中間小試験	
	第14講	前期まとめ 試験解説とレポート課題	
	第15講	後期オリエンテーション 前期のふりかえり 症状から主要疾患と病態をみる 西洋医学の名探偵になろう	
	第16講	頻脈・徐脈・発熱 東洋医学での数脈・遅脈と同じもの 体温も組み合わせて西洋医学で何がわかるのか 感染症 鉄欠乏性貧血 甲状腺機能亢進症 うっ血性心不全 不整脈	
	第17講	汎血球減少・易感染性・出血傾向 血液検査のうち「血算」から病気を疑う SLE 再生不良性貧血	
	第18講	顔貌・眼球・眼瞼・口唇・舌炎 「顔の見た目」から病気を疑う クッシング症候群 肝硬変 肺がん 先天性心疾患 鉄欠乏性貧血	
	第19講	ビリルビン・γ-GTP 血液検査のうち「肝機能」から病気を疑う 溶血性貧血 肝・胆道疾患	
	第20講	浮腫・女性化乳房・手掌紅斑・レイノー現象 身体の「見た目」にあらわれる病気 肝硬変 SLE	
	第21講	リンパ節痛・ブルンベルグ徴候・放散痛	

	<p>胸部・腹部の「痛み」の正体 感染症 腹膜炎 虫垂炎 急性膵炎 急性心筋梗塞</p> <p>第22講 聴診（呼吸音・腸音）の異常 聴診器があれば疑える病気たち 気胸 肺炎 イレウス</p> <p>第23講 呼吸困難 「呼吸の仕方」から病気を疑う 閉塞性肺疾患<COPD> 肺気腫 気管支喘息</p> <p>第24講 吐血・喀血・嘔吐 口からの「吐物」から病気を疑う 食道静脈瘤 胃潰瘍・胃がん 肺結核</p> <p>第25講 下血・下痢 排泄物から病気を疑う 大腸がん 炎症性腸疾患 感染性腸炎</p> <p>第26講 検査値の異常 患者が持ち込む西洋医学の検査結果から病気や病態を疑う</p> <p>第27講 紹介できなかった主要症候 感染症は食中毒や肝炎・がんなどの原因になる その代表的疾患や針刺し事故で注意すべき疾患</p> <p>定期試験</p> <p>第28講 まとめ・定期試験解説 定期試験解説とレポート課題</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>定期試験（期末）の時期（1月中旬から2月中旬ごろ）は時間外学習ができるように、時間の確保を必ずお願い します。</p> <p>講義は、「基礎」「重要」となる部分をなるべく絞って、繰り返すことを心がけています。ですので、特別な 予習・復習は必要ありません。ただ、解剖学・生理学・生化学などが大きく理解不足だった学生は、ついてく るのが難しい可能性もあるので、予習・復習の仕方を相談にきて、2年生を脱落しないように努めてください。 また、優秀でより先・より上を勉強したい学生は、追加の学習の案内をしますので、教員に尋ねてください。</p>
教科書	「病態整理基礎のキソ」（学研メディカル秀潤社）
参考書	<p>おすすめのものとその理由を示します。他に良書があれば講師に教えてください。</p> <p>「なぜ？ どうして？ 2019-2020」（メディックメディア） ：看護学生向けに書かれていますが、とにかくブログや絵本のように読みやすい参考書です。記憶がストー リーだと定着しやすい人向きです。分冊になっていて、欲しい分野だけ買えるのもいいです。とてもお勧めで す。</p> <p>「病気がみえる 第4版」（メディックメディア） ：中学高校の「資料集」のようなビジュアルで疾患や臓器のことを解説しているので、視覚で記憶する人向き の参考書です。</p>
成績評価	定期試験70％・レポート30％で評価します。再試験時の評価については、必要な時期に示します。
担当教員の基本情 報	<p>担当教員名 : 深田 雄志 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : 質問・問合せはMellyを使ってください オフィスアワー : 授業の際に示す</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1</p> <p>みなさんに受講前をお願いしたいことがあります。 それはグループワークで使うグループ分けです。</p> <p>4人ないし5人で1チームをみなさんで決めて頂けたらと思います。 会話のしやすい仲間の方が学習効率が上がりますし、安心して講義にも臨んでもらいたいからです。 去年は計9チームになりました。 男女比なども気にしなくていいです。好きに組んでください。 基本的には1年間使うグループだと思って組んでください。 (とはいえ、人数バランスさえ悪くならなければ、前後期のあいだなどで移籍しても構いませんし、講義に影 響があるようなこじれがなければ、特に理由も聞きません)</p> <p>おそらくクラスLINEなどでやり取りした方が話やすいので、みなさんで決めておいてください。 例年必ず、初回の講義でチーム迷子の人が発生しますので、申し訳ありませんが、誰がどこのチームなのか、 の一覧表はクラスで共有しておいて頂けないでしょうか。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
斉藤 宗則、河井 正隆			
添付ファイル			

授業目標	<p>本実習は、鍼灸臨床現場において東洋医学的な健康観・身体観をもとに診療に臨み、東洋医学の診察法（四診）を用いて、患者の主訴の病態を推察し、基本的な治療ができることを到達目標としています。</p> <p>病態を大きくとらえる八綱弁証を基本に、よく用いられる経絡弁証、気血津液弁証、臟腑弁証とそれらの基本的な治療を身につけます。最後には鍼灸臨床でよく見られる腰痛について、診察の進め方や病証判断、基本的な選穴・手技を学びます。</p> <p>各病証の特徴をよく理解し、練習を積み重ねることで病態推察の精度は上がっていきます。できるだけ多くの状態に触れ、臨床現場で活かせる知識・技術を身につけましょう。</p>
授業計画	<p>1回目 四診法、弁証の進め方、基本的な治療 【到達目標】四診法の基本を理解し、実践できる 【授業形態】実習の基礎知識の復習、内容の説明の後、実習を行い、最後にまとめと振り返りを行う。 【備考】復習：四診法のポイントをまとめて、説明できるようにすること。</p> <p>2回目 八綱弁証 【到達目標】四診で得た所見に基づき、八綱病証を判断できる。 【授業形態】実習の基礎知識の復習、内容の説明の後、実習を行い、最後にまとめと振り返りを行う。 【備考】予習：『概論』P.271-273、『診療』P143 復習：八綱病証のポイントをまとめて、説明できるようにすること。</p> <p>3回目 八綱弁証と治療 【到達目標】四診で得た所見に基づき、八綱病証を判断できる。病証に応じた基本的治療ができる。 【授業形態】実習の基礎知識の復習、内容の説明の後、実習を行い、最後にまとめと振り返りを行う。 【備考】予習：『概論』P.271-273、『診療』P143、復習：八綱病証と治療のポイントをまとめて、説明できるようにすること。</p> <p>4回目 経絡弁証 【到達目標】四診で得た所見に基づき、経絡病証を判断できる。 【授業形態】実習の基礎知識の復習、内容の説明の後、実習を行い、最後にまとめと振り返りを行う。 【備考】予習：『経絡経穴概論』各経脈の流注、『診療』P188-190。復習：経絡病証のポイントまとめて、説明できるようにすること。</p> <p>5回目 経絡弁証と治療 【到達目標】四診で得た所見に基づき、経絡病証を判断できる。病証に応じた基本的治療ができる。 【授業形態】実習の基礎知識の復習、内容の説明の後、実習を行い、最後にまとめと振り返りを行う。 【備考】予習：『経絡経穴概論』各経脈の流注、『診療』P188-190、復習：経絡病証と治療のポイントまとめて、説明できるようにすること。</p> <p>6回目 気血津液弁証 【到達目標】四診で得た所見に基づき、気血津液病証を判断できる。 【授業形態】実習の基礎知識の復習、内容の説明の後、実習を行い、最後にまとめと振り返りを行う。 【備考】予習：『概論』P.273-275、『診療』P144-145、復習：気血津液病証のポイントまとめて、説明できるようにすること。</p> <p>7回目 気血津液弁証と治療 【到達目標】四診で得た所見に基づき、気血津液病証を判断できる。病証に応じた基本的治療ができる。 【授業形態】実習の基礎知識の復習、内容の説明の後、実習を行い、最後にまとめと振り返りを行う。 【備考】予習：『概論』P.273-275、『診療』P144-145、復習：気血津液病証と治療のポイントまとめて、説明できるようにすること。</p> <p>8回目 まとめ1 【到達目標】四診で得た所見に基づき、八綱病証・経絡病証・気血津液病証を判断できる。病証に応じた基本的治療ができる。 【授業形態】中間評価を行い、フィードバックを行う。 【備考】範囲：八綱弁証・経絡弁証・気血津液弁証とその治療</p> <p>9回目 臟腑弁証 肝と治療 【到達目標】四診で得た所見に基づき、肝病証を判断できる。病証に応じた基本的治療ができる。 【授業形態】実習の基礎知識の復習、内容の説明の後、実習を行い、最後にまとめと振り返りを行う。 【備考】予習：『概論』P.276,81-84、『診療』P147-148、復習：肝病証と治療のポイントを</p>

	<p>まとめて、説明できるようにすること。</p> <p>10回目 臓腑弁証 脾と治療 【到達目標】四診で得た所見に基づき、脾病証を判断できる。病証に応じた基本的治療ができる。 【授業形態】実習の基礎知識の復習、内容の説明の後、実習を行い、最後にまとめと振り返りを行う。 【備考】予習：『概論』P.277-278,100-102、『診療』P148、復習：脾病証と治療のポイントをまとめて、説明できるようにすること。</p> <p>11回目 臓腑弁証 腎と治療 【到達目標】四診で得た所見に基づき、腎病証を判断できる。病証に応じた基本的治療ができる。 【授業形態】実習の基礎知識の復習、内容の説明の後、実習を行い、最後にまとめと振り返りを行う。 【備考】予習：『概論』P.278-279,120-123、『診療』P147,149、復習：腎病証と治療のポイントをまとめて、説明できるようにすること。</p> <p>12回目 臓腑弁証 肺と治療 【到達目標】四診で得た所見に基づき、肺病証を判断できる。病証に応じた基本的治療ができる。 【授業形態】実習の基礎知識の復習、内容の説明の後、実習を行い、最後にまとめと振り返りを行う。 【備考】予習：『概論』P.278-279,110-113、『診療』P146-147、復習：肺病証と治療のポイントをまとめて、説明できるようにすること。</p> <p>13回目 腰痛の診断・治療 【到達目標】四診で得た所見に基づき、腰痛を判断できる。病証に応じた基本的治療ができる。 【授業形態】実習の基礎知識の復習、内容の説明の後、実習を行い、最後にまとめと振り返りを行う。 【備考】予習：配布プリントを一読、復習：腰痛と治療のポイントをまとめて、説明できるようにすること。</p> <p>14回目 まとめ2 【到達目標】四診で得た所見に基づき、臓腑病証と腰痛を判断できる。病証に応じた基本的治療ができる。 【授業形態】評価を行い、フィードバックを行う。 【備考】範囲：臓腑弁証・腰痛とその治療</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習：各回の病証について、病機や症状を見て覚えてください。 復習：各回の病証と治療について、臨床で実践できるよう繰り返し覚えてください。
教科書	新版 東洋医学概論 医道の日本 新しい鍼灸診療：北出利勝編集、医歯薬出版社
参考書	針灸学〔基礎編〕 東洋学術出版社 中医針灸治療のプロセス：朱江ほか編、篠原昭二監訳、東洋学術出版社
成績評価	受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の4/5以上の出席者とします。 評価：中間実技試験（50%）および後期末実技試験（50%）を合算して60点以上を合格とします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：○齊藤宗則 研究室：附属鍼灸センター2階 はりきゅう学講座 メールアドレス：mu_saitoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 17:30～18:00</p> <p>担当教員名：河井正隆 研究室：学修支援センター（別室）；3号館 メールアドレス：m_kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 17:30～19:00</p>
備考	実習が始まるまでに、白衣・名札を着衣しておくこと。実習の前と後で手洗いをを行うこと。 附属の施術施設にて鍼灸臨床を行っており、その実務経験をもとに授業を進める。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
田口 辰樹			
添付ファイル			

授業目標	臨床鍼灸学Ⅰでは、鍼灸臨床にとって必要な主要症候のうち、内科系（便通異常、食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、胸痛・動悸、呼吸困難、咳嗽、肥満・やせ、疲労と倦怠、血圧異常）及び心身医学系（睡眠障害、うつ病）の主要症候を取り上げ、それらの主要な原因疾患、症状の特徴、診察（鍼灸治療の適応か不適かの鑑別も含めて）および診察法、治療方針、鍼灸治療の方法について学習する。本講義では、内科系の主要症候について、適切な診察をすることができ、鍼灸治療の適否を判断した上で治療できることを到達目標とする。
授業計画	<p>第1回 呼吸困難 呼吸困難の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 教科書 p 53～61</p> <p>第2回 咳嗽 咳嗽の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 教科書 p 45～52</p> <p>第3回 胸痛 胸痛の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 教科書 p 85～90</p> <p>第4回 腹痛 腹痛の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 教科書 p 9～19</p> <p>第5回 便秘と下痢 便秘と下痢の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 教科書 p 27～44</p> <p>第6回 食欲不振 食欲不振を起こす病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 教科書 p 2～7</p> <p>第7回 悪心と嘔吐 悪心と嘔吐の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 教科書 p 20～26</p> <p>第8回 肥満 肥満の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 教科書 p 442～450</p> <p>第9回 冷え症 冷え症の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 教科書 p 431～438</p> <p>第10回 血圧異常 血圧異常の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 教科書 p 71～83</p> <p>第11回 不眠症 不眠症の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 教科書 p 392～402</p> <p>第12回 うつ病 うつ病の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。 教科書 418～430</p> <p>第13回 まとめ 1回～8回までの内容についての総復習。</p> <p>第14回 まとめ（評価を含む） 9回から12回までのすべての内容についての総復習を行った後に評価を行う。</p> <p>第15回</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	指定された講義の範囲を予習(45分)と講義後に授業の範囲の復習(45分)を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	『鍼灸療法技術ガイドI・II』 矢野 忠編 文光堂
参考書	『鍼灸学 臨床編』 天津中医学院+学校法人後藤学園編 東洋学術出版社 『病気がみえる①消化器、②循環器、③代謝・内分泌、④呼吸器』 医療情報科学研究所 メディックメディア 『東洋医学臨床論』 公益社団法人東洋療法学校協会編 医道の日本社
成績評価	出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 筆記試験100% (100点満点中60点以上を合格とする)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田口 辰樹 研究室 : 鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室 メールアドレス : t_taguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時(ただし金曜日は除く)
備考	実務経験内容 : 教育機関の附属鍼灸センター、医院の附属鍼灸施術所で鍼灸臨床業務に従事していた。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 本講義は指定された教科書に基づいて行いますので授業時には必ず教科書を持参してください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
福田文彦、山崎 翼			
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、基礎医学、臨床医学(主に内科系)、臨床鍼灸学 I (内科系)で学習した内容について、面接、診察による病態の把握及び鍼灸治療の方法について実習し技術を修得する。</p> <p>授業内容は、学生同士によるシミュレーションにより主として内科系の主要症候(便秘異常、食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、胸痛・動悸、呼吸困難、肥満、血圧異常)に対する面接、身体診察、鍼灸治療の内容、技術を修得する。また、鍼灸技術学、灸技術学、現代医学的鍼灸診察法実習、伝統鍼灸診断学応用実習の復習を行うことにより基礎的な技術、知識を身につける。</p> <p>本科目では、内科系の主要症候に対する診察技術(触診、打診、聴診)を身につけて、鍼灸治療の適否を判断した上で適切で安全な鍼灸施術を行う技術を修得する到達目標としている。</p>
授業計画	<p>第1回 腹部症状を訴える患者(消化器症状)への診察 基本的な面接のポイントが説明でき腹痛、悪心・嘔吐、便秘異常、食欲不振の面接のポイントが概説できる。 腹部の視診の方法が概説できる。 腹部の聴診により腸管運動音(グル音)が聴診でき、異常音が説明できる。 腹部の打診により鼓音が打診できる。 腹部の触診が模倣できる。 腹膜刺激徴候(咳嗽試験・踵落し衝撃試験・筋性防御・ブルンベルグ徴候)が模倣でき、陽性所見とその意味が説明できる。 虫垂炎の圧痛点(マックバーネイ点・ランツ点)の部位を説明し、ブルンベルグ徴候を模倣できる。 肋骨脊柱角の叩打が模倣でき陽性所見とその意味が説明できる。</p> <p>第2回 食欲不振、悪心・嘔吐の鍼灸治療 食欲不振、悪心・嘔吐への鍼灸治療の適否が説明できる。 食欲不振、悪心・嘔吐に対する東洋医学的弁証、現代医学的・エビデンスに基づく鍼灸治療が説明できる。 施灸用紙への施灸が目標数(数・質)実施できる。 食欲不振、悪心・嘔吐への基本的な鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第3回 便秘・下痢の鍼灸治療 便秘・下痢への鍼灸治療の適否が説明できる。 便秘・下痢に対する東洋医学的弁証、現代医学的・エビデンスに基づく鍼灸治療が説明できる。 刺鍼練習台にて片手挿管が目標回数実施できる。 便秘・下痢への基本的な鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第4回 胸部症状を訴える患者(呼吸器症状)への診察 基本的な面接のポイントが説明でき呼吸器症状の面接のポイントが概説できる。 胸部の聴診が模倣できる。 胸部の打診が模倣できる。</p> <p>第5回 呼吸困難に対する鍼灸治療 呼吸困難への鍼灸治療の適否が説明できる。 呼吸困難に対する東洋医学的弁証、現代医学的・エビデンスに基づく鍼灸治療が説明できる。 模擬症例から八綱弁証、気血津液弁証、臟腑弁証が推論して説明できる。 呼吸困難(呼吸補助筋)に対する鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第6回 胸部症状を訴える患者(循環器症状)への診察 基本的な面接のポイントが説明でき循環器症状の面接のポイントが概説できる。 触診法・聴診法での血圧測定ができる。 心濁音界の打診が模倣できる。 胸部の聴診が模倣できる。</p> <p>第7回 循環器疾患(血圧異常)に対する鍼灸治療 循環器症状への鍼灸治療の適否が説明できる。 循環器症状に対する東洋医学的弁証、現代医学的・エビデンスに基づく鍼灸治療が説明できる。 施灸用紙への施灸が目標数(数・質)実施できる。 血圧異常への基本的な鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第8回 代謝内分泌疾患(肥満・糖尿病)患者に対する診察 基本的な面接のポイントが説明でき代謝内分泌疾患の面接のポイントが概説できる。 音叉を使った振動覚測定が実施できる。 アキレス腱反射が実施できる。 触覚閾値(タッチテスト)が模倣できる。</p> <p>第9回 肥満に対する鍼灸治療 肥満への鍼灸治療の適否が説明できる。 肥満に対する東洋医学的弁証、現代医学的・エビデンスに基づく鍼灸治療が説明できる。 刺鍼練習台にて片手挿管が目標回数実施できる。 肥満への耳鍼療法が実施できる。</p> <p>第10回 糖尿病性末梢神経障害に対する鍼灸治療</p>

	<p>糖尿病患者への鍼灸治療の適否が説明できる。 糖尿病に対する東洋医学的弁証、現代医学的・エビデンスに基づく鍼灸治療が説明できる。 模擬症例から八綱弁証、気血津液弁証、臟腑弁証が推論して説明できる。 糖尿病性末梢神経障害への鍼通電刺激が実施できる。</p> <p>第11回 精神的不調を訴える患者(うつ症状・不眠)に対する診察 基本的な面接のポイントが説明できうつ症状・不眠の面接のポイントが概説できる。 傾聴・共感を意識した面接が実施できる。</p> <p>第12回 うつ病・不眠に対する鍼灸治療 うつ症状・不眠患者への鍼灸治療の適否が説明できる。 うつ症状・不眠に対する東洋医学的弁証、現代医学的・エビデンスに基づく鍼灸治療が説明できる。 鍼灸用紙への施灸が目標数(数・質)実施できる。 うつ症状・不眠への基本的な鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第13回 面接・身体診察の復習 12回の授業で到達目標とした面接・身体診察ができる。</p> <p>第14回 症候に対する鍼灸治療の復習 12回の授業で到達目標とした鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第15回 実技試験 評価のための実技試験を行う。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>授業中に習得した身体診察について、授業毎に1時間程度の復習を行うこと。 鍼灸治療については、学生同士での復習を禁止します。鍼灸治療の復習については、教員が指定した時間に実施します。 不明な点は実習中に教員に再確認してください。</p>
教科書	<p>『鍼灸療法技術ガイドⅡ』矢野 忠編 文光堂 『鍼灸療法技術ガイドⅠ』矢野 忠編 文光堂 授業で配布した資料は実技用の標準テキストとする。</p>
参考書	『診察と手技がみえる1』 古谷伸之 メディックメディア
成績評価	<p>授業の4/5以上の出席日数を満たした者を対象として実技試験を行う。 試験は診察法および鍼灸施術を中心とした実技試験とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 福田文彦、山崎 翼 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : f_fukuda@meiji-u.ac.jp、t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 福田は木曜日のみ対応可 事前にメールで日時を確認してください。</p>
備考	<p>福田文彦：附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院に勤務、その実務経験をもとに実習指導を行う。 山崎 翼：附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、京都桂川鍼灸院に勤務、その実務経験をもとに実習指導を行う。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
田口 辰樹			
添付ファイル			

授業目標	臨床鍼灸学Ⅱ（運動器系）では、運動器系疾患の診察および鍼灸治療に必要な知識を修得する。特に、鍼灸臨床で遭遇する機会が多い疾患や症候、国家試験に出題される可能性の高い疾患や症候について、基本的な事項を重点的に学習する。本講義では、運動器系の主要症候について、適切な診察を行うことが出来、鍼灸治療の適否を判断した上で治療が出来ることを到達目標とする。		
授業計画	第1回	授業ガイダンス、腰痛・腰下肢痛 総論 [到達目標] 1. 臨床に必要な腰・下肢部の解剖に関する理解 2. 椎間板から起る退行変性の成り立ち、症状発現に関する理解 予習：腰部、下肢における骨、筋、神経に関する解剖の復習 復習：椎間板から起る退行変性の成り立ちについて理解を深める	
	第2回	教科書 p 105～112 腰部疾患（変形性腰椎症） [到達目標] 変形性腰椎症、椎間関節性腰痛に関する理解と診察法の知識修得 予習：各種退行変性疾患についての大まかな理解 復習：各種退行変性疾患について、授業内容を理解する	
	第3回	教科書 p 105～112、558～565、576～579 腰部疾患（腰椎椎間板ヘルニア） [到達目標] 1. 椎間板ヘルニア、腰椎分離・すべり症に関する理解と診察法の知識修得 2. 障害高位と症状、理学所見に関する理解 予習：椎間板ヘルニア、腰椎すべり症についての概要の把握 復習：椎間板ヘルニアと障害高位の関係、および障害高位と理学所見の関係について記憶する	
	第4回	教科書 p 566～575、582～584 腰部疾患（脊柱管狭窄症） [到達目標] 1. 腰部脊柱管狭窄に関する理解と診察法の知識修得 2. 腰・下肢症状の一般的な各種鍼灸治療法に関する知識の修得 予習：脊柱管狭窄に関する概要の把握 復習：脊柱管狭窄に関する知識の再確認と各種鍼灸治療の意義について理解を深める	
	第5回	教科書 p 586～595 頸肩腕痛 総論 [到達目標] 頸肩腕痛の総論に関する理解 予習：頸肩部、上肢における骨、筋、神経に関する解剖の復習 復習：頸部の構造的特徴による、症状発現に関する理解を深める	
	第6回	教科書 p 92～104 頸部疾患（変形性頸椎症） [到達目標] 変形性頸椎症、頸部椎間板ヘルニア、頸部疾患に関する理解と診察法の知識修得 予習：各疾患についての大まかな理解 復習：各疾患について、授業内容を理解する	
	第7回	教科書 p 482～495、507～516、 頸部疾患（外傷性頸部症候群） [到達目標] 1. 外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群に関する理解と診察法の知識修得 2. 頸肩・上肢症状の一般的な各種鍼灸治療法に関する知識の修得 予習：外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群についての概要の把握 復習：外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群に関する知識の再確認と各種鍼灸治療の意義について理解を深める 教科書 p 507～516、518～523、117～124	

	<p>第8回 肩関節疾患（肩関節周囲炎） [到達目標] 1. 臨床に必要な肩関節の解剖に関する理解 2. 肩関節疾患、診察法に関する理解 3. 肩関節の鍼灸治療法に関する知識の修得</p> <p>予習：肩関節の解剖に関する復習 復習：肩関節の解剖、機能に関する復習と各種疾患の特徴に関する理解</p> <p>教科書 p 145～155、p 527～535</p> <p>第9回 膝関節疾患（変形性膝関節症） [到達目標] 1. 臨床に必要な膝関節の解剖に関する理解 2. 膝関節疾患（特に変形性膝関節症）、診察法に関する理解 3. 膝関節の鍼灸治療法に関する知識の修得</p> <p>予習：膝関節の解剖に関する復習 復習：膝関節の解剖、機能に関する復習と変形性膝関節症の特徴に関する理解</p> <p>教科書 p 193～203、p 614～618</p> <p>第10回 股関節疾患（変形性股関節症） [到達目標] 1. 臨床に必要な股関節の解剖に関する理解 2. 股関節疾患（特に発育性股関節形成不全）、診察法に関する理解 3. 股関節の鍼灸治療法に関する知識の修得</p> <p>予習：股関節の解剖に関する復習 復習：股関節の解剖、機能に関する復習と変形性股関節症の特徴に関する理解</p> <p>教科書 p 181～190、p 614～618</p> <p>第11回 肩こり [到達目標] 1. 肩こりの病態についての理解 2. 肩こりにおける診察法、鍼灸治療法の知識修得</p> <p>予習：肩こりについての大まかな理解 復習：肩こりの病態に関する復習と診察法に関する理解</p> <p>教科書 p 117～124</p> <p>第12回 絞扼神経障害（1）：上肢 [到達目標] 1. 絞扼神経障害についての理解 2. 上肢における主な神経の走行、支配についての理解 3. 上肢における主な絞扼神経障害の鑑別、鍼灸治療法の知識修得</p> <p>予習：上肢の主な末梢神経（正中神経、尺骨神経、橈骨神経）の走行・支配についての大まかな理解 復習：上記神経の走行・支配の復習と主な絞扼部位の解剖、絞扼部位の違いによる症状の差異に関する理解</p> <p>教科書 p 538～556</p> <p>第13回 絞扼神経障害（2）：下肢 [到達目標] 1. 下肢における主な神経の走行、支配についての理解 2. 下肢における主な絞扼神経障害の鑑別、鍼灸治療法の知識修得</p> <p>予習：下肢の主な末梢神経（坐骨神経、大腿神経）の走行・支配についての大まかな理解 復習：各種絞扼神経障害による症状の確認</p> <p>教科書 p 622～631</p> <p>第14回 講義のまとめ（評価を含む） [到達目標] 全講義内容を復習し、その後評価を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	運動器系疾患・症候の理解、それらに対する鍼灸治療法の知識的修得に関して必要な最低事項は解剖学的知識であり、少なくとも各講義までに関連した解剖学的な知識の確認を行っておく。
教科書	「図解鍼灸療法技術ガイドI、II」 矢野 忠編（文光堂）
参考書	「現代鍼灸臨床の実際」 松本 勲著（医歯薬出版） 「標準整形外科学」 広畑和志著（医学書院） 「ベッドサイドの神経の診方」 田崎義明、斉藤佳雄著（南山堂） 「運動器疾患の治療 整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸」 平澤泰介、北出利勝編（医歯薬出版）
成績評価	出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 評価は筆記試験（100点満点中60点以上を合格とする）の結果にて行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田口 辰樹 研究室 : 附属鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室 メールアドレス : t_taguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（ただし金曜日を除く）
備考	実務経験内容 : 教育機関の附属鍼灸センター、医院の附属鍼灸施術所で鍼灸臨床業務に従事していた。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。

	本講義は教科書を用いて行うため授業には必ず教科書を持参するようにしてください。また、予め指定されたページには必ず目を通すようにしてください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	2	必修
担当教員			
福田 文彦			
添付ファイル			

授業目標	臨床鍼灸学実習Ⅱ（運動器系）は、運動器系疾患の診察技法および鍼灸治療に必要な知識・技術を修得する。特に鍼灸臨床で遭遇する機会が多い疾患や症候、国家試験に出題される可能性の高い疾患や症候について、基本的な診察法および治療技術を重点的に学習する。		
授業計画	第1回	<p>授業ガイダンス、腰部実技（1）</p> <p>[到達目標]</p> <p>腰部疾患、障害高位の鑑別に必要な理学所見等に関する知識・技術の修得</p> <p>予習：腰・下肢症状に関わる理学検査についての調査 復習：理学検査法の技術確認、および障害高位と理学所見の関係についての理解</p>	
	第2回	<p>腰部実技（2）</p> <p>[到達目標]</p> <p>腰部傍脊柱部刺鍼の意義と方法の修得</p> <p>予習：腰椎周囲の神経支配に関する知識の確認 復習：傍脊柱部刺鍼に必要な知識の確認と腰部傍脊柱部の触診・刺鍼の練習</p>	
	第3回	<p>腰部実技（3）</p> <p>[到達目標]</p> <p>主な下肢末梢神経（脛骨神経、腓骨神経、腓腹神経、大腿神経）の走行・支配の理解と障害に応じた刺鍼部選択技術の修得</p> <p>予習：主な下肢末梢神経（脛骨神経、腓骨神経、腓腹神経、大腿神経）の走行・支配の確認 復習：障害に応じた神経走行部刺鍼の理解</p>	
	第4回	<p>腰部実技（4）、（腰部復習）</p> <p>[到達目標]</p> <p>主な腰下肢筋群への刺鍼法と刺鍼筋の選択技術の修得</p> <p>予習：腰下肢筋の起始・停止・作用についての復習 復習：各腰下肢筋の空間的位置関係の調査</p>	
	第5回	<p>頸部実技（1）</p> <p>[到達目標]</p> <p>頸部疾患、障害高位の鑑別に必要な理学所見等に関する知識・技術の修得</p> <p>予習：頸肩・上肢症状に関わる理学検査についての調査 復習：理学検査法の技術確認、および障害高位と理学所見の関係についての理解</p>	
	第6回	<p>頸部実技（2）</p> <p>[到達目標]</p> <p>頸部傍脊柱部刺鍼の意義と方法の修得</p> <p>予習：頸椎周囲の神経支配に関する知識の再確認 復習：傍脊柱部刺鍼に必要な知識の再確認と頸部傍脊柱部の触診・刺鍼の練習</p>	
	第7回	<p>頸部実技（3）、（頸部復習）</p> <p>[到達目標]</p> <p>主な頸肩・上肢筋群への刺鍼法と刺鍼筋の選択技術の修得</p> <p>予習：頸肩・上肢筋の起始・停止・作用についての復習 復習：各頸肩・上肢筋の空間的位置関係の調査</p>	
	第8回	<p>肩関節実技（1）</p> <p>[到達目標]</p> <p>1. 肩関節の構造・機能の理解 2. 肩関節の理学検査と疾患の関係についての理解</p> <p>予習：肩関節の解剖・機能の復習 復習：理学所見と疾患の関係についての確認</p>	
	第9回	<p>肩関節実技（2）、（肩関節復習）</p> <p>[到達目標]</p> <p>肩関節に対する基本的な各種鍼灸治療法の修得</p> <p>予習：肩関節の解剖・機能の復習 復習：肩関節の解剖・機能を踏まえた触察の練習</p>	
	第10回	<p>膝関節実技（1）</p> <p>[到達目標]</p>	

第11回	<p>1. 膝関節の構造・機能の理解 2. 膝関節の理学検査と疾患の関係についての理解（特に変形性膝関節症について）</p> <p>予習：膝関節の解剖・機能の復習 復習：理学所見と疾患の関係についての確認 膝関節実技（2）、（膝関節復習） [到達目標] 膝関節に対する基本的な各種鍼灸治療法の修得（特に変形性膝関節症について）</p>
第12回	<p>予習：膝関節の解剖・機能の復習 復習：膝関節の解剖・機能を踏まえた触察の練習 前期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前期実習範囲（腰部、頸部、肩関節、膝関節）における知識、疾患と理学所見の関係、刺鍼技術の修得状況の確認</p>
第13回	<p>予習：前期実習範囲（腰部、頸部、肩関節、膝関節）の復習 復習：前期まとめの再確認 前期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前期実習範囲（腰部、頸部、肩関節、膝関節）における知識、疾患と理学所見の関係、刺鍼技術の修得状況の確認</p>
第14回	<p>予習：前期実習範囲（腰部、頸部、肩関節、膝関節）の復習 復習：前期まとめの再確認 手・肘関節実技 [到達目標]</p>
第15回	<p>1. 手・肘関節の構造の理解 2. 手・肘関節に関わる筋・腱の確認 3. 手・肘関節における主な疾患と理学所見、および各種疾患に対する鍼灸治療技術の修得</p> <p>予習：手・肘関節の構造、機能の復習 復習：手・肘関節の解剖・機能を踏まえた触察の練習 前期未習得部分の再学習 [到達目標] 前期未習得部分の確認と習得</p>
第16回	<p>予習：前期未習得部分の確認 復習：再学習部分の復習 股関節実技（1） [到達目標] 1. 股関節の構造・機能の理解 2. 股関節の理学検査と疾患の関係についての理解（特に変形性股関節症について）</p>
第17回	<p>予習：股関節の解剖・機能の復習 復習：理学所見と疾患の関係についての確認 股関節実技（2）、（手・肘・股関節復習） [到達目標] 股関節に対する基本的な各種鍼灸治療法の修得（特に変形性股関節症について）</p>
第18回	<p>予習：股関節の解剖・機能の復習 復習：股関節の解剖・機能を踏まえた触察の練習 絞扼神経障害（1）：胸郭出口症候群 [到達目標] 1. 胸郭出口部の解剖、および絞扼部位と理学所見の関係の確認 2. 胸郭出口症候群に対する診察・鍼灸治療法の修得</p>
第19回	<p>予習：胸郭出口部の解剖の復習 復習：絞扼部位と理学所見の関係についての確認 絞扼神経障害（2）：上肢 [到達目標] 1. 上肢の主な末梢神経（正中神経・尺骨神経・橈骨神経）の走行・支配、および絞扼好発部位と症状・理学所見の関係の確認 2. 主な上肢の絞扼神経障害に対する鍼灸治療法の修得</p>
第20回	<p>予習：上肢の主な末梢神経（正中神経・尺骨神経・橈骨神経）の走行・支配の復習 復習：上肢の主な絞扼神経障害と症状の関係についての理解 絞扼神経障害（3）：下肢 [到達目標] 1. 下肢の主な末梢神経（脛骨神経・腓骨神経・腓腹神経・大腿神経）の走行・支配、および絞扼好発部位と症状・理学所見の関係の確認 2. 主な下肢の絞扼神経障害に対する鍼灸治療法の修得</p>
第21回	<p>予習：下肢の主な末梢神経（脛骨神経・腓骨神経・腓腹神経・大腿神経）の走行・支配の復習 復習：下肢の主な絞扼神経障害と症状の関係についての理解 後期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前期の一部（手・肘関節）、および後期の実習範囲（股関節、絞扼神経障害）に関する知識、疾患と理学所見の関係、刺鍼技術の修得状況の確認</p>

第22回	<p>予習：前期実習範囲の一部（手・肘関節）、後期実習範囲（股関節、絞扼神経障害）の復習 復習：後期まとめの再確認 後期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前期の一部（手・肘関節）、および後期の実習範囲（股関節、絞扼神経障害）に関する知識、疾患と理学所見の関係、刺鍼技術の修得状況の確認</p>
第23回	<p>予習：前期実習範囲の一部（手・肘関節）、後期実習範囲（股関節、絞扼神経障害）の復習 復習：後期まとめの再確認 頸部復習 [到達目標] 前期に行った頸部の実習に関する総復習</p>
第24回	<p>予習：頸部に関して理解していない部分の把握 復習：理解できていなかった部分の復習 腰部復習 [到達目標] 前期に行った腰部の実習に関する総復習</p>
第25回	<p>予習：腰部に関して理解していない部分の把握 復習：理解できていなかった部分の復習 肩関節復習 [到達目標] 前期に行った肩関節の実習に関する総復習</p>
第26回	<p>予習：肩関節に関して理解していない部分の把握 復習：理解できていなかった部分の復習 膝関節復習 [到達目標] 前期に行った膝関節の実習に関する総復習</p>
第27回	<p>予習：膝関節に関して理解していない部分の把握 復習：理解できていなかった部分の復習 前・後期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前・後期全体の習得状況の確認</p>
第28回	<p>予習：前・後期全体の復習 復習：前・後期まとめの確認 前・後期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前・後期全体の習得状況の確認</p>
第29回	<p>予習：前・後期全体の復習 復習：前・後期まとめの確認 前・後期まとめ（習得の確認） [到達目標] 前・後期全体の習得状況の確認</p>
第30回	<p>予習：前・後期全体の復習 復習：前・後期まとめの確認 前・後期全体の未習得部分の確認・再学習 [到達目標] 前・後期全体の未習得部分の再学習</p> <p>予習：前・後期全体の未習得部分の確認 復習：未習得部分の復習</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	運動器系疾患・症候の理解、それらに対する鍼灸治療法の知識的・技術的修得に関して、必要な最低事項は解剖学的知識であり、少なくとも各講義までに関連した解剖学的な知識の確認を行っておく。
教科書	『鍼灸療法技術ガイドⅠ』 文光堂 『鍼灸療法技術ガイドⅡ』 文光堂 及び授業中に配布する資料
参考書	「現代鍼灸臨床の実際」松本 勅著（医歯薬出版） 「標準整形外科学」広畑和志著（医学書院） 「ベッドサイドの神経の診方」田崎義明、斉藤佳雄著（南山堂） 「運動器疾患の治療 整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸」平澤泰介、北出利勝編（医歯薬出版） 矢野 忠編（文光堂）
成績評価	原則として出席基準（実施講義回数の5分の4以上が必要）を満たした者について最終実技試験を実施する。評価は前期・後期におこなう見極め試験と最終実技試験により行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○井上基浩 研究室 : 附属鍼灸センター2階 メールアドレス : mo_inoue@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日16:00 - 17:00</p> <p>担当教員名 : 今枝美和 研究室 : 附属鍼灸センター2階</p>

	メールアドレス : mi_imaeda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日16:00 - 17:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	必修
担当教員			
田口 辰樹			
添付ファイル			

授業目標	本科目では、疼痛領域、泌尿・生殖器領域、産婦人科領域、耳鼻科領域、眼科領域、口腔歯科領域、脳神経外科領域、皮膚科領域、小児領域における主症状と代表疾患を取り上げる。現代医学と東洋医学の両側面における病態・病理と、その基本的な鑑別手法を修得するよう指導する。そして各回の授業で主題となる症状および疾患に関する鍼灸治療の基本的な知識と技術を修得できるように指導する。		
授業計画	1回目	頭痛、顔面神経麻痺 {到達目標} 1. 頭痛、顔面神経麻痺の現代医学的な病態について説明できる。 2. 頭痛、顔面神経麻痺の東洋医学的な病態について説明できる。 3. 頭痛、顔面神経麻痺の鍼灸治療について理解する。 {備考} 頭痛、顔面神経麻痺の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書p365、p930参照。	
	2回目	月経異常（月経困難症・月経不順） {到達目標} 1. 月経困難症、月経不順の現代医学的な病態について説明できる。 2. 月経困難症、月経不順の東洋医学的な病態について説明できる。 3. 月経困難症、月経不順の鍼灸治療について理解する。 {備考} 月経異常について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書p296参照。	
	3回目	更年期障害 {到達目標} 1. 更年期障害の現代医学的な病態について説明できる。 2. 更年期障害の東洋医学的な病態について説明できる。 3. 更年期障害の鍼灸治療について理解する。 {備考} 更年期障害の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書p951参照。	
	4回目	骨盤位・乳汁分泌不足、および小児の症状（夜尿症） {到達目標} 1. 骨盤位、乳汁分泌不足、小児の症状（夜尿症）の現代医学的な病態について説明できる。 2. 骨盤位、乳汁分泌不足、小児の症状（夜尿症）の東洋医学的な病態について説明できる。 3. 骨盤位、乳汁分泌不足、小児の症状（夜尿症）の鍼灸治療について理解する。 {備考} 骨盤位、乳汁分泌不足の病態、小児の症状（夜尿症）の病態を予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書p326、p358	
	5回目	脳血管障害（脳卒中後遺症、運動麻痺） {到達目標} 1. 脳血管障害の現代医学的な病態について説明できる。 2. 脳血管障害の東洋医学的な病態について説明できる。 3. 脳血管障害の鍼灸治療について理解する。 {備考} 脳血管障害の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書p831参照。	
	6回目	眼科疾患（眼精疲労） (到達目標) 1. 眼精疲労の現代医学的な病態について説明できる。 2. 眼精疲労の東洋医学的な病態について説明できる。 3. 眼精疲労の鍼灸治療について理解する。 (備考) 眼の主な構造と機能、屈折異常、眼精疲労、緑内障の病態について予習する。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書p265参照。	
	7回目	耳鼻科疾患①（鼻閉・鼻汁、アレルギー性鼻炎） (到達目標) 1. 鼻閉・鼻汁、アレルギー性鼻炎の現代医学的な病態について説明できる。 2. 鼻閉・鼻汁、アレルギー性鼻炎の東洋医学的な病態について説明できる。 3. 鼻閉・鼻汁、アレルギー性鼻炎の鍼灸治療について理解する。 (備考) 鼻の主な構造と機能、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎の病態について予習する。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書p215、p922参照	
	8回目	耳鼻科疾患②（めまい・耳鳴り・難聴、メニエール病） (到達目標) 1. めまい・耳鳴り・難聴、メニエール病の現代医学的な病態について理解する。	

	<p>2. めまい・耳鳴り・難聴、メニエール病の東洋医学的な病態について理解する。</p> <p>3. めまい・耳鳴り・難聴、メニエール病の鍼灸治療について理解する。</p> <p>{備考}</p> <p>めまい・耳鳴り・難聴、メニエール病について予習する。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書p224、p240、p253、p941参照。</p> <p>皮膚科疾患（かゆみ、アトピー性皮膚炎）</p> <p>{到達目標}</p> <p>1. 皮膚科疾患（かゆみ、アトピー性皮膚炎）の現代医学的な病態について説明できる。</p> <p>2. 皮膚科疾患（かゆみ、アトピー性皮膚炎）の東洋医学的な病態について説明できる。</p> <p>3. 皮膚科疾患（かゆみ、アトピー性皮膚炎）の鍼灸治療について理解する。</p> <p>{備考}</p> <p>皮膚科疾患（皮膚炎・アトピー）の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書 p 471参照。</p>
9回目	
10回目	<p>歯科・口腔外科疾患（歯痛、顎関節痛）</p> <p>{到達目標}</p> <p>1. 歯科・口腔外科疾患（歯痛、顎関節痛）の現代医学的な病態について説明できる。</p> <p>2. 歯科・口腔外科疾患（歯痛、顎関節痛）の東洋医学的な病態について説明できる。</p> <p>3. 歯科・口腔外科疾患（歯痛、顎関節痛）の鍼灸治療について理解する。</p> <p>{備考}</p> <p>歯科・口腔外科疾患（歯痛、顎関節痛）の病態を予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書p998参照</p>
11回目	<p>神経痛（肋間神経痛、三叉神経痛）</p> <p>{到達目標}</p> <p>1. 神経痛（肋間神経痛、三叉神経痛）の現代医学的な病態について説明できる。</p> <p>2. 神経痛（肋間神経痛、三叉神経痛）の東洋医学的な病態について説明できる。</p> <p>3. 神経痛（肋間神経痛、三叉神経痛）の鍼灸治療について理解する。</p> <p>{備考}</p> <p>神経痛（肋間神経痛、三叉神経痛）の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書p633、p638参照</p>
12回目	<p>排尿障害、ED</p> <p>{到達目標}</p> <p>1. 排尿障害、EDの現代医学的な病態について説明できる。</p> <p>2. 排尿障害、EDの東洋医学的な病態について説明できる。</p> <p>3. 排尿障害、EDの鍼灸治療について理解する。</p> <p>{備考}</p> <p>排尿障害、EDの病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書p274、p287、p969参照。</p>
13回目	<p>末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）</p> <p>{到達目標}</p> <p>1. 末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）の現代医学的な病態について説明できる。</p> <p>2. 末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）の東洋医学的な治療について説明できる。</p> <p>3. 末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）の鍼灸治療について理解する。</p> <p>{備考}</p> <p>末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書p779参照。</p>
14回目	<p>講義内容のまとめ</p> <p>{到達目標}</p> <p>1回目から13回目までの内容に関して評価を行った後に評価結果について解説によりフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	指定された講義の範囲を予習（45分）と講義後に授業の範囲の復習（45分）を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	1) 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ 矢野 忠ら編（文光堂） 2) 講義プリント
参考書	「よくわかる痛み・鎮痛の基本としくみ」伊藤和憲著（秀和システム） 「痛みへのマネジメント」加納龍彦・田山文隆編（医歯薬出版）
成績評価	1) 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 2) 筆記試験100%（100点満点中60点以上を合格とする）
担当教員の基本情報	附属鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室 t_taguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（ただし金曜日を除く）
備考	実務経験内容：教育機関の附属鍼灸センター、医院の附属鍼灸施術所で鍼灸臨床業務に従事していた。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。 本講義は指定された教科書に基づいて行いますので授業時には必ず教科書を持参してください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
田口 玲奈			
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、臨床鍼灸学Ⅲ（外科系）で学んだ疼痛領域、泌尿・生殖器領域、産婦人科領域、耳鼻科領域、眼科領域、口腔歯科領域、皮膚科領域、脳神経領域、小児領域における主症状と代表疾患を取り上げ、東洋医学と西洋医学の特色を充分理解し、現代医学と鍼灸医学の両面から患者を把握し、適切で有効的な鍼灸治療が行える能力と態度を養う事を目的としている。これらの領域の鍼灸治療に必要な基本的な診察方法および治療技術までを修得する。</p>
授業計画	<p>1回目 頭痛および顔面神経麻痺に対する鍼灸治療 {到達目標} 頭痛、顔面神経麻痺の病態を東洋医学的に解釈できる。また西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {備考} 講義で学んだ頭痛、顔面神経麻痺の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>2回目 月経困難症に対する鍼灸治療 {到達目標} 月経困難症の病態を東洋医学的に解釈できる。弁証に従った治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {備考} 講義で学んだ月経困難症の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>3回目 更年期障害に対する鍼灸治療 {到達目標} 更年期障害の病態を東洋医学的に解釈できる。弁証に従った治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {備考} 講義で学んだ月経困難症の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>4回目 骨盤位・乳汁分泌不足に対する鍼灸治療 {到達目標} 1. 骨盤位、乳汁分泌不足の病態を東洋医学的に解釈できる。弁証に従った治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 2. 骨盤位に対し、至陰穴への灸技術を習得する。乳汁分泌不足に対し、少沢穴への灸技術を習得する。 {備考} 講義で学んだ骨盤位・乳汁分泌不足の病態、小児の症状における病態を予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>5回目 脳血管障害に対する鍼灸治療 (到達目標) 1. 脳神経外科領域の検査法について、理解し、行うことができる。 2. 脳血管障害の病態を東洋医学的に解釈できる。また西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {備考} 講義で学んだ脳神経外科領域の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>6回目 眼精疲労に対する鍼灸治療 (到達目標) 眼精疲労に対する適切な鍼灸治療ができる。基本的な東洋医学的治療方針を立てることができる。 {備考} 講義で学んだ眼精疲労の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>7回目 アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎に対する鍼灸治療 (到達目標) アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎に対する適切な鍼灸治療ができる。基本的な東洋医学的治療方針を立てることができる。 {備考} 講義で学んだアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>8回目 耳鳴、難聴、眩暈に対する鍼灸治療 (到達目標) 1. 平衡機能検査法や音叉による聴力検査法を実施できる。 2. 耳鳴、難聴、眩暈に対する適切な鍼灸治療ができる。基本的な東洋医学的治療方針を立てることができる。 {備考} 講義で学んだ耳鳴、難聴、眩暈の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づ</p>

	<p>9回目</p> <p>いた復習をすること。 皮膚科領域に対する鍼灸治療 {到達目標} 皮膚科の病態を東洋医学的に解釈できる。また西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {備考} 講義で学んだ皮膚科領域の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>10回目</p> <p>顎関節症、歯痛に対する鍼灸治療 {到達目標} 1, 顎関節の診察ができる。 2, 顎関節症、歯痛の病態を東洋医学的に解釈できる。また西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {備考} 講義で学んだ顎関節症、歯痛の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>11回目</p> <p>神経痛（肋間神経痛。三叉神経痛）に対する鍼灸治療 {到達目標} 神経痛（肋間神経痛。三叉神経痛）の病態を東洋医学的に解釈できる。また西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {備考} 講義で学んだ神経痛（肋間神経痛。三叉神経痛）の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>12回目</p> <p>末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）に対する鍼灸治療 {到達目標} 1. 末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）の診察法を習得する。 2. 末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）の鍼治療の方法を理解し修得する。下肢への鍼通電（筋肉パルス）を適切かつ安全に行うための刺鍼技術を修得する。 {備考} 末梢循環障害（閉塞性動脈硬化症）の病態を予習すること。授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>13回目</p> <p>まとめ1 {到達目標} 1回目から13回目の内容に関して、まとめの評価として実技試験を行う。</p> <p>14回目</p> <p>まとめ2 {到達目標} 1回目から13回目の内容に関して、まとめの評価として実技試験を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	これまでに学んだ、基礎・臨床医学および鍼灸学の内容を広く復習し、授業に参加されたい。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。
教科書	『図解 鍼灸療法技術ガイド II』 矢野 忠ら編 （文光堂） 配布プリントなど。
参考書	『新版 経絡経穴概論』 日本理療科教員連盟・（社）東洋療法学校協会編、医道の日本社 『東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉』 教科書執筆小委員会著、医道の日本社
成績評価	・出席基準（実習実施回数の5分の4以上の出席が必要）を満たした者について実技試験を実施する。評価は実技試験にて行う（60点以上を合格とする）。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田口玲奈、河井正隆 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室、学修支援センター（別室） 3号館 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp、m_kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜13:00-13:30、水曜17:30~19:00
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
木村 啓作			
添付ファイル			

授業目標	<p>スポーツ傷害を中心とした病態に対して、現代医学と鍼灸医学の両面から症状の発症機序を理解できるようになる。また、スポーツ外傷・障害における鑑別診断も判断できるようになる。</p> <p>特に、鍼灸治療に適応する症状を中心に系統立てて学習することで、鍼灸治療の方針と処方ができる知識が修得できるようになる。</p>
授業計画	<p>1回目 1. スポーツ鍼灸学のガイダンス、2. スポーツ傷害の定義と分類・動作の特徴 [到達目標] 1. スポーツ傷害のガイダンスを理解する 2. スポーツ傷害の定義と分類、動作 の特徴を理解する [備考] 外傷・傷害の分類、それぞれの動作の特徴にを復習する</p> <p>2回目 1. スポーツ傷害の発生・修復のメカニズム、2. 関節の構造と機能 [到達目標] 1. スポーツ傷害の発生・修復のメカニズムを理解する 2. スポーツ傷害に対する診察・鍼灸治療を処方する上で必要な関節の構造と機能を理解する [備考] 1. スポーツ傷害の発生・修復のメカニズムの復習 2. 各種関節の構造と機能についての復習</p> <p>3回目 1. トレーニングについて、2. ドーピング [到達目標] 1. トレーニングの基本的な内容について理解する 2. ドーピングの概要を理解する [備考] 1. 各種トレーニング方法やトレーニングの原則・原理の復習 2. ドーピング行為やその内容の復習</p> <p>4回目 1-2回目の小テストとフィードバック スポーツ傷害の整形外科的メディカルチェックと応急処置 [到達目標] スポーツ鍼灸に必要な臨床所見のとり方を理解する。また、現場で必要な応急処置を理解する [備考] 膝関節における解剖・機能・診察に関わる事項の復習</p> <p>5回目 スポーツ鍼灸におけるリスクマネジメント [到達目標] スポーツ鍼灸の現場で必要なリスクマネジメントを理解する [備考] 各組織におけるリスクマネジメントの復習</p> <p>6回目 3-5回目の小テストとフィードバック 上肢のスポーツ傷害 [到達目標] 1. 肩の代表的なスポーツ傷害（野球肩など）の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方理解する 2. 肘の代表的なスポーツ傷害（野球肩など）の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方理解する [備考] 1. 肩の代表的なスポーツ傷害の復習 2. 肘の代表的なスポーツ傷害の復習</p> <p>7回目 これまでのまとめと中間評価 [備考] これまで学習してきた重要項目の復習</p> <p>8回目 頭顔面部・頸部、体幹部①（腰部）のスポーツ傷害 [到達目標] 頭顔面部・頸部、腰部の代表的なスポーツ傷害の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方理解する [備考] 1. 頭顔面部・頸部におけるスポーツ傷害の復習 2. 腰部におけるスポーツ傷害の復習</p> <p>9回目 体幹部②（股関節部）のスポーツ傷害 [到達目標] 股関節部の代表的なスポーツ傷害（グロインペンシンドロームなど）の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方理解する [備考] 股関節部におけるスポーツ傷害の復習</p>

	10回目	膝関節部のスポーツ傷害 [到達目標] 膝関節部の代表的なスポーツ傷害（靭帯損傷、ジャンパー膝、オスグット病など）の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方を理解する [備考] 膝関節における代表的なスポーツ傷害の復習
	11回目	下腿部のスポーツ傷害 [到達目標] 下腿部の代表的なスポーツ傷害（シンスプリント、アキレス腱炎など）の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方を理解する [備考] 膝関節における代表的なスポーツ傷害の復習
	12回目	足関節部・足部のスポーツ傷害 [到達目標] 足関節部、足部の代表的なスポーツ傷害（足関節捻挫、腓骨筋腱炎など）の診察手順と病態を理解する。また、鍼灸治療の処方を理解する [備考] 足関節部、足部の代表的なスポーツ傷害の復習
	13回目	スポーツ鍼灸学のまとめ [到達目標] これまでに学習したスポーツ鍼灸学を理解する。 [備考] 1-12回までの重要項目の復習
	14回目	評価とフィードバック 筆記評価とフィードバック
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義毎に配布する資料の重要項目を復習する（30分）。 参考書を見て次回の講義予定に関する内容を予習する（30分）。 課題の進行に合わせて小テストを行うので、講義で伝えた内容をまとめる（30分）。 スポーツニュースなどを積極的に見て、各種スポーツの競技概要や日本や世界のスポーツ界の現状について把握する（30分）。	
教科書	授業毎に配布するプリント・資料	
参考書	スポーツ東洋療法ハンドブック 東洋療法学校協会 編（医道の日本社） スポーツ鍼灸治療マニュアル 福林 徹、宮本俊和 編（南山堂） スポーツ外傷・障害評価ハンドブック 中里伸也 監訳（株式会社シナノ） アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学 宮永 豊、河野一郎、白木 仁 編（文光堂）	
成績評価	・出席基準を満たした者を対象に試験を実施して評価する。 ・評価方法は、定期試験、小テスト、中間テストで行う。	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 木村啓作 研究室 : 鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : k_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 9:30-13:00	
備考		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
谷口剛志・吉田行宏			
添付ファイル			

授業目標	<p>前期で学んだスポーツ鍼灸学（講義）の内容をもとに、スポーツ現場で遭遇しやすいスポーツ傷害（外傷・障害）を各授業毎に設定し、それぞれのスポーツ傷害に対して必要な情報、検査、鍼灸治療、指導をデモンストラーションを交えながら実習する。</p> <p>修得目標としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション力 2. 情報収集力 3. 評価力 4. 技術力 5. コーディネート力 <p>以上5項目の知識・技術を修得し、スポーツ現場で鍼灸師として対応できる力を養成する。</p>
授業計画	<p>1回目 肩スポーツ傷害 1 授業内容 1. 評価 2. 鍼灸治療 3. 運動療法</p> <p>2回目 肩スポーツ傷害 2 授業内容 1. 評価 2. 鍼灸治療 3. 運動療法</p> <p>3回目 肩コンディショニング 授業内容 1. 評価 2. 鍼灸治療 3. 運動療法</p> <p>4回目 肘スポーツ傷害 授業内容 1. 評価 2. 鍼灸治療 3. 運動療法</p> <p>5回目 腰部スポーツ傷害 テーマ 筋筋膜性腰痛、腰部椎間板ヘルニア、腰椎分離症 授業内容 1. 評価 2. 鍼灸治療 3. 運動療法</p> <p>6回目 鼠径周辺部痛症候群 (Groin pain syndrome) 授業内容 1. 評価 2. 鍼灸治療 3. 運動療法</p> <p>7回目 下筋肉離れ テーマ 大腿四頭筋、大腿二頭筋、下腿三頭筋の肉離れ 授業内容 1. 評価 2. 鍼灸治療 3. 運動療法</p> <p>8回目 膝スポーツ傷害 テーマ ACL、MCL、LCL、MM、LM損傷、ジャンパーズニー、ランナーズニー 授業内容 1. 評価 2. 鍼灸治療 3. 運動療法</p> <p>9回目 下腿部スポーツ傷害 テーマ MTSS（シンスプリント、疲労骨折） 授業内容 1. 評価 2. 鍼灸治療 3. 運動療法</p>

	<p>10回目 足関節スポーツ傷害 テーマ 靭帯損傷、アーチ痛 授業内容 1. 評価 2. 鍼灸治療 3. 運動療法</p> <p>11回目 ケーススタディー 上肢・下肢のスポーツ傷害ケーススタディー</p> <p>12回目 まとめ</p> <p>13回目 まとめ</p> <p>14回目 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業前に必ずシラバスを確認し、前期授業内容を予習しておくこと
教科書	前期スポーツ鍼灸学で配布された資料 *後期追加分については、必要に応じて資料を配布します。
参考書	スポーツ東洋療法ハンドブック 東洋療法学校協会 編 (医道の日本社) スポーツ鍼灸治療マニュアル 福林 徹、宮本俊和 編 (南山堂) スポーツ外傷・障害評価ハンドブック 中里伸也 監訳 (株式会社シナノ) アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学 宮永 豊、河野一郎、白木 仁 編 (文光堂)
成績評価	出席基準 : 学生便覧の規程にもとづき、実験・実習回数の4/5以上出席した者を対象に試験を実施する。 成績評価 : 各症例に対して診察・治療・指導を行ない、実技試験を実施する。 成績基準 : スポーツ鍼灸ベンチマークループリック (授業時に配布) をもとに評価を判定し、60%以上の取得で単位を認定する。
担当教員の基本情報	<p>教員名 : 谷口剛志 (臨床歴22年) 経歴 : はり師きゅう師、スポーツ健康科学 (修士) たなか針灸治療所、永澤鍼灸院、明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センター、やまぎわ整形外科、渡辺整形外科、Avante OSAKA ビーチサッカートレーナー、KALEBITCHフットサルトレーナー、ボルトガルクリニック土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス、FCバルセロナフットサル、FCポルトクリニカドラゴン、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに実習指導を行う。 所属先 : 鍼灸学部はりきゅう学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先 : t_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日13:50~16:00</p> <p>教員名 : 吉田行宏 経歴 : はり師きゅう師、鍼灸学 (博士) SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに実習指導を行う。 所属先 : 鍼灸学部はりきゅう学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先 : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日13:50~15:3</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
廣 正基			
添付ファイル			

授業目標	<p>本講座では21世紀の医療の主流となる疾病予防と健康増進を目的とした鍼灸医学を実践・応用出来る事を目的に、国民の健康状態、健康観、予防医療、東洋医学の未病や養生論などについて幅広く理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康：国民の健康状態や健康増進（健康日本21）、健康観とその変遷、東洋医学の健康観と疾病感、ライフスタイルと健康及び生活習慣病 2. 養生：東洋医学の養生思想、黄帝内経と養生訓の養生論、養生灸、食養生 3. 未病：東洋医学の未病概念、現代医学の未病概念、未病医学の実践 予防医療（ヘルシーピープル2000、健康日本21） 		
授業計画	第1回	<p>国民の健康状態 国民の健康状態（有訴者、受療状況、主な主訴の内容など）、健康日本21の基本理念について説明することができる。 【授業形態】講義 配布資料中の設問に答えることが出来る（復習）。</p>	
	第2回	<p>健康観について 健康観の変遷を通して、現代の健康概念について説明することができる。健康についてグループの意見を説明しまとめることができる。 【授業形態】講義およびグループワーク 配布資料中の設問に答えることが出来る（復習）。</p>	
	第3回	<p>東洋医学の養生思想 東洋医学の養生論、黄帝内経の医学思想と養生論について説明することができる。 【授業形態】講義 配布資料中の設問に答えることが出来る（復習）。</p>	
	第4回	<p>『養生訓』の養生思想 貝原益軒の人物像や養生訓の総論に記載された内容について理解する。養生訓の各論に記載された具体的な養生法やその考え方について説明することができる。 【授業形態】講義 配布資料中の設問に答えることが出来る（復習）。</p>	
	第5回	<p>ライフスタイルと健康 健康に対するライフスタイルの重要性およびライフスタイルと生活習慣病について説明することができる。 【授業形態】講義およびグループワーク 配布資料中の設問に答えることが出来る（復習）。</p>	
	第6回	<p>ストレスと健康 ストレスと健康の関連について説明をすることができる。また、具体的なストレス軽減法についても説明することができる。 【授業形態】講義およびグループワーク 配布資料中の設問に答えることが出来る（復習）。</p>	
	第7回	<p>未病医療と鍼灸 「治未病」を取り巻く現状、疾病予防の取り組み（ヘルシーピープル2000、2010）、東洋医学における未病概念について説明することができる。現代医学における未病と未病医療の実践について説明することができる。 【授業形態】講義 配布資料中の設問に答えることが出来る（復習）。</p>	
	第8回	<p>まとめおよび筆記試験 講義全体を通して知識をまとめることができる。 【授業形態】講義 講義全体から健康について東西医学の考え方を説明することができる（復習）。</p>	
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>配布プリントを熟読すること。 配布プリントの内容を参考にし、各テーマについて自身の考えを考察すること。</p>		
教科書	自作プリント		
参考書	「口語養生訓」松宮光伸（日本評論社）		
成績評価	<p>出席基準（欠席は1回まで）をみたした者を対象に筆記試験を実施して評価する。欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。本試験を適切な理由無くして欠席した場合は、追再試験を行わない。 （平常点：20%、試験：80%）</p>		
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：廣 正基 研究室：附属病院 2F教員室 メールアドレス：m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 15:40-17:30</p>		
備考	鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて鍼灸治療の実務経験あり		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
廣 正基、河井正隆			
添付ファイル			

授業目標	<p>欧米諸国では鍼治療を含めた代替医療が注目され、急速にその需要が高まっている。代替医療の中には鍼灸治療と併用することで治療効果を高めることが期待できる治療法もある。そこで本科目では、健康鍼灸学で学習した内容を踏まえて、鍼灸に併用できる代替医療や健康増進のための鍼灸治療手技について実習する。</p> <p>本講義を受講することにより、代替医療について理解することができ、臨床に応用できるようにグループ発表およびディスカッションを通じて創造することができる。さらに鍼灸の経済効果について理解を深めるために医療費や保険制度について理解することができる。また、美容鍼や肩こり・ストレスの予防についての鍼灸実技より技術を身につけることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 国民医療費と鍼灸医療 1 国民医療費の現状と医療保険制度について述べる事が出来る。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】実習およびグループワーク</p> <p>第2回 国民医療費と鍼灸医療 2 国民医療費の現状と医療保険制度について述べる事が出来る。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】グループワーク</p> <p>第3回 養生灸 1 東洋医学の養生について述べる事が出来る。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】講義および実習</p> <p>第4回 養生灸 2 養生の概念に基づいて鍼灸治療が出来る。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】実習</p> <p>第5回 皮膚と鍼灸：美容鍼灸を含めて 1 皮膚に対する鍼灸治療の効果について学習する。 また、その応用として、美容鍼灸の手技について技術を身につけることができる。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】実習</p> <p>第6回 皮膚と鍼灸：美容鍼灸を含めて 2 皮膚に対する鍼灸治療（美容を中心として）について説明することができる、安全に鍼灸施術が実施できるよう身につけることができる。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 プレゼンテーション準備の際に分からない点があれば質問する（予習）。 【授業形態】実習</p> <p>第7回 補完代替医療 1 グループ（約5名）毎に、各種の代替医療について調べ、プレゼンテーションを行うことができる。 プレゼンテーション準備の際に分からない点があれば質問する（予習）。 他の発表について整理する（復習）。 【授業形態】グループワーク・プレゼンテーション</p> <p>第8回 補完代替医療 2 グループ（約5名）毎に、各種の代替医療について調べ、プレゼンテーションを行うことができる。 他の発表について整理する（復習）。 【授業形態】グループワーク・プレゼンテーション</p> <p>第9回 健康器具について 1 健康器具と医療機器の違いについて説明することができる。 また、健康器具による危害や市場規模などについても説明することができる。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 プレゼンテーション準備の際に分からない点があれば質問する（予習）。 【授業形態】グループワーク</p> <p>第10回 健康器具について 2 グループ（約5名）毎に、各種の健康器具について調べ、プレゼンテーションを行うことができる。 他の発表について整理する（復習）。 【授業形態】グループワーク・プレゼンテーション</p> <p>第11回 東洋医学的弁証スコア（MOS）の活用 1 明治国際医療大学鍼灸学部編 東洋医学的弁証スコア（MOS）の使用方法について説明することができる。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】グループワーク</p> <p>第12回 東洋医学的弁証スコア（MOS）の活用および実践</p>

	<p>明治国際医療大学鍼灸学部編 東洋医学的弁証スコア (MOS) を活用でき鍼灸治療に活かすことができる。 配布資料を見直し (復習)、分からない点があれば質問する。 【授業形態】実習</p> <p>第13回 健康増進を目的とした指導 1 これまでに学習した内容の総括を目的として、自分自身の健康状態について、質問紙などを用いて適切に評価することができる。 また、現状の生活習慣が続いた場合に、どのような疾病リスクが考えられるか、考察する。 配布資料を見直し (復習)、分からない点があれば質問する。 プレゼンテーション準備の際に分からない点があれば質問する (予習)。 【授業形態】講義およびグループワーク</p> <p>第14回 健康増進を目的とした指導 2 グループ (約5名) 毎に、東洋学的な所見をとる。 それが「健康増進を目的とした指導 1」で得られた自分自身の健康状態と関連するかを確認することができる。 プレゼンテーション準備の際に分からない点があれば質問する (予習)。 他の発表について整理する (復習)。 【授業形態】グループワーク</p> <p>第15回 まとめ 講義全体を通して知識の再確認をすることができる。 第13回、第14回の実習を通して得られた自分自身の健康状態について説明し、より良好な健康状態を維持するためには、どのようにすればよいのか、レポートの作成を行うことができる。(復習)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	配布資料を熟読すること。 配布資料の内容を参考にし、各テーマについて自身の考えを考察すること。 グループ発表のプレゼンテーションの準備において、分からないことがあれば随時質問すること。発表に必要なものがあれば相談すること。
教科書	自作プリント
参考書	「医療従事者のための代替医療」今西二郎 (フレグランスジャーナル社) 「代替医療のすすめ」渥美和彦 (日本医療企画)
成績評価	出席基準 (欠席は3回まで) をみたした者を対象にグループ発表とレポートの内容を総合して評価する。欠席した場合は必ず欠席届を提出すること。 (平常点: 20%、グループ発表: 10%、レポート: 70%)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 廣 正基 研究室 : 附属鍼灸センター 2F教員室 メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 15:40-17:30
備考	鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センターにて実務経験あり。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
木村 啓作			
添付ファイル			

授業目標	<p>鍼灸臨床（現代医学的病態把握）で必要となる身体診察の方法やその検査が持つ意味を理解し、正確に行えるようになることを目的とする。また、医療人として必要な心構えや医療倫理を深め、治療家としてのスキルを磨く。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の診療に必要な身体診察をスムーズに行える技能を修得する。 2. 身体診察の方法を理解し、正確に行う技術を身につける。 3. 診察結果を判定し、臨床的意味を理解する。 4. 診察の結果を適切にカルテに記載できる。 5. 患者に対して、インフォームドコンセントや結果の説明が行える。 6. 実際の臨床で利用できるような臨床脳が育つ。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・反射1 深部腱反射(上腕二頭筋反射、三頭筋反射、腕橈骨筋反射、膝蓋腱反射、アキレス腱反射、筋クローヌス、増強法)が出来る。 ②病的反射(ホフマン、トレムナー、バビンスキー反射など)が出来る。 各反射の導入、評価、表記が正しく出来る。 2 反射2 各種の表在反射(腹壁反射)や病的反射(ホフマン、トレムナー、バビンスキー反射など)が出来る。 各反射の導入、評価、表記が正しく出来る。 3 筋力検査1 筋力検査(上腕二頭筋、上腕三頭筋、腕橈骨筋、大腿四頭筋、前脛骨筋など)が出来る。 各筋力テストの導入、評価、表記が正しく出来る。 4 反射の小テストとフィードバック 筋力検査2 筋力検査(長母指伸筋、長母指屈筋、腸腰筋、股関節筋伸展筋、中殿筋など)が出来る。 各筋力テストの導入、評価、表記が正しく出来る。 5 関節可動域1 関節可動域(肩関節、肘関節、前腕)が測定出来る。 各関節可動域の導入、評価、表記が正しく出来る。 6 筋力検査の小テストとフィードバック 関節可動域2 関節可動域(股関節、膝関節)が測定出来る。 各関節可動域の導入、評価、表記が正しく出来る。 7 感覚検査 皮膚の神経分布、表在感覚、深部感覚、複合感覚の検査が出来る。 具体的には、 ①C4からTH1、L2からS1のデルマトーム領域を示すことが出来る。 ②感覚検査(触覚検査、痛覚検査)が出来る。 8 これまでの復習(アクティブラーニング) ペアにて、アクティブラーニングを以下の項目を中心に行う。 反射、筋力検査、関節可動域、感覚検査の導入、評価、表記の仕方を再度確認する。 9 関節可動域、感覚検査の小テストとフィードバック 血圧測定 触診法、聴診法が出来る。 10 身体計測 ①上肢長が測定出来る。②下肢長(棘下長、転子顆長)が測定出来る。③上肢・下肢の周径が測定出来る。 11 血圧測定の小テストとフィードバック 1. 腹診、聴診、打診 2. 脳神経 1. 腹診(肝臓・腎臓など)、聴診(肺音・心音)、打診が出来る。 2. 脳神経の評価やバレー徴候など検査が測定できる。 12 身体計測の小テストとフィードバック 実技評価1 反射、筋力検査、関節可動域、デルマトーム、感覚検査、血圧測定、身体計測に関する実技が正しく行えるかを確認する。 13 実技評価2

	<p>14 反射、筋力検査、関節可動域、デルマトーム、感覚検査、血圧測定、身体計測に関する実技が正しく行えるかを確認する。 筆記評価</p> <p>15 反射、筋力検査、関節可動域、デルマトーム、感覚検査、血圧測定、身体計測、腹診・聴診・打診、脳神経に関する知識の修得が来ているかを確認する。 予備日</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布資料による復習 (30分) 次回の授業を教科書 (鍼灸療法技術ガイド) にて予習 (30分)
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・鍼灸療法技術ガイド I 文光堂 ・鍼灸療法技術ガイド II 文光堂 ・配布した授業プリント ・実技に関する動画
参考書	<p>基礎編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドサイドの神経の診かた (南山堂) ・診察と手技が見える1 (MEDIC MEDIA) <p>応用編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペイツ診察法 (MEDSI) ・徒手筋力検査法 (協同医書出版)
成績評価	5分の4以上の出席を満たした者について評価を実施する。 評価は筆記試験・実技試験の結果を総合して行う。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 木村啓作 研究室 : 附属病院2階教員室 メールアドレス : k_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 11:20-13:00</p> <p>担当教員名 : 岡田 岬 研究室 : 附属病院2階教員室 メールアドレス : m_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 11:20-13:00</p>
備考	<p>1. 実務経験 担当者は鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センター勤務。ポルトガルクリニック土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス、フィギュアスケーターおよびトレイルランナートレーナーとして実務経験があり、実務内容にも基づきこの科目を進める。</p> <p>2. ディプロマポリシーとの関連 ◎-5</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は基礎医学、臨床医学、鍼灸診断学、臨床鍼灸学に続く鍼灸臨床科目の総仕上げとして附属鍼灸センターにおいて臨床実習を行う。</p> <p>まずは、患者さんとの良好な信頼関係を構築するための過程を理解し、必要な基本行為が実践できることを目的とし、次いで、実地臨床の体験を通じて鍼灸臨床の実際における初歩的・基本的事項を学習し、診察から治療までの一連の過程を理解し、基本的な診察・治療が実践できることを目的とする。</p>
授業計画	<p>ガイダンス [本実習の到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 治療者（医療人）としてふさわしい態度が出来る。 2. 患者さんへの適切な対応（誘導・介助・言葉遣い・心遣い・身だしなみ）が出来る。 3. 快適な治療環境を保持出来る（治療ブース内を清潔に保つ準備と後片付けが出来る）。 4. 消毒および清潔操作（清潔の概念）が出来る。 5. 正確な取穴（解剖学的知識の定着）が出来る。 6. 患者さんへの面接の基本事項が出来る。 7. 正確な理学検査の実施が出来る。 8. 基本的東洋医学的四診の実施が出来る。 9. 初診、再診に応じたカルテ記載が出来る。 <p>臨床実習1-1 臨床実習（第1クール第1回目）</p> <p>見学を中心に臨床現場を知る。 医療人としてふさわしい態度が出来るよう、日常から心がける。</p> <p>臨床実習1-2 臨床実習（第1クール第2回目）</p> <p>見学を中心に臨床現場を知る。 医療人としてふさわしい態度が出来るよう、日常から心がける。</p> <p>カンファ1 カンファレンス（第1クール） 第1クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習2-1 臨床実習（第2クール第1回目）</p> <p>コミュニケーションスキルの理解。 コミュニケーションスキルの理解を深め、臨床現場での実践を心がける。</p> <p>臨床実習2-2 臨床実習（第2クール第2回目）</p> <p>コミュニケーションスキルの理解。 コミュニケーションスキルの理解を深め、臨床現場での実践を心がける。</p> <p>カンファ2 カンファレンス（第2クール） 第2クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習3-1 臨床実習（第3クール第1回目）</p> <p>東洋医学的診察の実施。 基本的東洋医学的四診の実施が出来るよう、予・復習しておく。</p> <p>臨床実習3-2 臨床実習（第3クール第2回目）</p> <p>東洋医学的診察の実施。 基本的東洋医学的四診の実施が出来るよう、予・復習しておく。</p> <p>カンファ3 カンファレンス（第3クール） 第3クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習4-1 臨床実習（第4クール第1回目）</p> <p>医療面接の実施。 医療面接の技法について、予・復習しておく。</p> <p>臨床実習4-2 臨床実習（第4クール第2回目）</p> <p>医療面接の実施。 医療面接の技法について、予・復習しておく。</p> <p>カンファ4 カンファレンス（第4クール） 第4クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習5-1 臨床実習（第5クール第1回目）</p> <p>理学検査の実施。 正確な理学検査の実施が出来るよう、予・復習しておく。</p> <p>臨床実習5-2 臨床実習（第5クール第2回目）</p>

	2 カンファ5 臨床実習6-1 臨床実習6-2 カンファ6 まとめ1 まとめ2 まとめ3 まとめ4	<p>理学検査の実施。 正確な理学検査の実施が出来るよう、予・復習しておく。</p> <p>カンファレンス（第5クール） 第5クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>臨床実習（第6クール第1回目）</p> <p>臨床現場における総復習。 医療面接、基本的東洋医学的四診、理学検査について予・復習しておく。</p> <p>臨床実習（第6クール第2回目）</p> <p>臨床現場における総復習。 医療面接、基本的東洋医学的四診、理学検査について予・復習しておく。</p> <p>カンファレンス（第6クール） 第6クールの実習内容をレポートにまとめる。</p> <p>まとめ1 実習での医療面接をふり返し、鍼灸臨床におけるコミュニケーションスキルについての理解を深め、その重要性についての理解を深める。</p> <p>まとめ2 実習での東洋医学的四診をふり返し、鍼灸臨床における東洋医学的診断の実際についての理解を深める。</p> <p>まとめ3 実習での理学検査の実施をふり返し、鍼灸臨床における病態把握の実際についての理解を深める。</p> <p>まとめ4 カンファレンスで作成したレポートをふり返し、鍼灸臨床におけるカルテ記載の実際についての理解を深める。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ●実習の開始にあたり、個人評価ツールとしてのパーソナルポートフォリオとなるファイルを配布します。 ●ガイダンス終了後、速やかにポートフォリオに実習簿をファイリングしてください。 ●第1回目の実習前日には、教科書の12-20ページを読み、予習を行ってください。 ●実習内容によっては課題を課すことがあります。その際は参考書を元に調べ、調べた内容をまとめた用紙をポートフォリオにファイリングしてください。 ●調べたい内容について指定した参考書の内容では足りない場合、オフィスアワーを活用して質問してください。代替参考書を教示します。 	
教科書	特に無し	
参考書	「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎 昭弘 著（医歯薬出版社） 「鍼灸治療における感染防止の指針」鍼灸安全性ガイドライン委員会編（医歯薬出版社） 「新版 経絡経穴概論」東洋療法学校協会（医道の日本社） 「新しい鍼灸診療」北出 利勝 編集（医歯薬出版社） 「現代鍼灸臨床の実際」松本 勅 著（医歯薬出版社） 「スポーツ東洋療法マニュアル」東洋療法学校協会（医道の日本社） 「高齢者ケアのための鍼灸医療」丹澤 章八 編（医道の日本社） 「チーム医療従事者のための臨床医学全科」渡邊 泷 編集（金芳堂）	
成績評価	実習内演習7%×6回、レポート7%×6回、ポートフォリオ評価16%	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 北小路博司 研究室 : 臨床鍼灸学講座 メールアドレス : h_kitakoji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 福田文彦 研究室 : 臨床鍼灸学講座 メールアドレス : f_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時	
備考		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	2	必修
担当教員			
廣 正基			
添付ファイル			

授業目標	鍼灸総合演習Ⅰに引き続き、鍼灸師として身に付けるべき基礎および臨床知識を総合的に学習し、それらの相互理解を深める。 具体的には、基礎知識の8割、臨床知識の6割を理解することを到達目標とする。
授業計画	<p>ガイダンス 本演習の目的、内容を理解する。 次回講義の予習をしておくことが望ましい。</p> <p>衛生学 衛生学の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>解剖学1 解剖学の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>解剖学2 解剖学の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>生理学1 生理学の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>生理学2 生理学の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>病理学1 病理学の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>病理学2 病理学の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>臨医総論1 臨床医学総論の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>臨医総論2 臨床医学各論の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>臨医各論1 臨床医学各論の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>臨医各論2 臨床医学各論の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>臨医各論3 臨床医学各論の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>リハビリ医学 リハビリテーション医学の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>まとめ1 模擬試験1 配布資料および全科目の教科書を用いて1時間程度の自己学習をしておくこと。 復習として、試験問題の解答に対する解説作り（2時間程度）を実施すること。</p> <p>東医概論1 東洋医学概論の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>東医概論2 東洋医学概論の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>東医概論3 東洋医学概論の要点を理解する。 予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p> <p>まとめ2 模擬試験2 配布資料および全科目の教科書を用いて1時間程度の自己学習をしておくこと。</p>

経絡経穴学 1	<p>復習として、試験問題の解答に対する解説作り（2時間程度）を実施すること。 経絡経穴学概論の要点を理解する。</p> <p>予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p>
経絡経穴学 2	<p>経絡経穴学概論の要点を理解する。</p> <p>予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p>
経絡経穴学 3	<p>経絡経穴学概論の要点を理解する。</p> <p>予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p>
まとめ3	<p>模擬試験3</p> <p>配布資料および全科目の教科書を用いて1時間程度の自己学習をしておくこと。 復習として、試験問題の解答に対する解説作り（2時間程度）を実施すること。</p>
東医臨床論 1	<p>東洋医学臨床論の要点を理解する。</p> <p>予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p>
東医臨床論 2	<p>東洋医学臨床論の要点を理解する。</p> <p>予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p>
東医臨床論 3	<p>東洋医学臨床論の要点を理解する。</p> <p>予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p>
まとめ4	<p>模擬試験4</p> <p>配布資料および全科目の教科書を用いて1時間程度の自己学習をしておくこと。 復習として、試験問題の解答に対する解説作り（2時間程度）を実施すること。</p>
はり理論	<p>はり理論の要点を理解する。</p> <p>予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p>
きゅう理論	<p>きゅう理論の要点を理解する。</p> <p>予習として当該科目の教科書を用いて30分程度の自己学習をしておくこと。 配布資料を元に講義当日に1時間程度の復習をすること。</p>
まとめ5	<p>模擬試験5</p> <p>配布資料および全科目の教科書を用いて1時間程度の自己学習をしておくこと。 復習として、試験問題の解答に対する解説作り（2時間程度）を実施すること。</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）に ついて	<p>教科書および配布プリントの対応部分を精読し、わからない部分があれば調べること。それでもわからなければ、教員に質問して解決すること。 授業当日に1時間程度の復習を行うこと。次回の授業に向けて30分～1時間程度の予習をしておくこと。</p>
教科書	各科目の教科書
参考書	「徹底攻略 国家試験過去問題集 はり師きゅう師用」（医道の日本社）
成績評価	出席は5分の3以上が必須。 その上で、模擬試験（5回）の結果をみて総合的に判断する。
担当教員の基本情 報	<p>担当教員名 : 研究室 : はり・きゅう学講座 メールアドレス : オフィスアワー : 火曜日15:00-17:30</p>
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
松久ミユキ・山元正史			
添付ファイル			

授業目標	エアロビック（有酸素的）な運動やスポーツを通して生活習慣病の予防や改善をはかる指導法の実際を学ぶ。（特に、レクリエーション・スポーツ、エアロビックダンス、ストレッチング、レジスタンス・トレーニング）		
授業計画	第1講	エアロビック運動やスポーツを通して、それぞれの特性や安全性を理解させ、その正しい基本動作を学習する。	
	第2講	運動生理学などで得た知識を基に、年齢や体力などを考慮した運動プログラムを作成し、誰でも手軽に安全に行える健康づくり運動やレクリエーション・スポーツの指導法などを実践する。	
		オリエンテーション 指導者としての資質や態度について	
	第3講	ジョギング・ウォーキングの特性について 準備運動の重要性と実際	
	第4講	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（卓球） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング ストレッチング	
	第5講	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（卓球） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング ストレッチング	
	第6講	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バレーボール） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング ストレッチング	
	第7講	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バレーボール） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング ストレッチング	
	第8講	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バドミントン） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング ストレッチング	
	第9講	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バドミントン） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング ストレッチング	
	第10講	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バスケットボール） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング ストレッチング	
	第11講	エアロビックダンス・レクリエーションスポーツ（バスケットボール） エアロビックダンス（基本ステップ）・レジスタンス・トレーニング ストレッチング	
	第12講	エアロビックダンスについての説明 簡単なエアロビックダンスの実際	
	第13講	エアロビックダンスの特性についての説明 ベーシックなウォーミングアップの実際	
	第14講	エアロビックダンスの効果についての説明 ベーシックなメインダンス（アップとダウン）の実際	
授業時間外の学習（準備学習等）について	健康運動実践指導者用テキストのDVDを学習する（レジスタンス） エアロビック・ダンスのDVDを学習すること		
教科書	健康運動実践指導者用テキストを利用する。		
参考書	なし		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席5分の4以上（評価50%） ・授業中の実技小テスト（評価25%） ・授業態度（評価25%） 		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 松久 ミユキ（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : m-matsuh@hanazono.ac.jp (URL)http://www.hanazono.ac.jp/ 担当教員名 : 山元 正史（非常勤講師） 研究室 : メールアドレス : s-yamamo@hanazono.ac.jp (URL)http://www.hanazono.ac.jp/		
備考	トレーニングウエア上下・体育館シューズ		

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
山本 世志男			
添付ファイル			

授業目標	スポーツと社会との関係について、健康論、社会科学等の観点から学習し、スポーツの社会的意義について学習する。本科目では、スポーツと社会との関わりについては具体的な事例をあげ、スポーツ、社会、文化、政治の観点から考察していく。
授業計画	<p>1回目 スポーツの歴史と概念 概念、歴史、スポーツとは</p> <p>2回目 文化としてのスポーツ スポーツ文化の特性、スポーツマンシップとフェアプレイ</p> <p>3回目 地域におけるスポーツ振興 我が国のスポーツ行政</p> <p>4回目 総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義 地域スポーツクラブの育成</p> <p>5回目 地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」 組織と活動内容</p> <p>6回目 社会の中のスポーツ スポーツの産業化、地域生活とスポーツ</p> <p>7回目 我が国のスポーツプロモーション 課題と展望</p> <p>8回目 スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 危機管理体制</p> <p>9回目 スポーツと人権 倫理と基本的人権、スポーツ仲裁</p> <p>10回目 総合型地域スポーツクラブの育成と運営（1） 背景、創設</p> <p>11回目 総合型地域スポーツクラブの育成と運営（2） 自主運営の条件</p> <p>12回目 スポーツ組織とマネジメントと事業のマーケティング（1） スポーツ組織のマネジメント</p> <p>13回目 スポーツ組織とマネジメントと事業のマーケティング（2） スポーツサービス、マーケティング</p> <p>14回目 スポーツ事業のプロモーション プロモーション</p> <p>15回目 総括（まとめ）</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	復習をし理解を深める。
教科書	『公認スポーツ指導者 養成テキスト共通科目 I II』財団法人 日本体育協会 (財団法人 日本体育協会)
参考書	『公認スポーツ指導者 養成テキスト共通科目 III』財団法人 日本体育協会 (財団法人 日本体育協会)
成績評価	出席状況及び小テスト、課題提出、期末試験をもとに総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 世志男 (非常勤講師) 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
山本 世志男			
添付ファイル			

授業目標	スポーツ心理学は、スポーツ活動と心理との関連性を扱う学問で、本科目では、競技スポーツおよび生活習慣病予防のためのスポーツ（一般スポーツ）によって生じる心理学的現象について学習するとともに、自らがスポーツを実践する場面、親として子供に接する場面等に应用できる行動様式・知識について具体的に学習する。		
授業計画	1回目	スポーツと心理 スポーツとは、心理（学）とは	
	2回目	スポーツと心理（スポーツと「こころ」の健康） スポーツ、こころ、健康	
	3回目	スポーツにおける動機づけ（生活習慣病予防のための運動習慣の確立） 動機づけ	
	4回目	コーチング心理 コーチング	
	5回目	コーチング心理（行動や性格の特徴に応じた運動指導） コーチング、性格	
	6回目	グループダイナミクス グループダイナミクス	
	7回目	メンタルマネジメント メンタルマネジメント	
	8回目	リラクセーション リラクセーション	
	9回目	イメージトレーニング イメージ、トレーニング	
	10回目	集中力のトレーニング 集中力、トレーニング	
	11回目	心理的コンディショニング コンディショニング	
	12回目	あがり、スランプの克服 ストレス管理	
	13回目	スポーツ相談の意義 スポーツ相談	
	14回目	スポーツ相談の実際 スポーツ相談	
	15回目	総括（まとめ）	
授業時間外の学習（準備学習等）について	テキストの他に次に示す本も読むこと。 林 成之(著)：「<勝負脳>の鍛え方」（講談社現代新書）		
教科書	「公認スポーツ指導者 養成テキスト 共通科目ⅠⅡ」（財団法人 日本体育協会）		
参考書	「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」（財団法人日本体育施設協会）		
成績評価	出席状況及び小テスト、課題提出、期末試験をもとに総合的に評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名	： 山本世志男（非常勤講師）	
	研究室	： 6号館1階非常勤講師室	
	メールアドレス	：	
	オフィスアワー	： 授業終了後	
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
齊藤 昌久			
添付ファイル			

授業目標	<p>スポーツ・バイオメカニクスは、力学、生理学、解剖学などの基礎知識を応用して身体運動の仕組みをよりよく理解するための応用科学である。本科目では、「スポーツを楽しむ」ために「スポーツを深く学ぶ」をコンセプトに次のことを学ぶ。</p> <p>(1) スポーツ・バイオメカニクスの基礎理論を学ぶ。 (2) 身体運動のパフォーマンスを向上させるためには、何が必要か、理論的に考える。 (3) 身体運動における動作をバイオメカニクスの分析・評価し、指導への役立て方を学ぶ。</p> <p>必要な場合には実習を含め、ディスカッション、プレゼンテーションを活用して双方向の講義にする。</p> <p>次のことを目標とする；</p> <p>1) スポーツ・バイオメカニクスの位置づけ、歴史が説明できる。 2) スポーツ・バイオメカニクスの概要が説明できる。 3) 運動の仕組みが説明できる。 4) スポーツ・バイオメカニクスの基礎理論が説明できる。 5) 身体運動における動作をスポーツ・バイオメカニクスの分析・評価できる。 6) 身体運動における動作のスポーツ・バイオメカニクスの分析・評価結果を指導に役立てることができる。 7) 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。</p>
授業計画	<p>第1講 スポーツ・バイオメカニクスとは？ [到達目標] ・ スポーツ・バイオメカニクスの位置づけ、歴史等、これから学習する内容について理解する。 ・ スポーツ・バイオメカニクスの概要が説明できる。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 [備考]</p> <p>第2講 運動の仕組み (1) : エンジンとしての筋肉・運動の指令・調節機構 [到達目標] ・ エンジンとしての骨格筋の構造・収縮様式や運動を指令・調節する神経機構、が説明できる。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 [備考]</p> <p>第3講 運動の仕組み (2) : 運動の軸・方向性と関節の構造と種類 [到達目標] ・ からだを動かす運動軸と運動の方向および関節の構造と種類、が説明できる。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 [備考]</p> <p>第4講 スポーツ・バイオメカニクスの基礎理論 (1) : 力・ベクトルの合成と分解 [到達目標] ・ 力・ベクトルの合成・分解の考え方、合成・分解の方法、が説明できる。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 [備考]</p> <p>第5講 スポーツ・バイオメカニクスの基礎理論 (2) : 人体におけるてこ [到達目標] ・ てこが人体に応用でき、てこ、が説明できる。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 [備考]</p> <p>第6講 スポーツ・バイオメカニクスの基礎理論 (3) : 質量、重量、重心 [到達目標] ・ 重心の考え方・求め方・姿勢による変化、が説明できる。 ・ 重心の速度・加速度が説明できる。 ・ 立ち上がりのときの重心の速度・加速度のグラフが描ける。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 [備考]</p> <p>第7講 スポーツ・バイオメカニクスの基礎理論 (4) : 床反力と重心加速度と床反力作用点 [到達目標] ・ 力と重心の加速度の関係が説明できる。 ・ 身体に加わる床反力が説明できる。 ・ スクワットの時の床反力と重心の動きの関係が説明できる。 ・ 床反力作用点が説明できる。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 [備考]</p> <p>第8講 スポーツ・バイオメカニクスの基礎理論 (5) : 関節モーメントと筋活動 [到達目標] ・ 関節モーメントが説明できる。 ・ 関節モーメントの計算方法が説明できる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節モーメントと床反力の関係が説明できる。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 <p>[備考]</p> <p>第9講 スポーツ・バイオメカニクスの基礎理論 (6) : 関節モーメントのパワー</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関節モーメントの意味が説明できる。 ・ 力学のおよび筋がなす仕事が説明できる。 ・ 筋が発生するパワーが説明できる。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 <p>[備考]</p> <p>第10講 スポーツ・バイオメカニクスの応用 (1) : ジャンプ動作</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 力学的エネルギーが説明できる。 ・ 筋の仕事と跳躍高が説明できる。 ・ 跳躍時の床反力と重心加速度、関節モーメント、関節モーメントのパワーが説明できる。 ・ 高く跳ぶための方法が説明できる。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 <p>[備考]</p> <p>第11講 スポーツ・バイオメカニクスの応用 (2) : 歩き始めのバイオメカニクス</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直立時の重心と床反力作用点 (COP: Center of pressure) の位置関係が説明できる。 ・ 歩き始めのCOPの矢状面、前額面の動き、それらの動きと重心の動きの関係が説明できる。 ・ COPの動きと関節モーメントの関係が説明できる。 ・ 重心を前進させる原動力が説明できる。 <p>[備考]</p> <p>第12講 スポーツ・バイオメカニクスの応用 (3) : 歩行のバイオメカニクス</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行中の重心・関節モーメントとCOPの関係が説明できる。 ・ 重心の動きと床反力の関係が説明できる。 ・ 歩行中の重心の動きを滑らかにする機能や歩行時の衝撃吸収が説明できる。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 <p>[備考]</p> <p>第13講 身体運動分析実践: 歩行の観察</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ OGIG (Observational Gait Instructor Group, 観察による歩行分析) の用語が説明できる。 ・ 各周期における健常者の標準的な関節角度が説明できる。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 <p>[備考]</p> <p>第14講 まとめ・演習問題</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業 (講義・グループワーク・プレゼンテーションなど) での疑問点を洗い直し、疑問を解き明かすことができる。 ・ 学んだことを同僚と意見交換を行い、わかりやすい発表ができる。 <p>[備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し (予習30分) し、講義で学習した内容をまとめて下さい (復習30分)。
教科書	特に教科書は定めない。授業時にハンドアウトを配布する。
参考書	1) 「スポーツ・バイオメカニクス入門—絵で見る講義ノート—」金子 公有著 (杏林書院) 2) 「バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎—」金子 公有・福永 哲夫 (編) (杏林書院) 3) 「運動学で心が折れる前に読む本」松房 利憲著 (医学書院) 4) 「基礎バイオメカニクス 第2版—理解が深まるパワーポイント動画CD-ROM付—」山本 澄子ほか著 (医歯薬出版株式会社)
成績評価	①合格点: 100点法により評価し、評価点が60点以上を合格とする。 ②評価点の算出・内訳: 筆記試験 60%、授業取組態度 40% ③評価の形態: 筆記試験結果および授業取組態度 (グループワークへの参加度: 発言回数など、出席) ④再試験: 筆記試験が60%未満の場合、筆記試験により再評価を行う。 ⑤アセスメントとフィードバック: グループワークの発表の評価・コメントにてフィードバックを行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 齊藤 昌久 研究室 : 8号館4階研究室 メールアドレス : オフィスアワー : 講義終了後、あるいは学生諸君の都合の良い時間 (要予約)。ただし、講義終了後以外は事前に メールで予約を取ってください。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
三浦 重則			
添付ファイル			

授業目標	「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）が言った言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともにスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する理解を深めるとともにその分野における実践研究の方法とその基礎について学習する。
授業計画	<p>第1講 トレーニング概論 [到達目標] 骨と関節、筋の概略、脚・腕・体幹の構造など身体の基礎知識を理解する。</p> <p>第2講 体力の概念と体力要素 [到達目標] 体力とは何か？筋肉の役割と能力。スポーツにおけるパワーの定義を理解する。</p> <p>第3講 トレーニングの原理・原則 [到達目標] 原理・原則を学習することにより、トレーニングの意味と目的を理解する。</p> <p>第4講 ウォーミングアップとクーリングダウン [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解する。</p> <p>第5講 トレーニングの種類 [到達目標] 競技力を向上させるための体力要素別トレーニングを理解する。</p> <p>第6講 全身持久力について [到達目標] 全身持久力の鍵となるのは酸素摂取能力である。呼吸循環器系能力と代謝能力について学習し、負荷パターンによるトレーニングの分類を理解する。</p> <p>第7講 筋持久力トレーニングについて [到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングを理解する。</p> <p>第8講 柔軟性・調整力を高めるトレーニングについて [到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントを理解する。</p> <p>第9講 筋力トレーニング（目的別強度の目安） [到達目標] 目的別トレーニング強度の目安を理解する。</p> <p>第10講 筋力トレーニング（正しいトレーニングを実施するための負荷設定） [到達目標] 正しいトレーニングを実施するための負荷設定を理解する。</p> <p>第11講 筋力トレーニング（効果的に行うための順序） [到達目標] 効果的に行うためのトレーニング順序を理解する。</p> <p>第12講 トレーニングプログラムを作成するための要点① [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<①></p> <p>第13講 トレーニングプログラムを作成するための要点② [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<②></p> <p>第14講 トレーニングプログラムを作成するための要点③ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<③></p> <p>第15講 トレーニングプログラムを作成するための要点④ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成のために<④></p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布資料の復習
教科書	授業毎に配布する資料をもとに実施。
参考書	特に指定なし。
成績評価	筆記試験による評価とする。（ただし、授業態度および欠席時数等により、減点対象になる場合がある。）

担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 6号館1階 (非常勤講師室) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	

講義科目名称： トレーニング実習

授業コード： 2S328

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
三浦 重則			
添付ファイル			

授業目標	トレーニング論で学んだ科学的な理論と方法論をスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じたトレーニングを体験するとともにトレーニング計画を立案し、実践研究の方法とその基礎について学習する。		
授業計画	第1講	ウォーミングアップとクーリングダウン① [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解するための実践	
	第2講	ウォーミングアップとクーリングダウン② [到達目標] 高いパフォーマンスを発揮するための準備と整理を理解するための実践	
	第3講	各種トレーニングのための動き作り① [到達目標] 身体と運動関連を理解し、主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理を学習する。	
	第4講	各種トレーニングのための動き作り② [到達目標] 身体と運動関連を理解し、主働筋・拮抗筋・協働筋の働きや筋肉とテコの原理を学習する。	
	第5講	柔軟性を高めるためのトレーニング [到達目標] 関節の可動域を広げる各種ストレッチの理解と実践	
	第6講	調整力を高めるためのトレーニング [到達目標] バランス感覚向上のためのトレーニングの理解と実践	
	第7講	全身持久力トレーニング [到達目標] 全身持久力トレーニングの実践	
	第8講	筋持久力トレーニング [到達目標] 筋持久力トレーニングの実践	
	第9講	トレーニングルームの安全な使用法 [到達目標] トレーニング機器の安全管理および使用法について。	
	第10講	トレーニングプログラムの立案と実践① [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
	第11講	トレーニングプログラムの立案と実践② [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
	第12講	トレーニングプログラムの立案と実践③ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
	第13講	トレーニングプログラムの立案と実践④ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
	第14講	トレーニングプログラムの立案と実践⑤ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
	第15講	トレーニングプログラムの立案と実践⑥ [到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成の実践	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布資料の復習		
教科書	授業毎に配布する資料により実施。		
参考書	特に指定はなし。		
成績評価	成績評価は、出席点を重視し、また、授業態度等を参考とした総合評価とする。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 6号館1階 (非常勤講師室) メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後		

備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択必修
担当教員			
三浦 重則			
添付ファイル			

授業目標	スポーツ全般に関する認識を深め、各世代におけるスポーツ技術向上への手順や方法を身につけ、将来、指導的立場となった場合には、各世代毎の各種の指導プログラムが作成できる資質を備えることを目標とする。		
授業計画	1回目	<p>スポーツとは：概念とその歴史について</p> <p>[到達目標]</p> <p>「スポーツ」を正しく理解して指導に当たる重要性を認識させる</p>	
	2回目	<p>運動と健康</p> <p>[到達目標]</p> <p>健康と運動実践、必要とされる指導者のあるべき姿を理解する</p> <p>[備考]</p> <p>それぞれが「理想とする指導者像」を整理しておく</p>	
	3回目	<p>スポーツプログラマーの役割と、フィットネス・エクササイズ・体力等の基本的な理念について</p> <p>[到達目標]</p> <p>スポーツプログラマーとしての基本的な事項を正しく理解する</p> <p>[備考]</p> <p>「スポーツプログラマー」の在り方を整理しておく</p>	
	4回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（1）</p> <p>[到達目標]</p> <p>体力とは？体力の分類と各トレーニング実施上の留意事項を理解させる</p> <p>[備考]</p> <p>「体力」区分とトレーニング法を整理しておく</p>	
	5回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（2）</p> <p>[到達目標]</p> <p>マシーントレーニング、ヘルスエクササイズの目的や方法を理解する</p> <p>[備考]</p> <p>「自分流トレーニング法」を作成しておく</p>	
	6回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（1）</p> <p>[到達目標]</p> <p>体調のチェックの重要性・意義を理解する</p> <p>[備考]</p> <p>体調チェックの具体的な内容を十分理解しておく</p>	
	7回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（2）</p> <p>[到達目標]</p> <p>準備・整理運動の重要性とその効果や内容を理解する</p>	
	8回目	<p>フィットネス・プログラムの実際（1）</p> <p>[到達目標]</p> <p>フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる<子供1></p> <p>[備考]</p> <p>子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく</p>	
	9回目	<p>フィットネスプログラムの実際（2）</p> <p>[到達目標]</p> <p>フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる<子供2></p> <p>[備考]</p> <p>子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく</p>	
	10回目	<p>フィットネスプログラムの実際（3）</p> <p>[到達目標]</p> <p>フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる<中年><高齢者1></p> <p>[備考]</p> <p>中・高齢者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく</p>	
	11回目	<p>フィットネスプログラムの実際（4）</p> <p>[到達目標]</p> <p>フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる<高齢者2><女性1></p> <p>[備考]</p> <p>女性のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく</p>	
	12回目	<p>フィットネスプログラムの実際（5）</p>	

	<p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解させる<女性2><障がい者></p> <p>[備考] 障がい者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく スポーツ相談の実際</p> <p>[到達目標] スポーツ相談の意義・留意点等を理解する</p> <p>[備考] スポーツ相談の留意事項を調べておく 体力測定と評価</p> <p>[到達目標] 体力測定の方法と結果処理、個々の体力の課題や対応法を知る</p> <p>[備考] 体力測定結果の処理方法を調べておく 総括（まとめ）</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	テキストを中心として、「授業の内容等」に関連の深い以下の分野の本を読むこと ・発育発達学 ・運動生理学 ・身体運動学
教科書	財団法人 日本スポーツ協会；公認スポーツプログラマー専門科目テキスト
参考書	財団法人 日本スポーツ協会；公認スポーツ指導者養成テキスト（共通科目Ⅰ・Ⅱ） 宮下 充正 著；年齢に応じた運動のすすめ<わかりやすい身体運動の科学>
成績評価	出席状況や受講態度、試験により、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則（非常勤講師） オフィスアワー : 講義終了後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択必修
担当教員			
岩佐真代・谷口祐一			
添付ファイル			

授業目標	健康増進と疾病予防のための栄養学を理解することを目的とし、その基礎を学習する。さらに、食事と運動との関連や、運動の効果を最大限に引き出すための食事のあり方などを、最新の情報を取り入れながら、基礎情報と関連付けて理解する。		
授業計画	第1講	<p>スポーツと保健栄養学入門</p> <p>【担当】 谷口祐一</p> <p>【到達目標】 栄養学の歴史を踏まえ、健康増進と疾病予防のための栄養学の全体像を把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>【必要な準備】 シラバスの内容を確認するとともに、教科書を購入しておく。(30分)</p>	
	第2講	<p>エネルギーと栄養バランス</p> <p>【担当】 岩佐真代</p> <p>【到達目標】 バランスの良い食事について科学的に理解する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p>	
	第3講	<p>栄養素のはたらき 糖質</p> <p>【担当】 岩佐真代</p> <p>【到達目標】 糖質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p>	
	第4講	<p>栄養素のはたらき 脂質</p> <p>【担当】 岩佐真代</p> <p>【到達目標】 脂質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p>	
	第5講	<p>栄養素のはたらき たんぱく質、サプリメントの利用</p> <p>【担当】 岩佐真代</p> <p>【到達目標】 たんぱく質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。サプリメントについて理解し、正しい利用法について把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p>	
	第6講	<p>栄養素のはたらき ビタミン・ミネラル</p> <p>【担当】 岩佐真代</p> <p>【到達目標】 ビタミン・ミネラルの代謝を理解し、生体内での役割を把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>	

第7講	<p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p> <p>日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】 日本人の食事摂取基準および食事バランスガイドの概要を理解する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>
第8講	<p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。また、課題について次回講義までに作成しておく。(30分)</p> <p>水分補給</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】 水分の役割を理解し、水分補給の重要性を把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>
第9講	<p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p> <p>生体リズムと栄養</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】 生体リズムについて理解し、食事や運動のタイミングの重要性を把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>
第10講	<p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p> <p>ウェイトコントロールと食事</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】 ウェイトコントロールについて理解し、適切な食事摂取量を把握する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>
第11講	<p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p> <p>運動における栄養素のはたらき</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】 運動時の各栄養素の代謝を理解する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>
第12講	<p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p> <p>ライフステージと栄養 ジュニア期</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】 ジュニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>
第13講	<p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p> <p>ライフステージと栄養 シニア期</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】 シニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。</p> <p>【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分)</p>

	<p>第14講 総括（評価を含む）</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】 第1回目から第13回目の内容について理解する。</p> <p>【授業形態】 前半に講義、後半に試験を実施する。</p> <p>【必要な準備】 第1回目から第13回目の内容について配布したプリントを用いて復習をする。（45分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>次回の予習箇所については、毎回講義内で伝達する。</p> <p>講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、プリントの穴埋めについて解答しておくこと。</p>
教科書	<p>「栄養科学NEXTシリーズ スポーツ・運動栄養学（第3版）」 加藤秀夫／中坊幸弘／中村亜紀・編（講談社サイエンティフィク）</p>
参考書	指定しない
成績評価	<p>定期試験70% 課題レポート15% 毎回のコミュニケーションカード15%</p> <p>・実習などのやむを得ない理由で欠席する予定が分かっている場合は、担当者に事前に報告すること。 ・配布されたプリント類は自己責任で保管し、欠席した場合は、次回講義までに教学課に取りに行くこと。 （講義内で、欠席分のプリント配布は行わない）</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岩佐 真代（第2回～14回担当） 研究室 : 京都華頂大学 現代家政学部 食物栄養学科 京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 栄養科学研究室</p> <p>メールアドレス : iwasa@kpu.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後もしくはメールにて質問を受け付ける</p> <p>担当教員名 : 谷口 祐一（第1回担当） 研究室 : 京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 健康科学研究室 メールアドレス : hirokazu-t@kpu.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後もしくはメールにて質問を受け付ける</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
添付ファイル			

授業目標	将来の夢を実現するために何が必要かを考え、夢をかなえるために必要な情報を整理・学習する。特に、キャリアデザインの立て方、その各種必要な情報の整理、さらには就職等にあたり、履歴書の書き方、先方へのアポイントの取り方、面接の受け方、見学・面接後の対応等を学ぶ。
授業計画	<p>1回目 キャリアデザインって何？ [到達目標] キャリアデザインとは何かを理解し、キャリアプランを知る。 [備考] 自分のキャリアプランを考える。</p> <p>2回目 就職を知ろう [到達目標] 就活について知る [備考] 就活について、その流れを具体的に考えてみよう</p> <p>3回目 自己分析をしてみよう [到達目標] 自己分析を自分の特徴を知る [備考] 自己分析ツールを使い自己分析をし、自分のイメージと比べてみよう（アクティブラーニング）</p> <p>4回目 医療について知ろう [到達目標] 医療の現状を知ること、鍼灸の役割を考えてみよう。 [備考] 医療の未来を考えること、鍼灸師の役割を考えてみよう（アクティブラーニング）</p> <p>5回目 鍼灸の現状を考えてみよう [到達目標] 鍼灸の現状を考えること、鍼灸師の可能性について考えてみよう。 [備考] 発表のあった内容について自身でも調査する。</p> <p>6回目 鍼灸と併用する他の資格を考てみよう [到達目標] 鍼灸と併用できる可能性がある資格について学ぼう。 [備考] 鍼灸と併用できる+アルファの資格を調べて、その役割を考えてみよう（アクティブラーニング）</p> <p>7回目 自分のキャリアデザインを再考する [到達目標] 色々な知識を加味した上でキャリアデザインを再考し、各自発表する [備考] 自身のキャリア年表を振り返り、今後何をすべきかを考える。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	自分の夢に応じたキャリアプランを立てる。 また、夢を具現化するために、必要な情報を各自調べる
教科書	PLACEMENT GUIDE 2020(各自持参) 配布資料
参考書	「鍼灸マッサージ治療院開業ベーシックマニュアル」医道の日本 「大学生のためのキャリア講義」山本直人 インデックスコミュニケーション
成績評価	Webでの授業となる。 各自、課題動画を見て自分の考えをまとめ、その内容をクラスで共有する 出席日数は、3/5以上を受験資格とし、提出課題の内容で判断する。 出席と提出課題で評価し、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 なお、レポート評価（70%）、出席および平常評価（30%）とする。
担当教員の基本情報	担当教員名：伊藤和憲 研究室：鍼灸センター2階教授室 メールアドレス：k_itoh@meiji-u.ac.jp 職務経歴：鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。
備考	DPとの関係：3：関心意欲、4：態度・人間性

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
小野 直哉			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>医療社会学とは、医療の社会的機能や位置づけを明らかにすることにより、医療や保健、健康、病気に関する問題について、社会的な側面からその性格を明らかにすると共に、問題解決に必要な科学的な根拠を提供する社会学の一分野である。また、自然と対比した社会への科学的認識活動による知識体系であり、人間社会を科学的に探求する学術分野の総体である社会科学の一部である。</p> <p>医療社会学は、医療従事者に広い視野を提供し、医療利用者へ医療への参加の手がかりを提供することを目的としている。また、医療における差別や不平等、疎外や人権侵害などを解決し、民主主義と人権の確立に寄与することが医療社会学の究極の目標とされている。</p> <p>更に、超少子高齢・人口減少・独身社会の日本では、患者の治療から生活者の支援へと、必要とされるニーズが変化し、医療と介護、福祉の境界を越えた社会保障の在り方が必要となっており、それらを解決する手がかりを提供することも本授業の目的である。</p> <p>本科目では、社会と医療の過去・現在・未来の変化を把握し、医療社会学を構成する学術的要素、社会健康情報リテラシーの基礎、現在の医療の様々な課題（鍼灸や漢方を含む日本伝統医療が置かれている国際状況や国内外の災害時における鍼灸の利活用状況、海外の鍼灸や統合医療の利活用等も含む）について、通常の講義と参加型講義を通して、グループ間で討論した内容をまとめ、発表し、理解を深める。</p>
授業計画	<p>1回目 医療社会学1（医療の常識を問い直す：医療の過去・現在・未来） 【到達目標】 ①医療社会学を学ぶための背景となる社会と医療の過去・現在・未来の変化を社会科学的データ（人口動態等）を基に把握し、国内外の社会の変化に伴う医療ニーズの変化と違いを把握し、理解する。 ②鍼灸師として、医療社会学を学ぶに当たり、鍼灸師が置かれている社会と医療の現状を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>2回目 医療社会学2（医療社会学とは） 【到達目標】 ①医療社会学とはどのような学問かを、学問（学術・科学）の種類（人文科学・社会科学・自然科学）、医療社会学と社会医学との違い、学術的方法論（定量的・定性的研究等）とその根本を成す考え（反証主義・科学哲学等）等を交え、理解する。 ②鍼灸師として、医療社会学を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>3回目 医療社会学3（社会健康情報リテラシーの基礎1・2） 【到達目標】 ①社会と医療の関係を考察するために必要な、学術・メディア・インターネットの情報を批判的に吟味するための基礎知識を理解する。 ②鍼灸師に必要な「根拠に基づく医療」（EBM）と「物語りと対話に基づく医療」（NBM）等に繋がる基礎知識を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。 *本講義の内容は、次回参加型講義「社会健康情報リテラシーの応用」に用いるため、次回講義までに復習しておくこと。</p> <p>4回目 医療社会学4（社会健康情報リテラシーの応用：参加型講義） 【到達目標】 ①前回の講義で理解した情報の批判的吟味のための基礎知識を実践し、習得する。 ②前回の講義で理解したEBMとNBM等に繋がる基礎知識を実践し、習得する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を実践によって理解する。 *参加型講義のため、事前の指示に従い、本講義に必要な資料を受講生各自が事前に用意する。</p> <p>5回目 医療社会学5（社会と鍼灸1：日本伝統医療を取り巻く国際情勢） ①社会と医療の関係を考察するために必要な国内外の産業、経済、政策、制度、倫理的側面を、鍼灸や漢方を含む日本伝統医療を取り巻く国際社会の現状を通じて理解する。 ②鍼灸師として、鍼灸や漢方を含む日本伝統医療が置かれている国際状況を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>6回目 医療社会学6（社会と鍼灸2：災害医療から持続可能な医療へ） 【到達目標】 ①社会と医療の関係を考察するために必要な国内外の産業、経済、政策、制度、倫理的側面を、「災害医療や持続可能な医療」における鍼灸の利活用を通じて理解する。 ②鍼灸師として、医療と社会科学の関係を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>7回目 医療社会学7（社会と鍼灸3：海外における鍼灸と統合医療） 【到達目標】 ①社会と医療の関係を考察するために必要な国内外の産業、経済、政策、制度、倫理的側面を、海外における鍼灸や統合医療の利活用を通じて理解する。 ②鍼灸師として、医療と社会科学の関係を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>8回目</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	プリント配布をしますので、授業の事前事後に一読して受講して下さい。 また、グループ単位の参加型の講義を実施しますので、積極的に取り組んで下さい。 受講生の人数及び志向性により、受講生と協議の上、授業内容を調整する場合があります。 教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)し、講義で学修した内容を まとめて下さい(復習90分)。
教科書	プリント教材
参考書	<p>【文献】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長谷川敏彦. 「変わる人生・社会・ケア-研究実験国家日本の挑戦」, 『講座スピリチュアル学 第2巻 スピリチュアリティと医療・健康』, ビイグネットプレス, 2014. 2. 小野直哉. 「健康を取り巻く世界と日本の諸問題」, 社会鍼灸学研究 2015, 通巻10号, 2016. 3. 広井良典. 「人口減少社会のデザイン」, 東洋経済新報社, 2019. 4. 広井良典. 「ポスト資本主義-科学・人間・社会の未来-」, 岩波書店, 2015. 5. 佐藤純一, 黒田浩一郎編. 「医療神話の社会学」, 世界思想社, 1998. 6. 「社会鍼灸学と鍼灸社会学」, 鍼灸OSAKA 118号, 森ノ宮医療学園出版部, 2015. 7. 中山健夫. 「健康・医療の情報を読み解く 第2版 健康情報学への招待」, 丸善出版, 2014 8. 小野直哉. 「日本伝統医療」の特徴と存在意義, 社会鍼灸学研究 2017, 通巻12号, 2018. 9. 小野直哉. 「『序論』特集 漢方の国際化の問題と課題」, 漢方と最新治療26巻3号(通巻102号), 世論時報社, 2017. 10. 「臨床に直結する鍼灸の国際問題最新動向」, 医道の日本2017年6月号(885号), 医道の日本社, 2017. 11. 小野直哉. 「日本鍼灸のガバナンス」を考えるために, 社会鍼灸学研究 2018, 通巻13号, 2019. 12. 諫山憲司, 小野直哉, 柴山慧. 「持続的かつレジリエントな社会へ向けてわが国の災害医療対策」, 日本集団災害医学会誌, 2016. 13. 小野直哉. 「目標3 すべてのひとに健康と福祉を」, 第3章 企業が取り組むべきSDGs」, 『SDGsビジネス戦略』, 日刊工業新聞社, 2019 14. 「伝統医療振興基本法(仮称)を考える」, 鍼灸OSAKA 126号, 森ノ宮医療学園出版部, 2017. 15. 小野直哉. 「第1部 総論Ⅲ 世界の統合医療の現状」, 『医学・看護・福祉原論』, ビイグ・ネット・プレス, 2019.
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> ① 出席状況及び参加型講義への参加状況、レポートの内容により評価する。 ② 出席日数6割以上及び参加型講義の参加をレポート提出資格とする。 ③ 事情により、レポート提出資格を満たせない場合は、事前に講師に相談すること。 ④ レポートの評価は、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 ⑤ レポートの評価が60点以下の者は、追再試験を実施する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 小野直哉(非常勤講師)</p> <p>研究室 : 非常勤講師控室</p> <p>メールアドレス : 708sono@gmail.com</p> <p>オフィスアワー : 当日の講義終了後</p>
備考	<p>【参考書 続き】</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. 中山健夫. 「これから始める!シェアード・ディジションメイキング 新しい医療のコミュニケーション」, 日本医事新報社, 2017. 17. 小野直哉, 三輪修司, 矢野 忠. 「第1節 世界の鍼灸事情と日本の鍼灸」, 『鍼灸臨床最新科学メカニズムとエビデンス』, 医歯薬出版株式会社, 2014. 18. Thomas McKeown. The Role of Medicine: Dream, Mirage, or Nemesis? (Princeton Legacy Library). Princeton Univ. Pr., 2014. 19. 広井良典. 「人口減少社会という希望 コミュニティ経済の生成と地球倫理」, 朝日新聞出版, 2013. 20. 「鍼灸の法制度を考える」, 鍼灸OSAKA 104号, 森ノ宮医療学園出版部, 2012. 21. 岡本拓也. 「わかりやすい構造構成理論-緩和ケアの本質を解く」, 青海社, 2012. 22. 京極真. 「医療関係者のための信念対立解明アプローチ: コミュニケーション・スキル入門」, 誠信書房, 2011. 23. 猪飼周平. 「病院の世紀の理論」, 有斐閣, 2010. 24. Andrea M. Schultz, Samantha M. Chao, J. Michael McGinnis. Integrative Medicine and the Health of the Public: A Summary of the February 2009. Summit. Natl Academy Pr. 2009. 25. 山崎喜比古編. 「健康と医療の社会学」, 東京大学出版会, 2001. 26. 野村拓, 藤崎和彦. 「わかりやすい医療社会学」, 看護の科学社, 1997. 27. 黒田浩一郎編. 「現代医療の社会学-日本の現状と課題」, 世界思想社, 1995. 28. 園田恭一編. 「社会学と医療」, 弘文堂, 1992. 29. 進藤雄三. 「医療の社会学」, 世界思想社, 1990. 30. マックス・ヴェーバー(著), 清水幾太郎(翻訳). 「社会学の根本概念」, 岩波書店, 1972.
	<p>【映像】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NHKスペシャル「新・映像の世紀」(DVD or Blu-ray), NHKエンタープライズ, 2016. 2. NHKスペシャル「映像の世紀」デジタルリマスター版(DVD or Blu-ray), NHKエンタープライズ, 2016.
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」: ◎-3, ○-2

講義科目名称： スポーツと保健栄養学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択必修
担当教員			
桑原 彩			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>人体の身体活動の基礎となる各種栄養素、および健康増進や疾病予防のための栄養学の基本を学習する。更にスポーツ活動に密着した具体的な食事のあり方を学習し、実践的な食事と関連付けて理解する。</p>		
授業計画	第1講	<p>スポーツと保健栄養学入門 [到達目標] 日本人の食生活の変遷を踏まえ、健康増進と疾病予防のための栄養学の全体像を把握する。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 [必要な準備] シラバスの内容を確認するとともに、必要な場合は参考書を購入しておく。(30分)</p>	
	第2講	<p>栄養素の働き 糖質・脂質 [到達目標] 糖質、脂質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 [必要な準備] 前回の内容について配布したプリントを用いて復習する。(30分)</p>	
	第3講	<p>栄養素の働き たんぱく質 [到達目標] たんぱく質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 [必要な準備] 前回の内容について配布したプリントを用いて復習する。(30分)</p>	
	第4講	<p>栄養素の働き ビタミン [到達目標] ビタミンの代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 [必要な準備] 前回の内容について配布したプリントを用いて復習する。(30分)</p>	
	第5講	<p>栄養素の働き ミネラル [到達目標] ミネラルの代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 [必要な準備] 前回の内容について配布したプリントを用いて復習する。(30分)</p>	
	第6講	<p>水分補給 [到達目標] 水分の役割を理解し、水分補給の重要性を把握する。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 [必要な準備] 前回の内容について配布したプリントを用いて復習する。(30分)</p>	
	第7講	<p>日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド [到達目標] 日本人の食事摂取基準および食事バランスガイドの概要を理解する。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 [必要な準備] 前回の内容について配布したプリントを用いて復習する。(30分)</p>	
	第8講	<p>ウエイトコントロールと食事 [到達目標] ウエイトコントロールについて理解し、適切な食事摂取量、摂取方法を把握する。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 [必要な準備] 前回の内容について配布したプリントを用いて復習する。(30分)</p>	
	第9講	<p>障害予防の食事 サプリメント [到達目標] スポーツにおける障害について理解し、適切な食事摂取方法、予防方法を把握する。サプリメントについて理解し、正しい利用法を把握する。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 [必要な準備] 前回の内容について配布したプリントを用いて復習する。(30分)</p>	
	第10講	<p>試合期の食事 [到達目標] 試合における必要な栄養素を理解し、適切な食事摂取方法を把握する。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p>	

	<p>第11講 [必要な準備] 前回の内容について配布したプリントを用いて復習するとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分) ライフステージと栄養 ジュニア期 [到達目標] ジュニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>第12講 [必要な準備] 前回の内容について配布したプリントを用いて復習する。(30分) ライフステージと栄養 シニア期 [到達目標] シニア期のスポーツと栄養・食生活について理解する。</p> <p>第13講 [備考] アセスメント 食品衛生 [到達目標] 栄養指導に必要なアセスメントについて理解する。安全な食事を供給するための食品衛生の知識を得る。 [授業形態] 講義終了後にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。</p> <p>第14講 [必要な準備] 前回の内容について配布したプリントを用いて復習するとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(30分) 総括(評価を含む) [到達目標] 第1回目から第13回目までの内容について理解する。 [授業形態] 前半に評価、後半に解説を実施する。 [必要な準備] 第1回から13回に配布したプリントを用いて復習する。(45分)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	今回の予習箇所については、毎回講義内で伝達する。やむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、プリントの穴埋めに解答しておくこと。
教科書	特定の教科者は使用しない。必要に応じて資料を配付する。
参考書	「栄養の基礎がわかる図解辞典」 中村丁次監修 成美堂出版 「スポーツ栄養学」 田中紀子/平野直美 編 (化学同人)
成績評価	出席基準に達した者に対し、レポート提出にて評価する。(平常点20%、レポート評価80%) ・実習などのやむを得ない理由で欠席する予定がわかっている場合は、担当者に事前に報告すること。 ・配布されたプリント類は自己責任で保管し、欠席した場合は、次回講義までに教務課に取りに行くこと。 (講義内で欠席分のプリント配布は行わない)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 桑原 彩 研究室 : メールアドレス : kissakoayay@yahoo.co.jp オフィスアワー : 講義終了後もしくはメールにて質問を受け付ける
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3

講義科目名称： 分子生物学

授業コード： 2S405

英文科目名称： Molecular Biology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
千葉 章太			
添付ファイル			

授業目標	近年の医学や科学での進歩は、分子生物学で得られた知見が大きく貢献しており、分子生物学の基礎知識がなければ医学や科学の成果を正しく理解することは難しい。 本講義では、医療・科学の様々な分野で明らかにされた重要な分子生物学的知見や分子生物学的手法の概要を解説する。本講義の内容を理解し、医学や科学を分子生物学の視点からも理解できるようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1回目 分子生物学の歴史 到達目標：分子生物学の歴史、手法、モデル生物について説明できる。</p> <p>第2回目 分子生物学の基礎知識（核酸） 到達目標：クロマチン、染色体の構造と複製・転写機構について説明できる。</p> <p>第3回目 分子生物学の基礎知識（タンパク質） 到達目標：タンパク質への翻訳機構とその調節について説明できる。</p> <p>第4回目 分子進化 到達目標：分子の視点で生物の進化や種分化を説明できる。</p> <p>第5回目 分子発生生物学 到達目標：分子の視点で生物の発生機構を説明できる。</p> <p>第6回目 免疫学・微生物学における分子生物学 到達目標：免疫学・微生物学における分子生物学について説明できる。</p> <p>第7回目 現代医療・科学における分子生物学 到達目標：分子生物学の知見を利用した現代医療及び科学の概要を説明できる。 [備考]-omics、クローン技術、再生医学、遺伝子組み換え、遺伝子多型、microRNA、創薬などに活用される分子生物学について紹介する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	参考書などを参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習130分）し、講義で学修した内容をまとめてください（復習130分）
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書	「細胞の分子生物学（Molecular Biology of the Cell 日本語版）」 B. Alberts 他；ニュートンプレス 「ウィーバー分子生物学」 Robert F. Weaver；化学同人 「分子生物学」柳田充弘・西田栄介・野田亮 編；東京化学同人
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 評価はレポートによって行なう。
担当教員の基本情報	担当教員名：千葉章太 研究室：5号館2階 メールアドレス：s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水、金曜日放課後
備考	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
田中 邦雄			
添付ファイル			

授業目標	日常生活における漢方的知識の理解と応用を図る。 漢方医学の全体の概念を把握する。		
授業計画	1回目	近代医学と漢方医学 [到達目標] 西洋医学と東洋医学の違いを把握する。	
	2回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 伝統医学の歴史 [到達目標] 日本・中国各々の伝統医学の歴史を把握する。	
	3回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方医学と中医学 [到達目標] 日本伝統医学である漢方医学と中国で実践されている中医学の違いを把握・理解する。	
	4回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方の疾病概念：三陽三陰 [到達目標] 三陽三陰の「三陽」の概念を把握する。	
	5回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方の疾病概念：気・血・水 [到達目標] 気・血・水を使つての病態把握を理解する。	
	6回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 疾病概念としての五行説 [到達目標] 五行説を理解する。	
	7回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 日本の伝統薬について。 [到達目標] 日本の伝統薬について。	
	8回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 漢方医学の診断法 [到達目標] 漢方医学の診断法をDVDを併用して解説する。	
	9回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 日本に息づく陰陽五行 [到達目標] 現在の日本に日本に息づく陰陽五行を解説	
	10回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 ものがたりの医学 [到達目標] 第一回と別な見方による西洋医学と漢方医学の解説	
	11回目	[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。 食品の中の薬	

	<p>[到達目標] 食品の中の、”薬”を解説。</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。</p> <p>12回目 漢方生薬① [到達目標] 主な漢方生薬を理解する。</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。</p> <p>13回目 漢方生薬② [到達目標] 主な漢方生薬を理解する。</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。</p> <p>14回目 漢方医学の養生 [到達目標] 漢方医学の養生論を理解する。</p> <p>[備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。</p> <p>15回目 今後の漢方医療の役割 [到達目標] 日本の医療における漢方医学の役割を理解する。</p> <p>[備考] 日本における西漢医結合について考えておくこと。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各自希望のテーマがあれば個別に指導
教科書	「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラ ※受講生に配布
参考書	「漢方水先案内」：津田篤太郎：医学書院：¥2000 「菅野宏伸先生、講義録」：たにぐち書店：¥5000 ※購入は自由
成績評価	レポートによる総合的な判定とする。
担当教員の基本情報	担当教員名：田中邦雄(教授) 研究室：統合医療学(明治国際医療大学附属統合医療センター) メールアドレス：ku_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：メールで予約して、明治国際医療大学附属統合医療センターにて対応。
備考	明治国際医療大学統合医療センターで漢方診療に従事 日本東洋医学会評議員、指導医。日本東洋医学会京都府部会長
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
田中 邦雄			
添付ファイル			

授業目標	漢方方剤の解説。主な生薬の解説。 武田製薬薬草園で、実際の生薬の栽培を見学。		
授業計画	1回目	西洋医学と漢方医学の疾病観・治療方法 [到達目標] 西洋医学と漢方医学の疾病観・治療方法の違いを把握する。 [備考] あらかじめ、西洋医学の基本的な考えを図書館などでしらべておくこと	
	2回目	漢方方剤解説① [到達目標] 漢方方剤の使い方、漢方の疾病感を理解する。 [備考] 配布した「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラの内容に沿って解説する。予めの予習が望ましい。	
	3回目	漢方方剤解説② [到達目標] 漢方方剤の使い方、漢方の疾病感を理解する。 [備考] 配布した「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラの内容に沿って解説する。予めの予習が望ましい。	
	4回目	漢方方剤解説③ [到達目標] 漢方方剤の使い方、漢方の疾病感を理解する。 [備考] 配布した「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラの内容に沿って解説する。予めの予習が望ましい。	
	5回目	漢方方剤解説④ [到達目標] 漢方方剤の使い方、漢方の疾病感を理解する。 [備考] 配布した「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラの内容に沿って解説する。予めの予習が望ましい。	
	6回目	漢方方剤解説⑤ [到達目標] 漢方方剤の使い方、漢方の疾病感を理解する。 [備考] 配布した「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラの内容に沿って解説する。予めの予習が望ましい。	
	7回目	漢方方剤解説⑥ [到達目標] 漢方方剤の使い方、漢方の疾病感を理解する。 [備考] 配布した「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラの内容に沿って解説する。予めの予習が望ましい。	
	8回目	漢方方剤解説⑦ [到達目標] 漢方方剤の使い方、漢方の疾病感を理解する。 [備考] 配布した「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラの内容に沿って解説する。予めの予習が望ましい。	
	9回目	漢方方剤解説⑧ [到達目標] 漢方方剤の使い方、漢方の疾病感を理解する。 [備考] 配布した「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラの内容に沿って解説する。予めの予習が望まし	
	10回目	漢方方剤解説⑨ [到達目標] 漢方方剤の使い方、漢方の疾病感を理解する。 [備考] 配布した「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラの内容に沿って解説する。予めの予習が望まし	
	11回目	生薬 1 [到達目標] 生薬解説。 [備考] ポピュラーな生薬を調べておくこと。	
	12回目	武田農園見学 [到達目標] 実際の生薬を見学して体験する。 [備考] ポピュラーな生薬を調べておくこと	

	<p>13回目 武田農園見学 [到達目標] 実際の生薬を見学して体験する。 [備考] ポピュラーな生薬を調べておくこと。</p> <p>14回目 武田農園見学 [到達目標] 実際の生薬を見学して体験する。 [備考] ポピュラーな生薬を調べておくこと。</p> <p>15回目 まとめ [到達目標] 授業全体の総括 [備考] 質問があれば準備</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各自希望のテーマがあれば個別に指導
教科書	<p>「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラ ※受講生に配布</p> <p>「知っておきたい生薬」日本薬学会編(東京化学同人) ※購入は自由</p>
参考書	<p>「漢方水先案内」:津田篤太郎:医学書院:¥2000 「菅野宏伸先生、講義録」:たにぐち書店:¥5000 ※購入は自由</p>
成績評価	評価方法と評価割合(レポート100%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 田中邦雄(教授) 研究室 : 統合医療学(明治国際医療大学附属統合医療センター) メールアドレス : ku_tanaka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールで予約して、明治国際医療大学附属統合医療センターで対応。</p>
備考	<p>明治国際医療大学統合医療センターで漢方診療に従事 日本東洋医学会評議員、指導医。日本東洋医学会京都府部会長</p> <p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」:◎-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>臨床経穴学は、経絡経穴学基礎、経絡経穴学基礎実習を踏まえて、さらに専門的な経絡経穴学を臨床的な視で学習する科目である。</p> <p>特に本科目では、経穴部位の局所解剖、診断、治療上の臨床的な経穴の運用法などを理解する。それだけに現代医学系の解剖学、生理学等をはじめ、東洋医学概論、伝統はり・きゅう診断学の関連知識が必要である。これまで学習した十四経の経穴の名称、取穴法の理解を前提として、講義を行う。</p> <p>鍼灸臨床に主に頻用する経穴を十四経から選択し、その経穴の特徴や特性について理解し、その選穴を的確に判断できるための基本を養う。</p>
授業計画	<p>1回目 要穴表の運用 [到達目標] 要穴の仕組み、意義、臨床応用を理解する。要穴の意味を説明でき、覚える。 [授業形態] 講義と演習（要穴のトレーニング後に、コミュニケーションカードに要穴の意義を記載する。） [備考] 自習課題1：要穴の名前を理解するとともに、取穴法について、予習・復習を行う。要穴の名前を記載できる。</p> <p>2回目 経脈の流注と経穴の特性（1） [到達目標] 肺・大腸・胃経の流注、病証、代表的経穴の穴性等を理解する。特に関連する経絡の要穴について取穴法を覚える。 [授業形態] 講義と演習（コミュニケーションカードに肺・大腸・胃経の要穴と臨床意義を記載する。） [備考] 自習課題2：肺、大腸、胃経の取穴について、予習・復習を行う。特に関連する経絡の要穴については取穴法をしっかりと覚える。肺、大腸、胃経の臨床上的重要な経穴における臨床効果を理解できる。</p> <p>3回目 経脈の流注と経穴の特性（2） [到達目標] 脾・心・小腸経の流注、病証、代表的経穴の穴性等を理解する。特に関連する経絡の要穴について取穴法を覚える。 [授業形態] 講義と演習（コミュニケーションカードに脾・心・小腸経の経穴）を話合う。） [備考] 自習課題3：脾・心・小腸経の取穴について、予習・復習を行う。特に関連する経絡の要穴については取穴法をしっかりと覚える。脾・心・小腸経の臨床上的重要な経穴における臨床効果を理解できる。</p> <p>4回目 経脈の流注と経穴の特性（3） [到達目標] 腎・膀胱経の流注、病証、代表的経穴の穴性等を理解する。特に関連する経絡の要穴について取穴法を覚える。 [授業形態] 講義と演習（コミュニケーションカードに腎・膀胱経の要穴と臨床意義を記載する。） [備考] 自習課題4：腎・膀胱経の取穴について、予習・復習を行う。特に関連する経絡の要穴については取穴法をしっかりと覚える。腎・膀胱経の臨床上的重要な経穴における臨床効果を理解できる。</p> <p>5回目 経脈の流注と経穴の特性（4） [到達目標] 心包・三焦・肝・胆経の流注、病証、代表的経穴の穴性等を理解する。特に関連する経絡の要穴について取穴法を覚える。 [授業形態] 講義と演習（コミュニケーションカードに心包・三焦・肝・胆経の要穴と臨床意義を記載する。） [備考] 自習課題5：心包・三焦・肝・胆経の取穴について、予習・復習を行う。特に関連する経絡の要穴については取穴法をしっかりと覚える。心包・三焦・肝・胆経の臨床上的重要な経穴における臨床効果を理解できる。</p> <p>6回目 経脈の流注と経穴の特性（5） [到達目標] 任脈・督脈経の流注、病証、代表的経穴の穴性等を理解する。特に関連する経絡の要穴について取穴法を覚える。 [授業形態] 講義と演習（コミュニケーションカードに任脈・督脈の要穴と臨床意義を記載する。） [備考] 自習課題6：任脈・督脈経の取穴について、予習・復習を行う。特に関連する経絡の要穴については取穴法をしっかりと覚える。</p> <p>7回目 治則と選穴、特効穴 [到達目標] 治則と選穴、特効穴について理解を深める。基本的な治則と選穴法を説明でき、覚える。 [授業形態] 講義と演習（コミュニケーションカードに課題としての治則と選穴を記載する。） [備考] 自習課題7：経絡現象について理解するとともに、経穴を選択する原理を学ぶ。特に経絡の意義について復習する。</p> <p>8回目 筆記試験 [到達目標] 十二経脈の流注と要穴、任脈・督脈の流注・要穴を理解し、要穴の特性を暗記できているかを評価する。 また要穴や特効穴の臨床的意義についても確認する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	臨床的に活用する要穴は復習しておいてください。

教科書	『臨床経穴ポケットガイド361穴』 篠原昭二 (医歯薬出版社)
参考書	『新版 経絡経穴概論 第2版』 東洋療法学校協会・日本理療科連盟編 (医道の日本社)
成績評価	1. 評価対象：授業回数5分の3以上出席した者に対して評価を行う。 2. 評価割合：授業態度 (10%)、小テスト (10%)、筆記試験 (80%) 特に取穴法を重視する。残り20%が穴性に関する設問である。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直 研究室 : 附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (月曜日の除く)
備考	附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。
	アクティブラーニング：授業前半に要穴や経穴の特性などを小テストを行い、互いに採点して忘れていた経穴を思い出す。 DP：◎-1、○-2、○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	必修
担当教員			
廣 正基、水沼国男			
添付ファイル			

授業目標	特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスセンター、老人保健施設、在宅介護支援センター、訪問看護ステーションを併設する総合老人福祉施設である「はぎの里」において、鍼灸治療および介護・介助実習を行い、さまざまな心身の障害を持つ高齢者を理解し、適切に対応できる知識と技能を身につけることを目的とする。 鍼灸治療実習では高齢者の疾病の特徴および症状に応じた診療の流れを理解することができる。
授業計画	<p>1回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 高齢者の心身の特徴および介護の基本を説明することができ、実践できる。 【授業形態】講義・実技 予習：前日までに実習する高齢者施設がどのような施設であるかを理解しておく。 復習：高齢者の心身の特徴および介護の基本を復習する。実習後は、担当した高齢者の心身の状態について復習する。</p> <p>2回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>3回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>4回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>5回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>6回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>7回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>8回目 介護・介助実習(特別養護老人ホーム) 同上</p> <p>9回目 介護・介助実習(老人保健施設) 実習する高齢者施設がどのような施設であるかを説明することができる。さらに、高齢者の心身の特徴および介護の基本を復習し、説明することができる。 【授業形態】講義・実技・アクティブラーニングとしては、実習日の担当患者についてまとめる。 復習：実習後、担当した高齢者の心身の状態について復習する。</p> <p>10回目 介護・介助実習(老人保健施設) 同上</p> <p>11回目 介護・介助実習(老人保健施設) 同上</p> <p>12回目 介護・介助実習(老人保健施設) 同上</p> <p>13回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設)</p> <p>14回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>15回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>16回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>17回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>18回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>19回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p> <p>20回目 鍼灸治療実習(特別養護老人ホーム、老人保健施設) 同上</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	実習に入る前日までに実習する高齢者施設がどのような施設であるかを理解しておくこと。さらに、介護実習の場合は実習の前日までに高齢者の心身の特徴および介護の基本を復習し、理解しておくこと。また、鍼灸治療実習の場合は実習の前日までに高齢者の疾病の特徴および症状に応じた診療の流れを復習し、理解しておくこと。
教科書	なし
参考書	介護基礎学 竹内孝仁 著 医歯薬出版
成績評価	(1) 鍼灸治療と介護のそれぞれの実習終了時のレポート20%、 (2) 実習態度等 80%により評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 廣 正基 研究室 : 鍼灸センター 2F メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 15:40~17:20
備考	附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、はぎの里介護老人保健施設にて鍼灸治療の実務経験あり DP : ◎-4、○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
和辻 直			
添付ファイル			

授業目標	<p>本特論では、日本で昭和初期に体系化され、伝承されてきた伝統的な鍼灸治療法の一つである「経絡治療」を取り上げ、診察から治療までの一連の過程を学習する。また経絡治療と中医学における臨床的な活用についても学習する。自ら興味を持つ愁訴について調べることで、伝統医学における病証と治療を理解する。なお経絡治療は、特に六部定位の脈診法による脈証の判断、診察情報からの証の決定の基礎を学習する。</p> <p>これまで学んできた伝統はり・きゅう学を復習して、基本と応用を学習し、自ら興味を持った愁訴において伝統鍼灸学の診察・治療をまとめて、発表できるようになる。</p>
授業計画	<p>1回目 日本の伝統鍼灸の特徴（経絡治療、中医学） [到達目標] 日本の伝統鍼灸の特徴（経絡治療、中医学）を理解できる。 予習：「経絡治療とは」を調べてみる。 復習：経絡治療と中医学の特徴を整理する。</p> <p>2回目 経絡治療の病証と切診（六部定位の脈診） [到達目標] 経絡治療の病証と切診。教科書；p 33-48 予習：「六部定位の臓腑配当や六祖脈」を直ぐに言えるようにする。 復習：六部定位の脈診、腹診、背診と経絡治療との関連を理解する。基本的な脈診（六祖脈）が取れる。</p> <p>3回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（1） [到達目標] 腰痛、頭痛、腹痛における伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：腰痛、頭痛、腹痛について、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：腰痛、頭痛、腹痛における伝統医学と鍼灸治療の要点を復習する。</p> <p>4回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（2） [到達目標] 不眠、喘息、肩こりにおける伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：不眠、喘息、肩こりについて、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：不眠、喘息、肩こりにおける伝統医学と鍼灸治療の要点を復習する。</p> <p>5回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（3） [到達目標] 感冒、便秘、めまいにおける伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：感冒、便秘、めまいについて、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：感冒、便秘、めまいにおける伝統医学と鍼灸治療の要点を復習する。</p> <p>6回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（4） [到達目標] 耳鳴、顔面神経麻痺、月経痛、冷え症における伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：耳鳴、顔面神経麻痺、月経痛、冷え症について、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：耳鳴、顔面神経麻痺、月経痛、冷え症における伝統医学と鍼灸治療の要点を復習する。</p> <p>7回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（5） [到達目標] 浮腫、倦怠、寝違いにおける伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：浮腫、倦怠、寝違いについて、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：浮腫、倦怠、寝違いにおける伝統医学と鍼灸治療の要点を復習する。</p> <p>8回目 特別講義（予定） [到達目標] 日本の伝統鍼灸における「経絡治療」の手技 予習：鍼の補瀉を復習する。 復習：経絡治療の接触鍼について復習する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義ごとに、簡単な質問を行う。このため授業プリントや教科書は持参すること。また自ら興味を持つ愁訴について伝統鍼灸の観点から調べてもらう。
教科書	『中医針灸治療のプロセス』朱紅ほか編、篠原昭二監訳（東洋学術出版社）
参考書	『すぐ使える若葉マークのための鍼灸臨床指針～臓腑病、経脈病、経筋病の診察法と治療法～』篠原昭二・和辻直（ヒューマンワールド社） 『運動器疾患の治療』整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸：平澤康介・北出利勝編集（医歯薬出版社） 『やさしい鍼を打つための本』中根一（医道の日本社） 『経絡治療のすすめ』首藤傳明（医道の日本社）
成績評価	評価方法：受講状況と試験結果を総合して評価する。 評価割合：レポート60%；レポート評価として、選択した「愁訴について」、各々、A4レポート用紙2枚以上で提出することとする（30% X 2）。 受講状況30%；受講態度（取り組み）、成果物など 授業内演習；10%の発表
担当教員の基本情報	担当教員名：和辻直 研究室：附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス：t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日の午後14：00～16：00
備考	レポート作成に必要な図書 『針灸学 [臨床編]』（東洋学術出版社）、『新しい鍼灸診療』北出利勝編集（医歯薬出版社）
	附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。

	アクティブラーニング：自ら興味を持つ愁訴にを調べ、その内容を発表し、その内容の疑問について話合う。 DP：◎-1、○-2、○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
角谷 英治			
添付ファイル			

授業目標	「鍼灸治効学」で学習した鍼灸刺激によって生じる種々の生体反応や作用機構を理解した上で、近年、世界的に研究の進展がみられる基礎系領域(形態系・機能系・生体防御系)における鍼灸作用機構、鍼灸治療の効果機転等の研究の現状と問題点を、情報収集、討論等を通じて理解し、それらを基に自分なりの考えを確立する。
授業計画	<p>1回目 イオンチャネルと熱受容体について 論文、参考書などからイオンチャネルの概要と熱受容体(カプサイシン受容体)についての情報を収集して要点を整理し、理解するとともに自分の考えを確立する。</p> <p>2回目 ツボ・経絡の本態について 論文、参考書などからツボ・経絡の本態についての情報を収集し、基礎医学的にみた経絡・ツボと生体反応点および治療点としてのツボについてについて理解し、自分の考えを確立する。</p> <p>3回目 鍼灸治療の個体差と耐性について 論文、参考書などから鍼灸治療の個体差と耐性についての情報を収集し、理解して討論を行うことにより自分の考えを確立する。</p> <p>4回目 上行性痛覚抑制について 論文、参考書などから上行性痛覚抑制についての情報を収集し、理解して討論を行うことにより自分の考えを確立する。</p> <p>5回目 鍼灸刺激と筋血流について 論文、参考書などから鍼灸刺激の筋血流に及ぼす効果についての情報を収集し、理解して討論を行うことにより自分の考えを確立する。</p> <p>6回目 鍼灸刺激と消化器系について 論文、参考書などから鍼灸刺激の消化管、特に胃の機能に及ぼす効果についての情報を収集し、理解して討論を行うことにより自分の考えを確立する。</p> <p>7回目 鍼灸刺激と泌尿器系について 論文、参考書などから鍼灸刺激の膀胱機能に及ぼす効果についての情報を収集し、理解して討論を行うことにより自分の考えを確立する。</p> <p>8回目 まとめ 「イオンチャネルと熱受容体について」「ツボ・経絡の本態について」「鍼灸治療の個体差と耐性について」「上行性痛覚抑制について」「鍼灸刺激と筋血流について」「鍼灸刺激と消化器系について」「鍼灸刺激と泌尿器系について」について学習した内容をまとめ、鍼灸の作用機序についての自分の考えを確立し、鍼灸治療の可能性について考える。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・「人体機能学」(植物機能・動物機能)を良く復習しておく。 ・授業で行った内容の要点をまとめる。
教科書	(プリントを配布する)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「鍼灸臨床最新科学ーメカニズムとエビデンスー」川喜田健司、矢野忠 編集(医歯薬出版) ・「鍼灸最前線」丹澤章八、尾崎昭弘監修・編集(医道の日本社) ・「東洋医学を学ぶ人のために」高木健太郎、山村秀夫 監修(医学書院)
成績評価	授業ごとの提出レポートにて評価する(平均60点以上で合格)。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 角谷 英治 研究室 : 附属病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日15:40以降
備考	明治国際医療大学附属鍼灸センターに勤務。その実務経験をもとに「鍼灸学特論Ⅱ(基礎)」について授業を進める。 授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1

講義科目名称： 鍼灸学特論IV(スポーツ・

授業コード： 2S417

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
廣 正基、谷口剛志、木村啓作、吉田行宏、山崎 翼、学外ゲストスピーカー			
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	明治国際医療大学附属鍼灸センターに勤務。その実務経験をもとに「鍼灸学特論IV(スポーツ・高齢者・学際領域)」について授業を進める。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
坂部 昌明			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>本講座では、医療技術のみならず、社会の中において自らの役割を探索し、見つけ出し、実行できる鍼灸師を養成することを目的として、演習講義を行います。対象とするテーマは次の3つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子超高齢化（お一人さま）社会における医療の在り方とはり灸の意義 ・受領委任払いの意義とはり灸臨床への応用 ・他職種連携の意義と鍼灸師のあり方
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション [到達目標] 本講座の進め方を理解し、演習で報告する内容について知ってもらいます。 [備考]</p> <p>第2講 少子超高齢化（お一人さま）社会における医療の在り方とはり灸の意義（講義＋演習） [到達目標] 日本の現状と未来について講義を提供すると共に、参加者と検討・対話を行います。 [備考]</p> <p>第3講 少子超高齢化（お一人さま）社会における医療の在り方とはり灸の意義（演習） [到達目標] 報告者（班）からテーマに沿った報告をしてもらい、報告について全体で討論します。 [備考]</p> <p>第4講 受領委任払いの意義とはり灸臨床への応用（講義） [到達目標] 受領委任払いを含めた療養費の制度について知っていただきます。 [備考]</p> <p>第5講 受領委任払いの意義とはり灸臨床への応用（演習） [到達目標] 報告者（班）からテーマに沿った報告をしてもらい、報告について全体で討論します。 [備考]</p> <p>第6講 他職種連携の意義と鍼灸師のあり方（講義＋演習） [到達目標] 他職種連携とは何かについて知っていただき、その課題点について検討・対話を行います。 [備考]</p> <p>第7講 他職種連携の意義と鍼灸師のあり方（演習） [到達目標] 報告者（班）からテーマに沿った報告をしてもらい、報告について全体で討論します。 [備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	全ての参加者に報告をしていただきます。必ず調査をし、レジュメをまとめて報告してください。
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	最後にレポートをまとめていただきます。 レポートの内容、評価基準等については講義の中で提示します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 坂部昌明（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : info.skb285@gmail.com オフィスアワー : メールでの質問を歓迎します。2、3日後には返信します。</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
西尾 庄平			
添付ファイル			

授業目標	<p>〔授業概要〕 エアロビク実習の選択科目であり、テニス・バドミントンならびにグラウンドゴルフの合理的実践を通して、身体や身体運動の幅広い知識を教授するとともに、知的・道徳的・身体的教養を育成し、心身ともに健康でゆとりある生活を実現する能力や態度を育てることを目標とする。また、初心者および中級者を対象として、基礎的ならびに応用技術の練習や試合形式のゲームを通して生涯にわたって楽しめる技術やルール、マナーの習得、体力の向上を実践的に学習するとともに、コミュニケーション能力の向上も図る。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 〔到達目標〕 エアロビク運動実習の目的と評価の方法や各種履修方法が理解できる。 予習：シラバスに目を通しておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>2 テニス（1）基本・基礎技術の練習 〔到達目標〕 グリップと構え、ラケットティング、ワントラップボレー、ボレー（フォア・バック）、ボレー&ボレーの動作を実践し理解できる。 予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでプレーや動きの全体を見ておく ボレーの練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>3 テニス（2）基本・基礎技術の練習 〔到達目標〕 グラウンドストローク（フォア・バック）の動作を実践し理解できる。 予習：授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>4 テニス（3）基本・基礎技術の練習 〔到達目標〕 サービス、ロブ、サービス&レシーブの動作を実践し理解できる。 予習：授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>5 テニス（4）ルールとゲーム 〔到達目標〕 審判法とゲームの進め方やマナーを理解できる。またダブルスの簡易ゲームを実践する。 予習：配布資料を見てルールならびに審判法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>6 テニス（5）応用技術とゲーム 〔到達目標〕 戦術・戦略の理解に重点を置いたダブルスゲームを実践する。 予習：ダブルスの戦術・戦略を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>7 テニス（6）応用技術とゲーム 〔到達目標〕 コミュニケーションの理解に重点を置いたダブルスゲームを実践する。 予習：ダブルスの戦術・戦略におけるペアの動き方を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>8 バドミントン（1）基本・基礎技術の練習 〔到達目標〕 グリップと構え、基本ストロークならびにサーブの動作を実践し理解できる。 予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでプレーや動きを見ておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>9 バドミントン（2）基本・基礎技術の練習 〔到達目標〕 ドロップ&ロブ、クリア、ヘアピン、プッシュ、スマッシュ、レシーブの動作を実践し理解できる。 予習：授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>10 バドミントン（3）ルールと簡易ゲーム 〔到達目標〕 審判法とゲームの進め方やマナーを理解できる。またダブルスの簡易ゲームを実践する。 予習：配布資料を見てルールならびに審判法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>11 バドミントン（4）応用技術とゲーム 〔到達目標〕 ダブルスの簡易ゲームを実践する。 予習：ダブルスの戦術・戦略を調べておく（35分）</p>

	<p>12 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく (35分) バドミントン (5) 応用技術とゲーム [到達目標] 戦術・戦略の理解に重点を置いたダブルスゲームを実践する。 予習：ダブルスの戦術・戦略におけるペアの動き方を調べておく (35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく (35分)</p> <p>13 グラウンド・ゴルフ (1) 基本・基礎技術の練習とルール [到達目標] グリップと構え、基本ストロークの動作を実践し理解できる。 ルールとゲームの進め方やマナーが理解できる。また簡易ゲームを実践する。 予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでプレーや動きの全体を見ておく 配布資料を見てルールを調べておく (35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく (35分)</p> <p>14 グラウンド・ゴルフ (2) 応用技術とラウンド [到達目標] コミュニケーションの理解に重点を置いたラウンドゲーム (16ホール) を実践する。 予習：配布資料を見てラウンドの仕方を調べておく (35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく (35分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	授業後にストレッチングなど、身体のケアを充分に行うこと。
教科書	授業資料は、適宜配付する。
参考書	授業資料は、適宜配付する。
成績評価	運動実践 (運動実践の状況、事前の自己調整等含む) 40% 技能 (到達度、進捗度合等) 30% 理解 (技術、ルール等) 20% 態度 (積極性、協調性、授業時の学習態度等) 10% の割合で点数を配分し、合計点により総合評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 西尾庄平 メールアドレス : s_nishio@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールで受け付ける
備考	服装は、運動に適した服装、屋内シューズ。 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
西尾 庄平			
添付ファイル			

授業目標	<p>〔授業概要〕 エアロビック運動実習の選択科目であり、使用可能施設および受講人数に応じて、ばれーぼーるグラウンドゴルフ、ゴルフ、バドミントン、バスケットボールなどレクリエーションスポーツの様々な運動・スポーツ、ルールについて学ぶ。これらの種目における基礎的および応用技術の学習やゲームを通して身体活動が持つ様々な健康意義や生涯発達の意義について理解を深める。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス 〔到達目標〕 エアロビック運動実習のねらいと評価の方法や各種目の履修方法が理解できる。 予習：シラバスに目を通しておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>2 グラウンドゴルフ（1）基礎技術の練習とルール 〔到達目標〕 グラウンドゴルフの基本操作「グリップと構え、基本スイングの動作」が理解できる。 ルールとゲームの進め方やマナーが理解できる。 予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでプレーや動きを見ておく 授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>3 グラウンドゴルフ（2）ラウンド実践 〔到達目標〕 グラウンドゴルフを楽しむ。 コミュニケーションの理解に重点を置いたラウンドゲーム（16ホール）を実践する。 予習：配布資料を見てルールならびに審判法を調べておく 図書館の資料やインターネットの動画サイトで戦術・戦略を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>4 ゴルフ（1）基礎技術の練習とルール 〔到達目標〕 ゴルフの基本操作「グリップと構え、基本スイングの動作」が理解できる。 ルールとゲームの進め方やマナーが理解できる。 予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでプレーや動きを見ておく 授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>5 ゴルフ（2）打撃練習 〔到達目標〕 ゴルフの基本操作「グリップと構え、基本スイングの動作」が理解できる。 ショートアイアンによるアプローチ練習を行い、基本スイングの形成を目指す。 （10y～40y） 予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでラウンドプレーや基本スイングの動きを見ておく 授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>6 ゴルフ（3）打撃練習 〔到達目標〕 ゴルフの基本操作「グリップと構え、基本スイングの動作」が理解できる。 ショートアイアンによるアプローチ練習を行い、基本スイングの形成を目指す。 （40y～60y） 予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでラウンドプレーや基本スイングの動きを見ておく 授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>7 ゴルフ（4）打撃練習：スイング技術の再確認 〔到達目標〕 ボールを操る。 ショートアイアンによるフルショットならびにパター練習を行い、基本スイングの形成が理解できる。 予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでラウンドプレーや基本スイングの動きを見ておく 授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>8 ゴルフ（5）ラウンド実践 〔到達目標〕 ゴルフを楽しむ。 グラウンド内でのショートコースの設営（9ホール） コースラウンドとプレーヤー間のコミュニケーションを図る。 予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでラウンドプレーや戦略を見ておく（35分）</p>

9	<p>復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>バスケットボール（1）基礎技術の練習</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>シュート、パス、キャッチ、ドリブル、ボールキープの動作を実践し理解できる。</p> <p>予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでプレーや動きを見ておく 授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p>
10	<p>バスケットボール（2）ルールとゲーム</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>審判法とゲームの進め方やマナーを理解できる。</p> <p>戦術・戦略の理解に重点を置いたゲーム（リーグ戦）を実践する。</p> <p>予習：配布資料を見てルールならびに審判法を調べておく 図書館の資料やインターネットの動画サイトで戦術・戦略を調べておく（35分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p>
11	<p>バスケットボール（3）応用技術とゲーム</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>チーム分けの再編成を行い、ゲーム（リーグ戦）を行わせる。</p> <p>予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトで戦術・戦略を調べておく（35分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p>
12	<p>バドミントン（1）基礎技術の練習</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>グリップと構え、基本ストローク、サーブ、ドロップ&ロブ、クリア、ヘアピンの動作を実践し理解できる。</p> <p>予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでプレーや動きを見ておく 授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p>
13	<p>バドミントン（2）ルールとゲーム</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>審判法とゲームの進め方やマナーを理解できる。</p> <p>戦術・戦略の理解に重点を置いたダブルスゲーム（リーグ戦）を実践する。</p> <p>予習：配布資料を見てルールならびに審判法を調べておく 図書館の資料やインターネットの動画サイトで戦術・戦略を調べておく（35分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p>
14	<p>バドミントン（3）応用技術とゲーム</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>コミュニケーションの理解に重点を置いたダブルスゲーム（リーグ戦）を実践する。</p> <p>予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでダブルスの戦術・戦略を調べておく（35分）</p> <p>復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業後にストレッチングなど、身体のケアを充分に行うこと。
教科書	授業資料は、適宜配付する。
参考書	授業資料は、適宜配付する。
成績評価	<p>運動実践（運動実践の状況、事前の自己調整等含む）40%</p> <p>技能（到達度、進捗度合等）30%</p> <p>理解（技術、ルール等）20%</p> <p>態度（積極性、協調性、授業時の態度等）10%</p> <p>の割合で点数を配分し、合計点により総合評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：西尾庄平</p> <p>メールアドレス：s_nishio@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：メールで受け付ける</p>
備考	<p>服装は、運動に適した服装、屋内シューズ。</p> <p>水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。</p>
	授業とディプロマポリシーとの関連
	◎-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
松元 隆司			
添付ファイル			

授業目標	アスレチックリハビリテーションの講義にて理解したことを実践できることを目的とする。またコンディショニング、エクササイズの基本技術を習得することを最終目的とする。		
授業計画	1回目	オリエンテーション・定義・概要 [到達目標] 概要を理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	2回目	基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価 [到達目標] 基本的なアスレチックリハビリテーション・機能評価を理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	3回目	足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 足部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	4回目	下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 下腿の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	5回目	膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 膝部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	6回目	膝部のエクササイズ [到達目標] 膝部のエクササイズを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	7回目	股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 股関節の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	8回目	股関節のエクササイズ [到達目標] 股関節のエクササイズを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	9回目	腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 腰部の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	10回目	腰部，腹部のエクササイズ [到達目標] 腰部，腹部のエクササイズを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	11回目	手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 手の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	12回目	肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肘の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションズを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	13回目	肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーション [到達目標] 肩の外傷・障害に対するアスレチックリハビリテーションを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	14回目	肩のエクササイズ [到達目標] 肩のエクササイズを理解，習得する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
授業時間外の学習（準備学習等）について	復習をし理解を深める。		

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	実技テスト、授業態度・出席（減点）を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 松元 隆司 研究室 : トレーナールーム メールアドレス : t_matsumoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-3
	スポーツ現場や施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。